

382-62



\*1200601241010\*

〇  
複  
写



始



最新  
犯罪搜查法

警察講習所教授  
南波全三郎著

東京 松華堂藏版

## 初言

一、此書ハ本來、警察講習所ニ於ケル私ノ擔當學科タル犯罪捜査法ノ教科書トシテ取リ急キ創作シタルモノナレトモ亦一般斯界ノ他山ノ石ニトモ思ヒ教場以外ヘ公ニスルニ至レル也。

一、何分ニモ私ハ限アル講義時間ノ關係ヨリ、如何ニシテモ三百餘頁ノ極メテ窮窟ナル紙數内ニ、斯學ノ緊要ナル研究ノ各部分ヲ精粗ナク取リ纏メサルヲ得サル事情ノ下ニ在リタリ。

從テ私ハ枝ヲ伐リ末木ハ捨テ、剩サヘ多クノ材幹ト由來トヲ無理ニ敷地外ヘ追ヒ出シ、漸クニシテ計畫通りノ兎モ角小サキ一軒ノ捜査兵法館ノ屋臺骨ヲ、刑事野ノ中ニ創設スルコトヲ得タル積也。

一、犯罪戰場ヨリ十一年目ニ歸リ來レル私ハ、無鐵砲ニ歐洲捜査界ニ於ケル最新シキ箇々ノ科學的研究ノ中、直接我刑事警察上ニ實用シ得ルモノノミヲ荒削リヲ爲シテ棟梁ニ使用スルヲ苦心シタルモ、其大黒柱ト眞木柱ニハ矢張り堅實ナル我國産ノ古材木ヲ物色シ、之ヲ合理化木賊トドメニテ十分ニ磨キヲ掛クルニ勞働シタ



I種

W



\*1200601241010\*

リ。  
 一、私ハ此度特ニ省キタル部分ノ増設、及ヒ棟上ケニ於テ早クモ生セル差狂ト不快ナル點ノ改築ニ對シテハ既ニ案ヲ抱ケリ。唯限局セル敷地トノ關係カ最モ苦心ノ存スルトコロ也。

一、本書ハ私カ昨年著セル殺人科學的搜查法ノ序說ニ於テ、追テ公刊スト約セシ所謂搜查全書ナルモノニハ非ス。夫レト是レトハ既ニ著述ノ目的ニ於テ相違セリ。然レトモ短時間ニ於ケル初等搜查法ノ講義案トシテノ此書ハ、比較的實際問題ニ觸レルモノアルヲ竊ニ信セントス。何トナレハ總論ニ於テ苦役ニ服セル多クノ六號小活字カ其虐待ヲ絶ヘス私ニ陳情スルヲ以テ也。

著 者

# 最新犯罪搜查法

## 第一編 總 論

### 第一章 搜查ニ對スル科學ノ利用

#### 第一節 搜查ニ利用スヘキ主ナル科學

##### 甲 顯微鏡付擴大鏡

- (1) 汚垢、塵埃 (2) 排泄物 (3) 毛髮 (4) 血痕 (5) 精液 (6) 織物 (7) 文書及偽造紙幣ノ検査

##### 乙 化學

- (1) 毒物ノ検査 (2) 彈丸及銃砲 (3) 偽造貨幣 (4) 文書 (5) 灰 (6) 見エサル肉體ノ痕跡ノ現出

##### 丙 博物學

- (イ) 鑛物學 (ロ) 動物學 (ハ) 植物學

##### 丁 寫 眞

- (1) 犯罪現場ノ撮影 (2) 身體ノ外部及内臟ノ撮影 (3) 現場痕跡ノ發見探證及確定 (4) 銃器ニ關シ (5) 偽造文書ノ穿鑿 (6) 偽造通貨ノ穿鑿 (7) 群衆ノ撮影 (8)

目

次

犯罪現行ノ自働的撮影 (9) 被告人々相ノ撮影

戊 物理學.....二二

(1) 破壞原因ノ鑑定 (2) 太陽ノ光線及熱ノ效力ニ關シ (3) 水ノ比重ニ關シ (4) 電氣ノ效力ニ關シ

己 法醫學.....二六

庚 刑事心理學.....二七

(1) 犯罪ノ動機ニ對スル證識 (2) 犯罪行為中ニ現レルタル個人習癖及迷信ノ觀察 (3) 同種行為ノ反覆性心理ノ觀察 (4) 犯罪者ノ果犯的心理 (5) 群衆心理ノ作用ニ關シ (6) 犯罪ノ模倣的心理ニ關シ

第二節 是等科學ヲ利用スヘキ手續.....三三

Ⅰ 科學ニ堪能ナル鑑定人利用ノ時機

Ⅱ 鑑定目的物ニ關スル注意

Ⅲ 鑑定人ニ對スル刑事家ノ態度

第三節 科學的の搜查ハ搜查法ノ一部也.....三五

第二章 現場ノ取調.....三六

第一節 現場保全.....三七

第二節 檢證準備.....三九

Ⅰ 物の準備

Ⅱ 心の準備

第三節 書類、圖書ノ作成.....四一

第一款 檢證調書、實況見分書

第二款 見取圖、圖書

第三款 浮出シ圖面

第三章 犯罪ノ痕跡ニ對スル穿鑿.....四五

第一節 現場ノ痕跡.....四五

甲 足 跡.....四六

A 足跡ノ形態

Ⅰ 跣 足

(其一) 跣足ノ押痕 (其二) 跣足ノ凹的痕跡

Ⅱ 履物ヲ履ケル足

(其一) 下駄草履等ノ痕跡 (其二) 靴ノ痕跡 (其三) 護謨裏類ノ土足足袋

Ⅲ 動物ノ足痕

B 步 幅

Ⅰ 體格又ハ運動狀態ト歩幅

Ⅱ 年齡、職業、習慣、男女別ト歩幅

目次

三

- III 特別ニ表ハルル歩幅ノ形態
- C 歩行振
  - I 歩行線ヨリ見タル歩行振リ
  - (1) 踵ノ歩行線上ニアルモノ (2) 歩行線以外ニアルモノ
  - II 歩行角度ヨリ見タル歩行振リ
  - (1) 外脚 (2) 内脚 (3) 並行
- D 足跡ノ欺装
- 乙 手掌、指、爪ノ痕跡……………六七
- I 特徴
- II 證據採取
- 丙 現場 指 紋……………七一
- I 現場指紋ニ於テ注意スヘキ特徴
- II 現場ニ於ケル凹線指紋
- III 指紋ヨリ犯人ノ年齢職業ノ推定
- III 現場指紋ノ保全
- 丁 手掌痕、指紋等ノ採取……………七七
- 戊 齒 痕……………八一
- 己 車轍ノ痕跡……………八三

- 庚 損壞ノ痕跡……………八五
- 第二節 行爲者ニ於ケル犯罪ノ痕跡……………八八
- 第一款 犯人ニ新タニ生シタル痕跡
  - (1) 身體ノ負傷 (2) 犯人ノ著衣、兇器ノ毀損
- 第二款 犯人ニ附著シタル物質
  - (1) 血痕又ハ毛髮ノ附著 (2) 現場ニ存在スル物質ノ附著 (3) 犯罪ニ使用シタル物ノ附著
- 第四章 證據物ノ犯人歸屬ノ研究……………九四
- 第一節 現場遺留物……………九四
- 第一款 犯用物及著用品
  - (1) 遺留品ト犯人ノ職業階級ノ推定 (2) 遺留品ト犯人ノ屬性、年齢、體格ノ研究 (3) 遺留品ヲ直接個人ニ結合シ得ル點ノ研究 (4) 遺留品ノ嫌疑者歸屬ノ證明
- 第二款 身體ヨリノ分離物
  - (1) 毛髮 (2) 排泄物
- 第三款 犯人ノ欺計遺留
- 第二節 其他ノ證據物……………一〇八
- 無名ノ書狀ノ研究
  - (1) 文書ノ材料 (2) 郵便スタンプ (3) 手紙ノ内容 (4) 手蹟

第五章 證據物件ノ搜索

一一〇

第一節 搜索ノ目的タル物件

一一〇

Ⅰ 犯用物、犯取物、犯生物、犯罪組成物

Ⅱ 犯罪ノ痕跡ヲ附著セル物

Ⅲ 證據物ノ對照材料トナルヘキ物件

Ⅳ 證據書類

(1) 引裂カレタル文書ノ編綴 (2) 燃焼シタル文書ノ讀解及保全

第二節 搜索スヘキ個所

一一五

Ⅰ 嫌疑者ノ身體

Ⅱ 住居

Ⅲ 宅外

第三節 搜索ノ方法

一一九

第六章 犯罪現象ノ研究

一二〇

第一節 犯罪行爲ヨリ體格、特徴、職業、智識ノ推定

一二〇

第二節 行爲ニ現ハレタル犯罪定型、及個人的習癖ノ研究

一二五

第三節 心的接近關係ノ研究

一二六

第四節 犯罪ト發生地居住犯人トノ關係

一二九

第七章 犯罪ノ時間ト場所

一二九

第八章 人ノ取調ニ關スル研究

一三六

第一節 證人ノ取調

一三六

第一 證人取調ノ方法

第二 證言ノ信憑力

第二節 被告人ノ取調

一四一

第一 被告人辯解ノ吟味

第二 重大犯罪ニヨリテ受ケタル被告人ノ心理的影響ノ穿鑿

第三 如何ニシテ自白ヲ促シ得ルカ

第九章 犯人ノ奸計

一四六

第一節 犯人仲間ノ秘密交通

一四六

第一 秘密通信

(1) 秘密インキノ使用 (2) 秘密文書ノ暗號 (3) 畫ニ依ル暗號

第二 合圖

(1) 犯罪行爲ニ際シテ用フル合圖 (2) 押送又ハ拘留、取調ニ際シテ用フル合圖

第三 隱語

構成原則

(1) 逆語 (2) 略語 (3) 形容語 (4) 擬人語 (5) 擬動物語

第二節 外見ノ變裝……………一五九

第三節 愚鈍又ハ疾病ノ贗造……………一六三

第十章 犯人ノ逮捕

第一節 追跡……………一六六

    I 交通機關

    II 通信機關

    III 警察犬

        (1) 警察犬ノ追跡 (2) 警察犬ノ鑑識作用 (3) 保安上ノ警察犬

第二節 非常線及不審尋問……………一七一

第三節 張込……………一七一

第四節 一般手配……………一七二

        (1) 視察 (2) 關係官衙ニ就テノ穿鑿 (3) 寫真ノ新聞掲載

第五節 逮捕其モノニ就テ……………一七五

    I 住居ト山林等ニ於ケル逮捕

    II 逮捕ノ時期

III 群集ニ對スル場合ノ逮捕

第六節 犯人ノ護送……………一七八

第十一章 個人識別ニ關スル研究

第一節 指紋法……………一七九

    I 指紋法ノ沿革及原理ト效用

    II 指紋ノ分類

        (其一) 指紋ノ形態ヨリ分カテル種類

        (其二) 指紋原紙ノ排列上ヨリ別カテル分類

    III 指紋原紙

        (1) 作成 (2) 排列 (3) 索引

第二節 測身法……………一八四

第三節 寫真及人相……………一八五

第二編 各論

第一章 竊盜及強盜

第一節 客觀的事實ノ確定……………一八七



第一款 實際盜犯カ行ハレタル乎

- I 盜犯ノ痕跡カ人工的ニ作ラレタル乎
- II 有名無實ノ被害者ハ事件ニ就テ如何ニ供述スル乎
- III 所謂被害品ハ當時實際ニ現存シタル乎

第二款 盜犯ノ行ハレタル日時、場所竝ニ被害品ノ確定

- I 何時竊盜カ行ハレタル乎
- II 何處ニ於テ盜マレタル乎
- III 何ヲ竊取又ハ強取セラレタル乎

第二節 盜犯ノ方法(定型).....一九〇

第一 侵入盜

- I 潛入盜
- II 忍込盜
- III 強盜

第二 屋内盜

- I 萬引
- II 人ノ來集スル場屋ニ於ケル竊盜
- III 目見得盜

第三 屋外盜

- I 搔浚
- II 置引キ
- III 賽錢泥棒
- III 掏摸

III 内部盜

(1) 路上於テ犯行ヲ爲ス 掏摸 (2) 汽車、電車、汽船ニ於テ犯行ヲ爲ス 掏摸

V 遞信機關ニ對スル盜犯

VI 森林竊盜

VII 屋外強盜

VIII 其他ノ盜犯

第四 欺罔手段ヲ用フル盜犯

- I 居宅ニ侵入シタル上竊盜ヲ爲スモノ
- II 店頭ニ於テ竊盜ヲ爲スモノ
- III 公務員ヲ裝ヒ取調ニ假託シ竊盜ヲ爲スモノ
- III 強盜

第五 山窩ノ盜犯

第三節 盜犯ヲ容易ナラシメタル事情ノ搜查……………110三

第一 被害物ニ對スル心的接近關係

甲 心的接近關係ノ利用 乙 心的接近關係ノ創設

第二 準備行爲

第三 本犯ニ對スル補助行爲

I 見張人

II 眞ノ補助者

第四節 贓品ヨリ盜犯ノ搜查……………110七

第二章 殺人……………110九

第一節 被害者ノ確定……………110九

第一 服裝ニ對スル研究

第二 身體ニ對スル研究

職業上又ハ身體上ノ特徴

II 屍體ノ保存並ニ寫眞ノ展覽

第二節 屍體檢視……………111

第一款 屍體及衣服ノ狀態

第二款 身體ニ於ケル死亡前格闘ノ痕跡

I 攻撃者ヨリ受ケタル痕跡  
II 犯人ヲ攻撃シタル痕跡

第三款 創傷ノ狀態

第四款 身體ニ於ケル血痕ノ汚點

第三節 殺人行爲ニ對スル兇器又ハ材料(殺人ノ方法)……………111四

第一款 鈍器

第二款 銳器及尖器

第三款 縊、絞、扼殺ノ兇器及窒息致死ノ液體固體

I 縊殺用器

II 絞殺用器

III 扼殺ノ材料

IV 窒息致死ノ液體

V 窒息致死ノ固體

第四款 銃器

I 發射物ノ捜索

II 銃創ノ形態ト射撃ノ距離

III 特別作用ヲ爲ス彈丸

IV 射撃ノ方向

V 他殺ヲ自殺ノ如ク擬裝スル場合

第五款 毒物

- I 毒殺事件ト鑑定人
- II 毒物種類ノ捜査
- III 毒物混入ノ飲食物等ノ蒐集
- III 被害者ノ範圍
- V 毒殺ノ犯人
- VI 毒瓦斯

第六款 火熱

第七款 電氣

第八款 寒氣、飢餓

第四節 血痕

- I 穿鑿
- II 血痕附著ノ狀態
- III 血痕ノ內容検査
- III 血痕ノ探證

第五節 殺人犯者ノ性格

第六節 動機ヨリ殺人犯人ノ搜索

第一 色情的動機

- 第二 憎惡、怨恨、復讐、憤怒
- 第三 經濟的動機
- 第四 罪證湮滅
- 第五 迷信
- 第六 精神病

第七節 殺人事件ト自殺

第一款 變死ノ方法竝ニ屍體ノ狀況

- I 自殺ト兇器ノ關係
- II 自殺屍體ノ狀況

第二款 自殺者ノ人的關係

第三章 偽造罪

第一節 偽造、變造ノ方法

甲 文書偽造、變造ノ方法

- I 肉筆ニ依ル偽造
- II 肉筆ニ依ル數字ノ變更(變造)
- III 既成文書ノ一部抹消ト新記入變造
- III 仕掛インキノ使用ト後日記入

- 乙 印章偽造ノ方法
- 丙 通貨偽造、變造ノ方法
  - (a) 貨幣
    - I 貨幣偽造ノ方法
      - (1) 鑄造 (2) 極印打込
    - II 變造ノ方法
  - (b) 紙幣及銀行兌換券
    - I 肉筆偽造
    - II 器械的偽造
- 第二節 偽造物ノ行使……………二四二
- 第三節 捜査方法……………二四三
- 第一款 偽造發見ニ對スル科學ノ利用
  - A 寫眞ノ補助ニ依ル穿鑿
  - (甲) 文書ニ關シ (乙) 通貨ニ關シ
  - B 顯微鏡ノ補助ニ依ル穿鑿
  - C 擴大鏡ノ補助ニ依ル穿鑿
  - D 化學ノ補助ニ依ル穿鑿
  - (甲) 文書ニ關シ (乙) 通貨ニ關シ
  - E 筆蹟鑑定家ノ補助ニ依ル穿鑿

- 第二款 潜伏文字發見ニ對スル科學ノ利用
- 第三款 偽造變造又ハ其行使ノ穿鑿ニ對スル合理的方法
  - 甲 文書ニ就テ
  - 乙 通貨ニ就テ
    - I 贋幣前科者ニ對スル捜査
    - II 「スーバー」事件師ニ對スル注意
    - III 偽、變造行爲ニ關係ナ有スル業務者ニ對スル探索
    - IV 流通區域ノ研究ヨリ犯人居住地ノ推定
    - V 贋幣嫌疑者ニ對スル視察
    - (1) 尾行 (2) 張込

第四章 詐欺……………二五五

第一節 常習詐欺ノ方法(定型)……………二五五

甲 他ノ犯罪ヲ手段トスル詐欺……………二五六

第一 詐欺賭博

- I 「目切カツバ」
- II 鹿追
- III 「テキヤ」ノ詐欺賭博
  - (一) 菓子割 (二) 水チヨホ (三) 四本籤 (四) 字カマカ

III 變化師ノ詐欺賭博

- (其一) 「ヤトモ」
- (其二) 「抱キ落シ」
- (一) 骨子使用ノ詐欺賭博 (2)
- (二) 骨牌使用ノ詐欺賭博 (3)
- (三) 變化師仲間ノ役割

第二 鐵砲事件

第三 「ペーパー」事件

- I 「ペーパー」事件師仲間ノ役割
- II 紙幣偽造ニ假託スルペーパー事件ノ普通ノ方法
- III 贋幣賣却ニ假託スルペーパー事件ノ普通ノ方法
- IV 一ペーパー事件ノ被害者ハ即他ノペーパー事件ノ犯人

第四 土砂流シ

- I 土砂流シ仲間ノ役割
- II 土砂流シノ方法

乙 普通ノ詐欺

A 犯人カ真名ヲ現ハササル詐欺

- 一 「剩錢詐欺」 二 「籠技詐欺」 三 公務員又ハ事務員ヲ装フ詐欺
  - (1) 賈刑事
  - 2 賈銀行員、郵便局員)
- 四 郵便貯金詐欺 五 「暖簾師」 六 「チバ師」 七 偽電詐欺 八 無錢飲食詐欺 九 自轉車詐欺 一〇 質屋詐欺 一一 養職其他ノ詐欺 一二 制服詐欺 一三 兩替詐欺 一四 入

監者ノ家族ニ對スル詐欺 一五 電球詐欺

B 犯人カ真名ヲ表ハス詐欺

- 一六 遺囑シ 一七 取込詐欺 一八 手形詐欺 一九 廣告詐欺 二〇 保證金詐欺 二一 設立詐欺 二二 地面師、家屋師 二三 保險詐欺 二四 馬喰詐欺 二五 坊主株詐欺 二六 貸貸借 二七 書畫、骨董、刀劍詐欺
  - (一) 拘り替ヘニ依ル詐欺 (2) 目的物ノ偽造又ハ變造ニ依ル詐欺 (3) 狀況ノ擬裝ニ依ル
- 二八 前借詐欺

第二節 常習詐欺ノ搜查

第一 概 則

- (1) 犯罪定型表並ニ前科者名簿ノ作成 (2) 問題ノ常習詐欺ノ嫌疑者ニ對スル視察
- (3) 科學ノ利用

第二 他ノ犯罪ヲ手段トスル詐欺ノ搜查

- (1) 被害者ノ方面ニ對スル先決的搜查 (2) 共犯全部逮捕ノ計畫

第三 真名ヲ現ハササル詐欺犯ノ搜查

- (1) 犯罪方法ニ對スル犯人智識ノ研究 (2) 犯人ノ容貌、服裝、言語ノ研究

第四 真名ヲ表ハス詐欺犯ノ搜查

- (1) 嫌疑者ノ犯罪前ニ於ケル行動ノ内偵 (2) 犯罪前ニ於ケル嫌疑者ノ經濟狀態ノ嚴密ナル調査、及其者ノ經歷、性格、行狀、交際ノ人物等ニ對スル探索 (3) 犯後ニ於ケル財物處

分ノ方法、犯後ノ生活状態、浪費

第五章 放 火……………二九六

第一節 發火點ノ穿鑿……………二九七

I 火災現場ノ調査

II 入ノ取調

第二節 放火ノ方法……………三〇〇

直接放火ト間隔的放火

第三節 果シテ放火乎……………三〇二

甲 失火ノ原因

(1) 煙突 (2) 煙草ノ吸殻 (3) 電氣 (4) 灰 (5) 炬燵、行火 (6) 火鉢、焜

爐 (7) 焚火 (8) 籠、爐火 (9) 蠟燭、洋燈 (10) 燐寸 (11) 浴場 (12) 火消

壺 (13) 揮發油其他 (14) 瓦斯

乙 自然發火

第四節 放火ノ動機ト之ニ對スル特別搜查……………三〇八

(1) 財産上ノ利益ヲ得ル目的

(a) 保險放火 (b) 賞與放火 (c) 竊盜放火 (d) 救助放火 (e) 仕事放火

(2) 怨恨、復讐、嫉妬、痴情 (3) 不愉快 (4) 懷郷心 (5) 愉 快 (6) 罪

證據蔽 (7) 精神病

第六章 賭 博……………三一一

第一節 賭博ノ方法(定型)……………三一一

第一 骨牌使用ノ賭博

A 「馬鹿花」

一 「目勝馬鹿花」 二 「八十八ノ馬鹿花」及其分派タルモノ 三 「十枚」及之レニ類似ノモノ

B 役 花

四 「吟味花」(八八)及其分派タルモノ 五 「六短」

C 花札ノ月數計算ヲ爲ス賭博

六 「追丁カブ」及其分派タルモノ 七 「アトサキ」及其分派タルモノ 八 「指込」

第二 骨子使用ノ賭博

A 骨子ト壺策トヲ使用スル賭博

九 「大目小目」及之ニ類似ノモノ 一〇 「丁半」及之ニ類似ノモノ 一一 「天賽」

B 骨子、壺策ノ外目紙ヲ使用スル賭博

一二 「チヨホ一」及之レノ分派タルモノ、並ニ類似ノモノ 一三 「四下」

C 骨子、壺策ノ外基石ヲ使用スル賭博

一四 「チイッバ」及之レニ類似ノモノ

第三 骨子骨牌以外ノ材料ヲ利用スル賭博

A 小錢ヲ利用スルモノ  
一五 「ナミカタ」

B 繩ヲ利用スルモノ  
一六 「本引」  
一七 「握リカツバ」

C 碁石又ハ燐寸ノ軸木ヲ利用スルモノ  
一七 「握リカツバ」

D 紋紙ヲ使用スルモノ  
一八 「紋判」

E 列車、隊伍、電車ヲ利用スルモノ  
一九 「列車當テ」  
二〇 「電車賭博」

F 其他ノモノ  
二一 「賭碁」  
二二 「賭將棋」  
二三 「鬮」

第四 會合ヲ必要トセサル賭博  
二四 「薄張」  
二五 「合百」

第二節 賭博犯ノ搜查……………三二五

一 搜查官カ自動的ニ賭博ヲ探知スル方法  
二 賭博現行犯ノ逮捕

# 最新犯罪搜查法

警察講習所教授 法學士 南波 空三郎 著

## 第一編 總論

### 第一章 搜查ニ對スル科學ノ利用

#### 第一節 搜查ニ利用スヘキ主ナル科學

科學ノ研究時代ハ既ニ過キ去リ、今ヤ其發達シタル科學ノ應用ヲ競フヘキ秋トハナレリ。換言スレハ科學ハ學者ノ研究室ヨリ出テテ民衆化スルニ汲々タル狀態也。殖産工業ニ、貿易ニ或ハ、戰鬪ニ、又ハ日常ノ生活問題ニト云フカ如ク、行ク處トシテ科學ノ實用的色彩ノ濃厚ナルニ驚カセンハ非ス、獨リ此機運ニ取り殘サレタルノ觀アリシ犯罪搜查ノ事項ニ就テモ、後レ馳セナカラ如何ニシテモ此社會狀態ノ發展ニ追ヒ付カサルヲ得サル時機ニ切迫セルヤ甚タ急也。何トナレハ殊ニ輓近最新ノ科學ヲ應用シテ巧妙ナル犯罪ヲ企ツル者スラ頻々續出スルノ傾向存スルカ故ナリ。刑事警察ノ研究カ他ニ後ルルコト數百歩ニ在リトノ理由ヲ以テ、吾人時機ノ切迫ヲ喝破セントスルニハ非ス、今ヤ實ニ目前ノ科

學的犯罪ニ對抗スルノ科學的警察ヲ直接必要トスルニ至レハ也。

註 (1) 最近世界ニ於ケル科學勃興ノ淵源及ヒ之レカ實用的研究ノ發達セルハ獨逸タルコト言テ俟タサルヘシ。獨逸ノ大學教授ハ決シテ一ノ學究ノ士タルニ止マラス、充分ニ學究シタルトコロヲ直ニ工學、農業、商業、其他諸般ノ事項ニ實用センコトヲ努力シ。或ハ能ク限リ活社會ノ實際問題ヲ隨所ニ於テ多量ニ捉ヘ來リ、科學ノ組上ニ載セ透徹セル組織的理智力ヲ以テ綿密ナル解剖ヲ試ミ、其研究ノ結果ノ應用ヲ發表シテ衆信ヲ利セントスル一ノ實際家タル點ニ稱嘆スヘキ價値ヲ存ス。學者ノ振リ動カス一本ノ試驗管ヨリ頓テ何百萬圓ノ金貨ノ湧出タルハ恰モ大黒天ノ打出ノ小槌ニ異ラスト形容セラルルハ、實ニ獨逸ノ學究ヲ指稱セルモノトナスニ庶幾シ。最近五、六十年間ノ短日月ニハケル獨逸國運ノ隆盛、國家内外ノ政策及ヒ施政ノ確實、生産力ノ急激ナル膨脹、化學工業ノ大發展、海外貿易ノ長足進歩、醫術、化學ノ權威等其起源ハ一ニ科學ノ實際的研究ニ由ラスンハ非ス。歐洲大戰亂ノ勃發スルヤ殆ント世界ノ列強ヲ敵トシテ少シモ併呑セシ、數年間ニ巨リ攻勢ヲ持續シ善戰セルモノニ科學ノ威力ニ頼由セリ。過ケル大戰亂ヲ評シテ識者ハ科學ト科學トノ戰爭ナリト道破ス。果シテ然ラハ獨逸ノ科學カ列強ノ積算セル科學ニ對シテ如何ニ優秀ナリシカチ又以テ窺フニ足ラム。例令ハ獨逸ハ智利硝石ノ輸入杜絶スルヤ電氣作用ニヨリ空中ノ窒素ヲ取リ之ヲ「アンモニア」ニ變シ更ニ硝酸ニ改造シ以テ硝石ノ不足ヲ補ヒ。綿ノ輸入杜絶スルヤ柳皮其他ノ木ノ纖維ヨリ綿ノ代用品ヲ製シ以テ綿火藥ノ製作ニ實シ。中立國ヲ經テ輸入シタル英國ノ豚脂ヲ研究シテ之ヨリ「グリセリン」ヲ探リ、「ナイトロ、グリセリン」ハ爆發藥ノ最重要ナル原料トナシ。又ハ屠畜場ニ於ケル動物ノ血液又ハ脂肪ヨリ化學的ニ食料ヲ造リ、營養分ヲ含メル野生植物十四種ヲ新タニ發見シ食糧品ヲ豐富ナラシメタル如キハ世人ノ熟知セル處ナラム。

(2) 犯罪捜査ノ科學的研究ニ關シテモ同シク先ヅ指テ獨逸ニ屬セサルヘカラス。科學者ハ其ノ研究上ノ實用ノ效果ヲ刑事家ニ提供スルコト極メテ親切ニシテ、捜査官モ亦能ク迄學者ニ信頼シ科學上ノ力ヲ利用シ犯人檢査ノ神速、證據ノ絕對的確實ヲ期セントスルニ極メテ眞面目也。

(3) 科學的犯罪ニ對テハ例令ハ歐洲ニ於ケル金庫破竊盜ハ鎗解火藥、(Lithium)或ハ酸水素瓦斯ヲ用ヒテ容易ニ金庫ヲ破壞スト云フ。忍込盜力格子、戸等ヲ破壞スル巧妙ナル方法ニ就テハ(皮)(一)破壞原因ノ鑑定ノ註參照。物理学又ハ化學的放火ノ方法ニ就テハ各

時第五章第二節放火ノ方法ノ部參照。

科學ト云フモ之ヲ細別スレハ數十種ノ上ニアリ。此中捜査上ニ利用スヘキ主タル科學トシテハ、捜査法ノ姉妹學科ト稱セラルル犯罪人類學、犯罪社會學、犯罪心理學、犯罪統計學(是等ハ犯罪捜査法ト共ニ刑事科學ノ補助科學ト稱セ)ハ勿論、法醫學、裁判化學、博物學、細菌學、藥物學、物理學、測量學、天文地文學、其他四、五ニ過キサカ如シ。但シ現今ノ所謂科學以外ニ科學ノ實質ヲ有スルモノ式ハ科學タラントシツツアル準科學竝ニ苟モ世ニ卓越セル一智識、一技術、一藝能、一專門ニシテ捜査ニ應用スヘキ部分ハ悉ク探テ刑事家藥籠中ノモノトナスヘキハ勿論也。是等捜査ノ補助學術中更ニ割切ナル補助科目ノミヲ左ニ列記セントス。

(甲) 顯微鏡付擴大鏡

從來顯微鏡ヲ刑事捜査ニ利用シタリトセハ唯僅ニ血液檢査、精液檢査、毛髮檢査等法醫學的研究ノ確認竝ニ闡明ニ資シタルニ過キサリキ。然シナカラ吾人一度其機能ノ實力ヲ解センカ、捜査上無數ノ種々ノ場合ニ重大ナル補助ヲ藉リ得ヘキヲ悟ラム。

(1) 污垢、塵埃。

顯微鏡ハ最小細微ノ污垢塵埃ノ一粒ヨリ最重要ナル證據ヲ擧ケ得ルコト實ニ驚クヘキモノアリ。(イ)兇器、犯用物件、犯人ノ着用品ニ附着セル污垢、塵埃ノ顯微鏡檢査ニ依テ初メテ吾人ハ捜査上ノ端緒ヲ發見スルコト稀ナラス。何トナレハ是等ノ汚塵ハ或纖維、組織、細胞、金屬、鑽石、木材、植物其他ノ粉末ヨリ成ルコトヲ發見スヘク、而シテ是等物質ハ各種ノ職業、一定ノ生活狀態、活動ノ土



地的區域等ニ從テ各々相異ナルカ故ニ、結局或物質ニ附著セル一ノ污垢ヨリ遂ニ其所持者ノ職業、階級、地位、境遇、地方其他ノ大體ノ範圍ヲ推知シ仍テ捜査局面ヲ狹縮セシメ得ヘキカ故也。

〔實例〕 胃管ヲ漏逸ノ或事件ニ於テ現場ヨリ一著ノ勞働服ヲ發見シタルモ外見上ヨリハ毫モ所有者ノ職業、階級、人物等ヲ知ルノ支持點ヲ認ムルヲ得ザリキ。茲ニ於テ衣服ヲ柔ク強キ紙袋ニ入レ棒ヲ以テ外部ヨリ靜ニ叩キ、衣服附著ノ塵垢ヲ紙袋ノ底ニ溜ル様ニナシ之ヲ採取シ顯微鏡檢査ヲ經タル處、其塵垢ハ主トシテ細ク挽キ碎カレタル木材纖維ノ粉末ヨリ成レルコトヲ知レリ。是ニ依レハ問題ノ衣服ハ指物師大工、鋸輪機所有者ヨリ出テタルモノナラサルヲ得ス、然ルニ塵垢中ニハ又多クノ粉末トナレル膠質ヲ含有セル所、大工ト鋸輪機師ハ膠ヲ用ヒサルカ故ニ竟ニ該服ハ一人ノ指物師ノ物ト確定セラレタリ。圖ニ附著セル鋸屑ヲ檢鏡ノ結果櫻樹ニ非スシテ針葉樹ノ木材ノ粉末ナルコトヲ明白ナラシメタルコトアリ。胃管ヲ忍込盜ニ使用シタル鑿ノ面ニ一ノ赤キ汚點ヲ認メ顯微鏡ニ依リ檢シタル處、煉瓦粉末タルコトヲ知リ犯人ヲ煉瓦ヲ破壞ニ使用シタル事實ヲ證明シ得タリ。

犯人ノ著用品中殊ニ履物ノ裏ニ附著セル泥土、塵埃、鑛砂、又ハ帽子、衣服ノ上ニ蒙レル塵埃ノ質ニヨリテ其者カ如何ナル方面ヨリ來レルカ、又如何ナル箇所ニ立入レルカ等、其者ノ活動舞臺ノ變遷ヲ屢々認定シ得ルコトアルヲ注意スヘシ。(ロ)嫌疑者ノ爪ニ包藏セル污垢ノ檢鏡モ決シテ看過スヘカラス。即チ之ニヨリテ其者ノ活動シタル場所或ハ職業ノ關係ヲ吾人ニ指示スルコトアルカ故也。住所氏名不詳ノ屍體ノ爪垢ニ就テモ亦同様トス。

(2) 排泄物、  
糞、尿、痰唾ノ顯微鏡檢査カ捜査上最重要ナリトスル場合ハ無數ニ存セリ。殊ニ犯罪現場ニ於テ屢々發見スルコトアル排泄物ヲ仔細ニ檢鏡シ、是等ノ遺留主タル犯人ノ特種ノ疾病、生活程度、當該人最後ノ食物、即最後ノ立チ廻リ先等ヲ知り得ヘシ。

註

(1) 例令ハ腸炎患者ハ粘膜ノ組織ヲ漫性的ニ剝脫セシメ、神經衰弱症患者ハ腸ノ薄膜滲漏出物ヲ糞便ニ混セシムルコトアルノミナラス、蠅虫、蠅虫、十二指腸虫鞭虫等ノ寄生虫ノ卵ヲ脫糞中ニ發見スルコト屢々アリ。尿ノ顯微鏡檢査ニ依リ往々腎臟ノ上皮、血球、膽色素、蛋白、水銀ヲ發見シ、尿ノ原所有者カ或疾病ニ罹レルノ事實ヲ明ニスルコトヲ得ヘク、痰唾ノ檢鏡ニ依テ肺患者ノ浮泛性纖維、喘息患者ノ光レル長キ入り面體形ノ特種結晶等ヲ發見スルコトアリ。(2) 胃ノ顯微鏡檢査ニテ汚物ハ植物性食物ニ基因セルカ或ハ動物性ノ食滓ナルヤ、又極メテ粗食者ナルカ實食者ナルカヲ區別シ得テ當該人ノ生活程度ヲ推測シ得ヘシ。(3) 重大犯罪嫌疑者ノ尿中ニ於ケル最初ノ糞便ヲ檢鏡シテ其物ノ最近ノ立チ廻リ先ヲ證明シ得ルコトアルヘシ。

〔實例〕 〇先年リナンニ於テ一老婦カ殺害セラレタルコトアリタル所、犠牲者ノ寢床ノ上ニハ排泄物カ殘サレ居レリ。是レ犯人カ古キ迷信上ノ觀念ヨリシテ犯行後ニ漏ラシ置キタルモノナルコトハ一見シテ了解セラレヌ。ドグトル・ラカツサースハ此汚穢物ニ於テ蠅虫ノ一群ヲ發見シタルヨリ、當該事件ノ爲ニ捕ハレタル犯人ノ嫌疑者ノ糞便ヲ檢査シタル所、其ノ中ノ一人ノ汚物ニ同シ寄生虫ノ存スルヲ確定シタリ。此ノ證據材料ニ尙他ノ證據モ追々現ハレ來リ、遂ニ犯人ハ自己ノ行爲タルコトヲ自白スルノ已ムナキニ至レリ。

胃管ヲ漏逸ニ於テ一殺人事件ノ嫌疑者ノ洋袴ニ糞便ノ附著セル微影ヲ發見シ、此ノ汚物ヲ檢査シタルニ全部肉食ノ殘滓ナリキ。仍テ被害者ノ腸内ニ於ケル腸層ヲ研究シタル所之ハ全ク植物性ノ食物ニ基因シタリ。茲ニ於テカ洋袴ノ汚穢ハ被害者ノ糞便ニ非サルコト明白トナレリ。

(3) 毛髮

毛髮ハ犯場遺留ノ帽子手拭或ハ屍體ノ掌中等ヨリ發見スルコト稀ナラス。今鑑定人ニ是等毛髮ヲ交付センカ、彼ハ檢鏡ノ末其ハ人間ノ如何ナル個所ニ發生シタルモノカ、自然脱落カ拔去ニ起因スルカ、截切セラレタル毛カ近頃缺ニテ刈ラレタルモノカ年齢、男女、階級ノ區別如何、一見人毛ノ如ク見ユレトモ其實何獸ノ毛、又ハ何植物ノ纖維ナルカ等ヲ容易ニ明言スルカ故ニ吾人ハ犯罪ニ關シ一本ノ毛

髪ニテモ發見シタルトキハ確實ニ保全ノ方法ヲ講スヘキ也。

【實例】 裁判官バツフ氏ハ、暗夜他人ヲ襲ヒ重傷ヲ負ハシメテ逃走シタル犯人ノ頭巾ヲ得タルカ、頭巾ニハ二本ノ毛髮附著セルヲ以テ先ツ此ノ毛髮ノ検査ニ著手セリ。氏ハ顯微鏡ヲ以テ穿鑿シタルニ體組織ニ於テ尙豐富ナル純黒ノ色素細胞アルヲ認メ、且毛ノ截斷口ハ全然銳ク、毛根ハ著シク滋養分ヲ缺乏シ、上皮層ニ於テ汗ノ爲メ生セル多クノ疣狀ノ突起物アルヲ發見シタリ。之ニ依テ彼ハ權威アル人相書ヲ發表スラク、犯人ハ強壯頑丈ニシテ肥滿セル中年ノ男ニシテ、黒ト灰色トノ斑合セル髮ヲ近日散髮シ、且頭部ノ禿始メ掛ケタル男ナリト。

毛髮ハ濕潤ノ結果又ハ甚シキ乾燥ノ爲其色ヲ變スルコトアルノミナラス、臭氣、瓦斯、大氣ヲ好シテ吸收スルカ故ニ、採取シタル毛ヲ證據品トシテ保全スルニハ清キ蠟ニ入レ好ク栓子ヲ爲シ置カサレハ却テ判斷ヲ迷ハサルルカ如キ結果ヲ招致スルコトアルヘシ。

(4) 血痕

血痕ニ就テハ殺人ノ部ニ於テ述フル處アル可ク、茲ニハ唯顯微鏡カ血痕検査ニ對シテ如何ニ利用セラルルヤニ關シテ一言セントス。或兇器又ハ衣服ニ附着セル汚點カ血痕カ否カ不明ナル場合ニ、之ヲ鏡下ニ於テ検査スルトキ、血液ナラハ明ニ血球ノ原形ヲ發見スヘシ。是等ノ血痕カ久シク乾枯セルモノナルトキニ於テモ、其疑ハシキ汚斑ヲ剝離シ載物硝子上ニ置キ之ニ食鹽水、又ハホフマン・パチニ氏液ヲ加ヘ檢鏡セハ同様血球ノ原形ヲ檢出シ得ヘシ。尙血カ人血カ動物ノ血カ否ヤヲ區別スルニ就テモ鏡下ニ於テ赤血球ノ形狀及血液細胞ノ大小ヲ鑑別シ、或程度迄之ヲ明ニスルコト不可能ニ非ス。  
(人間ノ赤血球ハ圓狀ヲ呈シ兩面凹シテ核無ク、又血液細胞ハ○●●●七四乃至○●●●八〇ミ) 同シク人間ノ血トスルモ如何ナル處ヨリ出テタル血カ(即チ傷害ノ血、略血、月經ノ)ヲ區別シ得ルノミナラス時トシテ或特定ノ個人ヲ

明言シ能ハサルニモ非サルカ故ニ、證據品タル血痕カ壓搾、摩擦等ニヨリ害セラレサル様充分ノ注意ヲ拂ヒ出來得ル限リ速ニ檢鏡者ニ送致スルヲ要ス。

【實例】 ニューオールの警官ジョーン氏ハ嫌疑者ノ衣服ニ附着セル數箇ノ血痕ヲ検査スヘキ委託ヲ受ケ、研究ノ結果白血球ノ大多數存在スル關係ヨリシテ、此ノ汚斑ノ血ハ同一人ヨリ出テタルモノニシテ、且其ノ者ハ被害ノ時或ハ其ノ少シ以前ニ於テ、「マリア」病ニ襲ハレ居リタルコトヲ明言セリ。捜査ノ結果實際犠牲者ハ一人ノ老婦ニシテ殺害セラレル時ハ果シテ「マリア」ニ罹レル者ナルコト判明シタリ。

(5) 精液

色情ニ基因セル殺人犯ノ場合ニ婦人屍體ノ陰部ニ精蟲ノ存スル事實。強姦サレタリト告訴セル處女ノ腔内ニ精液ノ残留セルコトノ顯微鏡的證明カ事件ノ捜査ヲ如何ニ發展セシムルヤハ想ヒ半ニ過クルモノアラム。殊ニ風紀上ノ犯罪ニ關シテ此方面ノ詳細ナル試驗ヲ要スル場合亦少カラス。

(6) 織物類

鑑定ヲ要スヘキ織物、切地等カ比較的大ナルトキニハ假令ハ火災現場ヨリ發見シタル襪襪ノ一片ハ嫌疑者方ノ古前掛ヨリ分離シタルモノナリト云フカ如ク判定スルコトハ決シテ難事ニ非スト雖、問題ノ織物カ極メテ小片ナルトキ、或ハ一本ノ白糸カ他ノ同様ノ白糸ト果シテ異ルヤ否ヤト謂フカ如キニ至リテハ、肉眼検査ニ於テ到底正確ノ結果ヲ得サル也。然レトモ檢鏡者カ糸或ハ織物ヲ鏡下ニ於テ検査スルトキニハ、同一種類カ否カトノ點ヲ常ニ確實ニ斷言スヘシ。

【實例】 一放火事件ノ證據品タル火繩ハ一本ノ糸ニテ括ラレタルモノナリシカ、其事件ノ嫌疑者ノ烏打朝ノ糸カ右ノ糸ト同一ナルコトヲ顯微鏡ニ依リ證明セラレタル爲メ彼ハ遂ニ服罪シタリ。因逸ニ於テ嘗テ或小兒ハ何者カニ誘拐殺害セラレ、其ノ屍體カ察

林中ニ於テ裸體ノ儘殆ト腐敗シタルヲ發見セラレヌ。而シテ其ノ小兒ノ學校用品ハ其ノ附近ニ於テ見當ラザリシモ、屍骸ヨリ少シク離レタル處ニ唯一冊ノ筆記帳ノミハ殘留アリタリ。表紙及各頁ノ裂キ取ラレ何等據ルヘキモノナカリシモ、筆記帳ヲ綴リタモノノ紙ノ殘片ヲ微カニ認メ得タリ。然ルニ小兒ノ母カ其ノ兒ノ爲ニ自ラ最近ニ筆記帳ヲ綴リタル紙ヲ記憶シ、其ノ紙ノ見本ヲ裁判所ニ提出シタルヲ以テ顯微鏡調査ニ依テ筆記帳ノ紙ハ之ト同一ナルコトヲ證明シ得タリ。大正二年七月一日午前一時頃、福井縣丹生郡城崎村、山本某(三五)カ其居宅ハ墨間ニ於テ何者カニ銳利ナル刃物ヲ以テ左腕ヨリ胸部ヲ突キ刺サレ慘殺セラレタル事件突發セリ。然ルニ現場ヲ實見シタル刑事ハ犯人カ被害者ノ家宅ヘ私入ル際、屋根ニ攀登ルニ用ヒタル杉丸太ノ皮ニ「モスリン」ノ糸屑三筋附著セルヲ發見シ證據品トシテ採取シタルカ此「モスリン」ノ糸屑ハ恐ラク兵子帶ノ糸屑ニシテ犯人ハ必ス此種ノ兵子帶ヲ締メ居タルモノト著眼シ此事件ノ嫌疑者タル隣家ノ四某(二六)ノ家宅ヲ搜索シタルニ「モスリン」ノ兵子帶ノ破レタルモノ一筋ヲ發見シタリ。依テ之カ鑑定ヲ專門家ニ求メタルニ該糸屑ト兵子帶ノ糸トハ同一色素ヲ以テ染メタル同一種類ノモノナルコト判明シタルヲ以テ愈嚴重ニ取調ヘタル處彼ハ遂ニ犯行ヲ自白スルニ至レリ。犯罪ノ動機ハ被害者ヨリ借家明渡方ヲ殺シク促サレタルヨリ憤怒ノ餘技ニ出タル也。

尙異種類トセハ其ハ木綿、絹、麻、羊毛ノ孰レナルヤヲモ容易ニ區別シ得、吾人ハ夫故荆棘、折レ釘ニ引掛カレル犯人ノ衣服ノ斷片、屍體ノ手裡、齒等ニ於テ疑ハシキ糸屑、散彈ノ送り蓋ニ用ヒラレタル織物、材料等ヲ發見シタル場合ニハ顯微鏡ノ效果ヲ十分ニ利用スルノ恰例ヲ要ス。

(7) 文書及偽造紙幣

偽造變造ノ文書、投書、脅迫ニ使用シタル書狀、偽造紙幣、證券其他印刷又ハ筆記ニ依リテ一ノ犯罪ヲ犯シタルトキノ問題ノ文書等ハ顯微鏡検査ニ依テ重要ナル端緒ヲ捕フルコト稀ナラス。(イ) 検査者ハ紙質「インキ」、墨、鉛筆ノ色、「ペン」又ハ鉛筆文字ノ凹痕ノ程度「スタンプ」或ハ印影ノ微痕其他ヲ仔細ニ検査シ作成者ノ範圍ヲ指示スルノミナラス、嫌疑者ノ家宅ニ於テ發見シタル紙ノ殘片、墨、イ

ンキ」鉛筆或ハ削リ護謨、吸取紙、小刀等苟モ筆記ニ關シ必要アルヘキモノ一切ト右問題ノ文書トノ同一性證明、或ハ右ハ嫌疑者方ヨリ出テタリトノ證明ヲ以テ吾人ニ緊要ナル補助ヲ與フルコトアリ。

(ロ) 其他筆蹟自體ヲ檢シ種々ナル點ヨリ偽造變造ノ真相ヲ闡明ナラシム。(文書偽造ノ部參照)

【實例】大正七年十二月三十一日京都本能寺境内ニ於テ殺人ヲ爲シ情婦ヲ伴ヒ横濱(逃走シタル犯人中川某(二五)ハ、所在地ヲ晦マサンカ爲メ依頼郵便ノ手段ニ依リ屢々京都府警察部等ヘ郵書ヲ送り來レリ。此郵便ノ外見ヨリスレハ差出人ハ京都市内ニ現在セルモノノ如シ。然シナガウ捜査官ハ此偽計ヲ看破シ中川カ眞ニ郵便ヲ差出シタル地即現在地ヲ知ラシメ、京都市局及七條局ニ出張シ中川カ依頼郵便ヲ郵便局ニ送致シ來レル其外装ノ郵便封筒ヲ穿鑿シタル末漸ク之ヲ得タルモ、切手ノ消印極メテ不鮮明ニテ何局ノ差出シナルヤ判然セザリキ。依テ之レヲ顯微鏡下ニ於テ検査シタル處、右ハ横濱長者町局ノ「スタンプ」ナルコトヲ知リ、即チ犯人ハ横濱ニ現在セルノ事實ヲ確メタルヲ以テ、神奈川縣警察部ヘ逮捕方ヲ依頼シ遂ニ同人ヲ捕縛スルコトヲ得タリト云フ。

擴大鏡

擴大鏡ハ組織、細胞等ノ如キ微小ナル物質ヲ闡明ナラシムルコトハ不可能ナリト雖、好ク肉眼ヲ補助シ、肉眼ニテハ看取ノ困難ナル物體ヲモ判明ナラシメ、尙目的物體ノ區別、特徵、實質、形態等ノ觀察ヲ極メテ確實ナラシムルノミナラス諸般ノ方面ニ對シテ其使用頗ル簡便ナルカ故ニ、刑事家ニ貢獻スル場合甚多カルヘシ。

【實例】大正七年九月二十八日、茨城縣久慈郡東小澤村大字留、大貫某(五〇)カ居村里道ニテ何者カニ萬能標ノ兇器ヲ以テ頭部ヲ擊チ破ラレ殺害セラレタリ。其嫌疑者ト目スヘキ某姓千代松(三九)カ間モナク逮捕セラレタルモ彼ハ一ノ竊盜事實ハ自供セルカ殺人ニ就テハ絕對ニ否認セリ。然ルニ千代松カ兇行ニ使用シタリト認メラレル萬能一挺カ物置小屋 養蠶竹ノ下ヨリ發見セラレタル處、該萬能ハ双先ヨリ棟一面ニ赤錆ヲ生シ、一見何等疑ヲ挿ム餘地ナカリキ。然シナカウ具ヲニ擴大鏡ヲ以テ檢スルニ萬能ノ棟ニ

於テ二個所製粒大ノ血痕附著セルヲ確メ得タルノミナラス其個所ニ尙黒キ頭髮一本ト白髮二本附著シアルヲ併セテ發見シタリ。仍テ該白髮ト被害者ノ毛髮トヲ比較對照シタル處、全ク同一性ヲ有スルコト明白トナレルヲ以テ此事實ヲ示シテ嫌疑者ヲ獲得シタル處、遂ニ彼ハ犯行ヲ自白スルニ至レリト云フ。(動機ハ痛憤)

(乙) 化學

(1) 毒物ノ検査

毒物ノ性質、徵候、效力、分量中毒ノ時間、毒物タリ得ル由來(本來有毒ナル物ノ外、腐敗其他ニ依リテ有毒トナルコトアリ)ヲ確定スルハ裁判化學ノ範圍内ニアルハ多言ヲ要セス。

(2) 彈丸及銃砲ノ検査

問題トナレル一個ノ彈丸ハ被告人カ其居宅ニ於テ貯藏スル多クノ彈丸ノ中ヨリ取り出タナレ使用セラレタルモノナルヤ否ヤノ事實ヲ、彈丸ノ重量、大サ、形態ノ點ヨリ比較決定セラレタルノミニテハ未タ以テ精確ナラス。宜シク鉛ニ混鎔セラレタル錫、亞鉛、蒼鉛、アンチモニー、砒石、銀、等ノ定量分析ノ化學的検査ヲ經サルヘカラス。若シ夫レ嫌疑者所持ノ銃身内ニ新シキ鉛ノ微片ノ附著スルヲ發見シタルトキニハ、此鉛ト銃殺屍體ヨリ取出サレタル彈丸トノ合金ノ分析試驗ヲ了シ、犯場ノ銃丸ハ被告ノ銃身ヨリ發射サレタリトノ點ヲ直ニ立證シ得ルコトアルヲ知ルヘシ。化學者ハ尙銃丸ニ附着スルコトアル硝煙ヲ検査シ發砲ニ使用シタル火藥ヲ謂ヒ當ツルノミナラス、問題ノ銃砲ノ銃身内ニ存スル鎔解產物ヲ化學的ニ調査シ、該銃砲ハ發射後何時間ヲ經サルヤ、何日ヲ既ニ經過シタルヤ等ヲ吾人ニ指示スルコトアル也。

(3) 偽造貨幣ノ検査

(a) 吾人ハ數個ノ偽造貨幣カ同シ材料ヲ用ヒラレタルヤヲ調査スルニ止メス、合金混鎔ノ分量カ同一ナルカ更ニ確ムヘキ責務ヲ有ス。多クノ偽貨ニ對スル化學的定量分析ノ結果定量ノ割合カ相一致スルトキハ偽貨ニ同シ時ニ同シ混鎔ヨリ作成セラレタルモノ也。即チ數個ノ偽片ハ同一被告人ヨリ同時ニ作成セラレタルモノトシテ大過ナシ。但シ混合ノ割合カ異レルトキニ於テモ、尙同一偽造者ニ基因シ得ル事情ヲ注意セサル能ハス。何トナレハ偽造者ハ常ニ嚴格ナル處方箋ニ從テ定量ノ混合ヲ爲スモノニハ非スシテ、通常ハ個々ノ金屬ノ分量ヲ任意手加減シテ鎔解鍋ノ中ニ投ケ込ムカ故ニ、如何ニ同一犯人ノ製作品トハ云ヘ先キノ鍋ト後ノ鍋トハ異ルヲ以テ也。(b) 此種ノ化學的検査ヲ試ムルニ際シテハ偽貨ヲノミ目的トスルニ止メス、却テ亦溶解壺ニ於ケル殘片、鏽屑、鏽ニ附着セル金屬、切り取ラレタル鑄粒、殊ニハ竈ノ火中ニ於テ發見スルコトアル金屬ノ殘片ニ就テモ注意ヲ要ス。是等ノ材料カ問題トナレル偽片ト同シ分量ノ合金ヲ示セルトキニハ嫌疑者ヲシテ甚シク有罪のナラシムヘシ。然シナカラ假令相違アリトスルモ之レヲ以テ直ニ彼ヲ無罪タラシムル所以トハナラス、如何トナラハ合金ノ場合ニ重キ金屬ハ容易ニ沈降スルカ故ニ、溶解壺等ニ存スル殘片ハ偽貨ニ比シ重キ金屬タル分析表ヲ呈スルコトアルヲ以テ也。(尙各論、第三章、第三節D參照)

【實例】 大正四年五月岩手縣九戸郡伊保内村旅人宿佐々木某方ニ同縣下閉伊郡鐵ヶ崎町古物商佐藤某(六三)ト自稱シテ投宿セル服裝  
曉シカラサル一老人アリ。彼ハ數日滞在後宿ノ主人ニ古詩大判數枚ヲ示シテ曰ク、此ハ祖傳來ノ家寶ニシテ數百金ニ價スルモ目下  
旅費ニ差支ヘ居ルニ付キ國元ヨリ送金アル途入買方取計ヘレタシト。主人ハ之レヲ信シ同地ノ伊保内質店ニ持參シ村内ノ或舊家ノ

隠居ノ手ヨリ出タル品ト稱シテ金百五十圓ニ入買シタリ。此事實ヲ質屋臨檢ニヨリテ知リタル駐在巡査ハ犯罪ノ嫌疑アリトシテ佐藤ヲ木署ニ同行シタルヨリ、高橋警部補取調ヲ爲スニ飽ク迄換造品等ニ非サル旨ヲ強辯シテ己マサリシモ、同氏ハ思フ處アリテ土地ノ古老又ハ骨董家ニ就テ鑑定ヲ求メタル處、執レモ眞物ニ近シトノ結果ヲ得タリ、然ルニ同氏ハ右古錢ハ銅ヲ字成分トスル模造品ノ如ク疑ハレタルヨリ、被告ノ承諾ヲ得テ古錢ノ小部分ヲ削リ之ニ硫酸ヲ注キタルニ溶解解シ硫酸銅液ト化シタルヲ以テ被告モ遂ニ包ムニ由ナク、實ハ東京ニテ求メタル銅製ノ模造品ナルカ眞物ト偽リ宮城縣、青森縣地方ニテ十數件ノ詐欺ヲ爲シタリトノ事迄自白スルニ至レリ。裁判ノ結果彼ハ懲役二年ニ處セラレヌ。

(4) 文書

文書カ削ラレタルヤノ疑アル個所ニ對シ沃度蒸氣ヲ掛クル檢査。「インキ」文字カ酸類ニテ消サレタル個所ニ對スル「アンモニア」蒸氣ノ施用。書面ノ「インキ」文字カ同時ニ書カレタルヤ否ヤヲ檢スル爲メノ酸類ノ施用。等ノ化學的穿鑿ノ方法アリトス。(各論、第三章、第一節D(甲)參照)

(5) 灰

物體ヲ燒棄シタル灰ノ化學的分析ニ依テ吾人ハ一ノ機微ナル信號ヲ與ヘラルルコト稀ナラス。オルフイラ氏ハ疑ハシキ灰ヲ分析シ、其ハ動物性カ或ハ植物性ノモノナルヤヲ區別シ得ト明言シ、又タルドウ氏ハ灰ニ於ケル極少ノ鐵分ノ發見ニ依テ其灰カ一動物ノ身體ヨリ生シタルモノナルヤ否ヤヲ決定シ得ト爲セリ。要スルニ或物體ヲ組成セル元素ハ灰ニ於テモ尙證明セラルルモノアルヲ留意スヘシ。

【實例】大正六年三月九日、山梨縣中巨摩郡澤澤尋常高等小學校一室内ニ保存セル最貴重ナル寫眞一枚何者カニ竊取セラレタル重大事件突發シタリ。捜査官ニ於テハ直ニ其部落約八十戸全部ニ就テ家宅ノ取調ヲ爲シ、或ハ青年團等ヲシテ附近山野ヲ限ナク搜索セシメタルモ遂ニ發見スルコト能ハサリキ。仍テ動機ノ點ヨリ徐々ニ探索ノ歩ヲ進メタル結果、同校代用教員水田某ナル嫌疑者ヲ得タ

ルモ的確ノ證據モナク如何トモスルコト能ハサリシ時恰モ一人ノ警官ハ同人ノ書齋ヲ編密ニ搜索シタル際、長火鉢ノ灰中ニ米粒大ノ紙片ノ燒灰二、三混在スルヲ發見シタルヨリ、詳檢スルニ灰中ニハ尙極メテ細カクシタル物ノ燒灰所々ニ混在セルヲ確メ得タルヲ以テ念ノ爲火鉢ノ灰ヲ縣衛生試驗所ニ持行キ分析試驗ヲ依頼シタルニ、兎モ角寫眞ノ燒付紙ニ用ヒラレタル藥品ノ如キモノ幾分存在スル旨ノ證明ヲ得タリ。之レヨリスレハ嫌疑者ハ寫眞ヲ竊取シ右ノ火鉢ニテ燒燬シタルモノナラサルヲ得サリキ。此化學的研究ノ結果ヲ告ケ灰ヲ示シテ被告ヲ嚴重ニ取調ヘタル處、彼ハ遂ニ總テ捜査官ノ推定通りノ事實ヲ自供スルニ至レリ。但シ彼ハ精神鑑定ノ結果豫審免訴トナレリ。

(6) 見エタル身體ノ痕跡ノ現出。

指紋、掌痕、跣足ノ足跡等ノ金屬、硝子、紙、板、等ノ物體ニ附着セル痕跡ニシテ、肉眼ヲ以テ認ムルコト能ハサルモノニ對シテハ、或ハ沃度蒸氣、硝酸銀、鉛白粉ト硫化「アンモニア」蒸氣等ヲ以テスル化學的檢査ニ依リ初メテ其不表現犯跡ヲ明ニシ得ルコトアリ。(第三章、第一節(丁)參照)

其他毛髮ノ毛根ヲ苛性加里灰汁ニ浸シ顯微鏡下ニ於テ溶解ノ時間ヲ檢シ、毛髮出所者ノ年齢ヲ認定スル等化學者ハ其仕事ニ於テ殆ント常ニ顯微鏡ノ補助ヲ藉ル。

(丙) 博物學

礦物學、動物學、植物學カ間接ニ刑事家ヲ學理的ニ援助スルコトハ世人ノ意想外ニアリトス。即チ礦物學者ハ原則トシテ顯微鏡家又ハ化學者ノ補助トナリ、動物學者又ハ植物學者ハ法醫ノ助手トシテ其必要ヲ見ル。(イ)礦物學ニ就テ言ヘハ例令ハ現場遺留ノ一個ノ草履ノ裏ニ或種ノ砂塵ノ附着セルヲ肉眼又ハ檢鏡ノ結果發見シタルトキ、其砂塵ハ如何ナル岩石ヨリ來レルカ、而シテ何處ニ此種ノ岩石カ常ニ存在スルヤ等ヲ確定スルハ礦物學者ノ極メテ容易ナル仕事ナリ。(ロ)動物學ハ殊ニ動物性毒

物動物ノ毛等ノ研究。永ク放置セラレタル屍體ニ於テ發見スル蠅、蚊、蛾等昆虫ノ幼虫。殊ニ蠅蛆ノ發育、作蛹、蛹ヨリ新蠅ノ爬出ノ状態等ヨリ死亡後幾日月ヲ經過セル屍體ナルヤノ點ニ關スル確定。動物ノ生存能力ノ言明等ヲ以テ吾人ヲ補助ス。

【實例】 グロース博士ノ取扱ヒタル事件ノ一溺死者ノ衣服中ニ蛋ノ生存スルヲ發見セラレタルヨリ蛋ノ水中ニ於ケル生存能力ヲ試驗シタル處十六時間迄ハ生存スルモノナルコトヲ確メ、最初蛋ノ水中生存能力チ一二時間ト假定シタル想像ハ全ク裏切ラレタリ、因ニ續ハ七十二時間水中ニ生存シ得ト。

(ハ)植物學ハ墮胎、毒殺ノ事件ニ於ケル疑ハシキ證據品カ、毒物性植物ノ葉端ノ一片ナルヤノ判定。森林盜伐、植物伐採等ノ事案ニ於ケル兇器ニ附著セル木ノ細屑、植物ノ纖維、汁液ノ鑑定。紙或ハ織物ハ如何ナル植物纖維ヨリ成レルカノ検査等ニハ殊ニ重要也。

(丁)寫眞

最近如何ナル科學、藝術ニ於テモ寫眞ヲ能ク利用シ各向上發達ノ資ニ供セサルモノナシ。我司法警察ノ仕事ニ於テ從來寫眞ハ唯被告人ノ撮影ト云フカ如キニ多ク利用セララルニ止レトモ、寫眞カ能ク刑事捜査ヲ各種ノ方面ヨリ補助シ、非常ノ效果ヲ確實ニ提供スルコト極メテ大也。

(1) 犯罪現場ノ撮影

現場臨檢犯ニ於テ從來吾人ハ現場ノ模様ヲ檢證調書又ハ實況見分書ニ記載シ、且之レカ見取圖ヲ附シ、以テ一件記録中ノ最重要ナル部分ヲ作成シタル處ナルモ、吾人々類ノ觀察能力ニハ物理的ニモ心理的ニモ自ラ限度アリテ完全ノモノニ非サルノミナラス記憶力及ヒ敘述能力モ亦不充分ナルヲ免レサル

カ故ニ、觀察ヲ現ハシタル見取圖又ハ記載ナルモノハ屢々誤謬ト不精確トヲ伴フ也。然ルニ物理學及化學ノ應用ニ依ル寫眞ヲ適當ノ注意ヲ以テ使用センカ、大ハ勿論。肉眼ニテ認メラレサル最小細微ノ點迄ニ洩レナシ機械的正確。以テ其上ニ現シ、對稱性ヲシテ目ノ當リ得ル。如クテ得ルカ故ニ一面ニ於テ現場ノ狀況ヲ控證トシテ最良ノ方法ナルノミナラス、他ノ一面ニ於テハ現シ、實際ニハ氣附カサリシ事、重要ナリト認メサリシ物ヲモ後ニ至リ寫眞中ニテ發見シ、寫眞面上ニテ幾回ニテモ臨檢ヲ繰返シ審理ヲ改メ得ルノ利益ヲモ有スヘシ。加之、吾人ノ臨檢ニ際シ緊要ナル證據蒐集ニ先立ちテ直チニ救助行爲ヲ必要トスル場合(例令ハ新シキ殺死者。時間ノ餘リ經過セサル溺死者。汽車ノ衝突、或ハ犯行後成ルヘク速ニ現場ヲ取り片付ケ、當時ノ模様ヲ變更スヘキ場合(例令ハ放火現場ノ取り片付ケ。即行)等ニハ殊ニ簡單ニシテ急速ナル寫眞ノ補助ヲ必要トスル也。

現場ノ撮影ハ家屋ニ於ケル犯罪トセハ、先ツ家屋ノ正面(必要アル場合ニハ)ヲ寫シ、次ニ犯入ノ侵入セル個所扶シ明ケタル入口ノ戸。犯罪ノ行ハレタル室内ノ撮影(室内撮影ハ一枚ノ乾板ニテハ不足ナリ、例令ハ狼藉ル種々ノ犯罪ノ痕跡。等諸般ノ點々各)犯人ノ逃走ノ際抜ケ出テタル個所等ハ是非共逸スヘカラサル也。而シテ現場撮影ノトキハ準尺トナルヘキモノト共ニ寫スコトヲ忘ルヘカラス。例令ハ一本ノ木ヲ寫サントセハ一人ノ男ヲ傍ニ立タシメ之レト共ニ撮影スルカ如シ。又光レル金屬、硝子等ハ脂肪ト「テレピン」油ヲ塗リ光澤ヲ消失セシメ置クヘシ。

然シナカラ吾人ハ筆記ニ依ル見取圖ヲ全然廢シ寫眞ヲ以テ之ニ代フヘシト謂フモノニハ非ス。見取圖ノ特長ヲ必須トスル場合モ亦尠ナカラサルハ勿論トス。

註 (1) 巴里又ハ柏林ノ警視廳ニハ現場ニ横ハレル死骸又ハ足跡ヲ真上面ヨリ正確ニ撮影シテカ爲メニ寫眞ノ「レンズ」カ下向トナル裝  
置ヲ爲セル現場寫眞器械アリ。孰レモ三脚ヲ工夫改造シ此目的ニ副ハントセルモノニシテ、柏林ノモノハ三脚ノ一脚ハ梯子狀ヲ爲シ  
撮影者カ自由ニ登リ降り爲シ得ヘク且三脚ハ三米突迄引伸シ得。斯クシテ撮影シタル寫眞ハ眞ニ鳥瞰圖的ノモノ也。(2) 一葉ノ寫眞ニ  
ヨリ其撮影場面ニアル物ノ高サ、大サ、深サ廣サ形、相互間ノ距離ヲ容易ニ知り得ヘキ機ナサシメカ爲メニ、ベルチン氏ハ  
「メートル」寫眞ナルモノヲ發案セリ。然ルニブルフツヒ氏ハ進ンテ立體測定寫眞ナルモノヲ考案シ刑界ニ利益ヲ提供セリ。

(2) 身體ノ外部及内臓ノ撮影

(イ) 屍骸全部ノ狀況ニ對スル各方面ヨリノ撮影。屍骸ニ接近セル四圍ノ狀態ノ寫眞。被害者ノ衣類  
履物、帽子、所持品ノ撮影。手ニテ物ヲ握リ又ハ腕ニテ或物ヲ抱ケルトキ其握リ方又ハ抱キ方等ノ寫  
眞。死斑、絞痕、解體セル屍骸ノ各部分ノ撮影ヲ要スヘク、又屍人ハ何人ナルカニ就テノ報告ヲ民衆  
ニ求メンカ爲メ新聞紙ニ掲載スル場合ニハ「屍體化粧」ヲ施シタル後ノ撮影ヲ可トス。(ロ) 被害者ノ身  
體ニ於ケル負傷ノ撮影。ロハ氏曰ク「傷ハ創傷ノ治療スルモノト否トナ間ハス。傷テ之レヲ撮影スルノ義務アリ。何トナレハ  
トキハ外形ヲ變スヘク、又若シ負傷者死シタルトキハ其致命傷カ如何ニ内部ニ擴カレルカヲ解剖ノ上檢視スルヲ要シ從テ創傷ノ形ヲ變ス可クレハナリト」(ハ) 嫌疑者ノ身體ニ存スル抵抗ノ痕跡ノ  
撮影モ亦必要也。何トナレハ嫌疑者カ被害者ノ抵抗ニ依テ搔傷又ハ皮下溢血ヲ受ケタリトスルモ、一  
旦生シタル是等ノ痕跡ハ犯行又ハ逮捕ノ當時ニ於テこそ明ニ認ムルコトヲ得レ時ヲ經過シ豫審、公判  
ト進ムニ從テ漸次治愈又ハ消失スルカ故也。加之毆打、絞殺等ノ極メテ微弱ナル痕跡ハ人ノ網膜ニ映  
セスシテ唯寫眞ノ種板ニノミ感應スルコトアルヘケレハ也。

【實例】 嘗テ獨逸ニ於テ或一寫眞師ハ一見健康ナル婦人ヲ撮影シ現像シタル處、顔面及ヒ頸部ニ多數ノ黑點現レ出タルニ一驚ヲ喫セ  
リ。何トナレハ寫眞師ハ撮影ノ當時ニハ婦人ノ顔ニ斯ノ如キ斑點ノ存スルヲ毫モ認メサリシヲ以テ也。然ルニ其婦人カ數ヶ月ヲ經テ

天然痘ニ罹レリ。蓋シ天然痘ハ撮影當時ニ既ニ現ハレタルモ其赤斑極メテ微弱ナリシ爲メ何人ノ肉眼ニモ寫ラヌシテ唯寫眞ノ種板  
ノミニ感シタルモノナリキ。

(ニ) 身體内部ノ機關例令ハ腦髓、氣管、胃ノ粘膜ヲ撮影シ、肉眼ニテハ判然セサリシ紅色ノ斑點ヲ發  
見シテ確實ニ事件ノ解決ヲ促シ得ルコトアリ

(3) 現場痕跡ノ發見探證及確定

(イ) 血痕ノ穿鑿ニ寫眞ヲ利用シ得ヘシ。容易ニ認メ難キ土臺、澳、壁、等ニ飛散セル血ノ沫痕及ヒ  
麻布織物等ニ一旦附着シタルヲ既ニ洗滌シ去リタル血ノ微ナル斑點ニシテ、肉眼ニテハ發見スルコト  
能ハサルモノヲモ能ク寫眞ニ依テ、恰モ秦鏡ノ妖魔ヲ照ラスカ如ク其正體ヲ露見セシムルコトヲ得。

(ロ) 足跡、指紋、掌痕、爪痕、車轍ノ跡等ノ探證ニ亦之ヲ利用スヘシ。

【實例】 嘗テ大正四年八月、某温泉湯附近ノ溪流ニ沿ヘル斷崖ノ里道ニ於テ數人ノ客ヲ乗セタル温泉湯行キノ自動車轉覆シテ溪流ニ  
墜リ、乘客悉負傷シタル事件突發シタルコトアリ。時恰モ余ハ其ノ温泉湯ニアリ此災變ヲ耳ニシタルヲ以テ寫眞師ヲ率ヒテ急遽現場  
ヘ出張シ、轉覆ノ自動車ヲ崖上ヨリ撮影シ尙轉覆シタル崖際ノ個所及ヒ自動車カ其個所ニ至ル迄ノ道程ノ十間餘ヲ撮影シタル處、  
肉眼ニテハ如何ニシテモ認ムルコト能ハサリシ里道上ノ自動車車轍ノ痕跡カ歷然トシテ寫眞ノ種板ニ依テ其姿ヲ現ハシ、之カ爲メ  
當時運轉手カ如何ニ視テ取リ來レルヤノ經過ヲ知リ過失ノ眞相ヲ明カニスルヲ得タリ。因ニ被告人ハ罰金八十圓ニ處セラレタリ  
(ハ) 損壞ノ痕跡ヲ撮影シ之ニ原因シタル物體或ハ兇器ヲ認定スル上ニ寫眞カ大ナル貢獻ヲ寄與スルコ  
トアリ。忍込盜カ戸障子ヲ抉シ明ケタル刃物ノ痕、森林盜伐者カ使用シタル斧ノ跡、汽車、電車、自動  
車等ノ衝突事件ニ於ケル衝突損壞ノ痕跡、等ハ寫眞ニ取リ之ヲ數倍ニ引キ伸シ使用又ハ原因シタル兇  
器物體ノ特徴性質ヲ發見シ得ルノミナラス嫌疑者ノ所持スル兇器、又ハ問題ノ物體ヲ撮影シ同シク之

レヲ數倍ニ引伸シ、此場合兇器自體ヲ撮影セス、兇器ニ依テ試ミニ或物體ヲ切リ、右現場ノ痕跡ト比較シ異同ヲ決定シ得ベシ。

【實例】 兇器ヲ獨逸ノ或道路ノ堤防ニ於テ、百本以上ノ若キ彈カ何者カニ發射セラレタルコトアリ。盜伐ニ使用シタル器具ノ種類ニ就テ端緒ヲ得ムカ爲ニ、檢事ハ右犯行ノアリタル後四週間ニシテ全部ノ樺ノ斷株ヲ伐採シ、之ヲ鑑定人タルライプチツヒノコツケル博士ノ許ニ送付シタリ。鑑定人ノ所ニ於テ斷株ハ細毛ヲ以テ洗ヒ清メ、レ切口ノ表面ハ十分ニ研究シ得ル程度ニ明白トナレリ。茲ニ於テカ切口ハ強度ノ電氣燈ヲ以テ照ラサレ其ノ表面ヲ自然大ニ於テ寫眞ニ撮ラレ、切口ノ表面上ニ存スル斧刃ノ破口ヲ明瞭ニ認メ得ラルル儘ニ寫サレタル所果シテ該面ニハ並行ニ走レル輪形ノ隆起ヲ發見シタリ。此ノ痕跡ノ形態及狀況ヨリシテ總テノ樺ノ斷株ハ同一ノ斧ヲ以テ伐採シタルモノナルコト判明セリ。切口ノ表面ノ二三ノモノニ於テ刃ノ一端又ハ他端ノ痕跡ヲ各々留メ居リタルカ故ニ、是等ヲ綜合シテ斧ノ刃渡リヲ精確ニ決定セラレ、斯クノ如クシテ遂ニ犯人ヲ檢擧シ得タリ。

尙森林竊盜ノ賊物タルノ疑アル木材ニ對シテハ其切口ニ於ケル木ノ年輪ヲ撮影シ、現場ニ於ケル木ノ伐採口ノ輪層ヲ寫シ取りタル寫眞トヲ比較研究ス。此際吾人ハ二個ノ寫眞ヲ重ネテ、紙面ノ一部分ヲ共ニ切り取り然ル後其一部分ツツヲ併べ兩方ノ輪層カ相符合スルヤ否ヤヲ檢スルコトヲ得。

(4) 銃器ニ關シ

現場ニテ發見セラレタル銃丸カ一ノ旋條附ノ銃器ヨリ發砲セラレタルトキニハ、銃丸ニ於テ明ニ銃身内部ノ線條ノ痕跡ヲ附スルモノ也。而シテ線條ノ數、深サ、廣サハ銃器ニ從テ異ルカ故ニ、今若シ問題ノ銃丸ノ線痕カ嫌疑者所持ノ銃器砲身内ノ線條ト適合スルトキニハ、右銃丸ハ嫌疑者ノ發射シタルモノト看做スコトヲ得ヘシ。此目的ノ爲メニハ流動セル硫黃ヲ銃身内ニ流シ込ミ、然ル後硫黃ヲ一ノ特別ナル裝置ヲ以テ回旋シナカラ取り出し、此材料ノ表面ノ條及ヒ現場ノ銃丸ノ條ヲ共ニ寫眞ニ撮影シ、兩者ヲ比較精査スル方法アリトス。(クラツト氏)尙銃丸ヲ轉カシテ線條ノ型ヲ取り之ヲ寫眞ニ取りテ比較研究スルトキハ殊ニ嚴密也。(コツケル氏)

【實例】 千九百三年、ザクセンノフイヒタルベルグニ於テ銃殺セラレタル一人ノ旅人ノ身體ニ於テ一箇ノ彈丸カ發見セラレタリ。銃丸ノ寫眞ハ彈丸ノ上ニ壓シ附ケラレタル線條ノ一ノ不明ナル輪ヲ現ハスノミナリキ。茲ニ於テカコツケル教授ハ彈丸ヲ轉カス手段ニ依テ探査ノ目的ヲ達セリ。其ノ方法ハ壓痕アル線條ノ長サノ方向ニ對シ直角ニ於テ一ノ蠟燭ヲ塗レル條片ノ上ニ丸ヲ轉カシ、此ノ如クシテ得タル、壓痕ヲ石膏ヲ以テ型ヲ作レル也。之ニ依テ銃砲ニハ七條ノ強キ線ヲ有スヘキモノナルコト明白トナレリ。殺人者ノ銃器ハ其ノ後現場附近ヨリ發見セラレタルヲ以テ、試驗ノ爲ニ彈丸ヲ發射シ、而シテ之ヲ右ト同ノ方法ニ於テ型ヲ取リ此ノ二ツノ一轉カシタル表面ヲ寫眞ニ撮影シ、兩者ノ寫眞ヲ比較シ線條間隔ノ測定ニ依テ、殺人彈丸ト試發彈丸トハ全然同一ノ銃器ヨリ發砲シタルモノナルコト疑ヒテ決ムノ餘地ナキニ至レリ。

尙兇器犯用物件ヲ撮影スル必要多々アルヘシ。

(5) 偽造文書ノ穿鑿

屢々述ヘタルカ如ク寫眞ノ種板ハ人間ノ眼ヨリハ甚シク鋭敏ニシテ、肉眼ヲ以テハ認識スルコト能ハサルモノヲ屢々寫眞ニ依テ發見シ得ルカ故ニ、文書偽造、變造ノ穿鑿等ニ對シテハ其効用ノ顯著



ナルモノアリ。

註 寫眞ニ依テ初メテ月ノ表面ノ特徴ヲ認識シタル者、或ハ天空ノ一個所ニ於テ數百ノ星ヲ寫眞ニ依テ發見シタル天文學者、又ハ古キ寫本ヲ攝影シテ隠レタル多クノ文章ヲ發見シタル考古學者アリ。

偽造變造文書ノ寫眞捜査ノ研究ニ就テハ、各論第三章、第三節、第一款、(A)寫眞ノ補助ニ依ル文書ノ穿鑿ノ項ニ之ヲ讓レリ。

茲ニ一言スベキハ寫眞ヲ以テ偽造文書ノ穿鑿ニ充分ナル効果ヲ收メントセハ、普通寫眞師カ人物撮影ニ使用スル種板ノミヲ以テハ不可能也。或ハ天然色乾板、(オートクローム乾板)ヲ使用シ、又ハ特ニ綠又ハ黃色ニノミ反應スルモノ、或ハ青及赤ニノミ感光スル種板ノ使用ヲ必要トスヘク、或ハ又整色乾板ヲ使用スルヲ可トスル場合、又ハ光線ニ逆テ撮影ノ必要アルトキノ「アンチハロ」乾板ノ準備ヲ要スル場合等アルベク。(但シ是等ノ乾板ハ我國ニ於テ購求スルコト容易ナラサルカ如シ)寫眞器械ニ就テモ蛇腹ヲ長ク引伸シ得ルモノヲ要スルノミナラス、撮影セントスル物體ト「レンズ」トノ間ニ黃色等ニ著色シタル硝子板ヲ遮リ置クノ裝置(即チ「スクリン」ヲ掛ク)。寫眞引キ伸シ暗室ノ裝置ナカルヘカラスト云フカ如クニ相當ノ準備ト材料ノ完備セルヲ吾人ノ仕事ノ前提トスルコトヲ看過スヘカラス。

(6) 偽造通貨ノ穿鑿(前示、各論寫眞ノ補助ニ依ル文書ノ穿鑿ノ項參照)

(7) 群衆ノ撮影

多衆人ノ集合セル中ニ犯罪者ノ存スル事實ヲ證明センカ爲メニ亦寫眞ヲ利用シ得ヘシ。(イ)見物人ノ集合中ニ或拘摸ノ現在シ活動セル事實ノ發見及ヒ證明(ロ)騷擾罪ノ現場ニ於テ或者カ投石シ若シク

ハ亂暴セル事實ノ發見及證明。

【實例】 大正七年八月全國ニ起レル米騒動ノ際、和歌山市ニ於テハ警察官カ騷擾ノ現場ヲ寫眞ニ取リテ、各投石者ヲ寫シ置キ、檢舉上大ニ成功シタリ。○ 醫官アリユツセル市ニ於テ舉行セラレタル一王子ノ結婚ノ際ニ或騷擾事件カ突發シタルコトアリ。其ノ場ニ於テ逮捕セラレタル數人ノ青年ハ、自分等ハ野次馬ニハ非スシテ唯偶然此ノ場所ヲ通り掛リタルトコロ、混亂雜音ノ爲メ知ラズ騒ラス暴徒ノ中ニ捲キ込マレタルモノニシテ決シテ附加助勢シタルカ如キコトナキ旨ヲ主張シ、警官ニ對シテ飽迄反抗シ居リタリ。會々一警官ハ其ノ現場附近ニ於テ住居ノ窓ヨリ當時騒ギノ最中ヲ寫眞ニ撮リ居タル男アリトコトヲ耳ニシ、其ノ者ヲ搜シ當テ寫眞ヲ實ヒ來リテ之ヲ引キ伸ハシ複寫シタル所、右ノ青年等ハ寫眞中ノ人タリシノミナラス、運送タモ各大口ヲ開キ怒聲シ且鐵腕ヲ舉ケ杖ヲ振舞シ居ル狀況歴然タルモノアリ、此ノ寫眞ヲ見セラレタル青年ハ一言半句モナク憤然トシテ最早抗爭セザリキ。

(ハ)多數集合シテ野天博奕ヲ爲セル現行狀況ノ撮影等之ナリ。而シテ衆人ニ氣附カレスシテ是等ノ目的ヲ達センカ爲メニハ、懷中時計形寫眞器アリトス。(外國ニハ洋服ノ「ボタン」ニ寫眞機ノ備付ヲ爲セルモノアリ)

(8) 犯罪現行ノ自働的撮影

例令ハ窃盜カ繰リ返サルヘキ事情ヲ豫期セラルルトキニハ寫眞ヲ利用シ其犯人ヲ發見スルコトヲ得ヘシ。晝間ノ犯行ニ對シテハ例令ハ寫眞ノ「レンズ」ヲ戸ノ上ニ置キ犯人カ戸ヲ開キ室内ニ入ルヤ否ヤ自ラ「シャッター」カ作用スルカ如ク仕掛ヲ爲シ置キ、夜間ニ於ケル忍込盜ヲ恐ルルトキニハ、盜犯ノ目ニ着カサル個所ニ寫眞器ヲ備付ケ而シテ戸及ヒ窓ニ電線ヲ備ヘ、犯人カ之レニ觸ルレハ直ニ或藥品カ爆發シ光ヲ放ツ様ニ爲シ斯クシテ其瞬間ニ寫眞ノ種板ノ上ニ一ノ肖像ヲ止メシムルカ如ク仕掛ケ置ク也。

【實例】 獨逸ニ於ケル一金滿家ハ彼レノ庭園ニ電氣的ニ開ク「シャッター」ヲ具フル寫眞機ヲ裝置シ庭園竊盜ノ行ハルル際自働的ニ寫

真カ取レ得ル様ニ爲シタリ。或日一盜犯カ果物ノ樹根ニ掛ケタル一ノ椅子ノ上ニ攀チ昇リタルトキ、瞬間閉器ハ電氣的ニ開カレ其者ハ自己ノ容貌ヲ種板ニ撮ハレタリ。

(9) 被告人人相ノ撮影

警察署又ハ監獄署ニ於テ被告人ノ容貌ヲ撮影シ之ヲ「アルバム」ニ於テ整理セルハ我國ニ於テ現今實施セラレル處也。然レトモ巴里ノ警視廳ニ於テハ被告人寫眞ヲベルテヨン氏ノ測身法及ヒ指紋法ト併用シ、即チ一枚ノ人相書ニハ其者ノ寫眞、指紋、測身表、及住所氏名、及ヒ生年月日ノ記載ヲ包含セリ。

被告人ノ寫眞ハ正面ト側面トヨリ撮影スルニ非ンハ甚誤ヲ生シ易キモノト知ルヘシ。終リニ注意スヘキハ顯微鏡寫眞ヲ以テ犯罪ヲ證明セサル能ハサル時機ノ到來スヘキヲ豫言セル學者アルコト之也。

(戊) 物理學

物理學ヲ犯罪捜査ニ利用スヘシト云フハ一見甚奇異ナルカ如シト雖其實然ラス。一般自然現象ノ觀察ハ普通世人ト雖日常甚シク誤認アルモノニ非サルヘキモ、觀察ノ結果カ直接人權ニ消長ヲ來スヘキ一刑事事件ニ於テハ苟モ過誤ナキヲ期シ、殊ニ綿密ト精確タルニ遺憾ナカラシメサル能ハス。此ノ爲メニハ自然現象ノ物理的研究ヲ畢生ノ事業トシ之レニ關スル精確ナル特別専門智識ヲ有スル彼ノ物理學者ノ透徹的觀察ヲ俟テ事ヲ斷スルヲ最目的ニ適應セルモノト謂フヘシ。況ンヤ世ノ出來事ノ中ニアリテハ是非共物理學上ノ級密ナル研究ヲ埃ツニ非スンハ解決ノ端緒ヲ發見スル能ハサルモノ稀ナラサ

ルニ於テヲヤ。

(1) 破壞原因ノ鑑定

騷擾罪等ニ於テ商店ノ窓硝子ニ石ヲ投シ之ヲ破壞シタル場合、或一彈丸カ硝子窓ヲ貫通シタルトキニ於テハ、該破壞ノ痕跡ノミヨリシテ、犯人ノ居リタル箇所、貫通ノ物體ハ小石ナルカ彈丸ナルカ、力ノ強弱如何、彈ネ反リタル方面ハ奈邊乎等ノ點ニ關シテ精確ナル判斷ヲ與フルハ即チ物理學者ナリ。

(第三章、第一節、(庚)損壞ノ痕跡鑑照)

汽車、電車、等ノ衝突、工場ニ於ケル爆發、破裂、飛散等ニ於ケル業務上過失

傷害事件ニ關シ、其災害ノ原因、當事者ノ之ニ對スル因果關係ノ各割合、破壞ノ性質ト方向、等ニ就テモ亦同シ。又忍込盜ノ捜査ニ當リ、何等兇器ヲ用ヒシテ入口ノ堅固ナル戸ヲ巧ミニ易々ト取リ外ツシタルハ、人力ニ依ルカ將タ又槓杆或ハ萬力ノ如キ器械ヲ使用シタル乎、或ハ何等カ物理上ノ自然カヲ利用シタルニ非サル哉。等ヲ研究スヘキ場合ニモ斯學者ノ補助ヲ緊切トスルコトアリ。

注 而、佛事ニ於ケル忍込盜ノ或者ハ鐵格子ヲ開排スルニ、強キ綱ヲ以テ二本ノ格子骨ヲ數回緊縛シタル後之レニ水ヲ注キタルノミテ目的ヲ達セリ。之レ新シキ綱ハ水氣ヲ含ムヤ甚ダシク收縮力ヲ生シ之レカ爲メ鐵ノ骨ヲモ漸次屈撓セシメ、緊縛シタル格子ト隣接ノ格子トノ間ヲ擴大セシムルカ故也。尙戸ヲ抉テ明タルトキ、強力ヲ用ヒス且ツ急激ナル音響ヲモ發セシメシテ成效セントスルトキ或盜犯ハ三角ニ割リタル木ノ栓子ヲ戸ト柱トノ少シノ隙キ目ニ挿入シタル後之レニ水ヲ注キ、栓子ノ木質カ水ヲ含ムテ膨脹シ其力ニ依テ自然ニ戸ト柱トノ間隔ヲ大ナラシムルカ如ク爲セリ。(ダロース氏) 執レモ物理學應用ノ犯罪タルニ注意スヘシ。

(2) 太陽ノ光線及熱ノ效力ニ關シ

放火又ハ失火或ハ自然發火ノ事件ニ於テ是等ノ研究ハ重要也。太陽ヨリ來ル輻射熱ニ依リテ屢々自然發火ヲ生スルコトアリ。(例令ハ容易ニ點火スヘキ物カ鐵葉根ノ下ニ置カレタルトキ、或ハ石炭又ハ燐炭カ夏季熱バノ下(鐵道貨車ニ積ムレテ充分ニ日光ノ熱ヲ受ケタル後、熱キ石炭置場ニ運ハレ其所ニ狭ク堆積セラレ

タルトキニハ)又若シ日光ノ光線ヲ集中セシメ之ヲ一點ノ上ニ向クルトキニハ火ノ生ス。虫眼鏡ニテ太陽ノ光線ヲ受ケ其焦點タル處(即光線ノ集中點)ニ墨塗レル半紙ヲ齎ラセハ焦始ムルコト俗童モ熟知スル處ナラム。

註 外國ニハ此理ヲ應用シテ放火ヲ企ツル犯人アリ。西洋ニテモ古アリストフアネスカ既ニ「レンズ」ニテ物體ヲ燒キ得ルコトヲ述ヘ、アルキメデスハシラキウスノ觀ニ此理ヲ應用シ太陽ノ光線ヲ集メテ敵船ヲ燒キ討セルハ歴史上面白キ話ナレリ。

光線集中放火ノ手段トナルハ唯ニ擴大鏡ノミナラス寫真ノ「レンズ」、燒泡ノ存スル窓硝子、洋燈ノ油壺、金魚入ノ硝子壺、水燭。金屬類ニ付テハ鏡、磨カレタル錫皿等ニシテ、是等カ放火又ハ自然發火等兎モ角火災ノ原因トナレルヤ否ヤハ物理學者カ解決ヲ與フヘキ抱負ヲ有ス。光線ノ集中カ又殺人犯ヲ行ヒタルカ如キ奇例ヲ説ケタル英國ノ一學者アリ。

【實例】嘗テ一紳士ハ一個ノ彈丸ヲ受ケ寢椅子ノ上ニ横ハリ死亡シ居タルヲ發見セラレタル處、發砲サレタル銃ハ平常通りニ其所ノ壁ニ掛ケラレアルノミナラス、現場ニハ何等格闘ノ痕跡モナカリキ。此處テノ狀況ヨリスレハ紳士ハ睡眠中ニ何者カニ殺害サレタルモノト推定スルノ外ナキ也。何トナレハ銃ヲ以テ自殺シタルモノトモハ銃器ヲ再ヒ元ノ處ヘ置クコトハ全然不可能ナルカ故也。此理由ヨリシテ其家ニ於ケル下僕ノ一人ニ大ナル嫌疑カ掛リ其者ハ遂ニ拘引セラレタリ。今若シ刑事巡査カ死亡石ノ懷中時計ニ注意ヲ拂ハサリシトモハ彼ハ恐ラク有罪ノ宣告ヲ下サルル運命ニ立チ至リシナラム。刑事ハ被害者ノ時計カ彈丸ノ命中ニ依リ破壊シ其針ハ正午過キヲ指シテ止マリ居タルヲ發見シタルヲ以テ進テ調査スルニ、時計ノ止リ居タルト同時刻ニ、日光カ机上ニ置カレタル水燭ヲ通シテ焦點ヲ作リ其焦點タルヤ恰モ壁ニ掛ケラレタル銃砲ノ引キ金ノ上ニ落ツル事實ヲ確メタリ。技ニ於テカ刑事ハ銃ニ彈丸ヲ裝填シ前ト同シ位置ニ掛ケ、而シテ寢椅子ノ上ニハ模型ノ驚人形ヲ置キ試ミタル處、日光ノ光線カ例ノ水燭ヲ通シ銃砲ノ上ニ一ノ焦點ヲ作ルヤ否ヤ、爆發突如トシテ起リ、驚人形ニ彈丸ハ命中シタリ。余ハ此出來事ノ年月日ヲ通リテ調ヘ諸君ニ報告スルハ遺憾ナカラフ不可能トス。然シナカラ若シ是カ事實ニ非サリシトスルモ斯クノ如キハ決シテ不可能ト云フヘカラス。何トナレハ

水燭ヲ通シタル日光ノ光線カ紙ノ上ニ焦點ヲ作リ斯クシテ紙ヲ燒燬シタル實際ノ事件ヲ余ハ知レルカ故也。(ミツチエル氏)

熱ハ又摩擦或ハ衝突ニ因テ生シ之カ爲メ發火ノ原因トナルコトナキ 非ス。太古時代ニ當リ繁茂セラル山林ノ樹木(殊ニ檜……火ノ木)カ大風ノ爲メ動搖シ、隣接ノ木互ニ摩擦シテ自然ニ發火シ遂ニ山火事ヲ生シタルコトアリト稱セラル。

【實例】嘗テ石炭運送船ニ於テ政者ハ誤リテ金網ヲ船底ニ墜落シタル處、金屬ニ當リテ火花ヲ發シ折柄燵ヤトシテ立チ昇ル石炭ノ塵埃ニ點火シ遂ニ大爆發ヲ惹起シタリ。

火災ハ亦新鮮ナル空氣、風ノミヲ以テ延燒ノ條件ト爲スモノニハ非ス、空氣ノ流通不良ノ箇所ト雖熱タニアラハ盛ニ燃燒スルモノナルニ止ラス、燃燒ハ必スシモ迅速ニ傳播スルモノト限スシテ、炎ヲ上ケタル火ハ徐々トシテ内部ニ於テ燃燒スルカ故ニ、發火後數時間乃至一兩日ヲ經テ始メテ大事ニ至ルコトアルハ物理學者カ吾人ニ注意スル處也。

故ニ耐火設備不完全ナル風呂場ノ煙突カ天井板ト接近セル箇所ノ如キハ、焚火毎ニ其附近ノ木質ヲ漸次焦シテ遂ニハ木炭ノ如クナラシメ、之レニ一旦火氣ノ移ルヤ一兩日後ニシテ始メテ屋根裏ヨリ火災ヲ揚ケ災害ヲ發スルカ如キコトアルヘシ。

熱ハ亦液體ヲ蒸發セシムル效力ヲ有スルハ人ノ知ル處也。而シテ普通ノ石油ハ華氏八十六度乃至九十五度ニテ能ク蒸發スルカ故ニ、極暑ニハ當然石油洋燈壺内ニ瓦斯ヲ發生ス、故ニ之レニ點火スレハ爆發スヘシ。冬季ト雖洋燈ニ點火スレハ燈火ノ熱ニテ油壺内ニ石油ノ蒸發氣ヲ生スルカ故ニ點火ノ儘口金ヲ取ルカ、或ハ就寢ニ當リ洋燈ノ心ヲ餘リニ引込メ置クトキニハ、油壺内ノ瓦斯カ火ヲ引キ爆發火災ヲ生スルコトアリ。總テ斯クノ如キ問題ハ物理學者カ容易ニ説明スル處也。

(3) 水ノ比重ニ關シ

鹽水ハ淡水ヨリ比重重キカ故ニ水屍體ノ如キモ沼湖ヨリ海面ニ浮ヒ出ツルコト疾ク、同シク湖中ト雖其水比重ノ輕キニ從ヒ水泳者ノ游キ難キハ一般世人ノ經驗スル處ナルカ、是等ノ問題ニ關シテ極メテ際疾キ微妙ナル事項ニ就テハ物理學ノ補助ヲ藉用スルヲ要ス。

(4) 電氣ノ效力ニ關シ

電氣工業ハ日ニ月ニ盛ナラントスルカ故ニ、單ニ漏電失火事件、電流使用殺人事件、等ニ止ラス、廣ク電氣ニ關係アル諸般ノ刑事問題ニ對シテ、電氣學者ヲ煩スコト愈多カルヘシ。

「エツキス」光線モ亦刑事上ニ利用スヘキ場合屢々アリ。例令ハ負傷骨折ニ就テ。或ハ解剖ヲ經ルニ非サレハ判明セサル屍體ニ對シ該光線ヲ施シテ解剖ト同一ノ確的ノ效果ヲ收メ。或ハ盜犯カ寶玉ヲ嚙下シタルトキ、又ハ造幣局ノ女工カ金塊ヲ隱密ナル肉體ノ一部ニ潛メタルカ如キ場合ニ於テハ「エツキス」光線ノ照射ニ依テ之ヲ發見證明スルコト極メテ易々タリ。

其他、寒冷ノ效力、濕潤ト乾燥、壓迫、磁石ノ作用、風雨雪ノ效力等ニ關スル刑事上問題ニ就テモ斯學ノ研究内ニアルハ勿論也。

(己) 法醫學

法醫學ヲ捜査上如何ニ利用スヘキヤノ問題ニ就テハ大體刑事家ノ既ニ要知スル處ナルノミナラス、殊ニ斯學ニ關スル専門ノ學者ガ其學說ト圓熟セル研究トヲ發表スルヤ既ニ久シキカ故ニ吾人ハ茲ニ此種ノ研究ヲ詳説スルノ迂愚ト無謀トヲ學ハサラントス。唯左ニ其目錄ノミヲ列舉セハ次ノ如シ。

(一) 屍體検査、血痕、毛髮ノ検査、身體各部ニ對スル損傷及致命傷ノ研究、窒息餓死、火傷死、凍

死、中毒死、電氣損傷ノ研究、初生兒殺害ノ研究、骨片ノ研究、

(二) 姦淫、猥褻、妊娠、墮胎等風紀上ノ犯罪。

(三) 精神病ノ研究。

(四) 疾病、身體構造上ノ異常ニ關スル研究。

但シ是等法醫學上ノ研究ニ就テハ各論第二章殺人ノ部參照。

(庚) 刑事心理學

刑事心理學ニ關スル從來ノ研究ヲ實際ニ捜査ニ利用シ得ル劃切ナル方法ヲ指示スル學者アラハ、刑事家日常ノ事務ニ貢獻スル處ノ如何ニ大ナルカヲ吾人ハ常ニ想到シテ歌マサル處也。人ヲ殺スモ、火ヲ放ツモ國ヲ傾ント企ツルモ、悉ク心ノ働ノ結果ニ外ナラサルハ今更多言ヲ要セス。果シテ然ラハ犯罪ノ突發ニ當リ、廣ク外界ニ眼ヲ瞭リテ無關ニ人ノ身柄ヲ逮捕センコトニ焦慮スルヨリハ、寧ロ退テ閉目冷カニ犯罪ニ關スル心理現象ヲ具サニ批判シ、穿鑿シ、如何ナル心ノ關係ヲ有スル者カ、如何ナル心持ヲ以テ此行爲ヲ敢テシタルヤヲ推知シテ之カ暗示ト端緒トヲ捉ヘ、其心ノ關係ヲ有スル者、其心持ヲ有スル者ハ果シテ何人ナル乎ヲ辿リ遂ニ效果ヲ得ルヲ以テ事理ニ適應セル極メテ微妙ナル方法ト謂ハサル能ハス。

(1) 犯罪ノ動機ニ對スル詮議

動機ノ點ヲ研究シ之ヨリ犯人ヲ物色セントスルハ敢テ今ニ始マレルコトニハ非ス。然レトモ此事タルヤ好ク犯罪心理學ノ方向ト合致スルモノ也。動機トハ吾人ニ活動ヲ起サシムル直接ノ刺戟ヲ云フ。

犯罪ニ對スル此刺戟ハ多クハ吾人ノ情緒又ハ感情タルコト勿論也。

犯罪ノ動機トナル情緒ノ主ナルモノハ左ノ如シ。

嫉妬。主トシテ放火、殺人ノ動機トナル。

怨恨。放火、殺人、傷害、侮辱。

憤怒。殺人、傷害。

復讐。放火、殺人、傷害、侮辱。

羞恥。墮胎、嬰兒殺。

恐怖。——罪證湮滅。放火、殺人。

虛榮。竊盜(多ク婦人、年少者)

利己。竊盜、強盜、橫領、詐欺、恐喝。時トシテ放火、殺人、

感情カ犯罪ノ動機トナル主ナルモノハ。

愉快。放火。

不愉快。放火。

懷郷心。放火。

情緒ニモ感情ニモ非スシテ稀ニ犯罪ノ動機トナルハ即チ、迷信、及精神病也。前者ハ多ク竊盜、殺人ノ動機トナリ、後者ハ主トシテ殺人、放火犯ノ原因トナル。

獨逸ニ於テハ迷信カ竊盜ノ動機トナルモノ稀ナラスト云フ。例令ハ竊取シタル野菜ヲ以テ馬ヲ強壯ニスルコトヲ得、牝牛ニ隣家ノ草

ヲ與フレハ多量ノ乳ヲ得トノ迷信。竊取シタル兇器ヲ以テ自殺スレハ靈驗アリ、寺院ノ靈前ノ供物ヲ所持スレハ治療、戀愛ノ護符トナルトノ迷信。梳ヲ取去ラントセハ竊取シタル脂肪又ハ餅ヲ用フヘク、危險ナル土地ニ建築ヲ爲スニハ竊取シタル木材ヲ使用スルヲ唯一ノ呪禁トスト云フカ如キ迷信是也。(殺人ノ動機トシテノ迷信ニ就テハ各論第二章、第六節、第五參照)

故ニ若シ今一犯罪ノ突發シ、之カ犯人ノ何人ナルカ、不明ノ場合ニ於テハ、抑々該犯罪ハ如何ナル心ノ關係カ其動機トナリテ、茲ニ至ラシメタルカヲ充分ニ考慮シ、場合ニ依テハ進テ専門ノ刑事心理學者ニ就キ、凡ソ此種ノ犯罪ノ動機トナル人間ノ感情ニハ尙他ニ如何ナル種類ノモノ存スルヤヲ能フ限リ廣ク、漏レナク尋究シ、却說其心ノ關係ヲ有スル筋合ノ者ハ何人カヲ探査シ、斯クシテ檢舉ノ歩ヲ進ムルコト亦合理的一方法タルヲ失ハス。

(2) 犯罪行為中ニ現ハレタル個人習癖及ヒ迷信ノ觀察。

犯人ノ中ニアリテハ犯罪ニ際シ特殊ノ習癖ヲ表現スル者アリ。斯クノ如キ者ハ如何ナル場合ニ於テモ強ク因ハレタル持テ合セノ此習癖カ不知不識理ニ自然必至ノ勢トシテ彼ノ心底ヲ湧出スルニ至ル也。然ルニ習癖ナルモノハ個人ニ依テ全ク特殊ノモノナルカ故ニ、犯罪行為中ニ現ハレタル此習癖ハ習癖タルヤ否ヤ一見判別シ難キ形態ヲ呈スルヲ常トスヘシ。從テ捜査官ハ犯人カ何故斯ノ如キ惡戯ヲ爲シタルヤ之ヲ讀破スルニ苦ム場合少ナカラス。吾人若シ此場合ニ刑事心理學者ニ諮問スルノ注意ト熱心タニアラハ或ハ解決ノ鍵ヲ容易ニ與ヘラルルコトアラム。即チ彼ハ曰ク「犯人ノ心持、此場合全ク特殊ノ状態ニ置カレタルモノナラム。其特殊ノ状態タルヤ吾人ハ勿論、犯人彼レ自身モ恐ラク説明スルコト能ハサルモノニシテ想フニ理由ナキ習癖心ノ發露ナルヘシ」ト事茲迄到ラハ吾人ハ特殊

ノ習癖者ヲ犯人トシテ捜査スルノ一ノ指示ト根據トヲ得タルモノト云フヘシ。

【實例】大正八年二月廿日芝區明舟町ノ著者ノ寓居外八十七個所ノ家宅へ忍入タル兇賊田某ハ、犯所ニ於テ常ニ舌ヲ以テ障子ノ紙ヲ嘗メ破ク習癖ヲ有セリ。彼ハ例令ヒ其所ノ障子ニ破レ孔カアリトスルモ其横ニ自ラ嘗メ孔ヲ作ラサレハ氣力濟マサル也。(指先ヲ用ヒス)斯クシテ著者ノ家ノ障子モ矢張り彼ノ接吻ヲ受ケタル也。竊逸ノ或盜犯ハ常ニ侵入セル室ノ障子ノ時計ヲ止メタル後仕事ニ取掛リタリ。

迷信ニ就テモ同様ニシテ犯行中ニ現ハレタル迷信ノ影ハ刑事家ノミノ眼ヲ以テハ看取スルコト能ハサル場合アリ。宜シク精神現象ノ微妙ナル研究ノ補助ヲ俟ツヘシ。(是等ノ點ニ關シテハ、尙第六章、第二節參照)

迷信ノ主ナルモノトシテハ、忍入盜カ侵入ノ際戸外ニ試ムル脱獄ノ如キ之也。脱獄ニハ或ハ鹽ヲ伏セ置ケルモノアリテ就レモ被害者カ眼ヲ覺マサス又ハ逮捕ヲ免ルル等ノ靈驗アリト稱セラル。其他侵入ノ際下駄ヲ置ニ伏セ又ハ被害者方ノ履物ヲ悉ク裏返シニ爲シ置ケハ家人ノ覺醒ヲ防キ得トノ迷信アリ。山高ノ賊徒ハ舊曆ノ三日、七日、廿三夜ハ捕縛又ハ怪我ノ危險アリトノ迷信ヨリ犯罪ヲ爲サス、之レニ反シテ廿七日ハ賊聖石川五右衛門ノ命日ニシテ縁喜良シトノ迷信ヨリ進ンテ犯行ヲ遂ウスト云フ。獨、英ニ於テモ迷信上ヨリ常ニ一ノ番蓋冠ヲ又ハ念珠ヲ、或ハ香料ヲ現場ニ殘シ行ケル盜犯アリ、或ハ鹽ニテ手ヲ洗ヒ其水ヲ室ノ四隅ニ撒キ散シ置ケ者、又ハ手提洋燈ニ赤紙ヲ貼リタルヲ以テ忍入リ此光ヲ睡眠者ノ顔ニ放タハ一層熟睡ストノ迷信ヲ實行セル盜犯アリト云フ。

(3) 同様行爲ノ反覆性心理ノ觀察  
人類ノ歴史ハ常ニ繰リ返ヘサル。犯人ノ行爲モ亦同様ノ方法ト形態トヲ以テ絶ヘス繰リ返ヘサレツツアルモノ也。之レ一ハ犯人カ個性ノ教育、年齢、性格、智能、經驗、境遇等ヨリ組成セラレタル一種ノ犯人智識ノ範圍内ニ於テノミ活動セサルヘカラサルニ因レルモ、他ノ一面ニ於テ人ハ行爲ノ反覆

性ヲ賦有スルニ出ツルトノ心理的觀察ヲ余ハ試ント欲ス。犯人カ幾度犯罪ヲ累ヌルモ同シク以前ノ犯行ノ軌道ヲ進ムハ畢竟是カ爲也。彼ノ魔手カ一度動クヤ、知ラサル間ニ此心持チニ囚ハレ居ル也。斯クシテ一ノ犯人ハ一ノ犯罪定型ヲ組成ス。(是等ノ點ニ就テハ尙第六章第二節參照)今此理ヲ捜査上ニ應用スレハ同一手口ノ犯罪ハ同一人ノ行爲ト認ムヘシト云フカ如キ平凡ノ觀察ハ云ハスモカナ、例令ハ數箇ノ盜犯ヲ爲シ、尙出沒自在ナル一人ノ偷賊ヲ逮捕センニハ、常ニ其者カ犯行ヲ爲ス時刻(例令ハ常ニ午前一時ヨリ四時)ヲ研究シ、其時刻ニ特ニ張込不審問ヲ嚴重ニストノ方策、或ハ凡ソ活動地域ヲ推定シテ其所ニ再ヒ來ルヘキ犯人ヲ要撃スルノ計略、又ハ機寸ト古新聞ヲ以テ數回放火カ企テラレタル場合ニ深夜是等ノ材料ヲ所持セル舉動不審者ニ對シテハ專心此點ヲ追究シテ歇マサル注意。ト云フカ如キコトト爲ルヘシ。

(4) 或種ノ犯罪者ノ累犯の心理  
犯罪者中竊盜、強盜、詐欺、横領、恐喝ト云フカ如キ破廉恥罪ニ對スル犯罪前科者。及ヒ貨幣偽造罪、又ハ賭博ノ前科者ハ孰レモ回歸的累進的性質ヲ有スルモノナルヲ注意スヘシ。斯クノ如キハ一ハ前示同様行爲ノ反覆性心理ニ囚ハルト、一ハ剗切ナル經濟的理由其他種々ノ社會的事情ノ強迫ニ餘儀ナクセラルルニ由ルヘシト雖、孰レニセヨ是等ノ總テヲ綜括シ、財産ニ關スル犯罪前科者カ累犯的ノ心持ヲ捨テサルハ爭ヒナキ事實也。此種ノ犯罪突發スルヤ一而此種ノ前科者ニ着眼スヘシト謂フカ如キモ實ハ刑事心理上ノ琴線ニ觸ルル言タルヲ失ハス。

5) 群衆心理ノ作用ニ關シ  
人多數相集リ一ノ群衆ヲ形成スルヤ、各個人ノ性格ハ消失シ共同的活動ニ對スル特殊ノ共通的心理

状態ヲ發生スヘシ。此特殊ノ共通的心理状態ノ綜括ヲ指シテ群衆心理ト云フ。此群衆心理ハ情意ノ部分ニ驚クヘキ異常ヲ呈セシメ、智的ノ部分ヲ殆ント用ヲ堪ヘサラシムルカ如キ特徴ヲ有スルカ故ニ彼ノ騷擾罪ニ於テ、平素沈著ニシテ智慮アリトノ評アル者カ驚クヘキ蠻行ヲ敢テスルニ至ル也。概シテ群衆ハ熱烈ナル感情ノ興奮性、衝動性、昂進性、模倣性、雷同性、動搖性、破壊性、殘忍性ノ強大ナル精神状態ノ下ニ置カルルカ故ニ騷擾ノ現場ニ於テ首魁、指揮者、率先助勢者ハ勿論附加隨行ノ一人スラ群衆ノ面前ニ於テ逮捕、引致スルカ如キハ嚴ニ之ヲ慎マサルヘカラス。之レニ依テ却テ一層彼等ノ激昂ヲ高潮的ナラシムルノミナラス、被告ハ群衆ノ爲メニ奪還セラレ、勞多クシテ害ヲ伴フカ如キ結果ヲ生スヘシ。故ニ賢明ナル刑事家ハ其被告人ヲ飽ク迄尾行シ彼カ群衆ヨリ脱シテ一人トナレルトキ、暗キ横道ニ於テ初メテ引致ノ手續ヲ執ル也。群衆中ノ一員トシテハ虎ノ如ク強カリシ彼モ、茲ニ至リテハ羊ノ如キ本來ノ心理ニ復リ易クシテ屠所ニ引カルルニ至ラム。

(6) 犯罪ノ模倣的心理ニ關シ

凡社會ノ事物、人間日常ノ行動ハ一切萬事殆ント模倣ナラサルハナシ。之レ各人皆模倣的心理ヲ賦有スルニ由ラスンハ非ス。惡事カ眞似ラルルモ畢竟之レカ爲也。殊ニ(イ)刺戟ノ強キ犯罪。例令ハ殺人、放火、強盜、政治的犯罪、騷擾罪等ノ如キハ罪質上模倣ノ客體トナリ易ク。(ロ)智識階級ノ者、地方ノ有力者、教師富豪等ノ犯罪。(ハ)社會ノ賞讃、同情ヲ得タル犯罪。(ニ)社會ニ興味又ハ注意ヲ以テ喧傳セラレタル特殊ナル方法ノ犯罪、例令ハ殘虐ナル殺人。(論キニ論ケテ首無事件アリ、其後續テ小名木川首無事件ナルモノアリタルハ世人ノ知ル處也。一八七六年巴里ニ屍體寸斷ノピロアール事件アリタル處此事)(ホ)好奇心ヲ唆ルヘキ新奇ノ犯罪、例ハ郵便赤行囊強盜、黒

手組脅迫。(犯罪ニハ非ナルモ華嚴瀧、淺間山噴火口ノ投身ノ如キ自殺場ノ模倣モ此類カ)(ヘ)捜査ノ極メテ困難ナリシ犯罪ハ孰レモ模倣性ニ富メルコトヲ注意スヘシ。而シテ犯罪ヲ模倣スル人格者ハ、一般ヨリ云ハハ少年、青年、婦女、教育程度ノ低キ者、天性模倣ニ特別興味ヲ有スル者等也。故ニ刑事家カ一犯罪ノ發生ニ際シ其ノ先例トナリタル犯罪アルヲ知ラハ夫レ丈ケ捜査ノ歩ヲ進メタルモノト云フヘシ。何トナレハ彼ハ模倣スヘキ種類ノ人格者ニ就テ嫌疑ノ眼ヲ注クヘケレハ也。

其他犯罪ニ關シテ被告人、證人ノ知覺、理解、思考、聯想、記憶、誤謬、想像、錯覺、幻覺、暗示、酩酊ニ於ケル精神状態等ノ問題ヲ生シタル場合ニハ是非共刑事心理學ノ補助ヲ俟タサル可カラス。  
(尙第八章、第一節、參照)

第二節 是等科學ヲ利用スヘキ手續

I、科學ニ堪能ナル鑑定人利用ノ時機。

臨檢必要犯ニ就テ云ハハ吾人カ現場ヨリ押收シタル後ニ於テ其證據物件ヲ是等ノ鑑定人ニ交付スルノミニ止マラス、證據蒐集ニ際シテ補助トシテ吾人ト同行ヲ求メ、其専門智識ノ觀察方面ヨリ重要ナル物件ヲ蒐集セシメ、又ハ吾人ノ仕事ニ對スル有力ナル顧問タラシムルコト極メテ價値アリト謂フ可シ。例之一ノ毒殺事件ニ際シテハ單ニ法醫ヲシテ屍體ノ檢案又ハ解剖ヲ爲サシムルニ止ラス、現場ニ於テ果シテ如何ナル個所ニ附著セル如何ナル物件ニ對シテ採取上最モ注意ヲ要スヘキヤ、如何ニシテ此

貴重ナル證據物ヲ保全スヘキヤ等ノ助言ヲ求ムヘキノミナラス、場合ニ依リテハ植物學者、動物學者、(毒物カ植物性又ハ動物性ノモノナルトキ)或ハ化學者、藥物學者等ヲモ現場ニ同行スルコトヲ得ハ極メテ有效ナルヘキハ勿論ナリ。斯ノ如キ場合ニ於ケル國家ノ失費ハ實ニ輕カラサルヘシト雖モ、其金額ハ所謂疑獄事件ニ對スル高價ナル世ノ誹謗ト不信用トノ種子ヲ全部購ヒ盡シテ尙餘リアリト云フヘシ。

## II、鑑定目的物ニ關スル注意。

鑑定目的物ハ毀損變更ヲ避ケ、成ルヘク豊富ナル分量ヲ速ニ鑑定人ニ交付スヘキコト肝要ナリ。毀損又ハ變更セル物若クハ餘リニ分量ノ少ナル物質ハ、鑑定ヲシテ非常ニ困難ナラシムルノミナラス、全然其結果ヲ得サルコトアラリ。殊ニ血痕、膿、細胞、毒物、火藥ノ殘渣ノ如キハ、出來得ル限り速ニ鑑定人ニ交付セサルニ於テハ折角證明シ得ヘカリシ或物質ヲモ遂ニハ發見スルコトヲ得サルニ至ラム。尙吾人カ目的物ヲ鑑定人ニ交付シ之カ意見ヲ徵セントセハ、出來得ル限り容易ニ任務ヲ終了セシムル方法ヲ講スルコト必要ナリ。此目的ノ爲メニハ當該事件ノ性質上許ス限リ狭ク鑑定人ノ仕事ノ範圍ヲ限局シ、苟モ餘リ多クノ駄問ヲ提供セサルヲ可トス。加之事件ノ筋合上既ニ目的物ノ性質問題ニテ事足ルヘキニ際シ、數量ノ點ニ就テマテ之ヲ鑑定セシムルコトハ極メテ不可ナリ。斯クノ如クセハ鑑定ヲ困難ナラシムルト共ニ費用ヲ甚タ高價ナラシムヘシ。

## III、鑑定人ニ對スル刑事家ノ態度。

吾人ハ鑑定人ニ對シ暗示ノ言動ヲ避クヘキコト極メテ必要ナリ。鑑定人ニ對シテハ、此目的物ハ如何ナル效力ヲ有スルカ、之ニ依テ人ヲ殺害スルニ足ルカ、兇器ニ附着セルハ血痕カ否カ、塵芥ハ如何ナル纖維、物質ヨリ成ルカ、此被害者ノ死ノ原因如何ト云フカ如クニ、唯吾人カ知ラントスル所ニ就テノミ問フヲ可トシ。刑事手續進行上ノ結果等ニ關スル點マテハ説明セサルヲ可トス。例令ハ此毒物ヲ以テ人ヲ殺スニ足ラサルモノトセハ、吾人ハ被告人ヲ釋放セサルヘカラサル運命ニ會スヘシト云フカ如キ類是レナリ。斯ノ如キ場合ハ、鑑定人カ意思ノ薄弱ナル者ニ非ストムルモ、暗々裡ニ之レカ影響ヲ受ケ鑑定ニ當リテハ色眼鏡ヨリ之ヲ眺メ、遂ニ鑑定命令者ノ意ヲ迎フルカ如キ形式ニ於テ意見ヲ發表スルニ至ルコト多シ。吾人ハ如何ナル場合ニ於テモ餘事ニ就テ語ラサルノ謹慎ナルヘカラサルモ然シナカラ亦餘リニ告クル所薄ク、鑑定人ヲシテ何カ故ニ斯ノ如キ必要アルヤ等思ハシムルカ如キハ鑑定人ノ仕事ヲシテ徹底的ノモノタラシメサルノ虞アルノミナラス、時トシテ甚シキ誤謬ヲ生セシムルコトナキヲ保セス。此ノ場合ニ於テハ凡ソ如何ナル事件タルカヲ知ラシメ、鑑定人ノ仕事ハ之レニ對シ如何ナル意義ヲ有スルモノナルカヲ了解セシムヘキナリ。

## 第三節 科學的搜查ハ搜查法ノ一部也

以上ノ如キ科學ヲ利用シテ犯罪ノ搜查ヲ爲スヲ世ニ科學的搜查ト稱セラル。然シナカラ犯罪搜查ノ對象ナルモノハ現世間ニ於ケル人ノ複雜ナル活動、人間界ニ於ケル變轉極リナキ諸般ノ事項ニ繫レリ而カモ是等民人ハ日々増殖スルノミナラス、文化ノ進歩ト共ニ社會狀態ハ月々繁榮タラントスルカ故



ニ、單ニ科學的研究ノミヲ以テ司法警察ノ事ヲ處理シ得ルモノニ非サル也。若シ捜査ハ一ニモ二ニモ科學的捜査ナラサルヘカラスト謂フ者アラハ、其ハ社會ノ實際ヲ解セサル書生ノ擔面の机上論タルヲ失ハス、宜シク刑事家ハ一面ニ於テ其常識ヲ極メテ豐富ナラシメ、世態人情ニ通曉シ、約言スレハ人間學ヲ修得シ、此方面ヨリ世ノ零碎ナル通俗的事理ヲ歸納シテ一ノ合理的準則ヲ作り、人ノ實際的行爲ノ經過ヲ觀察シテ亦一ノ組織的探偵眼ヲ肥シ、個々ノ事件ニ當リテハ機智ニ巧ミナルト共ニ強キ根氣ト執拗性トヲ持續セシムト云フカ如ク爲ササルヲ得サル也。之ヲ實際ニ徵スルモ、刑事家獨特ノ微妙ナル活動ノミヲ以テ困難ナル事件ヲ解決シタルモノ尠ナカラス。故ニ刑事家ノ手ハ科學並ニ技能ノ補助ニ憑ルトキニモ、其足ハ必ス人間學ノ基礎ノ上ニ託サ、ル能ハス、茲ニ於テカ犯罪捜査法ナルモノハ、前示ノ如キ科學的捜査ト吾人ノ所謂人間學的捜査トヲ包括シ、而カモ之ニ超越シテ體メラレタル一ノ組織的捜査ナラサルヘカラス。尙終リニ臨ミ科學的捜査ハ斯クノ如ク犯罪捜査法ノ唯一部分一方面ニ過キサルコトヲ余ハ再ヒ繰言シ置カントスルモノ也。

## 第二章 現場ノ取調

凡ソ如何ナル犯罪ト雖、一定ノ場所ヲ要セサルモノアルコトナシ。然レトモ犯罪ノ捜査ニ當リ吾人カ場所ニ臨檢スルヲ必要トスルモノト然ラサルモノトアリ。(例令ハ殺人、放火、強盜、過失罪ノ如キハ臨檢必要犯ニシテ、横領、詐欺、文書偽造、ノ如キハ臨檢不要屬ス)以下臨檢必要犯ニ於テ最重要ナル現場檢證ニ付テ略説スヘシ。

凡ソ放火、殺人、強盜ノ如キ重大犯ノ犯罪事實ノ確定竝ニ犯人檢舉ノ基礎ハ一ニ現場ノ秩序の取調、詳密ナル科學的檢證ニアリト謂フモ敢テ過言ニハ非ス。

註 捜査手続中ニ於テ最重要ナル此取調ニシテ不秩序ナルカ、或ハ細心ノ注意ノ缺タル處アラシカ、犯人ノ檢舉ハ永久ニ其端緒ヲスラ得ルコト能ハサルノミナラス、疑合ヒ眞犯人ヲ嫌疑者トシテ偶然逮捕シ得タリトスルモ、遂ニ證據不十分トシテ折角ノ獲物ヲ法網ヨリ逸セシムルノ己ムナキニ至ラン。

然ルニ世ノ刑事家ニシテ動モスレハ現場捜査ノ科學的研鑽ヲ等閑ニ附スル者ナキニ非ス斯クノ如キハ思ハサルノ甚シキモノト言フ可シ。

註 彼等ハ偶々現場ニ於テ手掌、爪、指、齒、足ノ痕跡、ノ一列ヲ發見スルモ之ヲ證據トシテ採取スルノ途ヲ解セス、一塊ノ脱糞、二、三血液ノ跳痕、器物ニ對スル損壞ノ迹ヲ注目セサルニハ非スト雖、是等カ如何ナル重要ナル意義ヲ有スルカニ想到セス、一遺留物件ヲ押收スレトモ捜査ニ利用シ得ル方法ヲ悟ラズ、剩ヘ彼ノ眼前ニ梁ノ如ク横ハレル一ノ價値アル證據物件スラモ、其細膜ニ映セシムルコト能ハス、恁クシテ捜査報告書又ハ檢證圖書ニ該テ曰ク、『現場ニハ何等ノ證據存在セス』ト。客觀的ニ存在セサルニハ非ス、悲イ哉研究ナキ刑事家ノ搜查眼ハ畢竟明官ニ等シク、發見スルコト能ハサルニ外ナラス。此場合平素蘊蓄アリ眼識アル刑事家チシテ更ニ現場ニ到着セシメンカ、恐ク渠ハ現場到ル處ニ於テ多クノ證據ヲ蒐集スルコト、恰モ熟練ナル海人カ介ヲ漁スルカ如クナラン。檢證ニ付テノ學理的研鑽ノ必要ナルハ之レカ爲也。

## 第一節 現場保全

司法警察官又ハ其補助機關ニシテ先ツ犯罪現場ニ駆付ケタルモノハ、司法主任警察官檢事豫審判事等ノ出張アル迄ハ寸毫モ現場竝ニ其附近ノ一切ノ狀況ヲ變更セシメサルノ注意最緊要也。

若シ此際現場ニ蜂集セル野次馬カ例令ハ屍體ヲ徒ラニ動かシ、火事場ノ疑ハシキ火元ノ殘屑ヲ吟味シ、晝雖ノ倉庫附近ヲ右往左往ニ徘徊スルカ如キコトアラハ、直ニ之ヲ禁止スルハ勿論、自身ニ於テモ檢事又ハ豫審判事ノ爲スヘキ檢證行爲ノ如キ措置ヲ、此明瞭ノ場合ニ先行スルハ嚴ニ慎マサルヘカラス。

此場合先行巡査ノ本務ハ主トシテ犯罪現場ノ保全ニ在ルカ故ニ、或ハ一面現場附近ニ繩張りヲ爲シ又ハ村長等ノ責任者ノ助力ヲ求メ其一帶ヲ監視シ、以テ後刻行ハルヘキ檢證ヲシテ簡易ニ且收穫多ク又有效ナルモノヲタラシムルノ礎地ヲ作り置カサル能ハス。若シ巡査憲兵卒ニシテ先ツ犯罪現象ノ大要ヲ所轄官衙ニ急報スルノ要アルトキニハ、現場ノ事物ニ手ヲ觸ルルハ報告上必要已ムヲ得サルノ限度ト證據毀損ノ虞ナキ程度ニ止ムヘキハ勿論也。

保全行爲ノ着手ト同時ニ注意スヘキハ、犯罪事實ノ第一發見者ノ穿鑿確定ニシテ、是等ノ者ハ豫メ現場附近ヘ招キ置キ檢證官ノ爲メ應急ノ便宜ヲ計ルト共ニ、發見以來事物ノ狀況ハ如何ニ變動アリタルカニ付テ證議シ置クヲ可トス。

民衆ト最近ノ機會ニ當メル派出所、駐在所等ノ巡査ハ平素事ニ觸レ難ニシテ、犯罪現場ハ能ク限リ保全ノ途ヲ講スルコトノ確實ナルニ比例シテ犯人逮捕ノ速ナル所以ヲ充分民人ニ了解セシムルヲ、寧ロ檢證必要犯ノ捜査ニ對スル根本政策ト爲スヘシ。

以下保全ノ方法ニ就テ重ナル點ヲ注意スレハ。

(1) 屋外ニ存スル證據物ニ付テハ日光、雨、雪、虫等ニヨリテ毀損、敗壞セシメサルヲ要ス。例令ハ血痕、足跡、毒物、石油、其他地面ニ於ケル貴重ナル材料ニ對シテハ、箱、鉢、盥等ノ類ヲ倒ニ伏セテ痕跡ノ上ヲ蔽ヒテ日光ノ直射又ハ雨水ノ浸入ヲ防禦スヘキ也。(殊ニ血痕ニ就テハ地下ニ活動セル蚯蚓ノ一群カ故ニ鉢等ニテ保護シタル血痕周圍ノ地面ヲ鉢ノ類ヲ以テ絶ヘ) 屢一夜ノ中ニ地上ノ血ヲ喰ヒ盡クスコトアルカス。撃チ敵キ證據遺失ヲ驅逐スルノ注意ヲ怠ルヘカラス。

(2) 現場ニ於テ先ツ直ニ救助行爲ヲ必要トスル場合ニ於テハ、速ニ寫真師ヲ招キ各方面ヨリ現場ノ狀況ヲ撮影セシメ、然ル後初メテ周圍ノ注意ヲ以テ救助又ハ原狀恢復行爲ニ著手スルヲ最モ價値アル保全行爲ト云フヘシ。(第一章、第一節)

## 第二節 檢證準備

### I、檢證ニ就テノ物の準備

平素沈着ニシテ用意周到ノ人ト雖、事件ノ突發ニ際シテハ興奮ト多少ノ狼狽ヨリ慥モスレハ檢證ニ必要缺クヘカラサル器具ヲ取り忘レ、爲メニ現場ニ於テ甚シキ不便ヲ感スルコトアルカ故ニ、吾人ハ事ナキノ平日ニ於テイサ鎌倉ノ一大突發ノ秋ニ直ニ持出スヘキ一切ノ材料ヲ、官署又ハ自宅ノ手近カノ場所ニ一個ノ鞆又ハ風呂敷包トシテ豫メ準備シ置クヲ最職務ニ忠ナルモノト云フヘシ。

註 若シ必要ナル用具ノ欠缺ノ爲メ捜査ノ階梯上ノ第一段ニ於テ、或事物ノ精銳確實ナル觀察ヲ避クルコト能ハサルカ、其後ノ取調ニ於テ順次過誤ヲ生シ遂ニ其結果ハ推シテ知ルヘキモノアルノミナラス。一度手ヲ觸レ穿鑿シタル物體ハ其瞬間ニ於テ、永久ニ原狀ヲ變更シ、後ニ如何ナル材料ヲ以テ再檢スルモ復其舊態ト同一狀況ヲ重ネテ觀察スルコト能ハサルカ故ニ、檢證ニ必要ナル材料ハ總檢ノ著手ニ當リテ一ニテモ不足アルヘカラサル也。

今實務上刑事家ノ準備ヲ要スル檢證用材料ヲ列舉スレハ凡左ノ如シ。

- 1 所屬官署ノ罌紙、用紙、半紙、美濃紙、洋紙、書函袋、薄キ模寫用紙、電報用紙(暗號略符)
- 2 筆、墨池、萬年ペン、鉛筆、色鉛筆、印章、白蠟。
- 3 精確ナル尺、捲尺、擴大鏡、磁石。

- 4 刑法及ヒ刑事訴訟法ノ袖珍用法典。
- 5 證據品押收ノ爲メノ大小紙袋、油紙、風呂敷、紐、番號札、荷札。
- 6 小刀、銃、護謄糊、燐寸、蠟燭、懐中電燈。
- 7 地圖。
- 8 證據物保存ノ口廣ノ硝子罎。
- 9 足跡、指紋、手掌、指、爪、齒等ノ痕跡、損壞ノ痕跡、血痕、等ヲ探證スルニ必要ナル各材料。
- 10 消毒藥、石鹼。

### II、檢證ニ就テノ心的準備

#### (1) 先ツ仕事ニ就テ一定ノ順序ヲ企畫ス。

檢證ノ著手前吾人カ常ニ一定ノ順序ヲ豫メ胸ニ成竹スヘキハ彼ノ羅馬法以來ノ搜查格言タル、"Ver, vis, vo, vomit, warmed, water"、誰シカ「何事カ、何處カ、何ヲ以テ、何故ニ、如何ニシテ、何時」ナル語ノ排列ニシテ、既ニ豫定シタル以上ハ之ニ從テ著々搜查ヲ進捗セザル能ハス、元ヨリ該格言ノ先ツ何レヨリ始メシカハ事件ト其場合ニ適應シテ按配スルヲ要シ技ニ一徹ニ臨スヘカラス。

但シ吾人ハ一旦定メタル順序ハ如何ナル局面ニ展開スルモ決シテ之ヲ變更スヘカラスト云フモノニハ非ス、要ハ手當リ次第ト云フカ如キ無秩序ナル職務執行ヲ不可トスルニ外ナラサル也。(2) 特ニ細微ハ點及ヒ影ニ在ル事物ニ付テ注意スヘシ。檢證ノ際ニハ如何ナル事物カ果シテ後日其「デツタル」不相應ナル高價ノ商品トシテ懸テ法廷ノ市場ニ於テ取扱ハルルニ至ルカハ吾人ノ到底ト知スヘカラサルモノナルカ故ニ現場ニ存スル最微々タル證據物ノ一片、及外見上當該事件ニ何等關係ヲ有セサルカ如キ觀アル事情ニ就テモ、尙前後表裏ヨリ十二分ニ精銳ナル注目ヲ與フルヲ要ス。(3) 先入主ノ意見ヲ抱クコ

ト不可ナリ。過レル此ノ先入意見程犯罪捜査ヲ妨礙シ且ツ有害危險ナルモノ他ニ存セサルヘシ。(此處現場ニ於テ先ツ關係ニ關セシ物、責任ナキ者ノ放言セル最初ノ片言雙語等ヨリシテ前提モ理由モナク) 吾人ハ何時搜查ニ直ニ斷案ニ到達セシメタル感情ノ惡戯ニ基因スルカ故ニ、搜查方針ノ基礎トナスヘカラサルハ言テ俟タス) 關スル確乎タル意見ヲ樹ツルヲ相當トスヘキヤノ問題ニ就テハ、一言以テ掩ヘハ、箇々物々ニ付テノ現場檢證ノ總テヲ終リ真相ノ究明ニ勉メ、歸納綜合、縮釋推理シ反覆考證シ、茲ニ初メテ一定ノ意見ヲ樹テ搜查ノ大方針ト基礎トヲ確定スヘキ也。(場合ニ依リテハ檢證ノ外ニ搜索、鑑定、證人訊問等ノ結果ヲ待テ、始メテ犯ヒ普通トシテハ檢證了了トニ作戰計畫ハ實) (4) 檢證ハ機械ニシテ著々タルヲ要ス。一事物ヨリ他ニ到ルヘキ推施セラレントスルカ如クナラサルヘカラス) (4) 檢證ハ機械ニシテ著々タルヲ要ス。一事物ヨリ他ニ到ルヘキ推理ハ某面ニ着々進行スル歩駒ノ如ク一步ヨリ一步ニ及ヒ、堅實ニ其想像力ヲ活用セシメ、恣クシテ搜查ハ階進的ナルヲ要ス。サレト所謂着々トハ牛歩ノ如ク遅々タルヘシトノ義ニ非ス、搜查ニ神速機敏ヲ要スルハ勿論也。(5) 調査ハ熱心ナル上執拗ナルヲ要ス。以上ハ檢證不要犯ノ搜查ニ於テモ同様也。

### 第三節 書類、圖面ノ作成

#### 第一款 檢證調査、實況見分書

(1) 記載ノ順序、調査、見分書ハ秩序ト整理ヲ經トシ、豊富ト徹底ヲ緯トシテ作成セサルヲ得ス。即チ全部ヨリ一部ニ亘リ、一般ヨリ箇々ニ及ホシ、常態ヨリ變態ニ同種ヨリ別類ニ、今日ヨリ明日ニト秩序ヲ立テ記載ス。(2) 記載ノ範圍、獨逸、ワインガルト氏曰ク。吾人ハ如何ナル事項カ後日ニ至リテ最必要ナル關係トナルヤ否ヤハ、其當時ニ於テ窺知スルコト能ハサルカ故ニ、犯罪ニハ何等ノ交渉ヲモ有セサルカ如ク見ユル物ト雖細大洩サス現場ノ事物ハ之ヲ調査ニ顯ハシ置クコト肝要也ト。蓋至

言也。然レトモ吾人ハ尙進シテ消極的記載ヲモ遺脱スルコトナク明確ニ爲シ置カサルヘカラス。(消極的記載トハ或目的、見地ヨリ穿鑿シタルモ之ニ相應スル痕跡、材料等ノ發見セサル場合ニ、該事情ヲモ亦併セテ調査ニ記載シ) (3) 記載置クテ例令ハ燃燬リノ痕跡ニハ石油ノ臭氣ヲ留ムルモノ一モアルナシ、屍體ノ附近ニハ格闘ノ痕跡ナシト云フカ如シ。

ノ方法。實況見分書ニハ「屍體ノ稍近キ所」遺留ノ下駄ノ左方「燒燬シタル戸ノ上方」可ナリ大ナル足跡」ト云フカ如キ不精確ナル文學的表示ハ絕對ニ避クヘキヲ可トス。必スヤ磁石ト捲尺ヲ以テ一々明確ニ方向ト距離ヲ測リ之カ數字ヲ記入スルヲ要ス。

第二款 見取圖。圖書

I 概則

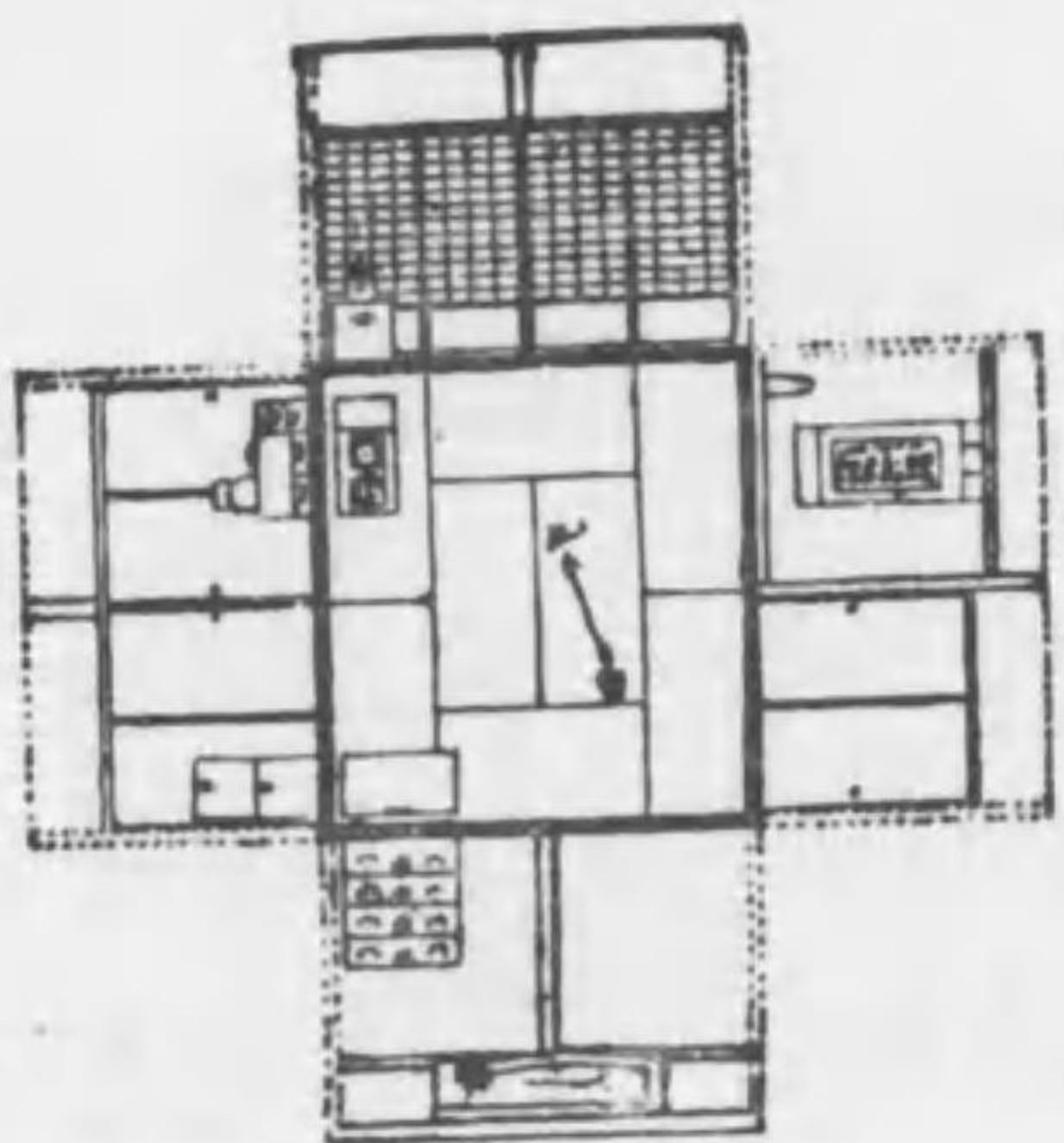
(1) 見取圖ノ描寫ニ先チ書題トナルヘキ物ノ全局ヲ通覽スヘシ。(手當り次第ノ箇所ヨリ隨意ニ寫シ取ルカ如キニ取テラレ、或ハ紙邊ヲ細エテ机上ヘ家宅侵入スルコトアルカ故ニ、吾人ハ畫題) (2) 簡明正確ニシテ豐富ナルヘシ。(圖面ヲ中心、基底、尖端、等全體ノ光景ヲ圖裡ニ收メ、然後初メテ筆ヲ執ルヲ可トス) (3) 簡明正確ニシテ豐富ナルヘシ。(圖面ヲ畫テ得ルニ非スシテ一日瞭然タラシメシメカ故ナルヲ以テ、描寫ニ當リテハ簡單直筆景物ナキ一線一筆ヲ以テ爲スヲ最上トス。美麗ナル繪畫スルコト屬々アルカ故ニ此場合可成多ク) (4) 圖面ニハ必ス方位ヲ磁石ニ基キ記載スルヲ怠ルヘカラス。(但シ太陽、月、大略ノ方法ヲ推定シ記載シタルトキ) (5) 測量ニハ常ニ標準ヲ一定スヘシ。(例令ハ或箇所ハ何間何尺トシ、他ノ箇所ハ何丈何尺ト記入スルカ如キハ、動モスレハ過誤ヲ生ジ易キカ故ニ宜シク一標ニ何丈何尺トシテ測ルヲ可トス。尙吾人ハ一部分ハ捲尺ニテ測リ、他ノ一部分ハ歩測シタル處ヲ漫然數字ニ換ヘ、共ニ同一價值アルモノトシテ何等ノ註釋ヲモ加ヘス圖面ニ之ヲ記入スルカ如キ杜撰ハ避ケサル能ハス。之ト同シク一方ハ尺度ニテ測リ他方ハ唯目分量ニ依リ而モ何等ノ斷り書ヲモ加ヘス其儘記載スルハ不可也)

測量シタル處ヲ記載スルニハ十分約數ノ比例ヲ準尺トスヘシ。例令ハ一尺一分、一丈一分、一米突一仙米突ノ割合ノ如ク容易ニ兩替シ得ル比例ヲ以テ表示スルヲ便宜トス。

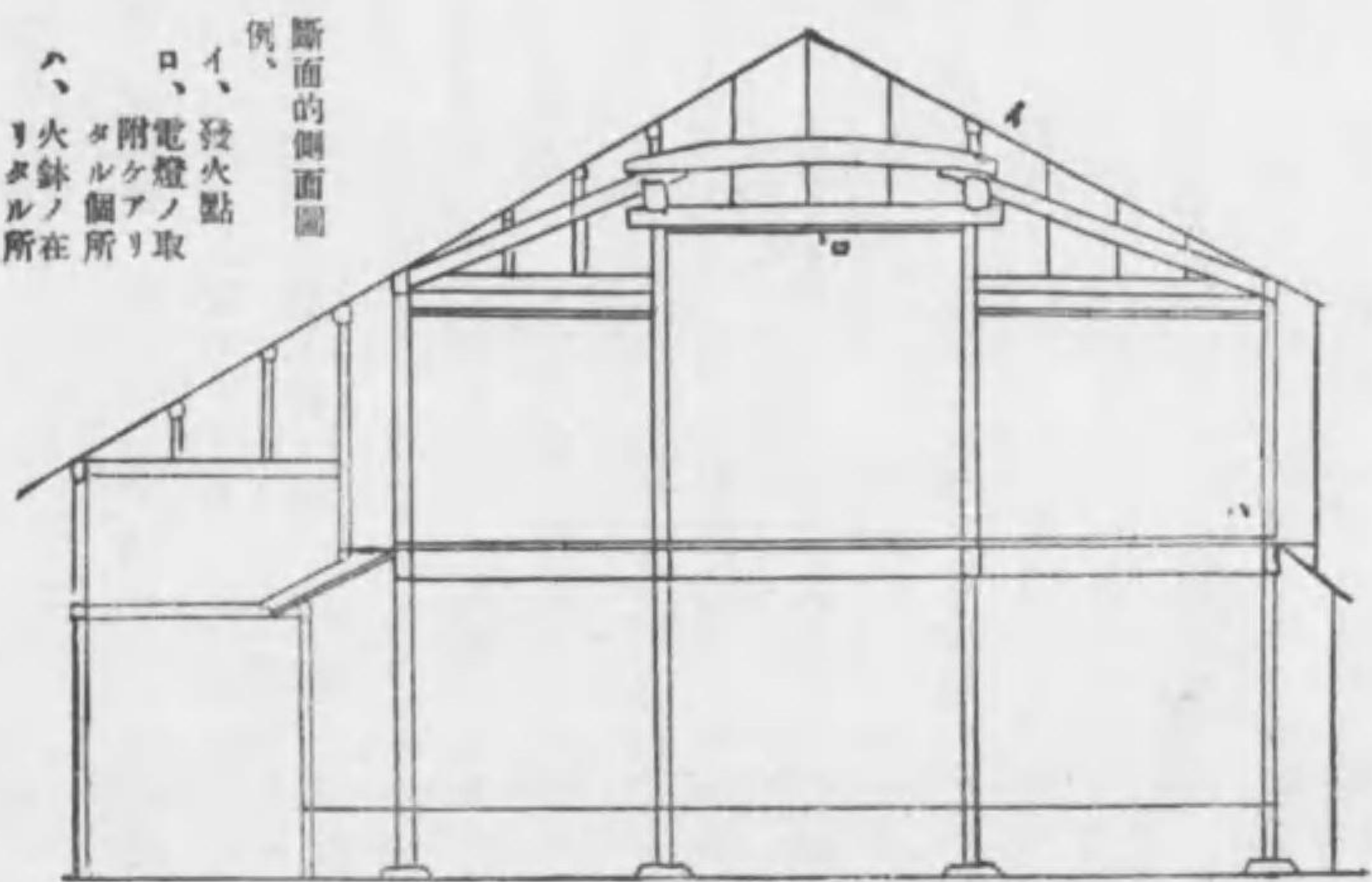
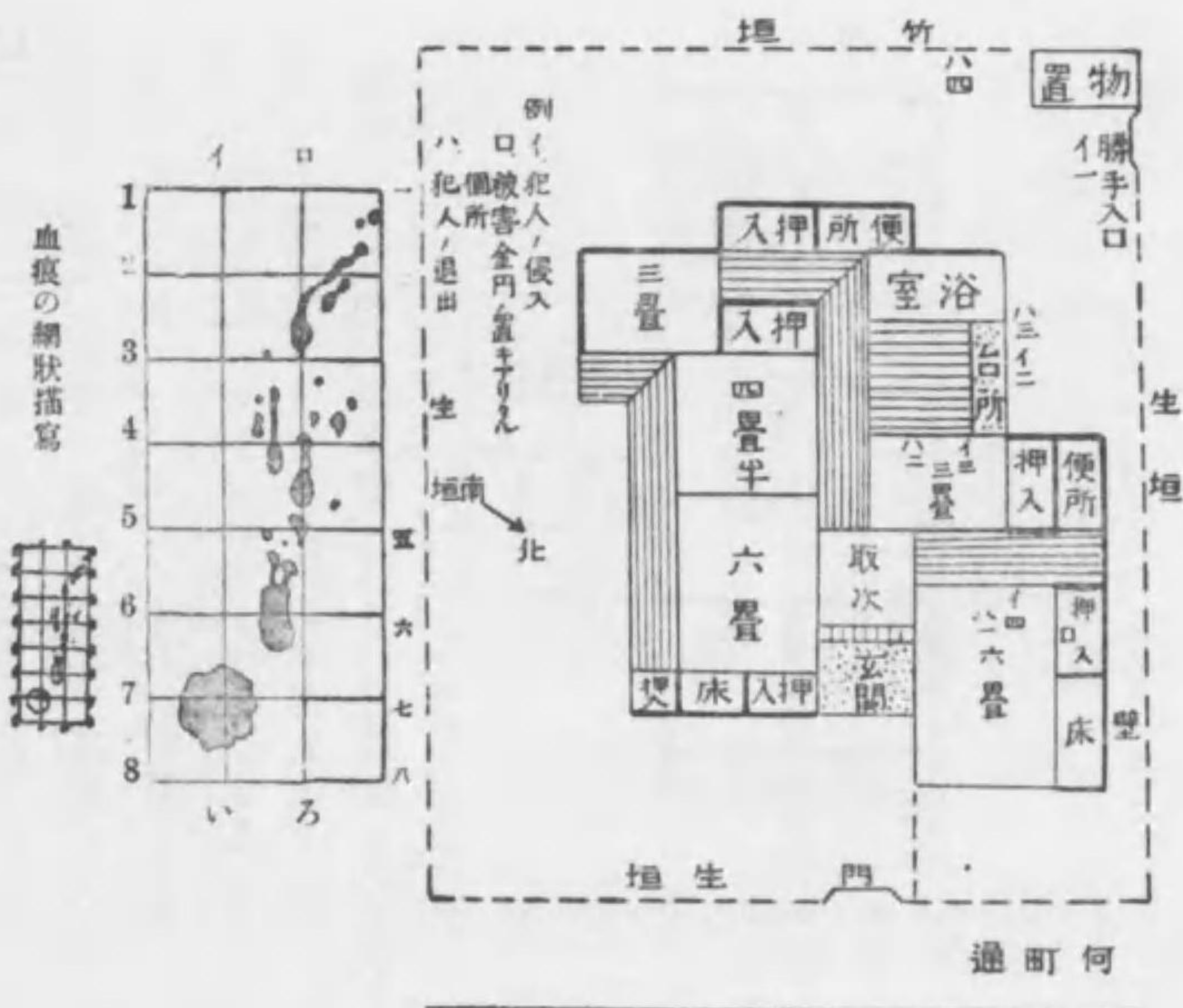
II 客體及方法

(1) 家ノ界限、田野、海岸。是等ノ箇所ニ存セル證據物其他ノ見取圖ヲ作成セント欲セハ。先ツ其物ノ最近箇所ニ於テ一ノ不動ノ中心根據點ヲ發見シ此點ヨリ目的物迄ノ距離ヲ測量スヘシ。尙此仕事ニ就テハ更ニ第二ノ不動ノ根據點ヲ求メ此點ヨリモ目的物ヲ測定シ、即チ目的物ト第一中心點、第二中心點トノ相連結ニヨリテ三角形ノ形成スルカ如クナスヲ最確實トス。

廣漠タル原野、田畑中ニ存スル目的物ニ就テ、一ノ不動ノ根據點ヲモ其附近ニ求メ得難キトキニ於テハ、其附近ニ橫貫セル一ノ中央線ヲ搜索ス。例令ハ小川、耕作地ノ畔路等ノ如シ。而シテ此線ニ垂直シテ目的物ノ箇所迄一線ヲ立テ斯クシテ其中央標準線ヨリ目的物迄ノ距離ヲ測定ス。(此場合他ニ中央線ヲ横キルヘキモノ例令ハ之ヲ橋、其橋斷文又點ヨリ發見キルノ中央線ニ立テタル垂直線ノ箇所) (2) 住居ノ一室。室内ニ於テ發見セル例令ハ屍體ノ狀況及ヒ其周圍ニ存在セル家具等ヲ描寫スルトキニ、普通ノ平面圖又ハ正面、背面、側面等ノ縦面圖ヲ作成スル勞ヲ省キ、一舉所謂ル十字形平面圖法 (Sog. Kreuzprojektion) ヲモツテ、明瞭ナル見取圖ヲ作成シ得ヘシ。即チ圖ノ如シ。



第一編 總論 第二章 現場ノ取調 第三節 書類圖面ノ作成



屢々保存セラルルコトアル建築圖面ヲ手ニ入ルルヲ得ハ甚便利也。(3)足跡。血痕。是等ノモノニ對シテハ特ニ網狀描寫ノ方法ニヨリテ比較的簡易ニ且結果ノ正確ヲ購ヒ得ヘシ。網狀描寫ハ尙之ヲ擴大スルトキ又ハ縮小スルトキ共ニ利用セラルルノ價値アリ。室内又ハ地上ニ存スル血痕、足跡ヲ描寫セント欲セハ白墨ヲ以テ現場ニ線ヲ縱横ニ引キ同大ノ數箇ノ正方形ニ區切り或ハ現場ノ四邊ニ同一距離ニ於テ數本ノ釘ヲ假ニ打込ミ之ニ紐ヲ引渡シテ網ノ目ヲ作り (若シ直接釘ヲ打込ムナラハキ事情アルトキハ四方ノ釘ト對岸ノ釘トニ) 更ニ紙面ニハ之レニ比例シテ網ノ目ヲ描キ、現場ノ網ト目ノ關係ニ應シテ紙面ノ網ノ目ニ目的物ノ描寫ヲ爲スヘシ。(四四頁ノ圖參照)

### 第三款 浮出シ圖面

水面ニ浮ヘル屍體等モ亦右ノ方法ニヨリテ描寫シ得ヘシト雖、此場合ニハ光學者ノ携帶スル所謂網鏡ヲ必要トス。之レ山岳ノ凸凹ノ狀況ヲ表ハサントスルトキニ利用セラル。容易ニシテ迅速ナル方法ハ先ツ地圖ヲ平板ノ上ニ置き、山ノ高サヲ作ルヘキ箇所々々ニ孔ヲ穿テ其所ヘ高サノ數字ヲ記入シ、然ル後各高サニ比例シテ長短準備シタル釘ヲ其孔ヘ挿込ミ、次ニ粘土ト煉瓦末ヲ膠水ニテ煉リ之ヲ一般ニ横上ゲ各釘ノ頭部カ土ヨリ高ク突出セサル迄ニ爲ス也。

## 第三章 犯罪ノ痕跡ニ對スル穿鑿

### 第一節 現場ノ痕跡

人在ル所影ヲ生シ動カハ觸ル物必スヤ變更ス。苟モ吾人ノ一舉手一投足ニシテ外界ニ之カ影響ヲ與ヘスシテ止ムコトナク、犯罪ノ現場ニ何等活動ノ痕跡ヲモ留メスシテ立去リ得ル犯人ノ如キハ殆ント稀ナリ。

例令ハ彼等ノ動ク所足跡ヲ留メ、觸ル物ニ指テ掌ノ痕ヲ殘シ、或ハ口障子ニ對スル損壞ノ型跡ヲ附着セシムルカ如シ。尤モ如何ニ發達セル科學ノ補助ヲ藉リテ捜査スルモ是等形跡ノ微影片痕ヲ發見スルコト能ハサル場合亦少ナカラサル可キモ、從來ノ實際事件ニ於テ何等ノ證據ナシトセラレタルモノノ多數ハ、現ニ其所咫尺ノ間ニ實在セル痕跡ノ價值並ニ利用ヲ解セラレシメシニ基因セルノ事情ヲ想到セシムルハ非ス。

現場ニ於テ此犯人活動ノ痕跡ヲ發見シ、確定、保全、評價シ、之ヲ端緒トシテ犯人ヲ追跡スルノ外、嫌疑者ヲシテ試ニ作ラシメタル痕跡ト比較研究シ、罪ノ舉證ヲ一層明確ナラシムルコトハ最肝要ナル捜査行爲ニ屬ス。現場ノ痕跡ノ中重要ナル、足跡、車轍、指紋、手掌、指、爪、齒ノ痕、損壞ノ跡等ニ就テノミ以下之ヲ略記スヘシ

(甲) 足跡

(A) 足跡ノ形態

個々ノ足跡自體ヲ研究スルニ當リテハ、跣足ノ痕跡ト履物ヲ履ケル足跡、押痕ト凹的痕跡トノ場合ヲ細別スルヲ便宜トスヘシ。

I 跣足

(其一) 跣足ノ押痕

(1) 押痕ノ形態

跣足ニテ泥又ハ色素ノ液體ニ觸レタル後、縁側、瓦ノ如キ堅ク滑カナル土臺ノ上ヲ歩ムカ、或ハ床上ノ塵垢薄ク撒カレタル灰ノ上ニ跣足ヲ踏入レ又ハ薄ク砂塵ニ掩ハレタル固キ道路ヲ歩行スルトキハ、玆ニ跣足ノ押痕ヲ生スヘシ。押痕ハ或ハ全形ヲ印セスシテ一部分ノミヲ止ムルモノト、又ハ甚シク不鮮明ニ臙腫トシテ其姿ヲ露ハスモノ等アレトモ之等ハ捜査法上孰レモ評價スル能ハサル程貴重ナル

モノト云フヘシ。(何トナレハ草履下駄ノ場合ト異リ跣足ナル此内草履ハ一生ヲ通シ如何ナル場合ニ於テモ他ノ肉草履ト履キ換フルコト絶對ニ不可能ナルノミナラス、新鞋又ハ使用既ニ依リ形態ヲ變セサルカ故也)

注 跣足ノ押痕ハ原則トシテ足跡ノ前面廣クシテ後方狹ク、前面後方ノ兩者ノ部分ヲ連絡スル帶條ノ外側即チ小指ト趾トヲ連絡スル一線ハ甚シク彎曲セザルモ、帶條ノ内側即チ中指ト趾トヲ連絡スル一線ハ深キ入江ヲ形成セリ。

此跣足ノ形態カ跣足自體ノ原形ト甚シク相違セス最原形ノニ現ハルル押痕ハ、色素ノ液體ヲ足趾ニ塗リ滑ナル木材又ハ白紙ノ上ニ靜ニ押捺シ、然ル後垂直ニ足ヲ擡ケタル場合ノ佇立痕ニノミ生スヘシ。然シナカラ跣足ノ押痕ハ多クノ實際ノ場合ニ於テ其大サ又ハ長サ或ハ指ノ個所カ足ノ實物ト全然一致セサルコトヲ寧ロ普通トス。斯ノ如ク押痕カ特別ノ形態ニ變リテ表ハルル所以ハ、(一)土臺ノ狀況、(二)運動ノ條件、(三)重量ノ關係ニ基因ス。

注 (1)若シ土臺カ堅ク滑リ易キモノナルトキニハ其上ヲ歩行スル足ハ確實ニ之レヲ踏ミ、轉メ進ムコト能ハサルカ故ニ彼方此方ニ滑リ、爲メニ特別ノ形態ニ於テ足跡ヲ押シ附ケルモノナリ。故ニ現場ニ於テハ各種ノ土上ニ存スル足跡ヲ取調ヘ其中ヨリ原形ニ最も近キモノヲ索出セサルヘカラス。

(2)運動ノ條件ニ從ヒ押痕カ實物ノ形態ヲ變更セシムルコトハ吾人ノ研究ヲ要スル一點ナリ。即チ吾人ハ(イ)歩行セル痕(ロ)走レル痕(ハ)飛ヘル足型ヲ佇立ノ押痕ニ比セテ種々ノ點ニ於テ相違セルコトヲ容易ニ發見スヘシ。人ノ歩痕ハ佇立痕ニ比セハ足跡ノ本痕自體ノ前方ニ影痕ヲ添加スルカ故ニ足跡ノ縱徑ハ從テ多少伸長スルモノナリ。之レ人ノ佇立ニ於テハ地面ニ觸レサル足指ノ前面ノ個所カ歩行ニ際シテハ地上ニ觸レ此部分ノ押痕ヲモ留ムルカ爲メニシテ、又歩痕ハ佇立痕ニ比セハ其幅ニ於テ狹キノミナラス足跡ノ本痕自體ニ付テモ各部分ノ色彩平均ヲ爲サスシテ濃淡ノ既影ヲ呈セリ。加之歩行ノ進ムニ從ヒ足跡モ愈々縮小且ツ薄トナルコトアルモ亦注意ヲ要ス。次ニ走痕ハ地上ヲ指先ニテ蹴リ進ミタル跡ト地面ニ降リタル痕トヨリ成立スルヲ以テ歩痕ト容易ニ區別スルコトヲ得。(3)終リニ重量ノ關係カ足跡ヲ變化セシムル事情モ亦之ヲ看過スヘカラス犯人カ重荷ヲ擔テ現場ヨリ退去セルトキニハ侵入ノ際ノ歩痕ニ比シテ其幅增加スヘク、其重キ財貨ヲ持テ暫ク佇立セル場合ニ於テ線ニ然リトス。

(2) 押痕ノ特徵

現場ニ於テ跣足ノ押痕ヲ發見シタルトキニハ、其大サ、長サ等ニ就テ詮議スルニ先タテ吾人ハ個人

識別上最適切ナル根據ヲ與フル次ノ如キ特徴點ニ注目スルヲ要ス。即足跡ノ疣、抉損、指ノ多少、歩行機關ノ故障ノ如キ足ノ構造上ヨリ生スル差異。扁平足、弓形ノ足、畸形足ト云フカ如キ恰好ヨリ表ハレタル固有性。各人悉ク不同タルヘキ足跡ノ皺襞、溝條、紋線（紋線中ニ於テ發見スル山背即主要線ノ形態モ亦自ラ異ル）等之ナリ。



【實例】 警テ長崎縣北高來郡北諫早村、學校長山中方へ忍入り、現金十六圓餘ヲ竊取シ去レル賊アリ。大宅警部補現場へ臨檢シ、同家外庭ニ於テ十數個ノ足跡ヲ發見シタル處、左足ノ痕跡ハ悉ク其五本ノ指ヲ缺ク居レリ。仍テ同警部補ハ諫早署管内ノ各巡査ニ對シ左足ノ指ヲ有セサル嫌疑者ニ對テテ調査方テ命ジタルニ、同村某姓仁太郎（五一）ナル者、幼時火傷ノ爲メ左足ノ指全部缺損セル事實ヲ探知シタルヨリ、同人ヲ引致シ現場ノ奇形ナル痕跡ト效果アル對照檢査ヲ爲シタリ。尙現場ノ侵入個所ニ於テ發見シタル賊ノ脱糞（小豆殼ノ混在）ト同様ノ糞便カ同人力ノ大便所ニ存スルヲ認メタル依リ、證據上遂ニ同人モ竊盜ノ事實ヲ自白スルニ至レリ。（上圖參照）

千八百八十二年亞利比亞人ノセリマン・ペン・ウル・ビカ或夜一軒ノ家へ闖入シタリキ。事件發生ノ翌朝保官力出張シテ取調ヘタル結果前ノ爲ニ多少軟力ニナリタル地上ニ於テ、跣足ノ明カナル壓痕アルコトヲ發見シタルカ夫レハ唯四本ノ足指ノ跡ヲ印シタルモノナリ。現場ノ足跡ハ斯クノ如ク甚ダ特徴アリタルニ拘ハラヌ、檢證ノ保官ハ科學的檢査ノ法則ニ依リ探證ノ方法ヲ講セサリシノミナラス、押痕ヲ十分ニ保全スルコトスラ放任シテ顧ミラレサリキ。然シ乍ラ不完全ナリト雖モ角一枚ノ精細ナル描寫カ之ニ對シテ試ミラレタルハ、闖ラスモ此ノ事件ニ對テ有力ナル一ノ證據ニ化シタル也。嫌疑者タル彼ノセリマンハ當初ヨリ自白スヘキ答モナク、即チ自分ハ決シテ其ノ家へ闖入シタルコトナキカ故ニ、濡リタル砂上ニ自己ノ足痕ヲ殘留スル謂レナキ旨ヲ

逃ヘ他迄犯行ヲ否認セリ。然シ乍ラコンスタンチン裁判所ノ懲罰列事ハ事務室ノ牀板ノ上ニ或粘土ヲ敷キ嫌疑者ヲシテ其ノ上ヲ歩

マシメテ結局動カスヘカラサル證據ヲ得タリ。即チ斯クノ如クシテ得タル。壓痕ハ現場ニ於テ發見セラレタルモノト絕對的ニ同一ノモノナリキ。如何トナラハ懲罰列事ノ試驗シタル際ニ成立セル足痕ヲ見ルニ、第二ノ指ハ第一ノ指ノ上ニ重リ合ヒ其ノ爲メ地上ニハ第二ノ指カ全ク接觸セス、即チ四本ノ指痕ノ外附著セスト云フカ如キ稀ナル特有性ヲ呈シ居リ、現場ノソレト毫モ異ル所ナカリシカ故也。セリマンニ對シテハ尙他ノ證據モアリテ、遂ニ彼ハコンスタンチン裁判所ニ於テ有罪ノ宣告ヲ與ヘラレタリ。

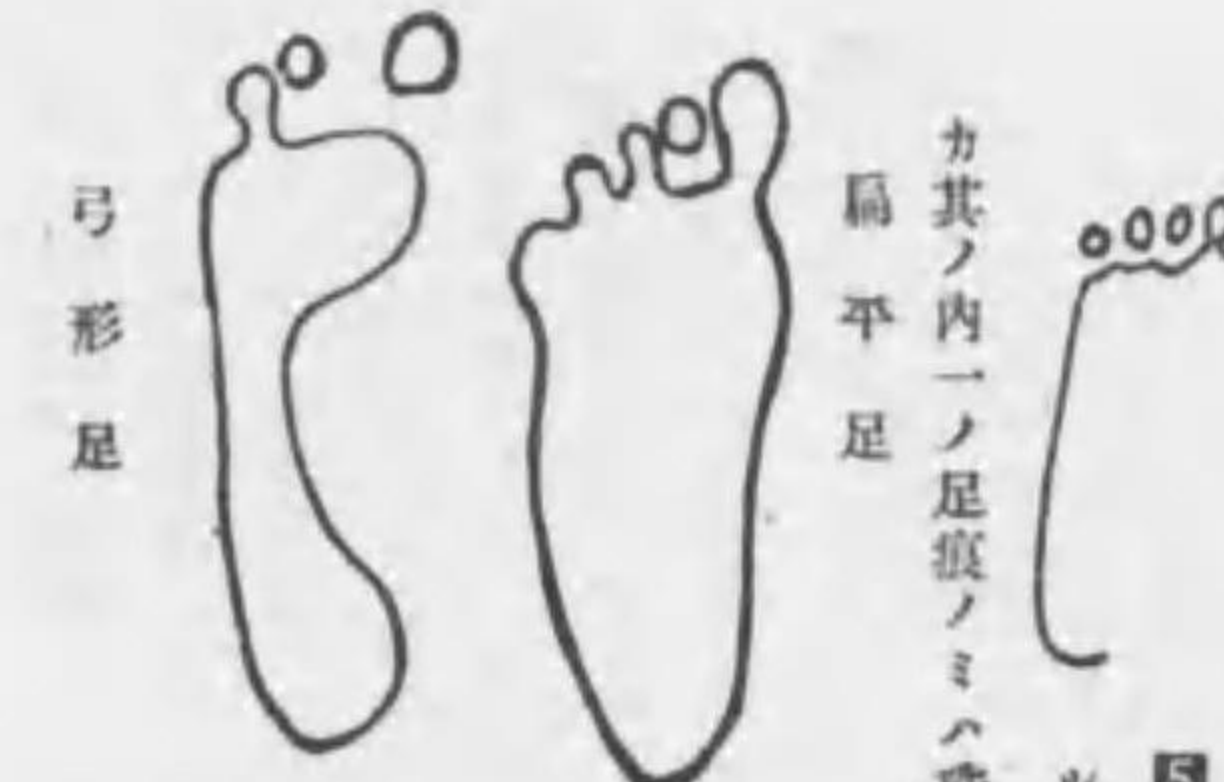
大正五年八月十一日午前一時頃、福島縣信夫郡島川村社日吉神社社家養生方居宅東方ニ建設シタル土蔵ノ壁ヲ、鐵等ヲ使用シテ一尺二寸四方程切り破リタルモ壁ノ堅牢ナリシカ爲メ中止シ、更ニ土蔵入口ノ鏡前ヲ鏡カ拔カンカ爲メ其下ニ薪木ヲ積ミ點火シタルヨリ、火ハ庫内ニ燃ヘ擴カリ遂ニ衣類其他ヲ燒燬シ損害（五百五十圓餘）



ナラス現場ノ模倣ニ依レハ放火ハ全ク竊盜ノ目的ニ出テタルモノト認メラレ、而カモ犯人ハ當夜深夜突ク如キ大雨ヲ冒シ來リタルモノナルカ故ニ恐ラク附近居住ノ者ナルヘシト見込ミ、同村内居住ノ竊盜前科者ニ對テ内偵シタル結果、前記竊盜ノ行動ニ不審ノ點アリヨリ其居宅ニ臨ミタル處、土ナリニ使用シタルカ如キ痕跡ノ附着セル鐵ヲ發見シタリ。茲ニ於テ同人ヲ嫌疑者トシテ警察署ヘ引致シタル處、彼ハ取調ニ對シテ容易ニ全部ヲ自白シタリ。然ルニ檢事局ニ於テ全然之ヲ否認シ證據不十分トシテ釋放セラレントスルカ如キ形勢ニ類セルニ依リ、警察官ハ再ヒ現場ノ詳檢ヲ行ヒタル處、遂ニ日吉神社ノ本殿内ニ於テ賊ノ足ヨリ附セラレタリト信スヘキ跣足ノ泥足跡數個存スルヲ發見シタリ。然ルニ該足跡中右足ハ執レモ其ノ踵ノ部分カ床上一ニ押捺セラレサルカ如キ特徴アリタルヲ以テ、被告ヲ現場ヘ同行シ神社ノ同本殿内ヲ歩行セシメ檢シタル處、歩幅足跡ノ形態、特徴等毫モ前示ノモノト相違セサルヲ確メタリ。右足ノ踵カ地ニ附カサル此ノ特徴ハ同人ノ右脚ニ存スル生來ノ故障ニ基因シタルモノナリキ。被告ハ依然犯行ヲ否認シタルモ此證據ニ因リ遂ニ懲役三年ニ處セラレタリ。

大正四年七月、静岡縣富士郡加島村、富士製紙株式會社第八工場ノ倉庫前テ破壊シ忍入リ製紙用材料タル「カルク」及白土ヲ竊取シタル盜兒アリ。田原巡查現場ヲ取調フルニ庫内板ノ間一面ニ散布セル白土ノ上ニ賊ハ足跡十數個ヲ殘セル處、其大小、形狀ノ異レル點ヨリ二人ノ賊ヨリ印セラルモノト認メラレタリ。然ルニ其内一賊ノ足跡ハ左右共内側（拇指ト趾トヲ連結スル彎曲線ノ方面）ノ部分ハ毫モ其押痕ヲ見サルカ如キ特徴ヲ有スルヲ發見セルニ依リ之ヲ白紙ニ寫シ取リ置ケリ。茲ニ於テ一犯人ハ歩行ニ際シテ兩足ノ外側ノミナ地上ニ附スルカ如キ構造ノ足ヲ有スル者ナラサルヘカラスト爲シ同巡查ハ會社職工係ノ許ニ走リ、前示ノ如キ歩行ヲ爲ス職工ニ就テ調査シタル結果約一ヶ月前解雇サレタル職工關某（三四）カ之ニ該當スルコトヲ知り得タルヨリ、同人ヲ居宅ヨリ駐在所ニ同行シ足跡トシテ試ミニ歩行セシメ之カ足跡ヲ取リ前記現場ノ分ト比較對照スルニ寸毫ノ相違ナカリキ。取調ノ結果他ノ一ノ足跡ハ共犯者杉澤某ノモノナルコト判明セリ。

同警テ或處ニ於テ一人ノ男カ何物カニ鋭利ナル刃物ヲ以テ致命傷ヲ與ヘラレ、屍體トナリテ發見セラレタル事件起レリ。現場檢證ヲ爲セル係官ハ其ノ男ノ殺サレタル室ノ牀上ニ於テ三箇ノ血ノ足型ヲ發見シタルカ其ノ内一ノ足痕ノミハ殊ニ明瞭ナリキ。然ルニ此ノ足痕ヲ仔細ニ檢證シタル結果、是等ノ壓痕ハ甚ダシク弓形狀ヲ呈セル一婦人ノ左方ノ足跡ナルコトヲ看取セラレタリ。而シテ犯罪ノ行ハレタル時間ニハ、其ノ家ニハ被害者トハ十七歳ノ高齡ニ達セル老翁及マクフアソソン夫人ノ三人カ居リタルノミ也。此夫人コソ既ニ他ノ理由ヨリシテ嫌疑ヲ掛ケラレタル者ナレ。一面被害者ノ左ノ足跡ヲ念ノ爲メ檢査スルニ、少シノ血モ附著セサルノミナラス現場ニ存セル足ノ血型ニ比スレハ廣クシテ長ク、尙其タシク不恰好ノモノナルカ故ニ、此ノ屍體ノ左ノ足ヨリ牀上ノ足跡ヲ生シタルニ非サルコトハ一點ノ疑ヒモ存セザリキ。次テ八十歳ノ老翁ハ扁平足ノ所有者ナルカ上ニ其ノ足ハ特別固有ノ形態ヲ表ハシ、此ノ足ヲ以テ到底現場ノ足痕ノ「スタンブ」ヲ發行スルコト能ハサルノ事實判明セリ。之ニ反シテ夫人ハ強キ弓形ノ足ヲ有セルノミナラス、試ミニ一箇ノ押痕ヲ作ラセテ現場ニ足型ト比較スルニ雙方ノ押痕ハ形態ハ勿論、長



弓形足

サ、廣ク其ノ他總テノ箇々ノ點ニ於テモ、符部ヲ合セル如ク全然一致シタリ。遂ニマクフアソソン夫人ハグラスガウリ陪審裁判ニ於テ有罪ノ判決ヲ與ヘラレタリ。

大正五年七月十七日夜、長野縣松本市製絲業水崎方ヘ押入り、三尺餘ノ拔刀ニテ家人ヲ脅迫シ、金品ヲ強奪シ去レル一人ノ強盜アリ。降旗警部補現場ヲ取調フルニ賊ハ同家ノ裏隣ナル藝妓置屋ノ方面ヨリ圍チ押シ分ケ侵入シタルモノナルハ如ク賊ノ足跡ノ足跡力既ニ之ヲ證明セリ。週及シテ尙詳細ニ檢シタルニ、藝妓置屋ノ南隣側ニ賊ノ足跡ノ痕跡アルヲ發見シタリ。果シテ同家ニ於テ軍刀一振リノ盜難被害アリキ。然ルニ該足跡ニハ足跡ノ皺裂鮮カニ表ハレ居タルヲ以テ同警部補ハ置屋主人ノ快諾ヲ得テ足跡ノ附着セル部分ノ縁側ノ板ヲ一尺四方程切リ取リ之ヲ基本トシテ三十人餘ノ嫌疑者ノ足跡ノ皺裂ト比較對照シタル處一モ該當スル者ナキヨリ是等ノ者ニ對シテハ重ニ無罪釋放ノ所置テ執レリ。其後同年九月頃ニ至リ前示強盜ト犯罪手口ノ酷似セル犯人カ石川縣ニ於テ逮捕セラレタル處、愛知縣ニモ餘罪アル爲メ愛知縣ノ方ヘ引渡サレ目下取調中ナル事實ヲ署長ニ於テ偶然ニ知リタルニ依リ、保存シアル足跡附着ノ板ヲ愛知縣ヘ送附シ前記強盜ノ事實ニ對スル取調方ヲ紹介シタル處、其者



ノ足跡ノ皺裂全然符合セルヨリ、遂ニ其者ハ長野縣ノ犯罪ヲ併セテ自白スルニ至レリ。

大正六年十二月以降大正七年二月ニ亘リ、香川縣觀音寺警察署管内ニ於テ被物竊盜ノ被害頻發シ起チ八件ニ及ビタルコトアリ。其一被害者方ノ縁側ニ賊ハ足跡ノ泥足跡ヲ殘シ去リタル處該足跡ニハ拇指ニ接近シタル足跡、一部分ニ一種ノ環狀狀ヲ呈セル隆線アルヲ發見シタルヨリ、出張ノ刑事ハ足跡ノ全形並ニ紋線ノ形態等ヲ筆寫シ實況見分書ニ添付シ置ケリ、然ルニ同年一月三豐郡本山村ノ一米穀商ニ於テ白米二俵ヲ竊取セラレタル處、該贓品カ數丁ヲ隔タル鐵道線路ノ排水



第一編 總論 第三章 犯罪ノ痕跡ニ對スル穿鑿 第二節 現場ノ痕跡



足ノ全形ノミナラス紋線ノ關係全ク符合シタル依リ、強情ナル彼モ之レカ爲メ遂ニ自白ノ已ムナキニ至レリ。

(3) 押痕ノ探證

足跡ノ押痕採取ニ關シテハ(一)押痕附着ノ物體其儘ノ採取、(二)壓寫、(三)寫真、(四)描寫等ノ方法アリ。

跣足ノ押痕探證ノ最上乘ナル方法ハ足跡ヲ印セル土臺其儘ノ採取ニシテ假令ハ血ノ足跡ヲ留メル板ハ所有者ト交渉ノ上其部分ヲ切取り保全スルカ如シ。壓寫トハ石ノ平面木板等ニ附着セル押痕カ何等カノ色素ヲ含有セルトキニ、吸取紙又ハ濾紙ヲ水、酒精「テレピン」「ペンデン」等ニ浸シタルヲ此上ニ置キ、紙ノ上ヨリ強キ刷毛ニテ繰リ返シ打叩キ實物ノ押シ繪ヲ得ルヲ謂フ。之レニ關シテ余ノ研究スル處ニヨレハ、壓寫ハ亦床板ニ存スル色素ヲ含有セサル普通ノ土足ノ押痕採取ニ利用シ得ヘシ。其方法ハ紫色「コツビイインキ」ヲ「ペン」ニ浸シ足跡ノ附着セル土臺自體ヘ其足跡ノ輪廓皺襞等ノ曲線ノ形態ニ從テ足跡圖ヲ描キ置キ然ル後半紙ヲ水ニ浸シ水ノ滴リタルヲ待テ之ヲ靜ニ足跡圖ノ上ニ置キ其半紙ノ上ニ更ニ滑カナル洋紙ヲ置キ、洋紙ノ上ヲ手ニテ擦リ半紙ニ「コツビイインキ」ノ圖カ移ル様ニナス也。

〔實例〕大正八年二月二十日、余ノ寓居ニ一人ノ竊盜犯人忍入リ竊所ノ板ノ間ニ跣足ノ足跡ヲ印シタルヲ發見セルヨリ、余ハ直ニ此方法ヲ應用シ紙ニ左右足跡各一個ヲ壓寫シ置ケリ。後日其犯人岡田某亦坂表町警察署ニ檢舉セラレタルヲ以テ、其圖ヲ携ヘ署ヘ赴キ、被告人ノ足跡ヲ「インキ」ヲ以テ新タニ紙ニ印セシメタルモノトヲ比較シタルニ全然符合スルヲ確メタリ。此場合土臺ニ附着シタル「コツビイインキ」ヲ拭ヒ落サントセハ「硫酸」ヲ其上ヘ散布シ置キ水ヲ浸セル綿布ニテ之ヲ磨拭スヘシ。寫真ハ肉眼ニテ發見スルコト能ハサル足裏ノ皺筋等ヲ其寫鏡ニ依テ始メテ覺知スルコトアルノミナラス、壓寫描寫ノ爲メニ足跡カ毀損セラルル危險ヲ伴フ場合ニ之ニ先立チ撮影シ置クコトニ利用セラ

ルルカ故ニ極メテ價値アル探證法タルヲ失ハス。描寫ノ最モ簡單ナル方法トシテハ透視シ得ル描寫用紙、又ハ描寫用麻布ヲ足跡ノ上ニ注意シテ擴ケ透寫スルカ、或ハ足跡ニ直接觸レサル様ニ硝子板ヲ置キ足跡ノ總輪廓箇々ノ曲線ヲ硝子板ニ描寫ス。

(4) 現場ノ押痕ト嫌疑者ノ足跡トノ比較決定  
之レニ就テハ先ツ比較研究ノ對照物トシテ嫌疑者ノ跣足ヨリ新タニ押痕ヲ作成セシムルヲ必要トスヘシ。其方法トシテハ嫌疑者ノ足跡ニ石鉛ノ粉末ヲ塗り、又ハ水ト「リスリン」及赤キ「アニリン」



色素ノ混合液ヲ塗り附ケ其者ヲシテ白紙ノ上ヲ歩マシメテ跣足ノ歩痕ノ一列ヲ得ヘキモ、出來得ヘクハ現場ニ於ケルト同シ土臺、押痕ノ同シ色合、等シキ歩行振等、原足跡ト同一状態ノ下ニ於テ壓痕ヲ作成セシムルヲ上乘ト爲ス。

右ノ如クニシテ新タニ對照材料ヲ得タルトキ現場ノ足跡圖面ト之レヲ比較シテ其異同ヲ識別スル最簡單ナル方法ハ、双方ノ圖面ヲ重ねテ透シ個々ノ特徴、曲線悉ク一致スルヤ否ヤノ検査之ナリ。但シ此場合少クトモ一方ノ圖カ透視シ得ル紙、硝子板等ニ採ラレタルヲ前提トス。

尙確實ナル結果ヲ得ントセハ數學的ニ兩圖面ヲ測定シ差等ヲ検査スルニ如クハナシ。

註 之レニ就テハ、ハンス・グロース博士ハ先ツ中央ニ於テ足跡ノ長サヲ測リ、然ル後此線ニ垂直ヲ保テテ線ノ幅ヲ量ルヘキナ説ケルモ、ニケフオロー・リンデナウ氏等ハ更ニ精巧ニシテ價值アル測量法ヲ發表セリ。即チ足跡ノ周圍ニ先ツ四線ヲ畫シテ長方形ヲ作り、斯クシテ足ノ長サ、大サ特徴ヲ精密ニ確定セントシタリ。然ルニドクトル・コーセ氏ハ一定ノ基本線ヨリ足跡ノ輪廓線ニ多クノ垂線ヲ立テ、之ヲ測量シテ兩者ノ些細ナル區別ヲ明確ニ認識セント努メタリ。

(5) 足跡ノ押痕ヨリ犯人體格ノ推定

(メルチオン氏ノ表)

足跡ノ長サ	乗算ノ因数
最小ヨリ—210	7.17
220	6.840
230	6.610
240	6.505
250	6.407
260	6.328
270	6.254
280	6.120
290	最大長サ迄… 6.080

(マーヴィル氏ノ公式)

$$\text{足} = \frac{8,6}{30} \left( \frac{\text{長身}}{2} + 0,05 \right)$$

アルフオンス・ベルチオン氏ハ人間ノ身體ノ或部分ヲ基トシテ其ノ者ノ體格ノ大サヲ容易ニ確定シ得ルカ故ニ、足跡ノ長サヲ知レハ之レニ依テ身長ノ數字ヲ得ヘシト説キ、足跡ノ長サニ乗シテ身長ヲ算出スヘキ乗算ノ因数ヲ表記セル處、マーヴィル氏ハ唯々簡單ナル方程式ヲ示シテ此問題ヲ解決シ得ルモノトセリ。即チ表ノ如シ。

(其二) 跣足ノ凹的痕跡  
 (1) 特別ニ表ハル、凹的痕跡ノ状態  
 跣足ノ凹的痕跡ハ濕リタル地面又ハ雪中、砂地ヲ素足ニテ歩行シタルカ如キ場合ニ生スルハ吾人ノ日常經驗スル處也。然レトモ此場合或ル部分ノ土臺カ甚シク軟ク且滑リ易キ粘土等ヨリ成立セルトキニ

ハ痕跡ノ深サノミナラス、其長サ、幅ニ於テ増大ヲ見ルノミナラス、同一ノ地面ニ於テモ犯人カ重キ財貨ヲ擔ヘルト否トニ依テ其凹痕ノ縦徑及ヒ横徑ニ變化ヲ與フルカ故ニ、現場ニ於テ足痕ヲ詮議スルニ當リテハ是等ノ條件ヲ度外ニ置クヘカラサル也。

(2) 凹痕ノ特徴  
 跣足ノ凹痕ニ於テ注意スヘキ固有點ハ、足趾ノ疣、指ノ整否、長短等足ノ構造ニ基因スル痕跡ト、尙歩行ニ當リ殊ニ力ヲ込メ又ハ足ノ一方ニ力ヲ偏セシムル癖アル爲メ其部分ハ特ニ深く押壓セラレ、或ハ曳キ摺リ歩行ノ癖ヲ有スル爲メ凹痕ノ後尾ニ線條ヲモ印セラルト云フカ如キ歩行癖ヨリ生スル痕跡ト之也。

(3) 凹痕ノ探證法  
 凹痕ノ證據採取ハ犯場ニ於テ石膏「セメント」硫黃、蜜蠟、「ステアリン酸」膠、瀝青、樹脂、脂肪、粘土、捏粉等ノ材料ヲ使用シテ之レカ模型ノ鑄造スルニアリ。凹痕ノ存スル土臺ニ從テ亦用フヘキ是等ノ材料均一ナラスト雖モ、茲ニハ場合ヲ細別セスシテ大要ノ説明ニ止ムトス。  
 (イ) 石膏。土地、粘土、固マレル泥等ニ於ケル凹痕ニ對シテハ、石膏殊ニ標本用石膏ニ優ル探證材料他ニ存セス。先ツ吾人ハ凹痕ニ對シ油又ハ軟キ脂肪ヲ刷毛ニテ薄ク塗り置キ、然ル後水ノ入レアル皿ノ中ニ石膏ヲ徐々ニ疎ニ且ツ適度ニ撒入レ速ニ攪拌シテ之ヲ足跡ニ注キ込ムナリ。其分量ハ成年ノ一足跡ニ對シテ石膏六〇〇「グラム」水、四分ノ一「リットル」強ヲ用フルカ、或ハ一足跡ニ對シ石膏半「リットル」(二合七勺)餘ノ割合ヲ以テス。斯クスルトキニハ石膏ハ五分間乃至十分間ニテ全然凝

固トナルヘシ。(若シ取り出シタル石膏模型ヲ既ク且ツ抵抗力アルモノダラシメント欲セハ明礬ヲ熱湯ニ溶解シタル中ニ二十五分乃至三十分間浸シ置クヘシ)

【實例】 余ハ嘗テ大正六年二月ヨリ九月ニ亘リ、警察協會雜誌ニ足跡ニ關スル是等ノ研究ヲ發表シタルコトアリタル處、之ヲ一讀シテ實際上ノ應用ヲ試ミタリト云フ極メテ熱心ナル刑事家ヨリ有益ナル參考實例ノ報告ヲ得タルニ依リ大ナル愉快ヲ以テ、左ニ之ヲ掲載スヘシ。

大正七年八月十六日茨城縣古里村、白田某方ノ乾瓢盜難被害アリ、捜査官ハ現場ニ存スル跣足足跡ノ凹痕ヲ石膏ニテ採取シ、同事件ノ嫌疑者ト目サレ居ル竊盜前科者谷島某ノ足跡ト比較シタル結果同人ノ無辜ナルコト闡明シタルノミナラス、眞犯人タル一婦人某姓トグチ達ニ檢舉スルコトヲ得タリ。

同年十一月、同縣下館町ノ田野地ニ積果ホアル糟車ヲ竊取セラレタル事件アリ。現場ニハ大ナル足袋跣足ノ足跡アリタルヨリ之ヲ石膏ニテ採取シタル後、賊ノ逃走方面ニ於テ足ノ大ナル土族某ノ嫌疑者一人ヲ得、足跡對照ノ結果遂ニ自白セシメタリ。

同年十二月同縣五所村ノ一農家ノ庭先ヨリ報五、六斗ヲ竊取シタル者アリ。現場宅地内ニ比較的小サキ賊ノ足跡アリタルヨリ石膏ヲ以テ採取シ附近ノ嫌疑者ト對照シテ遂ニ其者ノ所爲ナルコトヲ證明シ得タリ。

同月初旬、同縣養置村、田地内ヨリ刈稻十數把竊取シタル前科一犯ノ盜犯ヲ同様、石膏採取ノ足跡ニヨリテ檢舉スルヲ得タリ。(以上茨城縣警部補、白土定氏報告)

大正六年四月八日、福岡縣三浦郡大川町大字城町吳服商、秋吉某方ヘ押入リ出刃ヲ以テ家人ヲ脅迫シ金品ヲ強奪シ去リタル強盜犯人アリ。然ルニ裏ノ下溝ヲ洩ヘテ積ミアリタル溝泥ノ上ニ犯人ノ足跡一個押捺サレアルヲ發見シタルヨリ、被害者方ヨリ普通蠟燭ヲ多ク買ヒ受ケ、之レヲ溶解セシメ其間ニ足跡ノ濕氣ヲ除カシメ少シク灰ヲ撒キ尙其上ニ火ヲ焚キ、然ル後融シタル蠟燭ヲ徐々ニ注キ込ミタル處、遂ニ完全ナル足跡ノ模型ヲ得タリ。而シテ其足跡ハ先細ナルヨリ常ニ靴ヲ穿テ居ルモノト思料シ此方針ニテ犯人ヲ物色シ遂ニ嫌疑者秋吉某ナル者ヲ得、仍テ此ノ跡ト彼ノ足トヲ比較スルニ全ク同様ナリシヲ以テ、頑強ニ否認セル彼モ遂ニ自白シタリ。福岡縣巡査、猪口克禮氏報告)

(ロ) 「スチアリン酸」。塵埃、砂、穀粉等破損シ易キ材料ノ上、又ハ泥濘ノ地、濕氣アル畑、雪ノ上

等ニ存スル凹痕ハ「スチアリン酸」ヲ使用シテ採取スルニ如カス。(「スチアリン酸」ハ白キ蠟燭ノ塊ニシテ石膏同様に「スチアリン酸」ヲ使用セントセハ此塊ヲ土瓶ノ中等ニ細ク削リ込ミ、火鉢ノ火ニ掛ケテ全部融解スルヲ待チ之ヲ極メテ徐々ニ弱ク足跡ノ中ニ流シ込ムヘシ。但シ雪ノ上ノ足跡ニ對シテハ「スチアリン酸」カ冷却シ微温的ニナルヲ俟テ仕事ヲ始ムルヲ要ス。

尙材料ノ注入前矢ッ凹痕内部ノ濕氣ヲ去ラシムル必要アルトキニハ吸取紙ニテ水氣ヲ吸收セシムルカ、或ハ刷毛ヲ以テ樹脂ヲ凹痕ニ跳ネ掛ケ足跡上ノ液體ヲ滲ミ込マシムヘシ。

II 履物ヲ履ケル足

(其一) 下駄、草履等ノ痕跡

(1) 着眼スヘキ特徴

足駄、日和下駄ノ痕跡ハ各平行シタル二線ヨリ成立シ、一見此種ノモノハ悉ク同様ノ痕跡ヲ留ムルカ如シト雖、其實然ラス。下駄ノ齒ノ地上ニ接スル個所ニ於ケル長サ及幅、齒ト齒トノ間隔ハ時代ト地方ニ依テ相違アルノミナラス、製造所ト職人ニ從テ各流儀ト又寸法モ等シカラス。尙駒下駄ノ裏面ニ於テ波形ニ削リ取リタル數個ノ凹所ノ如キモ職人ノ手癖ニ依テ個數ニ差別アリ、其他鼻緒ノ結ヒ目ヲ保護セル裏面ノ金物ニ至リテモ各下駄屋ノ意匠ト商標ヨリ其形狀ヲ異ニスト云フカ如ク、如何ナル下駄ニ於テモ仔細ニ吟味スレハ必スヤ他ト區別シ得ル特徴ヲ有スルナリ。若シ夫レ下駄ノ齒ノ一端缺損セル痕跡ノ如キハ特徴ノ尤タルモノトスヘキカ。

【實例】 大正七年十二月、茨城縣五所村ノ一農家ニ氏名不詳ノ一青年立越シ農奉公住込名義ノ下ニ金圓ヲ騙取シ、翌朝未明ニ何レカ

へ逃走シタリ。然ルニ逃走ノ際竊取シ履キ行キタル下駄ハ一枚ノ齒狀損シ居リテ之レカ露ノ上ニ懸然ト印セラレタリ。受持捜査ハ之ヲ追跡スルコト數里ニシテ遂ニ隣縣ナル栃木縣下都賀郡ノ或山林内ノ炭燒小一ニ潜伏シ居ルヲ發見取押ヘタリ。○嘗テ長崎縣北松浦郡星鹿村、荒物商、藥王寺某方へ忍入り反物數反ヲ竊取シタル盜賊アリ。然ルニ國家ノ庭ニハ賊ノ履キ居タル高下駄ノ二ノ字形痕跡アリ、之ニヨレハ右足ノ前齒力過半、左足ノ前齒モ亦三分ノ一程執レモ内側ニ於テ缺損セルモノナルコト明ナリシヲ以テ、捜査官ハ各駐在所ニ對シ之レカ手配ヲ爲シタル處、現場ヲ去ル約五里程ノ一山中ノ駄馬道ニ類似ノ下駄痕跡一巡査力發見シ、之ヲ追跡ノ結果、山中ノ神社ニ潜伏セル右ノ犯人ヲ捕縛スルヲ得タリ。

○大正七年二月八日午後九時三十分頃、德島縣名東郡加茂村ノ一踏切附近ニ於テ鐵道線路ノ中央へ約七、八貫匁ノ石塊ヲ置キ汽車ノ轉覆ヲ謀リタル事件アリ。其現場及附近畑中ニ小サキ子供ノ駒下駄ノ跡アルヲ發見シタル捜査官ハ之ヲ白紙ニ寫シ取リ置キ、當夜其附近ヲ通行シタル少年ヲ物色シテ一人ノ嫌疑者ヲ發見シ、之レノ下駄ト比較シタル結果全ク同一ナリシ依リ、遂ニ其少年ヲシテ自白セシムルニ至レリ。

草履類ノ痕跡ニ至リテハ下駄ニ比シ數多ノ端緒ヲ包藏スヘシ。何トナレハ下駄ヨリハ多クノ個所ヲ地上ニ押付クルノミナラス、先端、踵ニ充テラレタル金物、又ハ革、護謨草履ノ裏面ニ於ケル種々ノ圖案カ捜査上價値アル押痕ヲ印スルカ爲也。

【實例】大正六年末ヨリ大正七年三月ニ亘リ德島市ニ於テ被害三十餘軒被害價額三千餘圓ノ盜難被害事件アリ。而シテ被害者方ニハ常ニ寢誤草履ノ痕跡押捺セラレタルヨリ、刑事ハ此圖案ヲ紙ニ寫シ取リ置キタル處、三月七日ニ至リ偶然其種ノ履物ヲ履キ居ル一人ノ紳士風ノ舉動不審者ヲ途上ニ發見シタルヨリ之ヲ追跡引致シ、彼レノ履物ト現場ヨリ採取シタル足跡圖ト比較對照スルニ全ク適合セルヨリ遂ニ犯罪全部ヲ自白セシムルニ至レリ。

(2) 下駄ノ痕跡ヨリ進メル方面ノ鑑別

下駄ノ中ニアリテモ後齒、女ノ駒下駄、或種ノ草履等ヨリ附セラレタル痕跡ハ之ヲ一瞥シタルノミニテ、下駄上ノ人物ノ進メル方面ヲ容易ニ認知シ得レトモ、足駄、日和下駄、書生履キ駒下駄ニ至リ



テハ其凹痕ハ唯同長ノ二ノ字形ナルカ故ニ、進メル方向ノ識別ハ極メテ困難也。然シナカラ余ノ研究スル所ニ依レハ進メル方向ニ對スル痕跡ノ特徵トシテ。(一)前痕ノ前方ニ於ケル土砂ノ跳進。(二)後痕ハ深ク且大ナルコト。(三)凹痕ノ前方ニ於ケル土砂ノ擲隆。(四)痕跡ヨリ前方ニ向テ走レル地盤ノ皴裂。(五)本痕ノ前方ニ於テ一線ヨリ成ル下駄ノ前縁ノ押痕、又ハ先鼻緒ノ裏面ノ充テ金ノ押痕。等其主ナルモノト見テ可ナルカ如シ。

二ノ字形凹痕ノ前痕前方ニ土砂ノ跳進飛フ所以ハ、特ニ地上ヲ離レテ前方ニ進マントスル下駄ノ前齒力之レニ抵抗セル土砂ヲ蹴テ運行スルニ依リ。前痕ニ比シテ後方ノ凹痕ノ程度深クシテ廣ク淺クニ於テ顯著ナルハ人ノ歩行狀態トシテ恰モ踵ノ下位ニアル下駄ノ後齒ハ常ニ全身ノ重ミヲ引受ケ、歩行ニ際シテ輻軸トナリ、最モ力ノ入ル處トナルカ爲メニシテ、二ノ字形凹痕ノ前方ニ土砂ノ隆起ヲ生スルハ前痕ニ比セバ後痕ニ於テ最モ殊ニ著シ。尙痕跡ヨリ前方ニ向テ生スル土砂ノ皴裂ハ土砂ノ跳進ト共ニ信憑スルニ足ル特徴的一現象也。

以上ハ唯二三ノ元則的標準ヲ示シタルニ過キス。進行ノ動的狀態ノ歩行者ノ特別慣行等ノ條件カ土臺タル地面ノ關係ト相待テ、之レト異レル形態ニ表現スルコトアルハ言ヲ俟タス。例令ハ走レルトキ、坂ヲ昇レルトキニ於テハ却ツテ前痕ノ方深ク且大ナルカ如シ。

(其二) 靴ノ痕跡

吾人ハ靴ノ痕跡ノ如何ナル點ニ着眼シテ差異竝ニ特徴ヲ求ムヘキヤト云フニ、先

靴痕全體ノ形態、大小、先端ノ恰好（例令ハ尖レルモノ角張レル）踵痕ノ恰好（例令ハ廣狭、粗野、）等ノ態様ニ注意ヲ要シ、殊ニ靴裏ニ打込ミアル釘類ノ痕跡即チ釘ノ個數、各釘ト釘トノ距離、丸形扇形等當テ金ノ形態、使用耗ト釘ノ部分的銳鈍、或個所ノ缺損、又ハ馬蹄の底金、裏底ノ或ル個所ニ於ケル修補シタル痕跡、若シクハ破損シタル儘ノ跡、又ハ人ノ體格ノ構造日常ノ習癖等ヨリ生セル靴ノ裏底或ハ踵ニ於ケル固有ノ使用耗等ノ特徴ニ付テハ、極力之ヲ進究シ其一影片痕ヲモ悉ク精確ニ測量シ、探證シ、記録ニ明確ニナスコトヲ忽諸ニ付スヘカラサルナリ。

【實例】 關帝アブルツセルニ起リタルヘルツエル殺人事件ニ於テ、兇漢等ハ犧牲者ノ頸部ヲ狙撃シテ殺害シタル其ノ室ニ引返シ、牀上ニ墮レタル屍體ヲ昇キ揚ケ之ヲ椅子ノ上ニ置キテ逃ケ去リタリ。今ヤ搜查官ハ室内ノ敷物ニ附著セル多クノ汚斑點ニ大ナル血ノ瀾溜ヲ精査シタル所、茲ニ一箇ノ靴痕ノ存スルヲ發見シタリ。其ノ靴痕ハ被害者ノ血カ恰度半ハ流レ出テタルトキニ初メテ成立シタルモノニシテ、且犯人ノ靴ハ其ノ先端カ圓形ナルコトヲ現場ノ痕跡ヨリ知レリ。茲ニ於テ二人ノ被告人アルマンド及レナン・ヘルツエルノ平素使用セル種々ノ靴ヲ取寄セ檢シタルニ、其ノ中ニ於テ右方ノ裏底カ能ク現場ノ押痕ト適合シ、尙總テノ點ニ於テ同シ固有性ノ一致スルコトヲ證明シ得タリ。特ニ一箇ノ靴ニ至リテハ驚ク可キ程ニ克ク符合シ、此ノ押痕ノ適合力遂ニ犯人ノ罪の舉證ニ對スル一ノ最も重要ナル材料トナレリ。

西千八百八十九年ノ三月十九日、カーボット別荘ノ園丁及門衛カ何者カニ殺害セラレタル事件突發シタリ。此ノ事件ハ四人共謀ノ仕事ナリシカ其ノ犯人ノ一人ナルアロルトノ男ヲ逮捕スルニ至レル唯一ノ端緒ハ、別荘ノ地下ノ平土間ニ於ケル殺人ノ現場ヨリ上階ヘ架セラレタル階段ニ於テ、十一箇ノ釘痕アル靴ノ履跡ヲ發見シタルニ在リ。此ノ十一箇ノ釘痕ハ實ニアロルトノ靴ニ於ケル裏底ノ釘ト寸分モ違ハス符合シタルヲ以テ、彼ハ終ニ犯行ヲ自白シテ曰ク。殺害後仲間ノ者等ハ階段ヲ昇リ去レリ。直ニ自分モ其ノ跡ヲ追ヒタルカ、併シ余ハ極度ノ興奮ニ達セル爲メ、一息ツカムトシテ一寸寸佇リタルコトアリ、今ニシテ想ヘハ或ハ其ノ間

ニ痕跡ヲ生ジタルモノナルヘシト。天命ナル哉、彼ハ此ノ小キ遺シ穴ヨリ遂ニ牢獄ニ墮リタル也。

【例】 尙一事件ニ於テハ現場檢證ノ際ニ箱ノ蓋ノ上ニ釘痕ヲ發見シタル所、之ハ犯人カ丈夫ナル釘靴ニテ歩行シタル爲ニ生ジタルモノナルコト判明セリ。據審判事ハ此ノ痕跡ヲ寫眞ニ撮影セシメ置キタル爲メ、之ヨリシテ犯人探索ノ端緒ヲ得タリ。

（其二） 護謨裏類ノ土足足袋



護謨、皮、毛、厚布等ノ類ヲ以テ底裏ヲ固メタル土足用足袋ハ、一般労働者ノ好シテ使用スル處ニシテ、吾人ハ犯場ニ於テ屢々此種ノ足跡ヲ發見スルコトアリ。之レ第三階級ノ者カ犯罪ヲ爲スコト多シト云フノ外一ハ進入竝ニ逃亡ノ極メテ便利ナルカ爲ナリ。然シナカラ又此痕跡ハ極メテ重要ナル證據ヲ吾人ニ交付ス。何トナレハ足袋ノ紋數ハ穿用者ノ足ノ大サト比例スルノミナラス、裏ノ材料、模様、充テ物等ヲ異ニシ、之レニ特種ノ缺損、使用耗等ノ關係ヲ乘除セハ、世ニ全然同態ノ痕跡ヲ二個以上ノ足袋ヨリ押捺スルコト能ハサレハナリ。

III 動物ノ足痕



犯人カ騎馬ヲ利用シ、又ハ犬ヲ伴ヘルトキニハ、是等動物ノ足跡モ亦共ニ現場ニ於テ發見セラル。此場合ニハ犯人自身ノ足痕ニ於ケルト同程度ノ注意ヲ拂ヒテ四脚ノ足痕ヲ精確ニ探證スルコト肝要ナリ、犬ノ足跡ハ梅ノ花形ヲ爲シ其中相並ヘル二個ノ大ナル指痕ハ後部ニ屬ス。又馬蹄痕ニ就テハ前脚ノ足跡ノ上ニ左右ニ半ハ重サナリ後足ヲ押スモノト、前痕ヨリハ少シク乘リ出テ後痕ヲ置ク癖アルモノトアルハ人ノ知ル處ナラン。

【實例】 大正七年十一月七日ノ夜、長野縣上水内郡鳥居村弓木某カ其水田ニ於テ何者カニ稻束ヲ竊取セラレタル事件アリ。然ルニ其

泥濘ノ現場ニ於テ極メテ不鮮明ナル二人ノ足跡ト尙其附近ニ於テ完全ナル一頭ノ犬ノ足痕ノ存スルヲ發見シ、刑事ハ犬ノ足跡ヲ探  
取シタルト村内ニ於ケル先ツ犬ノ捜査ヲ始メタル處、某姓ハル(四一)方ノ犬ノ足痕ト類似セルコトヲ探知シタリ。仍テハルヲ取調  
ヘタル處初メハ犯罪ヲ強情ニ否認シタルモ、證據ノ犬ノ足跡ト同人方ノ犬ノ足跡ト面前三テ比較シ全然符合スルコトヲ實證スル  
ヤ遂ニ被告ハ當夜長男某(一五)ト犬トヲ伴ヒ現場ニ赴キ竊盜ヲ爲シタル旨全部自白スルニ至レリ。

(B) 歩幅

歩幅トハ左ノ足跡ヨリ右ノ足跡間ノ關係即チ一步ノ長サヲ謂フ。

I 體格又ハ運動狀態ト歩幅ノ關係

グロース博士ノ研究ニ依レハ生長シタル男子ノ一步ノ長サハ七六仙米突ヨリ八七仙米突ノ間ニア  
リ。然レトモ最モ普通ナルハ七八仙米突ナリト。之レ云フ迄モナク人ノ體格ノ差異ヨリ斯クノ如キ結  
果ヲ生スルナリ。果シテ然ラハ吾人ハ足跡ノ個々ノ押痕ヨリ身長ヲ推定シ得ルト等シク、歩幅ヨリ犯  
人ノ脚ノ長サ及ヒ身長ヲ測定シ得ルハ亦辭ムヘカラス。日本人ノ體格ハ歐米人ニ比シテ概シテ小ナル  
カ故ニ前示ノ如キ數字ニ準據スヘカラサルハ勿論ニシテ、且ツ俗間ニ於ケル一聞三足、即チ一步ヲ二  
尺ニ換算スルカ如キハ素ヨリ謂フニ足ラス。

【實例】 大正八年一月、金澤市十番町西某方へ裏ノ高嶽ヲ乘越へ忍入リ、現金百圓及金時計其他ヲ竊取シタ。犯人ハ積雪ノ上ニ極メ  
テ大ナル歩幅ノ足跡ヲ印シテ去レリ。出張ノ警察官ハ之レヲ測ルニ一尺八寸餘(但シ其警察官ハ左足ノ爪先ヨリ右足ノ踵迄ヲ測  
リタリ)アリタルヲ以テ、相當身長ノ高キ男ナルヘシト推定シ、之レニ相應スル附近ノ竊盜前科者ヲ取調ヘタル結果、長谷川某ナ  
ル一嫌疑者ヲ得タリ。仍テ同人ノ現所在ヲ搜索シタル上、管轄署へ取押方ヲ依頼シタル處、同署ヨリハ右ノ者カ竊盜事實ヲ自白シ  
タル旨ノ報告アリタリ。

同一人格者ニ於テモ走痕ハ甚シク歩幅ヲ伸長スルモノ也。ニケフオロ一氏等ハ九〇、仙米突以上ノ  
歩幅ハ走痕ト見做シテ可ナリト謂フニ對シ、グロース氏ハ九八仙米突ヲ測量シ得タルトキハ犯人ハ必  
ス走レルモノナリト説ケリ。

【實例】 一ノ火災後ノ現場ヲ檢査シ、ワインガルト判事ハ火災ノ場所ヨリ一ノ睡帷ヲ越エテ、數分間遠ク追跡シ得タル犯人ノ足痕ヲ  
發見セル所此ノ痕線ハ附近ノ一農家ニ迄達シテ途ニ止マレリ。其全部ノ距離ノ前半ハ歩幅カ百兩米突アリタルモ、其ノ後半ニ至ル  
ニ及ンテ漸ク六十兩米突ヲ測リ得ルニ過キサリキ。之ヨリシテ同判事ハ右ハ放火者ノ足跡タルコト該該犯人ハ放火ノ現場ニ於テ逮  
捕セラレサル様逃出シ、初メハ疾走シタル所、其ノ者ノ住ニ近クニ及ヒテ漸ク安堵シタルカ爲メ徐歩セルモノト推定シタリ。

II 年齢、職業、習慣、男女別ト歩幅

脚ノ長サニ比シ歩幅ノ狭キハ老人ニ非ンハ病弱者也。一學者ハ六十歳乃至七十歳ノ人ハ三十歳代ノ  
者ニ比セハ一步ニ付テ殆ント一〇仙米突小ナリト謂ヘリ。

職業上絶ヘス注意シテ靜ニ歩行セサル能ハサル者、例令ハ獵師ノ如キハ小歩ヲ餘儀ナクシ。之レニ  
反シテ兵士、原野ノ測量手、鐵道官吏ハ其慣行上トシテ大步ヲ常トスヘシ。

女ノ歩幅ハ男子ヨリ狭キヲ亦原則トス。ギル氏ノ觀察スル處ニヨレハ男子ハ六〇乃至六五・仙米突  
ノ歩幅ヲ呈スルニ對シテ、婦人ハ五〇仙米突ニ過キスト。

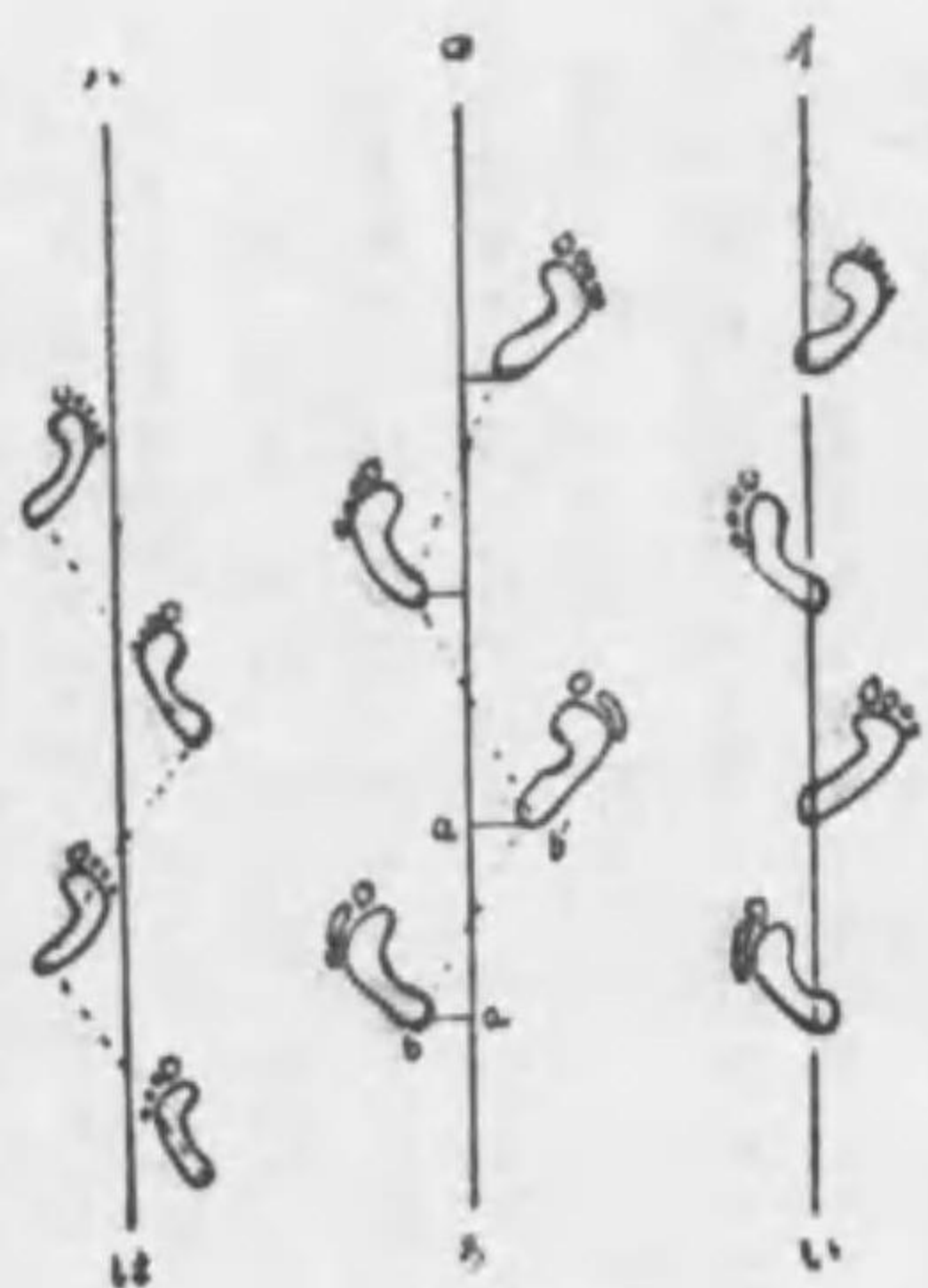
III 特別ニ表ハルル歩幅ノ形態

一ノ長歩ニ繼クニ一ノ短歩ヲ以テスルトキハ跛者ヨリ附セラレタル足跡ナリ。若シ足跡右相互ノ間  
左相互ノ間ノ距離カ甚シク不整亂雜ナルトキニハ、當該者ハ病者又ハ重傷者ニ非レハ酩酊者或ハ痴鈍  
者ノ類ナラン。

(C) 歩行振

I、歩行線ヨリ見タル歩行振、

歩行線トハ一列ヲ爲セル總テノ足跡ニ沿フテ中央ニ一線ヲ引キ、個々ノ足跡ノ踵カ此一線上ニ置カ  
ルルカ、或ハ線ノ左右ニ分レテ押捺セラルルカヲ研究スル爲メニ假リニ設ケタル一直線ヲ謂フ。人ノ  
各歩行振リノ差異特徴ハ又此歩行線ニ依リテ識別セラレ  
得ヘシ。

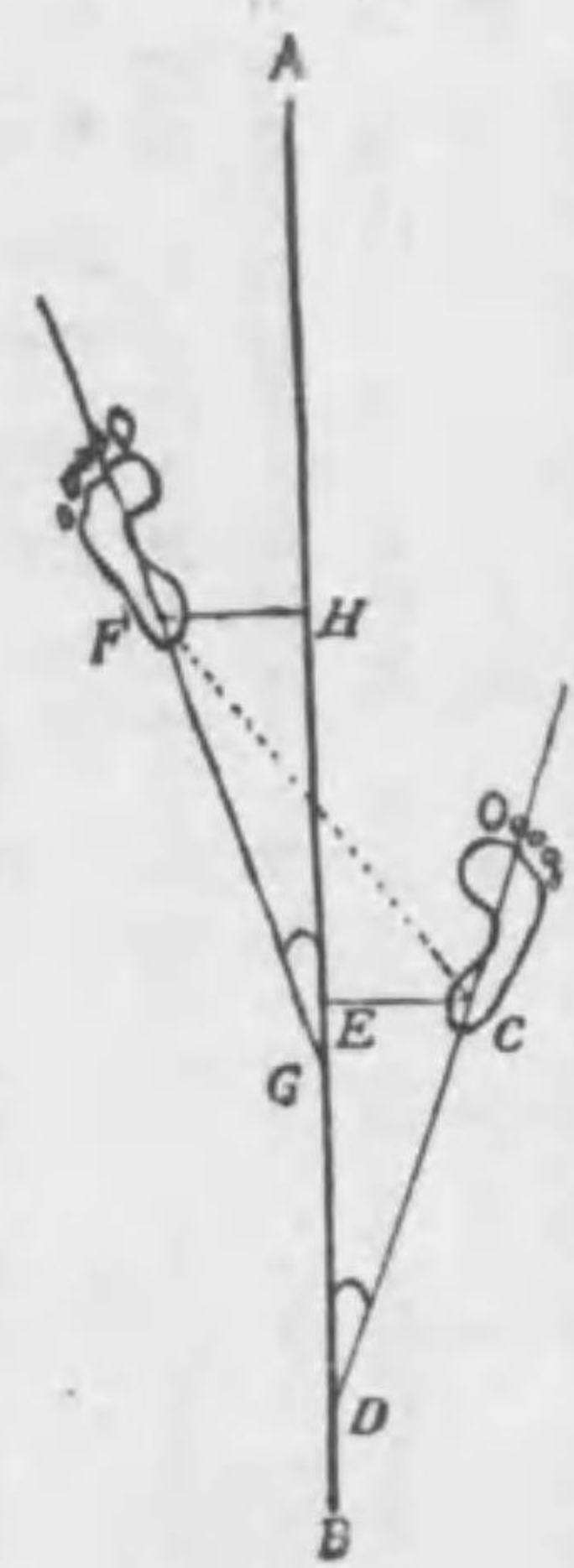


- (1) 踵カ歩行線上ニアルモノ。足跡ノ各押痕ノ踵ノ部ヲ相互ニ線ヲ以テ結合シタルトキ自ラ一ノ長キ眞直ナル歩行線ヲ形成セハ、之レ一人ノ普通ニ歩行スル者ヨリ生シタル正規ノ歩行状態ヲ表明シタルモノト知ルヘシ。
- (2) 踵カ歩行線以外ニ置カルモノ。此歩行状態ニ就テハ二様アリ(一)右踵カ歩行線ノ右方左踵カ線ノ左方ニ分カルル歩行振リト。(二)左踵カ線ノ右方、右踵カ線ノ左方ヲ踏ム、所謂脚組的歩行即チ之レナリ。前者ハ例令ノ老耆者、肥滿者、妊婦、船員、負傷者、浮浪人、重荷ヲ擔ヘル者、病人等ニ於テ常ニ見ル足跡ナルノミナラス、其他慣行又ハ或職業柄ヨリ斯ノ如キ廣破的歩行ヲ繰返アルルカ故ニ捜査上特ニ注目ニ價スヘシ。後者ハ例令ハ花柳ノ婦女カ容子ヲ作り嬌態的ニ爲ス歩行振リノ如シ。

若シ左右ノ足跡カ一定ノ間隔ヲ保タスシテ歩行線ヨリ左右ニ甚シク不秩序ニ亂レ又ハ曳摺レル痕跡ヲモ共ニ押壓スルモノアラハ夫ハ重傷者、痺憊者、神経中樞疾患ノ爲メノ歩行障害者、半身不隨者、「ヒステリー」患者ヨリ基因セルモノト推測スヘシ。但シ此場合ハ法醫ノ補助ヲ俟ツヲ要ス。

II 歩行角度ヨリ見タル歩行振

歩行角度トハ足跡ノ踵跟ヨリ先端ニマテ引カレタル直線即チ足跡ヲ歩行線ニ交叉セシメテ生シタル



- 角度ヲ云フ。
- (1) 外鰐歩行。外鰐歩行トハ足ノ先端カ外側ニ開イテ地上ヲ行ク歩行状態ヲ稱シ、此場合ニハ足線ハ踵ノ方ニ於テ歩行線ト交叉ス。此種ノ歩行ハ普通男子ノ歩行状態ニ於テ見ル處ニシテ、尙ホ外鰐ノ度ノ甚シキ足跡ニ付テハ上流階級ノ者、肥滿者、腰部ノ疾病者、股脚ノ負傷ニ惱ム者、浮浪者、特別ナル扁平足ノ所有者等ヨリ出版セラレタルモノナリ。

(2) 内鰐歩行。足線カ足ノ先端ニ於テ歩行線ト相會シ角度ヲ形成スルハ即チ内鰐ニ歩行スル習癖アル者ノ状態ニシテ、婦人又ハ子供ニ於テ普通之レヲ見ル。ニケフオロロ氏等ハ子供ニアリテハ幼少ナル者程一層内鰐ニ歩行スト謂ヘリ。

【實例】大正七年五月、山形縣東置賜郡沖村、石黒某方へ押入りケル強盜犯人ハ同家臺所ノ板ノ間ニ跣足ノ泥足跡數個ヲ遺シ去レ

1. 踏検ノ警察官ハ其足跡カ内側ナルニ著目シ直ニ巡査ニ對シ内側ニ歩ム男ヲ追跡スヘシトノ命ヲ下セリ。然ルニ一巡査ハ附近ノ野道ニ於テ此種ノ足跡ヲ發見シタルヨリ追跡スルニ、或河岸ニ於テ消失シタルモ、河ヲ涉リテ搜索セルニ尙其足跡ヲ發見シタルヨリ更ニ追跡シ、遂ニ山ニ入りタルヲ確メタリ。依テ趨勢ニテ山ヲ包圍シ搜索シタル結果潛伏セル犯人ヲ逮捕スルコトヲ得タリ。

斯クシテ午前二時ノ犯罪ニ對シ犯人ヲ午前十一時ニ檢査シタル也。

(3) 並行歩行。左右ノ兩足跡ハ互ニ並行トナリ其ノ各足線ヲ如何ニ延長スルモ歩行線ト相會セサルヲ並行歩行ト云フ。體格上又ハ習慣上ヨリ之レヲ爲スハ普通婦人又ハ小兒ノ類ニ多キモ、或ル條件例令ハ山路ノ昇降又ハ重荷ヲ持チ行ク場合等ニ於テハ、外鵞歩行ノ者ト雖此歩行ヲ餘儀ナクセラル。

(D) 足跡ノ欺裝

犯場ニ於テ往々犯人ハ故意ニ其足跡ヲ欺キ以テ捜査官ヲ瞞著セント企ツルコトアリ。然レトモ吾人ハ容易ニ其奸策ヲ見破ルコトヲ得ヘシ。何トナレハ足跡ハ蹠長、歩幅、歩行振り等ノ相比例シタル一定ノ方式ヨリ成ルヲ普通トスルカ故ニ、若シ是等ノ關係、釣り合力其一ニテモ均衡ヲ失ヒ、何等カ破格、不合理、不可解ノ點ヲ發見セハ、其間ニ一ノ欺計ノ潛メルモノト解シテ誤ナキカ故也。

例令ハ元來男子ハ蹠長シテ蹠長、歩幅共ニ長ク歩行角度ハ外鵞ニ現ハレ女子ハ蹠長、歩幅共ニ男子ニ比シテ短ク歩行角度ハ内鵞又ハ並行ナルヲ通則トスル處、今若シ現場ノ足跡ニシテ歩幅短ク且ツ内鵞タル大ナル足跡アリタリトスルモ、之ヲ以テ直ニ一婦人ノ足跡ト解スル能ハサラン。何トナレハ足跡ノ大サカ歩幅又ハ歩行角度ト相應セサレハナリ。

其他矮身者カ大ナル履物ヲ履ケルニ對シ之ヲ裏切レル曳指痕跡。長蹠者カ小サキ履物ヲ足ニ纏シテ歩行セル際ニ地上ニ附セラルル紐ノ凹痕。他人ノ履物ニ依テ足跡ノ偽造ヲ企テタルコトヲ却テ證明スヘキ凹痕ノ異常ノ鮮明。靴ヲ穿テ進メル方向ヲ反對ニ關著セントシタル者ニ對シ露見ノ種トナルヘキ地上凹痕ノ反自然的趾端ノ偏深等、偽計者破ノ證據トナルヘキモノ一ニシテ止マラサル也。要スルニ如何ニ周到ノ注意ヲ以テ吾人ヲ欺カントスル者ト雖、百千ノ各押痕ヲ執レモ全然同一方式

ヲ以テ贗造セラルルモノニ非ス、屢々其犯人固有ノ慣行ニ立戻リ處々ニ本來ノ地金ヲ露ハスノミナラス、吾人ハ足跡ノ何處カノ點ニ於テ必スヤ之ヲ見抜クヘキ材料ヲ發見シ得ルコトヲ知ラザル能ハス。

〔實例〕 或處ニ一夜偷兒侵入シ竊ニ金品ヲ奪取シ去リタル所、現場ニハ明ニ四人ノ足跡ヲ留メ、中ニ女ノ靴痕ヲモ交ヘタリ。之ヲ以テ見レハ四人ノ共犯ノ中ニ一人ノ女ヲ伴ヘルコトヲ直ニ推取セラレヌ。然ルニ其サニ各箇ノ足跡ニ就テ檢査セザレタル所、普通忍ビ入ル者ノ常態ニ反シテ此ノ足跡ハ執レモ深ク鮮明ナルノミナラス、女ノ靴痕ノ歩幅ハ蹠長ニ相應シタル小ナルモノニハ非サレキ。是レ男子カ女ノ靴痕ヲ故意ニ偽造シタルノ證據ニシテ、尙押痕ニ就テ仔細ニ取調ヘラレタル結果犯人ハ實ハ二人ナルコトヲ確定シタリ。

往年或降雪ノ夜群馬縣水郡ノ一農家ノ土藏ヲ破リテ衣類數十點ヲ竊取シ去レル犯人アリ。雪ノ上ニ於テハ土藏ヨリ庭園ヲ過リテ往來ヘ出テタル草鞋ノ足跡アレトモ、本來其者ノ侵入ヲ指示スル足跡モ見當ラザリシヲ以テ、出張ノ官吏ハ此ノ不可思議ナル謎ヲ解クコトヲ得ス甚シク捜査ニ困迷セリ。種々探偵ノ結果一犯人ヲ檢査シ得タル所、犯人ハ草鞋ヲ遺マニ履キテ侵入シ、退去ノ際ニハ土藏ノ裏ヲ流ルル小川ニ隨テ桂涉シ逃走セル旨ヲ自白シタリトイフ。

(乙) 手掌、指、爪ノ痕跡

犯罪現場ニ於テ往々發見スルコトアル手掌、指、爪等ノ片々タル型痕カ捜査舞臺上想ハサル一ノ大役ヲ演スルコトナキニ非ス。是等ノモノハ素トヨリ總テノ全形ヲ有リノ儘ニ殘ササルヲ常トスルカ故ニ直ニ犯人捜査ノ端緒ニ資スルコトハ甚困難ナルヘシト雖、如何ニ微形片痕ヲト雖兎ニ角個人判別ノ有力ナル材料トナルコトアルハ辭ムヘカラス。

I 特徵

(1) 大小、形態等ノ特徵。手掌及ヒ指ハ各人其ノ體格ニ從テ大小、形態ヲ異ニスヘシ。例令ハ長軀瘠



形ノ人カ細長キ指ヲ有シ、矮小ノ者ノ觸ルル所必スヤ小サキ一ノ手型ヲ殘スコトハ普ク世人ノ日常知  
 ルトコロナラム。故ニ現場ニ於テ不用意ノ間ニ殘サレタル是等犯人ノ訪問名刺ハ鑑識上ノ索引トナリ、  
 大略犯人ノ體軀ヲ認定シ得。ベルチオン氏モ身體一部分ヲ精確ニ測量シ以テ全身ノ體格ヲ割出シ得ル  
 モノトシテ之カ公式ヲ案出セルハ既ニ過去ノ事業ニ屬セリ。加之手掌ニ比シテ特別ニ指ノ短キアリ、  
 長キアリ、又ハ或ル指ノミカ格段ニ太キアリ、細キアリテ、構造上例外アルカ故ニ、此間ニ於テ充分  
 ノ特徴ヲ看取シ得ヘシ。殊ニ指先ニ疣ヲ有シ或ハ不具、疾病、災禍ノ爲メニ或ル指ヲ缺如セル者、或  
 ハ六本ノ指ヲ有スル異常者ニ至リテハ特徴ノ最タルモノ也。

〔實例〕昔叔姪ノ兩人アリテ其ノ仲好カラサル所、或時姪ノ家來カ叔ニ大ニ打擲セラレタルニ依リ、姪ハ含ム所アリテ其ノ家來ヲ  
 人知レサル處ヘ遣ハシテ深ク隠匿シ置キ却テ其ノ叔ニ對シテ言ヒ掛リテ爲シ、自己ノ家來ヲ叔カ追廻ハシ水中ニ墮レテ殺シタルカ  
 如ク訴ヘ出タリキ。面シテ其ノ家來ハモト六本指ノ不具者ナリシ所恰モ好シ六本指ヲ有セル屍體カ當時江中ニ漂ヒ居レルチ奇貨指  
 タヘシトナシ、之ヲ家來ノ屍體ノ如ク裝ヒヌ。檢屍ノ役人證議スル所屍體ハ六本指ニ相違ナク、且身體ニハ嚴打サレタル痕跡モア  
 レハ、ソハ叔カ殺害シタルモノト認メラレ彼ハ遂ニ獄ニ下サレタリ。叔ニ於テモ平素姪トハ大體當ナラサル間柄ナルノミナラス實  
 際其ノ家來ヲ打チタル覺エモアルカ故ニ、辯解モ通ラス空シク牢獄ニ呻吟シテ待ツノミナリキ。時ニ偶々叔ノ家來カ問題タル  
 六本指ノ隱レ家ヲ聞キ出シ來レル様子ヲ姪ニ於テ探知シ、コハ一大事ト思ヒ隱シ置ケル例ノ家來ヲ人知レス竊ニ殺害シテ水中ニ棄  
 置ケリ。然レトモ時既ニ週ク叔ノ家來ヨリ六本指ノ隱レ家ニ就テ委シク官憲ニ密告シ出テタレハ、姪ニ姪ノ謀忽ヲ露顯シ却テ彼ハ  
 罪ニ服スルコトトナリヌ。此ノ時先ノ檢屍ノ係リ役人モ大ニ替メテ蒙リタリト云フ。

爪ニ就テモ同様各人其形態ヲ異ニシ、即チ屈曲ノ度ヲ等ウセス。概シテ女子ハ男子ニ比スレハ穹隆  
 ノ度甚シ。加之爪ヲ長ク伸ハシタル儘剪截ヲ加ヘサル者アリ。如此ハ匹夫野人ニ於テ屢々見ルトコロ

ニシテ、爪ノ長サト文明トハ反比例ヲ呈セルカ故ニ、爪痕ノ深サヨリ犯人ノ階級職業等ヲ揣摩シ得ル  
 コトアルヘク。(農夫ハ鉞ヲ持ツ爲メ爪ハ)又中流階級以上ノ者ニ於テモ性質ト慣行トヨリシテ一部(例令  
 ハ小指ノ爪)或ハ全部ノ爪ニ對シテ常ニ手術ヲ施スコトヲ躊躇セルモノアルカ故ニ、此ノ個人的特徴モ亦犯跡ノ解剖ニ當  
 リテ看過スヘカラサル一點也。



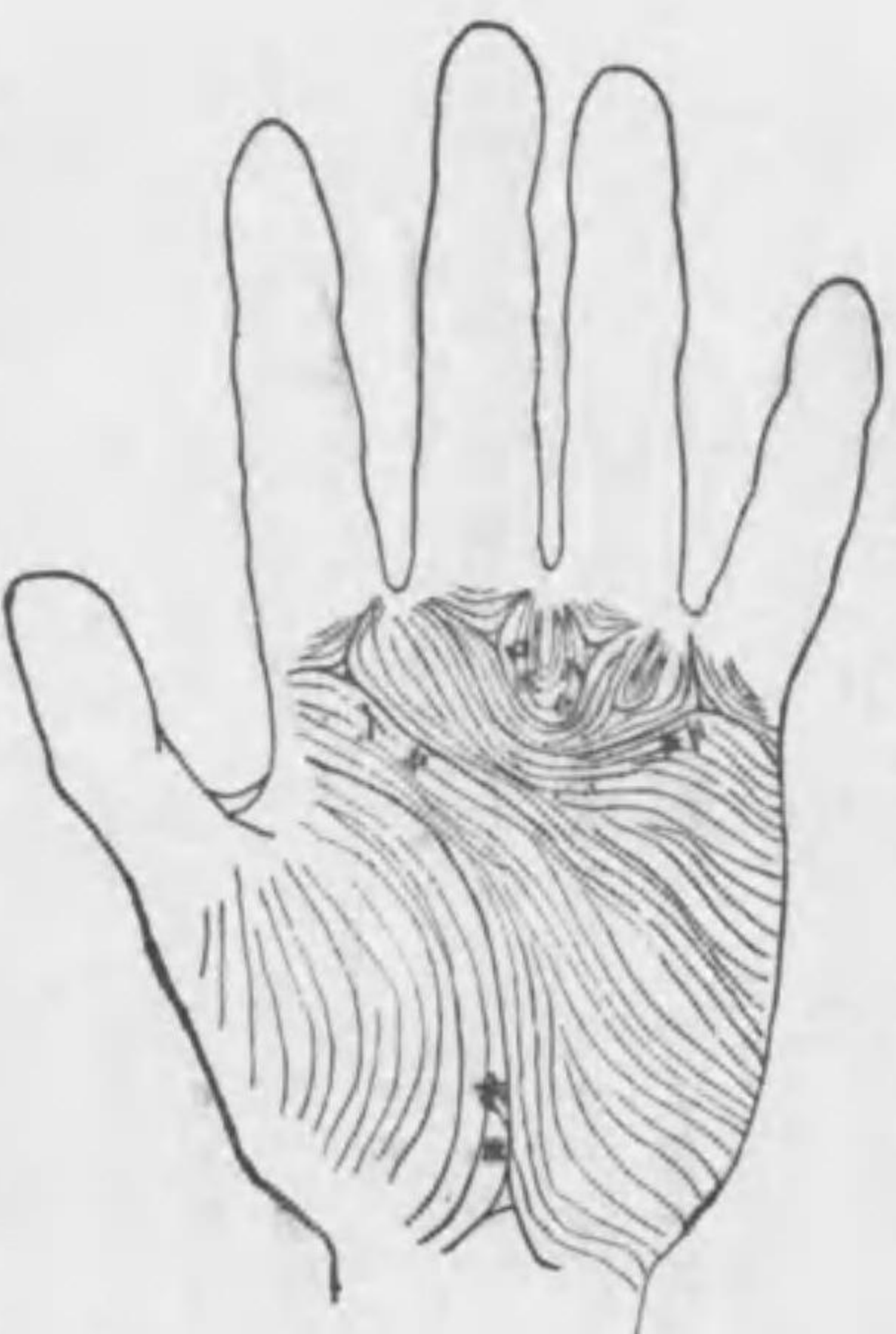
(2) 皺襞、溝條、紋線等ノ特徴。吾人一度手ヲ翻シテ其掌面  
 ヲ伺ヘハ大小無數ノ皺襞溝條ト、指頭ヨリ指並ニ掌根ニ掛ケ  
 テ一面ノ紋線(但シ紋線ノ潮流ハ主要線)ヲ以テ蔽ハレ居ルコトヲ知  
 ルヘシ。是等ノ皺襞並ニ紋線ハ吾人其面貌ヲ異ニスルカ如ク  
 人毎ニ依テ同シカラス。(我國ニテモ古來ヨリ觀相ノ一方法トシテ御手  
 ノ吉凶禍福ヲトシ得ルモノトナスカ如キモ畢)同一人ニ就テモ左ト右ト  
 寬人々ニ依テ各其個々ノ特徴ヲ有スルカ故也)ニ依テ又其筋ノ長サ、恰好、地位、個數ヲ異ニスルハ足跡ノ  
 皺襞ニ於ケルト其趣ヲ一ニセリ。是等ハ指紋ノ如ク刑事學上  
 極メテ貴重ナルカ故ニ若シ現場ニ於テ之レヲ發見セハ飽迄其  
 特徴ヲ詮議シ追究スルコトヲ要ス

II 證據採取

手掌ノ押痕ハ寫眞ニ撮影シ尙之レヲ寫眞ニテ擴大シ其皺、紋線其他ノ特徴ヲ明確ニシ嫌疑者ノ夫レ

ト比較對照ス。此場合精確ナル摸寫ヲ以テ之レニ代ヘ得ルハ勿論也。  
 指頭ノ凹痕、爪痕等ハ先ツ之レヲ摸寫シ置キ然ル後尙石膏其他ノ材料ヲ以テ其局部ノ摸型ノ一片ヲ  
 作り、此摸型ノ上ヘ原物ト同様ニ痕跡ヲ擬作ス。(例令ハ被害者ノ頸部ニ爪痕アラハ石膏ニテ摸型ヲ作り、精緻ノ  
 測量方法ノ補助ヲ賴リテ原物ト同様ナル爪痕ヲ其上ニ移シテ之レヲ  
 保存ス。)

紋線及山脈(主要線)ノ圖解



是等採取シ置キタル證據ト嫌疑者ノ手掌、爪、  
 指ト直接比較對照スルニ於テハ、被試驗者カ故  
 意ニ符合セサル様作爲シ、又ハ證據物ヲ毀損ス  
 ルカ如キ虞ナキニ非サルヲ以テ、嫌疑者ヲシテ  
 新タニ、手掌等ノ凹痕ヲ作ラシメ之レト證據物  
 トヲ靜ニ比較對照スルヲ可トス。尙吾人ノ事務  
 室ニ於テ嫌疑者ヲシテ試驗用トシテ手掌、指等  
 ノ押痕ヲ紙上ニ作ラシムル場合ニ於テハ現場ノ  
 押痕ト同一狀態ニ於テ試マシムルコト極メテ必  
 要也。

例令ハ原物カ多少右ヨリ左ニ滑リテ現ハレタル手掌ノ壓痕  
 ナラハ試驗押捺ニ際シテモ右ヨリ左ニ滑リ氣味ニテ蓋紙ニ觸レシムヘク、凸面ニ現ハレタル現場ノ掌痕ニ對シテハ同様凸面ニ蓋紙ヲ  
 置テ嫌疑者ノ掌痕ヲ採ルカ如シ。

(丙) 現場指紋

ガルトンカ指紋法ノ根柢ヲ確定シタルヨリ、歐米諸國ニ於テハ之レカ採用ト研究トナ競ヒ、累犯ノ確定爲名ノ發見ニ應用シテ尠ナ  
 カラサル便利ヲ得ルニ至リタルハ世人ノ熟知スル所也。然レトモ指紋ハ唯ニ累犯ノ確定ニ實スルニ止ラズ、所謂現場指紋ヲ採取シ之  
 レヲ基礎トシテ一度指紋臺紙ニ登載セラレタル前科者ノ何者カノ指紋ト符合スルカ否カヲ穿鑿スルハ勿論、全然前科ヲ有セサル當該  
 事件ノ眞犯人ヲ追究シ、確定スルニ極力利用セラレ居ルハ先進國ノ捜査界ニ於ケル現狀也。我國ニ於テハ指紋法ヲ犯人ノ異同識別法  
 トシテ採用セラレテヨリ年月ヲ閱スルコト未タ淺ク、從テ僅ニ前科者ノ異同又ハ偽名ノ發見ニ付テノミ之レカ利益ヲ輸入セルノ觀ア  
 ルハ蓋シ已ムテ得サルヘシト雖、進メテ直接捜査ニ充分應用シ其眞價ノ全幅ニ均當スルノ途ヲ研究スルヲ刻下ノ急務ト謂ハサル能ハ  
 ス。

犯罪現場ニ存スル犯人ノ指紋ヲ索引トシテ一直線ニ其事件ノ犯人ヲ追究スルカ如キハ、前科者ノ  
 場合ニ於テノミ試ミラレ得ヘキ事項ニ屬スヘシト雖、サリトテ前科ナキ者ノ新タナル犯罪ノ現場指紋  
 ハ捜査上其價値ノ尠少ナリト謂フヘキニ非ス。寧ロ足跡、爪、齒痕其他各種ノ痕跡ニ比シテ大ニ優  
 トモ劣ルモノアルコトナシ。何トナレハ場合ニ於テハ個々ノ指紋ノ狀態ハ犯人ノ年齢、職業、其他ノ  
 個別性事情ヲ推測スルノ支持點トナリ、之レヨリシテ犯人ノ範圍ヲ局限シ捜査ノ方針ヲ樹立シ得ルハ  
 他ノ痕跡ト毫モ擇フトコロナキノミナラス、逮捕シタル嫌疑者ノ指紋ト此現場指紋トヲ比較對照シテ  
 眞犯人タルコトヲ確定スルニ當リテハ他ノ痕跡ニ秀ツルコト數尺ノ上ニアリ。之レ極メテ微細ノ點ニ  
 於テ其特徵ヲ比較鑑別シ、以テ個別性ヲ判斷スルコトハ他ノ痕跡ニ比シテ絶對的確實ヲ期シ得ヘケレ  
 ハ也。

【實例】 東京市京橋區日吉町富眞藥小川一眞方へ忍入り價格三百五十圓ノ品物ヲ竊取シ去リタル犯人アリ。當地署ヨリ證據ヲ採ル

警察官ハ同室事務室内机上ト手提金庫トニ指紋アルヲ発見シタルヨリ之レカ指紋ヲ採取シ、指紋彙編ト比較シタル結果岡山縣生レ  
前科三犯毛利某(二四)ト判明シ、仍テ同人ノ所在ヲ搜索シテ遂ニ捕縛シタリ。

○サロノ或町ニ住メル巴里人ノ齒醫者ノ下僕カ、二三年前ノ或夜其ノ寢室ニ於テ何者カニ殺害セラレタルコトアリ。現場ヘ出張  
シタル司法警察官ハ、殺害者カ叩キ毀シタル貨幣櫃ノ硝子板上ニ被ノ明カナル指紋ノ存セルコトヲ発見シタリ。此ノ硝子板ハ直ニ  
裁判寫眞ノ設備場ニ送ラレ、其處ニ於テペルチヨン氏ハ電氣ニ依テ明白ニナシ以テ硝子ノ筒々ノ押痕ヲ撮影シ、之ヲ更ニ寫眞ニ依  
テ擴大シタル所、硝子板上ニハ犯人ノ右手ノ指、中指、環指カ押捺サレアルコト判明セリ。是レ恐ラク犯人カ硝子板ヲ破  
壞シタル後之ヲ取り外ツサムト試ミタル際ニ、持指ヲ硝子ノ外面ニ示指、中指、環指ヲ内面ニ押シ當テタル爲ニ生シタリシナラム。  
此ノ擴大セラレタル寫眞ニ基キテ人身測定ニ因ルル人相書ノ彙編ノ綴リヲ限ナク掃閲シ、硝子板ノ指紋ト同一ノモノナキヤ否ヤヲ詮  
議セラレヌ。此ノ人相書ニハ一度處分ヲ受ケタル者ノ寫眞ト指紋ヲモ共ニ登録セラレタル也。搜索ノ結果實際符合スル一ノ犯罪人  
ノ人相書ヲ発見セリ。ソレニハ其ノ者ノ寫眞ト指紋トアリ。尙身長、腕ノ長サ、胸幅、頭ノ丈及幅、額骨ノ直徑、右耳ノ長サ、足  
及中指、環指ノ長サ、左下脚ノ丈、眼、毛、髯ノ色、皮膚ノ色合並ニ裏面ニハ其ノ者ノ姓名、生年月日ト出生地トヲ記載セラレタ  
ル也。

斯クシテ巴里ノ監獄官ハ犯罪實行後二十四時間ニシテ當該事件ノ犯人ノ寫眞、姓名並ニ精細ナル人相書ヲ捜査官ヘ交付スルヲ得タ  
リ。茲ニ於テ係官ハ此ノ人相書ヲ全佛國ノ警察署ヘ打電シ犯人ノ取押方ヲ囑託シタル所、數時間後ニシテ犯人ハマルセーユニ於テ  
逮捕セラレヌ。

○大正五年八月神奈川縣小田原町在ノ或寺ヘ二人ノ強盜押入リ多額ノ金品ヲ強奪シ去リタルコトアリ。現場ヘ出張シタル一刑事ハ  
寺ノ附近ニ於テ牛ハ喰ヒ掛ケノ大福餅ノ捨テアルヲ発見シ。之ヲ仔細ニ檢スルニ指紋ノ跡歴然タルモノ存セルヨリ萬一考慮直ニ  
司法省監獄局ヘ送付シ指紋彙編ト對照方ヲ請求シタリ。

岡局ニ於テ嚴密ニ檢査ノ結果、豈圖フムヤ右ハ大正四年大赦令ニ依テ札幌監獄ヨリ假出獄ヲ許サレタル山崎某ノ指紋ナルコト判明  
シタルヲ以テ、早速彼ヲ逮捕シタル所、果シテ其ノ者等ノ所爲ニシテ該大福餅ハ彼等カ犯行前寺ノ附近ノ駄菓子屋ニテ十錢程買求  
メ喰ヒタルモノノ一箇タリシコトヲ知り得タリ。

○大正八年二月十日午後八時頃三重縣四日市市、木村病院藥局室内机上ニアリタル手提金庫ヲ破壊シ、金六十圓及暗室内ノ金庫ヨ  
リ金二百三十圓ヲ劫取シタル犯人アリ。警察官カ現場ヲ取調フルニ、賊ハ藥室ノ窓ヲ開キテ忍入リ同所ヨリ食堂ニ通スル呼鈴線ヲ  
切断シ、先ツ往診用手提靴ヲ開キ在中ノ書類ヲ取り出シ散亂シタル後金庫ヲ襲ヒタルモノ、如シ。然ルニ諸般ノ状況ヨリ考察スル  
ニ、或ハ家人ノ所爲ニ非スヤト認メラルル點アリタルヨリ其注意ヲ以テ取調ニ著手シ、電燈ノ光ニヨリ詳細點檢スルニ手提金庫ノ  
蓋ノ塵粉上ノ一端ニ一箇ノ指紋(二重跡狀)アルヲ発見シタリ。之レ賊カ左手ニテ金庫ヲ支ヘ、右手ニテ鐵製ノ蓋ヲ破壊スル際  
ニ印セラレタルモノノ如シ。然ルニ此指紋カ同日午後八時頃被害者方ヨリ自宅ヘ歸リタル藥局員林某(一九)ノ右手持指ノ指紋ト全  
然一致スルコト判明シタル依リ、同人ヲ取調メタル處、包ムニ由ナク犯人ヲ自供シタリ。

○往來ドレスタンニ起リタル一殺人事件ニ於テ現場檢査ノ結果堅固ナル一本ノ木材ノ上ニ犯人ヨリ附セラレタリト思料セラル、血  
ノ一箇ノ指紋ヲ発見シタリ。鐵線係長ノドクトル・ベツカー氏ハ此ノ現場指紋ト多クノ嫌疑者ノ指紋トヲ比較シテ其ノ個別性特徴  
ノ點ヲ穿鑿シタル處、兩者ノ指紋カ絕對的合致ヲ呈スル一人ノ男ヲ遂ニ発見セリ。其ノ男ハ包ムニ由ナク該テノ事實ヲ自白スルノ  
己ムナキニ至リタルカ、此ノ指紋ハ六箇ノ點ニ於テ其ノ特徴ノ符合ヲ見タリキ。

○警テ東北ノ或地方ニ於テ酒造稅法違反ノ檢舉ノ爲ニ某村落ヘ出張シタル稅務官更カ、何者カニ鐵ヲ以テ撲殺セラレタル事件起レ  
リ。兇器トシテ使用セラレタル鐵ノ頭部ハ一面ニ血ヲ以テ掩ハレ當時ノ慘狀ノ狀ヲ露リテ餘蘊ナキモ、此鐵カ何人ノ所有ニ屬スルヤ  
ヲ告クル一人ノ村民モナク捜査ハ極メテ困難ナリキ。然ルニ鐵ヲ仔細ニ吟味シタル結果、柄ノ上端ニ附著セル泥土ノ上ニ數カナル  
血ノ指紋ノ一片ヲ発見シタルヨリ、之ヲ寫眞ニ撮影シテ擴大シ置キ、次テ檢舉セラレタル該事件ノ最有力ナル嫌疑者ノ兩手ノ指紋  
ヲ取り之ヲ寫眞ニ依テ擴大シ、嚴密ニ比較穿鑿シタル所左持指ノ隆線ノ或部分カ柄ノ上ノ指紋ノ一片ト全然符合シタリ。是クテ頑  
強ニ否認シ居リタル被告モ、之カ爲メ遂ニ犯罪ヲ自白スルノ己ムナキニ至レリ。

(1) I 現場指紋ニ於テ注意スヘキ特徴  
指頭隆線ノ特徴。吾人カ若シ犯場ニ於テ一個ノ指頭押痕ヲ発見シタルトキニハ次ノ特徴ニ就テ仔

細ノ檢數ヲ要ス。(イ)指頭隆線ノ起源、(ロ)分岐線、(ハ)鳥形線、(ニ)孤點即チ是ナリ。現場ノ指紋ヲ嫌疑者ノ夫レト比較スルニ當リ、或ル一定ノ個所ニ於テ之レニ該當スル起源、分岐線、鳥形線、孤點等存スルヤ否ヤ、若シ存スルトセハ雙方ハ全然同一ナルヤ否ヤノ穿鑿ハ、固有性ヲ識別スル上ニ於テ最ニ信憑シ得ヘキ支持點トナル也。(左圖並ニ七五頁)



(2) 其他ノ特徴。負傷ノ爲メニ指頭ニ瘡痕ヲ殘セル者ノ指紋ハ明カニ其痕跡ヲ表彰ス。即チ其部分ノ隆線ハ之レカ爲メニ中斷セラレ押痕ニ於テハ白線ヲ以テ現ハルヘシ。負傷ノ瘡痕ニ非スシテ先天的ニ存スル指頭ノ溝條ノ如キモ之レト同様異同鑑別ノ分岐線トナル。指頭ニ於ケル丘疹、膿潰ノ如キモ押捺ノ痕跡ニ依テ之レヲ認識スルコト難カラス。

II 現場ニ於ケル凹線指紋

一般ニ指紋ハ指頭隆線(凸線)ニ應シテ物體ニ表ハルルヲ原則トス。然シナカラ又稀ニハ却テ指頭凹線ニ依テ形成セララルル現場指紋アルコトヲ看過スヘカラス。斯クノ如ク指紋カ全ク反對ノ現象ニ表ハル場合ヲ想到スレハ、犯人カ血液、墨汁、色素等ニ依テ染マレル指先ヲ以テ一度簡單ニ他ノ物體ニ觸レ、又ハ輕ク擦スリ、隆線上ノ汚物ヲ拭ヘル

後、更ニ其指頭ヲ以テ堅キ滑カナル他ノ物體ヲ強ク壓スルトキニハ、凹線ニ尙殘留セル汚物カ押シ出タサレテ物體ノ表面ニ附著シ、茲ニ消極的ノ指紋ヲ現出スルニ至ル也。

註 彼ノ柔キ粘土、溶解シ始メタル蠟ノ如キ粘ク軟カナル物體ヲ指先ニテ觸ミタル場合ニ於テ生スル指紋ノ、凸線ノ部分ハ却テ指頭ノ凹線ニ該當シ、凹線ノ部分カ即チ指頭隆線ニ依テ作ラレタルモノナルコトニ注意セサル能ハス。尙被告人ノ指紋原紙作成ニ當リテモ消極指紋ヲ押捺セシムルカ如キ粗忽アル可カラサルハ勿論也。

【實例】 大正六年二月二十四日夜、福岡市郊外住吉町ノ假寓ニ於テ、福岡俘虜收容所ニ收容中ナル獨逸海軍少佐ノ夫人ナルイルマカ兒賊ノ爲メ擄殺セラルル事件アリ、現場ニ於テ屍體ノ横ハレル附近ノ襖ニ血ノ指紋數、附着シ居リタルカ、其中一個ノ比較的明瞭ナルモノヲ發見シタル依リ、被害者ノ指紋ヲ採リ對照シタル處、孰レニモ該當セサルヲ以テ犯人ノ指紋ナルコトヲ確メラレタリ。

其後四月八日ニ至リ本件ノ贓品ヲ携帶セル田中某ナル者小倉市ニ於テ逮捕セラレタルヨリ、同人ノ指紋ト現場指紋トヲ比較シタル處、酷似セルニ不拘全然符合セルモノトハ謂フ可カラサリキ。茲ニ於テ高山醫學博士



ハ研究ノ結果、寫眞ニ攝レル現場指紋ノ黑線ヲ假リニ白クシ、白線ヲ假リニ黑クナシ見ルトキニ犯人田中ノ右示指ノ指紋ト符合セルヲ發見シタルヨリ、更ニ寫眞ヲ利用シ擴大其他ノ方法ヲ講シテ遂ニ同一性ヲ精確ニ證明スルコトニ成效シタリ。(七六頁圖參照)

III 指紋ヨリ犯人ノ年齢、職業ノ推定

吾人ノ指紋ハ出生ヨリ死亡ニ至ル迄不變不易ナルヲ特色トスレトモ、人ノ骨格ハ二十歳迄年々發達シ從テ筋肉モ或程度ニ増大スルヲ以テ、指頭ノ發育スルニ比例シテ各紋線ノ間隔ハ自然遠サカルノ結

果ヲ生スヘシ。故ニ一定ノ尺度ヲ準據トシテ論スレハ、或長サノ上ニ於ケル指頭隆線ノ數ハ年齢ニ反比例シテ減少スヘキノ理由也。

フオルゲナット氏ノ觀察ノ結果次ノ如キ數字ヲ發表セリ。即チ指頭ノ中央ニ於テ五ミリメートルノ線ヲ隆線ニ垂直シテ立テ、此間ニ存在スル隆線ノ數ヲ計算スルトキニハ、乳兒ノ指紋ノ押痕ニ於テ十五乃至十八ノ隆線ヲ測リ得タルモ、八歳ノ小兒ニ於テハ十三線ニ附屬セル犯人ノ現場指紋



犯人田中ノ指紋

I II 現場指紋ノ保全

犯場ニ於テ如何ナル箇所如何ナル物體ニ貴重ナル犯人ノ指紋ヲ殘セルヤノ點ニ就テハ、其當時ニ於テハ殆ント何人モ知ルコト能ハサルヲ常トスヘク、現場ニ指紋カ鮮明ナル影痕トシテ吾人ノ目ニ觸ル

免ニ角吾人カ一定ノ長サノ上ニ存スル指紋ノ隆線ヲ計算シテ凡ソ其個人ノ年齢ヲ推定シ得ヘキコトハ辭ムヘカラス。高齢者ニ至リテハ手掌、指頭共ニ數十年間ノ使用ノ爲メニ皮膚ハ硬固トナリ、隆線ハ甚シク磨滅消耗シ、其押痕ニ於テ鮮明ナル隆線ヲ認メ得サルヲ特徴トス。之レト同シク或ル一定ノ手工ニ從事シ居ル者ハ常ニ特定ノ指頭ヲ使用スルモノナルカ故ニ、其個所ノ指紋ハ磨滅シ、茲ニ職業ニ對スル象徴ヲ發見スヘシ。

例令ハ裁縫師又ハ針ヲ以テ働ク婦人ノ大多數ハ指先ニ於テ特徴アル窪ミヲ有スルカ爲メニ之レカ押痕ニ於テハ小サキ點トシテ現ハルヘシ。若シ夫レ水ノ裁縫業ニ從事シ居ル婦人ナラシカ指紋ハ全然消耗シ去レル程ニ此制衡ハ厚化シ指頭ノ押痕ニ於テハ唯黒及ヒ白色ノ斑點トナリテ現ルヘシ

ル場合ハ極メテ稀ニシテ、若シアリトスルモ多クハ不表現的ノ指紋トシテ形影ヲ潜ムルヲ一般トス。故ニ犯人ノ手ニ觸レタリト思惟セラレ又ハ接シ得ヘカリシ一切ノ器物、箇所等ニハ出張ノ官吏ハ細心ノ注意ヲ拂ヒ折角ノ痕跡ヲ毀損セサル様之レカ保全ヲ要スルト共ニ、是等疑ハシキ證據物ヲ成ルヘク多ク搜索シテ餘ササルヘキ也。指紋ノ附着シ居ルヘシト思料セラルル窓硝子、茶碗、抽手ノ金具、金庫、壘、電燈ノ球、紙、鶏卵等ノ如キハ直接手ニテ掴ミ、又ハ他ノ物體ト擦レ合ヒ、雨水ニ濡レシムル等ハ嚴ニ之レヲ避クヘシ。粘土、蠟燭等ノ軟キ材料ニ存セル顯著ナル指紋、「ペンキ」「ニス」類ヲ以テ塗り立テノ木材ノ上ニ押壓セラレタル明白ナル紋線等ハ、毀損セサル様完全ニ荷造ヲ爲シ領置スヘキハ言ヲ俟タス。

(丁) 手掌痕、指紋等ノ採取

人ノ皮膚ヨリハ四六時中ニ於テ一面ニハ汗ヲ排漏シ、他面ニ於テハ脂肪ヲ分泌シツツアルモノニシテ、若シ皮膚ノ一部分、例令ハ指頭、指、手掌等カ他ノ滑カナル物體ノ平面ニ觸レタルトキニハ、必スヤ脂肪及ヒ汗ヲ其皮膚上ニ存スル渦紋ノ模様ニ於テ明カニ之レヲ附着セシメサルヘカラス。故ニ夏季ニ於テハ犯場ニ多クノ指紋ヲ留ムヘク、之ニ反シテ極寒ノ際犯人カ永ク屋外ニアリテ後侵入シタルカ如キ場合ニハ現場ニ於テ指紋ヲ發見スルコト極メテ困難ナルヘシ。然シナカラ亦犯人カ重大犯罪ヲ決行スル間ニ於テハ、心氣興奮ノミニ因リテモ之等ノ排泄物ヲ分泌スル機能ヲ旺盛ナラシムルカ故ニ、觸ルルトコロノ物體ニハ多量ニシテ十分ナル押痕ヲ留ムルノ事情ヲ知ルヘキ也。

(一) 汗又ハ脂肪ヨリ成ル指紋ノ如キハ色素ノ點ヨリ之レヲ見分クルコト極メテ困難ナルカ爲メニ、

其土臺タル物體ノ性質如何ニヨリテハ肉眼ヲ以テシテハ容易ニ認識シ能ハナレトモ、硝子板又ハ磨カレタル金屬等ニ存スル、時日ノ經過セサル生々シキ指紋ニ就テハ斜光線ニ照シ肉眼ニテ直ニ識別シ得ヘシ。此場合ニ唯色素ノ粉末ヲ其上ニ撒布スルコトニ依テ、一層其押痕ヲ鮮明ナラシメ得ルハ世人ノ周知セル處ナラム。其粉末原料トシテハ穀粉タルト他ノ粉末タルト間ハナルモ、脂肪ト容易ニ結合シ得ルモノナラサルヘカラス。之ニ就テ鉛白粉、光明丹(紅色)花綠青(綠色)等ハ普通簡易ニ使用セラ

ル撒布材料也。  
撒粉器トシテハ「スボイド」ヲ應用トシテ利用セバ可ナリ。即チ「スボイド」ノ中ニ粉ヲ入レ「スボイド」ノ腹面ヲ壓シテ粉ヲ噴出セシム。ニケフオロロ氏ハ紙上ニ存スル新シキ指紋掌痕等ニ對シテハ石鉛(黑色ノ粉末)ガ最可ナリトシテ推獎セリ。一見シテハ認め難キ紙上ノ押痕モ石鉛ヲ撒布セバ直ニ其濁紋ヲ露出セシメ得ヘシト謂ヘリ。尙石鉛ニ代フルニ辰砂(朱)ト中性ノ粉末(滑石ノ如キ)ノ一ニ對スル十ノ割合ニテ混合セルモノカ、又ハ藍ノ如キ材料ヲ以テスルコトヲ得

粉末ノ使用ニ際シテハ押痕、渦紋等ノ附著セル土臺タル物體ノ色台ヨリ顯著ニ區別セララルル反對色素ヲ以テスヘキハ言フ俟タス。(例令ハ白色ノ物體ノ表面ニ押捺サレタル無色ノ脂肪指紋ニ就テハ藍又ハ紅色ノ粉末ヲ撒布スルニ對シテハ白色ノ粉末ヲ撒布スルガ如シ)

(二) 若シ硝子等ニ存スル無色ノ渦紋ニシテ生新ナラサルモ尙微カニ其ノ影痕ヲ覗ヒ得ルカ如キモノニ付テハ、吾人ノ氣息ヲ吹掛ケテ一時其渦紋ヲ變化セシメ得ヘシ。然シナカラ現出シタル幻像ハ氣息ノ蒸散スルト共ニ直ニ其姿ヲ掻キ消スカ故ニ、之レヲ寫眞ニ撮影センニハ極メテ敏捷ナラサルヲ得ス。之レニ對シテニケフオロロ氏ハ渦紋ノ存スル硝子ノ裏面ニ「エーテル」ノ一、二滴ヲ垂ラシ、然ル後表面ニ氣息ヲ吹キ掛ケルトキニハ、撮影ノ時間中ハ優ニ氣息ノ蒸散ヲ見スト謂ヘリ。尙氣息ノ吹キ掛ケニ代フルニ硝子ノ裏面ニ黒紙ヲ貼付ケテ脂肪紋線ヲ明ニ爲シ得ルコトアリ。

(三) 比較の時ヲ經過シタル爲メ、又ハ土臺タル物質ノ性質上ヨリ全ク認識スルコト能ハサル隠レタル手掌、指等ノ紋線ハ唯化學的方法ニ依テ之レヲ映出セシメ得ヘシ。之レニ關シテ數多ノ方法ナキニ非スト雖、現今ノ我國ノ捜査界ニ余カ特ニ推獎スヘキ價值アリト信スル最簡便ニシテ、有效ナル方法ハ左ノ三種ニアリトス。

(1) 鉛白粉ト硫化「アンモニヤ」蒸氣ノ施用

木片、紙面、硝子、金屬等ニ存スヘクシテ肉眼ニ依リテハ見ルコト能ハサル指紋其他ノ紋線ニ對シテハ、其疑ハシキ箇所ノ上ニ鉛白粉(一名酸化鉛)ヲ「スボイド」ニ依テ撒布シ、其土臺ヲ慎重ノ注意ヲ以テ輕ク打テ餘分ノ粉末ヲ拂ヒ落シ、然ル後其上ヘ二、三分間硫化「アンモニヤ」ノ蒸氣ヲ掛クルトキニハ(硫化「アンモニヤ」ナル液體ヲ入レアル瓶ノ栓ヲ拔ケハ蒸氣ハ瓶ヨリ霧ノ如クニ起リ揚ル)紋線ノ模様ハ黑色ヲ呈シテ明白ニ其姿ヲ現ス。(Bartillon)  
酸化鉛、硫化「アンモニヤ」ハ共ニ極メテ安價ナル藥品ニ屬スルノミナラス、試驗物カ日光ノ當ラサル所ニアリテ且容易ニ其部分ヲ動かスコト能ハサル場合(例令ハ新シキ柱ニ於ケル陰レタル指紋)ニ於テモ此材料ヲ用ヒテ成效シ得ルカ故ニ、該方ハ極メテ價値アリ。現ハル紋線ハ黑色ナルカ故ニ紋線ヲ包藏スル土臺カ白色カ然ラズンハ黃色等ノ如キ薄キ色ヲ帶フルモノナラサル以上ハ之レヲ施スモ效ナキハ勿論也。酸化鉛ハ稍粗粉ニシテ尙濕氣ヲ帶ヒ易キニ付キ、使用セントスル際ニハ之レヲ乳鉢ニテ細ク搗リタル後、紙上ニ載セテ直火ニテ乾燥セシムルヲ可トス。

尙余ノ研究スル處ニ依レハ酸化鉛ニ代フルニ炭酸蒼鉛ヲ以テスルコトヲ得ヘシ。

即炭酸蒼鉛ノ粉末ヲ撒布シ其上ニ硫化「アンモニヤ」ノ蒸氣ヲ掛クルトキニハ、紋線ハ帶弱褐色トナリテ其姿ヲ露スルハシ。故ニ土臺カ黑色ナル場合ニ此方法最可也。但シ鐵ヲ除キ、銀、銅、眞鍮、鉛、錫、等ノ金屬上ニ存スル指紋ニハ之レヲ用フルモ效ナシ。  
硫化「アンモニヤ」ヲ用ヒテ紋線ヲ現ハシタルトキ、之レヲ永ク保全セント欲セハ「ラツク」ヲ「アルコ

ホル」ニ溶解セル液體（「ラック」一、ニ對スル「アルコール」百ノ割合）ヲ其上ニ靜ニ注キ掛クヘシ。  
(2) 硝酸銀溶液ノ施用

紙又ハ板面ニ附着セル指、足跡等渦紋ノ痕跡ハ「パーセント」ノ硝酸銀溶液（即硝酸銀、八「グラム」ニ對シ水百「グラム」ノ割合）ヲ其上ニ塗り、之レヲ日光ニ曝スコトニヨリテモ現出セシメ得ヘシ。之レ汗ノ中ニ包含セララル鹽化「アルカリ」カ稀薄ナル硝酸銀溶液ニ會シテ鹽化銀ノ沈澱物ヲ生シ其鹽化銀ハ日光ニ依リテ數分間ニシテ黑色ニ變化スルカ爲也。（Wainwright）  
此場合ニ硝酸銀液ヲ疑ハシキ土臺ノ上ニ筆ニテ塗ルコトハ躊躇ヲ要ス。何トナレバ筆ニ依テ折角存在セル押痕ヲ毀損シ去ル惧アレハ也。

最安全ナルハ硝酸銀溶液ヲ先ツ小サキ皿又ハ皿ニ移シ其中ニ試驗物ヲ一時浸スコトニアリ。試驗物カ若シ皿ニ入レ得サル大ナル物體ナルトキニハ、噴霧器ニ依テ液ヲ注キ掛クルニアリ。但シ其場合噴霧器ハ硝酸銀ノ爲メニ化學反應ヲ受ケサル材料ニテ作ラレタルモノニ限ル。此方法ニ依リ現ハレタル紋線ハ黑色又ハ暗褐色（但シ紋線以外ノ部分ニシテ硝酸銀ノ作用ヲ受ケタル箇所ハ皆褐色ト成リ其褐色ノ中ニ紋線ハ黒又ハ暗褐色ヲ以テ現ハル。）ヲ呈スルガ故ニ、硝酸銀液ハ施スヘキ土臺カ白色又ハ黄色ニ非スニハ効チ爲ササルモノト知ルヘシ。尙硝酸銀液ヲ貯フルニハ太陽ノ光線ヲ防禦スヘク、若シ色ノ硝子壺ニ入レ置クノ注意肝要也。硝酸銀ノ作用ニヨリ土臺タル木材等カ燒ケ付キ褐色ヲ呈シタル場合ニ之レヲ試キ去ラント欲セハ、次亞硫酸曹達ヲ濃厚ニ水ニ溶解セシメタルモノヲ綿布ニ浸シ此綿布ニテ拭取ルヘシ。

(3) 沃度蒸氣ノ施用。

疑アル紙、木片、等ニ沃度蒸氣ヲ掛クルトキ（沃度ノ一破片ヲ茶碗ニ入レ火ニテ暖ムルトキニハ紫色ノ蒸氣ヲ發ス）若シ紙面等ニ脂肪ノ渦紋線アラハ之レト沃度ト抱合シ茲ニ明白ナル痕跡ヲ浮キ出サシム。但シ此痕跡ハ數分間ニシテ消失スルノミ

ナラス、日數ヲ經過セル紋線ニ對シテハ其效果ヲ生セス。（Mickolo）  
（沃度蒸氣ニ依リテ現ハル紋線ハ、暗褐色ヲ呈スルカ故ニ白色又ハ薄褐色ノ土臺ニ現出チ見ルコト能ハズ）此方法ニヨリテ露ハレタル痕跡ハ數分間ニシテ消失スルカ故ニ直ニ寫眞ニ撮影シ置クカ、或ハ其他ノ保全ノ方法ヲ講セサルヘカラス。  
（之ニ關スル一方法トシテ痕跡自體ノ上ニ澱粉糊液（澱粉一注キ掛ケ永久保存シ得ヘシ。之レ澱粉カ沃度ト化合シタル結果藍色ニ變スルニ因ル。）  
乃至五グラムト水百グラムノ割合ノ混合ヲ煮タルモノ）ヲ

(戊) 齒痕

(1) 犯罪現場ニ於テ齒痕ノ印セル物體ヲ發見シタルトキハ先ツ犯人ノ齒型トシテ犀利ノ觀察ヲ放タサルヘカラス。輕微ナル齒痕ノ如キハ其者ノ齒型ヲ推測スルコト聊困難ナルヘシト雖、比較的深キ凹痕ニ付テハ此痕跡ヨリシテ大凡犯人ノ齒列ノ形態、整亂或ハ特徴ヲ容易ニ認定シ得。  
（例令ハ門齒ノ一枚缺損齒列ヨリ脱シ或ハ異常ニ小又ハ大ナル一個ノ齒有スルカ如キ特徴ハ之レカ齒痕ヨリ直ニ識別シ得ヘシ）是等ノ場合ニ於テハ齒痕ノ模様、個々ノ齒痕ノ形、幅、厚サ一ノ齒痕ト隣接セル他ノ齒痕トノ距離等ヲ精細ニ測定シ、描寫又ハ記載シ置クヘキコト肝要也。

(2) 小サキ物體ニ附セラレタル齒型ニ就テハ其物自體ヲ證據トシテ採取セハ事足レルモ、大ナル物ニ附セラレタル齒型ニ就テハ先ツ之レヲ描寫シ若クハ寫眞ニ撮影シ置キ、然ル後石膏其他ノ材料ヲ以テ其局部ノ模型ヲ作り其上ニ原物同様ノ痕跡ヲ擬作スヘシ。

(3) 現場ニ於テ發見シタル齒型ト嫌疑者ノ齒ト符合スルヤ否ヤヲ檢スルニハ嫌疑者ノ齒型ヲ鑄造シ之レト比較對照ス。此場合齒型ハ最寄リノ齒醫者ニ依頼シテ作成セシムルヲ便宜ニシテ確實ナルヘシト雖、一學者ハ其材料トシテ白又ハ黄色ノ新シキ蜜蠟、護謨、捏粉、石膏等ヲ推薦セリ。

【實例】 〇〇管テ茨城縣ノ或町ニ於ケル側頭菓子製造屋ヘ忍入り、寶酒金ヲ劫取シタル上、菓子ヲ多ク喰ヒ立去リタル盜賊アリタリ。

白土警部補ハ現場ニ於テ賊カ喰ヒ掛ケノ儘拾テ行キタル一個ノ駄菓子ヲ發見シ之ヲ檢シタル處、其喰ヒ痕ノ如何ニモ小サク子供ノ口ノ如クナルニ著眼シ、犯人ハ子供ナルヘシトノ見込ヲ付ケ捜査シタル結果、附近ノ神社境内ニ遊ヒ居レル一人ノ子供ヲ嫌疑者トシテ引致シ取調ヘタル處、全ク其者ノ所爲ニシテ尙七、八ヶ所ノ忍込盜ヲモ自白シタリ。

大正五年二月二十二日ノ夜高知縣長岡郡東豊永村郡築某方倉庫内ニ合鍵ヲ用テ侵入レタル盜賊アリ。此事ヲ感知シタル主人ハ倉庫ヘ到リ引捕ヘントシタルヨリ被ニ格闘トナリ、遂ニ賊ハ主人ノ右手肘ニ咬付キ同人が驚キ離シタル機ニ乘シテ逃走シタリ。此報ヲ得テ出張シタル中屋巡查ハ遺留ノ銀力製機寸箱ヨリ木挽職ナルコトヲ推定シ、尙被害者ノ手肘ノ喰痕ヨリ前齒一本缺損シ居ル者ト知り、之ヲ基本トシテ捜査ヲ開始シタリ。仍テ同地ノ木挽二十有餘人ニ就キ内偵シタル處、久保某(強盜前科者年四十七)ナル者當時徳島縣方面ヘ赴キタル方同人ノ前齒一本抜ケ居レリトノ事實ヲ探知シタルヨリ、直ニ追跡スルコト、ナリタル處、遂ニ同人ノ所在ヲ發見シタリ。仍テ雜話ニ託シ同人ノ齒狀ヲ何フニ前齒一本ノ缺如セルコト確ナルヨリ、前示ノ犯罪ニ付テ取調ヲ開始シタル處、最初ハ極メテ頑強ナリシモ被害者ヲ招致シ其手肘ノ喰痕ト照對セシメタル結果、嫌疑者ハ遂ニ包ミ切レス及手ヲ突キテ自白スルニ至レリ。因ニ被ハ強盜傷人トシテ懲役九年ニ處セラレタリ。

③ 竊盜ニ於ケル或強盜事件ニ於テ現場檢査ノ結果犯人カ幾分喰ミタル乾幣ノ殘片ヲ拾テラレタルヲ發見シタルカ、齒ノ凹痕ヨリシテ犯人ノ齒ノ一本ハ正シク缺損シ居ルコトヲ知り得タルニ依リ、之ヲ唯一ノ證據トシテ捜査シ直ニ一人ノ有力ナル嫌疑者ヲ逮捕シ、其ノ者ノ齒型ヲ石膏ニ鑄造シ、此ノ鑄型ト現場ノ乾幣ニ附シアルモノトヲ比較スルニ兩者ハ全然符合シタリキ。

④ 佛蘭西ニ於テ嘗テ著名ナル銀行家カ其ノ住宅ニ於テ何者カニ殺害セラレタルコトアリ。係官ノ檢證當時ニ於テハ何等探ルヘキ證據トモナキカ如ク捜査ハ極メテ困難ナリキ。然ルニ出張ノ一刑事ハ屍體ノ側ニ拾テラレアル一本ノパイプヲ何氣ナク取上ケタル處、二箇所ニ於テ永年ノ慣行ニ因テ生シタル顯著ナル咬ヘ痕ヲ發見シタリ。仍テ之ヲ直ニ死人ノ齒ニ當テ檢シタルニ、毫モ符合セサルヲ以テコハ正シク犯人ノ遺留シタルモノトノ確信ヲ得、此ノ齒型ヲ唯一ノ手懸トシ嚴重ニ捜査シタル所、其ノ家ノ一雇人ノ齒カ全然此ノ凹痕ト一致シ其ノ者ヲ犯人トシテ槍撃スルコトヲ得タリ。

⑤ 嘗テノイイリニ竊殺シノ事件アリ。其ノ婦人ハ上顎ニ於テハ唯一本ノ齒ト下顎ニ於テハ不規則ニ殘存セル三枚ノ齒トナリ有シ

タルカ此ノ齒列ノ鑄型ハ犯人ノ手ニ殘レル眞像ト嚴密ニ一致シタリ。  
⑥ 或時乙カ甲ニ襲撃セラレタルカ其ノ際乙ハ狼犬ヲ伴ヒ居リタルヨリ、犬ハ主人ノ危難ヲ救ハムカ爲メ猛然トシテ攻撃者タル甲ニ飛ヒ襲レリ。甲ハ遂ニ之カ爲ニ辭退シ最後ノ目的ヲ達シ得スシテ逃ケ去リヌ。此ノ事件ニ就テ甲ハ取調ヲ受ケタル處全ク自己ノ行爲ニ非ル旨ヲ主張シテ他迄犯罪ヲ否認シ、其ノ左ノ咬ニ受ケタル犬ノ咬傷ハ乙ノ犬ニハ非ス、丙ノ飼養セル一匹ノ偉大ナルニユーフラウンドラフド犬ヨリ咬ミ付カレタルナリト虚構セリ。茲ニ於テ鑑定人ハ咬傷ニ於ケル犬齒ト眼齒トノ距離ヲ測ルルニ一瓩米突アリ。而シテ二匹ノ犬ノ齒ヲ測量シタル結果正シク乙ノ犬ノソレト合致シタルヨリ、事件ハ遂ニ有罪ニ決定セラレタリ。

(二) 車轍ノ痕跡



犯場ニ於テ若シ自轉車、人力車、荷車、自動車等ノ車轍ノ痕跡ヲ發見シタルトキニハ、先ツ轍跡ノ幅、兩輪間ノ距離ヲ測量シ痕跡ノ状態ヲ仔細ニ觀察シテ其ハ金輪又ハ護謨輪ニ基因セルカヲ檢査スルハ勿論、尙轍跡ニ現ハレタル車輪ノ缺損ノ個所或ハ「タイヤー」ニ刻マレタル種々ノ模様、形狀、圖案、寸法、曲線等ノ特徴ハ嚴密ニ測定セサルヘカラス。  
若シ轍跡ニ於テ或ル特徴アル缺損ノ個所又ハ特徴アル模様ノ一點ヲ發見シタルトキニハ此痕跡ノ一個所ヨリ次ニ表ハル同シ痕跡ノ一個所迄ヲ測リ、之ニ車轍ノ周圍ノ長サヲ知り、圓周率三、一四一六ニテ之レヲ除シ車ノ直徑ヲ確定シ。即チ犯人ノ使用シタル車輪ノ大サヲ知ルコトヲ得ヘシ。

【實例】大正八年一月十三日、夜、東京市麹町區有樂町「ガード」下ニ於テ赤坂區四町五、筒井某ヲ襲キ殺シテ逃走シタル自動車アリ。所轄警察署ニ於テ取調メタル結果、現場ニ散亂シタル帽子ト外套ニ附著セル「タイヤー」ノ跡ニヨリテ右ハ某姓歌右衛門ノ自



動車ナルコト判明シ、派手坂本某(三四)ハ過失罪トシテ検事局ヘ送ラレタリ。  
 ② 過失ノ或旅前ニ於テ管テ強姦殺人事件ノ突發シタルコトアリ。強奪セラレタル財貨ハ一囊ノ荷車ヲ以テ他ヘ運搬シ去ラレタル處  
 其ノ荷車ノ右方後部ノ車輪ニ於テ一本ノ釘カ缺損シ居リタル爲メ轍跡上ニ之カ痕跡ヲ押捺シタリキ。茲ニ於テ捜査官ハ一ノ缺損ノ  
 箇所ヨリ次ノ缺損箇所ノ痕跡迄ノ距離ヲ測量シ、車輪ノ大サト其ノ直徑トヲ容易ニ確定セリ。此ノ車輪ノ痕跡ハ最初ニ於テハ苦モ  
 ナク現場ヨリ追跡シ得タリシモ、遂ニ一ノ固ク踏ミ慣ラサレタル街  
 路ノ上ニ及ヒ、尙其處ニハ多クノ車輪ノ痕跡カ雜然トシテ存シタ  
 リキ。進ンテ愈々之ヲ追跡シタルニ、今ヤ本街路ヨリ分岐シタル小  
 道ニ於テ之ヲ發見シ、而シテ例ノ釘ノ缺損セル痕跡ハ半哩程其ノ途  
 上ニ現レ居リタルモ、遂ニ或一軒家ニ達シテ止ミヌ。實ニ其處ニハ  
 問題ノ車カ置カレタリキ。



車輪ノ痕ヨリ進メル方向ノ鑑別ヲ爲シ得ルヤ否  
 ヤ、車痕ハ前後ヲ貫通シタル唯一筋又ハ二筋ノ蜿蜒  
 タル線條アルノミナルヲ以テ、此ノ問題ノ解答ハ甚  
 容易ナリトハ謂フヘカラサルニ庶幾シ。之レニ對シ  
 ハンスグロース博士ハ研究ノ結果ヲ發表シテ曰ク車  
 輪ノ進行方面ヲ知ラント欲セハ美シキ土塊殊ニ細キ  
 塵埃、半ハ乾燥セル坭、雪ノ上、等ニ附セラレタル痕跡ノ状態ニ注意セヨ、然ルトキニハ轍跡底ニ於  
 テ前方ニ對スル土砂ノ段階状態ノ特徵アルヲ發見スヘシト。(1)圖參照)

土砂ノ前方傾斜。(此場合ニ若シ土砂中ニ赤色ノ粘土又ハ白色ノ石灰等ヲ交ヘ居ルトキニハ之等)  
 對スル土砂ノ凹形疊裂、竝ニ内部兩側ニ於ケル土砂ノ前方疊裂。(2)轍跡底ニ於テ前方ニ  
 前方ニ向ヘル疊裂。(4)轍痕内部ニ於テ砂粒其他固キ物質ノ前方ニ推シ遣ラレタル痕跡。(此場合推シ遣ラレ  
 ハ其物質ノ容積ニ該當スル丈ケノ空隙ヲ留ムルカ故ニ如) (5)前方ニ對スル土砂ノ跳飛。(此場合若シ積載セル荷物ノ一端カ車  
 何ナル方向ニ推シ遣ラレタルカハ直ニ認知シ得ヘシ) (上ヨリ地面ニ垂レ車體ノ動搖ニシテ  
 テ時々之レカ地面ヲ軋ルトキニハ車痕ノ外ニ亦一ノ條痕ヲ附シ、而モ此條痕ヨリ前  
 方ニ對スル土砂ノ跳飛ヲ顯著ニ看取シ得ルカ故ニ、吾人ノ仕事ヲ一層容易ナラシム) (庚) 損壞ノ痕跡

犯罪ノ現場檢證或ハ物體ノ調査ニ際シテハ、極メテ綿密ナル注意ヲ以テ犯人ニ基因セル物體毀損ノ  
 状態、損壞ノ深サ、幅、長サ、刃物ヲ用ヒタル場合ノ其切り口、破口其他ノ特徵ヲ十分ニ檢究シ餘ス  
 處アルヘカラス。斯クノ如キ損壞ノ痕跡ハ鋭敏ナル刑事家ニ對シテ犯人使用ノ兇器、傷壞ノ原因、犯  
 罪ノ手段方法等ヲ教示スルノミナラス、他日犯人檢舉ノ曉ニ於テ其攜帶シ所藏セル兇器又ハ材料ト仔  
 細ニ比較研究シ、彼カ犯場ニ現在シ即チ問題ノ犯罪ヲ實行シタリトノ動スヘカラサル證據ノ基本ト爲  
 ルカ故ニ極メテ重要也。

(1) 犯人カ合鍵ヲ以テ鎖鑰ヲ明ケ犯行ヲ遂ケタル場合(例令ハ忍込盜、空巢狙)ニハ屢々錠前ノ内部  
 ニ於テ金屬ノ一部分ヲ損傷シタル痕跡ヲ附着セシム。(之レノ鑰カ同型ノ錠前ニ對シテ常ニ必スシモ分風ノ差  
 少則違セル錠前ノ鑰孔ニ挿入シ錠前ヲ)問題ノ鎖鑰ハ合鍵ヲ以テ開カレタルヤ否ヤノ痕跡ヲ確實ニ認知セント  
 無理ニ押シ開ク場合多シトスルカ故也) 欲セハ、吾人ハ如何ニシテモ錠前ノ内部ヲ剖見スルニ如カサル也。普通錠前ノ内部ハ油ト塵垢トヨリ  
 黒ク汚レタル薄層ヲ以テ覆ハレ居ルモ、常ニ鍵カ當ル個所ノミハ此汚層ヲ排除セルノミナラス、鍵ノ

常ニ當レル個所ハ摩擦ニ因テ光澤ヲ生セリ。然ルニ日常鍵ノ當ラサル個所ニ於テ此油ト塵垢カ搔キ取  
ラレ、其下ヨリ新シク光レル條線ノ露出セル痕ヲ發見セハ、之レノ合鍵ヲ使用セラレタル最確實ナ  
ル證據ナリ。而シテ此光レル條線ハ一週間永キハ一ヶ月間其儘ノ状態ヲ保持シ、然ル後鋪、垢塵及ヒ  
油ニ依テ漸次ニ光澤ヲ消失スルニ至ルヘシ。

(2) 犯人カ硝子窓ニ對シテ小石類ヲ投ケ付ケ之レヲ破リタルトキ、硝子板ニ於ケル破壊ノ痕跡自體ヨ  
リシテ犯人カ窓ニ對シテ如何ナル地  
位ニ居リタルヤヲ鑑別スルコトヲ得  
ヘシ。何トナレハ此場合ニ硝子面ニ  
於テ小石ノ當リタル中心ヨリ光線形  
ニ生スル疊裂ハ、小石ノ進向シタル  
方面ニ多ク又甚シク之ヲ見ルヲ常ト  
スルカ故也。然シナカラ又甚タ鋭ク



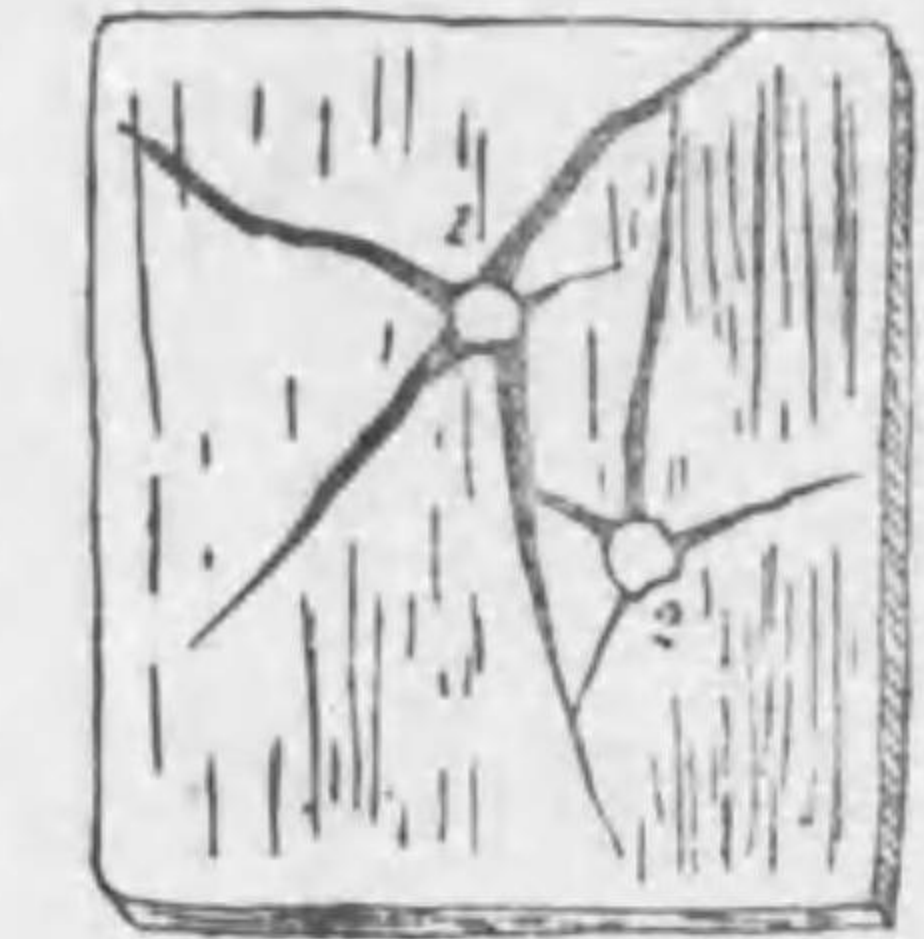
(擊射ノ硝子板ノ中央ヨリ)



(擊射ノ硝子板ノ右面前ヨリ)

硝子板ニ抛ケラレタル小石ハ、恰モ銃丸射撃ノ如キ狀ヲ呈スルモ、銃丸射撃ノ場合ニ於テ見ル特徴的  
痕跡タル貫孔周圍ニ生スル貝殻形ノ無數ノ小破裂ハ此ノ場合ニ於テハ左迄顯著ナラス。尙厚キ硝子板  
ニ抛ケラレタル丸キ小石ハ特ニ圓錐形ノ爆裂ヲ生セシメ、斯ノ如クシテ擊サレタル硝子ノ圓錐體ノ尖  
端ハ石カ硝子板ニ當レル處ニシテ、圓錐體ノ底面ハ其反對側ノ他面ニ該當スルモノト知ルヘシ。終リ  
ニ一枚ノ硝子板ヲ小石ニテ二回以上貫通シタルトキニハ其破壊ノ痕跡ヨリシテ何レノ孔カ最初ナルカ

後ナルカヲ知ルコトヲ得ヘシ。何トナレハ第一ノ貫通孔ヨリ生スル光線形ノ疊裂ハ硝子面ニ對ツテ自  
由ニ其羽翼ヲ伸張スルニ反シ、更ニ第二ノ貫通孔ヨリ發スル同様ノ光線形ノ疊裂ハ、既ニ生セル第一  
ノ罅裂ニ遮斷セラレ之ヲ超エテ進ムコト能ハサルカ故也。(左ノ圖參照)



(3) 損壞ノ痕跡ノ探證方法ニ就テハ(イ)損壞ノ個所ヲ實物其儘ニ採取スルヲ上乘トスヘシ。(ロ)實  
物其儘ニ採取スルコトヲ得サル痕跡ニ就テハ寫眞ヲ利用シ簡單精確ニ  
探證スルコトヲ得。(ハ)尙吾人ハ破壞セラレタル個所ニ僅ニ脂ヲ塗リ  
蜜蠟ノ如キ材料ヲ其所ニ好ク壓シ附ケテ之レカ型ヲ取ルコトヲ得ヘ  
シ。(之レカ材料トシテ美シキ粘土、捏粉等ヲ用ヒ得ヘシト雖、是等ハ或ハ縮少シ又ハ)。(ニ)  
重ムセ、ナレハ出來得ヘクシテ、ハ彫刻師ノ常用ナル用フル材料ヲ使用スルヲ可トス)。(ニ)  
模型ノ作成ニ付テ目的物ノ種類ニ依リテハ捏材料ノ外ニ紙ニ因テ壓型  
ヲ成效シ得、即チ膠氣ノナキ印刷用紙、吸墨紙、濾紙等ヲ濕シテ目的物  
ノ損壞セル個所ノ上ニ置キ強靱不撓ノ刷毛ヲ以テ其紙ノ上ヨリ土臺ニ  
對シテ繰返シ強ク打叩ク也。而シテ特ニ深キ凹溝又ハ凸起物等ノ爲メ

ニ紙カ裂カレタルトキニハ、更ニ同様ノ濡シタル紙ノ適當ナル一片ヲ置キ、再ヒ刷毛ニテ其上ヲ確乎ト  
打敲キ、斯クシテ一ノ壓型ヲ得ヘシ。(此場合ニ下ノ紙ト稱用ノ紙トハ完全ニ固着スルニ至ルヘシト雖、各材料ノ上ニ更ニ  
ナル結果ヲ得ベク、尙之レヲ乾燥セシムルニ就テハ其) (膠糊等ヲ以テ濡シタル紙ヲ置キ、刷毛ヲ以テ打叩キ仕上タルニ於テハ更ニ其  
ニ火又ハ火熾斗ヲ近ツケ急速ニ目的ヲ達スルコトヲ得)

(4) 犯場其他ノ物體ニ於ケル損壞ノ痕跡カ嫌疑者ノ所持セル器具又ハ兇器ニ全然基因スルヤ否ヤノ緊  
要ナル問題ヲ決定センカ爲メニハ、痕跡ト兇器トヲ比較對照スルノ必要アリ。(之ニ就テハ第一章第一  
節(丁)寫眞(3)參照)

## 第二節 行爲者ニ於ケル犯罪ノ痕跡

### 第一款 犯人ニ新タニ生シル痕跡

(1) 身體ノ負傷。何人ト雖自己ノ生命ニ對シテ不法ニ危害ヲ加ヘラレントスルニ際シ、唯瞑目シテ惡魔ノ毒刃ニ身命ヲ委スルモノアラシヤ。殺人又ハ傷害事件ニ於ケル被攻撃者ハ危急存亡ノ秋ニ當リ必死ノ抵抗ヲ試ミ、アラユル防禦ノ方法ヲ盡スカ故ニ、犯人ハ自己ノ身體ニ之レカ爲メ負傷ヲ受クルヲ常トス。(例ハ皮膚割裂、皮下溢血、裂傷、搔爪創、打撲) 實際ニ於テモ犯人ノ手先ニ被害者ノ搔爪創又ハ齒痕ヲ見ルコト多シ。故ニ取調ニ際シテ被害者カ防禦ノ爲メニ使用シタリト認メラルル器具又ハ武器ヲ發見シタル場合ニ於テハ、其物カ犯人ニ對シテ如何ナル作用ヲ爲シタルヤヲ知ランカ爲メニ物自體ヲ詳檢シ、然ル後之レニ照應セル負傷者ヲ犯人トシテ探索セサルヘカラス。(例令ハ現場ニ遺棄シタル被害者所持ノ見シタリトセハ吾人ハ顔面、頭部又ハ手足ニ皮膚割裂挫創等ノ創傷) 若シ被害者ノ爪又ハ齒ニ於テ犯人ヲ防禦シタル形ヲ受ケ居ル者ノ中ニ於テ之レカ犯人ヲ求メサル能ハサルカ如シ) 跡ノ歷然タルモノアラハ、吾人ハ搔爪傷又ハ齒痕ノ刻印ヲ附セル身體ヲ有スル者ニ向テ搜查ノ彈丸ヲ集中スヘキコト勿論ナリ。

刺戟ノ庭ヲ通シテ居室ヘ忍込ミタル盜犯ノ手足ニ棘ニテ引搔キタルカ如キ數條ノ擦過傷ヲ發見シ、或ハ家人ノ爲メ日本刀ニテ一撃ヲ加ヘラレテ逃走シタル強盜ノ腕ニ一個ノ刺創ヲ認メタル場合ニ於テハ、縱令ヒ贓品ヲ携帯セストスルモ、彼カ現場現在ノ證據ハ明ナルモノト謂フヘシ。

斯ノ如ク犯人ノ身體ニ負傷アルコトヲ想像シ得ラルル場合ニ於テハ、犯行ノ行ハレタル地方ノ醫師病院、藥劑師、賣藥業者等ニ就テ治療又ハ藥品ヲ求メタル者ヲ搜查スルモ亦一方策也。尙此點ハ嫌疑者

ノ取調ノ際或ハ非常線ニ於ケル不審訊問ノ際ノ緊要ナル一注意タルヲ失ハス。

【實例】 大正三年、長野縣下高井郡ノ或田圃ノ中ニ大ナル血ノ滴溜アルヲ發見セラレ、問題トナリタルヨリ血液検査ヲ爲シタル處、人間ノ血ナリトノ證明ヲ得タリ。然ルニ血ノ量ヨリスレハ一ノ大ナル傷害カ或ハ殺人ノ事件ヲ推測セサルヲ得ザリキ。仍テ刑事ハ先ツ限ナク附近ノ醫師ニ就キテ何人カ昨今大ナル負傷ノ爲メ治療ヲ乞ヒニ來リタルモノナカリシヤヲ調ヘタル處、一醫師方ニ於テ其者アルコトヲ發見シタリ。問題ノ男ハ或銀行ノ幹部ナリシモ連ンテ内偵ノ結果左ノ事情ヲ探知シタリ。則チ其幹部ハ銀行内部ノ或犯罪ヲ官ニ密告セラルルノ虞アルヨリ他ノ同僚ヲ誘キ出シ、仕込杖ヲ以テ殺害ヲ圖リタル處、却テ其同僚ノ爲メニ重傷ヲ附セラレタリシコト之也。茲ニ於テカ銀行内部ノ秘密及殺人未遂ノ事實ヲモ共ニ檢舉セラルルニ至レリ。

明治四十二年一月二十二日ノ夜、福島縣伊達郡茂庭村ノ山中炭小屋ニ居住スル夫婦カ何者カニ殺害セラレタルコトアリ。出張ノ遠藤警部補ハ二十四日午前二時三十分頃現場ヨリ四里ヲ距ル湯野村ヲ通行スル舉動不審ノ男カ眉間ヲ兵兒帶ノ一片ヲ以テ縛リ居ルヲ發見シ怪ミテ本人ノ住所氏名ヲ取調ベタル處、極メテ曖昧ナルヨリ連ンテ嚴シク訊問スルニ、遂ニ右ノ犯人タルコトヲ自白スルニ至レリ。

大正七年十二月二十九日、東京府下千駄谷原宿ニ於テ一竊盜ノ被害アリ。現場ヘ急行シタル巡査ハ雪ノ上ニ足痕アルヲ注意シ、之ヲ追跡シテ遂ニ或小屋内ニ潜伏セル者ヲ發見シタルヨリ、捕繩ヲ以テ將ニ逮捕セントシタル處、犯人ハ突然右手ヨリ短刀ヲ取出シ巡査ニ斬リ付ケ繩ヲ解テ逃ケ去レリ。該重大事件ノ嫌疑者ハ或洋服屋ノ職人ナルコト漸ク判明シ、兼西巡査ハ同人ノ居所ヘ出張シタル處、嫌疑者ノ右手ニ擦過傷ノアルニ氣附キタルヨリ、巡査ハ唐突ニ其手カ證據ナル旨ヲ宣言スルヤ、彼ハ直ニ恐人リテ日本地場警察署ヘ引致セラレヌ。(尙拙著殺人科學的捜査法三九六、三九八頁ノ實例參照)

(2) 犯人ノ著衣、兇器ノ毀損等。格闘ニ際シテ犯人ノ衣服ハ綻ヒ、又ハ一部分裂損スヘク、或犯行ニ使用シタル爲メ兇器ノ一端ハ新タニ缺損シ、又ハ破口(刃毀ボレ)ヲ生スルコトアルモ亦看過スヘカラ

第二款 犯人ニ附着シタル物質

(1) 血痕又ハ毛髮ノ附着。殺人事件ニ於ケル犯人ハ現場ニテ被害者ノ血ノ迸沫ニ浴シ、或ハ血ノ汚斑ヲ手足、著衣、兇器等ニ附着セシムルコトヲ殆ント常トスヘシ。

故ニ被害者カ殺器ヲ以テ殺害セラレ而モ現場ハ血ノ滲溜ニテ一面ニ汚リ、微シキ格闘ノ痕跡歴然タル場合ニ於テハ、吾人ハ犯人ニ血痕附着ノ事情ヲ推理シ得、從テ疑ハシキ汚斑ヲ附着セシメ居ル兇漢ヲ非常線外ニ逸セシムヘカフサルハ言ヲ諒タス。

犯人ノ身體又ハ其住居ニ於テ血痕附着ノ物ヲ發見シ得ルコトハ實ニ世人ノ想像以上ニ在リトス。

何トナレハ犯人カ若シ現場ニ於テ逮捕セラレタルニ非サル限リハ、不思議ニモ犯人ハ最早自己ノ危險カ過去リタルカ如キ氣分ニ陥リ、何トナク自己ヲ安全ニ感スルモノナルカ故ニ、血痕ノ始末等ハ自然其儘忘リ得トナリ、衣服ハ行李ノ一隅ニ押シ込メ置クカ如キコト屢々アリ。他ノ一面ニ於テハ是等ノ證據物件ヲ特ニ洗濯シ又ハ抛棄スルカ爲メニ他人ニ其事實ヲ感知セラルルコトアルヲ慮リ、其儘之レヲ所持スルモノナルカ故ナリ。

然レトモ亦兇行後成ルヘク早ク血痕ヲ洗ヒ落サンコトヲ企ツル犯人ノ少ナカラサルハ勿論也。此場合ニ於テモ兇行後直ニ石鹼等ヲ用ヒ十分ニ痕跡ヲ洗滌スルカ如キハ稀ニシテ、身體ニ就テハ爪ノ下、爪床、手掌ニ於ケル皺壁、溝條等ニ於テ尙微痕ヲ存スル場合極メテ多シ。若シ血痕附着ノ一嫌疑者ヲ探索シタルトキニハ其者カ兇行當時著用シタル總テノ衣類、所持品ヲ追究シ調査ヨリ一物ニテモ洩スヘカラサルハ當然ナリ。(血痕ノ搜索ニ就テハ衣類ノ表面ノミニ止ラス、袂ノ中、内懐、衣裏ノ内部、著物ノ裏積、縫目、兇器、隠レタル部分等犯人カ容易ニ看過スヘキ箇所ニ就テハ特ニ詳檢ノ必要アリ。)

尙被害者ノ毛髮ヲ格闘ノ際毫リ移キ、或ハ纖毛ヲ皮膚ノ表皮ト共ニ搔キ取り、之レヲ犯人ノ衣服、爪ノ下等ニ附着セシメ居ルコトアルモ留意ヲ要ス。

(2) 現場ニ存在スル物質ノ附着。(イ)現場ニ發生セル草木、穀粉カ兇行ノ際或機會ニ因テ犯人ノ衣服

履物等ニ附着スルコトアルハ容易ニ之レヲ想像シ得ヘシ。

【實例】 兇行テ爾逸ニ於テ放火犯ノ嫌疑者ノ自轉車ニ取附ケアル提燈ニ於テ、現場附近ノ一ノ殺物畑ニ於テ見ルカ如キ同種類ニシテ且同程度ニ成熟セル殺物ノ穂ノ一部分カ掛リ居ルヲ發見セラレタリ。取調ノ結果嫌疑者ハ、急ニ現場ニ赴キ兇行後迅速ニ其ノ場ヲ立去ラムカ爲メ自己ノ自轉車ヲ利用シタルモノニシテ、該自轉車ハ兇行中ニ其處ノ殺物畑ニ置キタルモノナルコト判明シタリ。

【實例】 山梨縣ニ於テ或女カ姪姪ノ爲メ放火セル事件アリ。其女ハ被害者居宅ノ杜松ノ生垣ヲ潜リテ侵入シタルモノナルガ、取調テ受タルニ當リ其袂ヨリ杜松ノ葉三本現ハレタル爲メ、遂ニ兇行ヲ自白スヘク餘儀ナクセラレタリキ。

註 若シ現場以外ニ於テハ求ムヘカフサルカ如キ、特殊ノ草木ノ一片ニテモ嫌疑者ノ衣類等ニ於テ證明セラルルコトアラハ、問題ハ忽チ解決セラルヘシ。

【實例】 獨逸ニ於テテ膏テ風俗ニ關スル或犯罪事件ニ就キ、其嫌疑者ノ衣服ヲ檢査シ、犯罪現場ニ於ケルト同種類ノ土砂並ニ硅藻(植物)ノ附着スルヲ發見セラレタルコトアリ。殊ニ此硅藻ノ種類ハ他ノ場所ニ於テハ比較的稀有ニ存在スルト云フカ如キ特徴アルモノナリシカ故、遂ニ當該被告人ハ現場ニ在リ且此處ニテ地上ニ横ハリタルモノ也トノ事實ヲ認定セラレヌ。

此場合ニ於テ草木ヨリ出テタル汁液ノ附着モ、草木ノ葉莖自體ノ存在ト證據上其價值ニ於テ毫毛擇フ所ナシ。

【實例】 大正二年七月和歌山縣ノ某町前科者中四ナル者或家ノ高屏ヲ乘リ越ヘ忍入り四百圓ヲ竊取シ去レルコトアリ。然ルニ犯人カ屏ヲ越エル際其處ニアル無花果ニ觸レタル爲メ同樹ノ葉五六枚ヲ振キ落シ、其莖ヨリ滲ミ出ツル無花果ノ汁ヲ知ラサル間ニ彼ノ衣服ノ脊ニ附着セシメタリ。之カ證據トナリ彼ハ忍込ノ事實ヲ自白シタリト云フ。

【大正四年四月二十六日靜岡縣濱名郡賀賀町小字吳石ニ於テ手塚源太郎カ町内ヨリ税金ヲ取集メ歸宅ノ途中、自宅附近ノ五月豆畑ニ於テ何者カニ細引ト三尺帶トナリテ絞殺セラレタルコトアリ。所轄警察署ニ於テハ直ニ活動ヲ開始シ右事實ノ嫌疑者トシテ四人ノ者ヲ逮捕シタルモ、孰レモ確實ナル根據ニ基キタルモノニ非サリキ。或ハ平素仲惡キトノ單ナル理由ヲ以テ因ハレタル被害者ノ

叔父ニ當レル隣家ノ親族アリ。又ハ其ノ翌朝早ク鶏卵四箇ヲ携帶シ其ノ附近ヲ通行シタル故ヲ以テ疑ハレテ取調ヲ取ケ歸宅ヲ許サレタル一農民アリタルカ如ク、捜査ハ殆ト暗申模索ノ觀ヲ呈スル程ニ當時困迷難逃ヲ來セリ。然ルニ出張ノ檢事ハ四人ノ嫌疑者ノ中竹内春吉カ穿アル白股引ノ大腿部外側ノ箇所ニ於テ、五月豆ノ葉ヨリ基因シタル二箇ノ青キ汁液ノ汚點ノ附着セルニ著目シ尙其ノ者ノ覆ケル新シキ紺足袋ノ裏面ヲ檢スルニ同標ノ汚斑ノ跡シク附着セルヲ確メタリ。現場タル五月豆畑ハ蹂躪サレ豆ハ莢ヨリ折ラレ居リタルヲ以テ、此ノ者ハ兇行ニ際シ自己ノ股引及足袋ニ是等植物ノ汁液ヲ附着セシメタルモノナラムトノ嫌疑十分ナリキ。然ルニ彼ハ其ノ朝茶摘ニ赴キスツバノ草ヲ踏メル爲メ附着セル汚點ナル旨辯解シ、自ラ檢事ヲ其處ヘ導キ此ノ草ノ汁ナラムト嘯ク。爰ニ於テ檢事ハ其ノ草ヲ採取シ鑑定人ニ鑑定セシメタル結果、股引足袋ノ汁ハスツバニ基因セルニ非サルコト判明セリ。是ヨリシテ著々捜査ノ結果尙他ニ證據モアリテ遂ニ彼ハ強盜殺人トシテ死刑ニ處セラレタリ。

(ロ)現場ニ存スル礦物、泥土カ犯人ノ衣服、殊ニ下駄、靴ニ附着スルハ亦爭フヘカラサル事實ナリ。或者ノ活動セル最後ノ場所ハ、其穿テル下駄又ハ靴ニ附着セル最後ノ土砂汚垢等ニ依テ偽證ナク陳述セラル、故ニ吾人ハ逮捕セラレタル嫌疑者ノ草履下駄等ヲ大切ニ取扱ヒ、之レニ附着セル土砂等ヲ問題地點ノ土砂ト比較詳檢スルノ責務ヲ有ス。

田舎ニ於テハ都市ニ比シテ地質ノ相違甚シキカ故ニ、地方ニ於ケル一犯罪ニ際シ嫌疑者ノ下駄ニ附着セル土質ノ試驗ニヨリテ事件ノ取調ヲ促進セシムルコト屢々アリ。

【實例】 田舎ニ於テアサテ一竊盜事件ニ際シ嫌疑者ノ靴ニ附着セル汚垢ヲ檢査セラレタル處、汚垢ノ内部ノ層ト外部ノ層トノ中間ニ於テ少シ許リノ穀粉ノ一層アルヲ發見セラレ、之カ爲メ犯人ハ被害者方ノ水車場ニ忍入り、穀粉ノ散在セル床上ヲ歩ミタルノ事實ヲ立証セラレタルコトアリ。

又巨額ノ金圓ヲ竊取シ之ヲ河畔ニ生立セル一本ノ柳樹ノ下ニ隠匿シ置キタリトノ嫌疑アル被告ノ靴ノ裏ヲ檢シ、之ニ附着セル汚垢ノ中間ニ於テ問題ノ河畔ニ存スルト同種ノ砂ノ一層アルヲ發見セラレタル爲メ、嫌疑者ヲシテ遂ニ犯罪セシメタルノ事件アリ。

地上ニ於ケル泥土ニ限ラス被害者方ノ壁土ノ如キモ往々犯人ノ著衣ノ一片ニ又ハ使用ノ兇器ニ附着セルコトアルナリ。(ハ)其他犯人ノ衣服又ハ身體ニ附着セル煤煙灰等ノ如キハ其者カ現場ニ存在セストノ辯解ニ對シテ有力ナル裏切者トナルコトハ前二者ト同様ナリ。

【實例】 大正二年和歌山縣ニ於テ或女嫉妬ノ爲メ放火シタル事件アリ。被害者方ハ新タニ葺屋根ヲ葺キ替ヘタル爲メ當時地上ニ一面ニハ煤煙落チ居タリキ。刑事ハ犯人ノ跣足裏ノ襪裏中ニ之カ附着セルヲ發見シタル爲メ女ハ遂ニ犯行ヲ自白スルニ至レリ。

(ニ)尙犯人使用ノ器具ニ現場ニ存スル或金屬ノ粉末ヲ附着セシムルコトアルモ注意スベシ。

【實例】 和歌山市ニ於ケル或寺院ノ倉ノ錠前ヲ抉テ明ケ忍入りタル某前科者ハ、之ニ使用シタル鑿鑿機キノ金具ノ尖端ニ錠前内ノ金ノ附着セルヲ證明セラレタル爲メ遂ニ竊盜ヲ自供シタリ。

是等諸種ノ附着物質カ現場ニ存在セル物ニ基因セルヤ否ヤノ檢案ニ就テ明確ヲ期シ難キ場合ニ於テハ、常ニ顯微鏡家、博物學者、化學者ニ對シテ緊切ナル補助ヲ俟ツヲ要スヘク、唯一見シタルノミニテ不明ト宣告シテ酸味ニ之ヲ放置スルカ如キコトアルヘカラス。

(3) 犯罪ニ使用シタル物ノ附着。例令ハ放火ニ使用シタル石油ハ常ニ犯人ノ衣服又ハ身體ノ一部ニ附着スヘク、藥物又ハ色素ヲ使用シタル偽造犯ノ爪ハ是等ノ物質ヲ取扱ヒタル經過ヲ自ラ語り、發砲シタル嫌疑者ノ右手指先ニ於テ火藥ノ煙ノ黒染ヲ見ルト云フカ如ク、犯人ハ必ス犯罪ニ使用シタル物ノ影響ヲ受ケ又ハ物質ヲ附着セシムル也。

【實例】 大正七年二月山梨縣山梨郡諏訪村ニ於テ何者カ一夜ノ中ニ三ヶ處程放火シ、斯クシテ火災ハ連夜續發シタルコトアリ。恰モ十回目ノ火災ノトキ現場張込ノ一刑事ハ消防夫ノ中ニ石油臭キモノアルヲ嗅キ付ケタルヨリ、大ニ怪ミ其者ヲ歸途ニ捕シテ取調ヘタル處、驚クヘシ同人力全部ノ放火犯人タリシ也。

【實例】 嘗テ福圓ニ於テ何等カノ藥品ヲ以テ五十錢銀貨ノ實質ヲ巧ミニ削リ取り、著シク實價ヲ減少シタル薄キ銀貨ヲ郵便局ニ到リテ行使シタル犯人アリ。一警察官ハ右ハ恐ク鹽酸又ハ硝酸ヲ注キ掛ケ銀貨ノ外部ヲ溶解セシメタルニ非サルヤノ事情ヲ推知シタルヨリ

是等物品ヲ爪先ニ附著セシメ居ル疑ハシキ者ヲ犯人トシテ捜査スルノ一方針ヲ樹テタリ。時恰モ郵便局ヨリ問題ノ銀貨ヲ又行使スル者アル旨ヲ急報シ來レルヨリ直ニ警官出張シ其者ヲ取調ヘタル處、同人ノ爪先カ何等カ藥品ノ作用ニテ染リ居ルコト恰モ指屈ノ爪ノ如クナルニ氣附キ、推定通リノ犯人タルコト疑ヒナシト認メ嚴重取調ヘタル處、遂ニ其者ハ化學的變造ノ犯人タルコト明白シタリ。

### 第四章 證據物ノ犯人歸屬ノ研究

#### 第一節 現場遺留物

犯人ハ犯罪ノ現場ニ於テ、世人ノ想像スル以上ニ好ク諸種ノ物件ヲ遺留スルモノ也。

檢證必要犯ノ大多數ハ遺留物ヲ端緒トシテ捜査ヲ開始スルチ實際ノ狀況トス。

重大犯ニ至リテハ、豫メ周到ナル川意ヲ以テ驚クヘキ計畫ヲ避ラジ、且兇行ノ發覺、露見ニ對スル非常ナル不安ト恐怖ヨリシテ、犯後ニ於テ精進ノ證據ヲモ現物ニ殘サランコトニ苦心セサル者ナシ。故ニ現場ニ於テハ遺留品ノ如キハ殆ント之ヲ發見スルコト無カルヘキノ理ナルニ事實ハ往々此想像ニ背馳シ、吾人ハ屢々兇器、帽子、履物、衣服、手拭、襟卷、時計、墓口、煙草入、紙片、其他ノ所持品ヲ其場ニ於テ發見スヘシ。之レ犯人ガ犯行後逃走セントスル瞬間ニ於テハ既ニ狼狽ニ擧ハレ、犯行ニ就テ混亂シ散逸シタル自己ノ心ト所持品ヲ拾集スルノ餘裕ヲ存セサルカ故ナラン。

而シテ此遺留物カ捜査舞臺上一ノ大役ヲ演スル役者ナルコトハ新シキ刑事家ト雖尙能ク之ヲ知レリ。(然シナカラ經驗アル老練刑事家ニシテ、未タ眞ニ其價值、並ニ遺留品ノ研究ト利用ノ途ヲ)實ニ遺留物ノ鑑識ニシテ解セサルニテ、取扱ヲ粗略ニシ或ハ故ナク此方面ノ探索ヲ中止スルカ如キ者ナキヲ保セス)實ニ遺留物ノ鑑識ニシテ既ニ正鵠ヲ射タランカ、之ヲ基礎トシテ追求セララルル捜査ハ極メテ合理的ニシテ效果アルモノト云フヘク。(即チ自ラ局限セラレタル範圍ニ於テ全幅ノ精力ヲ集注シ敏速ニ確實)加之逮捕セラレタル嫌疑者カ遺留品ヲ嘗

テ所持シタルノ事實アルカ、或ハ遺留品ト同一物件ノ殘餘ヲ藏匿スル場合ニ於テハ、彼カ犯場現在ノ事實ヲ證明シ得テ、斷罪ノ手續上大ナル價值ヲ有スヘシ。

#### 第一款 犯用物及著用品

(1) 是等遺留品ト犯人ノ職業、階級ノ推定

犯人ハ自己日常ノ職業ニ必要ナル器具又ハ物件ヲ犯罪ニ際シテ好シテ使用スルモノ也。(之レ畢竟其手且ツ平素使用ニ慣熟シ居ルカ爲メニ發覺ノ利便ヲ得テ無慮ニ之ヲ手ニスルノ心理ニ據ハルルニ因ルナラム。)近ニ存スルト例令ハ農夫トシテ、魚屋ト大出刃庖丁、養蠶家ト桑切庖丁、土工ト鑿、薪炭商ト薪割、大工ト鑿、ト云フカ如シ)故ニ犯人カ特ニ一定ノ職業ニ必要ナル物ヲ遺留シタルトキハ其種ノ職業者ニ第一ノ嫌疑ヲ置クヘキハ當然也。尙職業ト關係ナキ物ナルトキニ於テモ使用者ノ階級ニ從テ自テ其間ニ略ホ差別ナシトセス。

服裝及ヒ所持品ハ、夫レ自體ニ於テ既ニ其人ノ職業、階級ヲ語ルコト今更贅言ヲ要セサルノミナラス、是等ニ存スル臭氣(移リ香)、並ニ使用耗ノ固有ノ損傷、特殊物質ノ附著、或ハ流行ノ新舊、價額、物ニ表ハレタル使用主ノ趣好等ヨリシテ吾人ハ或程度ニ職業階級ヲ推測シ得ルノ常識ヲ有スヘシ。

【實例】 〇〇省テ福岡縣下ニ於テ壁ヲ切破リ忍込ムテ手口トシタル竊盜アリ、被害件數五六十二上レルモ容易ニ檢査スルチ得ザリキ。加野警部補ハ山下刑事ト共ニ一夜之レカ爲メ要所ノ張込ヲ爲シタル處、深夜一人ノ男ハ天秤ヲテ何物カヲ擔キ通行セルヨリ誰何シタルニ、其者ハ忽荷物ヲ其處ヘ投ク一日散ニ逃走シタリ。直ニ調査シタル處、荷物ハ正シク贓品ナリキ。然ルニ贓ハ尙比較的新シキ手拭ヲモ其場ニ遺シ行キタルカ、山下刑事ハ其手拭ノ臭ヲ嗅キ分ケ、之ハ特種部落ノ者ノ使用セル品ナラント言ヘリ。仍テ其部落ニ於ケル前科者ヲ物色シテ一人ノ嫌疑者ヲ警察署ヘ同行セシメタル處、山下刑事ハ例ニ依テ其男ヲ嗅キ分ケ、手拭ノ臭氣ト同一ナリト斷言セリ。之ヲ證據トシテ嚴重ニ取調ヘタル結果、遂ニ彼力數十口ノ竊盜ヲ爲シタル旨ヲ自白シタリ。

大正元年九月二十日、牛込區砂土原町服部某方ヘ押入リタル強盜犯人ノ犯人ハ紫色小形縮緬布紗一枚ヲ遺留シテ逃走セル處、帛

紗、ニハ香水、移リ、香アリ、而モ其ノ香ハ至極生々シキ蓋シ居レル上、仔細ニ取調、ヘタルニ、一風刈頭髪、五本之ニ附著シ居リタリ、尙同一人ノ所爲ト思ハルル他ノ強盜ノ現場ニ遺留セテアリタル瓜掛附ノ日和下駄ヲ鑑定セシメタル處、之ヲ用フル者ハ多ク理髮職人ナラムトノコトナリシヨリ、右ノ毛髮ノ點ト綜合シテ賊ハ恐ク理髮職人ナラムトノ見込ヲ附ケ、此ノ方針ニ於テ探査シタル結果理髮職人藤井某(三一)ヲ遂ニ眞犯人トシテ檢査スルヲ得タリ。

○**○** 菅テ大阪ニ於テ、竊盜ノ現場ニ犯人ノ夏襪衣一枚ト下駄ト遺留セテアリタル處、夏襪衣ニハ銅ノ斑點多ク附著セルノミナラス、腋臭ノ臭極メテ高カリキ。等ノ事實ヨリ合理的推定ノ歩ヲ進メタル結果、遂ニ一人ノ腋臭ヲ有スル餘職人トシテ檢査シ得タリ。

(2) 遺留品ト犯人ノ屬性、年齢、體格ノ研究

遺留ノ衣服、帽子、下駄、靴、手袋、足袋、等ノ種類、大サヨリ或程度迄當該犯人ノ身體ノ大サ、年齢、男女別ヲ推測シ得ヘキノミナラス、又移リ香カ同様ノ準據トナルコトモ、吾人日常ノ經驗カ容易ニ指示スル處ナラム(例令ハ外國人ニハ外國人ノ臭ヒ、婦女ニハ婦女ノ臭氣)アリ。老年者ト乳兒トハ自ラ其體臭ヲ異ニスヘシ。

(3) 遺留品ヲ直接個人ニ結合シ得ル點ノ研究

器具又ハ著用物ノ先ツ製造元、販賣店ト云フカ如キ出所ノ本源ヲ探索シ是等ヨリ該物件ヲ取得シ又ハ取扱ヒタル者ヲ順次手繰リ行キテ、最後ノ所持者タル犯人ヲ索及スルノ計畫ハ、兎モ角我國現時ノ搜查戰ニ於テモ常ニ用ヒラルル兵法トス。此場合ニ注意ヲ要スヘキハ遺留物件ニ附著スルコトアル製造元、販賣店ノ「マーク」ハ云フ迄モナク、尙其以外ノ記號、數字、符號等之也。(例令ハ洗濯機カ赤線ヲ以テ衣類ノ一隅ニ得意先ノ名前ヲ付ケタリ)若シ物品ヲ修補シタル形跡アラハ其修繕者ヲ索求スル等(例令ハ時計)苟モ其物品ヲ何等カノ理由ニ依テ取扱ヒタル者ナキヤ否ヤヲ仔細ニ調査シ以テ手懸リノ一二テモ多カラシコトヲ期セサ

ルヘカラス。

【實例】 大正八年一月七日ヨリ六月廿日迄芝、赤坂、築地、巢鴨等ニ於テ總計八十八件ノ忍込盜ヲ爲シタル犯人岡田某ハ三月二十三日赤坂區新町三丁目二十三番地、船越方ヘ侵入タル際莫大小製ズボン下ト足袋トヲ遺留シテ立去レリ。赤坂表町署ノ大館警部補ハ右ノズボン下ノ上部ニ赤線ヲ以テ「オカダ」ト縫付ケタル洗濯屋ノ職アリコトヲ發見シ、岡田ナル窃盜前科者ニ就テ探索スル方針ヲ樹テタル處、同署廣瀬刑事ノ記憶ニ岡田ナル者アリ其手口モ略同様ナリトノ事ニ付キ極力且ツ執拗ニ其者ノ所在ヲ搜索シタル結果遂ニ其者ヲ取押ヘタルニ、果シテ岡田ノ所爲ナリシ也。

○**○** 菅テ殺人ノ嫌疑アル一獨逸人ハ巴里ノ某旅館ニ或偽名ノ下ニ宿泊シ居リタル處、或日突然何處ヘトモナク其ノ妻ヲ擄キ消シタリ。其ノ男ハ自己ノ著古シタル襪衣在中ノ一箇ノ行李ヲ旅館ノ居間ニ遺留シタルノミニテ何等手懸リトナルヘキ所持品トモ他ニ殘サ、リキ。夫レ故僅ニ此ノ一枚ノ襪衣ノ補助ニ依テ全然不明ノ一獨逸人ヲ搜索スルハ最初願ル不可能ノ如キ觀アリシモ警察官ノゴロン氏ハ思フ所アリ、此ノ物品ヲ携帶シテ先ツ伯林ニ急行セリ。彼ハ現物ヲ示シテ尋ね廻リタルニ洗濯物製造場ノ者ハ彼ニ告テ曰ク、斯クノ如キ襪衣ハ伯林ニ於テ製造セラレタルモノニハ非ス、然シ恐クハアレスウカ又ハワイプチツヒニ於テ作ラレタルモノナルヘシト。更ニゴロンはアレスウカニ急行シ此處ニ於テ漸ク此ノ襪衣ヲ製造シタル工場ヲ發見シ得タリ。然ルニ製造元ニ於テ此ノ襪衣ハG夫人ニ賣レル品物ナリトノコトヲ知りタルモ、住所人名簿ニハ三十四家ノGノ名ヲ載セアリタルカ故ニ、今ヤ是等三十四家族ノ中ヨリ買手ヲ物色セサルヲ得ザリキ。證據ノ結果或G夫人カ其ノ悍ノ爲ニ之ヲ購ヒタルモノナルコト遂ニ列明シタリ。

○**○** 大正五年七月十六日午前二時半、恰モ信州輕井澤ニ避暑中ナル小石川區上富坂町二十三番地、加奈陀、美以美派宣教師、キヤンベル氏(三三)及同夫人レイザ(三一)ヲ慘殺シタル犯人、栃木縣那須郡那珂村大字小川一三七、櫻備步兵軍曹、川上(四〇)ノ自白ニ依レハ、最初彼カ長野縣ニ赴キタルハ養蠶ノ雇人トナル目的ニテ縣下各處ヲ彷徨シタルモ、思ハシキ被雇口アラサルヨリ還リテ輕井澤ニ至リシニ、最早寮中無一文トナリ技ニ惡心ヲ起シ、七月十六日午前二時半先ツ窃盜ノ目的ニテ別邸ノ屋根ニ登リテ二階ノ窓ヨリ忍ヒ入り、夫妻ノ寢室ヲ襲ヒタルニキヤンベル氏ハ目ヲ覺シ英語ニテ何カ大聲ニ打喚キツ、組附カムトセシヨリ、今

更迭クルニ術ナク隠シ持チタル短刀ニテ左胸部三箇所ヲ突キシニ氏ハ苦悶シナカク寢齏ヨリ落チ絶息セリ。此ノ騒動ニ夫人ハ狂氣ノ如ク身ヲ忘レ抱キ付キタルヨリ、今度ハ夫人ヲ滅多斬リニ研リ苛ミタル末胸部ヲ突キテ墮シ、夫レヨリ女中才花ノ寢間ニ行キ所持金六圓餘ト夫婦ノ金七十五圓トヲ奪ツテ逃走シタルナリ。

現場ニ遺留サレタル短刀ノ鞘、手拭、草履ニシテ之ニ依テ有力ナル手掛ヲ得ルコト能ハサリシモ、其ノ後輕井澤ヨリ同縣岩村田町ニ通スル里道附近ノ草履中ヨリ血染ノ古洋服上下一著ヲ發見シタリ。是レ正シク犯人カ當夜著シ居レル結襟ノ履ニシテ、洋服ノ裏ニ「四十三、3613」ノ數字ヲ載セラレタリ。茲ニ於テ先ツ三千人以上ノ職工ヲ使役シ服ヲ支給スル工場ハ何處ナルヤヲ研究セラレタル結果、該洋服ハ東京市電氣局ノ正履ナルノミナラス被服部ノ袖面ヲ取調ヘタル所ニヨレハ、右ハ四十二年十一月、三六二三號、淺草區清島町十番地車掌、若山牛造ヘ交付シタルモノト判明セリ。順次其ノ後ノ取得者ヲ捜査シタルニ若山ハ四十四年頃下谷區萬年町二番地奥山買店ヘ入買シ、同買店ニハ大正五年一月ニ流賣トナリ、神田區若木町五番地宮島古著店ヘ賣却シタル所、宮島ニテハ更ニ横須賀市汐留町古物商松崎真一方ヘ之ヲ賣却シタルコト明白トナレリ。仍テ刑事ハ血染ノ洋服ヲ携ヘテ横須賀ヘ急行シ松崎古著店ニ就テ調査スルニ、此ノ洋服高職ラシキ大男カ二圓五十錢ニテ此ノ上下一著ヲ買行キタル所、ズボンカ短シトテ約二十分間チ出テサル内ニ他ノズボント取替ヘニ來レリトノ點迄知ルコトヲ得、進ンテ附近二丁目以内ノ高職ヲ一軒毎ニ捜査シ、遂ニ高職中ノ取締長谷川清次郎ノ口ヨリ四五月頃川上隴ナル大男ノ雇リタルコトヲ知レリ。刑事ハ手帳ヲ繰リ返シ長野縣ノ餘疑者五六ノ人名ヲ檢スルニ、其ノ中ニ果然川上隴ノ名前ヲ發見シヌ。更ニ清次郎ニ依リ川上ハ横須賀ヘ來リテヨリ古服ノミナラス大瀧町ノ伊藤金物屋ニテ被服製ノ短刀ヲ七十五錢ニテ買求メタルコトヲ判明シタリ。隴ハ輕井澤附近ノ某口入業ノ周旋ニ依リ六月十二三日頃ヨリ對軒ノ農家ヘ雇ハレタルモ、孰レモ永續セス七月十日頃ヨリハ同地ヲ行衛不明トナリタルノミナラス、宣教師方ノ下女ノ供述スル本件ノ犯人ト其ノ背恰好並ニ洋服ヲ著用シタリシ點カ一致スルヨリ嫌疑者ノ一人トシテ目指サレ居リタル者ナリキ。斯クシテ遂ニ彼ハ川崎町ノ高居ニ於テ逮捕セラレヌ(尙拙著殺人科學的捜査法、三五八頁以下ノ實例參照)

(4) 遺留物ノ嫌疑者歸屬ノ證明  
遺留品カ果シテ嫌疑者ノ物ニ屬スルトセハ彼カ犯場現在ノ事實ハ確定セラルルカ故ニ、物ノ嫌疑者

歸屬ノ證明ハ極メテ重要ナルモノト謂フヘシ。

(イ) 嫌疑者カ遺留品ト同様ノ材料ヲ所持セルトキ。(例令ハ現場ニテ發見セラレタル同種ノ彈丸。同種ナルニハ遺留物カ彼レニ屬シタルコトヲ歸納スル有力ナル徵憑タラスンハ非ス。遺留物ノ一部ヲ構成スル物ニ就テモ亦同シ。(例令ハ遺留ノ衣服ノ一片カ修補セラレタルトキ、彼レノ居室)

(ロ) 嫌疑者カ遺留物ノ殘餘ニ該當スル分量ヲ藏匿シ、又ハ遺留品カ嫌疑者所有物ノ一部分ニ屬スルトキ問題ノ物件カ其者ヨリ出テタルコトヲ推定ス

【實例】一銃殺事件ノアリタル後、現場ニ於テ吾人ハ一ノ紙送リ蓋ヲ發見シタリ。然ルニ該事件ノ嫌疑者ノ住居ニ於テ火藥罐ノ活塞子ヲ固ムル爲ニ用ヒラレタル一ノ紙片ヲ發見シタルカ、此ノ紙ハ現場ニ遺留セル送リ蓋ノ紙ト全然同一ノモノナリキ。

【實例】大正四年十一月中旬、山形縣、西置賜郡北井町戸田某方ヘ忍入り、金剛時計外十數點ヲ竊取シタル盜賊アリ。所轄警察署長現場ヲ檢査シタル處附近ノ道路ニ於テ賊ノ遺失シタリト思ハル、黒丸形金具附ノ羽織紐一本ヲ發見シタルヨリ之ヲ押收シ置キタルズ、宿舖ニ記載セル住所等ニ疑ハシキ點アリタルヨリ同人ヲ嫌疑者トシテ行衛ヲ搜索スルコト、ナリヌ。然ルニ犯罪後六日目ニ當リ警戒中ノ刑事カ長井驛ニ下車シタル客ノ人相年輪等松本ト酷似スルノミナラス、羽織紐ハ一本ニテ結ビ居リタルヲ發見シ直ニ引致取調メタル處、右ノ羽織紐ハ遺留ノ紐ノ片方ナリシ點ガ主タル證據トナリ、被ハ遂ニ罪狀ヲ自白シタリ。

【實例】大正四年十一月中旬、山形縣、赤湯町鈴木方ヘ忍入り金三十七圓ヲ竊取シタル犯人アリ。池田巡查部長現場ヲ取調アルニ賊ノ侵入口タル厩ノ土間ニ徑四分程ノ骨製、一個遺失シアルヲ發見シ領置シタリ。該犯人ハ容易ニ判明セザリシガ、三、四日ヲ經テ



同町飲食店志村屋方ヨリ何人カ古「ゲートル」ヲ匿キ忘レ行キタル旨ヲ以テ届出タルニ依リ、或ハ犯罪ニ何等カノ關係ヲ有セスヤト試ミニ之ヲ檢シタル處、其鈕ノ二個脱落シアルヲ發見シタルノミナラス、其鈕タルヤ前示犯場ニ在リシモノト全然同質ノモノナルヨリ其ニ始メテ一ノ端緒ヲ得タリ。仍テ其附近ノ「ゲートル」使用者ニ就テ捜査シタル結果佐々木某ナル土方アリ、同人ヲ取調ヘタル處「ゲートル」ハ自己ノ物ナル旨ヲ述フルノミニテ犯罪ハ極力否認シタリ。然レトモ鈕ノ點竝ニ「ゲートル」ニ被害者方附近ノ下水溝ノ泥ノ附着セル點ト犯罪當夜ノ行動等ノ追究ヨリ遂ニ犯罪ヲ自白スルニ至リタリ。

(ハ) 嫌疑者カ平素使用シ居リタル個人的痕跡ヲ遺留物ニ於テ認メ得ルトキ遺留物ハ其者ニ基因セラルコトヲ認メテ大過ナシ。

何人ニテモ日常或物體ノ使用又ハ取扱ヒニ因リテ必スヤ自己ノ固有性痕跡ヲ其一端ニ留メシムルモノ也。帽子、履物ハ勿論、器具ニ於テ亦然リ。故ニ現物ト同様状態ノ痕跡ヲ帶フル他ノ物品カ嫌疑者方ニ於テ發見セラレタルカ、或ハ實驗ニ際シテ嫌疑者カ問題ノ物ト同態ノ痕跡ヲ表明シタルトキニ十分ナル注意ヲ拂ハサルヘカラス。

【實例】 〇管テドレステンニ於テ、或肉屋カ自己ノ妻ヲ長キ肉切庖丁ニテ胸ヲ刺シテ殺害シ、逃走スルニ際シ狼狽ノ餘リ夫レヲ刺シタル儘ニ爲シ置ケリ。此ノ庖丁ハ既ニ數年間使用セラレ、屢々研石ニ掛ケラレタルモノナリキ。肉屋ニ於テハ營業者ハ自己ノ庖丁ヲ各自身ニテ研ク習慣アルモノナルカ、遺留ノ庖丁ハ數十回トナク研カレタル爲ニ全ク固有の一種特別ノ變更ヲ生ジ、即チ幾ラカ鐵類似ノ形ヲ呈シタリ。モトヨリ嫌疑者ニ於テハ庖丁ハ自己ノ物ニ非サル旨極力否認シテ己マス。故ニ於テ彼ノ使用ヤル其ノ餘ノ庖丁ヲ悉ク取寄セ彼此比較研究セラレタル處、取寄セラレシ物モ現場ノ庖丁ト同態ニ執レモ鐵ノ如キ研キ耗リヲ呈シ居タリキ。今ヤ多クノ他ノ肉屋ヨリ屢々研カレタル多數ノ庖丁ヲ取寄セ、仔細ニ吟味シ比較セラレタル處、是等ハ其ノ研キ口カ執レモ嫌疑者ノ庖丁トハ相違シ居リタリ。

〇或犯罪者ハ現場ニ削レル一本ノ鉛筆ヲ遺留シタリ。該事件ノ公判ニ於テ裁判長ハ陪審官一同並ニ陪席列事及被告人ニ、同種類ノ同シ番號ノ鉛筆ヲ分配シ而シテ各之ヲ試ミニ削リ尖ラシメタル處、各人ノ鉛筆ハ執レモ現場遺留ノモノトハ異リタル尖リ様ヲ呈セルニ、被告人ニ削ラシメタル一本ノ鉛筆ノミハ、不思議ニモ現場ニ於テ發見セラレタルモノ、尖端ト全然同態ヲ呈セルコト判明シタリ。

(ニ) 遺留物ニ存スル痕跡ニ相照應スル材料ヲ嫌疑者カ所持セルトキハ遺留物カ其者ニ屬スルコトヲ歸納スル有力ナル微憑タルヘシ。

例令ハ「インキ」又ハ染料ノ汚點ト同種ノ「インキ」染料ヲ嫌疑者ノ居室ニ於テ發見セラル、カ、又ハ又物ニテ毀損シタル痕跡アルトキ之レニ照應スル刃ノ形態ヲ有スル兇器ヲ嫌疑者自ラ携帯スルカ如シ。

【實例】 管テ爾逸ノ或殺人犯ノ現場ニ於テ一箇ノ合鍵ノ殘留セルヲ發見セラレタル處此ノ合鍵ノ或箇所ニ螺旋萬力ノ溝ノ痕跡カ明ニ附着シ居タリキ。吾人ハ是ヨリシテ合鍵ノ製作ニ際シ板金ヲ固ク保持スル爲ニ疑モナク螺旋ノ力カ使用セラレタリトノコトヲ確認セリ。然ルニ當該殺人事件ノ嫌疑者ハ其ノ當時迄或鐵工場ニ勤キ居リタルモノナリキ。ワインガルト列事ハ先ツ此ノ工場ニ出張シ鉛板ヲ以テ各螺旋萬力ヨリ溝ノ型ヲ採リ歸リテ檢スルニ、殆ト地テノ型ニ就テハ並行セル押痕ニシテ、合鍵ノ上ニ存スルモノトハ全然其ノ形態ヲ異ニセルモ、然シナカラ其ノ中一ノ壓痕ニ就テハ溝ノ十字形ヲ示セル點カ合鍵ノ上ノ型ト同様ナルノミナラス、押痕ノ一定セル距離、深サ等ニ於テ合鍵ノ型ト全然合致シタリ。是ヨリシテ被告人カ合鍵ヲ作り所持シ居リタルモノナリトノ事情ニ就テ強キ心證ヲ與ヘラレタリ。

遺留ノ犯用物及著用品ヲ又科學的方面ヨリ研究スルノ緊切ナルハ勿論也。(此點ニ關シテハ第一章、第一節ニ就テ見ルヘシ。)

尙(3)及本項(4)ニ關シテハ、第十章第一節、III、警察犬ノ研究參照。

第二款 身體ヨリノ分離物

(1) 毛 髮

犯人ノ毛髮ハ現場遺留ノ帽子、襟卷、手拭ニ附着シ、或ハ屍體ノ掌中、爪ノ中ニ於テ發見セラルルノミナラス、時トシテハ猥褻ニ關スル被害者ノ陰部若シクハ其附近、或ハ犯場ニ存スル鹽ノ中ニ於テ見出サラルルコトナキニ非ス。然シナカラ是等唯一本ノ毛髮ニテモ法醫學者、顯微鏡家ニ交附シ鑑定ヲ求メンカ、茲ニ捜査上一ノ重要ナル端緒ヲ與ヘラルルニ至ルヘキコト吾人ノ既ニ概説シタル處也(第一章、

第一節(甲) 故ニ吾人ハ犯罪ノ現場ニ於テハ是等貴重ノ材料ハ毫モ遺脱スルコトナク搜索蒐集ニ最極ノ力ヲ盡クスヘク、尙押收シタル遺留品等ニ折角附着セル毛髮ヲ取扱ノ際無意識ニ振り落スカ如キ、心ナキ業アル可カラサル也。

證據品タル毛髮カ嫌疑者ノ物ニ屬スルヤ否ヤノ比較研究ニ就テハ嫌疑者ノ之レニ該當スル個所ノ毛髮ヲ採リ之レト對照シ、色澤、大小、厚徑、縮縮、波狀、直狀等ノ形態、橫斷面ノ圓形、不正卵形、三角形等ノ形狀、長短硬軟、染髮劑ノ原料其他ノ關係ヲ判別シ同一ナルヤ否ヤヲ決定ス。然シナカラ注意ヲ要スヘキハ、毛髮ハ乾燥、濕潤ニ依リ著シク變化スルコトアルノミナラス、同一人ノ一定個所ノ毛髮ニ於テモ例令ハ頭髮ノ一局部ハ縮毛ニシテ他ハ直毛ナルモノ或ハ一部分カ他ト全然色澤ヲ異ニスルモノアルカ如ク、一見シテ兩者恰モ別人ノ毛ニ屬セスヤト思惟セラルル場合アリ。又之レニ反シテ別異ノ個人ニシテ兩者全然同様ナル毛髮ヲ所有スル者世ニ絶無ニハ非サルコト之也。

【實例】 往年獨逸ニ於テ一老婦カ何者カニ撲殺セラレタルコトアリ。屍體ノ掌中ニハ抵抗ノ際加害者ノ頭部ヨリ落リ抜キタリト覺ユル三本ノ毛髮ヲ握有シ居リタルヲ以テ、其ノ毛髮ト本件ノ嫌疑者トシテ逮捕セラレタル老婦ノ實子ノ頭髮トテ顯鏡家ニ送リテ鑑定セシムルコト、セリ。科學上ノ手段ヲ盡シ詳細ニ研究セラレタル結果、屍體ノ掌中ニ在リタル三本ノ毛ハ六乃至七環米突ノ長サヲ有シ、二本ハ褐色ナレト一本ハ黑色ト褐色トノ斑ヲ呈セル世ニ極メテ稀ナルモノニシテ、是等ハ二十歳以上四十歳迄ノ男子ノモノトセラレタリ。而シテ嫌疑者ハ二十九歳ノ男子ナル處、種々ノ部分ヨリ切り取ラレタル其ノ見本ノ頭髮ハ同シク六乃至七環米突ノ長サヲ有シ問題タル三本ノ毛ト殆ト同様ノ大サヲモ保チ、其ノ髮ノ三分ノ二ハ褐色、三分ノ一ハ褐色ト黑色ト交互セルモノニシテ、現場ノ毛髮ト試驗用ノ毛髮トハ斯クノ如ク著シク合致シタリキ。然ルニ其ノ息子ハ親殺シノ大罪ヲ犯シタルモノニ非サルコト漸ク判明シ、後ニ至リテ眞犯人逮捕セラレタル處、奇怪ニモ其ノ者ノ髮ハ黒、褐色ノ斑ヲ呈セルノミナラス、其ノ他ノ點ニ就テモ被

ノ息子ノ髮ト偶然好ク一致シタリキ。

(2) 排泄物

排泄物ノ科學的方面ノ調査ニ關シテハ既ニ略説シタルカ故ニ茲ニハ再ヒ贅セス。(第一章第一節(甲)參照) (イ) 糞。殊ニ常習盜犯ノ忍込ノ現場ニ於テハ殆ント常ニ糞ヲ見ル。之レ多クハ犯人自身カ發覺豫防ノ禁厭テフ一ノ迷信ヨリ邪神ノ供物トシテ穢餅ヲ獻スルニ因ルカ如シ。然レトモ之ニ依テ吾人ハ却テ最も重要ナル一ノ憑據ヲ與ヘラル。則チ糞ヲ篩ニ入レ水ヲ注キテ篩フトキニハ食物ノ不消化ノ儘ニ排泄セラレタルモノ、又ハ或殘滓ヲ肉眼ニテ直ニ看取シ得シ場合少ナカラサレハ也。之等ハ一ハ胃腸ノ不健全一ハ物ノ質ニ基因スヘシ。實際ノ事件ニ於テハ屢々豆粕、筍、薩摩芋ノ筋、蒟蒻、山葵、昆布等ノ一片ヲ糞便中ニ包含ス。此種ノ物ヨリ犯人カ最近攝取シタル食物ヲ知り、從テ飲食シタル場所或ハ職業、階級等ヲ推定シ、斯クシテ犯人ヲ探索セントスルコトハ世ノ刑事家ノ常ニ行フ處ニシテ、且其方法ハ矢張り一ノ合理的タルヲ失ハサル也。

【實例】 青テ長野縣豊島町ノ或藪者屋ヘ一人ノ賊忍入り、衣類數點ヲ窃取シ去レルコトアリ。降旗警部補檢證シ現場ニ一ノ脱糞アリタルヨリ之ヲ調フルニ其中ニ不消化ノ白瀧(蒟蒻)アルヲ發見シタリ。仍テ此犯人ハ近々島屋、又ハ肉屋ニ於テ飲食シタル者ナルヘシト見込テ付ケ、附近ノ飲食店ニ就テ探索シタル處、現場ヨリ一里餘ヲ距ル處ニ居住セル窃盜前科數犯ノ男、犯罪ノ當夜其町ヘ立越シ或島屋ニ於テ相當ニ金ヲ酒費セル事實ヲ知リタルヨリ、此者ヲ引致シ嚴重ニ取調ヘタル處、果シテ眞犯人ナリキ。 大正二年ノ出來事ナルカ、廣島市ニ於テ或忍込盜一被害アリ。島田警部補現場ヘ出張スルニ一ノ脱糞カ置ニ伏セアリタルヨリ之ヲ檢スルニ、青キ昆布ノ一片カ不消化ノ儘混レルチ肉眼ニテ容易ニ認メ得タリ。同官ハ之レ恐ラテ近ク監獄ヨリ釋放セラレタル者ナルヘシト推知シ、直ニ廣島監獄ヘ赴キ取調ヘタル處、果シテ同監獄ニ於テ近頃囚人ノ食事ニ混布ヲ使用シタルコトアルヨリ、更ニ進テ最近ノ出獄者ヲ調フルニ一人ノ有力ナル嫌疑者アリタルカ故ニ、極力其者ノ所在ヲ搜索シ引致シタル處、遂ニ其者ノ所爲

ナリシコト判セリ。

明治四十一年十一月、福島縣伊達郡栗野村ノ一農家へ賊忍入リ衣類十點ヲ劫取シ去レリ。遠藤警部補現場ヲ見分スルニ賊ノ爲シタルモノト認メラル、脱糞ヲ發見シタルヨリ、之ヲ京ニ入レ水ニテ洗ヒ見タル處其糞ニハ小豆粕ト薩摩芋ノ纖維ノミカ殘留シタリ。之レヨリスレハ犯人ハ小豆飯及薩摩芋ヲ喰ヒタルモノナラサルヲ得サリキ。時恰モ隣村伏黒村々社ノ祭禮アリタルヨリ犯人ハ正シク祭禮ニ招カレタル近隣ノ者ナルヘシト見込ミ、此方向ニ從テ前科者ヲ物色シタルニ窃盜前科五犯ヲ有スル同村齋藤某アリ。其者ノ舉動不審ナルヨリ家宅ノ搜索ヲ爲シタル處脏品ヲ檢ノ下等ヨリ發見スルニ至リ、彼ノ所爲タルコト明白トナリヌ。斯クシテ其者ハ懲役六年ニ處セラレタリ。

菅テ高知縣ノ或處ニ於テ起リタル居直リ強盜事件アリ。其現場ニ一ノ脱糞アリタル處、刑事ハ之ヲ掘キ混セ其中ニ刺身ノ不消化其他多クノ不消化狀態アルヲ知リ、之レ恐クハ胃腸ノ極メテ健全ナラサル者ニシテ、或ハ最近ノ出獄者ニ非サルヤト氣付キ、直ニ監獄ヘ赴キ最近ノ出獄者ヲ取調ヘタル處、二、三名ノ嫌疑者アリ。其ノ中ノ一人目下ノ所在不明ナルノミナラス、菅テ現場方面ヘ越シタルコトアル事實ヲ確メ、嚴重搜索ノ結果之ヲ逮捕シタルニ果シテ其犯人ナリキ。

大正元年ノ出來事。處ハ山梨縣也。或忍込盜ノ現場ニ脱糞アリ、臨檢ノ署長ハ之カ極メテ粗食者ヨリ出タルモノナルコトヲ發見シ或ハ山高ノ類ナラシカトノ見込ヲ樹テタリ。其後同年十二月十五日ニ至リ午前三時頃同署長ハ附近ノ山高ノ巢窟ヲ一齊ニ襲ヒ嫌疑者二十餘名ヲ逮捕シ、其内前科十犯以上ノ者數名ニ就テ取調タル處、其一人山口國藏力右ノ犯人ナリキ。此者ハ他ニ強盜強姦等八十餘件ノ兇行ヲ爲シ居リタリ。

糞便ニ附隨シテ現場ニ遺留セラレタル尻拭紙カ主物タル大便自體ヨリハ却テ吾人ニ重要ナル手掛リヲ指示スルコトアルヲ注意スヘシ。

【實例】 菅テ、埼玉縣大宮町白田某方ニ七人組ノ強盜押入リ四百圓ヲ強奪シ去リタル事件アリ。現場檢證ノ結果賊ノ押入リタル道路ニ面セル竹藪内ニ一塊ノ脱糞カ竹株ニ懸レテ地上ニ殘サレアルヲ發見セラレヌ。然ルニ糞ヲ拭ヒタル紙片ハ墨痕制新シキ浦和町ノ旅館今福屋ヨリ客ニ出シタル受取書ナリキ。糞ニハ刺身、栗、豆類ノ殘滓アルコト判明シタリ。仍テ刑事ハ今福屋ニ就テ取調ヘタ

ル處此ノ受取書ヲ認メタル福場係給本某ノ曰ク、受取書ヲ出シタル客人ハ二人ニテ其ノ舉動ニ如何ニモ不審ノ廉アリタルニ依リ、滑頭ナシテ其ノ隣室ニ忍ハセ竊ニ監視セシメタル程ニシテ、其ノ一人ハ痘痕面ノ男他ハ云々トコト也。之ニ依テ大凡犯人ノ年齢人相、風貌ヲ知リ得タルヲ以テ、各警署ヘ人相書ヲ送リ逮捕方ヲ依頼シタル處、其ノ後東京木場警察署ヨリ嫌疑者ヲ取押ヘタル言ノ電報アリ。刑事ハ直ニ上京シテ其ノ者等ヲ見ルニ今福屋ニ宿泊シタル者ニ相違ナカリキ。

同署テ本郷本富士警察署管内ニ居住セル官吏高橋某方ニ二人ノ兇漢團入シテ、家族五人ヲ殺害セル強盜殺人事件ノ突發シタルコトアリ。臨檢ノ刑事ハ現場ノ門口ニ遺棄シアリタル汚穢セル怪シキ一枚ノ紙片ヲ發見シタル處、此ノ紙片ハ根津ノ女郎屋清常盤樓カ煙客ニ出シタル一圓五錢ノ遊興代金ノ受取書ナリキ。刑事ハ之ヲ手掛リニ清常盤樓ニ就テ搜索ノ結果、遂ニ二人力車宿野田屋ノ轎子竹次郎ト熊公ナル二人ヲ犯人トシテ檢査スルヲ得タリ。

數年前群馬縣佐波郡茂呂村ニ於テ、小金ヲ貯ヘ居レリトノ噂アル一老婆カ其ノ居宅ニテ何者カニ絞殺サレタル上、面膚其ノ他ヲ研リ削カレ凄愴タル慘屍體トナリテ其ノ翌朝發見セラレタルコトアリ。犯人ハ多少ノ金圓ヲ強奪シ去リタルニ對シテ、現場附近ニ土產トシテ一塊、脱糞並ニ尻拭紙片ヲモ共ニ遺留シ居レリ。出張ノ刑事ニ於テ右紙片ハ小學校生徒ノ清書ノ一片ナルコトヲ知リ得タルヨリ、同村小學校ノ教員ニ就テ調査シタル結果、筆跡ヨリシテ何某ナル生徒ノ清書ナルコト判明シ、更ニ其ノ兒童ニ就テ尋本々ニ處隣家ノ木村某(染物屋職人)カ無斷ニ持チ行キタル儘今日迄返シ呉レサリシモノナリトノ答ヲ得、犯人ハ木村ニ相違ナキコトヲ確メ同人ノ任事先ニ於テ遂ニ逮捕シタリ。是ヨリ先キ同人ハ犯行後翌朝野次馬ト共ニ素知ラヌ類シテ現場ニ至リ、老婆ノ慘死體ヲ一瞥シテ世ニハ慘酷極マルコトヲ爲ス者アレハ有ルモノカナ、犯人發覺ノ上ハ火炎リノ刑ニ處スルモ尙儆ヲス等稱シ居レリト云フ。(尙殺人科學的捜査法三八〇頁實例參照)

(ロ) 尿、及ヒ痰唾

尿又ハ痰唾ヲ犯罪現場ニ於テ發見スルカ如キハ前示ノ糞ニ比セハ極メテ少數タルヘキノミナラス、假リニ犯人ヨリ出タル尿又ハ痰アリトスルモ、科學的調査以外ニ吾人カ肉眼ニテ確メ犯人捜査ノ一端

緒ニ利用スルカ如キハ殆ント不可能ナルヘシ。要ハ尿及痰唾ト雖科學的研究ノ立場ヨリスレハ捜査上貴重ナル材料タリ得ルトノ事情ヲ平素既ニ理解シ居ルヘキコト之也。

【實例】大正六年夏、福島縣ノ或忍込盜ハ犯人ノ際被害者方戸ノ間ニ放尿シタリ。之レ月ヲ明クルトキ音ノ立タサルコトヲ計畫シタルニ外ナラス。出張ノ一巡査ハ直ニ酒臭ヲ帯ヒタル小便ノ臭ヒヲ感シタルヨリ、犯人ハ酷町者ナラサルヲ得ストシ此方針ニ於テ捜査スルコトト爲シタルカ、恰モ當夜巡回ノ際酷町者ニ出會ヒタルヲ想起シ、直ニ其男ノ行衛ヲ捜索シ逮捕シタル處、果シテ其者ノ所爲ナリキ。

第三款 犯人ノ欺計遺留

凡ソ犯罪ノ現場ニ遺留セラレタル總テノ物ニ就テ吾人ハ亦特別ノ著眼點ヲ必要トスヘシ。何トナレハ犯人ハ官廳ヲ欺カンカ爲メニ屢自己ニ屬セサル或物ヲ態々現場ヘ携帯シ故意ニ遺留シ來ルモノアルノミナラス、平素自己ノ使用セル物品ニ特ニ他人ノ頭文字ヲ記入シ其目的ニ使用スル者アレハ也。出張ノ刑事家ニシテ若シ犯人ノ此欺計ニ陥リ捜査ノ第一歩ヲ誤ルカ如キコトアランカ、其結果ハ推シテ知ルヘキノミ。故ニ吾人ハ遺留品ヲ發見シタル場合ニ於テハ其物ハ犯人ヨリ故意ニ殘サレタルニ非サルヤノ點ヲモ亦探索ノ一端ニ加フルノ緊張シタル注意ヲ怠ルヘキニアラス。

犯人ノ自己ニ屬セサル物ニ關スル遺留ハ犯人カ他ヨリ竊取シ來レル物品タルコトアリ。或ハ特ニ古物商等ヨリ購ヒ來レルモノモアラム。宜シク吾人ハ現場ニ於ケル諸般ノ狀況、事情等ニ對シテ、犀利ノ觀察ト周回ナル批判ヲ盡クスヘク、犯場ニ臨ンテ立所ニ敵ノ奸計ニ陥ルカ如キコトアルヘカラス。

之レニ關シテ尙注意スヘキハ、眞實行爲者ヨリ遺留セラレタル物ニ對シテ、徒ラニ犯人ノ欺計的狂言品トシテ願ミサルカ如キコトアルヘカラサルト共ニ、遺留品ヲ現場ニ螺集シ來レルニ、三ノ野次馬

ニ示シタルノミニテ貴重ナル證據ヲ遂ニ被害者方ノ物トシテ看過スルカ如キ失態ヲ演セサル様戒メサル能ハス。之レニ反シテ又被害者方ノ所屬品ヲ犯人遺留ノ證據品トシテ押收シ鄭重ニ保存シタルカ如キ先例モアリ。宜シク吾人ハ最大ノ注意ヲ拂テ是等ノ轍ヲ踏マサルコソ肝要ナレ。

【實例】①嘗テ引證シタル赤坂表町署檢舉ノ竊盜犯人岡田某ハ犯場ニハ必ス故意ニ遺留シテナスヲ手口トセリ。甲ヨリ竊盜シタル傘ヲ乙ニ、乙ヨリ取りタル草履、下駄ヲ丙ニ置キ去ルカ如シ。被害者ノ一人タル著者ノ家ニハ手拭一筋ヲ遺留シ行ケリ。

②佛蘭西ニ於テ嘗テ一殺人者ハ犯罪現場ニ一箇ノ革帶ヲ遺留シタル處、其ノ内側ニ「カフス」トモ殘サレタリキ。該事件ノ殺人犯人ハ兇行ナル名カ書カレアリ、尙此ノ革帶ノ外ニGGト書カレタル血痕附著ノ一對ノ「カフス」ヲモ殘サレタリキ。該事件ノ殺人犯人ハ兇行ニ際シテ非常ナル注意ヲ拂ヒタルコト並ニ犯行中他人ヨリ脅カサレ狼狽シテ途中ヨリ逸ケ去リタルカ如キコトナキハ檢證ノ結果明白トナレリ。是等ノ點ヨリ察スルニ彼ハ恐ラク物品ニ虚偽ノ記號ヲ附シ、而シテ殊更之ヲ殘留シ去リタルモノナリ。

③獨逸ニ於ケル一犯罪ノ現場ニ於テ犯人ヨリ殘サレタル一箇ノ上靴ヲ發見シタリ。該事件ノ犯人カ後日逮捕セラレ逐一自白スル所ニ依レハ、其ノ者ハ嘗テ屢々自己ノ着川スルモノヨリ異レル靴ヲ現場ニ遺留シ置クヲ手段トシ、右ノ犯行ニ對シテモ上靴ヲ故意ニ遺留シ置キタルモノナリキ。彼ハ捜査官ヲ迷ハシメムカ爲ニ常ニ態々現場ヘ右證據物件ヲ運ヒ行キタルナリ。

④明治三十八年十月、群馬縣碓氷郡後閑村ノ某農家ノ土蔵ヲ破リテ衣類七十餘點ヲ竊取シタル犯人アリ。然ルニ土蔵ノ入口ノ處ニ於テ古手拭ノ袋ト木箱トノ遺留品ヲ發見シタルカ、袋ノ中ニハ米ト靴刺ヲ入レアリ、木箱ニハ一風鏡ト文久鏡ニテ合計一鏡五風程アリタルノミナラス、尙木箱ノ傍ニハ煙草ノ少量ヲ紙ニ包ミタルカ添ヘ置カレタリ。此ノ遺留物ヨリスレハ何人モ右ハ乞丐ノ所爲ナルコトヲ信シテ疑ハサルヘシ。出張ノ八木刑事カ仔細ニ取調ヘタル結果、右遺留品タル乞丐袋ハ手ニテ握ル所カ他ト比較シテ毫モ汚穢セルコトナキノミナラス、木箱ノ縁ニハ里芋ノ赤キモノ如キ纖維ヲ附著シ居リ平素農家ニ於テ里芋ヲ搦フニ使用セル痕跡歴然タリ。依テ犯人ハ捜査官ノ眼ヲ晦マサムトシテ乞丐ヲ裝ヒタル一人ノ農民ナルヘシトノ見込ヲ附ケ、捜査ノ結果右ハ佐藤某(竊盜前科者)ノ所爲ナリシコト翌年一月ニ至リ遂ニ發覺シタリ。

### 第二節 其他ノ證據物

以上陳ヘタル遺留物ノ研究ハ臨檢必要犯ニ於テ起ル問題タルハ勿論ナレトモ、臨檢不要犯ニ於テモ亦諸種ノ證據物カ何人ニ歸屬スヘキヤヲ捜査シ、或ハ物カ其事件ノ嫌疑者ニ歸屬スルコトヲ證明セサルヘカラサル場合極メテ多シ。例令ハ偽造通貨、偽造文書、侮辱又ハ名譽毀損ノ爲メノ投書、脅迫或ハ恐喝ノ爲メノ手紙ノ如キ之也。此中屢々起ル問題トシテハ無名ノ手紙又ハ投書カ何人ヨリ作成セラレタルヤノ點也。吾人ハ之ニ就テ唯一端ノ研究ヲ左ニ列記セントス。

(1) 文書ノ材料ノ注意。(イ)紙、狀袋、墨、インキ。犯罪ニ使用サレタル紙及墨等ハ作成者ノ職業、階級ヲ表示スヘキ何等カ或固有ノ特徴ヲ有セサルヤニ就テ仔細ノ論議ヲ要ス。(ロ)文書ニ存スル痕跡。文書ノ上ニ附着セル汚點或ハ特殊ノ臭香ハ屢々一定ノ職業ニ従事セル者ヲ推測セシメ得ヘシ。尙犯人ノ脂肪豐富ナル指先ヨリ不表現的ノ指紋ヲ押捺セシメ居ルコトアルノミナラス、時トシテハ他ノ一文書ノ墨又ハ「インキ」文字カ極メテ微カナカラモ問題ノ文書ニ擦レ移リ、或ハ他ノ文書ノ鉛筆文字ノ壓痕カ此ノ文書ニ於テ微カニ認メラルルカ如キコトアル也。(但シ是等ノ科學的調査ニ就テハ第一章第一節、參照)

【實例】嘗テ竊盜ニ於テ或者ハ自己ノ所持金ト三個ノ古貨幣ノ記念品トヲ竊取セラレタルコトアリ。然ルニ被害者ハ其犯人タルヘキ老シク感付キタルニ依リ竊盜ニ對シテ書面ヲ認メ、如何ナル條付ヲ以テセハ三個ノ古貨幣カ自己ノ手許ニ還リ來ルヘキカヲ尋ネタル處、之レニ對シテ程ナク次ノ如キ記載アル一通ノ手紙ヲ受領セリ。即チ曰ク、「眞チ以テ人ヲ釣レ、喰ハスニ先ツ利ヲ以テセヨ。然シ余ニ向テニハ非ス。余ハ貴殿ニ對シテ余ノ手紙ヲ提供スルコトヲ充分ニ自ラ用心セルモノ也」と、此手紙ト宛名ハ執レモ肉筆ヲ以テ書カレスシテ印刷シタル文字ヲ集メテ貼付ケラレタルモノナリキ。然ルニ嚴密ナル試験ニ依テ狀袋ノ上ニ他ノ手紙ノ宛名

カ壓寫セラレアル個所ヲ發見シタリ。想フニ他ノ手紙ニ書キタル宛名「インキ」カ濡レタル儘ニテ未ダ乾カサルモノチ此手紙ノ上ニ何心ナク載セ置キタル爲メニ附着シテ文字カ寫レルモノナルヘシ。其標レ移リノ字ノ跡ヲ讀ミ見ルニ「ハアール、ホツフ」トアリ。之レヨリ探査ノ結果發行人タル犯人ハ直ニ發見セラレタリ。

(2) 郵便消印。犯人カ手紙ヲ投函シタル場所ト日附トヲ「スタンプ」ニ依テ知り、之レカ爲メ種々解決ヲ與ヘラルルコトアリ。故ニ又誦詐ナル犯人ハ依頼郵便ナルモノヲ惡用スルコトアルヲ注意セタルヘカラス。

【實例】圖逸ニ於ケル或村ノ數人ノ有力者ハ漸次ニ、侮辱的ノ手紙ヲ受領シタル處、其手紙ノ「ガストスタンプ」ヲ見ルニ常ニ午後四時ト五時トノ間ニ於テ投函セラレタルモノナリキ。玆ニ於テカ此時刻ニ何人カ郵便函ノ前ヲ通過スルヤヲ注意セラレタル結果、遂ニ毎日午後四時頃ニ學校ヲ退廳スル其土地ノ一教員チ手紙ノ作成者トシテ探シ當テタリキ。

(3) 手紙ノ内容。(イ)作成ノ動機ニ留意シ、(ロ)筆記者ノ教育ノ程度ヲ推測シ、(ハ)其者ノ智識及ヒ境遇ノ上ニ想像スヘシ。

(4) 手 跡。(イ)筆蹟鑑定家ノ検査、(此點ニ付テハ各論第三章第(三)節、第一款、參照)。(ロ)特ニ一定ノ範圍内ニ於テ求メ得ヘキ場合ニ於テハ此範圍ニ屬セル各個人ノ筆蹟ヲ蒐集シ非常ナル根氣ヲ以テ一々比較對照スヘシ。例令ハ一會社、一官廳内ニ於ケル調査ノ如シ。之ニ對シテハ各個人カ既ニ問題ノ文書ト同時代ニ書キタル文書、手紙ヲ比較材料ニ供スルヲ優レリト爲スモ、其ノ困難ナルトキニハ各個人ニ新タニ問題ノ文書ト同様ノ筆ト紙トヲ與ヘ成ル可ク迅速ニ書カシメサルヘカラス。之レ其者カ書ヲ故意ニ伴リ變フルコトヲ防カシカ爲也。

【實例】圖逸ニ於テ嘗テ所罰ヲ受ケヘキ内容ヲ有スル一本ノ手紙ハ代書人ノ手筆ニ相違ナシトノコトニ一決シタルヨリ、警察官ハ裁判所ニ赴キ其所ニ於テ仕事ヲ爲セル代書人ノ手紙ヲ證據セルモ遂ニ結果ヲ得ザリキ。仍テ更ニ代書人ノ代書ニ係ル裁判費用ニ關スル申請書ノ綴リヲ繰リ返シ探査シタル處、其中ニ一外國人ナル代書人ノ書キタル申請書ニシテ全ク投書ト同一ノ筆蹟ノモノヲ發見

スルニ至レリ。

是等ノ目的ノ爲メニハ少クトモ一警察部ニ於テ、所轄ノ犯罪前科者、(及ヒ起訴猶豫者)、殊ニ侮辱、名譽毀損ニ關シ投書ヲ爲シ處罰サレタル者、文書ヲ使用シ脅迫罪又ハ恐喝罪ヲ犯シタル者、文書ノ偽造變造ノ前科者、及ヒ是等ノ犯罪ヲ犯スヘキ傾向ヲ有スル者等ノ手蹟ヲ蒐集シ、之ヲ種々ノ點ヨリ分類整理シ索引ヲ備ヘタル犯罪人筆蹟表ヲ作成スルノ有效ナルヘキコトヲ吾人ハ推奨スルモノ也。

### 第五章 證據物件ノ搜索

#### 第一節 搜索ノ目的タル物件

##### I 犯用物、犯取物、犯生物、犯罪組成物。(刑法第十(九條參照))

犯用物トハ例令ハ殺人事件ニ用ヒタル銃器、鈍器、尖器、絞殺用器、銃器、毒物。盜犯ニ於ケル鑿、鐵槌子、錐、小刀、合鏡、銀針金、釘拔、刀、匕首、庖丁、棍棒、麻繩、拳銃、黑布、手拭、懐中電燈、蠟燭、信玄袋、マント、螺旋廻シ、錠、斧。放火ニ於ケル燐寸、石油、新聞紙、襪、木屑。偽造罪ニ於ケル筆、鉛筆、ペン、墨、インキ、繪具、小刀、貨幣鑄造器械、極印打込器具、鐘「スタンブ」、沸シ壺、磁磁、石膏、粘土、洋紙、寫真材料、化學品、石版刷器、銅版。詐欺賭博ニ於ケル燐寸、碁石、菓子、籤、紙、骨子、壺、メカ札、シヤウ札、眞紙幣。賭博ニ於ケル骨牌、骨子、壺、目紙、碁石、小鏡、繩、紋紙、燐寸。等ノ如キハ唯其一例ニ過キス。

犯取物トハ犯罪ニ因テ得タル贓物、其他犯罪ニ因テ取得シタル一切ノ動カシ得ヘキ物ヲ指示スルハ勿論也。犯取物自體ヲ原形ノ儘發見スルコト能ハサル場合ニ於テモ、之レカ變形物ヲ普ク搜檢スルノ手續ヲ怠ラズニ付スヘカラス。例令ハ屍體ヲ燒燬シ處分シタル場合ニ於テモ、灰ノ中ニ於テ骨ノ殘片又ハ被害者ノ鈕、針、指輪、眼鏡ノ縁等ノ如キ、燒ケサル金屬類ノ一片ヲ發見セントスルカ如シ。

犯生物トハ例令ハ通貨偽造罪ニ於ケル偽造通貨、文書偽造罪ニ於ケル偽造文書ノ如ク、犯罪ニ因テ生シタルモノヲ云フ。

犯罪組成物トハ例令ハ猥褻文書圖畫販賣罪ニ於ケル猥褻文書、圖畫夫レ自體、偽造文書行使罪ニ於ケル偽造文書其ノモノト云フカ

##### II 犯罪ノ痕跡ヲ附著セル物

例令ハ血痕又ハ犯場ニ存スル物質ノ附著セル著衣、犯罪ニ際シテ裂損シタル衣類、其他右ノI記載以外ノ物ニシテ苟モ犯罪ニ關スル痕跡ヲ帶ヘル一切ノ物件。

##### III 證據物ノ對照材料トナルヘキ物件

(之レニ就テハ第四章第一節第一款(4)遺留物ノ嫌疑者歸屬ノ證明ノ部參照)。例令ハ放火ニ使用シタル新聞紙ノ一片ノ其殘餘ノ部分、同題ノ燐寸ト同様ノ燐寸ト云フカ如シ。

##### III 證據書類

吾人ハ各種ノ犯罪ニ關シテ書類殊ニ手紙、書キ付ケ、帳簿、手帳、日記帳等ヲ搜索スヘキ必要ニ迫ララルコト屢々アラム。此場合ニ證據トナルヘキ書類カ既ニ引キ裂カレ、或ハ燒燬セラレタルトキ、吾人ハ最早如何トモスルコト能ハサルカ。若シ之レヲ修覆シ加工シ同様證據ニ用ヒ得ル方法アリトセハ、吾人ハ同シク搜索ノ目的タル重要物件トシテ之ヲ發見シ拾集スルニ努メサル能ハサル也。此修覆又ハ加工ノコトタルヤ極メテ困難ナルヘキモ、左ノ如クシテ或程度迄效果ヲ收メ得ヘキカ。

##### (1) 引裂カレタル文書ノ編綴

引裂カレタル文書ノ内容カ證據上重要ナルニ比例シテ、夫レ丈ケ仕事ハ一層困難トナルヘシ。如何トナレハ何人ト雖無頓著ナル文書ヲ特ニ注意ヲ加ヘ入念ニ引裂クカ如キコト無ケレハ也。先ツ吾人ハ

引裂キ捨テラレタル例令ハ紙屑籠ノ中ヨリ紙片ノ疑ハシキ一ト九メヲ採取シ、其紙片ノ全部ヲ一ノ机上ニ擴ケ、然ル後各紙片ニ就テ裏カ表カヲ調査シ裏カ表テノ一方ノミニ置キ替ヘシムヘシ。

若シ書類ノ一面ノミニ字カ書キアルトキ(例、日本紙ニ於ケル書)ニハ此事タルハ極メテ容易ナルヘキモ、然ラサルトキニハ執レカ滑ラカ何レカ粗ナリヤトノ紙ノ検査(日本紙ノ如キハ製造上表裏ノ紙面異ナルヘシ)或ハ一面カ他面ヨリ甚ダシク汚レ居ルヤノ状況ノ證據ヲ以テ多クハ其目的ヲ達シ得ヘシ。然シナカラ右ノ如クシテ表裏ヲ判別シ難キトキニハ己ムヲ得ス記載ノ文章自體ヨリ區別スルノ外ナキ也。

斯クシテ凡ソ表裏何レカニ列ヘタルトキニハ先ツ四隅ノ紙片ヲ搜索スルヲ要ス。之レ確實ナル支持點ヲ得ンカ爲也。既ニ四隅カ確定シタルトキニハ、次ニ左右上下ノ縁ノ紙片ヲ物色シテ各該當セル個所ヘ差シ置クヘシ。然ル後其歸屬場所ノ判明セル紙片ヨリ漸次排列シ行クトキニハ、追々多クノ根據點ヲ得タルカ爲メニ、最初ニ於テハ一向見當ノ附カサル紙片迄カ後ニハ漸ク自席ヲ發見スルニ至ル。

各紙片ニ對シテ其位置明ニ確定シタルトキニハ進ンテ保全ノ方法ヲ講セサル能ハス。吾人ハ文字カ紙ノ一面ニノミ書カレタルモノニ就テモ亦之ヲ一枚ノ紙ニ貼付スルコトハ躊躇ヲ要ス、何トナレハ後日ニ至リ裏面ノ狀況カ或ハ問題ノ種ニナルカ如キ場合ナキヲ保セサレハ也。故ニ如何ナル書類ニ對シテモ其表面及裏面共ニ硝子板ニテ保護スルヲ萬全ノ策トス。即チ二個ノ同大ノ清淨ナル白キ硝子板ヲ準備シ、其一枚ヲ清ラカナル水ヲ似テ濡ラシ、然ル後其上ヘ右紙片ヲ一片ヨリ一片ト云フカ如ク排列ニ從テ順次ニ併置ス。如斯極メテ多勞ナル仕事ヲ終リタルトキニハ、他ノ一枚ノ硝子板ヲ十分ナル注意ヲ以テ其上ニ靜ニ置クヘシ。今ヤ之ヲ其儘放置シ時ノ經過ニ依テ乾燥スルヲ待チ、然ル後糊付ケタル強キ紙ノ四個ノ長片ニテ、板ノ四邊ヲ固著シ保存スル也。

(2) 燃燒シタル文書ノ讀解及保全

燃燒シタル紙ノ文字ヲ讀ミ得ル様ニ爲スト云フカ如キハ、引裂カレタル紙ノ補綴ヨリハ一層困難也。然シナカラ書面カ燒カレタル上、細カキ灰ニ碎粉セラレサル限リハ、吾人ハ或程度ニ之レカ文字ヲ讀ミ得ルコトハ絶對ノ不可能ニ非サルコトヲ知ラサルヘカラス。實際問題トシテハ、一ノ嫌疑者カ家宅搜索ヲ受クルニ當リ竊ニ緊要文書又ハ帳簿ヲ燒燬スル場合ニ對シテ之カ研究ノ必要ヲ見ル。

(A) 若シ吾人ハ家宅ノ搜索ニ當リ、例令ハ臺所ノ竈、火鉢、「ストーヴ」等ノ中ニ於テ新タニ炭化セル紙カ存在スルコトヲ發見シタルトキニハ、臨機應變ニ空氣ノ流通ヲ中斷スルノ方法ヲ急速ニ講シ、以テ紙カ其以上餘計ニ燃燒セサル様爲スコト肝要ナリ。(「ストーヴ」又ハ風呂場ノ竈ニ於テハ空氣ノ入り込ム所又ハ煙筒ヲ閉鎖スルカ如シ)然ル後平タク削リタル木箸ヲ以テ個々ノ炭化セル紙片ヲ火鉢ヨリ取り揚ケ一全紙ノ上ニ靜ニ之ヲ擴ケ、而シテ一時硝子ノ鉢ヲ以テ之ヲ掩ヒ保護ス。但シ斯クノ如ク採取シ得ル炭化紙ハ其紙質ノ比較的厚ク且良好ナルモノナラサルヘカラス。

何トナレハ普通ノ半紙、美濃紙等ノ薄キ日本紙ニ於テハ、燃燒ト同時ニ輕ク他愛ナキ灰ト爲リ羽化シテ殆ント空中ニ其姿ヲ殘シ形影ヲ止メサルカ故ニ、如何トモスルコト能ハサレハ也。西洋紙ノ類ニアリテモ薄クシテ紙質ノ粗惡ナルモノ、例令ハ我國新聞紙ノ如キハ、日本紙ト同様ノ結果ニ陥ル。常ニ火鉢内ニ於テ發見シ、且採取シ得ルハ夫故厚クシテ其質キ西洋紙ノ類タル也。

是等蒐集シタル炭化紙ヲ先ツ斜光線ニ照シテ檢シ紙灰ノ上ニ現ハルル文字ニ注意スルトキニハ、吾人ハ其一部分又ハ所々ノ文字ヲ讀ミ得ヘシ。何トナレハ是等文書ハ墨ノ文字タルト、印刷文字タルト果タ又「インキ」文字タルトヲ問ハス、或ハ黒色ノ紙灰ノ上ニ文字ノミ白色又ハ灰色ニ光リテ現ハレ、

又ハ灰色ノ炭化紙上ニ黑色ニ浮ヒ出ツルカ故也。如斯ハ紙及墨「インキ」ト尙種々ノ燃燒關係ヨリシテ此差異ヲ生スルモノトス。

最良ク讀マレ得ル炭化紙ハ郵便簿書上ノ墨文字ニシテ、兩面ノ文字共吾人ハ左程困難ヲ感セス讀ミ得。殊ニ郵便「スタンプ」、及ヒ簿書ニ印刷セラルル印紙、「郵便ハカキ」、「通信者發行」、「印刷局製造」、トノ文字、又ハ封書ニ貼布セラレタル二錢、三錢等ノ切手ハ燃エタル紙ノ上ニ特種ノ色ニ於テ明ニ認知シ得ヘシ。

斯クノ如キ重要ナル紙灰ヲ證據トシテ保全スルコトヲ得ハ一層ノ成效タラム。此仕事ニ就テハ吾人ハ先ツ白キ洗面盥ニ充分水ヲ入レ、其水ノ上ニ燃燒紙ノ小片ヲ静カニ置クヲ要ス。斯クスルトキニハ炭化紙ハ水ヲ吸收シテ軟クナリ、水面ニ平タク延ヒ擴カル也。(實ハ讀得ル「インキ」炭化紙ノ文字モ水ニ浮シテ始メ「アルコホル」ヲ以テ水ニ代フヘシ。)然ル後好ク透見シ得ル良質ナル模寫用紙ニ溶解シタル護謨ヲ塗り、乾燥セシメタル上、細長ク切りタルモノヲ準備シ、其紙ノ護謨ノ附著セル方ヲ上方ニ向ケ、之ヲ水面ニ浮ヒ居ル灰紙ノ下ニ遣リ而シテ紙片ヲ注意シテ引キ揚ク。斯クシテ揚ケタル炭化紙ト、共ニ護謨塗リノ長紙片ヲ乾燥セシメ、而シテ全部ノ炭化紙ヲ引キ揚ケル迄ハ同シテ方法ヲ根氣ヨク繼續ス。今ヤ總テカ乾燥シタルトキニハ長紙片ノ不必要ナル餘分ノ個所ヲ注意シテ切り捨テ、其結果個々ノ燃燒紙片ノ爲メニ僅ナル縁ヲ留メ置クヘシ。然ル後前ニ引裂カレタル紙ノ編綴ニ關シテ述ヘタル方法ヲ以テ、此各紙片ヲ一ノ排列ニ於テ纏メ之ヲ同様ニ枚ノ硝子板ノ間ニ挿ミテ保全スル也。(但シ或ハ炭化紙ノ文字ヲ光線ニテ取除カルル必要アルヘキヲ想像セハ)硝子板ハ紙ニテ編綴セサルチ可トス。

(B) 若シ一ノ完全ナル書籍、帳簿カ燒カレテ一ト塊リトナリタルトキニハ、個々ノ頁ヲ直ニ捲ルコト能ハス、若シ斯クセハ帳簿ハ粉碎シ終ルヘシ。吾人ハ先ツ背部ヲ注意シテ切り落シ以テ各頁カ此以上一所ニ固マラサル様ニナシ、然ル後其炭化冊子ヲ水ニ浸シ、次テ一ノ熱氣ヲ掛ク。例令ハ熱氣管ノ口ニ當テ又ハ瓦斯「ストーヴ」ノ上ニ置ク也。斯クスルトキニハ水分ノ迅速ナル蒸發ニ依リテ個々ノ頁ハ自ラ融ケ離レ、其結果吾人ハ今ヤ適當ナル注意ノ下ニ各頁ヲ捲リ讀ムコトヲ得。但シ此種ノ物ハ其後直ニ碎ケ又ハ塊ルカ故ニ急速ニ他ニ寫シ取り置クコトヲ要ス。

【實例】一八七一年ノ巴里ニ於ケル司法官衙ノ火災ノ際、登記所内ニ置カレタル無數ノ抵當登記簿ノ大冊カ、唯タ一塊ノ炭化物トナリ終レルモノニ對シテ、此方法ヲ施シ讀ミ得ルルル種ニナシ、斯クシテ信憑スヘキ寫字ヲ得ラレタリ。

### 第二節 搜索スヘキ箇所

一 嫌疑者ノ身體。 嫌疑者ノ身體ニ就キテ證據物體ヲ搜索スヘキ場合ニ於テハ、身體ノ各孔穴ヲモ特ニ嚴密ニ穿鑿スヘク(但シ善良ナル風俗ヲ害セス且ツ平穩ノ手致ニ依ルヘクハ勿論也。)尙頭髮ノ中、身體ニ貼付シアル膏藥ノ下等ヲモ看過スヘカラス。

【實例】大正五年十一月二十日、新潟監獄高田分監ヲ破獄逃走シタル前科十犯、竊盜未決犯人小林某ハ、入獄ニ際シテ肛門ノ中ニ長サ二寸五分程ノ鐵製「サツク」ヲ挿入シ居タリシ也。此「サツク」ノ中ニハ錐、鉗、螺絲起シ等ヲ藏シアリ、是等ノ兇器ヲ「サツク」ニ植付ケ使用シ得ル仕掛ニ作ラレタルモノニシテ、彼レハ之レヲ使用シ拘留監ノ天井板ヲ切り破リテ逃走セル也。後逮捕セラレ懲役十二年ニ處セラレタリ。

又嘗テ群馬縣前橋市ノ一旅館ニ於テ宿泊セル某代議士カ拾圓紙幣數枚盜難ニ罹リタルコトアリ。出張ノ上取調ヘタル刑事ハ他ヨリ賊ノ忍入りタル形跡ナキノミナラス、其家ノ女中ニ嫌疑ヲ置クヘキ者アリタルヨリ嚴シク追究シタル處、遂ニ犯行ヲ自供シタルカ、



贓金ノ提出ヲ命スルヤ、女ハ便所へ立入り糞紙ニ小サケ包ミタル儘取出シ來レリ。即チ女ハ紙ニ包ミ之ヲ陰部ニ挿入隠匿シ居リタ  
ル旨ヲ自白シタリ。

○警署東京區裁判所へ引致サレタル竊盜ノ女ハ贓金タル女持金制懐中時計一個ヲ陰部ニ挿入隠匿シ居リ、監視巡査ニ感付カルルヤ  
便所へ立入り之ヲ出シテ庇髮中ニ藏匿セリ。更ニ此新藏匿個所ノ發覺セントスルヤ、復タ再ヒ便所ニ立入り元ノ個所ニ置替ヘント  
シテ遂ニ露顯シタルコトアリ。

○大正七年三月、強竊盜前科十七犯山下某(四三)ナル者、和歌山縣新宮町ノ一旅館ニ於テ郵便局長ノ所持金六千圓其他ヲ竊取シタ  
ルカ、舉動不審者トシテ後日捕ヘラレタリ。然ルニ彼ハ十圓金貨二個位ナレハ一眼ノ中ニ隠匿シ得ル旨ヲ護送巡査ニ豪語シタルヨ  
リ警察署ニ於テ實驗セシメタル處、驚ク可シ、果シテ五錢白銅貨チ一眼ニ二個總計四個ヲ眼中ニ隠匿シ。外部ヨリ一見シタル處ニ  
テハ毫モ異狀ヲ呈セザリシ。尙彼ノ告白ニ依レハ警署北海邊ノ監獄ヲ破獄スルトキニハ、小サケ巻キテ皮包ニ納メタル「ゼンマイ」  
ノ銀ヲ眼中ニ隠シ居リ、之ヲ用ヒテ仕事ヲ爲シタリト。

尙衣服ノ縫上ケノ内、繻絆又ハ著物ノ襟ノ中、袷又ハ綿人ニ於テハ表地ト裏地トノ間、縫目、足袋  
ノ中、下駄等ハ悉ク吟味ノ要アリ。洋服ニ於テモ切地ト裏地トノ中間、上衣ノ襟ノ中、「ネツクタイ」  
ノ内、靴底ヲ隠匿場所ニ利用スル犯人アルヲ注意スヘシ。

【實例】明治四十二年七月、新潟縣北魚沼郡湯ノ谷村、某女ヨリ、留守宅ニ賊忍入り佛壇中ニ置キタル夫所有ノ五圓札一枚竊取シ去  
リタル旨ノ届出アリタリ。倉橋警部補取調フルニ現狀ノ模様並ニ家庭ノ事情等ニ徴シテ頗ル不審ノ點アルヲ以テ、恐ク妻女カ自ラ  
竊取シタルモ主人ノ手前ヲ誹ハシカ爲メ虚偽ノ届出ヲ計レルニ非サヤト認メラレタルヨリ、妻女ノ算筒ヨリ一々衣類ヲ取り出し取  
調フルコトトナセリ。時ニ同行ノ駐在巡査ハ曩キニ一度打振リ取調ヘタル足袋ヲ更ニ取り上ケ其内部ヲ裏返シテ檢シタル處、  
豈圖ランヤ五圓札カ足袋ノ甲ノ内側ニ糊付ケニセラレタルヲ發見シ、立會ノ妻女ヲシテ顔色ヲ失ハシメタリ。女ハ遂ニ警察犯處罰  
令ニ依リ却テ處分ヲ受ケタリキ。

○或ル者ハ拘禁中次ノ方法ニ依テ、其ノ携帯セル贓物タル金貨ヲ確實ニ保持シタリ。即チ彼ハ多クノ金貨ヲ自己ノ穿テル長靴ノ底  
ノ外側ニ糊附ケトナシ。其ノ上ニ薄ク一ノ溼膏ヲ布キ而シテ此ノ長靴ヲ穿キタル儘街路ノ泥ノ中ヲ歩ミタリキ、夫レ故何人ト鑑金  
貨カ靴底ニ固着シ居ルカ如キコトハ夢ニタニ覺知シ得ザリシ也。

○大正七年七月、廣島縣三次警察署ニ捕ハレタル竊盜前科十三犯ノ中矢某(三八)ナル犯人アリ。警察署ニ拘留中其内縁ノ妻面會ニ  
來リタルカ、妻ハ自己ノ履キタル下駄ノ裏ニ巧ミニ鐘ヲ嵌メ置キ其下駄ト犯人ノ下駄トヲ竊ニ取替ヘテ歸宅シタリ。中矢ハ三次監  
獄ニ送ラレタル後鐘ヲ用ヒ破獄逃走シ、開席判決ニテ懲役十五年ニ處セラレタリ。

若シ嫌疑者カ携帯品ヲ有スルトキニハ、隠匿ノ餘地ヲ存スヘキ疑ハシキ品物ニ就テハ十分ニ詮議ス  
ルノ勞ヲ惜ム可ラス(例令ハ洋傘、煙草入ノ筒ノ中、帽子ノ裏、眼)

【實例】大正六年十一月大宅警部補ハ上海ヨリ長崎へ入港シタル汽船八幡丸ニ臨檢ノ際、一等船室ノ傾斜セル裏蓋上ニ五冊ノ書、  
カ整然トシテ積ミ重ネアルニ疑ナキ取調ヘタル處、其書籍全部ヲ一括シテ開付ケトシ、其内部ヲ切り抜キ阿片煙六千圓餘ノ分ヲ  
詰メ込ミ居リタルヲ發見檢擧シタリ。該犯人ハ支那人ニシテ長春居住ノ者ナリキ。

○大正七年一月、同警部補ハ浦鹽ヨリ長崎へ入港シタル汽船春日丸ニ臨檢シ、上海へ下女奉公ニ赴ク旨ヲ語リ居リタル疑ハシキ一  
婦人ノ携帯セル信玄袋ヲ調査シタルニ、其袋ノ底ノ厚板ヲ二重トシ其中間ニ阿片煙三千圓相當ノモノヲ隠匿シ居レルヲ發見シタ  
リ。

○大正六年十一月、同官カ浦鹽ヨリ入港ノ汽船ニ長崎縣人ニシテ上海へ赴クト稱シ居ル男ノ所持品ヲ取調ヘタル處、唯火針一個ヲ  
ルヨリ怪ミ仔細ニ注意スルニ、火針ノ底及兩側ノ壁内ニ阿片煙ヲ詰メ込ミ居ルヲ發見檢擧シタリ。

○大正四年中ノ事ナルカ、小倉ノ停車場ニ於テ一刑事カ拘獲ヲ逮捕シ、交番へ引致シタリ。其時拘獲ハ洋傘ヲ所持シ居リタルカ傘  
ヲ交番ノ前ニ立テ掛ケル際、素早ク製品タル時計ヲ傘ノ中ニ滑リ込マシメ隠匿シタリ。製品ヲ所持セサルノ理由ヲ以テ其際虎口ヲ  
逸レタリト後日彼ハ人ニ語レリト。

二 住居。吾人ハ嫌疑者又ハ關係人ノ住居ニ臨ミタルトキ、先ツ注意スヘキハ、最近ニ於テ何等カ變更シタルカ如キ形跡ノ認ムヘキモノアリヤ否ヤノ點之也。住宅ニ於テ搜索ヲ要スヘキ重ナル箇所ヲ例示セハ床下、壁、天井板、便所、疊ノ下、竈、池溝、屋根、古井戸、承露、等ノ如シ。尙事件ト搜索スヘキ目的物ヲ嫌疑者ノ生活状態ニ照シテ其家具ニ就キ搜索スキヘハ勿論ナリ。若シ物カ新タニ戸外ニ埋匿セラレタルヤ否ヤヲ檢セントスルニハ、水ヲ其問題ノ箇所ニ注キ掛ケ試ムルヲ捷徑トス。何トナレハ若シ新シク掘リ反ヘサレタル土地ナラハ其箇所ノミ水ノ爲メニ直ニ窪ミ、且ツ水ノ染込ム爲メニ氣泡ノ出テ來ルヲ明ニ認メ得ルカ故ナリ。

【實例】 關帝ヲ大阪ニ於テ檢擧セラレタル物換ハ、居室壁板ノ隙ノ中、及ヒ掛時計ノ中ニ贓品タル紙幣及指輪等ヲ隠匿シ居リタリ。

② 嫌疑者ハ警察官ノ來レルトキ、急遽金貨ヲ灰燼鉢ノ中ニ投ケ込ミ其ノ上ニ炭火ヲ起シテ之ヲ隠匿シタリ。又ハハンブルグニ於ケル一事件ニ於テハ一ノ書類カ、時シモ埋葬準備ヲ爲シタル屍體ノ下ニ挟マレ居リタリ。一犯罪者ハ多ク「百マルク」證券ヲ古ク且汚レタル使用済ノ一封筒ニ挟ミ、之ヲ開封ノ儘ニテ或紙ノ下ニ差シ置ケリ。又或者ハ贓品タル紙幣ヲ、石油ランプノ下ニ敷物トシテ置ケル貼リ集メノ厚紙ノ一片中ニ隠匿シ居タリ。グロース氏ハ重要ナル書類カ嬰兒ノ襁褓ノ間ニ匿サレ又ハ贓品タル金貨カ沸騰セル「スワブ」ノ籠ニ抛ケ入レラレタルコトヲ例示セリ。

三 宅外

犯人ハ宅外ニ證據物ヲ隠匿又ハ投棄スル場合極メテ多シ。例令ハ兇器ヲ河、海又ハ池、溝ニ投シ、或ハ贓品ヲ畑又ハ山林中ニ隠匿シ、又ハ神社、佛閣ノ床下、墓地、公園ノ樹木ノ下等ニ證據品ヲ埋匿スルカ如シ。宜シク事件ニ應シテ適當ナル隠匿箇所ニ着眼セサル可カラズ。

第三節 搜索ノ方法

- (1) 嫌疑者又ハ關係人ニ於テ、官衙ノ搜索行爲カ全然期待セラレサル場合ニハ、證據物件ノ隠匿ハ未タ行ハレサルモノト見做シ、先ツ第一線ニ於テ搜索目的物ノ種類カ普通保存セラレアル箇所ヲ搜索スヘキナリ。然シナカラ臨檢ニ際シ吐嗟隠匿セラレタリト見ルヘキニ於テハ、最後ノ瞬間ニ於テ藏匿セラレ得タルヘキ手近ノ箇所ニ就テ先ツ探究スルヲ可トス。
- (2) 被搜索者ノ人物本位ヨリ各隠匿ノ箇所ヲ推定スルコトモ亦有效ナリ。即チ其者ノ職業、地位、教育ノ程度、精神上ノ能力、惘鈍等ヲ考查シ、斯ノ如キ人間ハ凡ソ如何ナル隠匿方法ヲ擇ムヘキヤヲ想到スルナリ。
- (3) 搜索手續中被搜索者ノ舉動ニ間斷ナク犀利ノ注意ヲ拂フコト肝要ナリ。即チ若シ一官吏カ自ら搜索セルトキニハ他ノ一官吏ハ其間絶エス嫌疑者ノ顔色ト眼色ヲ觀察セヨ。嫌疑者カ意味アリ氣ナル眼付キニテ時々盜視スル箇所アラハ、夫ハ隠匿ノ場所ヲ吾人ニ却テ指示スヘキ一ノ信號ト見ルコトヲ得ヘシ。

【實例】 嘗テ獨逸ニ於テ一憲兵カ或犯人ノ住居ニ於テ既ニ一時間餘ニ亙リテ贓金ヲ搜索シタルモ效果ナク、遂ニ彼ハ廳所ニ於テ火ノ電燈モ十分ニ取片付ケテ檢シタルニ是レ亦何等獲ル所アラザリキ。折シモ嫌疑者ノ家婦カ一ノ洗濯籠ノ置キアリタル所ノ敷石ノ或一定ノ箇所ノ上ニ、自白ノ一誓ヲ與ヘタル事カ偶然ニモ憲兵ノ鋭キ瞳孔ニチラト映シタリ。憲兵ハ直ニ其ノ箇所ヲ掘リ返サシメタル所、一米突ノ深サニ及ヘルトキ搜索ノ目的タル金貨ノ在中セル一箇ノ花蓋ヲ掘リ當テタリ。

然レトモ吾人カ漸次隠匿物ニ近クトキニハ立會ノ嫌疑者ハ愈心配ノ相ヲ深クシ遂ニ眼ハ下ニ反向ク

ルニ至ル。チウンバーランド氏ハ隱匿物件ノ搜索ニ就テハ他人ノ興奮状態ヲ觀察スルヲ以テ其效果アリト説ケリ。氏ハ搜索ニ際シ證據物件ヲ藏匿セル嫌疑者ノ手ヲ執リテ導キ、而シテ其者ノ自ラ多少早メタル脈搏ヲ感觸シ、以テ當該嫌疑者カ現ニ隱匿物件ノ近クニ來レルカ、又ハ其危險區域ヨリ遠カリタルカノ點ヲ知レリト。

(4) 尙被搜索者ノ家族ノ行動ヲモ嚴重ニ監視スルコトヲ怠ルヘカラス。此ノ目的ノ爲メニハ總テノ現在者ヲ任意一室ノ中央ニ集マラシメ、搜索中ハ此一團ニ對シ監視ヲ與フルヲ便宜トスヘシ。

【實例】 獨逸ニ於テ一竊盜犯ノ情報ハ、官吏ノ搜索中ニ突然「アア私ノ珈琲カ煮エ零レテ居ル」ト叫ビナカラ、轟然響ヘ走り寄り、嫌疑者ノ竊取セル贓品タル粗ノ帶ヲ其ノ際火中ニ投シタリ。

(5) 場合ニ依テハ同一箇所ノ間斷的再搜索ヲ適切トスルコトアリ。之レ第一回ノ搜索ヲ受クルニ際シ他ヘ隱匿シタル物ヲ搜索結了後、嫌疑者ハ安心シテ元ノ箇所ヘ納ムルカ如キコトアレハ也。

## 第六章 犯罪現象ノ研究

### 第一節 犯罪行爲ヨリ體格、特徵、職業、智識ノ推定

臨檢必要犯タルト臨檢不要犯タルトヲ問ハス苟モ一犯罪ノ搜索ニ當リテハ、表ハレタル犯罪行爲ノ全經過、即チ犯罪現象ニ對シテ諸般ノ方面ヨリ仔細ナル研究ヲ遂ケ、少シニテモ注目ニ價スヘキ點アラハ悉ク探テ犯人推究ノ一端緒ト爲スヘキコト亦極メテ重要ナル一方法トスヘシ。(但シ此場合網膜ニ映ススラモ、更ニ進ンテ悉ク價値アリ意義アル刑事書畫上ノモノヲシムル素養ト努力ナカルヘカラス。)

#### 第一、犯罪行爲ト犯人ノ體格、身體上ノ特徵トノ關係

犯人カ非常ニ高キ箇所ニ飛ヒ上リ、大ナル溝渠ヲ容易ニ飛ヒ越ヘタリトノ事實ヨリシテ、特別ナル身長ヲ有セルカ、又ハ輕快敏捷ナル行動ヲ爲スニ適應セル瘦身ヲ標榜セル一犯人ヲ推測スヘク。之ニ反シテ格子ノ狭キ間隙、又ハ便所ノ掃除口等ヨリ屋内ヘ潛入シ、其他表ハレタル所爲ノ一端ニ於テ矮小ヲ語ルヘキ狀況ヲ留メタル者ハ、特ニ小サキ體軀ノ主人公タルコトヲ知ルヘシ。

或ハ被害者カ頑固ナル體格ヲ有シ平素殊ニ力強キ人間ナルトキ、犯人カ特別ナル武器ヲ用ヒスシテ此者ヲ殛シタルカ、肥大ナル犠牲者若クハ重キ財貨ヲ單獨ニテ現場ヨリ運ヒ去リタルカ如キ事アラハ當犯人ハ一ノ偉大ナル腕力ヲ有スル者ナラサルヲ得ストノ點ヲ歸納シテ大過ナカルヘシ。

【實例】 嘗テ山形縣ニ於テ一忍込盜ノ被害アリ。現場ヘ出張シタル佐藤警部ハ、賊力障子紙ヲ指先ニテ破リタル覗キ孔ヲ直ニ眼ニ著ケ之ヲ測ヘタル處、其孔ヨリ地上迄ハ餘リニ高カラス、普通ノ身長ヲ有スル人間トスレハ甚ダシク腰ヲ屈スルニ非サレハ能クセサル處ナルヲ知リ得タリ。尙犯場ニハ極メテ小サキ足跡ノ押痕モ發見シ、是等ノ點ヨリ必ス犯人ハ矮小ナルモノナラサルヲ得スト推定シ、其附近ノ短身ナル一前科者ニ嫌疑ヲ置キ探索シタル處、果シテ其者ノ所爲ナリキ。

尙或特殊ノ現象ヨリシテ行爲者ノ左利キ、跛其他身體上ノ特徵又ハ缺點ヲ推定スルコトヲ等閑ニ付スヘカラス。

【實例】 明治四十三年ノ出來事ナルカ、愛媛縣溫泉郡三津濱町質屋營業黒田某女カ何者カニ殺害セラレ金數十圓ヲ強奪サレタル事件アリ。臨檢シタル長警部補ハ被害者ノ創傷ヲ吟味シタル上、該犯人ハ熟睡セル被害者ヲ先ツ斧ヲ以テ殺害シタル後、金圓ヲ搜索シタルモノニシテ、且ツ犯人ハ左利キナリト推定シタリ。捜査ノ結果果シテ被告ハ左利キナリキ。之レ被害者ハ仰臥就寢ノ儘其右肩先ヲ眞向ヨリ手斧ヲ以テ切り込マレ、且ツ該刺創其他ノ創傷カ悉ク右斜ニ走レルヨリ、同警部補ニ於テ此所定テ下シタルモノ

ナリ。

②獨逸ニ於テ或犯人ハ被害者方ノ窓ニ登リ付キ、然ル後先ツ彼ハ外部ヨリ向ツテ左ノ窓硝子ヲ打チ壞シタリ。凡ソ何人ニテモ斯クノ如キ場合ニ硝子ヲ破壞セムトセハ、普通ハ右手ヲ用フヘク從テ右方ノ硝子ヲ打ツヘシ。然ルニ該犯人ハ左方ヲ破壞セル也、即チ此ノ點ヨリ犯人ハ一ノ左利者ナルコトヲ推定セラレタリキ。

第二 犯罪行為ト犯人ノ職業トノ關係

凡ソ何人ニテモ一ノ職技ヲ學ビ之カ生業ニ永年從事シタルモノハ、何事ニ付ケ不知不識間ニ於テ豫テ修得シタル職業上ノ熟練又ハ技巧ヲ到ル處ニ於テ表現ス。即チ不用意ノ間ニ此特徴ヲ殘スノミナラス、若シ犯人カ特ニ意ヲ用ヒ愈確實ニ仕事センコトヲ期セハ、之レニ應シテ益々手練ノ跡ヲ濃厚ナラシムヘシ。

故ニ(1)殺人事件ニ於テ傷害ノ狀況、兇器取扱上ノ特徴等ヨリシテ犯人カ或一定ノ職業又ハ職務ニ從事セル者ナルコトヲ推測シ得ルコトアリ。

【實例】 〇警テ秋田縣ニ於テ(横手區裁判所管内)一人ノ老翁カ斧標ノ兇器ヲ以テ何者カニ殺害セラレタル事件突發シタリ。裁判廳ハ兇器ハ兩刃ノ類ナルヘシト鑑定セルカ其以上ニ就テハ謂フコトヲ得サリキ。被害者ノ創口ノ餘リニ深刻ナル點ヨリスレハ兇器ハ斧ノ類ナルカ如クニ認メラレサルニ非サリシモ、捜査官ハ遂ニ日本刀ヲ想像シ、延テ日本刀取扱ニ關シ手練アル者ニ聯想シ、斯クシテ騎兵出身ノ犯人ヲ檢擧スルヲ得タリ。果シテ其者ハ長キ日本刀ヲ用ヒタルモノニシテ、犯行後血痕ヲ清ク拭ヒ去リタルカ、天ナル截其踵下ニ尙多クノ血痕附著シ居リタリ。

〇警テ一人ノ小娘カ頭部ノ側側ノ所ニ於テ、二箇ノ正齒ニ附ケラレタル切創ニ依テ殺害セラレ居リタリ。此ノ狀況ヨリシテ吾人ハ正シク一人ノ肉屋ヲ該犯人トシテ目星ヲ付ケタル也。(タルドウ氏)

〇又初生兒カ其ノ頭部ト背體ノ境界ニ於ケル後頭部ノ所ヲ刺サレテ殺サレタル者アリタルカ、之ハ恰モ一羽ノ鷓鴣ヲ射タルカ如キ有様ヲ呈セリ。捜査ノ結果其ノ兒ノ母ノ情夫タル一人ノ獵師ノ弟子カ犯人ニテアリキ。

然シナカラ此ノ如キ結論ヲ爲スニ當リテハ、亦偶然ノ出來事カ這般ノ曲藝ヲ演シタルニ非サルヤノ點ニ付テモ十分ノ注意ヲ拂フコトヲ怠ルヘカラス。

(2)通貨偽造又ハ文書偽造等ニ於テ其ノ作品カ一ノ手際ヨキ技巧ニ依テ成レル物ナルトキニハ、犯人自身タルト或ハ情ヲ知ラスシテ犯人ノ依頼ニ應シ製作シタル者タルトヲ問ハス、苟モ製作ニ關シ自ラ手ヲ下シタル者ハ是等技工ニ關係アル業務ニ從事セル者ナラサルヲ得ス。(近ク株券ノ偽造ヲ企テ年餘ニ亘リ者ニ就テ修得シ然ル後偽造ニ著手シタル者、日本橋久松警察署ノ上野警部補ノ手ニ檢擧セラレタル犯人アリ。)

(3)強盜盜事犯ニ於テ、繩ノ結ヒ目アルヲ發見セハ吾人ハ之レヲ無意識ニ解キ去ラントスルニ先タチ結目ノ狀態ヲ具サニ研究セサルヘカラス。何トナレハ盜犯カ若シ運送屋、植木屋等ナラハ男結ヒ、水夫、船頭ノ經歷アル者ナランニハ水夫結ヒト云フカ如クニシテ、其者ノ熟練セル技巧ト敏捷トヲ以テ慣用ノ結ヒ目ヲ作ルヲ常トスルカ故也。其ノ他破壞等ノ痕跡ノ何等カヲ發見シタルトキニ於テハ、事物夫レ自體カ何タル技巧ヲモ要セサル有リノ儘ナルカ如ク極メテ簡單無意義ニ一見セララルトキト雖モ、吾人ハ其ノ中何處カノ一點ニ自ラ潛メレ犯人ノ永年間ノ職業上技倆、手練、慣習ノ標徴ヲ捕捉スルヲ等閑ニ附スヘカラス。是等ノ場合ニ稍困難ナル事件ニ於テハ鑑定人トシテ其専門ノ職工ヲ召喚シ意見ヲ徵スルノ煩ヲ厭フヘキニ非ス。

【實例】 一人ノ竊盜力或銀行家ノ寢室ニ忍ヒ入ラムコトヲ企テタルカ、其ノ銀行家ハ毎夜常ニ扉ニ錠ヲ掛ケルコトヲ忘ラサリシニ依

1、犯人ハ竊ニ其ノ日中ニ於テ錠孔ニ二箇ノ木片ヲ挿入シ置キタリ、是レ主人カ錠ヲ下ロスモ其ノ實戸ハ依然締リナキ儘ノ状態ヲ持續セシメムカ高ナリキ。斯クノ如クニシテ計畫ノ如ク夜ニ至リ犯罪ハ決行セラレタリ。今ヤ捜査官ハ錠孔ニ挿入シタル備置留セラレタル右ノ木片ヲ取り出シ、先ツ一人ノ指物師ニ提示シタル所、彼ハ彫刻セラレタル木片ナルコトヲ發見シタリ、技ニ於テ一人ノ材木彫刻師ニ鑑定セシメタル所、之ハ靴型職人ノ仕事ナル旨ヲ説明シヌ。斯クシテ犯人ハ發見セラレタルカ其ノ男ハ銀行家ノ舊僕ニシテ、實ニ以前ハ靴型職人ヲ爲シ居リタル者ナリキ。

第三 犯罪行為ト犯人ノ智識トノ關係

吾人ハ一切ノ犯罪現象ノ或點ニ於テ當該犯人ノ智識程度ヲ凡ソ推定シ得ルコトナキニ非ス。一般ヨリ之ヲ云ハハ深キ博キ智識ト怜悯ナル頭腦ヲ有スル犯人ト淺薄ニシテ暗愚ナル犯人トノ間ニハ犯罪上ノ仕事又ハ作品ノ上ニ於テ著シキ差異ヲ呈スルハ殆ント言フ俟タサルヘシ。然シナカラ特ニ吾人ノ注意セントスル處ハ(1)犯人ノ一ノ愚事ニアリ。如何ニ平素怜悯ナル者ト雖モ殊ニ重大犯罪ヲ行フ場合ニ於テハ必ス何處カノ點ニ於テ一ノ愚事ヲ爲スモノ也。之レ恐ラク混亂、不意ノ恐怖、周章、興奮等ニ基因スヘシ。故ニ若シ犯罪ノ全經過中ニ於テ一ノ愚事ヲ發見シタリトスルモ、之ヲ以テ直ニ智識ノ低キ犯人ヲ想像スルカ如キコトアラハ、大ナル過ニ陥ルコトアル也。エイ・グリツフキン氏ハ之レニ就テ曰ク、**搜查ニ於テハ最モ單純ナル想像コソ最モ事情ニ的中スルモノナレト**。次ニ(2)常習犯者ニ於ケル**特種智識ノ異常ノ發達ニ在リ**。所謂惡智恵ノミノ偏跛的伸張ナリ。何人ト雖人ニハ各一特一長アリテ愚者ニ於テモ普通人ノ企テ及ハサル、精神上ノ一長所、技能ニ於ケル一特技ヲ有スルモノナリ。(愚者ト謂ハルル者ノ中ニハ二三年前ノ何月何日ヨリ何月何日迄ノ世上ニ於ケル出ト謂ハルル者ヲ完全ニ記憶スル者アリ、然シナカラ彼ハ尙愚者タルヲ免レス。)此觀察ヲ以テ諷ラサルモノトセハ、**常習犯**

者カ圓滿ナル智識ノ發達ヲ爲サス、其犯罪ニ必要ナル智識ノ或點丈ケカ非常ナル發達ヲ爲セル事情ヲモ亦理解セサル能ハサルヘシ。果シテ然ラハ今吾人カ一ノ犯罪現象ヲ觀察シテ仕事カ甚タ巧妙ナルノ故ヲ以テ、一概ニ智識アル犯人(即チ圓滿ニ知識ノ發達セル)ヲ物色スヘシト連斷スルコト能ハサルニ留意ノ要アルヘシ。

第二節 行為ニ表ハレタル犯罪定型、及個人習癖ノ研究

(是等ノ問題ニ就テハ尙第一章第二節、(庚)刑事心理學(2)參照。)

吾人ハ犯罪手段ノ定型ヨリ一定ノ犯人ヲ推定スルコトヲ得ヘシ。之レ一定ノ經驗ヲ有スル犯人ハ幾度犯行ヲ累スト雖、同シク以前ノ犯罪手段ノ定型ヲ墨守シ、全然別種ノ犯罪又ハ別手段ノ行為ヲ爲スカ如キハ、稀有ニ屬スルノ事由ヲ知レルカ故也。

例令ハ劫盜犯ハ幾度行フモ容易ニ偽造犯者ニ轉變スルヲ背セサルヘク、同シク窃盜ト雖、掏摸ト竊込、空巢狙等ノ間ニハ各技巧ト智能トヲ異ニスヘシ。強盜ニ於テモ或ハ覆面スル者、常ニ針金ヲ使用スル者、電線ヲ切斷スル者、質屋ノミチ製フ者、拳銃ヲ携帯スル者、特別ナル脅シ文句ヲ以テスル者アリ。詐欺賭博犯者ノ中ニモ鹿追専門アリ、變化師ノ一派アリ、「テキヤ」ノミノ詐欺賭博師アリ。詐欺師仲間ニ一警ヲ加ヘンカ、昨日ノ利銀詐欺カ今日ノ電球詐欺ニ化シ、今日ノ取込詐欺師カ明日ノ馬喰詐欺師ニ轉變スルカ如キコトナク、普通ノ賭博犯人ニ於テハ、曩キニ丁半ヲ爲シ處罰セラレタル者カ再ヒ逮捕サレタルトキモ尙同シク丁半タルコトヲ殆ント常トシ、天養ノ常習犯者ニシテ吟味花ノ方法ヲ解スル者ハ極メテ稀也ト云フカ如シ。

各種ノ犯行ハ千狀萬態ニ於テ現ハルヘシト雖、多クノ犯人ハ斯クノ如ク同一ノ所謂手口ヲ捨テサル

カ故ニ、亦此點カ吾人ニ取テ捜査上看過スヘカラサル支持點トナル。  
 斯ルカ故ニ余ハ各種ノ常業的犯罪ニ對シテ、犯罪定型上分類シタル其地方ニ於ケル前科者ノ一覽表ヲ作成シ、尙之レカ犯罪團體ノ所屬系統並ニ個人習癖ノ特徵及迷信上ノ特別所作ノ點ヲモ明記シ、此一覽表ヲ各府縣ノ警察部(少クトモ警察本署及分署ニ)ニ備付ケ置キ、捜査上一ノ參考ニ供スル方法ノ極メテ價値アルコトヲ信スルモノ也。

各個人ノ特有ノ習癖ハ前示犯罪ノ定型ニ比セハ吾人ニ對シテ一層ノ根據ヲ與フヘシ。何トナレハ直接ニ或一個人何某タルモノヲ指示スル關係ニアレハ也。

### 第三節 心的接近關係ノ研究

或種ノ犯罪殊ニ強、竊盜、放火、殺人、詐欺、文書偽造等ニ於テハ其犯行ニ現ハレタル或狀況ヨリシテ、當該犯人ハ被害者方、被害物、或ハ犯罪現場ニ關スル或事情ヲ好ク承知セル者ナラサルヲ得ストノ一ノ暗示ヲ吾人ニ與ヘシメ、之ニ因テ嫌疑者ノ範圍ヲ自ラ局限シ得ルコトアリ。

例令ハ犯人カ被害者方ノ居室ヘ侵入スルニ當リテ、嚴重ナル月掃ノ箇所ハ毫モ攻撃ヲ加ヘス一直線的ニ最モ弱點アル箇所ヲ容易ニ排除シ、雖然被害者ノ寢室ニ闖入シタルカ、或ハ發見ニ最モ困難ナル場所ニ保存セラレタル或物ヲ、犯人カ長ク諸方ヲ搜索セスシテ直ニ獲得シタルカ如キ形跡アラハ、犯人ハ舊ヨリ右ノ事情ヲ熟知セルモノナラサル能ハス。

斯クノ如キ或事情ノ智識ハ果シテ何人カ有スルカ。吾人ハ之ニ就テ先ツ被害者又ハ被害物等ニ對シテ心的接近關係ノ一群ヲ見廻ハサント欲スルモノ也。凡ソ犯人ハ近キニ在リトハ一般ノ犯罪ニ對シテ

捜査上ノ一格言ナルコトヲ余ハ信セントス。放火、殺人ハ勿論、強盜、文書偽造、詐欺犯ト雖、被害物、被害者、又ハ犯場ト成ルヘク因縁ノ近キ關係ヨリ、漸次犯人ヲ搜索スルノ計畫ニ出ツルヲ可トスヘシ。何トナレハ實際上多クノ事件ハ被害者等ニ對スル心的接近關係アルカ故ニ犯罪ヲ容易ニ遂行シタルモノナレハ也。即チ或家ニ火ニ放タム、或一人ヲ殺サン、或物ヲ奪ハムト決意シタル場合ニ於テ、犯行ハ唯斯ノ如クシテ直ニ結果ニ到著スヘキモノニハ非ス、必ス其決意ト結果トノ間ニハ當該犯罪ヲ容易ナラシメタル或ル事情ノ存在シタルコトヲ吾人ハ冷靜ニ觀察セサルヘカラス。或事情トハ吾人ノ所謂心的接近關係即之也。心的接近關係トハ犯人カ精神上ニ於テ被害者又ハ被害物、或ハ犯場ト近キ關係ニ在ルヲ謂フ。而カモ犯人ノ身體カ被害者等ト遠隔ノ間ニ在ルト否ト、或ハ又被害者ノ方ヨリハ一面識モ何等關係モナキ場合タルト否トヲ問ハス、兎モ角犯人ノ心ノミハ被害者、被害物、又ハ犯場ト近キ關係ヲ有セル也。換言セハ内狀、勝手、又ハ様子ヲ知レル關係ヲ意味セル也。此心的接近ハ(1)犯人カ之レヲ利用スル場合アリ。(利用スヘキ地位ニ在ル者ヲ想像スレバ、雇人、出入ノ者、朋友、親戚ノ者、得意先、務ニ從事セル者、又ハ嘗テ犯場附近ニ居住シタル者、其他以上ノ者ト接近シテ間接的ニ被害者ヲ知レル者、或ハ被害物ト接近セル事シタル爲メ土地ノ勝手ヲ知レル者等也。)(2)犯人カ此關係ヲ創設スル場合アル也。(創設トハ犯人カ犯行ヲ企テタル事ナキニ於テハ、犯行ヲ容易ナラシメシメカ爲メ被害者等ノ勝手ヲ探リ四圍ノ事情ヲ覺知スルヲ云フ也。心的接近關係ノ點ニ就テハ、尙各論、第一章、第三節、第一、參照。)

〔實例〕 大正四年九月五日、山口縣玖珂郡ノ或村ニ於ケル一飲食店ニ忍入リ、蓄金八十餘圓ヲ奪取シタル犯人アリ。後根拠捜査部長現場ヘ臨檢スルニ右ノ金ハ奥座敷押入内ニ積ミアル煙草空箱五個中ノ中央ノ箱ニ隠シ置カレタリシモノナル處、賊ハ他所ヲ少シモ捜サス、一直線ニ金銀入リノ空箱ニ手ヲ著ケタル形跡アリタルカ故ニ、必ス内部ノ事情ヲ知レル者ノ所爲ナルヘシト見込ノ下ニ捜査スルコトトナリヌ。仍テ被害者ニ就キ右ノ事情ヲ知レルト想ハルル心當リノ者ナキヤチ尋ネタル結果、漸クニシテ被害者ハ、

數日前一人ノ屠屋ノ請ヒニ依リ兩替爲シ遣リタル事アリ或ハ其ノ際金ノ在ル箇所ヲ彼カ目撃シタルヤモ知レストノ事情ヲ想起シタリ。此端緒ニ依リ調ヘタル處、果シテ其者ガ犯人ニシテ、彼ハ竊盜ヲ爲サン目的ヨリ兩替ニ假託シテ實ハ金ノ在ル箇所ヲ探メ探リ置キタルモノナリキ。因ニ被告ハ懲役四年ノ刑ヲ受ク。

②大正四年十二月四日、木郷區森川町、荒尾某方へ押入り拳銃ヲ以テ家人ヲ脅迫シ現金十七圓ヲ強奪シタル兇賊山田某(二一)ハ、兩三年前出入リシテ勝手知レル爲メ同家へ押入りタル旨自白シタリ。

③大正三年十二月、鳥取縣米子郵便局ヨリ法勝寺局へ差立テタル郵便御夫藤原某ヲ日本刀ニテ殺害シ、赤行囊中ノ現金壹千圓ヲ強奪シタル犯人ハ嚴探ノ結果、米子郵便局事務員笠井某ノ所爲ナリシコト漸ク一年後ニ至リ發覺シタリ。

④嘗テドレスデン市ノ成業細工工場ニ於テ一夜何者カ藤ノ堆積セラレタル上ニ毫モ燃エサル酸性ノ酸材ノ液ヲ撒掛ケ然レ後之ニ放火シタルコトアリ。其ノ犯人ハ一ノ桶ヨリ液體ヲ汲取リテ掛ケタルモノナルカ、以前ニハ其處ニハ桶ニ石油ヲ入レ置カレタル也。想フニ彼ハ藤ニ石油ヲ振り掛ケタル積リナルヘシ。此ノ事情ヨリスレハ、以前其ノ工場ニ働キ居リ今ハ該工場ニハ居ラサル労働者ノ間ニ於テ之カ犯人ヲ索ムヘキモノナリキ。

⑤嘗テ獨逸ニ於テ一人ノ學者ハ始終其ノ住宅ニ閉テ籠リ居リテ、如何ナル者ノ訪問ヲ受ケルトモ直ニ内へ立入ラシメズ、唯自己ノ知己ニシテ且自分カ先以テ覗キ孔ヨリ視タル後ニ於テノミ入ルコトヲ許シ居タリ。然ルニ或日此ノ學者カ其ノ住宅ニ於テ殺害セラレタルヲ發見シタルカ、合鍵ヲ以テ抉シ明ケ侵入シタル形跡毫モ存セザリキ。之ヨリスレハ犯人ハ必ス學者ニ知ラレタル人物ヲラサルヲ得サル也。

⑥尙獨逸ノ出來事ナルガ婦人カ其ノ住居ニ於テ手斧ヲ以テ殺害セラレタルコトアリ。婦人ハ前方ニ屈シタル姿勢ニ於テ坐シ居リ手ニハ尙縫針ト鉢トヲ持テルカ故ニ、婦人ハ明ニ仕事ヲ爲セル最中ニ殺サレタルモノナリキ。之ヨリスレハ該事件ノ犯人ナル者ハ其ノ者カ婦人ノ近傍ニ立チ寄ルモ、婦人カ尙靜カニ仕事ヲ續ケ居タリト云フカ如クニ、婦人ノ好ク知レル人物ヲ除キテハ他ニ非スト謂ハサルヘカラス。

### 第四節 犯罪ト發生地居住犯人トノ關係

(1) 犯罪ノ種類性質ニヨリテハ犯人カ其ノ被害者ト同一地域内ニ居住スルヲ普通トスルモノアリ(例令ハ火、多クノ殺人、板ノ間殺害、擄掠、火事場泥棒、森林又ハ田野盜、極メテ小仕掛ナル)故ニ此種ノ犯罪ノ發生ニ當リテハ搜查舞臺ヲ地理的ニ局限シ、其一定ノ地域範圍内ニ於テ犯人ヲ檢索スルノ方法ノミニ依リテモ其目的ヲ達スルコト少ナカラス。(2) 尙ホ吾人ハ亦犯罪ノ種類性質如何ニ不拘、犯罪行爲ノ全經過ヲ觀察シ、犯人カ極メテ其地方ノ地理ニ通曉セルモノナル點ヲ發見シタル場合ニ於テモ亦此方策ヲ用ヒテ屢々成效スルコトアル也。(例令ハ現場ヨリ逃走ノ方法設ニ方面ノ割切ナルコト、或ハ重キ大ナル贓品ヲ巧ニ處理シ敏捷)然シナカラ吾人カ茲ニ注意スヘキハ、地理ニ通曉セル者必スシモ其土地附近ノ現居住者ト言フヘカラサルコト之也。何トナレハ前節ニ述ヘタル如ク心的接近關係ヨリモ犯人ハ土地ノ勝手ヲ知ルコトアレハ也。

即チ一ハ心的接近ヲ利用スルカ爲メ行爲ノ表面ニ於テハ土地通曉ノ形跡ヲ留ムルコトアルヘク。(例令ハ嘗テ東京ニ居住セル或切實常習犯者ハ、新潟縣ノ村居ニ於ケル一豪家ヲ襲シカ爲メ汽車ニ乘シ夕刻郷里ヘ著キ、其夜土(破破リノ大仕事ヲ爲シタル上、贓物ヲ行李ノ荷造ト爲シ、拂曉信濃川ヲ渡リ次ノ停車場ノ一雷發列車ニテ歸京シタルカ如キ者アリ)他ノ一ハ心的接近ヲ創設スルカ爲メ矢張り同様ノ觀ヲ呈スルコトアルヘシ。(例令ハ遠方ニ居住セル或者カ贓家ヲ殺害シ金品ヲ強奪センコトヲ計リ、先ツ探リテ) (3) 終リニ心的接近ト發生地居住犯人トノ關係ヲ一言セサルヘカラス。原則トシテ發生地居住犯人ハ即心的接近者タル也。(故ニ發生地居住人カ犯人タル場合ニ於テハ、土地の方落アル處ハ同一ノ)之レニ反シテ心的接近アル者ト云ヘハ必スシモ發生地居住人トハナラサルコト之也。

## 第七章 犯罪ノ時間ト場所

凡ソ人ノ行爲ニシテ時ト所ナル雰圍氣ヲ超脱スルモノ一トシテアルコトナシ。(古來如何ナル大英雄ノ坂田  
池部ノ運々タル一轟動ト等シク、未ダ嘗テ地球ノ)犯罪ト云フモノノ行爲タル以上、畢竟或ル時間ト一定ノ場所ノ  
表面ト層以外ニ於テ活躍シタルモノアラサル也。)犯罪ト云フモノノ行爲タル以上、畢竟或ル時間ト一定ノ場所ノ  
経緯ノ上ニ染ミ出テタル一箇ノ汚班ニ外ナラスシテ、即チ時ト所ノ問題ニ歸著スヘシ。

若シ捜査官ニシテ或者カ一ノ犯罪ヲ犯シタルノ事實ヲ主張セント欲セバ、其犯罪ハ何年、何月、何日、何時トシテハ午前又ハ午  
後何時十分ニ、或一定ノ場所ニ於テ行ハレタルモノナルコトヲ先ツ明確ニ爲サ、ルヘカラス。若シ其事件カ臨檢必要犯罪ナルニ於テ  
ハ嫌疑者カ其日ノ同時刻ニ其所ニ現在シタリトノ的確ナル證據ヲ示サ、ル能ハサルヘク、其一ニシテ證明セラレザランカ、如何ニ見  
込ニ於テ罪跡十分ナリトスル被告ニ就テモ、無罪釋放ノ處置ニ出ツルノ外途ナキニ至ラム。

一 強盜、窃盜、放火、失火、殺人、過失殺傷等ノ如キ檢證必要犯罪事件ニ就テハ、現場へ出張シタ  
ル刑事家ハ飽ク迄犯罪時間ノ點ヲ究明シ置カサル能ハス。(單ニ何月何日ノ何時頃ヨリ何時頃迄ノ間ト云フカ如キ  
ル困難ヲ感スル場合亦ナキニ非サルコト)元ヨリ實際ノ捜査ニ當リテハ犯罪時間ヲ容易ニ決定スル能ハサル困難  
トナシ、豫メ注意シ覺悟セザルヲ得ス。)元ヨリ實際ノ捜査ニ當リテハ犯罪時間ヲ容易ニ決定スル能ハサル困難  
ナル場合多々アリ。然レトモ少シク此點ニ留意シテ努力セバ一層明白ニナシ得ヘキ場合ニ於テモ亦自  
ラ一步ヲ進ムルコトヲ爲サス、唯手近ニ存スル一、二ノ材料ニヨリテノミ、漠然タル又不正確ナル犯  
罪時間ヲ記録ニ留メ置クノ不可ナルヲ余ハ力説セント欲ス。

重大犯罪ノ突發ニ際シテハ、被害者タル者又其家族ハ非常ナル驚愕、恐怖、不安ニ襲ハル、カ爲メニ冷靜ニ時間ノ點迄注意ヲ拂フ  
カ如キ心ノ餘裕ヲ有セザルコト多ク、且其際時計ヲ見タリトスルモ民家ノ時計ナルモノガ抑々正確ナラザルヲ略トス。加之  
犯場ニ急行シタル刑事官ニ於テモ、極度ノ興奮ト狼狽ヨリシテ被害者ノ家族ニ就テ直ニ時間ノ點迄モ十分ニ確メ置クコトヲ爲サス、  
恠ルカ故ニ後ニ至リテ益困難ヲ感スル也。

吾人カ此場合ニ注意スヘキハ、出張官ハ直ニ自己ノ時計ヲ檢シテ先ツ現場へ到着シタル時間ヲ知り、

然ル後被害者又ハ家族ニ對シテ犯罪ノ際時計ヲ見タルヤ否ヤ、又ハ何時ヲ報シタルヲ聞キタル後凡ソ  
何程ヲ經過シタル時ナリシカラ尋ネ、自己ノ時計ト被害者方ノ時計トハ何分間遲速ノ差異アルヤヲ研  
究シ、恠クシテ被害者ノ所謂何時分トハ標準時ノ實際何時分ニ該當スルカラ計算シ明確ニ爲スコ  
ト之也。尙時計ヲ準據トシテ被害者ヲ尋問スルコト能ハサル場合ニ於テハ、毎日一定時ニ鳴ルヲ常ト  
スル附近ノ工場等ノ汽笛、汽船發著ノ汽笛、汽車、電車通過ノ轟響ヲ聞キタル前カ後カ、其程度如何  
ヲ語ラシメ、一面ニ於テ汽船、汽車ノ發著ハ其當日毫モ遲延シタルコトナキヤ否ヤノ點ヲモ究明スル  
ヲ精確トナス。

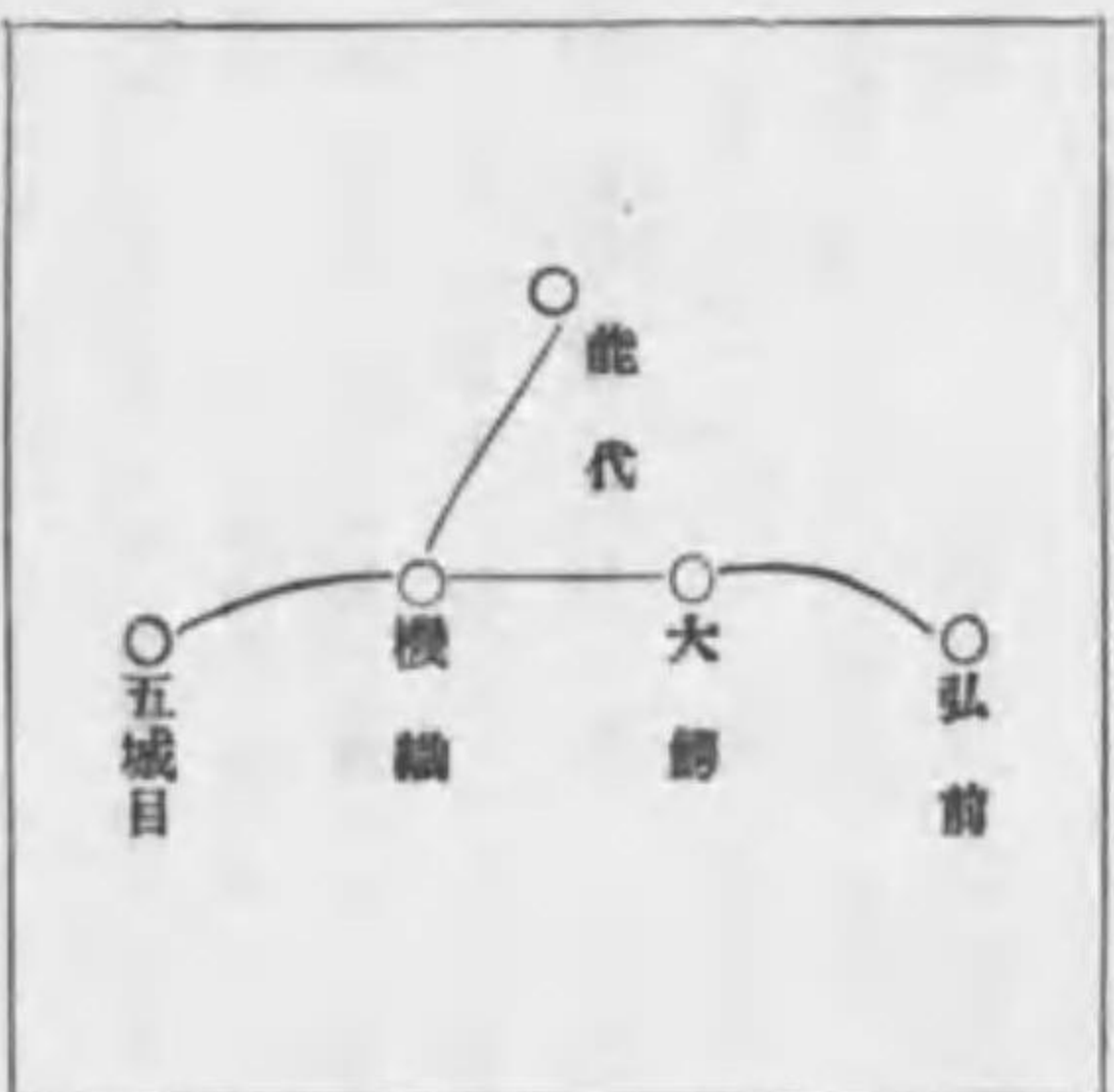
何人カ當該時間ニ犯罪ノ現場ニ在リタルヤノ問題ハ、何時犯罪カ行ハレタルカト云フ此前提ヲ基礎トシテ割出スヘキ事項ニ屬スル  
カ故ニ、若シ一度ヒ此出發點ニ於テ誤マレトセバ、捜査上之レカ爲メニ唯無用ノ勞苦ト不經濟ナル時間ノ徒費ヲ贏チ得ルノミナラ  
ス、犯人逮捕ノ機期ハ此間ニ廻轉シ去ルチ如何ニセンカ。

世ノ開明ニ從ヒ、犯罪ノ手段方法モ愈巧妙ニ進歩スルハ今更言ヲ要セス。末タ我國ニ於テハ一犯罪  
ノ決行ニ當リ豫メ時間ノ點ニ言ヒ逃レノ箇所ヲ工夫シ置ケリト云フカ如クニ、惡智慧ニ富メル犯人ハ  
多ク其類ヲ見サルヘシト雖、獨佛等ニ於テハ犯罪ノ時間ニ其現場ニ存セザリシカ如ク裝ハンカ爲メニ、  
豫メ時間ノ關係ヲ大ニ研究シ表面上ノ他在證據ヲ準備シ置キ、然ル後仕事ニ取掛リ、或ハ犯後直ニ表  
面上急ニ他在ノ證據ヲ假設又ハ偽造スル犯人ノ少ナカラサルハ、實際ノ事件ニ於テ屢々吾人ノ見聞ス  
ル處也(尙第八章第二節、  
第一、參照)

【實例】大正七年夏、青森縣大崎町某海產物商カ、保險詐欺ノ放火ヲ企テ、秋田縣能代町ニ新タニ家屋ヲ買入レ手附金五十圓盡入レ



○能代ニテ即日保險會社二千圓ノ火災保險ニ入レ、一週間後ニシテ意決行ニ着手シタル事件アリ。先ツ彼ハ大駒ヨリ態々反對方面



ナル弘前へ立越シ、放火用ノ石油二合ヲ「ビール」空罐ニ買入之レテ紙包トシ、然ル後弘前ヨリ特ニ五條目驛迄ノ切符ヲ買求メ汽車ニテ同所へ立越シ、改メテ五條目ヨリ能代迄乗車シ、能代ノ或小間物屋ヨリ海水浴帽ヲ買求メタル上之ニ吉野鎮山ノ名ト何某ナル坑夫様ノ名前ヲ墨ニテ書き、夜分時刻ヲ見計ヒ自己ノ買受タル家ノ附近迄立越シタル處、人通りノ頻繁ナル爲メ其日ハ中止シ、石油罐ト帽子トハ或ル寺ノ門ニ埋匿シ大駒へ立歸リヌ。其後再ヒ大駒ヨリ能代附近ノ驛迄ノ切符ヲ買ヒ其處ヨリ改メテ能代迄ノ切符ヲ求メ、同所へ立越シ隱匿シタル帽子等ヲ掘リ出シタル上、帽子ハ欺計遺留トシテ放火ノ現場附近へ捨テ然ル後放火シタリ。次テ彼ハ歸途能代ヨリ機橋驛迄二里餘ノ夜道ヲ徒歩ニテ來リ、其驛ヨリ大駒迄汽車ニ乗シ立歸リタル也。因ニ彼カ檢舉セラレタル端緒ハ火災カ保險放火ノ動機ノ疑アリタルト、放火當夜機橋驛ノ巡査カ同驛ニ於テ被告ノ姿ヲ認メタリトノ點ニアリタリト云フ。

②ドレスデン市ニ於テ或夜午後十時以後ニ一大犯罪力決行セラレタリ。嫌疑者ハ自分ヲ翌朝ノ七時半ニ伯林ニ於テ見タリトイフ證人ヲ指名シ、尙ドレスデンヨリ伯林行ノ最終列車ハ既ニ午後十時ニ出發シ、而シテ一番列車ハ午前八時四十五分ナルコトヲ主張シテ自ラ免レムトセリ。是ヨリスレハ嫌疑者カ前夜十時以後ニドレスデン市ニ在リタルコトハ明ニ排斥サル、カ如ク見エタリ。然シ其者ハ矢張ドレスデンニ居リタル也。即チ彼ハ成ルヘク早ク伯林へ入り込マムカ爲ニ、昨夜十二時半ノ列車ヲ以テ先ツライプナツヒノ方へ廻リ途ヲ爲シ、而シテ其處ヨリ更ニ伯林ニ赴キ朝六時過ニハ伯林ニ到着セルモノナリキ。

③嘗テ一人ノ男カドレスデンニ於テ一ノ婦人ヲ殺害シテ直ニ其ノ場ヲ逃亡シタリ。該事件ノ嫌疑者ハ兇行後五分間ノ頃同市ノ場末ノ或處ニ匿リタルコトヲ證明セルカ、其ノ箇所ハ現場ヨリハ十五分間程ヲ要スル處ナリキ。ソインガルト判事ハ試ミニ一人ノ男ヲシテ現場ヨリ其處ニ向ヒ速ニ走ラシメタル處、男ハ五分間ニシテ再ヒ歸リ來レリ。之ヲ以テ被告ノ辯解證據ハ理由薄弱トナレリ。被告人ハ自己ノ犯行ニ對シテ捜査官ノ認定セル犯罪時間カ正當ナラスト知ルヤ、此點ヲ極力辯解シテ嫌疑ヨリ逸脱センコトヲ努力シテ歇マサル也。

例令ハ犯行ハ實際午後十一時二行ハレタルニ不捕、十二時ニ發生シタリト官ニ認定セラレタリト察知スルヤ、十二時ニハ何某方ニ於テ友人某等ト飲酒シ居リタリト主張ス。而シテ其証人トシテ出廷スル者ハ故意ニ偽證スルヲ要セス唯其旨ヲ陳述スルノミニテ友ナヲ固固ノ理ヨリ容易ニ欺フコトヲ得ル也。故ニ吾人ハ犯罪ノ時ニ關シテ決定セラレタルモノハ果シテ眞實ニ適合スルヤ否ヤ、恐ラク犯行ハ問題ノ時間ヨリ少シク早ク、又ハ遅ク決行セラレタルモノニ非サルカノ點ニ就テ、絶ヘス注意ヲ拂フコト必要也。

被害者ノ口ヨリ犯罪時間ヲ聞クコト能ハサルトキ時間ノ推定方法ニ關シテ注意スヘキハ左ノ諸點ニアリ。

1) 犯罪現場附近ノ居住者ニ就テノ取調  
例令ハ殺人事件ニ於テ被害者カ何時頃迄ニ生活シタルヲ何人カ認メタルカ。窃盜事犯ニ付テ被害者方ノ戸締ヲ決テ明ク又ハ戸ノ破壊スルカ如キ疑ハシキ異音ヲ隣人カ聞キタリトセハ、其時刻如何等ヲ精密ニ捜査スルヲ要ス。此場合ニ注意スヘキハ近隣者ノ日常ノ睡眠ノ深淺程度、前夜ノ就寢ノ時刻、身體ノ状態、生理的關係等ノ審按ニシテ、唯單ニ隣家タルノ故ヲ以テ必ス出來事ヲ知ラサルヘカラスト爲スコト能ハス(ベルゲン氏ノ研究ニ依レハ人ノ睡眠ノ最深キハ就寢ヨリ二時四十五分後ニアリト云フ。然レトモ婦人ハ概シテ男子ヨリ淺ク又人ハ年齢ノ増加ト共ニ漸次睡眠モ淺キニ及フテ普通トセラレル。)

【實例】 往年群馬縣ノ某村ニ於テ一夜棟割長家ノ一家族三人カ何者カニ棍棒ヲ以テ撲殺セラレタルコトアリ。其ノ夜ハ多少降雨アリシトハ雖、壁一重ヲ隔リタル隣室ノ一家ハ翌朝迄何等ノ出來事ヲモ眞ニ知ラザリキ。

○嘗テ伊香保温泉ノ山麓ヲ洗フ利根川ニ架セル坂東橋ヨリ、數丈ノ下ヲ流ル、利根川ヘ婦人ヲ投ケテ込ミテ殺害シタル事件アリ。其ノ當時詳細檢案ノ上、該婦人ノ水屍體ハ恐ク自殺者ナルヘシトシテ村役場ヘ引出シ既ニ假埋葬ニ附セラレタル處、恰モ好シ橋ノ附近ニ居住スル者ニテ、前夜或時刻橋上ニ於テ助ケヲ呼フ女ノ聲ヲ聞ケリト云フ者現レ出テタルヨリ、再ヒ屍體ヲ掘出シ再鑑定ヲ命ジタル結果他殺ト確定シ、遂ニ之カ犯人ヲモ檢擧スルコトヲ得タリト云フ。

(2) 被害者方日常ノ習慣ヨリノ研究。

被害者方ノ晚餐ノ時刻、書見、散步ノ時間、神佛ニ對スル獻燈及ヒ消燈ノ習慣、消燈就寢ノ大凡ノ制限等、何人ニモ必スヤ有スヘキ日常ノ習行ト大略其時間トノ關係ヲ探知セハ、是等ヲ基點トシテ或程度迄犯罪ノ時間ヲ推定シ得ヘシ。

(3) 被害者ノ職務上ノ時間、又ハ職業上ノ慣行ノ注意。

例令ハ郵便事務ニ従事スル者、鐵道奉職者、學校教員、工場勤務者カ被害者タル場合ニハ是等ノ者ノ活動ノ準據トナル時間カ重要ナル根據ヲ與フヘシ。

尙定時ニ現場又ハ附近ヲ通過スル慣習ヲ有スル者ノ搜查ヲモ緊要也。(例令ハ新聞牛乳配達人、豆腐(屋、納豆賣、辻車等之也。)) 即チ吾人ハ犯行ノ翌日問題ノ時刻ニ現場附近ヲ通行スル者ニ就キ、前日即チ事變ノアリタル時現場ニ於テ或事實ヲ認メサリシヤニ關シテ取調ヲ爲ス也。

【實例】 嘗テドレスデン市ニ於テ黎明五時ニエルベ河ニ架セラレタルアルベルト橋上ヨリ、殺害シタル屍體ヲ行李ニ填メテ河中ニ投入レタル犯人アリ。憲兵ハ其ノ翌朝同時刻ニ右現場ヘ出張シ、橋上ノ各進行人ニ對シ前日モ此ノ橋ヲ渡リタルヤ否ヤ、又行李ヲ投入シタル者ヲ見タルコトナキヤヲ訊利シタリ。

(4) 晴雨等ノ關係ヨリ時間ノ確定。 降雨、降雪、結霜等ノ天候ノ變化ハ公知ノ事實ニ屬シ、且測候所、氣象臺等ニ於テ明確ニ知ルコトヲ得ルカ故ニ、是等ノ關係ヨリシテ犯罪當時ノ時間ヲ容易ニ確定スルコトヲ得。

例令ハ忍込盜ニ於テ住居ノ縁側、壁ノ上ニ泥足ノ痕跡ヲ發見シタル處、當夜ハ午後十二時ヨリ降雨アリタリトセハ犯人ハ正シク十二時以後ニ押入りタルコト明白也。又山林盜伐事件ニ於テ假リニ十二月五日ニ初雪降リ七日ニ第二回ノ降雪アリトシ、伐採附近ノ地上ニハ第一回ノ殘雪ノ上ニ更ニ第二回ノ降雪堆積シ居レルニ不拍、伐株上ニハ唯第二回ノ降雪ノミ發見シ得ル場合ニ於テハ、盜伐ハ七日以後ニ行ハレタルモノナラサルヲ得サルカ如シ。

(5) 被害者方ノ時計ノ檢査。 柱時計カ外部ノ或激動ノ爲メニ傾斜スルカ、懷中時計カ例令ハ格闘ノ際地上ニ墜落シ機機ヲ破損スルカ、又ハ兇器銃丸カ貴要部ニ衝突スルカ、或ハ人ト共ニ水中ニ没入シタル場合ニハ其瞬間ニ於テ運轉ヲ停止スルカ故ニ、時計ノ針ノ指ス處即チ事件ノアリタル時ニ外ナラサル也。

【實例】 横濱實業軍港警留中ノ海軍砲術學校練習艦波經ハ、大正六年一月十四日午後三時二十分砲彈積込作業中艦底ノ火藥庫俄ニ爆發シテ大火災ヲ起シ間モナク遂ニ沈没シタリ。十五日發見セラレタル一等兵曹佐藤喜太郎ノ遺骸ヨリ發見セラレタル懷中時計ノ時針ハ、三時十五分ヲ指シテ止リ、遺體ノ利那ヲ的確ニ示シ居タリキ。

○府下羽田町日本飛行學校教授玉井清太郎氏ハ、芝浦埋立地ニ出發點ヲ設ケ大正六年五月二十日朝來東京ノ天空ヲ飛翔シ居タルカ、第四回目ノ飛行ニ東京日新聞寫眞班員湯川禮三氏ヲ同乘セシメ高サ約三十米突ノ中空ヨリ下降スル利那、左翼ニ故障ヲ生シ眞速機ニ墜落シ剛氏トモ見ルモ無殘ノ檢死ヲ遂ケタリ、玉井氏ノ腕時計ハ九時三十分ノ墜落時間ヲ示シタル儘停止シ居タリ。

○大正五年十一月二十九日午後十一時四十分青森縣下田、古間木驛間ニ於テ、壯丁八百四十三名ヲ乘セ弘前ニ向フ臨時三百三十一

渡列車ト上リ三百八號貨車ト衝突脱線シ、壯丁中即死者二十一名、重傷者六十二名、輕傷者六十名、列車職員死亡三名ヲ出シタリ、其ノ凄慘ノ狀目モ當テラレス。衝突ノ時刻ハ死亡車掌ノ時計ニ依テ午後十一時三十九分ト推定サレタリ。

二 一般ヨリ云ヘハ結果發生ノ場所多クハ犯罪ノ場所ナレトモ結果發生以外ノ場所カ亦犯行ノ場所タルコトアルヲ注意スヘシ。

例令ハ橋上ヨリ河中へ陥レタルトキ被害者ハ下流ノ沿岸ニ屍體トナリテ漂著シ、又ハ昇來、加里ノ如キニ、三日後ニ至リ漸ク其效力ヲ生スル毒物ヲ混シテ響應シタルトキ被害者ハ歸宅數日後ニシテ死亡シタルカ如シ。

又犯罪發覺ノ場所以外カ犯行ノ場所タルコトモアリトス。

例令ハ殺害シタル屍體ヲ他所へ運搬シテ抛棄シ、汽車中ニ於テ盜難ニ罹リタル被害者カ歸宅後ニ至リテ漸ク此事實ヲ覺知シタルカ如シ。

## 第八章 人ノ取調ニ關スル研究

### 第一節 證人ノ取調

捜査ノ重要ナルハ開始ノ第一歩ニ在リ。而シテ證人取調ノ第一歩ニ於テ何人ヲ訊問スヘキヤハ實ニ捜査官ノ鋭敏ナル頭腦綿密洗練ノ考慮、合理的推定ヨリシテ自動的ニ精選シタルモノナラサルヲ得ス。徒ラニ自由ニ進ンテ供述ヲ爲ス證人、又ハ其他ノ者ヨリ指名セラレタル者ヲ聽取リ、又ハ無連絡的ニ偶然或者ヲ根據モナク取調ヘ、唯一人ニテモ證人ノ多カラムコトノミヲ希望スルハ、恰モ到ル處ノ小兒ニ道ヲ尋ネ尙迷ヒテ深フスル旅人ノ如シ。嘗ニ骨折損ノ草臥儲ケヲ爲スト、反古紙ニ等シキ捜査書

類ヲ以テ一件記録ノ紙數ト混雜トヲ増ス效果ヲ生セシムルアルノミ。

### 第一 證人取調ノ方法

證人ノ聽取ハ犯罪捜査上最モ重要ナル事項ニ屬スレトモ亦極メテ困難ナル一ノ技術ニ俟タサルヘカラス。虚偽ノ事實ヲ聽取リテ満足スルカ、眞實ヲ遺憾ナク吐露セシムヘキヤハ、一ニ訊問者ノ訊問振リ如何ニ依テ決スヘキ問題ナリ。グロース博士モ證人ハ恰モ器械ノ如ク之レヲ使用スル人ニ依テ何等ノ價值ナキコトアリ、又最モ效果ヲ得ラルルコトアルカ如シト謂ヘリ。秋霜烈日ノ如キ取調ノミニテモ得ル處甚タ少ク、春風胎薄ノ如キ訊問カ常ニ必スシモ好結果ヲ收メ得ルモノニハ非サルヘシ。當該事案ヲ考ヘ取調フヘキ證人ノ性格ヲ明察シ、臨機應變ノ處置ニ出テサルニ於テハ、或ハ怯懦ナル證人カ今將ニ重大ナル供述ヲ爲サントスルニ當リ吾人ハ勵聲一番、遂ニ其者ヲシテ口ヲ開カシメス。又屢々傲頑ナル被聽取人ノ不實ノ陳述ヲシテ益々増長セシムルカ如キ效果ヲ生セシム。特ニ注意スヘキハ左ノ如シ(1) 先ツ十分ニ言ハシムヘシ。吾人ハ證人ニ思フ存分ヲ供述セシムル丈ノ雅量ト忍耐トナカルヘカラス。關係人カ累ノ如ク綿ノ如ク縷々取リ止メモナク陳述スル處ヲ聽クハ實ニ一種ノ苦痛ヲ感セスンハ非ス。然シナカラ其謂フ所カ全然問題外ニ逸シ、別方面ノ岐路ニ亘リ、或ハ明ニ前ト重複スルカ如キ場合ニ在リテハ、之ニ注意ヲ與フルモ亦整理上必要ナルコトアルヘシト雖モ、唯徒ラニ言ヲ挿ムハ否ナリ。夫故縱令ヒ證人カ不必要ナリト思惟セラルル點ヘ論及スルカ如ク見ユル場合ニ於テモ、吾人ハ制止ヲ爲サス放任スヘシ。何トナレハ實ハ此場合如何ナル重要ナルコトカ、此證人ノ口ヲ突テ現出スルヤ否ヤハ、何人ニ於テモ知り得ヘカラサレハナリ。

(2) 容易ニ記憶ヲ喚起セザルトキハ如何ニスヘキヤ。人ハ知覺シタル所ヲ種々ノ條件ニヨリテ多ク忘却ス。缺點ナキ記憶ト云フハ原則ニハ非スシテ實ハ例外ニ屬スヘシ。證人ハ毫モ不實ノ陳述ヲ爲ス惡意ナキ場合ト雖モ、人ノ心理上ノ能力ニハ瑕疵アリ、限リアルヲ天稟トナスカ故ニ、嘗テ證人自ラ認識シ知覺シタルノ事實ヲ全部又ハ一部失念シ、吾人ノ取調ニ對シテ満足ナル供述ヲ爲ス能ハサルコトアリ。此ノ場合ニ於テ刑事家ハ唯貸スニ時ヲ以テスルニ止ラス、之ヲ援助シ其記憶ヲ刺戟シ、過去ノ觀念ヲ再生セシムル機會ヲ與フルニ努力セサルヘカラス。

(イ) 先ツ聯想作用ヲ刺戟セシムルコト。即チ一ノ追想ノ事實ヨリ之レニ附隨シ關聯セル他ノ事實ヲ追想セシメント試ムルナリ。若シ證人カ日ニ就テ記憶セザルトキニハ、吾人ハ其ノ證人ノ周圍ノ事情、境遇、地位等ニ著眼シ一ノ有力ナル附隨ノ事項ト結ヒ附ケテ想像セシムルヲ可トスヘシ。(ロ) 現場ニ同行シテ聽取ルコト。證人ノ記憶ヲ喚起セシムル捷徑ハ證人カ或事實ヲ認知シ經驗セル場所ヘ同行シ其處ニ於テ訊問シ、其知覺ヲ爲シタル當時ト少シモ異ラサル状態ノ下ニ置テ聽取ルコト是レナリ。

(3) 暗示若クハ誘導訊問ハ避クヘシ。吾人ハ證人ニ對シテ彼レカ單ニ「然リ」又ハ「否」ヲ以テ答フルコト能ハス、出來得ヘクシハ證人自ラ多ク供述スルヲ必要ト爲スカ如クニ尋ヌルヲ上乘トス。尙證人ノ取調ニ當リテ他ノ證人カ此點ニ就テ如何ニ既ニ供述セルヤ、又吾人自身ハ事件ニ對シテ如何ナル意見ヲ抱ケルモノナリト云フカ如キ事實ヲ告グルヘカラサルハ勿論ナリ。而シテ成ルヘク他ノ證人ノ居ラサル處ニ於テ取調フルヲ可トス。是レ前ニ陳述セル者ノ言ヲ聽キテ模倣スルカ故ナリ。

(4) 認識ノ根據ヲ究明スヘシ。人ハ外界ノ印象ヲ其ノ有リノ儘ノ状態ニ於テ腦裡ニ映寫セシムルト

云フカ如キ極メテ簡單ナル方法ニ依テ認知スルモノニハ非ス。外界ノ印象ハ一度精神ノ働キニ依テ心理的ニ消化サルルコトヲ必要トスヘシ。證人ノ知覺カ若シ第三者ヨリノ傳聞ニ基因セズ、自身ノ經驗ニ因ルコトヲ主張セル場合ニ於テハ、其事實ハ果シテ自身如何ナル意義ニ之レヲ認識シ而シテ或印象ヲ如何ニ精神上消化シタルヤヲ究明スルコト肝要ナリ。故ニ重要ナル場合ニ於テハ證人カ經驗セリト云フ事實ノ根據ヲ一々説明セシメ、之レヲ證人ノ理解能力ノ程度、廣狹等ニ照シテ信憑スルニ足ルカ否カラ認定セザルヘカラス。

## 第二 證言ノ信憑力

### (1) 證人ノ觀察能力

(イ) 人ノ觀察能力ニハ物理的、ニモ亦心理的、ニモ自ラ限度アリテ絕對ノモノニハアラス。如何ナル證人ト雖モ一定ノ限度以上ニ良ク視、又ハ聽クコト能ハサルヲ普通トス。或ハ距離ニ、又ハ光線ノ強度ニ、其他種々ノ條件ノ羈束ヲ受ケ、自ラ或範圍内ニ制限セラル。而シテ觀察能力ハ又更ニ證人ノ各個人ニ從テ能力ノ限度ヲ異ニスルコトヲ注意セザル能ハス。此能力ノ差異ハ個人ノ素質上ニ存スルノミナラス、又教養、修練、慣行等ニ依テ其間ニ不同ヲ生スヘシ。心理的ニ於テモ證人ノ觀察能力ハ自ラ限度ヲ等ウセサルコトハ前ニモ一言シタルカ如ク、外界ノ印象カ唯寫真ノ鏡面ニ映シタルカ如ク極メテ簡單ナル方法ニ依テ生スルモノニ非スシテ、映シタル鏡面ノ所有者ノ精神ニ依テ心理的ニ消化サルルニ於テ、初メテ光景ヲ認識シ得ルモノナレハナリ。斯クノ如ク事物ヲ認知センカ爲メノ精神消化能力ハ、教育、知識ノ程度、又ハ修練、境遇ニ因テ各人其差異ヲ生シ何人ト雖モ未タ自己ノ咀嚼能力ノ程

度以上ニ眼前ノ出来事ヲ理解シ、認識シ、之ヲ記憶スルコトヲ許サレタル者アラサルカ故ニ、今一犯罪事件アリテ教育、智識ノ態様ヲ異ニセル數人カ恰モ同時ニ之レヲ目撃シ、而シテ各人カ他日證人トシテ立チ執レモ正確ニ認識シタリト信シ之レカ眞實ヲ語ラムコトヲ希望シタリトスルモ、彼等ノ供述ニハ各相違ノ點アルヲ容易ニ發見スヘシ。斯ノ如キ場合ニ一ハ他ト相違スルカ故ニ偽證スルモノナリト直ニ妄斷スルカ如キコトアルヘカラス。(ロ)觀察ニハ眞實ナラサルモノ多シ。吾人ハ日常ノ出来事ニ於テ觀察上多クノ不眞實ヲ經驗スヘシ。或ハ物理上ノ原則ヨリ實在ト相違シテ現ハレ、又ハ感覺上ノ錯覺ヨリ誤謬ヲ生スルカ如シ。是等ハ證人ニヨリテ誤ナキモノトシテ供述セラルル事項ニ屬スルカ故ニ、如何ニ聰明ナル刑事家モ此正當ナラサル理由ニ根據セル證言ニ誤ラルルコトナキヲ保セス。尙證人ノ觀察能力ヲシテ甚シク誤ラシムルモノニ精神上ノ興奮又ハ不愉快ナルモノアルヲ注意セサルヘカラス。

(元兵士ニシテ軍醫、沈著ナリトノ評アル人、鐵道災禍ノ翌朝前夜目撃シタル出来事ヲ語ルニ、曰ク死者凡ソ百人ナラム、自己カ破壊サレタル車室ヲ避レ出テタル時多數ノ頭顱ノ車輪ニ斷タレ地防ヨリ轉落セルヲ見タリト。該事件ハ實ハ胸部ヲ碎カレテ死セル者一人眞實者五人ニ過キサ) (ハ)斯ノ如ク證人ノ觀察能力ニハ各限度アリ又ハ眞實ナラサルモノ多キカ故ニ、若シ一證人ノ觀察能力ニ疑アリ彼ノ云フ所ニ不審ノ點アラハ、彼レハ一般普通ノ智慮ヲ有スルヤ否ヤヲ吟味スルニ止ラス、問題トナレル特ニ此點ニ關スル觀察能力ハ如何ナル程度種類ノモノナルヤヲ究明スル爲メニ能力ノ試験ヲナスコトヲ推薦ス。

(2) 證人ノ記憶力

人ノ記憶力ハ長キ時ノ經過、陳述ノ反覆等ニ依テ侵害セラル。記憶ニ於ケル缺點ノ或程度ハ寧ろ普通ノ特徴ト稱セラル。證人ノ記憶ナルモノハ常ニ侵害セラレ減衰シ他人ノモノト混合シ、或ハ全然消失

スルヲ寧ろ原則トスルカ故ニ、證人カ經驗セル事實ヲ有リノ儘ニ供述スルカ如キハ、寧ろ稀有ノ事ニ屬スト云フモ敢テ過言ニ非サル也。老若賢愚ヲ分タス人ハ等シク其多クヲ忘ルルモノナリ。故ニ智識アル證人ノ記憶ハ、無教育ナル者ノ過去事實ノ證言ニ必スシモ優ルモノニ非サルコトヲ注意スヘシ。此際特ニ留意スヘキハ、頭部ニ對スル打撃又ハ酩酊カ記憶力ヲ害スルコト甚タ強キモノアルコト是レナリ。

第二節 被告人ノ取調

第一 被告人辯解ノ吟味

被告人ノ自白ハ如何ナル場合ニ於テモ常ニ訊問者并ニ被訊問者共ニ利益トナルヘシト雖、被告ハ初メヨリ自白セサルヲ原則トス。誤魔化シ得ル限リ誤魔化シ、逸レ得ラルル丈ケ逸レントシテ虚言假託至ラサルナシ。然レトモ之レヲ以テ搜查官ヲ愚弄スルモノトシテ怒ルハ當ラサルヘシ。

彼ニ愚弄スルノ餘裕アルナク、彼レノ人生中ニ於ケル一大事變ノ突發ニ當リ、憐ムヘキ彼ハ一身上ノ危急存亡ニ對シ死力ヲ盡シテ防戦セル苦境タルコトヲ、吾人ニ於テ觀察スルノ推量ナカルヘカラス。

被告人ノ辯解トシテ特ニ注意スヘキ主ナルモノハ左ノ如シ。

(1) 犯時現場ニ存在セストノ辯解

(1)問題ノ時間ニハ現場ニ在ラストノ辯解。被告人ハ自己ノ犯行ニ對シテ搜查官ノ認定セル犯罪時間カ正當ナラスト知ルヤ、此ノ點ヲ極力辯疏シテ嫌疑ヨリ脱出センコトヲ努力シテ止マス。(2)表面上ノ

他在證據ノ主張。之レニ就テ。(イ)犯人ハ問題ノ時間ノ前又ハ後ノ近キ時刻ニ於テ一ノ他ノ場所ニ在リタリトノ點ヲ努メテ證明スル場合。(ロ)犯行前豫メ他在證據ヲ準備シ置キ又ハ犯後他在辯解ノ證人ヲ依頼スル場合。(ハ)屢々虛構ノ辯解證據ニ對シ一ノ實際ノ出來事ニシテ他ノ時ニ生シタルモノヲ利用セラレ、而シテ此出來事カ問題トナレル日ニ置キ替ヘラレル場合。(ニ)被告ハ問題ノ日ニハ旅行ヲ爲シ到ル處ニ於テ他人(但シ住所氏名不詳者)ト會ヒタリト主張スル場合等アリ。

(2) 明白ナル事實ニ對スル全部否認。

明白ナル事實ニ對スル全部否認ハ却テ被告人ヲ有罪ニ導ク。故ニ老獪深慮ノ被告人ハ重大ナル關係ヲ有セサル事項ニ對シテハ明白ニ陳述シ、自己ノ僞ラサルヲ證明セムコトヲ企テ、若シ數個ノ犯罪アルトキニハ最モ輕微ナル犯行ノミヲ直ニ自白シ、以テ他ノ事實ニ對シテハ毫モ關係ナキ潔白ヲ表明シ、併セテ事件ノ進行ニ因ル他ノ共犯者ノ不安ヲ茲ニ喰ヒ留メンコトヲ計ルナリ。吾人ハ此點ニ就テ十分ノ注意ヲ要ス。

第二 重大犯罪ニ依リ受ケタル被告人ノ心理的影響ノ穿鑿

(1) 精神上ノ震動

不自然ナル異常ノ行爲ハ不自然ナル良心ノ痛苦ヲ生ス。若シ犯人カ殺人、放火ノ如キ重大犯罪ヲ犯シタル後ニハ一ノ深刻ナル精神上ノ震動ニ捉ヘラレルヲ普通トスヘシ。此精神上ノ影響ハ頓テ何時シカ舉動トナリテ現ハレ、他人ヨリ看破セラルルコトアルカ故ニ、此點ノ注意モ亦必要也。

ソツベハ管テ一人ノ郵便配給夫ヲ殺害シテ柏林ヘ逃レタルカ、遂ニ一旗亭ニ於テ刑申請兵聯隊ニ勤務セル下士ナリト語り酌量ニ軍

際乘車券ヲ示セルコトヨリ露顯シ、逮捕セラレルニ至レリ。

彼カ犯行後ノ所感ヲ記述シタル一節ニ曰ク。余ハ殺人ヲ犯セルヨリ逮捕ニ至ル迄ノ二十四時間ニ於テ余カ爲シタル所ノモノヲ謂ハムトスルモ云フ能ハサルナリ。余ハ眠ラムト欲シテ眠ルコト能ハス、行クコトヲ得ス、又靜坐スルコト葉ヨリ叶ハサレキ。余ハ余カ爲シタル所及余ニ起リタル所ノモノヲ實際余自身ハ何事モ知ラサル也。恠クシテ余ハ唯喪心者ノ如ク又恰モ魯鈍者ニ似テ余ノ室内ヲ彼方此方ト歩ミ、或ハ坐シ又ハ起テ、椅子ニ掛クルヲ否ヤ又起テ上カリテ彼方此方ト計畫モ考ヘモナク彷徨スルヲ繰返ヘスニ過キサリキト。

(2) 秘密他言ノ心理的必至ノ傾向

何人ニテモ他人ノ秘密ハ勿論、自己ノ重大ナル秘密ヲモ却テ他人ニ語ラントスル心理的必至ノ傾向ヲ有スルモノトス。殊ニ事態重大ナル秘密ヲ胸中ニ秘メ置クカ如キハ一種ノ苦痛ヲ感スルカ故ニ、他ニ之レヲ漏洩シタキ強キ壓迫ヲ感スルモノ也。斯クシテ重大犯人ハ一切ノ事情ヲ自己ノ妻、近親、朋友、情婦、親分等ニ告クルノ危険ヲ冒シ却テ自ラ安心ヲ覺ユルノ矛盾ヲ見ル。彼ノ頑強ナル被告人カ數日間ノ取調ニ於テ遂ニ自白シ、却テ清々シタル氣分トナルハ畢竟理ヲ同ウスヘシ。故ニ吾人ハ亦犯人カ心理上ノ壓迫ヨリ免レンカ爲メ果シテ何人ニ祕事ヲ語リタルヤニ就テ、巧妙ナル搜查ヲ試ムモ亦一策タルヲ失ハサル也。

第三 如何ニシテ自由ヲ促シ得ル乎

(1) 智識ノ方面ニ對スル追究

(1) 先ツ十分ニ辯解セシムヘシ。(2) 重要ナル罪の證據ヲ提示シ且自白ノ利益ヲ懇諭ス。(3) 共犯ニ就テハ先ツ最弱キ一人ノ自白ニ力ヲ傾注ス。共犯者中ノ婦人ハ最弱キ者ナルヲ普通トスヘシ。但シ例外アリ。

2) 感情ノ方面ニ對スル作用

(1) 訊問ノ用語ヲ選フニ苦心シ比較的輕キ責任ヲ感セシムルヲ可トス。凡ソ被告人ハ自己ノ犯セル犯罪ニ對シテ、比較的耳障リノ和キ形式ノ語ヲ以テ訊問セラルルニ於テハ、感情上何トナク自己ノ責任モ亦左程重カラサルカ如キ心理状態ニ陥リ、遂ニ犯罪ヲ自白スルコトアルハ、老刑事家ノ經驗スル處ナルヘシ。

例令ハ等シク竊盜行爲ナルニ「竊盜チシタカ」又ハ「泥棒シタナ」ト問ハルルヨリハ、「黙ッテ持ッテ來タナ」或ハ「無斷テ懐口ヘ入レタナ」ト問ハルルヲ以テ被告ハ感情上響キチ異ニスヘシ。

又贓物故買ノ被告人ニ對シテ、「御前ハ何年何月何日何處ニ於テ何某ヨリ盜賊タルノ情ヲ知リナカク何ヤチ故買シタカ」ト云フカ如キ問ヲ發スレハ一切ヲ自白スル心持ニテ出頭セル被告人モ遂、一時否認セサルヲ得サル感情トナラムカ。若シ此場合ニ「御前ハ初メハ變ナ品ト云フコトヲ知ラナクダロウカ二、三回目ノ仕舞ニナツテ始メテ正當テナイ品ト判ツタダノダロウ」トノ言ヲ得レハ彼ハ助舟ノ到リタルカ如キ氣持ヲトナリ忽チ此輕キ調子ニ乘セラレテ遂ニ罪科ヲ自白スルニ至ルヘシ。

賭博犯ノ被告ニ對シテ、頭初ヨリ「御前ハ惡イ賭ミチシテハヨクナイテハナイカ」此回ハ札ヲ手ニシテ居ルトキ御手入レカアツタノカ、「唯一、二回手出シテシテ二、三錢位負ケタノカ」ト云フカ如キ訊問語ヲ發スルアラハ、研究ト修養アルカ又ハ多年老熟ノ警官タルヲ推知シテ過ナシ。

殺人犯者ニ對シ「人殺シチシタナ」ト云フガ如キ無味乾燥ノ言語ヲ以テ自狀センコトヲ請求スルハ一種ノ慘酷タルヘク、吾人ハ此場合「遂問違ヒチシタナ」ト云フ程度ヨリ入ルヲ至妙トス。

放火犯人ニ對シテハ「火付ケ」ト云フヨリハ「惡イ火懸」ト云フヲ以テ寧ろ事件ノ進行ヲ速ナラシムモノト知ルヘシ、騷擾罪ノ被告人ニ向テハ「群衆」ナル語ヲ避ケ「大勢ノ中」ト云フヲ可トスルニ慮幾シ。

斯クノ如キ和カナル意味ノ用語ヲ以テ迎ヘラレタルトキニモ、尙且被告ハ一層自己ノ責任ヲ輕カラシメンコトヲ欲シ、矢張其以上ノ輕キ形ノ語ヲ以テ答フ。

例令ハ酷罰ノ上。一時ノ出來心ヨリ。冤ガサシタル爲メ。款額セラレテ己ムヲ得ス。義理合ヒヨリ。無理ニ勸メラレテ。正當防衛トシテ。單ニ友人ニ手ヲ貸シタルニ過キス。一時ニ夢中ニナリタル爲メ。ト答フルカ如シ。是レ蓋シ人情ト云フヘシ。然シナカラ技迄來ラハ先ツ安心也。

(2) 同情ヲ表シ又ハ名譽心ノ刺戟ヲ圖ル可シ。吾人ハ被告ヲ以テ最モ不幸ナル同胞トシ好意ト同情ト慈愛トヲ以テ之レヲ過シ、尙例令ヒ被告ノ地位ニアルトモ人トシテノ體面ヲ維持スヘキ義務アルコトヲ回想セシムヘシ

【實例】 豫審判事ホルマン氏ハ、彼ノ郵便配達夫殺シノ被告人ソツベニ對シテ次ノ如キコトヲ述ヘテ自白ニ導ケリ。「御前ハ國家ノ忠貞ナル兵士デアツタネ、皇帝カラ賜ハツタ軍服ヲ著タ兵士ノ準法ヲハナラナイヨ」トソツベハ重キ消息ヲツケリ。彼ハ突然身ヲ起シ硬キ軍隊式ノ姿勢ヲ執リ離テ正シク相合シ、豫審判事ノ方ニ彼レノ兩手ヲ相對シテ伸シ、而シテ堅キ聲色ニテ彼ハ叫ヘリ。「私カ致シマシタ」ト。

(3) 被害者ノ苦痛ヲ同情セシメテ情緒ノ刺戟ヲ圖ル可シ。之レニ就テハ被告ノ行爲カ如何ニ他人ニ苦痛ヲ與ヘシヤノ状態ヲ具サニ説明シ、若シ被告自身カ地ヲ換ヘテ被害者タルトキニハ此場合如何ニ感スルヤヲ想ハシメ、或ハ親シク被害者ノ苦痛状態ヲ目撃セシムルモ亦屢々自白ニ導クコトアリ。

【實例】 巴里ノ豫審判事ギロソト氏ハ、否認セル二人ノ共犯ノ被告ニ被害者ノ屍體ヲ示シ、而シテ此ノ際尙死人ノ母親ヲモ其ノ揚ヘ呼寄セタリ。被告人等ハ初メ屍體ヲ見タルモ極メテ平然タリキ。然シナカラ突然被害者ノ母ナル頑丈ノ女現ハレ來リ、屍體ヲ一目見ルヤ嗚咽ヲ禁セス、忽チ我子ノ死骸ノ前ニ身ヲ投ケ出シ、辛ウシテ血ヲ吐クカ如キ聲ニテ叫ンテ「我子ヨ、我子ヨ」ト而シ

テ助ニ新ヲ捧ケリ。時シモ一人ノ被告人ハ老婦人カ祈禱ヲ捧グルコトヲ見カヤ否ヤ、顔色蒼白ニ變シ兩眼ヨリハ二ツノ大ナル涙ヲ零ホシヌ、豫審判事ハ直ニ此ノ様ヲ見テ取リ彼ニ眞實ヲ告グヘキ旨ヲ促シタル所、此ノ被告人ハ今ヤ嚴肅ナル調子ヲ以テ叫ビ出セリ、「其處ニ殺シタ者カ居マス」と面シテ其ノ際彼ハ共犯人ヲ指セルナリ。指サレタル者ハ答ヘリ、「カウナレハ私ハ此ノ際隠サス申シマセウ。全ク私ハ此ノ男子ニ同小刀ヲ突キマシタ、シカモ第三番目ニ心臓ヲ突イタノハ實際私ノ仲間カヤツタノデマ」と。此ノ如クシテ此ノ者モ遂ニ全然自白シタリ。

尙此ノ外歐米等ニ於テ屢々實際用ヒラレル有效ナル數種ノ方法ナキニ非ス。例ヘハ不完全ナル證據物ノ一端ヲ被告ノ眼ニ觸ルル場所ニ故意ニ遺シ置キ、既ニ官衙ニ於テハ一切ノ有力ナル證據ヲ蒐集シタリト誇張シテ、被告ヲ欺キ自白ヲ強要スルカ如キ陋劣ナル手段。又ハ被告カ陳述セサルニ於テハ、其ノ妻子ヲ直ニ拘留スヘシト云フカ如キ心理上ノ拷問。姪姪心又ハ復讐心ノ刺戟。鐵ヲ掛ケル方法等其ノ一例也。

被告ノ自白素ヨリ促スヘシ。然シナカラ吾人ハ如何ナル場合ニ於テモ德義、禮讓ノ上ニ顧慮シ、尙造次顛沛ニモ國家ト官衙ノ威信、品位ヲ念頭ヨリ去ラシムヘカラス。虚偽、口實、詭計、心的拷問等ヲ施シテ迄モ一箇ノ自白ヲ購フカ如キハ絕對ニ之ヲ許ササル也。

## 第九章 犯人ノ奸計

### 第一節 犯人仲間ノ秘密交通

#### 第一 秘密通信

(1) 秘密「インキ」ノ使用、常習犯人ノ仲間ハ相互ノ通信ニ際シ官憲ニ其文書ヲ押收セラルル萬一ノ

危険ニ豫メ備ヘントシテ、普通ノ青、黒、赤等ノ著色「インキ」ニ非サル特別ノ「インキ」ヲ使用ス。故ニ其文書ヲ受領シタル者ハ之レニ物理的ノ作用ヲ施スカ或ハ化學的ノ方法ヲ加フルニ非スンハ文字ヲ讀ムコト能ハサル也。秘密作用ヲ爲ス「インキ」トシテハ、唾液、脂肪、澱粉糊液、明礬水、稀鹽酸等ヲ



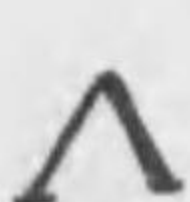
放免セラレタリ



二年ノ禁錮ニ處セラレタリ



勾禁セラレ三回訊問セラレタリ



勾禁



(照參頁九四一) 號暗ル依ニ畫

離レタル一軒ノ旅館ニテ會合セン、(即チ二本ノ柱ニテ之ヲ叫ニセリ) 其家ハ庭(即チ木ヲ以テ現ス)ヲ通レバ後口ノ入口アリ

云フ) (2) 秘密文書ノ暗號、之ニ就テハ換字暗號、書籍暗號、辭書暗號、型板暗號等アリ。(イ) 換字暗號トハ各箇ノ文字ヲ他ノ文字ト置き換フル方法也。此暗號ハ通信者カ一ノ暗號符表若シクハ解讀ニ關スル材料ヲ携帯セストモ容易ニ讀マレ得ルノ利益アリ。例令ハアイウエオ順ニ於テ次ニ當ル文字ヲ代

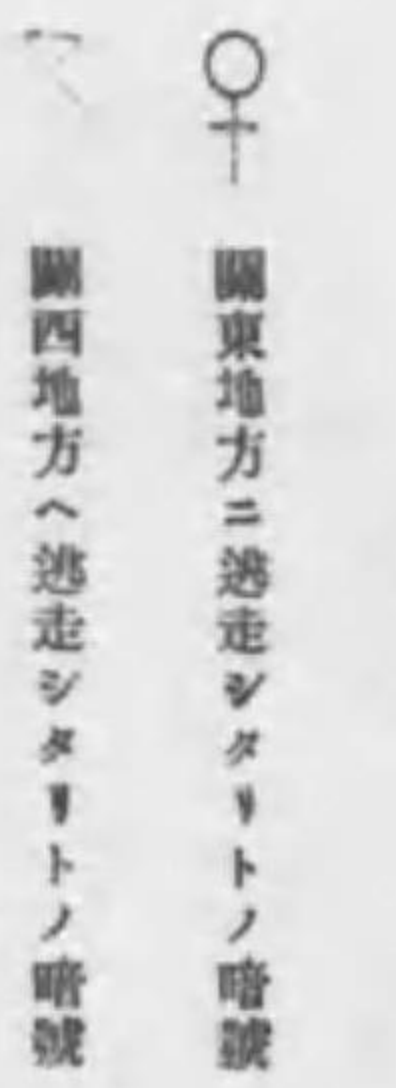
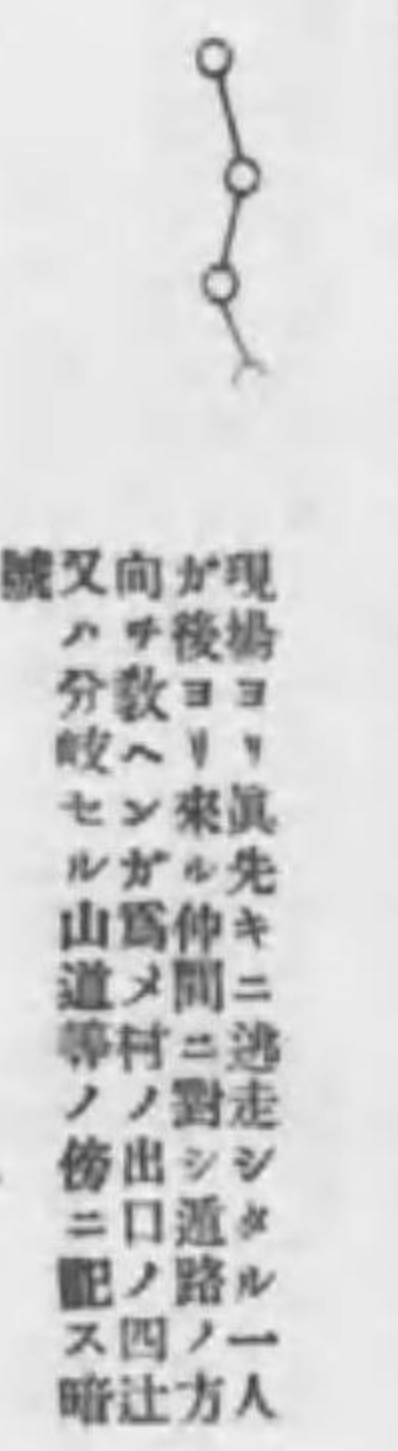
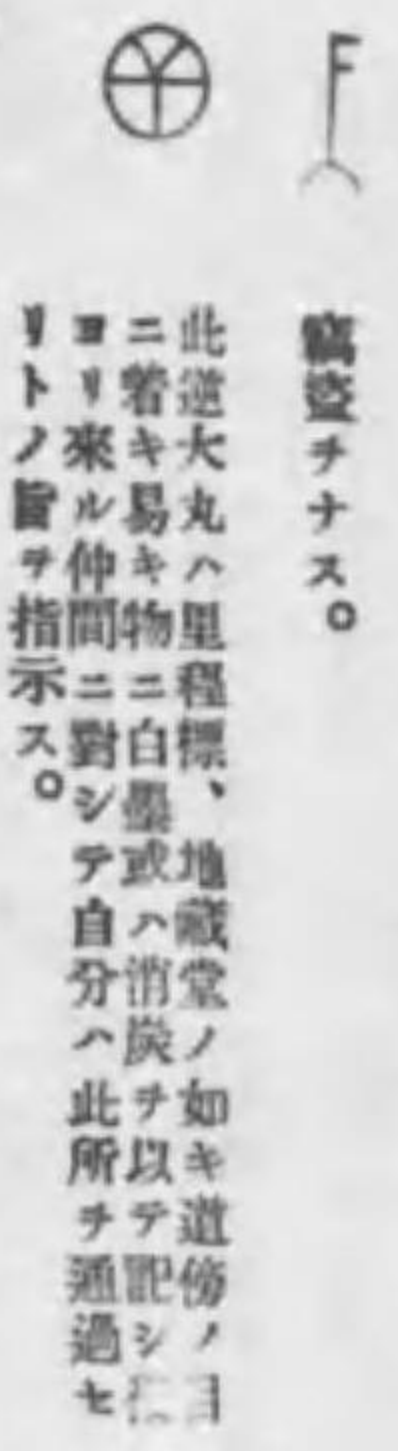


用ス。即チ「ア、シ、タ」トスヘキ所ヲ「イ、ス、チ」ト爲スカ如シ。(ロ)書物暗號トハ通信スヘキ兩人ハ或ル同書物同出版ノモノヲ材料ニ用フ。發信者ハ通信ニ必要ナル各文字ヲ先ツ書物ニ於ケル何處カニテ捜シ求メ置キ、而シテ其一文字ヲ祕密文書ニ於テ表ハストキニハ三個ノ數ヲ以テ之レニ充ツ。即チ其文字ノ存スル處ノ頁、行、何字目、之也。(若シ禁者カ此ノ如キ暗號ヲ用ヒタルトキニハ吾人ハ容易ニ之レヲ破シ得ヘシ。何トナレハ其者ハ唯二、三ノ書物ヲ利用シタルニ過キ) (ハ)辭書暗號ニハ通信ヲ交換スル兩者ハ中央ノ横線ヲ以テ上下二段ニ分タレタル同一辭書ヲ利用ス。手紙ヲ書ク者ハ其辭書ニ於テ通信ニ必要ナル各語ヲ求メ而シテ同行ニアル次ノ段ノ語ヲ以テ之レニ代用セシム。例令ハ「辭林ヲ基本トスレハ「今晚來レ」ノ暗號ニハ「コンマ北方」トナルカ如シ。斯クノ如キ種類ノ文書ヲ解讀スル爲メニハ吾人ハ嫌疑者ニ就テ一ノ辭書ヲ搜索スヘキ也。



(ニ)型板暗號トハ兩者ハ先ツ孔ヲ抜ケル一ノ型板ヲ相互ニ所持スル也。而シテ文書ヲ書ク際ニ此板ヲ紙上ニ置キ一ノ孔ノ中ニ一ツ宛文字ヲ書キ以テ通信スヘキ全文ヲ箝メ込ミ、然ル後右各個ノ文字ト文字トノ間隙ニハ何等ノ意義ナキ出鱈目ノ文字ヲ誤魔化シノ爲メニ充シ置ク也。此種ノ祕密暗號、疑ア

ル文書ヲ解讀センカ爲メニハ吾人ハ型板ヲ搜索スヘキハ勿論トス。(3)書、依、ル、暗、號、獨、塊、ニ、於、ケ、ル、常、習、犯、者、ノ、仲、間、ハ、一、四、七、頁、記、載、ノ、如、キ、繪、畫、ヲ、以、テ、通、信、ヲ、計、ル。乞、食、ノ、類、ハ、例、ハ、「此、家、ヲ、物、ヲ、乞、フ、ト、キ、ニ、ハ、高、々、一、片、ノ、麵、麩、カ、貰、ヘ、ル」。又、ハ、「此、村、街、道、テ、ハ、右、側、ノ、三、番、七、番、十、二、番、ノ、家、カ、少、シ、ハ、持、ツ、テ、居、ル」。



以テ此暗號ニ代用スルコトアリ。一般ノ常習盜犯ノ與黨ハ上記ノ如キ畫ヲ以テ暗號通信ヲ圖ルト云フ。

第二合圖

(1) 犯罪行為ニ際シ用フル合圖。大ナル忍、込、盜、空、巢、狙、強、盜、等ノ如キ盜犯ノ見張人又ハ賭博ノ見張役ハ本犯ノ仕事セル家ノ附近ニ立チテ犯行ノ間之ヲ保護シ危急ノ際ハ逃亡ヲ迅速ナラシム。此場合本犯ト見張人トハ豫メ一定ノ合圖法ヲ謀シ合セ置キ、之ヲ以テ見張人ハ本犯ニ對シ、現ニ起リツツアル障害ヲ報シ危險ノ過キ去ル迄一時仕事ヲ中止シ靜肅ナラシメ、又ハ緊急ノ場合ニハ遁逃ヲ促カス也。本犯ニ於テモ仕事ヲ終レハ一定ノ合圖ヲ以テ最早出テ行キテ可ナルヤ否ヤヲ紹介ス。(合圖トハ笛ヲ吹キ、舌ヲ打チ、強ク息ヲ吐キ、何方ニ歌ヒ、一ノ叫喚ヲ爲シ、噴霧シ、暖拂ヒ) 故ニ若シ吾人ハ深更一定ノ箇所ニシテ、欠伸ヲ爲シ、下駄ヲ踏ミ、高ク踏ミ鳴ラシ、砂粒ヲ雨戸ニ投シ、犬ヲ呼フ等ノ如シ。故ニ若シ吾人ハ深更一定ノ箇所ニ彷徨シ突然無原因ナル是等ノ行爲ヲナス舉動不審ノ者ニ會セハ知ラサルヲ真似シテ其場所ヲ一旦通行シ、然ル後竊ニ舉動不審者ト其附近ノ民家トニ就テ犀利ナル注意ヲ放タサルヘカラス。若シ家人又ハ巡查カ其現場ニ近ツクカ如ク極メテ重大ナル危險ニ切迫シタルトキニハ、見張人ハ一ノ合圖ヲ以テ本犯ニ之ヲ急報スルニ止ラス、直接是等ノ大敵ヲ阻止シ、其間ニ本犯ヲシテ行爲ノ完了ト遁逃トノ餘裕ヲ得セシムルコトヲ必要トスル場合アラム。

此目的ニ對シテ見張人ハ其場ニ來レル者ニ何事カ大聲ニテ話シ掛ケ、途チ尋ネ、時間ヲ問ヒ、醫師又ハ產婆ノ住居ヲ問ヒ、或ハ自ら急病ニ罹レルカ如ク負傷セルカ如ク裝ヒ、憐愍ヲ乞ヒ、又ハ紛失物ヲ探索セル真似ヲ爲シ、斯クシテ大敵ヲ阻止シ。又或ハ彼方ニ怪キ聲ノ響カレルヲ見タリ、呻吟スル聲ヲ聞キタリ、邸内ノ様子ヲ視ヘルヲ伺フ者ヲ見タリ、犬カ甚シク狂躁シタリト欺キ本犯ノ仕事ヲ爲セルト反對ノ方面ニ大敵ヲ誘拐シ。殊ニ非常ナル場合ニ於テハ見張人ハ泥酔者ノ如ク裝ヒ巡查ニ對シテ侮辱ヲ試ミ、故意ニ自己ヲ拘引セシムルヲ如ク仕向ケ、其暇ニ本犯ヲシテ逃亡セシムルヲミナラス。尙追跡者ニ對シテハ遠ヘル方ノ道ヲ教ヘ。逮捕サレタル仲間ニ就テハ偽計ヲ以テ釋放セシム。

此場合若キ婦人カ屢々見張人トシテ卓越セル働ヲ爲スコトアルハ注意スヘシ。之レ婦人ハ注意深ク鋭敏細心ニシテ且責任ヲ重スルノミナラス。容易ニ一ノ口實ヲ發見シ而カモ嫌疑ヲ招クコト少クシテ同情ヲ得易キカ故也。

拘摸、置引キ、搔浚、ヒ其他本犯カ見張又ハ幫助者ノ視線内ニ於テ近ク活動スル種ノ犯罪ニ際シテハ、是等ノ從犯ハ直ニ本犯ノ眼ニ觸ルヘキ方法ヲ以テ機微ナル合圖ヲ爲ス

例令ハ從犯ハ刑事巡查ノ來レルカ又ハ被害者ノ覺知セルコトヲ通センカ爲メニ自己ノ右手ノ指一本ヲ横ニシテ自分ノ鼻下ヲ撫テ、或ハ掌ヲ以テ自己ノ兩眼ヲ掩ヒ、又ハ頰杖ヲ突キ物思ハシケナル態ヲ示シ、更ニ危險切迫セルカ故ニ直ニ此場ヲ逃走スヘシトノ合圖ニハ右手掌ヲ自己ノ胸ニ當ツ。若シ從犯カ本犯ニ對シテ今カ時機ナレハ直ニ著手スヘシトノ爲メニハ自己ノ唇ニ掌ヲ當ツ。本犯者カ是等ノ合圖ヲ了承セリトノ意ヲ表スルニハ自己ノ耳朶ヲ後方ヨリ前方ニ撫ツル態ヲ示シ、或ハ自己ノ頤ヲ數回撫テ、若シ又行爲ノ完了セルヲ從犯ニ通セントスルトキニハ左右執レカノ眼、側面ヲ上方ヨリ下部ニ撫テ下シ、更ニ多額ノ獲物アリタル旨ヲ合圖セントスルトキニハ、前額部ニ掌ヲ當テ頭上ヨリ後頭部ニ撫テ下シ、又ハ襟ヲ握キ合シ姿勢ヲ正スカ加キ態ヲ示ス也。彼ノ相面識アル拘摸路上ニ於テ行會ヒタルトキニ臨機應變仕事ヲ補助スヘキ意味ヲ現ハサンカ爲メニハ互ニ羽織ノ紐ノ結ヒ目ヲ解クノ合圖ヲ爲ス。(京都府警察部出版、隱語輯覽參考)

(2) 押送又ハ拘留取調ニ際シ用フル合圖。犯人カ逮捕押送セララルニ當リ、其途中犯人ノ目ニ著キ易キ所ニ居リテ仲間カ犯人ニ對シ種々ナル合圖ヲ施シテ秘密ニ意思ヲ通スルノミナラス、犯人ハ共犯者ニ對シ誦問中ニ於テ合圖ヲ以テ警戒ヲ促スコト屢々アリ。

仲間カ護送セララル犯人ニ對シ官衙ニ於テ嚴重取調ヲ受クルトモ共犯ノ關係ヲ秘シ極力犯罪ヲ否認スヘシトノ旨ヲ通セントスルトキニハ、自己ノ右手掌ヲ前額部ニ當テ唇ヲ結フノ態ヲ示シ、若シ合圖者カ犯人ニ對シテ本件ニハ他ニ共犯ナク自己一人ノ所爲ナ

ル旨ヲ官ニ供述スヘシトノ合圖ヲ傳ヘントスルトキニハ、自ラ唇ヲ開キ上唇ニ一本ノ指ヲ當ツル也。押送中ニ係ル被告人ニ對シ押送セラルル途中時機ヲ見計ラヒ逃走スヘシトノ合圖ノ爲メニハ合圖者ハ自己ノ手ヲ脚部ニ當ツ。然シナカラ仲間力犯人ニ對シ汝ノ服役中留守宅ニ於ケル家族ハ自分カ一切保護スヘシトノ意味ヲ通セントスルトキニハ、自ラ手ヲ携キ思案ノ態ヲ示シ次テ一本ノ指ヲ以テ自己ノ鼻先ニ當ツル也。若シ夫レ取調中ノ被告人カ共犯者ノ聞キ得ヘキ箇所ニ在リテ殊更久伸ヲ爲シ「アーアー」ト云ヘハ自己カ官ニ中立ヲタル共犯者ハ唯二人ナリトノ意ニシテ「アー／＼／＼」ト云ヘハ三人ナリトノ合圖ヲ爲シタルモノト知ラサルヘカラス。(同右)

### 第三 隱語

常業犯者ノ仲間ハ彼等ノ思想ヲ秘密ニ交換センカ爲メニ、從來ノ特別ナル隱語ヲ使用シ、又ハ新タニ隱語ヲ製造シテ互ニ祕事ヲ談話ス。

夫故下等飲食店、木賃宿、日雇労働者ノ巢窟等ニ於テ犯罪ノ端緒ヲ得、犯人ニ對スル機微ナル探偵ヲ爲スヲ以テ其責務トスル階級ノ警察官ニ於テハ、殊ニ彼等仲間ノ隱語ヲ或程度迄了解スルニ非スルハ、意義アリ效果アル活動ヲ遂ケ能ハサル場合ニ屢々遭遇スルコトアルヘシ。

然シナカラ吾人ハ隱語ナルモノニ對シ餘リニ重キヲ置クヘカラサル事情ヲ注意セサル能ハス。官廳ニ於テ用フル暗號符スラ屢々變更セラレ之ニ依テ暗號本來ノ目的ヲ保持セラル。刑事家ヨリハ常ニ一步ヲ進メルノ觀アル常業犯ノ徒輩カ奈何テ舊套ヲ墨守シ何時迄モ在來ノ隱語ヲ使用シ自ラ惡事ノ露顯ヲ速ニスルノ愚ヲ學ハンヤ、實際彼等ハ隱語カ官ニ知ラレタリト覺ルヤ直ニ之ヲ捨テテ他ノ新奇ノ語ヲ求ムル也。換言スレハ吾人カ苦心慘澹漸ク彼等ノ隱語ノ一般ヲ知リ之レカ字彙ノ編纂ヲ終ル頃ニハ彼等ハ既ニ大半ヲ改正シタル隱語字彙ノ數版ヲ累ネリ、吾人ノモノハ畢竟古略曆ニ外ナラサル也。加之

彼等仲間ハ談話ニ際シテ必要ニ應ジ任意新奇ナル隱語ヲ創作ス。斯ルカ故ニ縱令吾人ハ從來ノ隱語ノ一般ニ通セリトスルモ、彼等ノ語ル處ノ隱語ハ翻譯ナクシテハ了解スルコト能ハサル場合ノ多キヲ覺悟セサルヘカラス。茲ニ於テカ吾人ハ從來ノ隱語自體ヲ暗記センヨリハ、寧ろ隱語ノ構成原則ヲ理解シ、此標準ニ基礎ヲ置キ自己ノ才能ト推理力トニ依リ、箇々ノ場合ニ於テ臨機應變談話者ノ語義ヲ解スルニ志スヲ以テ優レリトナス、論議ノ餘地アルヲ知ルヘシ。

吾人若シ隱語ノ解剖研究ヲ試ミンカ、其ノ或部分ニ於テハ自ラ一定ノ構成原則ナルモノノ存スルヲ容易ニ發見スヘシ。即チ

(1) 隱語ノ最モ簡單ナル構成ハ逆語ニアリ換言セハ語ヲ顛倒シテ讀ム也。例令ハ左ノ如シ。

靴ヲ	「バンカ」	判事、檢事ヲ	「シハン」シケン
虚言ヲ	「ゲンキヨ」	兄弟ヲ	「ダイキヨ」
種師ヲ	「ネタシ」	神主ヲ	「スシタヤン」
面會ヲ	「カイメン」	勝負ヲ	「アセウ」
大盛ヲ	「シンダイ」	一杯ヲ	「バイイチ」
祭りヲ	「ツマー」	街道ヲ	「ドウクサイ」
品割レヲ	「ナシヨレ」	柳師ヲ	「ナタシ」
商賣ヲ	「バイシヤウ」	間違ヲ	「カイマチ」
旗ヲ	「ビタ」	行ヲ	「グユ」
拘留ヲ	「イウコ」	箱ヲ	「コハ」

郵便チ	「ベンイウ」	神戸チ	「ベコ」
裁判所チ	「バイサン」	田舎チ	「ナカキ」
宿附ケチ	「ドヤツケ」	錢チ	「ニゼ」
離レチ	「ナレハ」	煙草チ	「パダコ」
濱チ	「マハ」	木屐チ	「ヤボン」
惚チ	「レホ」	寒氣チ	「ムサ」
出刃チ	「バテ」	顔チ	「チカ」
釜チ	「マカ」	姫チ	「メヒ」
澤山チ	「サンダク」	若嫁(新造)チ	「ソシン」
鎖チ	「サリク」	機械チ	「カイキ」
飛白反物チ	「スリカ」	唐人チ	「シントウ」
仙臺チ	「ダイセン」	簾筒チ	「スタン」
濱松チ	「マツハマ」	菓子チ	「シカ」
江戸チ	「ドエ」	蠟燭チ	「ソクラウ」
拘留チ	「リウ」	岡崎	「ザキ」
大阪	「サカ」	字部宮	「ミヤ」
名古屋	「ゴヤ」	イガミ(不正事)	「ガミ」

(2) 次ニハ略語ニ在リ、即チ語ノ頭又ハ尻ノ字ヲ略シ、或ハ語ノ頭若クハ尻ノ一字ヲ置キ、尙時トシテ腹部ノ一、二字ヲ差シ置キテ其餘ヲ全部省略シ、以テ一語ヲ製造スル也。例令ハ左ノ如シ。

ムスメ(娘)	「スメ」	空巢組	「アキ」
鉛筆	「ヒツ」	盲談	「ザン」
空巢	「キス」	日中空巢組	「ニチ」
被害者	「ガイシヤ」	天窓破リ(窃盜)	「タン」
盜伐チ	「バツ」	強盜	「ガウ」
商賣(窃盜)	「バイ」	置引(窃盜)	「チキ」
捕縛	「バク」	立場線(拘摸)	「ダチ」
指輪	「ヨ」	濡レ事(淫事)	「ヌレ」
蜂追(車上物窃盜)	「チヒ」	ヤキモチ(嫉妬)	「ヤ」
感付イタ	「ツイダ」	ムラサキ(替油)	「ムラ」
落延レル	「ノビル」	洛中(京都)	「ラク」
引バラレタ	「バラレタ」	忍込盜	「シノビ」
藝妓	「ギ」	長持	「ナガ」
夢飯、夢酒チ	「バク」	贓物	「ゾウ」
入八(賭博)	「ハチ」		
博奕	「バク」		

(3) 次ニハ形容語ニ在リ。即チ或ル事物ニ對シ之ヲ形容シタル語ヲ求メテ隱語トナスニ在リ。例令ハ次ノ如シ。

浴場盗  
放火

殺人

屋根傳忍込盗  
壁破開忍込盗  
荷車ヲ追跡シ車上ノ物品ヲ  
窃取スル盗犯

強盗  
強姦

- 「ハイユウ」(俳優)
- 「アカイヌチケシカケル」(赤犬チ便職ス)「ベニチツケル」(紅チ着ケル)「ヌグメル」(温メル)
- 「キウチスヘル」(灸チ据ヘル)
- 「ダルマ」(血達磨ヨリ來ル)
- 「ネムス」(眠ラス)
- 「ニヤン」
- 「ハラキリ」
- 「ハチチヒ」
- 「トンボチヒ」
- 「ハイチヒ」
- 「ハリガネ」
- 「トントン」
- 「タハキ」
- 「フロニハイル」
- 「スキタニノリスル」(耕田ニ糊スル)
- 「シマラン」(島田雷ヲ亂ス)

鶏姦  
男女ノ房事

手淫

收監

警察署ノ拘留處分

出監

死

熟睡

入浴

盗犯ガ發覺ノ虞アルトキ所持ノ贓物ノ投棄

- 「ムメボシモラロ」(梅干賣ロ)
- 「ボンブ」
- 「アヒカギチアハス」(合鍵チ合ハス)
- 「ツホヤキ」
- 「ロウソクチカケル」(蠟燭チ掛ケル)
- 「ヤウカウ」(洋行)
- 「キヤクニユク」(客ニ行ク)
- 「ビヤウインユキ」(病院行キ)
- 「ダイイン」(退院)
- 「ロクウ」(六字)
- 「シラカハ」(白河夜舟ヨリ來ル)
- 「ザンブ」(水音ノ形容)
- 「パイ」(糞テル形容)

(4)

次ニ擬人語ニ在リ。例令ハ左ノ如シ。

- 雷犬 「シウト」(姑)
- 雷犬ニ毒餌ヲ與フルチ 「シウトニミヤゲ」ト云フ
- 盗犯忍入 「ムコイリ」(婿入)
- 土藏 「ムスメ」(オイラン)
- 黒壁土藏 「イロクロムスメ」
- 白壁土藏 「イロシロムスメ」
- 財物豊富ナル土藏 「シマダムスメ」

第一編 總論 第九章 犯人ノ奸計 第一節 犯人仲間ノ秘密交遊

細帯

紐附財布

銀貨

編組傘

煙管

管

看守

鎖鑰ノナキカ又ハ貧弱ナル土藏

土藏破リ盗犯

土藏ノ破開

土藏破開ノ困難

- 「ウナギ」
- 「ヨイチ」(與市兵衛ヨリ來ル)
- 「シロ」
- 「ノツボ」
- 「ミヅテツボウ」
- 「チカル」(忠臣蔵ノオ輕ヨリ來ル)
- 「サルマハシ」(猿廻シ)
- 「シндаムスメ」
- 「ムスメシ」(チソメシ)
- (御染久松ヨリ來ル)
- 「ミヅアゲ」(ムスメクドク)
- 「ムスメセアル」
- 「ムスメアラシ」
- 「ナンザン」(難産)

同容易遂行

「アンザン」(安産)

鹿下

一五八

「オツホネ」(御局)

(5) 尙ホ擬動物語ノ一群アリ、例令ハ左ノ如シ。

商店ニ於ケル不正ノ番頭ヲ	「シロネズミ」	放火ヲ	「イムシ」(蠅)
強盜強姦ヲ	「スイメ」	床下ノ發掘忍込盜ヲ	「モグラ」(土龍)
金時計ヲ	「ウグヒス」	熱睡ヲ	「ウシ」(牛)
放火ヲ	「アカネコチアハセル」	土藏ヲ	「ツバクロ」(燕)
田野竊盜ヲ	「ウサギ」	汽車ヲ	「ムカア」(百足虫)
拘摸ヲ	「エンコウ」(猿猴)	唐辛子ヲ	「アカトンボ」(赤蜻蛉)
二人共謀ノ拘摸ヲ	「チシドリ」(鶯)	手提靴ヲ	「ウサギ」(兎)
拘摸ノ徘徊ヲ	「カモ」(鴨)	錠前ヲ	「エビ」(蟹)
詐欺ヲ	「カラス」(鴉)	錠ヲ	「ガニ」(蟹)
家根傳竊盜ヲ	「ギ」(白蠟)	密偵者ヲ	「イヌ」(犬)
戸切竊盜ヲ	「キノズミ」(木鼠)	看守ヲ	「イハシ」(鱈)
小竊盜ヲ	「クモ」(蜘蛛)	教育中ノ巡查看守ヲ	「イハシ」(鱈)
宵空巢狙ヲ	「シヤムシ」(蛇虫)	詐欺賄博ノ被害者ヲ	「イハシ」(鱈)
途上竊盜ヲ	「タカ」(鷹)		「イハシ」(鱈)
破獄逃走ヲ	「トビ」(鷹)		「イハシ」(鱈)
忍込竊盜ノ破開ヲ	「ネズミ」(鼠)		「イハシ」(鱈)
	「ホタル」(螢)		「イハシ」(鱈)

冬服巡查ヲ

「カラス」(鳥)

夏服巡查ヲ

「シラサギ」(白鷺)

靴ヲ

「カラス」

辯護士又ハ宵空巢狙ヲ

「カウモリ」(蝙蝠)

木工ヲ

「キノズミ」(木鼠)

片眼ノ者ヲ

「クワ」(鯨)

官吏ヲ

「ナマヅ」(鯨)

刑事巡查ヲ

「ナンキンムシ」

其他「チーハー」ヨリ來レルモノアリ。(例令ハ窃盜ヲ「パンクイ」(板桂)巡查ヲ「フクソン」(福孫)ト云フカ如シ)。

茲ニ注意スヘキハ世ノ犯罪者間ノ隱語カ悉ク以上ノ五原則ヨリ成レルニハ非サルヤ言ヲ俟タス。否寧ロ其大部分ハ普通ノ理窟ト準尺トニ合ハサル途方モナキ特殊ノ語タル也。故ニ若シ是等ニ通セント欲スル篤志家ハ、中學生カ外國語ノ單語ヲ覺エントスルカ如クニ一語々々暗記スルノ外ナキモノト知ルヘシ。

第二節 外見ノ變裝

犯罪ニ當リ自己ノ容貌ノ變裝ヲ企ツルカ如キ者トシテハ、我國ニ於テハ漸ク面ニ墨シ、梅干ヲ潰シテ顔及手足ニ塗り、附ケ鬚ヲ用ヒ、鬚ヲ剃リ散髪ヲ爲シ、衣服ヲ改ムルカ如キ極メテ幼稚ナル方法ヲ以テ稀ニ試ミラル。故ニ當今ノ我國ノ事情トシテハ、此問題ノ研究ニ多クノ筆紙ヲ費スカ如キハ愚ナル

カノ感ナキニ非スト雖、大戰亂後歐米ヨリ現ニ社會問題、思想問題ノ傳播ヲ其夕ニ歡迎セル刻下ノ狀況ナルカ故ニ今後愈益々善ニマレ、惡ニマレ百般ノ事物ノ猶豫ナキ影響ヲ受クヘキ我國ニ在リテハ、捜査上ノ此方面ノ問題ニ對シテモ尙吾人カ相當ノ智識ヲ準備スルコトハ、其職務ニ關シ極メテ用意アルモノト云ハサルヘカラス。仍テ吾人ハ獨、塊ニ於テ研究セラレタル此點ノ事情ヲ加味シ、左ニ少許ノ記述ヲ留メ置カント欲ス(ハンス、グロース「犯罪行為ノ事情ニ關スル研究」三二頁以下、「ワインガルト」氏捜査術一〇三頁以下參考)

吾人ハ人物ノ外見ヲ變更スル能ハサル場合ハ唯甚々僅ナリト云フコトニ注意スヘキ也。而シテ容貌ノ變更ナルモノハ原則トシテ有数ナルモノトス。一ノ初心者又ハ未熟者ハ一ノ犯行ヲ變更セサル外貌ニ於テ爲シ、而シテ虚偽ノ假面ヲ以テ逃亡スレトモ、熟練者ニ至リテハ決シテ然ラス、外見ヲ見行ノ前ニ變へ而シテ見行後ニ自己ノ本來ノ容貌ニ成リ澄スヘシ。此ノ場合ニ後者ハ發見ニ困難ナルカ故ニ甚々危険トス、何トナレハ前者ナラハ逮捕ノ際容易ニ假面ヲ剥破セラルルノミナラス、犯罪者モ亦見行後永久ニ假面ヲ著用スルコト能ハサレハ也。

「衣服」ハ種々ニ變更セラル。急遽短カキ服装、實著ニシテ立派ナル衣服、貧シケナル勞働服、而シテ最後ニ自身本來ノ服装ト云フカ如ク爲シ得ヘシ。

【實例】大正四年六月二十九日午後五時ヨリ七時迄ノ間ニ於テ、福島縣北會津郡一箕村字香掛峠九番地、川口六兵衛ヲ白「タオル」ヲ以テ較殺シタル上金八圓ト雜品ヲ強取シタル犯人ニ就テ、遠藤警部補捜査ノ結果、右ハ現場トハ約八里ヲ隔タル福良村大字福良、居住ノ前者鈴木某(二二六)ノ所爲タル事ヲ確メタル處、同人ハ七月一日居宅ヨリ郡山町へ出テ若松へ立越シ犯罪現場ノ其後ノ様子ヲ探リ見タル上、若松方面ヨリ南會津郡田島町方面へ高飛シタリ。捜査官ニ於テ此事ヲ探知スルヤ若松ヨリ田島町へ通ズル一本道ニ非常線ヲ張テ警戒シタルモ、犯人ハ郡山町ニ於テ古洋服ヲ買求メ之レヲ着シ或ハ途中夏褌衣一枚トナリ、又ハ之ヲ單衣物ニ改メ、更ニ用意ノ白袴纏ニ着換ヘタル等其變裝ハ半里又ハ一里ニシテ直ニ取り換ヘタル爲メ遂ニ非常線ヲ易々ト突破シテ逃走シタリキ後彼レハ田島町ヨリ日光方面ニ逃走シタルモ遂ニ探知セラレ追跡ノ自轉車巡査隊ノ爲メ栃木縣境ノ山中ニ於テ逮捕セラレ裁判ノ結果

死刑ニ處セラレヌ。

姿勢 及ヒ歩行ニ就テハ直姿、脊僕又ハ瘦弱、強壯ト云フカ如ク爲シ得ルノミナラス、緩カニ腰ヲ屈シテ歩ミ、跛者ナルカ如ク裝ヒ、歩行振ヲ變シ。尙他人ニ知レサル様ニ身長ヲ短ク爲スコトヲ得ヘシ、即チ若シ吾人カ長キ外套ヲ著シ膝ヲ屈シテ歩行セハ短時間ニ就テノミ成功スヘシ。

四肢 モ亦變化セシメ得ヘシ。例へハ實際隻手ノ者モ機械ノ臂ヲ以テ完全ナルモノト見セシムルト等シク、兩臂共完備セル者カ一本ヲ隠蔽シテ一本ノ手ノ如ク偽ルコトアリ得。

顔色 ハ變裝ニ就テ最重要ナル點トス、之ハ近來發達セル優良ナル芝居用塗料ヲ以テモ能ク其ノ目的ヲ達シ得ヘシ。而シテ顔ノ著色ハ能ク永續スル色ヲ以テスルコト肝要也。例へハ各人其ノ好ムトコロノ塗方ニ從ヒ過滿俺酸加里ヲ以テ褐色ト爲ストキニハ、此ノ色ハ唯時ノ經過ニ依ルニ非サレハ擦落シ又ハ剝離スルコトナシ。

疣。黒子。皮膚ノ黄斑。顔ノ發疹等ハ容易ニ欺騙的作品ヲ巧ミニ製造セラルヘシ。

齒 缺ケタル齒ヲ容易ニ補充シ得ルコトハ一般ニ世人ノ知ル所也。然シナカラ茲ニ現存セルモノヲ短時間ニテ著色シ、又ハ巧ミニ捏粉等ヲ以テ恰モ缺損アルカ如ク佯裝スルコトモ亦可能的トセラル。

鼻 ハ小サクスルコトハ能ハサルヘシト雖、大ナラシムル事ハ出來得ヘシ。例へハ或良ク著色サレタル蜂蜜、糊又ハ護謨ヲ以テ一ノ小サキ獅子鼻ノ上ニ巨大ニシテ上品ナル鼻ヲ築キ上クルコトヲ得。恰當ナル塗料ノ補助ヲ以テ此ノ添加物ハ殆ト何人ニモ知レサル様ニ完成スルコトヲ得ヘシ。

眼色 ハ殆ト伴ルコト能ハス。然シナカラ嘗テ獨逸ニ於テ一婦人カ小サキ清碧ナル眼ノ所有者タリ

シニ拘ハラス、一事件ニ際シ一ノ強キ「ペラダンナ」(毒草、莨菪)ノ藥量ヲ服用シテ瞳子ヲ擴大シ大ナル暗黒色ノ眼ニ伴リタルコトアリ。

毛ト鬚ハ巧ミニ著色シ、剃リ除カレ、又假髮、附ケ鬚ヲ以テ補充セラルルコトハ既ニ世ニ知ラルル處ナラム。

【實例】明治四十四年十月七日午前一時頃、山梨縣東八代郡石和村小林方ニ黒布ヲ以テ覆面セル美髯ノ一強盜押入り、針金ヲ以テ家人ヲ縛シ短銃ヲ突キ付ケ脅迫シテ現金百五十圓ヲ強奪シ、勝手元ニテ飯ヲ喰ヒ生卵數個ヲ飲ミタル後立去レル犯人アリ。現場へ出張シタル警察官ハ黒インキノ附著セル遺留ノ手拭一筋ト犯人ノ飲ミタル生卵ノ殼ニ怪シキモノ附著セルヲ發見シタリ。仍テ先ツ詳細ニ生卵ノ毛ヲ検査シタルニ右ハ附ケ鬚ノ毛ニシテ賦ハ附ケ鬚ヲ爲シタルモノナルコトヲ知リタルノミナラス、遺留ノ手拭ハ工業試験所ニ送リテ検査ヲ求メタルニ黒インキハ印刷用ノインキナルコト判明セリ。茲ニ於テ附ケ鬚ヲ販賣セル商店及印刷所ノ方面ヨリモ捜査スルコト、爲リタル處、現場ノ四方一里ヲ去ル甲府市深町淺川ナル小間物店ニ於テ十月五日正午頃前記強盜ノ人相、年齢ニ照應スル一人ノ男ニ附ケ鬚ヲ賣却シタルノ事實ヲ漸ク探知シタルノミナラス、甲府市連雀町某印刷工場ノ職工タリシ強盜前科者大浦某(二七)カ數日前ヨリ無斷家出シ所在不明トナリタルコト並ニ同人ノ人相、着衣、年齢ハ本件ノ犯人ト酷似セルヲ確メタルヨリ、有力ナル端緒ヲ得、第一ノ嫌疑者トシテ同人ノ所在ヲ捜査スルコト、ナレリ。小松巡査部長ハ遂ニ同人ヲ旅館ニ於テ發見シ警察署へ同行ノ途中其者ノ請ヲ容レ煙草ヲ數ハシメタル處其瞬間ニ短銃ヲ以テ胸部ヲ狙撃セラレ其場ニ倒ル、ヤ、賦ハ非常線内ニ於テ裁判所構内ニ潜入シ檢事延内ニ一夜ヲ明シタル上、尙捜査官ノ裏ヲ據カンカ爲メ警戒線内ノ一旗亭ニ隠レ居リタル處密告ニヨリ發見逮捕セラレ、裁判ノ結果懲役二十年ニ處セラレタリ。

勿論狡猾ニシテ思慮アル者カ一ノ重大犯罪ヲ行ハント企ツルニ際シテハ、今ヤ以上各種ノ變裝ニ加フルニ、甚タ巧ミニ贋方言ヲ使ヒ、又ハ他ノ聲色ヲ作爲シ、色眼鏡ヲ掛ケ、其他諸種ノ偽伴ヲ以テ世人ヲ欺カントスルナラム。既ニ犯人ハ斯クノ如ク變裝ヲ企ツルノ外、抑被害者又ハ關係人カ、犯人ノ

人相ニ對スル認識ナルモノハ極メテ正確ナラサルヲ原則トス。(之レハ人ノ觀察能力ナルモノハ心理的又ハ物理的ニ自ラ限度アリ、或ハ眞實ナラサルコト多キト、他ノ一面ニ於テハ驚愕恐怖不安興奮等カ甚シク人ヲ誤ラシムルモノナレハ也)故ニ吾人ハ是等ノ者ノ告グル處ノ犯人々相ニハ餘リ重キヲ置クヘカラサルコトヲ常ニ留意シ居ルノ要アリ。唯吾人ハ參考トシテ被害者又ハ關係人ニ對シ、犯人ノ年齢、音聲、方言、頭髮、鬚髯、容貌、特ニ何等カノ徵候、例ハ癩痕、疣、黒子、文身、不具等ヲ認メサリシカ身體ノ大テ肥瘦如何身長ニ就テハ被害者自身ト比シ何レカ高カリシヤ、更ニ服裝ノ點ニ就テ衣類ノ品質、種類、柄柄(被害者カ犯人ハ紺飛白チ着用シタリト云ヘル其犯人)、色合、殊ニ目ニ附クカ如キ修補カ何處カニ存セサリシカ、携帶品ニ就キ帽子、手拭、煙草入、時計ノ裝飾物、犯用物件ノ形態如何ト云フカ如キ點ヲ訊問スルヲ要ス。

殊ニ共犯者ノ一人ノ申立タル他ノ共犯者ノ人相著衣ナルモノハ全然虚偽ナルコト頗ル多シ。

### 第三節 愚鈍又ハ疾病ノ贋造

被告ハ訊問中ニ於テ突然腹痛ヲ詐病シ眩暈、頭痛ヲ伴リ訊問ノ鋭鋒ヨリ一時免レムコトヲ企ツルハ往々刑事家ノ經驗スル所ナラム。被告人カ一ノ訊問ニ於ケル極度ノ興奮ヨリ突然發病スルコトアルヘキハ吾人モ之ヲ熟知シ居ルカ故ニ、唐突ノ發病ヲ以テ直ニ全然假病ナリトスルコト能ハサルハ勿論也。然シナカラ眞ノ病氣ナルヤハ否ヤハ、何時如何ナル機ニ於テ被告ハ發病シタルカ其時期ト機會ノ點ヨリ容易ニ看破シ得ヘシ。即チ若シ被告カ取調ニ對シテ答フヘキ語ヲ知ラサルトキ、若クハ急所ヲ衝カムトスル訊問者ノ形勢ヲ氣附キタル際、或ハ訊問者カ丁度被告自身ノ爲ニ利益ナル箇所ニ於テ一時中



止シタルカ如キ場合ヲ見テ、都合ヨキ詐病ヲ突發セシムル也。即チ被告ニ最モ都合ヨキ時期ニ於テ突發スルハ多クハ假病タルコトヲ知ラサルヘカラス。

(1) 伴 聾

聾タルカ如ク装フハ多クノ場合被告ニ對シテ大ナル利益アリ。即チ訊問者カ同一事項ヲ繰返ス間ニ之ニ對スル辯解ヲ工夫シ熟考シ得ヘク、若シ辯解ノ名案ノ浮ヒ出テサル間ハ問ヲ何時迄モ了解セサルカ如ク装ヒ時間ヲ遅延セシムレハ足ルノミナラス、又聾者ハ自己ノ不利益トナリタル前ノ辯解ニ對シテハ常ニ誤解ヲ楯ニシテ容易ニ之ヲ抹殺スルコトモ得ヘキ也。

贋偽鑑別ノ最簡易ナル方法ハ聾者ノ背後ニ於テ足ヲ踏ミ鳴ラスカ又ハ一ノ重キ物體ヲ床上ニ墜落セシムヘシ。若シ其ノ者ニシテ眞實ノ聾ナラハ、此ノ場合ニ於テハ堅キ物體ノ衝突ヨリ起レル響ヲ感得シ、何事ナラムト其ノ方ヲ振り向キ視レトモ、假病者ニ於テハ此ノ如キ場合ニモ同様其ノ儘平然タル態度ヲ装ヒ居ル也。若シ被告カ一方ノ耳ノミ聾ナルコトヲ主張セハ、吾人ハ二人ノ者ヲシテ同時ニ被告ノ各別々ノ耳ニ口ヲ當テ私語セシムヘシ。一方ノ耳カ果シテ聾ナラハ彼ハ健耳ニ私語シタル者ニ向テ斯ク々々ト謂ハルルヤト鸚鵡返シニ尋ヌレトモ、贋物ナルトキニハ兩耳ヨリ聞ク所相混亂スルカ故ニ彼ハ何事モ了解スル能ハス。尙吾人ハ眞實ノ聾者カ訊問者ノ問ヲ了解セムカ爲ニ自身如何ニ苦心セラルカノ状態ヲ顔色等ニ依テ察知シ、又詐病者カ了解セサラムカ爲ニ如何ニ努力セルヤノ點ヲ穿鑿セハ疑問ハ速ニ氷解スヘシ。

(2) 癩痢ノ詐病

此ノ場合ニ就テハ轉倒ノ狀況ニ就テ注意ヲ要ス。眞病者ハ自己カ此ノ際負傷スルヤ否ヤ等ノコトハ勿論一切省ルノ暇ナク突然前方ヘ轉倒スレトモ、贋病者ニ在リテハ前膊ニ身ヲ支ヘナカラ後方ニ轉倒シ、尙自己カ此ノ場合負傷セサル方法ヲ選ヒ且倒ルヘキニ都合ヨキ場所ヲモ豫メ吟味シ置クヲ常トス。其ノ他眞病者ハ初メ顔色ハ底青白クナリ次テ暗黒ヲ帶ヒタル赤青色ニ變ス、此ノ者白トナルコトハ假病者ニハ不可能也。且眞病者ハ後頸及背部上端ノ筋肉ヲ癩痢病固有のニビク／＼震動セシメ痙攣ヲ見ルモ、コハ人工的ニ詐伴スル能ハサル特徴ノ一タルヲ失ハス。

(3) 氣絶ノ假病

氣絶カ眞實ナルヤ否ヤヲ認知セムト欲セハ、最初ノ現象ニ注意スヘキ也。顔色ノ底青白ク（概シテ唇ト齒齦ヨリ）ナルトキニハ氣絶ハ眞實ノモノニシテ其ノ他ハ偽物ト知ルヘシ。眞偽鑑別ノ問題ハ常ニ重要也、何トナレハ之カ眞疑ヲ究明シ吾人カ其ノ者ニ對シテ速ニ詐病ヲ止ムヘキ旨嚴カニ宣言セハ、之ヲ以テ少クトモ詐病ノ期間ヲ短縮セシメ得ル效果ヲ生セシムルカ故也。

(4) 愚鈍ノ偽裝

不幸ニモ嫌疑者ニ屢々見ル所ハ魯鈍ノ偽裝也。自己ヲ斯クノ如ク詐ルヨリ得ヘキ利益ハ、係官カ其ノ者ノ行爲ヲ比較的多キ智慮ヲ用ヒタルモノト信セサルノ點ニ在リ。加之訊問者ノ問ヲ理解セサルカ如ク装ヒテ鈍馬ナル答ヲ爲シ置キ其ノ間ニ熟考ノ時ヲ竊ニ獲ルノ外、尙愚鈍ニ依テ訊問者ヲシテ屢々苛立タシメ冷靜ニ熟慮思案スルノ機ヲ失ハシムルノ成效ヲ收ムルコトアル也。贋偽觀破ノ一方法トシテハ被告ノ云フ所ノ言ト其ノ者ノ眼トノ間ニ起ル矛盾ニ就テ犀利ナル觀察ヲ遂クヘシ。如何ニ巧ミニ

愚鈍ヲ標榜シ居ルモ相當ノ知識ヲ有スル者ナラハ其ノ現象カ自然ニ眼ニ顯ハルル也。何トナレハ伶俐ナル人間ハ鈍ク暗キ眼眸ヲ爲スコト能ハサレハ也。眼ト口トカ相容レサルトキニ口ハ容易ニ虚言ヲ弄スルモ眼ハ正直ニシテ決シテ詐ルコト能ハスト云フカ如ク、被告人ノ眼ノ外顯ハ其者ノ知識ノ程度ト相比例スルモノタルコトヲ知ラサルヘカラス。

## 第十章 犯人ノ逮捕

### 第一節 追跡

犯罪現場ヨリ逃走シタル犯人、又ハ其居宅ヨリ逐電シタル被告人ヲ逮捕センカ爲メノ追跡方法ニ關シテハ、個々ノ事件、當該警察官署ノ設備、各地方ニ於ケル交通、竝ニ通信機關ノ發達ノ程度ヲ基準トシテ個々ニ研究ヲ要スヘキ事項ニ屬スヘキハ勿論ナルカ故ニ、吾人ハ此所ニ之等ノ問題ヲ概言スルノ愚ヲ避ケント欲ス。然シナカラ吾人ハ此場合ニ唯參考トシテ歐米ニ於テ現ニ刑事界ニ利用セラルル交通、通信機關、警察犬等ノ實況ニ就テ一瞥ヲ與フルモ、必スシモ無意義ナラサルノ事情ヲ想像スルモノ也。

I 交通機關 トシテハ自動車、自動車、自動自転車、瓦斯發動機艇、汽車、電車、汽船、飛行機等カ犯人ノ追跡ニ好ク利用セラルルハ既ニ世人ノ知ル處ナラム。

【實例】 米國ノ或港ヨリ歐洲通ヒノ汽船ニ乗シ歐大陸へ逃走セントスル犯人ニ對シ米國ノ官憲ハ飛行機ニ依テ該汽船ヲ追跡シ遂ニ沖

合ニ於テ之レヲ逮捕シタルコトアリ。

II 通信機關 通信機關トシテ電話、無線電話電信。無線電信ノ發達ヲ捜査ニ偉大ナル補助ヲ與フルコト驚クヘキモノアリ

【實例】 千九百十年アントワープヨリカナダニ至ル大西洋航路ノ汽船ニ乗込ミ逃走テ企テタル夫婦アリ。彼等ハ商人ト其子息ナルカ如ク扮装シ、外國ノ港ヨリ出帆スル汽船ニ乗込メル以上ハ最早自分等ニ對スル嚴重ナル捜索ノ手モ到底及フコトナシト安心シ居タリ。然ルニ此夫婦ノ寫眞ハ新聞紙ニ依テ廣ク一般ニ知ラサレアリタルカ故ニ、荷モ英國ノ新聞紙ヲ讀メル者ニハ彼等ノ顔ヲ始メテ御馴染トナレリ。斯クシテ汽船カ唯數哩ヲ航行シタルトキニ早クモ船長ノ爲メニ彼等ノ變装カ看破セラレ、汽船ヨリ無線電信ヲ以テ直ニ此事ヲ倫敦ノ警察ニ打電セラレタルヨリ、警察官ハ快速力ヲ有スル汽船ニ

乗シテ彼等ヲ追跡シタリ。毎日殆ント熱狂セル興奮ハ大洋ヲ横切リテ繼續シ、此警察官ト逃走者間ノ競走ハ一般ニ對シテ興味アル主ナル話題トナリタルカ、遂ニカナダノ海岸ニ接近キ處ニ於テ追跡者ハ彼等ヲ逮捕スルコトヲ得タリ。(ミツチエル科學ト犯罪二五頁以下參照)



殊ニ近時遠隔ノ地ニ於テ電信ニ依リ犯人ノ手蹟、寫眞、及ヒ略圖等ヲ作成シ得ルノ發明アリタルハ看過スヘカラス。『テレグラフ』(Telegraph)ナルモノ即チ之也。此機械ハ電信機ニ接続シテ使用セラル。

嘗テ『デーリイ・ミロー』新聞紙ハコロン教授ノ「セレニウム」機械ヲ使用シ、スタインヒール事件ニ於ケル主立チタル者ノ肖像ヲ電送シ、而カモ其一寫眞ハ裁判カバ里ニ於テ尙開庭中ニ倫敦ニ於テ受取ラレ即事ト共ニ紙上ニ掲載セラレタリ。即チ右圖ノ如シ。(同書二六頁參照)

尙ソイン・ペーカー氏モ之ニ關シテ簡便ナル機械ヲ發案セリ。終リニ偵査電話機ナルモノノ使用ニ就テモ注意ヲ要ス、即チ非常急變又ハ追跡方ヲ警察署へ通報セントスルトキ此電話機ヲ樹木等ニ取リ附ケ電線ノ一端ヲ附近ノ電話線ニ接続シテ電話スル也。

III 警察犬 ハ追跡ニ關スル新シキ最有效ナル機關タルヲ失ハス。獨リ追跡ノ事ノモ止ラス、刑事上其ノ他ノ任務例令ハ嚴密上ニ、或ハ保安警察上ニ關シテ驚クヘキ貢獻ヲ實際的ニ寄與シツツアルハ現今歐米先進諸國ニ於ケル警察犬ノ狀況也。我國ニ於テモ目下一、二ノ警察犬ヲ試ミニ飼養シ之カ研究ニ著手セルカ如キ時機ニ類セルカ故ニ、吾人ハ此際尙追跡以外ニ互ル警察犬ニ關スル研究ノ概要ヲ論及シ置カント欲ス。

(1) 警察犬ノ追跡。犬ヲ刑事警察ニ利用スル本質ハ彼ノ賦有セル極メテ鋭敏ナル嗅覺官能ニ在リ。人間ハ本來或程度以上ノ強キ臭氣ニ非スルハ感覺スルコト能ハサル不完全ナル官能ヲ有スレトモ、犬ハ人間ノ感覺シ能ハサル微弱ナル臭氣ニ感スルノミナラス能ク其微弱ナル臭氣ノ間ニ存スル特異性ヲ確實ニ識別ス。而シテ一面ニ於テ吾人々類ハ身體ノ各部分ヨリ絶ヘス發汗作用ヲ爲スコト並ニ此汗液ニハ一ノ臭氣ヲ發散スルコトハ世人ノ知ル處ナルカ、此一ノ臭氣モ實ハ犬ヲシテ假リニ言ハシムレハ各個人各特別ノモノナルノミナラス、其特別ノ臭氣ハ汗ト共ニ皮膚ニ止リ、發散ニ從テ著衣履物、帽子所持品ニ移リ、活動ニ應シテ彼ノ觸レタル物、踏ミタル個所ニ附著スレト。他ノ一面ニ於テハ優長ナル犬ハ馴レ易ク且數ヘ易キカ故ニ、之レニ充分ナル教育ト熱心ナル訓練トヲ施スニ於テハ警察上ノ特種ノ目的ニ遺憾ナク利用シ得ル能力ヲ有スル也。是等ノ事情カ即チ今日ノ警察犬發達ノ基礎トナレルモノト謂フ可シ。

追跡ノ方法ニ就テハ正追跡ト逆追跡トノ二アリ。逃亡又ハ潜伏セル犯人ヲ逮捕センカ爲メニ用フルハ即チ正追跡タル也。

(イ) 正追跡トハ使役者カ犯罪ノ現場ニ警察犬ヲ伴ヒ行キ、犯人遺留ノ下駄、草履、足袋或ハ足跡、若シ夫等ヲ發見セザルトキニハ犯人ノ手ヲ以テ多ク觸レタリト認メラルル被害者ノ身體衣類ノ一部分其他ノ個所等、臭氣保有物ヲ少クトモ十五分間以上嗅キ目的犯人ノ臭氣ヲ記憶セシメ、又ハ犯人ノ住居ニ隨伴シテ犯人ノ殊ニ寢具ヲ嗅覺セシメ、然ル後犯人ノ逃走出發點ヨリ地上ニ保有セル點々脈絡ノ犯人ノ臭氣ヲ追跡シテ逃走者ノ現在個所迄到ラシムル方法ヲ言フ。

【實例】 一千九百十年四月十九日獨逸ノアイライフリート稱スル村ニ於テ鐵道工夫カ工事小屋ノ傍ニ於テ何者カニ殺害セラレタルコトアリ。刑事巡查シユツツ氏ハアルマト稱スル警察犬ヲ伴ヒ兇行十二時間後ニ現場ニ到着シタル處、重要ナル遺留物件ハ存セザリシモ一箇ノ履カナル犯人ノ足跡ヲ發見シタルヨリ犬ヲシテ之ヲ嗅カシメタリ。然ルニアルマハ鐵道線路ニ沿ヒ約五百メートルヲシテ

追跡シタル末村外ツレニテ迷ヘル有様ナリシカ、遂ニ鐵道線路ニ沿ヘル道路ヲ橫斷突進シテ被害者ノ住居ニ達セリ。而シテ其住居ニハ唯老母一人現在セルニ過キサリシカ進ンテ追跡セシメ、犬ハ階上ヨリ新シク洗ヘル鍍打ノ靴ヲ發見シ來レリ。其ハ當家ニ下宿セルブツフナト稱スル労働者ノ物ナルコト判明セシテ以テ、刑事巡查ハ同人ノ歸宅ヲ待チ受ケ之ヲ引致シタル處彼ハ犯行ヲ自白シ禁錮十五年ニ處セラレタリ。

② 一千九百十年六月二十四日柏林ノ一料理店ニ於テ或婦人ハ飲食中手提袋ノ中ヨリ金剛石入指輪二個在中ノ財布ヲ何者カニ竊取セラレタリ。刑事巡查アイリス氏ハジグフリードト稱スル犬ヲ伴ヒ被害者ノ三時間後ニ現場ニ出張シ、先ツ犬ヲシテ賊カ被トキ觸レタリト認メラルル手提袋ノ個所ヲ嗅覺セシメタル處、犬ハ應接間ヲ通過シテ給仕部屋ニ到リ室内ニ吊セル著衣ニ吠エ付キ、夫ヨリ更ニ他ノ狭キ部屋ニ突入シ一人ノ給仕ヲ發見スルヤ之ニ吠エ付キタルヲ以テ、直ニ此者ヲ逮捕シ取調ヘタルニ、遂ニ罪狀ヲ自白シタリ。

③ 千九百十年二月ウエステルホルント稱スル村ニ於テ二人ノ小兒行衛不明トナリタルヨリ村人ハ舉テ其搜索ニ力メタルモ遂ニ發見セザリシヨリ最寄ノ警察署ヘ此旨訴ヘ出タリ。仍ニ巡查部長バーメンテラデーハヘキセト呼フ大テ率ヒ來リ犬ニ小兒等ノ衣服ノ臭氣ヲ嗅カシメタル後界限ヲ搜索シタル處、暫クシテ犬ハ一箇ノ靴ヲ啣ヘ來レルヨリ取調フルニ小兒ノ一人ノ履キタルモノナリキ。茲ニ於テ進ンテ跡線ヲ辿ラシメタル結果、約一時間中ニシテ隣村ニ到着シ、更ニ搜索セシメタル處此村ノ同情者ニ保護セラレ居タル二人ノ連兄ヲ遂ニ發見シタリ。(山本正一氏警察犬ノ研究二二頁等實例參考)。

(ロ) 逆追跡トハ犯罪嫌疑者タルモノノ現在個所ニ於テ著衣又ハ手掌足部等身體ノ臭氣ヲ犬ニ感覺セシメタル後、其者ノ此所迄到リタル進行ヲ逆リ犯罪現場迄追跡セシメテ、彼ノ犯罪場現在ノ證據ヲ舉ケンツル方法也。

【實例】 嘗テ或者ハ夜間何者カヨリ突然暴行ヲ加ヘラレタルヨリ警察署ニ於テハ嫌疑者ト目スヘキ者ヲ捉ヘ來リ、犬ヲシテ其者ノ臭氣ヲ嗅覺セシメ犯場迄ノ追跡ヲ試ミタル處、果シテ犬ハ現場迄直ニ追及シタルノミナラス其個所ニ於テ嫌疑者ノ所持シタル證據物件ヲ發見シタリ。

(2) 警察犬ノ鑑識作用。刑事犬ハ右ノ如ク、一方現場ト他方犯人トノ追跡連結ヲ能クスルノミナラス、之レト同様ノ働ニ於テ亦人

ト物、物ト物トノ連結證明ヲ爲シ以テ兩者ノ同一種屬性ヲ鑑定ス。此點ニ關シテハ第四章、第一節、第一款犯用物著用品ノ(3)、(4)ヲ參照スヘシ。

(イ) 人ト物トノ連結鑑定トハ問題タル犯用物又ハ著用品カ當該嫌疑者ヨリ出タルヤ否ヤヲ判別スル作用ニシテ、警察犬ヲシテ一物件ヲ嗅覺セシメタル上、其物カ並列セシメタル數人ノ嫌疑者中ノ孰レニ歸屬スルヤチ嗅覺分ケシムルカ、或ハ一嫌疑者ノ身體著衣ヲ嗅覺セシメタル後、他ノ數人ノ所持物ト混合シ置キタル中ノ、嫌疑者歸屬ト認メラルル問題ノ物件ヲ嗅覺シテシムルヲ謂フ。

【實例】 嘗テ一工場ノ官吏カ深夜暴漢ニ襲ハレ其室ノ兩戸ハ數多ノ投石ニヨリ破壊セラレタルコトアリ。警察官ハ必スヤ工場内ノ不平労働者ノ所爲ナルヘシト認メ其嫌疑者トシテ場内ヨリ數人ノ労働者ヲ引致シタル上、現場ニ散在セル投石ヲ犬ニ嗅カシメ次テ並列セル各嫌疑者ノ手掌ヲ順次嗅カシメタル處、遂ニ彼等ノ中ヨリ犯人ヲ捜シ當テタリ。

警察官一偵察ヘ現場ヨリ逃走ノ際所持ノ手帳ト手巾ヲ遺留シ去レリ。警察署ニ於テハ此事件ノ嫌疑者トシテ曾テ被害者方ノ雇人タリシ浮浪者ヲ引致シタリ。茲ニ於テ遺留物件ヲ他ノ同種類ノ數人ノ物件中ニ混入シ置キタル上、犬ニ嫌疑者ノ身體ノ臭氣ヲ嗅カシメ混合物件中ヨリ手帳及手巾ヲ捜索セシメタルニ、忽チ之ヲ發見シ來タルヲ以テ其者ハ眞犯人タルコトヲ確證セラレヌ。同前一六二頁等實例參考。

(ロ) 物ト物トノ連結鑑定トハ問題タル物件ト嫌疑者所持ノ對照物件トカ同一種屬性ヲ有スルコトヲ證明セントスル也。

以上ノ如キ刑事警察ノ補助タル警察犬即チ刑事犬ノ作用ニ對スル大ナル障礙トナルハ臭氣ノ消滅ニシテ、臭氣ハ風ノ爲メニ吹キ散ラサレ、日光ニ因リテ速カニ蒸發シ、粗鬆ノ土地ニ能ク吸收シ盡クサレ、交通頻繁ナル途上ニ於ケル多クノ歩行者ノ爲メニ難散シ、大雨、雪、寒冷等ノ爲メニ抹消シ、強キ臭氣ノ爲メニ壓迫セララルルモノタルヲ注意スヘシ。

(3) 保安上ノ警察犬。警察犬ハ亦保安警察ニ對シテ大ナル補助ヲ爲セリ。之レ善其ナル犬ハ嗅覺ハ勿論、聽覺カト直覺力ニ優レ柔順、伶俐ニシテ忍耐ニ富ミ、且ツ疾走、飛躍、攻撃、防禦ニ旺盛ナル體力ヲ有スルカ故也。即チ彼等カ能ク警邏任務ヲ補助シ、人命ノ救助ヲ敢テシ、見張り、監視ノ任務ニ服シ、犯人ノ護送ニ必要ナルカ如ク、歐米諸國ニ於テ訓練シ居ルハ畢竟之レカ爲也。

### 第二節 非常線及不審尋問

逃走セル現行犯人逮捕 爲メ、或ハ特殊ノ事件又ハ非常警戒ノ爲メニ總般的ニ張ラルル所謂非常線ニ關シテ、如何ナル場合ニ如何ナル方法ヲ以テ行フヲ可トスルカノ問題ニ就テハ、勿論當該機關カ個々ノ場合ニ於テ決スヘキ事項ニ屬シ、吾人ハ一般的ニ之ヲ説明スルノ殆ント益ナキヲ知ル。警戒ノ非常線ニ罹レル者ニ對シテ試ムル不審尋問、又ハ密行偵邏ニ際シ、或ハ警戒ニ於テ準現行犯ノ條件ヲ具備セル者若クハ舉動不審者ニ對シテ爲サル誰何尋問ナルモノカ、却テ屢々重大犯人ヲ逮捕シ得ルコト世ノ刑事家ノ夙ニ熟知スル處也。此尋問ヲ受クルニ當リテハ何人モ常ニ怪シキ者ニ非ス、疑ヲ受クヘキ謂ハレナシト抗辯スルヲ紋切型トス。然シナカラ此場合果シテ不審者トセハ多クヲ語ラシムル間ニ自ラ矛盾ニ陥リ、言ニ窮シ、徹底ヲ缺キ、服裝、動作容貌カ彼ノ秘密ヲ裏切スルカ、然ラズンハ機ヲ規ヒ逃走センコトヲ企ツルカ故ニ、積年ノ經驗ナキ刑事家ト雖之ヲ看破スルハ左程困難ニ非サルヘシ。唯吾人ハ卒直ナル事情ノ告白ニ躊躇ヲ要スヘキ無辜ノ良民タルニ氣附カスシテ、不謹慎ナル追窮ヲ試ムルカ如キ非禮ト過度ノ職務熱心トハ嚴ニ誡メサルヲ得サルト共ニ、他ノ一面ニ於テハ醇惡ナル窮鼠ノ反噬ニ應變スヘキ緊張ナカルヘカラス。

### 第三節 張込

行衛ヲ晦マシタル嫌疑者又ハ犯人ノ竊ニ立廻ルヘキ筋合ニアル其者ノ親族殊ニ妻子父母ノ住居、親

方、雇主、朋友、知己、同職又ハ勞働仲間ノ家、情婦、殊ニ飲食店遊里ニ於ケル馴染ノ居所。菩提所。質屋、古物商ノ店舗。通路。交通機關ノ發着場。贓品隠匿所ノ附近。ト云フカ如キ一部局ニ小サキ網ヲ張り纏テ來ルヘキ犯人ヲ要撃逮捕セント試ムル所謂張込ナル方法モ、亦現ニ我捜査戰ニ於テ用ラルル一兵法也。然シナカラ吾人ハ重大犯罪ノ現場ニ就テモ亦之レヲ試ムヘキ價値アルヲ信セントス。何トナレハ犯人ノ中ニ在リテハ自己ノ行爲ノ結果カ其後如何ニ成リ行キシカ、被害者ノ隣佑又ハ所轄官憲ハ之ニ對シテ如何ナル觀察ヲ下シ居レルカ、自分ノ身カ最早危險ニ切迫セルヤ否ヤヲ竊ニ偵察センカ爲メニ、知ラサルヲ裝ヒ再ヒ犯場ニ立越シ其附近ヲ徘徊スル者往々存スルヲ以テ也。(第九章、第二節外見ノ變裝中ノ實例) 鈴木某ノ強盜殺人事件參照)而シテ張込ハ短兵急ナルノミヲ以テハ效果ヲ收ムヘキ蓋然性ニ乏シ、克ク陰忍シテ長ク持續スルニ非サレハ意義ナキモノト知ルヘシ。

#### 第四節 一般手配

一般手配トハ逃走又ハ潜伏犯人ニ對シテ追跡、非常線、張込等ノ狭キ適切ナル逮捕手段ニ依ルモ勾東スルコト能ハサル場合ニ於テ、廣ク一般的ニ之ヲ索メントスル方策ヲ稱セル也。(「手配」ナル語ヲ廣ク解スレハ犯人逮捕ニ必要ナル一切ノ處置ヲ意味スヘシ。)

(1) 觀察。犯人カ親族、知己、友人、雇主、債權債務者、質屋等ト竊ニ交通又ハ文通セル形跡ナキヤヲ絶エス觀察シ、尙是等一切ノ關係人ニ對シテ若シ犯人ノ居所判明セハ直ニ其由報告シ吳レ度キ旨ヲ依頼シ置クヘキハ勿論ナルカ、若シ事件重大ナルトキニハ病院或ハ監獄、警察署ノ留置場等ニ就テ

モ注目スルヲ怠ルヘカラス。何トナレハ危殆切迫スルヤ突然病氣ヲ假裝シテ病院内ニ匿ルル猶輩アルノミナラス、嚴重ナル穿鑿ヨリ逸レンカ爲メ、時トシテ殊更輕微ナル小竊盜ヲ公然行ヒ、逮捕セラレテ他ノ偽名ノ下ニ處罰ヲ受クルカ如キ不逞ノ徒存スルカ故也。

(2) 關係官衙ニ就テノ穿鑿。(イ)鐵道官吏ニ對シテハ殊ニ犯罪日時ノ當時又ハ其ノ少後ニ極メテ遠方又ハ僻陬ノ地、或ハ大都會ヘ旅行シタル者ナキヤ否ヤヲ仔細ニ聽取ルモ亦極メテ緊切ナル場合アリ。何トナレハ重大犯罪者ハ犯行後直ニ或ハ其後機ヲ見テ高飛センコトヲ企テ、假令ハ東京ヨリ朝鮮、臺灣、九州、樺太、北海道等ヘ逃走シ、或ハ地方ヨリ東京市内ヘ逃竄潜伏スル者尠ナカラサレハ也。大都市ニ於ケル多クノ犯人ハ、原則トシテ最初ノ追跡嵐ノ吹キ過クル迄ハ一時市内ノ一潜伏場所ニ竊ニ隠レ居ルヲ以テ最安全ナルモノトセリ。地方ニ於ケル犯人ニ於テモ僻陬ノ地ニ高飛スルヨリモ寧ろ大都市ニ竄入スルヲ極メテ危險ヲ減少シ得ルモノトセルハ注意ニ價スヘシ。

(ロ)電信郵便官衙ニ對シテハ犯人ヨリ親族、知己其他ノ關係者ニ通信シタル事實ヲ紹介スヘク、局ニ對シテハ蒐集セル犯人ノ筆蹟ヲ交附シ其注意ノ參考ニ供シ置クコトヲ肝要トス。(ハ)親族知己其他ノ關係者ノ居住地或ハ原籍出生地所轄ノ警察官憲ニ對スル依囑ノ如キハ言フ迄モナシ。

(3) 寫眞ノ新聞掲載。犯人ノ寫眞ヲ求メ之レヲ日刊新聞紙上ニ掲載シテ其容貌ヲ一般公衆ニ周知セシムルハ亦搜索上大ナル効果ヲ得ルコトナキニ非ス。原則トシテハ殺人其他民衆ノ興奮セル事件ニ就テノミ之レヲ試ムルヲ可トス。

【實例】 嘗テ英國ニ於テ一人ノ子守婦カ子供ヲ誘拐シ如何ニ數日間搜索スルモ效ナク其行衛全ク不明ナリキ。然ルニ當時總テノ主

ナル新聞紙ハ女ノ寫眞ヲ掲載シタル爲メ、内地ニ於ケル一旅館ノ主人ハ其宿泊人中ニ其女ノ居ルコトヲ知リ警察署ヘ其旨ヲ通セリ。此報告ヲ得テ警察官ハ突然疑問ノ女ヲ訪ヒ其ノ本名ヲ呼ビテ話シ掛ケタル處、女ハ恐入リテ警官ノ尋問ニ對シテ正直ニ答ヘ、斯クシテ直ニ逮捕セラレヌ。(ミツチエル氏、科學ト犯罪ニ入頁參考)(尙第一節、II通信機關中ノ實例參照)

斯クノ如キ手段ニ用フル犯人ノ寫眞トシテハ、極メテ最近ノ撮影ニ係リ、且ツ餘リ補筆修整ヲ用ヒラレサル原物ニ最モ近キモノヲ、彼レノ一人寫シ又ハ多衆撮影中ニ於テ廣ク選擇スルノ肝要ナルハ言ヲ俟タス。若シ寫眞ヲ得サルトキハ已ムナク犯人ノ人相書ヲ公示スルノ外ナカルヘシ。

獨逸ニ於テハ、犯人ノ人相、服裝、攜帶荷物、同行ノ婦人子供、最後居住地、現今居住スヘキ地等ノ詳細附記シタル逮捕狀ニ、重大事件ニハ寫眞ヲ添ヘ、之レヲ警察新聞紙又ハ日刊新聞紙、各職業ノ專門雜誌等ニ掲載シ、必要ノ場合ニハ外國ニ於テ廣ク讀マラル新聞紙ヲ用ヒ、尙非常手段トシテハ最後ニ街路辻々ノ貼札ヲ利用シ、且ツ全世界ニ於ケル獨逸ノ大使、領事ノ許ニ右ノ逮捕狀ヲ送ルカ如キ方法ヲ執レリ。此ノ方法ニ依リテ效果ヲ收メタルハゲンナイ殺人被告事件ニシテ、總テノ通常ナル方法カ何等效ヲ奏セスシテ終レルトキニ、此手段ニ依テ初メテ目的ヲ達シタル也。

斯クノ如ク官衙ノ一般搜索ノ手カ長ク伸ハサルルヤ、潛伏セル犯人ハ累年ノ壓迫ニ堪ヘ得スシテ奸計ヲ廻ラシ、恰モ自己カ死亡シタルカ如ク裝ヒ其不安狀態ヨリ脱センコトヲ企ツル事絶無ニハ非ス。

〔實例〕千葉縣山武郡增穂村某姓二郎ハ大正四年中他ノ五名ト共謀シ地所賣買ヨリ君津銀行ヨリ四千圓、他ヨリ二千五百圓ヲ騙取シタルコト發覺シ、千葉地方裁判所ニ於テ大正五年四月、二郎ハ懲役四年他ノ共謀者ハ一年乃至三年ノ刑ニ處セラレタルモ、東京控訴院ニ控訴ノ手續ヲ爲シ保釋ヲ許サレテ歸宅セリ。然ルニ二郎ハ京阪地方ニ見物ニ赴クト稱シテ家ヲ立出テタルカ、大正六年七月二十六日附、神奈川發信ノ電報ニテ「二郎ハ急病ニ罹リ死亡シタリ」トノ通信留守宅ニ届キタルヨリ、家人ハ打罵キタル處、其二、三日ヲ經テ神奈川町青木町鈴木某ナル者ヨリ、「二郎氏ハ京阪ヨリノ歸途自分宅ニ滞在在中、去ル二十五日午前八時急性進行性麻痺症ニテ卒去シタレハ遺骨ヲ送ル」トノ書面ト、横濱市雲井町醫師某氏ノ診斷書ヲ送付シ來リ、次テ小サキ白木ノ箱ニ納メタル二郎

ノ遺骨到着シタル依リ、家人ハ悲嘆ノ淚ニ暮レナカラ手厚ク野邊ノ送リテ營ミタリ。然ルニ此事ヲ聞キタル東金署ニ於テハ疑問ヲ抱キ各方面ヲ取調ヘタルニ、神奈川町青木町ニハ從來鈴木某ナル者ナク、且ツ横濱市ノ某醫師モ二郎ヲシキ人相ノ者ノ診斷ヲ爲セルコトナシトノコトナルヨリ、奸策ニ富メル二郎ノ虚偽ノ事實ヲ世ニ吹聴シ官衙ノ眼ヲ晦マシ、四年ノ處刑ヲ免レント企テタルコト明白トナリ、所轄官憲ハ同人ノ行衛ヲ極力搜索スルコトナレリ。

〔圖〕千八百八十一年ウインニ於ケルリノグテアター劇場ノ火災ノアリシ後、嚴重搜索中ノ犯人カ此火災ノ爲メニ横死シタル旨ヲ届ケ出タル者類ル多カリシト云フ。

### 第五節 逮捕其モノニ就テ

#### I 住居ト山林等ニ於ケル逮捕

住居ニ於テ犯人ヲ逮捕スヘキ場合ニ於テハ犯人ノ逃ケ得ヘキ總テノ表裏ノ入口、窓等ヲ豫メ研究シ置キ警官ニ於テ其要所々々ヲ固メ、尙或官吏ハ庭園ト屋根ヲ他ノ官吏ハ街路ヲ監視スルノ任務ニ就キ、然ル後侵入シテ犯人ヲ逮捕スヘキハ勿論也。場合ニ依リテハ變裝シテ又自轉車等ニ依リ急速ニ其居宅ニ接近シ、(此場合自轉車數輛ヲ連行スルハ人目ヲ惹カカ故ニ)或ハ附近ノ者ニ戸ヲ叩カシメ堅ク鎖セル戸ヲ内ヨリ開カシムルヲ必要トスルコトアルヘシ。(尙各論第六卷、第二節、II、賭博犯ノ逮捕參照)

山林其他郊外ニ於テ犯人ヲ逮捕スヘキ場合屢々アリ。例ヘハ犯人カ遁逃シテ遂ニ山林内ニ深ク委テ没シ、或ハ山窩ノ如ク岩窟又ハ河原ニ割據屯宿スル者ニ對スル場合ノ如キ之也。(細中ノ一軒屋等ニ於テ犯人シ)。是等ノ者ニ對シテハ地方青年、在郷軍人、消防夫ノ如キ民衆團體ノ補助ヲ藉ルヘキ必要ニ迫ル場

合モノナキニ非サルヘシト雖、常ニ進撃シテ犯人ノ逮捕ニ焦慮スルノミカ盡クセル方法ト謂フ可カラサルヤ勿論トス。事情ニヨリテハ總テノ脱出口ヲ扼シ犯人ノ出テ來ル迄待チ受クルノ堅忍自重カ、徒ラニ兵ヲ損スルコトナク、却テ目的ニ適應セルコトアリ。若シ危險ナル犯人カ武器ヲ使用シテ抵抗シ又ハ抵抗シ得ヘキ場合ニ於テハ吾人ハ宜ク機智ト奇襲ノ方策ヲ案出スヘシ。

【實例】 ① 春テ巴里ノ二人ノ警察官ハ武器ヲ肌身離サス携帯セル一人ノ犯人ニ對シ馬車ヲ以テ追跡シタリ。馬車カ今ヤ犯人ニ充分接近シタルトキ、警官ハ迅速ニ車内ヨリ跳ネ出テス。一人ハ恰モ穂ノ如クニ直接犯人ノ上ニ轉ロケ落チテ犯人ト共ニ地上ニ倒レ、他ノ一人ハ速ニ犯人ヲ捕ヘ、斯クシテ一瞬間ニ犯人ヲ捕縛シタリ。

② 春テ靜岡縣ノ或縣道ニ面シ隣家ナキ獨立家屋ニ於テ、見張人ヲ置キ盛ニ賭博ヲ爲シ、警察官チシテ之レニ接近スルコト能ハサラシメタル犯人ノ一團アリタル處、警察官ハ乗合馬車ヲ雇ヒテ之レニ乘車疾驅シ、同所ニ至リ急遽車上ヨリ飛下リ現場ニ闖入シテ犯人ヲ逮捕シタルコトアリ。

③ 大正七年五月、同縣新居分署諸巡查部長及ヒ巡查ノ一行三名ハ新居町ニ於テ遊樂事件類發シ之レカ警戒ヲナセル折柄、同月六日午前零時頃同町預名ノ桑畑中ニ焚火ヲ爲シ居ル怪キ男アルヨリ取調ヲ爲サンカ爲メ接近シタルニ、彼ハ巡查ト見テ長サ九寸位ノ匕首ヲ示シ抵抗セントシタルモ、三名ハ之レニ向ヒ、「俺等ハ村ノ者ダヨ巡查ジヤナイヨ」ト稱シタル爲メ賊ハ安心シテ匕首ヲ納メタリ。此際ニ乘シテ近寄り容易ニ犯人ヲ逮捕シ得タルカ、彼ハ前科數犯ニシテ強盜傷人ノ逃走中ノ犯人長谷某(四〇)ナリキ。

④ 大正二年四月、同縣吉原警察署諸ノ一巡查ハ富士山雜木林ノ中ニ於テ常習賭博ノ大親分増田某外二十有餘名ノ一團カ賭博開帳中ナルヲ發見シタルモ一人ニテ如何トモスル能ハサリシ。然ルニ彼ハ技ニ一策ヲ案シ、大聲ニテ「諸君コツチダ〜」ト叫ビナカラ現場ヘ飛込ミタル爲メ、犯人等ハ巡查カ多數來リタルモノト思料シ抵抗ヲ爲サスシテ逃走シタルカ、大親分増田ハ同所ニ於テ逮捕セラレタリ。靜岡縣警察部刑事警察參考資料第二輯、一〇四頁等參考。

### II 逮捕ノ時期

吾人ハ犯人ノ嫌疑アル行爲ヲ探知スルモ、直ニ拘束ヲ爲サスシテ却テ尙少シク遲延シ時ヲ待ツコトカ、屢々捜査上ニ對シテ大ナル利益ヲ得ルコトアリ。何トナレハ嫌疑者カ長ク自由ノ身ナルニ從テ夫レ丈ケ多クノ確實ナル罪跡ト證據材料トヲ吾人ニ提供スルモノナルカ故也。例ヘハ彼レハ犯罪行爲ヨリ獲タル果實ヲ換價シ、犯罪ノ痕跡ノ除去ヲ圖リ、證人タルヘキ者ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シ吳レタキ旨ヲ依頼シ、又ハ證據ヲ新タニ偽造スルカ如シ。然シナカラ犯人ヲ放任シ注視スルノ程度ハ、彼自身カ確實ナル罪の證據ヲ吾人ニ提供シタリト認ムル時機ヲ以テスヘク、必要ナク遲延シ彼ヲシテ犯行ヲ累ネシメ、災ヲ他ノ良民ニ及ホサシムルカ如キハ、豫防警察上嚴ニ戒メタル能ハサルハ勿論也。

### III 群衆ニ對スル場合ノ逮捕

騷擾罪ノ如キ場合ニ於テ如何ニシテ眞犯人ヲ漏ナク逮捕スヘキヤノ問題ノ答案ハ甚タ困難也。(前章第一節、(庚)、(5)群衆心) 斯クノ如キ仕事ニ對シテモ、犯人ト其他ノ者トノ混合セル群衆ノ團體全部ヲ地引網式ニ漸次豫定ノ個所ヘ追ヒ込ミ、又ハ警官隊カ一齊ニ突貫奇襲ヲ試ミ檢舉スルカ如キ方策ト。犯罪現場ニ於テ個々ノ眞犯人ヲ穿鑿確定シ、之レニ尾行其他ノ方法ヲ以テ個別ニ逮捕スルカ如キ計略トノ二様アルヘシ。

其後者ニ屬スル檢舉ニ關シテ、次ノ方法カ大正七年八月ニ於ケル米騒動事件ニ就テ金テラレタルハ刑事家ノ既ニ知ル處ナラムカ。第一ノ刑事ハ快ノ中ニ赤「インキ」ヲ布片ニ浸シタルヲ携帯シ居リ、犯人ヲ目撃シタルトキニハ即時自己ノ手ニ「インキ」ヲ浸シ其汚レタル手ヲ以テ現場ニテ一時犯人ノ手首等ヲ握リ置キ「インキ」ヲ附着セシメテ其證據トナシ、後ニ至リ「インキ」附着者ノミナ物色シ之

レヲ逮捕シ。第二ノ刑事ハ現場ヲ寫眞ニ撮影シ仍テ投石者ヲ寫シ置キ。第三ノ刑事ハ赤「インキ」ノ蠟ヲ用意シ少量ノ「インキ」ヲ物ニ投石者ノ指ニ附著セシメ犯人ノ指ニ寫シ置キ。第四ノ刑事ハ白蠟ヲ用意シ投石者ノ衣服ノ指ニ印シ付ケ置キ。第五ノ刑事ハ他迄投石者ヲ尾行シ其者ガ群衆ヨリ去テ爾途ニ就ク途中ニ於テ暗キ横道ニ於テ之ヲ逮捕シタル等也。

然シナカラ吾人ハ如何ナル場合ニ於テモ法ニ根據ヲ有セサルカ如キ所置ハ犯人ノ身體衣服ニ對シテ加フヘカラサルハ勿論、不穩當トノ譏ヲ受クヘキ疑アル執行方法ニ就テモ切ニ警戒セサル可カラス。

### 第六節 犯人ノ護送

護送スヘキ犯人ニ對シテハ先ツ充分ナル身體検査ヲ行ヒ、犯罪ノ證據物件タルヘキモノ、或ハ被カ逃走又ハ自殺ニ使用シ得ヘキ武器ヲ有スルトキニハ全部之ヲ取り上ケ置クヲ要ス(犯人ハ煙草ヲ以テ屢々眼護送ノ間ハ官吏ハ常ニ彼ノ背後ニ在リテ犯人カ何物カヲ竊ニ拋棄シ或ハ拾得シ、又ハ沿道ニ立テル何等關係ナキカ如ク見ユル民人ト合圖ノ交換ヲナササルヤ等ノ絶ヘサル注目ヲ拂ヒ(但シ結合ニヨリテハ犯人トス)殊ニ便所ニ入りタキ旨ノ懇請ヲ爲セルトキニハ、逃走ノ信號ト見做シ、官吏モ共々便所ニ立入り嚴重ニ監視スルノ用意ヲ怠ルヘカラス。列車内ニ於テモ犯人ト護送者間ノ座席ハ密接ナラシメ、窓口、入口等ニ對スル配慮モ遺憾ナキヲ期スヘク、要スルニ護送ノ犯人ハ時々刻々逃走、證據湮滅、自殺ノ機會ヲ覘フモノトノ覺悟ヲ緊要トナス。

## 第十一章 個人識別ニ關スル研究

### 第一節 指紋法

I 指紋法ノ沿革及原理ト效用。  
(指紋ノ中特ニ現場指紋ニ關スル研究ニ就テハ吾人既ニ之ヲ略説シタリ(第三章、第一節、現場ノ痕跡ノ(四)參照)故ニ此所ニ於テハ現場指紋ヲ除キタル部分ニ就テ最モ肝要ナル點ノミヲ一言セント欲ス。)

現今ノ指紋法ナルモノハ獨逸ノプーレンキン博士ノ一八二三年ノ研究論文ニ其源ヲ發シ、次テ英國ノヘルシエル氏カ一八五八年ニ印度人ニ對シテ少シク之ヲ實施シタルニ於テ稍々體ヲ具ヘタリ。然レトモ今日ノ指紋法ノ基礎ヲ確立セルハ英國ノガルトン氏ナリトス。爾テ倫敦警視總監ヘンリー氏ニ依テ分類上ニ改良ヲ加ヘラレタルカ、結局獨逸ハンブルグ警視總監ロツシエル氏ノ努力ニ依テ之ヲ大成サレタリ。ハンブルグ式ト稱スルモノ即之レニシテ、我國ニ於テモ此式ニ變分ノ變更ヲ加ヘテ採用シ、明治四十一年十月ヨリ司法省ニ於テ實施セララルルニ至レリ。

指紋法ノ原理トナルハ、凡ソ人ノ指紋ハ終生不易ナルノミナラス萬人皆同シカラスト云フ點ニ在リ。(人ノ左右兩手ノ指頭内面ニ於ケル皮膚ノ隆起線ハ出生ヨリ死亡ニ至ル迄形態上永久變化スルコトナキノミナラス、親子)故 指紋ニ關スル組織的研究即指紋法ナルモノハ、各個人ノ異同識別方法トシテ確實ナルコト恐ラク其右ニ出ツルモノナシト言ハサルヲ得ス。加之各個ノ指紋ノ採取、分類、排列、索引、比較ノ方法極メテ簡易ナルヲ以テ、眞ニ刑事司法上ノ效用ハ偉大且多樣也。殊ニ偽名ノ發見、前科者ニ對スル累犯ノ發見ハ勿論、或證據物ノ犯人歸屬性ノ確定、現場指紋ヨリ犯人現在事實ノ證明、氏名不詳ノ屍體ニ關スル個人識別、聽取書又ハ訊問調書ノ印章代用トシテ文書證明力ノ確保等ニ對スル應用之也。

【實例】大正四年、東京市本所區居住ノ某材木商其妻ヲ離別スルニ當リ手切金トシテ五百圓ヲ與フル旨ノ證書ヲ差入レタリ。然ルニ其後二年ヲ經テ、妻ヨリ之カ支拂方ヲ請求シタルニ應セサルヨリ所轄區裁判所ヘ給付ノ訴ヲ提起シタル處材木商ハ其反證トシテ原



告タル妻ノ自署ニ係ル債權免除證ナルモノヲ提出シタリ。審理ノ結果裁判所ニ於テハ原告ノ請求ハ理由ナキモノトノ判決ヲ下セル  
 ヲリ、原告ハ更ニ地方裁判所ニ控訴シタルニ控訴審ニ於テモ筆跡等ノ鑑定ノ結果尙原告ニ不利ナル判決ヲ與ヘントスル傾向アリタ  
 リ。茲ニ於テカ原告ハ問題ノ免除證ニ押捺セラレタル指印ニ對スル指紋鑑定ヲ專門家ニ依頼シタル處、指印ノ指紋ハ隆線僅ニ三線  
 ナリ發見スルカ如キモノナレトモ紋線ノ起源其他ノ嚴密ナル検査ノ結果原告ノ指紋ニ非ス全ク  
 偽造ナリトノ報告ヲ得タリ。仍テ原告ニ於テハ更ニ刑事問題トシテ、某地方裁判所檢察局ヘ、  
 材木商ヲ相手取り文書偽造行使ノ告訴ヲ爲シタル處、材木商ハ遂ニ豫審ニ附セラレ、指紋鑑定  
 ノ結果指印ヲ偽造シタル事實判明シ被告モ之カ自白ヲ爲シ有罪ノ判決ヲ下サレヌ。材木商ハ  
 右證與ノ契約後變心シ  
 妻ノ署名ヲ巧ミニ模造  
 シテ偽造文書ヲ作成シ  
 タルモノナリキ。

一九一〇年四月、英  
 國ノスルツフト稱スル  
 村ニ近キ鐵道線路ニ於  
 テ一人ノ男ノ死體ト、  
 散亂シタル其遺留品ト  
 カ發見セラル。然レ  
 トモ其者カ何人ナルヤ  
 ナ知ルニ足ル一ノ手掛  
 リモ存セザリキ。於茲



II 指紋ノ分類。

所轄ノ警察官ハ死體ヨリ指紋ヲ採リ、之ヲ本部ニ送付シテ指紋審判所方ノ紹介ヲ爲シタル處、直ニ發見セラレ、其者ハデイル  
 ト稱スル村ニ住ム二十四歳ノ男何某トノコト判明シタリ。(ミツチエル氏著六八頁參照)

(其一) 指紋ノ形態ヨリ分カテル種類ヲ列記スレハ左ノ如シ。(一八〇頁ノ圖參照)

(1) 弓狀紋。トハ指頭ノ一方ノ側ヨリ起リタル指頭隆線カ其反對側ニ向テ走り逆流スルコトナキ指  
 紋ヲ謂フ。而シテ之レニ、イ、普通弓狀紋ト、ロ、突起弓狀紋トアリ。

(2) 蹄狀紋。ハ甲乙、二種ノ蹄狀紋ニ大別セラル。甲種蹄狀紋トハ蹄狀線カ拇指方面ヨリ起リテ再  
 ヒ拇指方面ニ流ルルモノヲ謂ヒ。乙種蹄狀紋トハ蹄狀線カ小指側ヨリ起リテ小指側ニ再ヒ逆流スルモ  
 ノヲ指ス。

(3) 渦狀紋。渦狀線カ一個以上ノ渦狀ヲ形成シテ延長シ又ハ一個以上ノ環狀線カ相重リ合ヒテ形作  
 ル指紋ニシテ必ス二個ノ三角島ヲ有スルモノヲ云フ。而シテ之ハ數種ニ大分セラル、(イ)狭義ノ渦狀紋、  
 (ロ)有胎蹄狀紋、(ハ)二重蹄狀紋、(ニ)雙胎蹄狀紋、(ホ)變體紋之レ也。但シ是等ハ尙各小區分ヲ有ス。

(イ) 狭義ノ渦狀紋ハ、渦狀線カ一回以上ノ渦狀ヲ描キテ延長スルカ、最狭義ノ渦狀紋(小ナル環狀紋)ノ上ニ他ノ大ナル環狀紋カ一  
 個以上重ナリ環狀形ヲ作ル指紋也。(環狀紋)

(ロ) 有胎蹄狀紋トハ蹄狀ヲ爲セル蹄線内ノ中央ニ必ス蹄線口ト相對スル弓狀線ヲ有スルヲ稱ス。

(ハ) 二重蹄狀紋トハ聯曲セル二個ノ蹄狀紋ニ依テ形成セラレ、二個ノ蹄狀紋ノ中心ヲ爲ス各線カ同一方面ニ流ルル指紋ニシテ、  
 所謂外角ハ其相重ナル蹄狀紋ノ兩側ニアリ。

(ニ) 雙胎蹄狀紋ハ聯曲セル二箇ノ蹄狀紋ニ依テ形成セラレ、二個ノ蹄狀紋内ノ中心ヲナス各線カ反對ノ方向ヘ分流セル指紋ニシ

弓狀紋	甲種	1
	乙種	2
蹄狀紋	甲種	3
	乙種	4
渦狀紋	甲種	5
	乙種	6
缺損	甲種	7
	乙種	8
	下	9
	中	0
	上	



ア所謂外角ハ相重ナル蹄狀紋ノ兩側ニアリトス  
 (ホ) 變體紋トハ以上何レカ二種ノ指紋カ混合シテ一  
 ノ指紋ヲ作レルモノ。(混合紋)又ハ以上ノ指紋ノ如  
 何ナルモノニモ歸屬セザル處ノ一種特別ノ指紋(純  
 變體紋)ナリトス。

(其二) 指紋原紙ノ排列上ヨリ別カテ  
 ル分類

指紋ハ亦指紋原紙ヲ排列整理シ、問題  
 ノ指紋ト對照ノ際ニ之レカ檢出ヲ簡便敏  
 活ナラシムル方法ヲ講スルニ非サレハ殆  
 ノト實際上ノ效ヲナサス。之レ指紋法上  
 最モ肝要ナル點ニシテ、此排列整理ノ目  
 的ノ爲メニ指紋ノ價ナル方則ヲ案出セラ  
 レ、此方則ヨリシテ亦指紋ハ九種ニ分類  
 セラル。即上表ノ如シ

(a) 3乃至5迄ノ價ニ就テ。乙種蹄狀  
 紋ノ内端ト外端トノ間ニ介在スル線數ヲ  
 計算シテ其價ヲ區別シタルモノニシテ、

即チ一乃至七迄ノ線數ヲ有スルモノニハ3ノ價ヲ付シ、八乃至十一迄ノ線數ヲ有スルモノニハ4ノ價  
 ヲ附シ、十二乃至十四迄ノ線數ヲ有スルモノニハ5ノ價ヲ附シ、十五以上ノモノニハ6ノ價ヲ附シタ  
 ル也。而シテ外端トハ中核蹄線ノ流ルル反對ノ側ニアル外角(三角島)ノ一端(指紋ノ中心ニ最モ遠キ)  
 ヲ謂ヒ、内端トハ外端ヲ去ル最モ遠キ中核蹄線ノ肩部又ハ中核蹄線内ニ在ル棒狀線ノ頂點ヲ指ス。

(b) 7乃至9迄ノ價ニ就テ。渦狀紋ヲ上流、中流、下流ノ三種ニ分テ、7乃至9ノ價ヲ附シタリ。

上流渦狀紋トハ上出線(渦狀紋ニ於ケル左側ノ三角島ノ一角即チ左側標準角ト右側標準角トヲ連結ス  
 ル線ヲ追跡線ト稱シ、左ヨリ發スル此追跡線ナルモノカ右側標準角上ニ出ツルヲ上出線ト云ヒ、角ノ  
 下方ニ出ツルヲ下出線ト名ツケラル。)ト右側標準角トノ間ニ四個以上ノ隆線ヲ有スル指紋ヲ謂ヒ。  
 中流渦狀紋トハ上出線或ハ下出線ト右側標準角トノ間ニ三個以内ノ隆線ヲ有スルモノヲ指シ。下流渦  
 狀紋トハ下出線ト右側標準角トノ間ニ四個以上ノ隆線ヲ有スルモノヲ稱ス。(一八二頁ノ圖參照)

(c) 0ノ價ニ就テ。負傷、疾病等ニ依リ全然指頭ヲ缺ケルモノニ對シテハ0ノ價ヲ附シ、若シ指頭  
 ハ存スルモ病氣、事故等ニヨリ隆線著シク損傷シテ不明ノ場合ニハ0ノ符號ヲ付シ。一時的不明ノモ  
 ノニ係ルトキニハ?ノ符號ヲ付ス也。

III 指紋原紙。 (1) 指紋原紙ノ作成ニ就テハ指紋捺捺欄ニ先ツ左手ノ示指ヨリ中指、環指、小指、拇  
 指ノ順序ニ次テ右手ニ同様ノ順序ニ執レモ、回轉捺捺法ニ依リテ捺捺セシム。尙平面捺捺法ニヨリ拇指  
 ヲ除ク四個ノ指ヲ一所ニ捺捺セシメタル後、各指紋ニ價ヲ附シ分類番號ヲ確定ス。此トキ左手ノ分類  
 番號ヲ分子トシ、右手ノ分類番號ヲ分母トシタル分數ノ形ニ於テ表ハス也。左手示指ヲ正標準分類番

分類番號  

$$\begin{array}{r} 15824 \\ 75912 \end{array}$$

左 手				
示指	中指	環指	小指	拇指
1	3 3	8	2	4 8
右 手				
示指	中指	環指	小指	拇指
7	3 5	9	1	2

號ト謂ヒ右手示指ヲ副標準分類番號ト稱セラル。(2) 指紋原紙ハ小ナル番號ヲ先キニシ、大ナル番號ヲ後ニシ數ノ順序ニ從ヒテ排列ス。然ルニ分子ノ分類番號ハ〇萬〇千〇百〇十〇ヨリ九萬九千九百九十九ニ至リ、又分母ノ分類番號モ同様ナルカ故ニ、此分子ト分母トヲ乘シタル數即約百億萬ニ近キ種類ノ指紋ヲ排列シ得ルノ理也。(3) 今整理排列セラレアル指紋原紙排列箱ヨリ目的ノ原紙ヲ索引ヒント欲セハ、先ツ排列箱ニ至リ正標準番號ヲ讀ミ萬位ニ關スル棚別ニ注目シ、次テ其中ニ於ケル所要ノ千位ヲ知り、次テ百位ニ至ルト云フカ如ク檢スル也。若シ同一番號ノモノ數枚アル時ニハ次ニ副標準番號ニ注眼ス。

### 第二節 測身法

人身ヲ測定シテ體軀上ヨリ個人ノ異同識別ヲ發案シタルハ彼ノ佛蘭西ノアルフォン・ベルチオン氏ニ在リ。此方法タルヤ前示指紋法ト等シク實體的方面

ヨリ個人識別ヲ企テタルモノナルカ故ニ、戶籍簿、前科者索引、犯罪人名簿ノ如キ形式的ノ識別標準ニ比セハ確實性ヲ有スルコト蓋シ同日ノ論ニ非サル可シ

然シナカラ測身法ハ勿論指紋法ニ於テモ絕對ニ世ノ偽名者ヲ取締ルコト能ハサルハ留意ノ價アリ。何トナレハ是等ノ科學的方法ハ兎モ角一度處罰ヲ受ケタル者ニ適用スル場合ニ非サレハ其効果ヲ發揮セサルカ故也。此ニ方法共ニ其精密ナルモノタルニ不拘、最初ノ指紋採取ノトキ、第一回ノ測身ノ際ニ、犯人ノ名乗ル處ノ名前ハ眞實其者ノ姓名ナルヤ否ヤニ就テノ識別法ハ未ダ世ニ發見セラレス。夫故最初ニ於テ指紋原紙又ハ測身票札ニ一ノ偽名ヲ登錄シタリトセハ其體認ハ恐ラク永久ニ難踏サルヘシ。

ベルチオン氏ノ人身測定法ハ一面ニ於テ凡テ人類ノ骨格ハ二十歳ヲ超ユレハ殆ント成長セサルコトト、他ノ一面ニ於テハ骨ノ寸尺ハ各人決シテ一樣ナラストノ事實ノ上ニ基礎ヲ有セリ。同法ハ各被告人ニ對シテ一定ノ骨格測量ヲ爲スモノナリ。例令ハ全身長、半身ノ長サ、腕ノ張リ長、前膊又ハ中指ノ長サ等ヲ測リ嚴密ニ記帳シ票札ニ依リテ秩序アル方法ニ整理シ置クモノトス。我國ニ於テハ未ダ之ヲ採用スルニ至ラサルモ、佛蘭西ニ於テハ此方法ヲ指紋法及寫真ト共ニ併用セリ。

### 第三節 寫真及人相

寫真ハ個人識別上ノ手段トシテハ極メテ簡便ナルヘシ。然シナカラ吾人ハ寫真ノ個人識別ニ關スル仕事ニ對シテハ、絕對ノ信賴ヲ置ク能ハサル事情ヲ知レリ。何トナレハ官署ニ於ケル一定ノ設備ニ依テ被告人撮影ヲ爲シ、市井ノ寫真師ノ如ク肖像ノ補筆修正ヲモ企テラレス、且ツ撮影ニ對スル光線ノ關係モ十分研究セラレ、又寫真機モ優レタルモノナリトスルモ、實ニ被告人ノ年齢ノ關係、頭髮、服

裝等ノ差異、殊ニハ撮影ノ瞬間ニ於ケル心身ノ狀態等ニ依テ、實際ノ容貌若クハ現在又ハ本來ノ面目ト全ク相違シテ表ハルルコト稀ナラサルカ故也

加之世ニハ容貌ニ於テ殆ント異ル處ナク相酷似セル二人以上ノ人格者モ亦絶無ニハ非サルノミナラス、最ニ缺點トシテハ、被告人ノ寫真夫レ自體ノミヲ分類排列シ簡便ニ索引シ得ルカ如キ一定ノ標準

ヲ發見スルノ極メテ困難ナルコト之也。斯クシテ寫真ハ孰レノ國ニ於テモ、個人識別ニ對スル一ノ補助手段トシテ參考ニ資セラルルニ過キサルナリ。



(眞寫ノ名三ルセ似酷)

人相ニ關スル研究ニ就テモ寫真ト等シク個人識別上ノ一ノ補助手段トシテノ價值ヲ認ムルノ外ナシ。然シナカラ近年、獨、伊等ニ於テハ從來ノ人相ノ各部分ヲ詳細ニ分類シ綜合シ此間ニ於テ方則ト標準トヲ發見シ、愈々益々科學的研究ノ歩ヲ進メントスル學者アルヲ注意スヘシ。我カ國ニ於テハ、顔ノ形ト色、眉、鼻ノ形、鼻底ノ向キ方、頭髮ノ生際、頭髮ノ色、分量、耳朶ノ形、眼ノ形ト大サ、口ノ大サト唇ノ厚サ、鬚髯ノ色ト分量、容貌、體軀ノ肥瘦、身長等ニ人相ヲ大別シ、更ニ各部分ニ就テ通俗的ニ小區分ヲ爲シタルモノヲ、痘痕、黒子、創痕、跛足、文身、禿、斜視其他種々ナル身體上ノ特徵ト配合シ、現今ノ刑事警察上ノ目的ニ使用セルハ多クノ孰知スル處ナラム。

## 第二編 各論

### 第一章 竊盜及強盜

凡ソ犯罪中ノ大部分ヲ占ムル竊盜罪ハ日常簡易ニ行ハルルカ故ニ、世人動モスレハ之レカ搜查ハ極メテ平凡ニシテ甚シク研究ヲ要セサルカ如ク思惟スレトモ、事實ハ全ク此想像ニ反シ、相當ノ苦心ト努力ヲ以テスルモ尙搜查官カ多クノ殘醜ノ未檢舉ヲ嘆スルハ即チ盜犯ノ事件也。素ヨリ同シク盜犯ト云フモ竊盜ト強盜トノ間ニハ刑法學ニ於テ區別アルカ如ク、之レカ搜查ノ研究上ニモ自ラ多少ノ差異ナキニ非スト雖モ、兩者ハ亦奪取罪トシテ多クノ共通點ヲ有スルニ依リ、便宜上茲ニ一括シテ概略ノ研鑽ヲ試ミムト欲ス。

#### 第一節 客觀的事實ノ確定

##### 第一款 實際盜犯力行ハレタル乎

搜查機關ヲシテ日々是レカ被害申告ノ應接ニ遑ナカラシムルハ盜犯ノ事件ニ如クモノアルナシ。然シナカラ竊盜強盜ノ告訴若クハ届出ナルモノハ、時トシテ實際何物ヲモ奪取セラレスシテ爲サルルコトアルカ故ニ、問題トナレル盜犯ノ事件ハ實際發生シタルモノナルヤ否ヤノ前提ニ、先ツ之レカ搜查ノ出發點ヲ置カサル能ハス。何トナレハ申告ナルモノハ屢々錯誤ニ基クコトアルノミナラス、全然虛構

ナルコトモ亦稀ナルニ非サルカ故ナリ。前者ハ即チ届出人カ目的ノ物品ヲ自ラ紛失シ、又ハ他ヘ置キ違ヘ、或ハ友人ニ貸與シタルコトヲ忘却シテ、新タニ盜難ニ罹リタルモノト誤信スルカ如キ場合ニシテ、後者ハ假令ハ會社、銀行員、商家ノ雇人、出納官吏、後見人等カ金圓ノ横領又ハ竊盜ヲ爲シタル事實ヲ韜晦セントスルトキ、主婦カ浪費ノ事情ヲ夫ニ繕ハントスルトキ、或ハ債權者若ハ義理アル者ニ對スル當座ノ言譯ヲ作ラントスル者、又ハ物件ニ關シテ賠償義務アル處ノ者ヨリ不法ニ填補ヲ要求セント計レル場合ノ如シ。

一ノ申告カ故意ニ虛構セラレタルモノナルヤ否ヤヲ認知スル爲メニハ次ノ點ニ注意スヘシ。

一、盜犯ノ痕跡カ人工的ニ作ラレタル乎  
 (1) 強竊盜ノ現場ニ於ケル驚クヘキ程ノ亂雜ハ常ニ盜犯ノ虛構ナルコトヲ語ルモノト云フヘシ。何トナレハ今竊盜ノ犯跡ヲ偽造セントスル者ハ、竝ニ盜犯カ行ハレタルモノナリトノ事情ヲ能ク限リ殊ニ明白ニ外部ニ表示センコトヲ努力シ、彼ハ各種ノ物件ヲ手當リ次第抛ケ散シ過剩ノ亂雜ヲ作ルヲ以テ也。

(2) 眞ニ外部ヨリ忍込メタル痕跡ヲ完全ニ有セザルトキ忍込盜ハ虛偽也。吾人若シ實際ノ事件ニ於テ(イ)一面ノミノ痕跡アリテ必然的ノ他面ノ變更ヲ認メラレザルトキ、(ロ)一部分ノ痕跡アルニ止リ、當然アルヘキヲ前提トスル他ノ一部分ノ變更ヲ缺如セル場合、(ハ)一ノ痕跡カ表面上ニ現ハレタル侵入又ハ退出ノ方法ト適應セザル場合等ニ遭遇セハ侵入ノ痕跡ヲ故意ニ偽造セルモノト推定シテ可也。

二、有名無實ノ被害者ハ事件ニ就テ如何ニ供述スルカ。

一ノ虛構者ハ長キ取調又ハ數回ノ聽取ニ際シテ屢々其言フ處矛盾ニ陥ルカ故ニ、吾人ハ能ク限リ多クヲ語ラシメ、尙數度繰リ返シテ供述セシムルヲ一策トス。

三、所謂被害品ハ當時實際ニ現存シタルヤ。  
 若シ一ノ大ナル金額ヲ竊取セラレタリト申告スル者アラハ吾人ハ其者ノ金錢出納ノ狀況ヲ長キ期間ニ週テ追及スヘシ。此場合屢々帳簿、手紙、強制執行ニ關スル書類、内容證明郵便、金錢請求書等ヨリシテ其者カ或ル一定ノ時ニハ唯僅少ヨリ金圓ヲ有セザリシ事實ヲ確定シ得ルコトアリ。

第二款 盜犯ノ行ハレタル時日、場所、竝ニ被害品ノ確定

一、何時竊盜カ行ハレタル乎

(1) 戸障子又ハ容器ニ異狀アリタル時。若シ戸障子又ハ箆筒ヲ一定時ニ閉鎖シタル處、其後ニ至リテ之レカ開披セラレ竊盜ノ實行ニ必要ナル手段ヲ講セラレタリト認ムヘキ痕跡ヲ發見セハ、竊盜ハ其間ニ行ハレタルモノト見ルヘキハ殆ント言フ俟タス。然シナカラ戸障子又ハ容器ノ異狀ヲ覺知シタル時カ盜犯ノ時間ヲ確定スルニ付テ常ニ過リナキ證據ト爲ルモノニハ非ラス。

(2) 物品ヲ最後ニ見タル以後ノ時。此場合ニ於テモ亦被害者ハ自己ノ物品ヲ最後ニ見タル以前ニ於テ實ハ既ニ盜難ニ罹リ居タルコトアルヲ注意スヘシ。

(3) 贓品カ或者ヨリ他ニ讓渡サレタル時。

二、何處ニ於テ盜マレタル乎  
 盜犯ノ場所ヲ確定スルニ付テ困難ナル問題ヲ生スルハ就中或物カ運搬ノ途中ニ於テ竊取セラレタル

場合ニシテ、而カモ或物全部ニハ非ス唯其中ノ一部分又ハ中身ノミカ紛失シタル事件ナリトス。

此場合ニ於テ内容ハ發送地、途中、到着地ノ其ノ孰レニ於テ竊取セラレタルカヲ確定セント欲セハ  
(イ)包装ノ狀況ヲ調査シ (ロ)原物ノ代價トシテ入レ替ヘ置カレタル内容物ノ細檢ヲ要ス。

三、何ヲ竊取又ハ強取セラレタル乎

此問題ニ付テ特ニ注意スヘキハ、(1)貴重品ト共ニ盜マレタル極メテ價値ナキ物件ニ付テモ亦貴重品ト同様ノ注意ヲ拂フコト極メテ肝要ナリ。(2)被害物件ニ付テハ知り得ヘキ總テノ事項ヲ能フ限リ精密ニ確定シ置クコト之也。

### 第二節 盜犯ノ方法 (定型)

強盜ノ犯人檢舉ヲ討究セント欲セハ先ツ盜犯ハ凡ソ如何ニシテ世ニ實行セラレタルヤト云フ、之レカ犯罪現象ノ大要ヲ會得スルヲ前提トスヘシ。何トナレハ各種ノ盜犯ハ常ニ如何ナル實行方法換言スレハ一定ノ犯罪定型ヲ以テ社會ノ平和ヲ擾亂セントスルヤノ、問題ニ對シテ與ヘラレタル答案ハ、即チ之レニ對スル搜查戰ノ兵法ヲ畫策スルノ標的トナルヲ以テナリ。

或ル機會ニ挑發セラレ瞬間の境遇ニ刺激セラレテ殆ント突發的ニ眼前ノ財貨ヲ掠ムル所謂偶發的盜犯ニ至リテハ、實行行為ハ全然單純ナルノミナラス原則トシテ何等ノ技巧ヲモ用ヒス、從テ之レカ搜查ニ付テモ比較的困難ナラサルヲ常トスレトモ、職業的トモ謂フヘキ常習盜犯ノ一列ニ至リテハ公安ニ對シテ深甚ノ威嚇ト危害ヲ與フルノミナラス、日常反覆スル行為ノ定型ハ頗ル複雑ニシテ奸計ニ富ミ、

深刻的ニシテ尙特技ヲ有シ、其檢舉ニ極メテ容易ナラサルモノアルカ故ニ、以下主トシテ常習盜犯ノ犯罪定型ノ概要ニ付テ列舉ヲ試ントス。

第一、侵入 盜 (他人ノ住宅又ハ建造物ニ侵入シテ財貨ヲ掠奪スル盜犯)

之レヲ假リニ別テ、潛入盜、忍込盜、強盜トナス。

#### 一、潛入 盜

(1) 「空巢狙」(晝間(晝空)又ハ黄昏(夕空)全家盡ク外出)

近來新手ノ方法トシテ所謂空巢タル家ノ主人ノ外出先ヲ探知シ、之レニ處偽ノ電話ヲ掛ケ其處ニ長ク滞留セシメ、其暇ニ窓ヲ窺ヒテ行フ輩ノ現出シタルハ注意ニ價スヘシ。

尙女賊ニシテ一時不在ヲシキ家ヲ探索シ、變態ヒニ化ケテ玄關ヨリ乘込ミ、若シ發見セラレタルトキニハ宅ヲ間違ヘタル大膽ナル退却ヲ試ムルヲ慣行トセシ盜犯アリ。

(2) 「空家荒シ」(空家ニ侵入シテ水道鐵管、瓦斯管、電氣器具、硝子板、建具ノ金物等ヲ竊取スルヲ專門トスル盜犯)

「空家荒シ」ハ又兇徒團體ニ於テ組織的ニ決行セラル、モノアリ。彼ノ「マダ屋」ト稱スル一群之レナリ。

(3) 「飛込ミ」(家人ノ油斷ニ乘シテ宵ノ中ヨリ先ッ邸宅ニ忍入りテ物置、床下等ニ潛込ミ夜ノ更クルヲ待テ屋内ヘ忍入リ財貨ヲ奪取シ去ル盜犯)(一名「泊」又ハ「ダレミ」特ニ宵間ニ紛レ邸内ニ忍入り居ルヲ「細草」ト云フ)

此種ノ輩ニ至リテハ毫モ盜賊ノ忍入りタル形跡ヲ留メシメサルカ故ニ、憐ムヘキ雇人カ常ニ冤罪ヲ蒙リ易シ。

(4) 「居空キ」(晝間家人在宅セルモ午睡中又ハ他室ニ在ル際ヲ窺ヒ室内ニ忍入り金品ヲ掠メ去ルヲ手段トスルモノ)

二、忍込 盜 (夜間屋内ノ財物ヲ竊取センカ爲メ、戸締等ヲ破壞セス、或ハ強力)

(1) 「忍ヒ」(夜間戸外ツツ(吊り上ケ)或ハ戸締ナキ箇所ヲ押開キテ忍入)

「忍ヒ」ニ(イ)普通ノ「忍ヒ」ト。(ロ)二階ノ窓ヨリ忍入ルモノ。(ハ)「高臺」一名「七段目」(ハ)「屋根傳」忍入ルヲ常習トスル竊盜。(「ニヤン」、「木鼠」、「這ヒ」、「傳ヒ」、「御輕傳ヒ」、「雷」、「エテ」)(ニ)屋根ノ天窓等ノ口ヨリ綱ヲ垂レ之ヲ傳テ屋内ヘ降り込ムモノ。(「サガリ」)(ホ)階上ノ引窓口又ハ床下ノ穴ヨリ屋内ニ忍込ムヲ手口トスル犯人。(「穴傳ヒ」)(ヘ)電信柱ヲ傳テ屋根ニ登リ二階ノ窓ヨリ忍入ルモノ。(「電信」)(ト)便所ノ小窓、汲取口、又ハ溝ヨリ屋内ニ忍入ル竊盜。(「隧道」)等アリ。尙時刻ノ點ヨリ區別シ、夜明ケ頃忍入ル常習盜犯ヲ「ユキ」ト稱シ、深更時ヲ撰フモノヲ「更ケ師」ト云フ。凡ソ人ハ頭部ト之レニ密着シテ差シ上ケタル一方ノ腕ト、此兩個ノモノヲ併セテ通過シ得ヘキ間隙ハ能ク其全身ヲモ通過セシムルヲ原則トスルカ故ニ、窓格子ノ目等カ稍大ナルトキニハ盜犯ニ對シテ甚シキ便利ヲ與フルモノ也。

(2) 「破開忍込」(家屋ノ外圍、戸締、又ハ容器ヲ著シテ破損シテ忍入ルヲ行フ盜犯)

(a) 戸ニ對スル損壞行爲。之ニ就テハ、(イ)門戸施錠附近ノ箇所ヲ二、三寸四方銳利ナル刃物ヲ以テ切り取り、其孔ヨリ手又ハ針金ヲ挿入シテ鎖鑰ヲ取り外ツス戸切竊盜。(「蜘蛛」)(ロ)右同様箇所ヲ蠟燭等ノ火ヲ以テ焼抜クモノ(「鍛冶屋」一名「焼切り」)特ニ線香ノ火ヲ以テ焼抜ク犯人。(「千本」)德利ノ底ヲ抜キ破レル内ニ炭火ヲ入レ、此レヲ戸ニ差シ當テ其口ヨリ火氣ヲ吹キ附ケ焼抜クヲ手段トスルモノ。(「吹キ」)等アリ。

(b) 屋根、壁、床板等ニ對スル損壞行爲。(イ)屋根ヲ切破リ忍入ルヲ得意トスル犯人(「天切り」一名

「天」)アリ。(ロ)壁ニ對シテハ土藏ノ壁ヲ破開スルヲ普通トス。(「娘師」、「行燈」長六) (ハ)然レトモ亦住家ノ側壁ヲ損壞シ屋内ヘ忍入ルヲ慣行トスル兪兒(「腹切り」)アルノミナラス、(ニ)近來空家ノ壁ヲ破開シ、其穴ヨリ手ヲ挿入シ隣家ノ押入内ヨリ衣類ヲ竊取スル者アリ。(ホ)壁ノ裾、土臺、縁下等ヲ發掘シテ屋内ヘ忍入ルモノハ(「九太夫」一名「土臺堀り」)從來屢之レヲ見タル處ナルモ、(ヘ)近來隣家ナル空家ノ床下ヨリ忍入り、目的家屋ノ床板ヲ破壞シ仕事ヲ爲ス盜賊出現セリ。(o)格子ニ對スル損壞行爲。竹又ハ木ヲ以テ造作セラレタル格子ニ對シテハ賊ハ鋸ヲ以テ徐々ニ挽キ切り破開ス。鐵ヲ以テ作ラレタル頑丈ノモノト雖時計工ノ用フル仕上鐵又ハ時計發條ヲ以テ作ラレタル鋸ヲ以テ容易ニ切斷スヘシ。切斷ニ際シテ音響ノ發スルヲ妨止セントストキ、絶ヘス油等ヲ注キ鋸ノ上ヲ綿又ハ襪類ノ類ヲ以テ掩ヒ、或程度ニ之レヲ緩和スルノ事情ヲ知ラサルヘカラス。(d)硝子ニ對スル損壞行爲。入口又ハ窓等ニ於ケル硝子ヲ破壞スルヲ必要トスル場合ニ於テハ賊徒ハ屢々窓ノ「パテ」ヲ小刀ヲ以テ除去シ硝子板ヲ取外ツスヘシ。然シナカラ尙簡單ナル硝子破壞ノ方法ハ硝子ニ所謂「膏藥」ヲ貼リ附ケ壓シ破リ、其所ヨリ手ヲ挿入レ以テ内ヨリ施サレタル錠前ヲ除去スルコト之也。

尙忍込ノ一種ト認ムヘキモノニ、店頭ニ裝置サレタル商品陳列函ヲ破壞シ内容物ヲ竊取スル犯人(「カシ」)アリ。

(3) 鎖鑰竊盜(建造物又ハ容器ニ施サレタル鎖鑰ニ對シテ合鍵又ハ針金ヲ使用シテ開キ、或ハ金ヲ引キ抜キ、錠ヲ握チ切り之レヲ無効ニシテ仕事スル忍込盜) 掛ケ錠ノ如キハ犯人カ一ノ合鍵ヲモ須ヒス、唯單ニ強力ト一片ノ棒トヲ以テ容易ニ破開スルヲ得ヘク

取附ケ錠ニ對シテハ錠前取附ノ爲メ打込マレタル釘又ハ振釘ヲ引抜クカ、或ハ常ニ携帯セル數十個ノ合鍵ヲ取り出シ簡易ニ其目的ヲ達スヘシ。殊ニ老練ナル鎖鑰盜ニ至リテハ合鍵ヲ使用セスシテモ多クノ錠前ヲ唯先端ノ曲ケタル一本ノ針金ヲ以テ巧ミニ開クコトヲ得ヘシ。

金庫破リ(「カミサシ」)ノ我國ニ於ケル盜犯ハ合鍵ヲ使用スルカ又ハ金庫ノ鍵ヲ先ツ竊取シテ之ヲ開クニ止マレトモ、歐米ニ於ケルモノハ、金庫ノ鎖鑰又ハ外壁ヲ破壊スルノ盜賊續發スルカ如シ。

### 三 強 盜 (「トントン」「ダ、キレ」)

近來電話ヲ利用シテ被害者方ノ様子ヲ問ヒ合セ僥倖ノ機會ヲ窺ヒ、又ハ主人ヲ誘出シテ直ニ其ノ家ヘ押入り、強盜ヲ爲ス新手ノ方

法ノ現出シタルハ注目スヘキ事項ニ屬ス。

尙最近ニ起リタル妙齡十七歳ノ原カ強盜ニ押入りタル事件ハ強盜史上ノ一記録ヲ爲スモノト謂フヘキカ。

### 第二 屋 内 盜 (「刑法家宅侵入罪ヲ構成セス」)

一 「萬 引」 (「商店又ハ市場ヘ買客ノ如ク裝ヒ」)

是等ノ常習犯即「タナ師」ハ多ク呉服店、勸工場、古着屋、時計店、寶玉商ノ店舖。又ハ魚市場、青物市場等ヲ其ノ仕事場トナス。

店員ノ眼ヲ掠メテ竊取スル手段ノ未タ極メテ幼稚ナルハ我國盜犯ノ現狀ニシテ喜フヘシ。(イ)或ハ乳兒ヲ懷ケル女カ嬰兒ノ襁褓ノ風呂敷包ヲ携帶シ襁褓ノ取替ヲ爲スカ如ク裝ヒ、反物二三反ヲ風呂敷ノ中ニ捲キ込ミ(ロ)又ハ彼レ此レト品物ヲ出サセ其油斷ト引替ニ品物ヲ袂懷、脊、帶ノ下、衣囊股間ニ忍ハシ、(ハ)或犯人ハ長キ「マント」ヲ著用シ又ハ「マント」ヲ著セル一人ノ子供ヲ伴ヒ、(ニ)稍進

ミタル方法トシテハ袴「マント」ノ裏ニ大ナル萬引袋ヲ縫付ケ置ケル者、(ホ)女三人共謀ノ上第一ノ女ハ買入品ノ撰擇ヲ爲スカ如ク裝ヒ番頭ノ鼻先ニ反物ヲ長ク擴ケ目隠ノ用ヲ爲サシメ、後方ニ居ル第二ノ女ヲシテ其陰ニ於テ反物ヲ竊取セシメ、第二ノ女ハ之レヲ第三ノ女ニ交附シ速ニ持チ去ラシムルヲ慣行トセル者アリタルカ如シ。常習「タナ師」ハ比較的男ニ多ク、女ノ「萬引」ニシテ偶發的ナル場合ノ少ナカラサルハ實ニ吾人ノ想像外ニアリ。

歐米ニ於ケル萬引ハ其巧妙ニシテ、且ツ組織的活動ヲ爲スモノノ如シ。歐洲ニ於テ、寶玉商等ノ店舖ニ於ケル萬引ハ原則トシテ第二又ハ第三ノ補助者ヲ以テ行ハル。即チ補助者ハ商品ノ大注文ヲ爲スカ如ク裝ヒ之レニ依テ番頭ヲシテ第一ノ買客ヨリ引離シ、其間ニ第一客ヲシテ竊盜ヲ完了セシム。尙其者ノ立去リタル後直ニ盜難ノ事實ヲ覺知セラルルヲ避ケンカ爲メニ表面上種々賣買ノ交渉ヲ爲ス也而シテ此補助者ハ立派ナル貴婦人タルコトアリ、又ハ私服ノ警官、乞食タルコトアル也。萬引ノ補助者ハ後ニ至リ初メテ活躍スルノ場合アリ。例ハ本犯ハ先ツ賣場ノ臺ノ裏ニ蠟ヲ附著シ置キ竊取シタル貴金屬ヲ之ニ粘著セシメテ立去リ、一兩日後補助者ヲシテ其商店ヨリ粘着セル貴金屬ヲ竊取セシム。其他甚シク咳嗽スル買客カ手巾ヲ取り出シ金屬ノ上ヘ置キ手巾ノ中ニ之レヲ掠メ、或ハ共犯者ノ一人カ肘ヲ以テ店ノ賣臺ヨリ墜落セシメタル物ヲ、他ノ一人ハ靴ヲ脱シ足指ヲ以テ拾ヒ、袴ノ内面下部ノニ入ルルカ如シ。

米國ニ於ケル萬引ノ常用手段ハ多ク、箱包ノ底ニ於テ品物ヲ粘著シ得ル様ニ仕掛ケシタルモノヲ携帶シテ商店ヘ立越スカ、買物袋ヲ携帶シテ掠メタル品ヲ此中ニ投スルカ、二人ノ婦人共謀シテ「マツ



「フ」ヲ箱メ商店へ赴キ之レヲ脱テ賣臺ノ上ニ縦ニ並ヘ置キ、一人カ高貴品ヲ掠メ其中ニ巧ミニ投スルトキニ、他ノ一人ハ自己ノ「マツ」ヲ通シテ竊ニ之レヲ取り出シ隠匿スル也。又或ハ紳士ヲ裝ヘル犯人ハ護謨紐ヲ脇ヨリ袖ヲ通シテ袖口ニ至ラシメ其先端ニ釣ヲ附着シ置キ、仕事著手ノ少シ前ニ釣ヲ引キ出シ掌裏ニ潜メ、目的ノ品ヲ觸レタル際之レヲ釣ニ掛ケ、其釣ヲ放ツテ彈力ニ依リ袖中ニ吸ヒ込マスルカ如クシテ之レヲ竊取スト云フ。

二 人ノ來集スル場屋ニ於ケル竊盜

(1) 「板ノ間稼キ」(錢湯ニ入り他人ノ入浴中脱衣置場ヨリ自己ノ衣類ト他人ノ衣類トヲ全部交換竊取)  
(シ(アイテカゴフ))又ハ他ノ衣類ノ一部、金品等ヲ竊取シ去ル(骨抜キ)竊取。

「溫泉場荒シ」「水泳場荒シ」

(2) 「枕探シ」(旅館へ普通旅客ノ如ク裝ヒ泊リ込ミ夜半隣室へ忍入りテ熟睡セル旅客ノ前額ノ下又ハ袖ノ中ヨリ財布、時計ヲ掠メ、其タシキハ脱キ捨テアル衣類全部ヲ奪ヒ去ル竊取。一名「部部師」)  
近來接應等ニ裝ヒテ民家ニ入り機會ヲ視ヒ金品ヲ掠メ又ハ強奪セントスル竊取アリ。

歐洲ニ於テモ旅館盜ナル常習盜犯存ス。旅客ヲ裝ヘル一ノ補助者ヲシテ旅館へ先ツ泊リ込マシメテ必要ナル探索又ハ幫助ヲ爲サシメ、本犯ハ顔剃、按摩、靴商等ニ化シテ客室へ入り込ム也。

(3) 「病院荒シ」(多クハ患者ヲ裝ヒ病院へ立込ミ、診察ヲ求メ又ハ受ケテシテ混雜ニ乘シ病室へ入り込ミ、患者ノ財物ヲ奪ヒ、或ハ總局又ハ事務室へ潛入シ抽斗等ヨリ金品ヲ奪ヒ去ル竊取)

三 「目見 得 泥 棒」(新ニ履ハル者ヲ主家へ目見得ニ行カカク如ク裝ヒ其家へ立込ミ、當夜ニ金品ヲ竊取去スルヲ慣用手段トセル女竊取)

四 内部 盜 (民家又ハ會社、大商店内部ニ於ケル雇人、僕婢ノ竊取)

凡ソ竊盜事件ノ中僕婢又ハ雇人カ其嫌疑者ナリト目サルルモノ程、切ニ警戒ヲ要スヘキモノ他ニ在ルコトナシ。何トナレハ老練ナル忍込盜又ハ潛入盜カ侵入脱出ノ痕跡ヲ巧ミニ殘留セサルカ、或ハ彼等

カ現場ヲ故意ニ亂雜シタル方法ニ伴リ置キ替ヘタルカ、又或ハ主人カ物品ヲ置キ忘レ又ハ紛失シタルトキ等ニ於テハ、常ニ一ノ憐ムヘキ僕婢カ該事件ノ嫌疑者トシテ冤枉ニ泣カサルヲ得サルカ如キ推定ヲ蒙リ易キヲ以テナリ。殊ニ其僕婢又ハ雇人カ不幸ニシテ雇ハレタルヨリ、日向ホ淺ク、正直ナルヤ否ヤニ付テ十分ニ試験セラルルノ機會ヲ有セサリシトキ、或ハ當時不行跡ナルカ、又一親族ニ金圓ノ入用ヲ生シタル事情存シタル等ノ場合ニ於テハ、其然ルヲ見ル。然シナカラ僕婢カ實際連續シテ小竊盜ヲ行フコトモ亦爭ナキ事實ナリ。僕婢ニシテ小竊盜ヲ爲ササルハ殆ント稀ナリト云フモ、敢テ過言ニ非サルコトヲ注意セサル能ハス。即チ下婢ハ化粧料ヲ得ンカ爲メ、情夫ニ貢カンカ爲メ、子女ノ養育費用ニ充テンカ爲メ、下僕ハ酒色ノ爲メニ屢々主家ノ物ヲ竊取ス。

第三 屋 外 盜

一 「擄 渡 ヒ」(人家ノ軒下、街路、玄關、勝手口、庭、店先キ、等ニ於テ白晝又ハ薄暮ノ頃、家人ノ隙ヲ窺ヒ商品、雜品、金圓ヲ掠メテ逃走スル竊取)

(イ)人家ノ軒下ヨリハ自轉車、人力車、配達車等ヲ竊取ス。然レトモ之レニ關シテ近來人力車自動車上ノ毛布ヲ奪取スルヲ慣行トスル盜犯ノ存スルハ注意スヘシ。(ロ)玄關、勝手口ヲ襲フヲ常習トスル者ハ多ク薄暮ノ頃ヲ利用シ、外套靴傘等ノ如キ品ヲ奪取ス。此中玄關先ノ履物掠奪ノ盜犯(「ゲツヒキ」一名「金時」)玄關ノ上リ口ニ於テ外套、傘等ヲ狙フ兇兒(「上リ」)等ノ各専門アリ(但シ層屋ト泥棒業トナシ行商、丐食、廢兵、遊學者、要事訪問者ヲ裝ヒ至リテハ白晝公然ト立越シ犯行ヲ爲スハ世人ノ知ル處ナリ)(ハ)庭ニ乾カシアル洗濯物、格子、垣根ニ吊サレタル衣服ヲ搔拂フ者(「干狩リ」)別名「竿下」(「幕稼キ」)、(ニ)又ハ商店ノ店先キヨリ、二ノ商品或ハ金圓ヲ奪ヒ逃走スル竊盜犯(「駈込ミ」)即狹義ノ搔拂ヒ)アリ。(ホ)竿先ニ折レ釘ノ如キヲ附シタルモノヲ

用ヒ室内ニ吊セル衣服ヲ格子口ヨリ攫深フ者。(「蜻蛉リ」)(ハ)途上ニ遊戯中又ハ買物ノ歸途ニアル幼  
兒ノ携帶品ヲ奪ヒ走ル街盜。(「鳶」)(ト)公園等ノ「ペンチ」ニ假睡セル他人ノ懷中物又ハ携帶品ヲ竊  
取スルモノ。(「臺轉ガシ」)等アリ。

二 「置 引 キ」(銀行、郵便局ノ窓口或ハ停車場待合室ニ普通客ノ如ク装ヒ立越シ居リ、目的トセル他ノ客人ニ於テ乘スヘキ間  
隙ヲ發見セハ、突如トシテ撲合ヒヨリ現金又ハ有價證券又ハ靴ヲ掠メ一目散ニ逃走スルヲ慣用手段トスル盜犯)

三 「賽 錢 泥 棒」(神社、佛閣ノ賽錢箱ヨリ賽錢ヲ竊取スルモノ、一名落シ面)

四 「掏 摸」(路上、汽車、電車、汽船、劇場等ニ於テ他人ノ身  
體又ハ身邊ヨリ財物ヲ竊取スルヲ慣行トスル盜犯)

(I) 路上ニ於テ犯行ヲ爲ス掏摸

(甲) 懷中、袖袂物ヲ竊取スル掏摸

(イ) 「ボタ」(衆人ノ雜沓セル路上ニ於テ他人ノ袂ノ中ヨリ  
財物ヲ掏取ル盜犯、一名「ボタハダキ」)

「ボタ」ニハ徒手ヲ以テスルト刃物ヲ使用スルモノトアリ。

(ロ) 「胸バラシ」(腹掛ノ井ナ剃刀等ヲ以テ切り破  
リ井在中ノ財物ヲ竊取スル盜犯)

(ハ) 「チガヒ」(路上又ハ停車場劇場ノ出入口等ニ於テ被害者ト行キ  
違ヒノ瞬間ニ懷中ヨリ紙入又ハ時計ヲ掏取ル盜犯)

多クハ二人三人ノ共謀ニ係リ即一人ノ幫助者カ被害者ノ前ヨリ突當リ吁ト思フ刹那ニ本犯ハ  
後方ヨリ懷中物ヲ掠メ去ル此際尙一人ノ補助者ヲ伴フトキニハ獲物ヲ速ニ交附シ即時其場ヲ立  
去ラシムル也。(「吸ヒ取り」)此場合彼等ノ最重要ナル仕事ハ被害者ノ注意ノ轉向ト贓品ノ持逃  
ケニアリトス、獨逸ニ於テ我「吸ヒ取り」ニ該當スルモノヲ「zuplfanteln」ト稱セラル。

(乙) 着用品ヲ竊取スル掏摸

(イ) 「ラルカ買ヒ」(雜沓セル路上例令ハ綠日、觀覽場前等ニ於テ婦人  
ノ頭部ヨリ簪櫛ノ類ヲ採取ルヲ專門トスル掏摸)

(ロ) 「ダルマ外」(觀覽場等ノ混雜ノ際徒手ヲ爲シ居ル者  
ヨリ其着用セル羽織ヲ竊取スル盜犯)

(ハ) 「ナゲシ解キ」(婦人ノ帶ヲ解  
キ盜ム掏摸)

(II) 瀛車、電車、汽船ニ於テ犯行ヲ爲ス掏摸

(甲) 「箱師」(狭義ニ於ケル箱師、即チ電車、  
乗合馬車等ヲ仕事場トスル掏摸)

(イ) 「中抜き」(懷中又ハ洋服ノ隠シヨリ紙入、菓子等ヲ引出シ在中  
ノ金圓ヲ竊取シタル後口ヲ元ノ處ヘ返シ置ク盜犯)

(ロ) 「指輪抜き」(多ク電車等ニテ婦人カ一方ノ手ヲ以テ吊皮ニ身ヲ支ヘ、其方面ニ  
注意ノ偏重セルヲ利用シ、他方ノ手ノ指ヨリ指輪ヲ抜き取ル掏摸)

(ハ) 「茄子環外ツシ」(洋服ノ「チヨッキ」ノ隠シ又ハ和服ノ帶ノ間或ハ懷中ヨリ時計ヲ  
引出シ、鎖ノ最端ニ在ル茄子環ヲ外ツシ時計ヲ掠メ取ルモノ)

箱師一班カ仕事ヲ爲ストキニハ本犯以外ニ一人又ハ二人ノ補助者ヲ使用スルコト多シ。而シ  
テ愈仕事ニ取り掛ラントスルトキ補助者カ所謂「幕ヲ切ル」也。(補助者ナキトキハ本犯自ラ之  
ヲ爲ス)「幕ヲ切ル」トハ「マント」ノ袖、新聞紙等ヲ突き出シ被害者又ハ附近ノ者ノ視線ヲ遮ルヲ  
云フ。獨逸ニ於ケル掏摸ノ仲間ハ之レヲ「牆壁ヲ作ル」ニ Wandmaehen 〃ト稱セリ。加之箱師ハ  
特ニ訓練サレタル細長クシテ柔ク且鋭敏ナル手指ノ所有者タルコトヲ必要條件トナス。

(乙) 「長箱師」(主トシテ汽車内ヲ活  
動舞臺トスル掏摸)

(A) 携帶品ヲ竊取スル掏摸

(イ) 「パンカ買ヒ」(大ナル空靴ノ底ニ仕掛ケアルモノヲ汽車中ニ持込ミ、機ヲ見テ目的トスル  
靴ノ上ニ置キ之レヲ掩ヒ且ツ仕掛ケアル釣ニテ吊シ以テ靴ヲ掠メ去ル掏摸)

(ロ) 「ライソレ」(鋭利ナル刃物ヲ以テ袋又ハ靴ノ横ヲ  
切り破リ在中ノ金圓ヲ掏取ル盜犯)

第二編 各論 第一章 竊盜強盜 第二節 盜犯ノ方法(定型)

(ハ) 「矢掛」(合鍵ヲ以テ箱ノ口ヲ開キ財貨ヲ竊取スル拘摸)

(B) 懷中物ヲ竊取スル拘摸

「袖買」(例令ハ右手ヲ懷中ヲ經テ左ノ袖口ヨリ出シ左側ニ座セル客人ノ財貨ヲ盜ムモノ)

(丙) 「浮巢」(船内ヲ仕事場トセル拘摸)

五 遞信機關ニ對スル盜犯ハ凡ソ左ノ如シ。

(1) 自働電話機ヲ破壊シ金圓ヲ盜ム犯人。(「呼出シ」)

(2) 郵便函ヲ合鍵ヲ以テ破開シ在中ノ爲替券ヲ竊取スル盜犯。

(3) 電線盜。

(4) 赤行囊盜(即チ一郵便局ヨリ他ノ局ヘ送ル現金又ハ有價證券在中ノ赤行囊ヲ奪ヒ去ル盜犯)

六 森林竊盜

七 屋外強盜(赤行囊強盜ヲ除ク)

(1) 「追剝ギ」

(2) 「流車強盜」

八 其他ノ盜犯。

「源氏追ヒ」別名「蜻蛉」、「蜂追」(荷車ヲ追跡シ機ヲ見テ車上ノ荷物ヲ竊取スル常習犯者)

「四ツ師」(他人ノ飼養セル猫ヲ奪ヒ其皮ヲ剥キ取ルヲ職業トセル盜犯)

「火事場泥棒」一名「テツカリ」、「ヤケン」(火災ノ大混亂ニ乘シ手傳人ノ如ク裝ヒ、罹者ノ家財ヲ掠メ去ル犯罪ノ惡ムヘキ盜犯)

#### 第四、欺罔手段ヲ用フル盜犯

人智ノ進ムニ從ヒ竊盜犯モ漸次智能犯の傾向ヲ生スルニ至リタルハ刑政家ノ注目ヲ要スヘキ一現象也。殊ニ近來竊盜犯ニシテ詐欺ノ分子ヲ幾分加味シタルモノ、約言スレハ詐欺の竊盜ノ新規ノ手段ヲ發案セントスル者、日ニ月ニ繁カラントスルハ實際ノ事件カ適切ニ之レヲ證明セリ。刑事家カ時世ニ應シタル捜査ノ研究ニ十分ノ努力ヲ爲ササルヲ得サル所以ハ、蓋シ此一事ニ徹スルモ明ナランカ。

I 欺罔手段ヲ用ヒ居宅ニ侵入シタル上竊盜ヲ爲スモノ。

(1) 盜犯カ差配又ハ大屋ノ使ナリト詐リ、被害者方ヘ立越シ口實ヲ設ケテ各室ヲ見廻リ家人ノ隙ヲ窺ヒ金品ヲ竊取スルモノ。(2) 普通ノ訪問客ノ如ク裝ヒ大邸宅ヘ立越シ機ヲ見テ竊盜ヲ爲スモノ。(3) 便所ヲ借用スルカ如ク裝ヒ居宅ヘ立入り竊盜ヲ爲スモノ、(4) 貸間ノ撰擇ヲ爲スカ如ク裝ヒ室内ニ入り實ハ竊盜ヲ爲スモノ等アリ。

II 欺罔手段ヲ用ヒ店頭ニ於テ竊盜スルモノ。

(1) 變事アリ(例、火災、突發事件)ト詐稱シテ家人ヲ誑キ出シ其不在ニ乘シ掻浚ヒヲ爲スモノ。(2) 買物ヲ爲スカ如ク裝ヒ商品ヲ取り出サシメ隙ヲ窺ヒ之レヲ掻浚ヒ去ルモノ。

III 公務員ヲ裝ヒ取調ニ假託シ竊盜スルモノ

(1) 巡查ヲ裝ヒ、主家ノ金圓ヲ所持セル雇人ヲ途ニ要シ取調ノ必要アリト稱シ提出セシメ検査スルカ如ク裝ヘル間ニ竊ニ他ノ物ト拘リ替ヘ竊取スル犯人。(2) 判檢事、大藏省官吏ト詐リ富豪又ハ銀行ヘ立越シ、家宅搜索又ハ帳簿、金庫ノ調査ヲ爲スカ如ク裝ヒ實ハ大竊盜ヲ働カントスルモノ。

III 欺罔手段ヲ用フル強盜。

(1)名ヲ賣買ニ假託シ店員ヲ商舖ヨリ誘出シ其所持ノ金品ヲ強奪スルモノ。(2)刑事巡查ノ取調ヲ装ヘル間ニ突然強盜ニ豹變スルモノ、(3)夜中急用ヲ虚構シ戸締ヲ開カシメ内へ入ルヤ強盜ト化スルモノ等アリ。

第五、山窩ノ盜犯

山窩(「ケンタ」)トハ浮浪人ノ盜賊團體ニシテ或ハ山間又ハ河原ニ天幕ヲ張リテ之ニ屯營スルモノ(「セブリ付キ」)ト、各所ニ散在セル山窩宿ニ宿泊スルモノ(「ドヤ付キ」)又ハ自家ニ居住セルモノトアレトモ、孰レモ各地ノ山窩ノ親方ニ統卒セラレ、組織的ニ盜犯ヲ共行シ常ニ日本全國ノ山窩ト氣脈ヲ通シ、總テノ出來事ハ特別ノ方法ヲ以テ互ニ通信ス。

山窩ハ晝間丐食、洋傘直シ、箕直シ、羅字ノ俄替へ等ニ出テ、夜間忍入ルヘキ家ヲ物色シ、之ニ關スル詳細ノ探索ト研究ヲ遂ケ歸リテ他ノ仲間ニ報告シ、其仲間ヲシテ盜犯ヲ實行セシム。彼等ハ多ク脚絆ヲ着ケ其中ニ破開用ノ兇器ヲ隱匿スルヲ常トシ、兇器(「グドウ」)トシテ普通小刀、「コベル」鑿(「ケジ」)鋸(「サンショ」)、錠前破開用ノ針金(「シツビキ」)等ヲ携帯セリ。

山窩ハ竊盜ノミナラス或ハ居直リ強盜ト爲リ、又屢々慘忍ナル強盜殺人ヲ決行シ、其獲タル贓物ハ屯所ニ持歸ラスシテ少シク離レタル山中又ハ田畑ニ隱匿ス。

歐州ニ於テハ我山高ニ略該當スル「チゴイネル」ナル一浮浪盜賊團體アリ。「チゴイネル」ハ種々ノ點ニ於テ他ノ盜犯ト其手段方法ヲ異ニスルカ故ニ、嚴密ニ是等ノ犯跡ニ就キテ研究セハ「チゴイネル」盜ナル事ヲ鑑別スルヲ得ヘシト稱セラル。

第三節 盜犯ヲ容易ナラシメタル事情ノ搜查

凡テ盜犯ニシテ或者カ多クノ財貨ヲ所持スヘシト見込ミタルカ、或ハ犯シ易シトノ事情ヲ認メタルカ爲メニ、其者ニ就キ強竊盜ヲ行フヘク決意シタル場合ニ於テ、盜犯ハ唯恠クノ如クシテ直ニ結果ニ到着スヘキモノニハ非ス。如何ナル方法ノ盜犯タルトヲ問ハス、必スヤ其決意ト結果トノ間ニハ當該犯罪ヲ容易ナラシメタル或事情ノ存在シタルコトヲ、吾人ハ冷靜ニ觀察セサルヘカラス。盜犯ヲ容易ナラシメタル事情トハ即チ犯人ニ於テ被害物ニ對スル精神上ノ接近關係、盜犯着手前ノ準備行爲、本犯ノ實行ニ對スル幫助等之レナリ。

第一 被害物ニ對スル心的接近關係

甲 心的接近關係ノ利用

犯人ノ身體カ過去又ハ現在ニ於テ被害者、被害物ニ直接又ハ間接ニ接近セルカ爲メ、從テ是等ノモノト精神上ニ於テモ近キ關係ヲ保持セル場合ニハ、殊ニ盜犯ヲ容易ニ行ハシムルノ傾向ヲ有ス。

犯人カ過去ニ於テ被害者又ハ被害物ニ接近シ交通セル原由ヲ想像スレハ、

- 1 其家ノ元雇人
- 2 出入リノ者
- 3 姻族
- 4 朋友

- 5 懸意ノ者
  - 6 得意先タル關係ヨリ其家へ往復セル者
  - 7 盜犯ノ實行上嘗テ其家へ立越シ内部ノ事情ヲ知悉シタル者(例令ハ破開忍込盜、強盜、搔拂、空巢狙)
  - 8 曩キニ被害物ヲ取扱フ業務ニ在リタル者
  - 9 以上ノ者ト接近シテ間接的ニ被害者、被害物ト精神上接近シタル者等之レナリ。
- 犯人カ現在ニ於テ被害者又ハ被害物ニ接近セル場合ニ於テハ、現在ノ狀況ヲ利用シテ盜犯ヲ行フコト少ナカラス、其接近セル原由ヲ想像スレハ凡ソ左ノ如シ
- 1 現雇人、同居者
  - 2 現ニ被害物ヲ取扱ヒ又ハ其附近ニ身ヲ置クヘキ業務ニ在ル者
  - 3 出入リノ者、懸意ノ者、職業上往復スヘキ者、親族、朋友、
  - 4 以上ノ者ヲ通シテ間接的ニ、被害者方又ハ被害物ニ接近セルモノ
- 乙 心的接近關係ノ創設

若シ犯人カ或ル被害者又ハ被害物ニ對シ盜犯ヲ決行セント企テタル際、之レニ關シテ何等精神上ニ接近セル處ナキニ於テハ、盜犯ノ實行ヲシテ容易ナラシメンカ爲メニ如何ニシテモ被害者方ノ様子、内狀ヲ覺知シ、被害物ニ關スル四圍ノ事情ヲ新タニ探査スルノ必要ニ迫ルヘシ。恁クノ如キ盜犯ノ豫備行爲タル「探リ」(「アテコミ」、「雀」、「芝居ニ行ク」)ハ、偷賊ニ對シテモ亦吾人ニ對シテモ最重要ナル

點トス。何トナレハ探リニ盜犯ノ成否ノ全結果カ繫レルカ故ニ彼等ニ對シテ極メテ重要ナルヘク、又探リ行爲ニ注目スルコトニ依リテ屢本犯ニ對スル唯一ノ端緒ヲ發見シ得ルカ爲メニ、吾人ニ取リテハ其價值ヲ有スルカ故也。

盜犯ノ探リハ或ハ乞食、行商、賈客、屑屋、勞働者トナリテ被害者方ニ來リ、恁クシテ本犯ハ空巢狙、空家荒シ、忍込盜、強盜、搔拂、旅館盜等ヲ犯ス。

我國ノ住宅ナルモノハ建築上殆ント同型ノ簡單ナル設計ニ於テ建テラルルコト多キカ故ニ、熟練ナラサル盜犯ト雖、一、二回被害者方前ノ道路ヲ往復シ、且一度行商人ヲ裝ヒ犠牲者方ノ玄關又ハ勝手口ヲ訪ヘハ、其戸窓ヲ通シ或ハ屋根ノ恰好、煙突ノ關係等ヨリシテ、室ノ間取り連絡等屋内ニ於ケル大凡ノ狀態ヲ認知シ、推測スルコト易々タルモノアリ。若シ通行シタルノミニテ十分ナル觀察ヲ遂クルコト能ハサルトキニハ、其附近ニ於テ何等怪マレスシテ多クノ時間ヲ經過シ得ヘキ個所ヲ撰ミ其所ヨリ探リノ眼ヲ瞠ル。近所ヨリノ探偵ニテハ到底自己ノ仕事ニ利用スヘキ總テノモノヲ認知スルコト能ハスト知ルヤ、彼等ハ尙一層接近關係ヲ密ナラシメンコトヲ企ツ。此目的ノ爲メニ假令ハ共犯者ノ一人ハ僕婢ヲ裝ヒテ住込ミ、又ハ其家ノ僕婢ト戀愛關係ヲ結ヒ、此者ヲ利用シテ探索ヲ恣ニスルカ如シ。

吾人ハ盜犯ノ搜查ニ當リ先ツ探リノ點ニ若眼スルヲ以テ極メテ價值アル處置ト謂フヘシ。何トナレハ多クノ事件ニ於テハ本犯自身ヲ認ムルコトヲ得サルヲ通常トスレトモ、右ノ方針ニ依テ始メテ少クトモ先ツ盜犯ノ仲間ノ一人ヲ發見スルコトアリ得ヘキカ故也。

若シ被害者カ探リノ嫌疑者タルモノニ付テ語ルコトヲ得ハ、其者ノ當時ノ行動其他ヲ出來得ル限リ精密ニ明白ナラシムルヲ肝要トス。

然シナカラ余ハ如何ナル小竊盜ニ於テモ常ニ悉ク探リノ先行ヲ必然トスト謂フモノニハ非ス。盜犯ノ種類ト性質ト程度上、探リナル豫備行為ナクシテ突然又ハ單簡無難作ニ行ハルルモノモ、亦尠ナカラサルハ言ヲ俟タス。

### 第二 準備行為

盜賊カ犯罪決行前、時トシテ實行ニ必要ナル準備行為ヲナスコトアリ。而シテ是等ハ探リ行為ト同様刑事家ニトリテ極メテ重要ナルヘシ。何トナレハ之レニ依テ捜査上一ノ端緒ヲ捉ヘ得ヘケレハナリ。

忍込盜、侵入強盜ノ準備行為トシテ、特ニ注目スヘキハ凡ソ左ノ如シ

- (1) 家族、雇人ノ誘出
- (2) 合鍵ノ製作
- (3) 畜犬等ヲ無効ナラシムコト

### 第三 本犯ニ對スル補助行為

盜犯ノ著手ニ際シ本犯ヲ補助スル行為ハ、亦盜犯ヲ容易ナラシメタル事情ノ一ト云フヲ得ヘシ。何トナレハ或種ノ盜犯ハ寧ロ本犯ニ對スル必要の補助行為トモ稱スヘキ一ノ補助行為ヲ待テ容易ニ行ハレ、此補助ナクシテハ恁ク速ニ又十分ナル效果ヲ收ムルコト能ハサルヘカリシトノ場合存スルカ故ナリ。

就中職業的犯人ハ多クノ共犯者ノ補助ニ於テ行フ。假令ハ萬引、忍込、拘摸、山窩盜、強盜、空巢狙、空屋荒シノ如シ。補助者ニ見張人ト、眞ノ補助者トノ二アリ

#### I 見張人 (「遠見」、「ケンジ」、「ツク」)

見張ニ依ル補助ハ殊ニ空巢狙、忍込盜、侵入強盜、搔浚等ニ於ケル大盜犯ニ際シテ行ハル。見張人ハ本犯人ノ仕事セル家ノ附近ニ立チ、犯行ノ間之レヲ保護シ、危急ノ際ハ豫テ謀シ合セ置キタル一定ノ合圖ヲ以テ逃亡ヲ促ス。(總論第九章、第一節第二、參照)

#### II 眞ノ補助者

見張リ行為ヨリ一步ヲ進メ本犯ノ實行上必要ナル補助ヲ與フル盜犯ノ眞ノ補助者ハ、各種盜犯ノ手段方法ニ應シテ分擔スヘキ仕事ヲ異ニスト雖、捜査上重要ナル意義ヲ有スルモノナルコトハ孰レモ同一也。之レ謂フ迄モナク二人以上ノ活動ハ一人ノ場合ニ比シ、夫レタケ多クノ證據ヲ留ムルカ故ニ比較的發見シ易ク、且ツ共犯ノ一人ヲ逮捕シ得タリトセハ、何人ヲモ檢舉シ得サリシニ比シテ捜査ノ進展ヲ容易ナラシメ、之レニ因テ本犯自身、少クトモ他ノ共犯者ヲモ捉ヘ得ヘキニ至ルヲ以テ也。眞ノ補助者ハ多ク拘摸、萬引ノ常業的盜犯ニ於テ其活動ヲ見ル。

## 第四節 贓品ヨリ盜犯ノ捜査

強竊盜ノ事件ニ於テ犯人カ盜贓品ヲ現ニ所持スルトキニハ其品物カ直チニ彼等ノ犯行ヲ語リ、若シ彼等カ獲物ヲ浪費、賣却、入質等ノ處分方法ヲ講シタル場合ニ於テハ、却テ之レカ爲メニ吾人ヲシテ

盜贓品ノ發見ヲ容易ナラシメ、延テハ贓品ノ第一取得者即盜犯ヲ漸次歸納的ニ遡及シ得ルカ故ニ、要スルニ贓品ノ發見ハ、盜犯事件ノ證據上極メテ重要ナル價值ヲ有スルモノト謂フヘシ。

贓品ノ探索トシテ

(1) 質屋、古物商等ニ對スル捜査(所謂「ナシ割り」)ハ從來熱心ニ行ハルル所ナレトモ、所謂品觸レハ是等ノ商人ニ對シテ發スルニ止マラス、假令ハ金屬商、時計店、書畫、骨董商、銀行、郵便局等ニ對シテモ之ヲ試ムヘキコト肝要也。

(2) 「犯罪ニハ婦人ヲ搜セ」ト謂フカ如キ古キ諺ニ徴スル迄モナク犯罪ノ裏面ニハ婦人潛ミ、大小諸種ノ盜犯モ直接間接殆ント皆女性ニ其禍因ヲ發ス。斯クシテ彼等ハ掠奪シタル贓金及贓物ヲ携ヘ犯後直チニ花柳ノ巷ニ趨リ、自己ノ本能ヲ満足セシメントシ茲ニ於テカ逮捕ノ厄ニ遇フ。畢竟彼等ハ婦人ノ爲メニ犯罪ヲ爲シ、又婦人ノ爲メニ囚ハル、洵ニ定命ト謂フヘキカ。從來行ハレツツアル遊廓、待合、銘酒店、料理屋等ニ就テ、何人カ從來ノ收入ノ程度ヲ超ヘ身分不相應ナル濫費ヲ突然ニ爲スモノアリヤ否ヤノ探偵ハ、毫モ排斥スヘキ理由アルヲ見サルノミナラス、寧ロ一層嚴密ニ此方面ニ於ケル贓品ノ探索ヲ行フヲ策ノ得タルモノト謂ハサル能ハス。

(3) 盜犯事件ノ如キ財産權ノ侵害ニ關スル犯罪ニ際シテハ、或ハ強竊、盜前科者、一羣ニ著眼シ、其中嫌疑ノ最モ濃厚ナル者ノ居宅ニ臨ミ、直ニ贓品ノ發見ニ屢々成效スルコトアリ。之レ財産權ニ關スル犯罪ハ累進的又ハ職業的傾向ヲ有シ、其前科者ハ常ニ同種ノ犯罪ヲ繰返スヲ常態トスルカ故也。然レトモ吾人カ是等ノ者ニ就テ、當時ノ行動、浪費ノ關係、古物商、質屋等トノ取引狀態等ヲ内偵ス

ルニ當リテハ、其者ノ信用名譽ノ上ニ顧慮シ、故ナク之レヲ毀損スルカ如キコトナキ樣嚴ニ警戒スヘキハ勿論トス。

## 第二章 殺人

### 第一節 被害者ノ確定

殺人事犯捜査ノ順序トシテ、發見セラレタル死體人物ハ果シテ何人ナル乎ヲ先ツ知ラサル能ハサルニ、之レカ不明ノ場合甚タ稀ナリトセス。今被害者ノ住所氏名ノ不明ナル場合ニ於テ特ニ注意スヘキハ左ノ諸點ニ在リ。

#### 第一 服裝ニ對スル研究

若シ死人ニシテ洋服ヲ着用セル男子ナルトキハ、之レニ依テ大體其者ノ職業、階級等ヲ推定シ得ヘシト雖、更ニ進ンテ其洋服ノ衣囊、縫目、表地ト裏地トノ間、衣囊ノ蓋等ニ就キ、何等カ注意ニ價スヘキ物ナキヤ嚴密ナル探索ヲ試ミサル能ハス。尙場合ニヨリテハ洋服商ヲ召聘シ型ニ依リ年代。洋袴ノ裁チ方ニ依リ、職業。袖釦ノ附ケ方ヨリ性格、趣好ニ就テノ意見ヲ徵シ。更ニ縞柄ト階級。全體ノ恰好ト裁縫シタル商店又ハ地方。切地ノ品質ト註文者ノ經濟狀態トノ關係。其他知リ得ヘキ一切ノ事項ヲ詳細研究シ置クヘキ也。和服ヲ着用セル死體ニ就テハ信用スヘキ各種ノ和服仕立人或ハ呉服商ノ補助ヲモ得テ、其切地、縞柄、價格、桁丈、袖口ノ幅、胴廻リ等總テヲ取調ヘ其者ノ職業、階級、性格、

地方、趣好ニ關スル大體ノ方針ヲ立テ、捜査ノ範圍ヲ狭小スヘシ。尙衣類ノ裝積、縫目「アゲ」襟ノ中ヲモ限ナク改ムルノ要アルハ勿論也。洋服タルト和服タルトヲ問ハス日常之レヲ著用セルモノハ、其衣類ノ何レカノ箇所ニ於テ職業ヲ語ルヘキ一定ノ痕跡ト共ニ、日常ノ習癖ノ表徴ヲモ止ムルモノナルハ、世人ノ熟知セル處ナラム。

第二 身體ニ對スル研究

I 職業上又ハ身體上ノ特徵

(A) 外部ノ觀察。人ハ各其生業、職務等ニ隨テ自ラ特殊ノ身體上ノ痕跡又ハ變化ヲ不知不識ノ間ニ構成スルモノナルカ故ニ、是レヨリシテ死者ノ生前ノ職業ヲ想像シ得ヘシ。例令ハ労働者ノ掌裡ノ皮膚硬厚、藝人ノ右手ノ指ニ於ケル所謂撥肝<sup>パチ</sup>、仕立職人等ノ年中坐職セルモノニ生スル所謂坐リ肝<sup>カ</sup>、官吏、會社員等ノ絶エス筆ヲ握レル者ノ右手ノ拇指、示指、中指等ニ見ル皮膚ノ濃厚、下婢ノ冬季ニ於テ惱メル凍傷、時計職人等ノ前ニ屈シテ仕事ヲ爲ス者ノ胸籠、醫師カ手術ノ爲メ常ニ指ノ爪先ノ短截セルコト、紺屋ノ指爪ノ黒染、砒素含有工業品ヲ取扱ヘル者ノ皮膚及爪ノ濃潰ノ如ク、實ニ枚舉ニ遑アラサルヘシ。然レトモ單ニ掌裡ノ皮膚ノ硬濃ナルハ坐食者ニ非ラスト云フカ如キ研究ニテハ未タ何等ノ價值ナシ。同シク器具ノ柄ヲ握ルヲ業トスル者ニテモ、其材料ト使用ノ方法ニ依リテハ、手ニ於テ産出サルヘキ肝<sup>カ</sup>ノ場所竝ニ皮膚ノ濃厚ノ状態大ニ異レリ。加之吾人ハ直接職業ノ爲メニ生スル特徵ニ非スシテ、身體上種々ノ痕跡又ハ特徵、目印シテ發見スルコトアリ。例令ハ身體ノ或部分ニ於ケル古キ創傷ノ痕痕、手術ノ痕、灸鍼ノ痕、文身及ヒ文身ニ表ハレタル畫、符號、頭文字、疣、痣、黒

子、瘡癬、手足ノ異狀、痔核、脱腸ノ如キ疾病、全身全部ノ形態、髯ノ有無、金屬ノ義齒其他種々ノ表徴ノ如キ是レ也。

(B) 内部ノ検査。人ハ外見ノミナラス内臟又ハ排泄物等ニ其ノ生業ノ特徵ヲ留ムルコトアルカ故ニ、之レニ依テ亦個人鑑別ノ目的ヲ達スルコトアリ。例令ハ鉛、水銀其他毒物ヲ含有セル工業品ヲ取扱ヒ作業セル者ノ小便又ハ痰唾ヲ試験シテ、毒素又ハ或種ノ塵垢ヲ發見シ、又炭屋、鑛坑ニ於テ労働セル者、石工、銅鐵工作所ノ職工等ハ汚穢セル空氣ヲ呼吸スルカ爲メニ、肺臟ニ各是等物質ノ粉末ヲ貯藏スルコトアルカ如シ。屍體解剖ニ際シテハ此ノ點ニ就テノ注意モ亦決シテ等閑ニ附スヘカラサル也。

II 屍體ノ保存竝ニ其寫真ノ展覽

(A) 若シ容易ニ死人ハ何人ナル乎ヲ判明スルコト能ハサル場合ニ於テハ、當分屍體ヲ其儘保存シ置キ、心當リノ親屬、縁故者其ノ他一般民衆ニ展覽セシムルコトニ依テ貴重ナル端緒ヲ得ルコト亦少カラス。然ラハ如何ニシテ保存スルカ。最簡易ニシテ無造作ナル方法ハ、屍體ヲ氷等ニテ冷却シ腐爛ヲ防止スルニ在リ。

之レニ就テワインガルト氏ハ「バルサル油」ヲ屍體ニ塗布スルコトヲ説ケルカ、ニケフオロ氏等ハ死者ノ顔ノ道具ヲ生前ノ如クナラシメ其腐爛ヲ緩和セント欲セハ、顔ヲ鹽化石灰ノ溶解液ヲ以テ數度洗ヒ清メ、而シテ鹽化「ナトリウム」ヲ以テ浴セシムルコトヲ推奨セリ。尙ドダトル、ゴツセ氏ハ之ニ關シテ次ノ如キ實驗ヲ發表シテ曰ク、死體ノ顔面ニ石灰ヲ擦リ込ミ其層ニ洋紅ヲ塗リ、眼ヲ生キトナサシムル爲メニ「ヨスリン」ノ一滴ヲ點眼シ、恁クシテ顔面ヨリ離レタル顔面ノ「屍體化粧」ヲ爲シ其目的ヲ達シタリト。又「ダクトル」氏ハ顔面ニ石灰ヲ擦リ込ムノ外屍人ノ眼ニ自然ノ色ヲ有スル人工的ノ眼球ヲ挿入シ、以テ寫真ノ撮影ニ對シテ



活氣アル像トナサシムルコトヲ得ヘシト謂ヘリ。之レニ關シテホフマン氏ノ蘇生方法ナルモノアルハ人ノ知ル所ナラム。

(B) 屍體其儘ヲ當分ノ木乃伊トシテ保存スルト共ニ一面之ヲ寫眞ニ撮影シ、場合ニ依リテハ新聞紙ニ掲載シテ民衆ヨリノ報告ヲ求ムヘシ。寫眞ニ撮ル際ニハ特ニ屍體ノ頭部ノ後方及側面ヨリモ寫シ置クコトヲ要シ、尙現場附近ニ存シタル犠牲者一切ノ携帶品、即チ衣服ハ勿論帽子下駄、時計、杖、蝦蟇口等ヲモ共ニ明白ニ寫シ置キ、之レヲ屍體ノ寫眞ニ添ヘテ保存スルヲ注意アル措置ト云フヘシ。特ニ水屍體ノ場合ニハ死體ハ腐敗瓦斯ト表皮ノ分離作用トニヨリテ、往々全ク別人ノ如ク人相ニ於テ甚シキ變化ヲ來スコトアルカ故ニ、立會ノ醫師ニ就キ此ノ死人ハ水死以前ニハ果シテ如何ナル容貌ヲ爲シタルヘキヤヲ、尋ネ見ルコトヲ怠ルヘカラス。

## 第二節 屍體檢視

### 第一款 屍體及衣服ノ狀態

(1) 臨檢ノ當時屍體ハ如何ナル箇所ニ如何ナル狀態ヲ以テ横ハレルカニ就テ綿密ト熱心トヲ以テ十分ノ取調ヲ爲スヘキコト勿論ナルカ、又一面ニ於テ檢視官自ラ屍體ハ果シテ第一發見者カ見タル時ト現時ノ狀態トハ姿勢、位置、著衣ノ工合其ノ他ニ於テ、絲毫ノ變更モナキヤ否ヤヲ審究スヘキ要アリ。若シ多少ノ變動アリタル時ニハ、檢證當時ノ狀態ノ外ニ此ノ最モ肝要ナル發見當時ノ狀態ヲモ調書ニ必ス明白ニナシ、且之カ想像圖ヲモ添附スルノ勞ヲ厭フヘキニ非ス。吾人ノ經驗上臨檢當時ノ屍體ニシテ第一發見ノ際ノ狀態ヲ其儘死守シ居ルハ殆ント絶無ト云フヘシ。或ハ心ナキ野次馬ニ依リ、又ハ親

族ノ爲メニ、時ニハ先行ノ官吏ニ依テ輾轉其ノ位置ヲ變更セラル。

死後四時間乃至十二時間ニ發生スヘキ死斑ハ、死後血液ノ自ラ沈降スルニ基因スルカ故ニ、常ニ屍體ノ横ハレル下部ニ生ス。若シ死斑カ例ヘハ背部又ハ右脇數個所ニ現ハレ居ラハ、夫レ丈屍體ノ狀態ニ變更アリタルヲ吾人ニ語ルモノト知ルヘシ。

(2) 吾人ハ亦衣服ノ狀態ニ就テモ十分ノ注意ヲ拂フヘキハ言フ俟タス。即チ帯ハ如何ナル風ニ解ケ居リタルカ、胸ノ擴ケラレタル恰好、或ハ著衣ノ前ノ亂レタル狀態、袖口ノ破綻等ニ就キ、細心ニ探査スルヲ忽諸ニ付スヘカラス。

### 第二款 身體ニ於ケル死亡前格闘ノ痕跡

#### I 攻撃者ヨリ受ケタル痕跡

(1) 吾人ハ屍體ニ於ケル皮膚擦過傷、爪搔痕ノ場所、形態、大小、其他ヲ精細ニ注意シ。(2) 嚙痕ニ就テモ形態ノ特徴、整列ノ狀況、深淺ノ度合、一ノ齒痕ト他ノ齒痕トノ間隔、特ニ缺損ノ箇所等、屍體ニ附セラレタル一切ノ痕跡ニ就テ研究ヲ要ス。(3) 毛髮、鬚髯ノ攫筆竝ニ頭髮ノ紊亂ハ、(4) 爭鬪ヲ語ルヘキ衣服ノ裂損ノ狀況ト共ニ十分ノ詮議ヲ怠ルヘキニ非ス。

#### II 犯人ヲ攻撃シタル痕跡

(1) 屍體ノ掌中ニ犯人ノ毛髮、衣服ノ裂片又ハ切地ノ纖維、絲屑等格闘ニ依テ獲タル何等カノ物質ヲ握有シ居ラサルヤヲ搜討スヘク、(2) 指又ハ足ノ爪ノ中ニ就テ死人カ爭鬪ノ際犯人ヲ引搔キテ得タル皮膚ノ鱗屑ヲ藏スルヤ否ヤヲ調査スルハ、亦吾人ノ重要ナル責務ノ一ニ屬スヘシ。若シ爪間ニ於テ皮膚

ノ鱗屑ヲ發見シタルトキハ勿論、然ラストスルモ兎毛角屍體ノ爪ノ垢ハ燐寸ノ棒ヲ適當ニ削リタルモノヲ以テ好ク採集シ、一々指別ニ依テ區別シ之ヲ滑カナル紙ニ保存シテ檢鏡ノ材料トナスヘシ。(3)尙被害者ノ齒ニ於テ犯人ノ攻撃ヲ防禦シタルカ如キ痕跡ナキヤ、若シ屍體ノ齒カ何モノカニ嚙ミ付キタルカ如キ形跡アラハ、護謨或ハ石膏ヲ以テ死人ノ齒型ヲ採リ置キ、嫌疑者ノ齒痕ト比較鑑定スルトキノ準備ト爲スコトヲ得ヘシ。

第三款 創傷ノ狀態

身體ニ於ケル創傷ノ部位、性質、箇數、各形狀、大小、方向其他ノ關係ヨリシテ兇器ノ種類銳鈍、攻撃ノ方法、犯人ノ體格、手練、習癖、目的等ヲ推定シ得ヘキカ故ニ、慎重ニ是等ノ點ニ就テ檢究ヲ要ス。尙隠レタル部位ニ於ケル僅カナル傷、例ヘハ口腔、肛門、液ノ下、股間、乳房ノ下、陰門等ニ於ケル微創ヲモ逸スヘカラサルハ勿論也。

第四款 身體ニ於ケル血痕ノ汚點

之ニ關シテ注意スヘキハ左ノ諸點ニアリ。

(イ)血ハ死人ノ如何ナル箇所ヨリ流出シテ如何ナル部位ニ附着シ居ルヤ、(ロ)皮膚上又ハ毛髮等ヨリ血ヲ拭ヒ去ラレタル形跡アリヤ、(ハ)被害者ノ著衣ノ隠レタル箇所ニ血痕ノ附着セルモノナキヤ、(ニ)血痕流下ノ方向如何等即是也。

第三節 殺人行爲ニ對スル兇器又ハ材料 (殺人ノ方法)

第一款 鈍器

杖、棒等ヲ以テ撲殺セラレタル屍體。滾車、電車ニテ轆轤(車轆殺)サレタルモノ。高所ヨリ突キ落サレ大地ニ當リ摧碎(擲死)シテ死シタルモノ。梁木岩石ヲ頭上ヨリ墜サレ壓殺サレタルモノノ屍體ヲ檢シ、法醫ハ鈍器ノ大凡ノ種類ヲ吾人ニ告クル所アルヘシ。然レトモ特ニ此場合刑事家トシテ注意スヘキハ、(1)法醫ハ一ノ銳器ニ基因スル創傷ナル意見ヲ陳述スレト、求ムヘキ兇器ハ實ハ却テ鈍器ナル場合時トシテナキヲ保セス。例ハ籬ノ杵ノ尖端ニ一本ノ釘ヲ藏シタルカ如シ。(2)又皮下直接ニ骨カ存スルトキニハ鈍器ヲ以テ毆打スルモ銳キ縁ヲ有スル切創又ハ割創ノ如キ傷ヲ以テ吾人ヲ欺クコトアリ。(3)撲殺シタル後屍體ヲ鐵道線路上ニ横ヘ置キ轆死ノ如ク裝ヒ、又ハ重キ岩石ノ下ニ横ヘ壓死シタルカ如ク犯跡ヲ晦マサントスル者ニ對シテハ、村醫ノ鑑定ノミニ一任シテハ満足ナル結果ヲ得ル能ハサル場合屢々アリ。

第二款 銳器及尖器

銳器トハ小刀、匕首、庖刀、剃刀、銳利ナル石、硝子ノ碎片、鉋、刀、洋刀ノ類ニシテ、切創、割創ヲ生セシムル兇器ヲ云ヒ。尖器トハ鎗、劍、針、小刀、錐、先端ノ尖レル骨等ノ類ニシテ、刺創ヲ生セシムル兇器ヲ指ス。而シテ殺人ノ多クハ是等ノ兇器ヲ用ヒ斬殺又刺殺スルカ故ニ重要ナリ。  
注意スヘキハ、(1)犠牲者ノ前面ノ傷ハ前方ヨリノミ生セシメタルニ非ス。(2)身體ノ一方ノミノ創傷ハ多ク犠牲者ノ不動的狀態ヲ利用シタルモノナリ。(3)創傷ノ狀態ハ兇器ノミニ限ラス亦用ヒラレタル力ノ強弱ニモ大ナル關係ヲ有スヘシ。(4)一箇ノ行爲ニテ數箇ノ切創ヲ生セシムル場合アリ。(5)銳器ノ

其用ヒ方如何ニ依テハ傷ハ異リテ顯ハルルコトアリ。(6)頭部ノ創傷ニ就テハ切截セラレタル毛髮ヲ檢鏡スヘシ。(7)身體上ノ創ト著衣ノ傷口ト相符合スルヤ否ヤノ吟味ヲ等閑ニ付スヘカラス。(8)特ニ尖器ニ就テ往々刺創ノ深サト其用ヒタル兇器ノ長サトカ符合セサルコトアリ。例ヘハ匕首ヲ以テ柄モ通レト力強ク刺シ貫クトキニハ刺創管ハ實際ノ兇器ノ刃ヨリ深キカ如シ。(9)他殺體ヲ自殺ノ如ク裝フ場合ヲ想像スレハ(イ)殺害後兇器ヲ死人ノ手ニ握ラシメ、又ハ死者ノ兩手ヲ合掌セシメ自殺ナルカ如ク佯ルモノ、(ロ)屍體ヲ鐵道線路ヘ横ヘ置クモノ等はナリ。

第三款 縊、絞、扼殺ノ兇器及窒息致死ノ液體、固體

I 縊殺用器

縊殺用器ト絞殺用器トハ同様物體ニシテ即チ帶、革紐、手拭、頸卷、針金、麻繩、藁繩、棒、禪、切地等トス。

(1)縊殺ノ被害者ハ子供ニ多シ。成年者ニアリテハ熟睡、泥酔ノ場合ニノミ之レカ災害ヲ受クヘキコトヲ想像シ得ラル。(2)縊痕ハ必スシモ常ニ前頸ヨリ耳ノ後部ニ斜行路狀ヲ呈スルモノニ非ス。(3)他殺體ヲ自縊ノ如ク擬裝スル場合ニ身體上ニ死因ト認ムヘキ銳器又ハ鈍器ニ基因セル創傷ヲ發見シタルトキニ於テハ、容易ニ之レカ偽計ヲ看破シ得ヘカラムモ、他ノ方法ニテ窒息セシメタル後死體ヲ自縊ノ如ク裝ヒ懸ケ吊シ置キタルトキニハ、事件ハ甚困難ナリ。此際刑事家自身ハ抵抗ノ痕跡ノ有無ト自縊ニ就テノ可能性如何トノ點ニ關シテ詳檢スルノ本務ニ努力セサル能ハス。例令ハ繩索ノ括リ目及屍體ノ懸吊セル繩ノ不自然ノ弛緩ノ吟味ノ如キハ、後者ノ點ニ對スル一調査タルヲ失ハス。

II 絞殺用器

(1)犯人カ絞殺スル際生セシメタル爪痕ノ詮議ニ就テモ細心ノ注意ヲ拂ヒ、(2)絞メタル溝痕ヨリ兇器ノ特徴ヲ追究スヘシ、(3)時トシテ犯人ハ犠牲者ノ襟ヲ利用スルコトアルノミナラス、(4)絞殺後屍體ヲ鐵道線路ニ横ヘ自殺ノ如ク裝フ場合アリ。

III 扼殺ノ材料

扼殺ハ犯人カ手ヲ以テ被害者ノ喉頭部ヲ扼シテ其目的ヲ達ス。此場合ニハ頸部ニ爪痕又ハ指ニ因ル皮膚剝脱ヲ生セシム。

III 窒息致死ノ液體

河、海、池、井戸等ニ於ケル水。厠間、溝ニ於ケル糞尿、泥水等ノ材料ヲ以テ殺害ヲ企テ、即チ暴力ヲ用テ人ヲ溺死セシムルコトヲ得ヘシ。凡ソ水中ニ於テ發見セル屍體ニ就テ其原因ヲ想像スレハ、大要左ノ如シ。

- (イ) 自殺
- (ロ) 不注意ニ依リ自ラ水中ニ陥リタルモノ
- (ハ) 災禍ノ爲メノ溺死
- (ニ) 病死體
- (ホ) 他人カ過テ被害者ヲ陥ラシメタルモノ
- (ヘ) 他人カ犠牲者ヲ水中ニ投込ミ殺害シタルモノ

(ト) 他人カ被害者ヲ他ノ方法ニテ殺害ヲ企テ生存中尙之レハ水中ニ投シタルモノ  
(チ) 他ノ方法ニテ殺害シタル屍體ヲ水中ニ遺棄シタルモノ

右ノ中後ノ三者ニ就テノミ少許ノ研究ヲ試ムトス。(1)先ツ被害者ヲ水中ニ投込ミテ殺害シタルヤ否  
ヤヲ研究スル場合ニ於テハ肺、胃等ニ存在セル液體ヲ穿鑿シテ溺没ノ場所ヲ判斷スルコトハ極メテ意  
義アル仕事ノ一ニ屬ス。(2)他ノ方法ニテ殺害ヲ企テタル後被害者ノ呼吸ノアル中ニ水ニ突キ落シタル  
場合ニハ、溺死ノ徵候ノ外ニ陸上ニ於テ與ヘラレタル殺害ノ方法ノ痕跡ヲモ認メ得ヘシト雖、水屍體  
ニ於ケル切創様ノ傷痕ヲ以テ直ニ陸上ニ於テ受ケタルモノト速斷スヘカラス。何ントナレハ屍體ノ流  
動中ニ橋杭ニ衝突シ或ハ釘ニ觸レ、恰モ銳器ニテ斫ラレタルカ如キ損傷ヲ受クルコトアルカ故ナリ。  
(3)他殺體ヲ水中ニ投込ミ自殺又ハ災禍死ノ如ク裝ヒタル事件ニ就テハ、法醫ハ屍體ニ液體ノ嚥下吸入  
ナキノ事實ヲ屍體外部ニ於ケル創傷ノ狀況ニ照シ、又ハ内部檢案ノ結果ニ徴シ、其真相ヲ吾人ニ告ク  
ル所アルヘシト雖。(例令ハ液體ノ嚥下ナキニ拘、銳器、銃器、銃器ニ依ル創傷又ハ絞痕アリ、或ハ胃ニ於テ)然シナカラ  
是等重要ナル參考的徵憑又ハ痕跡カ消失損壞シ唯液體不嚥下ノ事實ノミヲ以テ鑑定セサルヲ得サルニ  
至ラハ如何、遂ニハ曰ク。死人ハ水邊ニ於テ急病ノ發作ニ依テ死亡シ其屍體カ水中ニ轉ケ落チタルカ、  
或ハ居宅ニ於テ頓死シタル屍體ヲ家人カ竊カニ遺棄シタルモノナルヤモ知ルヘカラス、要スルニ水以  
外ニ依テ死亡シタルノ事實ハ明白ナルモ他殺カ自殺カ病死カハ結局判明セスト。斯ノ如キ事件ニ於ケ  
ル問題ノ解決ハ一ニ刑事家獨特ノ手腕ニ依ル解剖刀ヲ待ツノ外ナキ場合少ナカラサルヲ知ルヘシ。(4)  
彼ノ姪婦カ惡意ヲ以テ厠圓ノ糞壺中ヘ生兒ヲ産ミ落シテ殺害シタルニ不拘、責ヲ落産ニ轉嫁シ罪ヲ免

レントスル奸婦ニ就テモ、同様刑事家ノ困難ナル捜査ニ依テ究明スルノミナラムカ。(5)屍體ニ在ル懷  
中時計ニ依テ溺没ノ時間ヲ推測シ得ヘシ。

V 窒息致死ノ固體

之レ鼻口ヲ抑閉シテ窒息セシムル、人ノ手又ハ布等ノ材料ヲ指稱ス。

第四款 銃器

銃殺ノ事件ニ就テ法醫ノ研究以外ニ特ニ刑事家ノ注意スヘキ主ナル點ハ左ノ如シ。

I 發射物ノ捜求

(1)彈丸。(イ)彈丸ヨリシテ銃器ハ先裝填カ元裝填カヲ知り得ヘシ。何ントナレハ長形ノ彈丸ハ元込  
メ銃ヨリ、圓形又ハ尖端ヲ有スル短キ銃丸ハ多ク先込メ銃ヨリ發射セラレタルモノナレハ也。(ロ)一ノ  
旋條アル銃器ヨリ發砲シタル玉ハ銃身ヲ通過スル間ニ其玉ニ銃身内部ノ線條ノ痕跡ヲ印スルカ故ニ、  
彈丸ヨリシテ銃器ノ旋條附カ否カヲ知り得ヘシ。(2)丸衣、送り蓋。發砲ノ附近ニ墜落スル霰彈ノ送り  
蓋、又ハ彈丸ノ丸衣カ屢有力ナル物的證據ノ一トナルコトアリ。(3)火藥粒。射入口周邊ニ火藥粉ノ籍  
入セルハ常ニ近距離射撃ノ特徵トノミ早解スヘカラス。彈丸ノ銃身カ好ク適合セサルトキニハ不燃ノ  
火藥粒カ其儘皮膚ニ射セラレハナリ。

II 銃創ノ形態ト射撃ノ距離

普通銃創ノ形態ヨリシテ距離ヲ推定スレトモ常ニ必スシモ當ラズ。(1)極メテ近距離ヨリナサレタル  
霰彈射撃ハ、霰粒カ尙散開セサリシトキニハ恰モ銃丸射撃ノ如キ一箇ノ銃創ヲ生シ得ヘシ。(2)銃器不

完全ナラハ近距離射撃ト雖甚シキ創傷ヲ生セス。(3)銃身ノ内面カ粗ナルカ若クハ鏽附ケル銃器ヨリ發

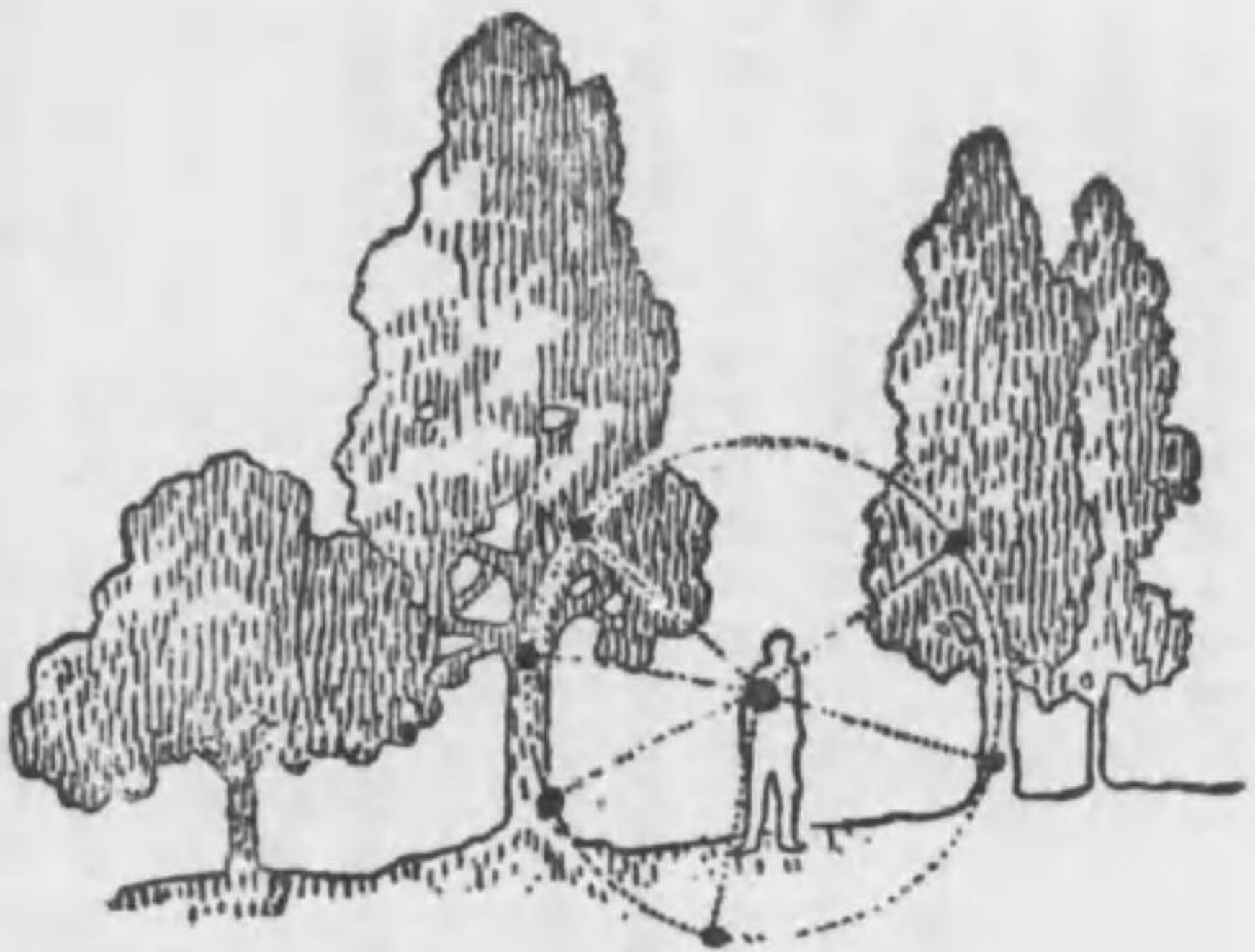
セラレタル霰彈ハ不良ノ銃創ヲ生スルコト往々アリ。

III 特別作用ヲ爲ス彈丸

1) 小口径ノ彈丸ハ、屢々特別不可思議ナル作用ヲ爲シ、(2)先端ノ尖レル彈丸又ハ鐵片、釘等ヲ以テ射撃シタルトキニハ、外觀上ヒ首ノ刺傷ト誤認スル銃創ヲ生スルコトアリ。

III 射撃ノ方向

(1)犠牲者カ射撃ヲ受ケタル當時ノ姿勢ヲ既ニ知ルコトヲ得ハ、銃創ノ射入口及射創管ノ關係ヨリ銃丸ノ襲來シタル大凡ノ方面ヲ推測シ得ヘク、又若シ彈丸カ或ル物件ヲ貫通シ然ル後被害者ニ命中シタルカ如キ近距離射撃ノ場合ニハ、被害者ノ射入口ト物體ノ貫通點トヲ連絡シ、之レヲ延長シタル一線上ニ發射點ヲ求ムルコトヲ得ン。(2)霰彈射撃ノ場合ニハ撒布セラレタル各箇ノ彈粒ヲ搜集シテ射撃ノ方面ヲ決定スヘク、尙此ノ場合ニ霰彈射撃ノ想像上ノ中央線ヲ確定スルコトヲ得ハ仕事ヲシテ極メテ意義アラシムルモノト云フ



(定確の中央の撃射彈霰)

ヘシ。(3)跳射ノ場合ニハ彈丸ノ衝突、轉向ノ箇所ヲ檢定スルヲ要ス。

V 他殺ヲ自殺ノ如ク擬裝スル場合

他人ヲ射殺シタル後ニ屢々犯人ハ犠牲者ノ掌中ニ銃器ヲ握ラシメ、恰モ自殺シタルカ又ハ被害者カ却テ先ツ不法ノ攻撃ニ著手シタルモノナルカ如ク、裝フコトナキヲ保セス。時トシテ又犯人ニ非サル第三者カ自己ノ無責任ヲ掩蔽センカ爲メ、又ハ自己ニ對スル嫌疑ヲ豫メ避ケントシテ、他殺體ヲ自殺ノ如クニ後ヨリ裝ヒ置クコトアルヲ想像スヘシ。

第五款 毒物

毒殺ノ材料タル毒物ニ就テハ先ツ醫師、顯微鏡家、化學者、博物學者等ノ鑑定ヲ俟ツニ非スンハ、吾人カ如何ントモスルコト能ハサル場合屢々アリ。サレト犯人ヲ檢擧シ事案ヲ結局明白ナラシメ得ルヤ否ヤハ、鑑定人ニアラスシテ實ハ刑事家ノ手腕ニアルコト多言ヲ要セス。

I 毒殺事件ト鑑定人

吾人ハ既ニ檢屍ノ際醫師ノ外ニ博物學者或ハ化學者ヲモ同行シ、探證行爲ニ關シ之カ補助ヲ藉ルコトヲ便宜トスヘシ。尙專門家ニ毒物ノ鑑定ヲ求ムヘキ場合ニ於テハ可成速ニ豊富ナル材料ヲ交付スルヲ緊要トス。

II 毒物種類ノ捜査

毒殺事件ニ於テハ先ツ刑事家カ凡ソ如何ナル毒物カ使用セラレタルカノ點ニ就テ捜査スルヲ必要トス。之レ鑑定人ヲシテ無用ナル手數ト煩瑣ナル仕事トヲ避ケシメンカ爲メナリ。

(1) 普通用ヒラルル毒藥ハ多ク無味無臭ノモノヲ選マル。(2) 家政用品中ニモ毒物アリ。例令ハ殺鼠劑、燐寸ノ棒ノ火藥ノ如シ。(3) 廣ク想像シ得ラルル範圍ノ毒草ニ就テモ亦之レヲ問題ニ置カサル能ハス。

III 毒物又ハ毒物混和ノ飲食物ノ殘餘ハ勿論、被害者ノ嘔吐物ニ就テ入念ノ蒐集ヲ要ス。之レニ關シテ、普通使用セラルル毒物ノ外觀ヲ平素ヨリ知悉シ置クハ、用意周到ナル刑事家ノ一責務ト云フヘシ。

III 被害者ノ範圍

家族ノ中ニ一人ノ毒死者アリタルトキニ於テハ、其餘ノ家族ニモ亦同様ニ毒物ヲ盛リタル形跡ナキヤ否ヤノ調査ヲ忽諸ニ付スヘカラス。

(1) 個人的素因ニ依ツテ毒物ノ作用ヲ異ニスルノミナラス又年齢ニ因テ毒物ノ感受性ヲ異ニス。

(2) 使用ノ條件ニ依テ毒物ノ效用ヲ別ニスル事情ヲモ知ラサルヘカラス。例令ハ或ル劇毒物モ或ル物ト共ニ攝取スレハ無毒ニ變シ、又服用者ノ胃ニ食物ノ充滿セルヤ否ヤハ毒物ノ效力ヲ左右ニスルカ如シ。

V 毒殺事件ノ犯人ハ婦人又ハ女性的男子ニ多シ。

VI 毒瓦斯

第六款 火 熱

犯人ハ火焰、熱固體、熱液體、熱氣等ノ材料ヲ以テ被害者ノ身體ヲ火傷セシメテ死ニ致スコトアルモ實際トシテハ極メテ稀ナリ。

(1) 火燒ニヨル他殺ノ方法トシテ三、四ノ場合ヲ想像シ得ヘキモ、(2) 殊ニ注意ヲ要スルハ他殺體ヲ火

ニ置キ災害燒死ニ擬裝シ、又ハ犯跡ヲ掩ハムトスル事件ニアリ。

第七款 電 氣

吾人ハ既ニ吾國ニ於テ電氣ヲ利用シテ人ヲ殺害セムコトヲ企テタル犯人アルヲ知レリ。是等ノ事件ニ於テハ先ツ電氣事業ニ關係アル者ノ範圍内ヨリ、搜查ヲ始ムルヲ以テ捷徑トスルニ似タリ。

第八款 寒氣 飢饉

是等ノ手段ニ供セラルル兇行ノ被害者ハ殆ント嬰兒ナルヘシ。

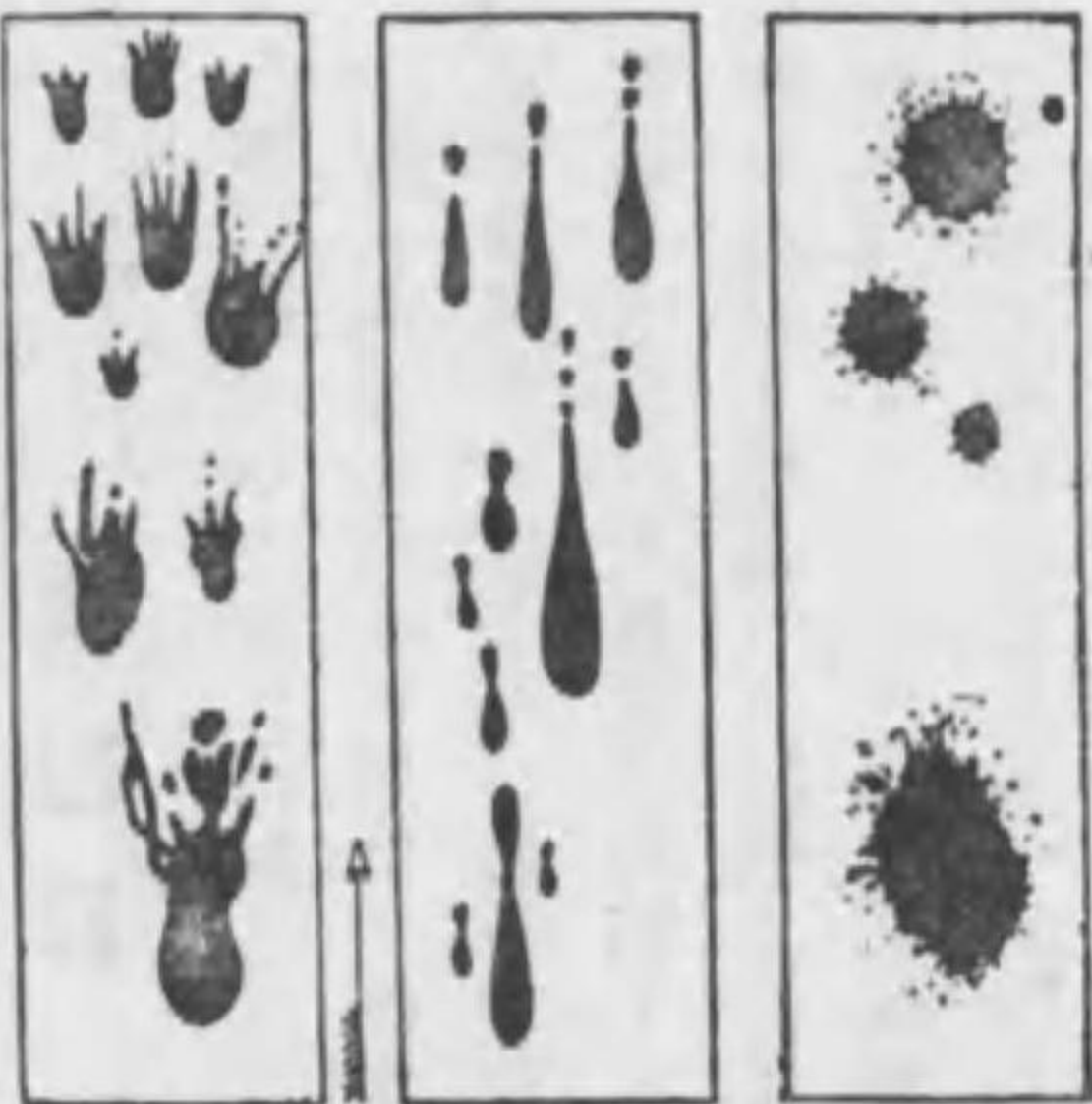
第四節 血 痕

I 穿 鑿

(1) 殺人現場ニ於ケル血痕ノ搜索ニ關シ、吾人ノ爲メニ重要ナル補助ヲ與フルハ擴大鏡、燈光、及ヒ寫真ニ如クモノナケム。是等ヲ利用シテ疑ハシキ箇所又ハ物體ヲ細密ニ搜索スルトキニハ、肉眼ニ於テ看過スヘカリキ血痕ノ些點ヲモ明ニ其正體ヲ暴露セシムルコトアルヘシ。尙郊外ニ於テ比較的廣キ範圍ニ血痕ヲ探索スル際最モ信賴スヘキ助手トシテハ、經驗アル獵師並ニ臭覺鋭敏ナル獵犬ノ外待ツヘキモノナシ。(2) 血ハ普通帶紅褐色ノ色彩ヲ有スレトモ、時トシテハ綠色、淡赤色、薔薇色、黑色、青色、或ハ帶白鼠色、又ハ殆ト無色ニ見ユルコトアルヲ忘ルヘカラス。之レハ血痕ノ附着セル、土臺ノ關係ヨリシテ本來ノ色彩ヲ呈セサルノミナラス、年齢、溫度、新舊等ノ關係ヨリ著シク變色スルカ爲也。

### II 血痕附着ノ状態

右、出血者カ佇立セルトキ



左、血カ跳キ飛セルトキ

場所タルハ勿論ニシテ、殊ニ強度ノ出血アルハ此處ニ於テ犠牲者カ太キ動脈ヲ切斷セラレタルモノト知ルヘシ。

### III 血痕ノ内容検査

問題ノ汚點、血カ否カ、血ハ人血カ否カ、人血トセハ如何ナル身體ノ部分ヨリ出テタル血カ、更ニ其血液ノ内容ヲ検査シテ個人識別ニ資スルコトヲ得ルヤ等ノ研究ハ、全然法醫學ノ領域ニ屬スルカ故

中、出血者カ動カセルトキ

(1) 負傷者ノ動靜ニ依リ地上ニ附着スル血痕ノ形状ニ差異ヲ生ス。(2) 動脈ヨリ迸出シタル血ト靜脈ヨリ流出シタル血トハ其附着ノ個所及ヒ狀況ニヨリテ判別セラル。(3) 血痕附着ノ狀況ヨリ殺人現場ヲ推定シ得ヘシ。動脈ヨリ射出セル血ノ迸沫ノ附着セル箇所ハ、犯人カ兇行ニ著手セルトキ被害者ノ居リタル箇所カ致命ノ場所カ、或ハ第一ノ負傷ヨリ致命ニ至ル迄ノ間ニ於テ兎モ角被害者カ一度其身ヲ運ヒタル地點ナラサルヘカラス。然シナカラ吾人ハ屍體ノ横ハレル現場ニ於テ發見スル血ノ噴痕ハ悉ク動脈血ナリトスルモノニハ非ス。何トナレハ犯人カ兇行後兇器ニ滴ル血潮等ヲ振り落トシ其附近ニ散亂スルカ如キ場合ニハ同シク跳痕ヲ呈スルカ故也。尙血ノ滲溜セル箇所カ即チ受傷ノ

ニ茲ニハ述ヘス。

### III 血痕ノ探證。

(1) 最も理想的ナルハ血痕ノ附着セル土臺又ハ物體ト共ニ自然有リノ儘ノ状態ニ於テ押收スルコト之也。(2) 若シ滑カナル表面ニ附着セル血ノ迸沫ノミヲ採取セント欲セハ、模寫用亞麻布ニ「アラビア」護膜ヲ塗レルモノヲ以テ血痕ノ上ニ押附ケ、護膜ノ乾ク前ニ之ヲ引キ剝カシ採取スヘシ。(3) 此際注意スヘキハ血カ既ニ除去セラレタルカ或ハ洗滌セラレムト試ミラレタリトノ證明ハ、血痕自體カ現ニ存在セルト全ク同價值ノ證明ナルカ故ニ、此點ノ穿鑿モ亦併セテ嚴重ナラサルヲ得ス。(4) 尙探證ニ就テ調査、描寫ノ外ニ寫真ヲモ利用シ得ルハ勿論也。

## 第五節 殺人犯者ノ性格

I 殺人事件ニ就テハ凡ソ如何ナル性質ヲ有スル者ヲ之レカ犯人トシテ捜査スヘキヤノ問題ニ就テハ一概ニ論スヘカラサルモ、一般ヨリ之ヲ謂ハハ、(イ) 殺人犯者ハ心ノ冷酷、無情、無感覺ナルモノニ殊ニ多シ。性質不良ノモノノミカ兇行ヲ演スルモノナリト云フカ如ク一般ニ思ハルレトモ決シテ然ラス。如何ニ本質善良ナリト雖モ心ノ底ニ氷ノ如ク冷カナル血ノ一簇ノ潜メル者ニ假スニ機會ト動機トヲ以テセハ、忽チ重大活劇ノ舞臺ヲ演出スヘシ。品性劣等ノ徒ト雖天賦ノ同情心ニ惱マサルモノニアリテハ、非常ノ場合ニ際シテモ激越ナル犯罪ヲ敢行スル能ハサルハ之カ爲メナリ。

(ロ) 感傷、激發的情緒ハ殺人心理中最モ雄タルモノナリ。聰明、穎智ノ思想ノ所有者ニ於テ豫想シ得ヘカラサル關係ニ突發シ吾人ニ一驚ヲ喫セシムルハ實ニ殺人事件ニ在リ。殺人犯ハ瞬間的一種ノ激情ニ因テ時ト處トヲ擇ハス忽チ突發スルヲ得意ト爲ス。特ニ吾人ノ注意スヘキハ嫉妬、復讐心、熱狂、憤怒等ノ激情ナリトス。

(ハ) 精神未熟者モ亦殺人犯ト極メテ接近性ヲ有セリ。彼等ハ十分ナル辨別心ヲ有セス本能ト慾望、感情ノ動搖ニツレテ忽チ虐行ヲ試ムルカ故ニ世ニ精神未熟者程危險ナルハナシ。年齢未タ完カラサルカ、或ハ丁年以上ニ達セル魯鈍低能ノ輩カ屢々重大犯罪ヲ決行スルハ世人ノ知ル所ナラム。其他曰ク殘忍性、曰ク壓迫性、曰ク利己主義ト云フカ如ク此犯罪ニ適格セル氣質ハ二三ニシテ止マラサルハ勿論也。

II 斯ノ如ク殺人犯ハ他ノ犯罪ニ比シ全ク特殊ノモノニシテ一ノ異レル性格ヲ前提ト爲スカ故ニ、今一殺人犯者ヲ物色スル場合ニ於テハ、所謂見込ニヨリ既ニ一度殺人犯トシテ處分ヲ受ケタル者ノ間ヲ見廻ハスモ殆ント目的ヲ達スルコト能ハサルヘシ。但シ強盜殺人ノ場合ノミハ例外ナリ。

## 第六節 動機ヨリ殺人犯人ノ搜索

茲ニハ最モ主ナル動機ノミヲ捉ヘテ少許ノ研究ヲ試ミントス。

### 第一 色情的動機

I 殺人犯ノ得意トセル顧客ハ色情ニ在リ。兇行ニ色情ハ殆ント附キ物ノ觀アルヘシ。色情的動機

ヲ大別シテ、痴情、嫉妬、性的名譽心ノ損傷、失戀又ハ相思者ノ失望、淫亂的愛情ト爲スコトヲ得。

II 何ニ依ツテ色情的動機ヲ認ムヘキカ。吾人ハ被害者ノ人身上ノ關係、現場ノ詳檢、屍體ノ狀態等ヨリ之レヲ決スヘキナリ。茲ニハ被害者ノ人身上ノ關係ニ就テ三四要目ヲ列記スルニ止メントス。

- (イ) 被殺害者カ或ル婦女ノ情夫タル關係ノ有無ニ注意スヘシ。
- (ロ) 次ニ被害者カ或ル男ノ情婦タルモノニ非サルヤノ點ヲ精査シ。
- (ハ) 被害者ノ妻カ他ニ情夫ヲ有スルカノ詮議ヲ逸スヘカラス。
- (ニ) 尙被害者カ既婚者ナルトキ公然又ハ内縁ノ夫婦ノ一方ニ對シテ甚シキ嫉妬家タリシニハ非サルヤ。

(ホ) 被害者ニ對シ猛烈ナル戀情ヲ寄セ居リタル者アラサリシカノ搜索ヲ要ス。

### 第二 憎惡、怨恨、復讐、憤怒

(A) 憎惡。若シ被殺害者カ平素自己ノ嫁又ハ姑ト犬猿齟ナラサル間柄ニ在リタリトセハ、先ツ平素反目セル相手方ニ向ツテ嚴重内偵ヲ要ス。

(B) 怨恨。吾人ハ被害者ノ一身上ノ關係ヲ詳細ニ調査シ、其者ノ職業、性格、社會上ノ地位、經歷、生活方法、經濟上ノ取引關係、朋友及親交ノ範圍、敵視シ居リタル者等ノ事情ヲ究明シ、事件ニ關スル何等カノ端緒ヲ此ノ中ヨリ發見セサルヘカラス。例令ハ商賣敵者、同職仲間ノ中ノ反目者、被害者カ新タニ自己ノ雇人又ハ下僚ノ者ヲ解雇シタル事實ノ有無、金錢上ノ貸借ヨリ怨マレタルノ形跡、他人ノ犯行ヲ官衙ニ密告シタル爲メ或ル者ヨリ反感ヲ買ヒ居リタル事情、他人ノ名譽ヲ甚シク毀損シタル



ル近來ノ出來事ノ有無等ノ穿鑿之レナリ。

### 第三 經濟的動機

經濟的動機ノ兇行ヲ大別シテ強盜殺人、相續上ノ殺人、保險詐欺ニ因ル殺人、扶養義務免脱ノ爲メノ殺人、自己ノ境遇ヲ更ニ善カラシムカ爲メノ殺人、ト爲スコトヲ得ヘシ。

此動機ノ殺人ハ尙被害者ノ人身上ノ關係、犯罪現場ノ詳檢、屍體ノ狀態等ヨリ之レヲ明カニ爲スコトヲ得ヘキモ、茲ニハ人身上ノ關係ノ點ノミニ就テ略記セムト欲ス。

(イ) 先ツ被害者カ財貨ヲ所持セル事實ヲ知レルハ何人ナルカ。而シテ是等ハ普通被害者ト接近關係ヲ有スル者タルヲ常態トスヘシ(此點ニ關シテハ既ニ述ヘタル「被害者ト心的接近關係」ノ研究參照)

(ロ) 被害者ノ死亡ニ因テ直接財産上ノ利益ヲ享クル者アリヤ。假令ハ相續上直接利益ヲ得ヘキ者、又ハ直接保險金ヲ受領スヘキ者、又或ハ被害者ニ對シ何人カ煩ハシキ扶養義務ヲ負擔セル者ノ如シ。

(ハ) 被害者死亡ノ爲メ自己ノ境遇ヲ更ニヨリ好ク爲サシメタル者アラサリシカノ調査モ亦逸スヘカラス。

### 第四 罪證湮滅

人ハ屢々一ノ犯道ヲ行クニ際シテ自己ノ進路ヲ遮キリ、又ハ手足ニ觸ルル所ノ障礙物ヲ、殆ント衝動的ニ忽チ斫リ捨テ、或ハ一ノ輕キ刑罰ニ對スル恐怖ノ念ヨリ全ク豫期セサリシ更ニ重大ナル犯罪ヲ犠牲ニ供シ、自ラ新愁ヲ購フコトアリ。概言セハ罪證湮滅ノ爲メニ犯サル殺人是レナリ。罪證湮滅ノ動機ヲ假リニ大別シテ、犯罪發覺ニ對スル恐怖、逮捕ノ免逸等トスヘシ。此ノ點ニ就テ殊ニ注意スヘキハ。

(イ) 被害者ト面識アル者、

(ロ) 被害者ノ嘗テ犯セル或ル犯罪ノ共犯者

(ハ) 逃走、竊盜、強盜、強姦等ヲ目的トシタル犯人ニシテ犯罪ノ露顯ヲ恐レタルカ、又ハ犯跡ヲ晦マサントセル者。

(ニ) 逮捕ヲ免レントセル或ル犯罪者等ノ一群ニアリトス。

### 第五 迷信

方今著シク發達セル科學ノ力ハ何等根據ナキ古來ノ傳説ヲ征服シ未タ以テ不合理ナル迷信ノ妖怪ヲ退治スルコト能ハサルニヤ、國ノ東西ヲ論セス諸般ノ人事ニ關シテ吾人ハ常ニ迷信ノ影ヲ見ル。迷信モ擬ツテハ遂ニ人ヲ殺害スルニ至ル。迷信ニ因ル殺人ノ動機ヲ大別スレハ、人間ノ身體ノ或ル部分又ハ血カ神祕的ノ效果ヲ生シ得ヘキモノト信スル場合、呪禁、宣託、傳説ヲ實行スル場合等トナスヘシ。捜査上注意スヘキハ。

(1) 被害者ハ或ル疾病ニ罹レル者ニ非サルヤノ人身上ノ關係。

(2) 犠牲者ノ身體ノ如何ナル個所カ損傷セラレ居ルヤノ屍體狀況ノ詳檢之レナリトス。

迷信ヲ動機トスル殺人捜査ハ要スルニ困難ナリ。原因カ常識ノ豫想圏外千里ノ邊ニ存スルカ故ニ事犯ノ正鵠ヲ射ルコト甚タ容易ナラス。若シ吾人カ他ノ各動機理由ノ見地ヨリ又ハ普通ノ觀念ト推理力ヲ以テシテ全然不可解トスル事件ニ於テハ、最後ニ當リテ試ミニ此動機問題ノ答案ヲ徵スルノ手續ヲ

怠ルヘカラス。

### 第六 精神病

精神病学ニ關スル専門的研究ハ暫ク措キ、吾人刑事家カ精神病ヲ原由トスル犯罪捜査ニ關シテ謂ハントスル所ハ、被害者ノ人身の關係、犯人ノ關係、屍體ノ狀況研究等ニ過キス。

(1) 被害者カ骨肉、姻親ノ者ヨリ殺害セラレタル場合ニ於テ動機ニ極メテ明瞭ヲ缺クコトアラハ、其ハ精神障礙ノ結果ニ非ナルヤ否ヤニ就テ間斷ナキ注意ヲ保タサルヲ得ス。

(2) 癲癇病者、「ヒステリー」患者、神經衰弱症者、精神錯亂者、其他世人カ平素ヨリ狂者ナリトシテ了解シ居ル或ル疾病患者カ、衝動、無原因ニテ殺人ヲ決行シタル場合ニ於テハ、問題ハ極メテ容易ニ解決スヘシ。

(3) 屍體ノ狀況上被害者カ最モ慘虐ナル創傷ニ因テ殺害サレタルトキニハ、狂的動機ノ一方ニ向ツテ眼ヲ注クコトヲ怠ルヘカラス。

精神病者ノ事件ニ於テハ結局法醫ノ鑑定主文ニ依ツテ事件ヲ終結スルヲ常トス。而シテ法醫ハ一件記録上ニ現ハレタル被告人ノ精神病の遺傳歴、既往歴ヲ調査シ、之レヲ被告ノ身體的又ハ精神的現在症候ニ照シ、綜合シテ最後ノ判斷ヲ爲スニ外ナラス。果シテ然ラハ巡査ノ捜査復命書、司法主任ノ聽取書等ニ於テ是等ノ點ノ取調ニ苦心ノ痕跡深キニ從テ、夫レ丈ケ醫家ヲシテ鑑定ノ正鵠ヲ射サシムル所以タルヲ知ラサルヘカラス。

### 第七節 殺人事件ト自殺

凡ソ殺人ハ捜査最モ困難ヲ極メ而カモ華ヤカナル重大事件ナリ。故ニ屢々世俗ノ問題ニ登ルモ多クハ殺人事件トス。吾人カ自殺トシテ檢案シタル屍體ニ他日手ヲ下シタル犯人現ハレ、殺人事件ト認メタルモ實ニ自殺者ノ狂言ニ過キサルコトナキニ非ス。前者ハ所謂「不思議ナル死」原因不明ノ自殺人」等ト稱セラルル自殺事件ニ於テ苦キ經驗ヲ嘗ムルコト多ク、後者ハ自殺者カ遺族ノ爲メニ保險金等ヲ救ヒ置カント欲シタルカ如キ場合、或ハ自殺者ノ親族カ世間ニ對スル不面目ト疑惑トヲ回避セムカ爲メ、又或ハ保護人、看守人等カ自己ノ責任上ヨリ死亡者ノ自殺ノ事實ヲ掩蔽セムトスルトキ、自殺現場ニ他殺的背景ヲ偽造スル場合アリ。

以下自殺ノ確徵ニ就テ二三ノ研究ヲ試ムトス。

#### 第一款 變死ノ方法並ニ屍體ノ狀況

##### I 自殺ト兇器ノ關係

(1) 自殺者ノ武器、材料ノ選擇。鈍器ニ因ル死亡ハ大ナル或然性ヲ以テ他殺ニ就テ推測シ得ヘキモ、窒息死ヲ生セシムヘキ繩索ニ至リテハ之レヲ使用スル方法ニ就テ自ラ差異アリ。若シ絞用ノ具ニ供セラレムカ他殺ト認ムルモ大過ナク(例外ナキニアラス)縊死ノ必要材料タル場合ニハ先ツ大體ニ於テ自殺ト見テ可ナルカ如シ。高所ヨリ墜下シテ死亡スル者ハ多クハ自殺者タルナリ。毒物死ニ就テ自殺者ハ特ニ不快ナル味又ハ甚シキ惡臭ヲ有スル物ト雖好シテ多量ニ服用スル點ハ他殺ニ見ラレサル一點

ナリ。而シテ自殺者カ兇器又ハ材料ヲ選擇スルヤ因縁アリ、理由アリ、即チ自殺ノ方法モ死亡者ノ人柄ニ對スル關係ニ於テハ全然無頓著ノモノニアラサルコトヲ注意スヘシ。吾人ハ此ノ點ニ關シ自殺ノ方法、選擇セル兇器ハ其ノ者ノ年齢、男女ノ性、平素ノ氣質、性格、職業、經歷、地位、境遇等ニ能ク相應セルヤ否ヤニ就テ深ク省慮スヘキ也。

## (2) 兇器ノ状態

(イ) 銃器。自殺者ノ屍體ノ傍ニ於テ發見セラレタル銃器ニ就テハ死者カ眞ニ之ヲ發砲シタル確的ノ痕跡ヲ止ムルヤ否ヤノ穿鑿ヨリ著手セサルヘカラス。死亡者カ銃器ヲ手中ニ握持シ居ルトキニハ、是レ其者ハ既ニ生存中ニ持テ居リタルノ特徴ニシテ、即チ自殺ト見ルヘキ一ノ證據ナリ。吾人ハ屍骸ノ手中ニ一ノ武器ヲ挟ムモ死カ之ヲ握持シタルニ固持スルカ如ク見ユル程度ニ決シテ握マシムルコト能ハス。銃器カ破裂セラレアルトキハ先ツ自殺カ行ハレタル證據左ト見テ可ナルヘシ。屍體カ屋外ニ於テ發見セラレタル場合ニ於テ其ノ附近ニ一ノ銃器存在セサリシトスルモ、之ヲ以テ直チニ自殺ニ非スト斷定スルハ聊カ早計ナラム。何ントナレハ自殺者ノ武器ハ屢々迷信上ヨリ竊取セララルコトアルノ事情等ヲ想像スルカ故ナリ。

(ロ) 斬器、突器及鈍器。自殺者カ使用シタル是等ノ兇器カ果シテ創傷ノ形態、性質ト能ク符合スルヤ否ヤノ検査ニ止マラス、刃毀レ、鈍器ノ突起等ノ如キ兇器上ニ存スル特徴カ創傷ニ於ケル是等ノ影響ト適合セルカヲ究メサルヘカラス。自殺者ノ刃物ニ於テ少シノ血痕モ發見スルコト能ハサルハ、即チ他殺者ノ一狂言ナリト直ニ論斷スヘカラス。何トナレハ傷痕ヨリ兇器ヲ抜き出スニ際シ身體ニ於

ケル脂肪組織又ハ衣服ニ依ツテ血痕ノ拭ヒ取ララル場合アルヲ以テナリ。

(ハ) 縊用器。縊死ニ使用セラレタル繩、帶等ノ物ハ果シテ自殺者ノ所有ニ屬スルヤ、繩ノ結ヒ目ハ死亡者ノ職業上ノ慣行ヲ語レルカ、首ノ周圍ニ置カレタル繩ハ不合理ノ弛緩ナク執レモ緊張セルヤ等ニ就テ吾人ハ充分ナル注意ヲ要ス。

## II 自殺屍體ノ狀況

(1) 創傷ノ状態。(イ) 自殺者ノ創傷ハ殆ント常ニ身體前半面又ハ横側ニ在リト云フモ不可ナシ。前面殊ニ咽喉、心臟、腹部ニ於テ最多ク之ヲ見ル。若シ疑ハシキ場合ニ於テハ試ニ死人ノ手ニ武器ヲ握ラシメ夫レヲ以テ負傷ノ箇所ニ達シ得ルヤ否ヤヲ検査スヘキナリ。而シテ銃器ヲ以テ自殺セルモノハ原則トシテ自己ノ額、額、口、心臟ヲ射撃シ、突刺ノ方法ヲ執ルトキニハ貴要部ノミヲ一、二回突クヲ常態トスヘク。尙自殺者ノ身體ニハ皮下溢血其他ノ抵抗ノ痕ヲ留ムルコト殆ント稀ナリ。

(ロ) 自刎者ノ頸部ニ於ケル創口ハ通常左上方ヨリ右下方ニ向ツテ進行スルカ故ニ、創傷ノ方向ニ關スル檢按モ亦極メテ重要ナリ。但左手利者ハ右上方ヨリ左下方ニ向ヘル傷狀ヲ作ルヘシ。(ハ) 瘡傷ノ少數ナルコトハ即チ自殺者タル證據トナルモノニハ非ス。何トナレハ自刎者カ狼狽ノ結果、主創ノ傍ニ數多ノ輕度ノ切創ヲ生セシムルコトアレハナリ。而カモ表面上ノ切創カ互ニ竝行シテ同方面ニ走レルトキニハ殊ニ自殺ト推測スヘキ理由アリ。又自殺者ハ苦痛ヲ成ルヘク輕減セムコトヲ欲シ、例令ハ一ノ刺傷一ノ切創ト云フカ如ク種類ヲ異ニセル數個ノ輕キ創ヲ生セシムルコトアルヲ知ルヘシ。更ニ又自殺者ハ種類ヲ異ニセル兇器材料ヲ共ニ使用スル場合アリ。例令ハ短刀ヲ以テ咽ヲ搔キ切りタル

後繩索ニ依テ縊死ヲ企テ尙目的ヲ達セサルヤ自己ノ頭部ヲ岩角ニ撲リ附ケ、然ル後水中ニ身ヲ投スルカ如シ、終リニ喧嘩負傷後憤慨シテ自刃シ、又ハ醉後暴行ヲ恣ニシテ自ラ多クノ負傷ヲ爲シタル末、自縊ヲ企ツル者アルコトモ度外ニ措クヘカラス。

(2) 身體ノ狀況。銃死ノ場合ニ死亡者ノ手カ若シ火藥ノ爲メニ黒染セル跡ヲ證明セハ自殺ノ信號ト認定シテ誤ナシ。刃物ニヨル自殺者ハ先ツ立位又ハ坐位ノ姿勢ヲ取ルカ故ニ鮮血ハ其前面胸部ヲ沾スヲ常トス。尙自殺屍體ノ全部ノ狀況ヲ具サニ觀察シ、若シ屍體ノ光景ノ成立、順序、方法等ニ於テ何處カノ點ニ一ノ不可能、不合理、矛盾、不確實、困難ナル事情ノ潜メルモノアラハ、十分ノ疑念ヲ挿ムヘキ必要アルハ勿論ナリ。

(3) 衣服ノ狀態。變死者ノ負傷セル箇所ニ於ケル衣服ノ開排アルトキハ一ノ自殺ヲ推測シテ可ナリ。但シ其變更ハ他殺者カ犯後特ニ企テタルノ形跡ナキ場合ニ限ルハ言ヲ俟タス。

### 第二款 自殺者ノ人的關係

(1) 先ツ自殺者ノ性格、行動ニ付テ調査スヘシ。自殺者ノ平素ノ氣質、性格カ果シテ自刃ヲ爲スニ適當セル程小膽、陰鬱、感傷的ノモノナリシカ、嘗テ自殺ヲ圖リタルカ、又ハ家族中發狂又ハ自害シタルモノアリシヤ、殊ニ死亡前最後ノ瞬間ニ於ケル行動竝ニ氣分ハ如何ナリシヤノ點ニ注意ヲ拂ハサルヘカラス。

(2) 自殺ノ意思表示竝ニ死後ニ對スル特別行爲ニ關シテ研究ヲ要ス。自殺者ハ原則トシテ、自殺スヘキ意思決定ヲ何等カノ手段方法ニ依ツテ何人カニ通知スルヲ常トス。然シナカラ遺書ヲ發見シタル時ニハ其者ノ眞筆カ偽造カニ就テ十分ニ穿鑿スヘシ。此ノ場合ニ筆紙等ノ出所ヲ究明スルコトハ肝要ニシテ、若シ死人ヲ其ノ住居ニ於テ發見セルトキニハ現存セル費ヒ殘シノ紙ト書置キノ紙トヲ容易ニ比較スルコトヲ得ヘク、戶外ニ於テ死體ヲ發見シタルトキニモ同様此ノ調査ヲ怠ルヘカラス。更ニ進ンテ吾人ハ死亡ト同時ニ死人カ爲ササルヘカラスト認メラルル所ノ總テノ事項、關係ヲ如何ニ整理シ置キタルヤ否ヤノ點ヲ研究セサルヘカラス。

(3) 自殺ノ動機トシテ見ルヘキモノアルカ。例令ハ不治ノ疾病、不具、家庭ノ不和合、家計窮乏、非常ナル損失、刑罰ニ對スル恐怖、恐喝者ノ追求、悲觀厭世、大失策ニ關スル他人ヘノ申譯、將來ノコトノ苦慮、怨恨上他人ヘノ面當、雇主又ハ父兄ノ懲戒、譴責、痴情、嫉妬、情死、離縁ヲ悲ミ、私通姪娠ヲ憂ヒ、結婚ヲ忌ミタルカ爲メ、前非ノ悔恨、慚愧、親族ノ不行跡又ハ死亡ノ愁歎等ノ事情之レナリ。

(4) 自殺ト四圍ノ關係モ亦逸スヘカラサル檢究タルヲ失ハス。吾人ハ日常自然勢力カ人類ノ心神ニ對シテ緊切ニ影響スルノ事實ヲ容易ニ經驗スルカ故ニ、季節及曆月、氣候、氣象學的變化、月ノ盈虧、時刻等カ自殺ニ對シテ何等カノ感應ヲ與フヘキモノアルヲ想像スルト共ニ、一面社會的關係、事情等モ亦自殺者ノ行動ヲ強迫セル覆面ノ刺客タルヲ信セントスルモノ也。然シナカラ是等ノ實際問題ハ極メテ困難トス。從ツテ捜査上之レヲ憑據トシ自他殺ヲ判斷セントスルカ如キハ殆ント不可能ナリ。唯吾人ハ捜査著手ノ當初ニ於ケル一ノ參考資料ニ利用セント欲スルニ過キサルヘシ。

(イ) 自殺ハ晚春夏季ノ交ニ多シ。我國ニ於テハ七月、六月、五月ハ他ノ曆月ニ比シテ最も自殺多

ク歐洲諸國ノ統計ニ徴スルモ同様五、六、七ノ此ノ三ヶ月カ自殺ノ數ニ於テ他ニ秀ツルヲ知ル。國ノ東西ヲ論セス自殺數ノ順序ハ夏、春、秋、冬トナレリ。而シテ自殺者ハ死ニ對スル苦痛ノ激烈ナラサル手段ヲ考フルカ故ニ、夏季ハ皮膚ニ寛和ナル入水ノ方法ヲ採リ、冬ハ首吊ヲ行フ。

(ロ) 屋外ニ於ケル自殺者ハ所謂自殺場ヲ擇フ。自殺者ハ古來ヨリ自殺場トシテ言ヒ傳ヘラレタル箇所ヲ以テ死所ト爲スヲ多シトス。死神ノ逍遙セル所ト里人ノ命名セル場所即チ之ナリ。是レ場所カ人ニ對シテ暗示ヲ與フルニ因ラスンハアラス。尙自殺者ハ死後ニ對スル一種ノ名譽心ヨリ、若シクハ死ノ舞臺ヲシテ醜カラシメサランカ爲メ、或ハ遠ク人目ヲ避クルノ目的ヨリ、神社、佛閣、靈山、大河、名所、舊蹟又ハ因縁アル森林、丘嶽等ニ於テ自刎スルコト多キハ亦注意ニ價ス。

(ハ) 日ト時刻、天候、氣象ハ果シテ自殺ト關係ヲ有スルカ。

### 第三章 偽造罪

凡ソ竊盜、殺人、放火ト云フカ如キ臨檢犯ニシテ所謂原始的犯罪ハ、累年漸次智的犯罪ニ接近シ、愈々益々精神的ノ巧妙ヲ加味セントスル傾向ヲ有スルハ、識者ノ等シク看取スル所ナリ。是レ人文ノ發達、社會狀態伸展ノ趨勢カ醸成スル副作用ニシテ、蓋シ避クヘカラサル社會現象ノ一トモ稱スヘシ。原始的犯罪ニ於テ既ニ然リ。偽造罪詐欺罪ト云フカ如キ不臨檢犯ニシテ原來智的犯罪トシテ此世ニ生レタルモノカ、近來愈自己本然ノ發達ヲ遂ケ益々技巧ノ度ヲ深ウスルハ、寧ロ當然ノ事理ト解セサル能ハサルモ、吾人刑事家ハ之レカ爲メ一層ノ困難ヲ感スルナリ。

偽造罪ノ捜査ニ就テハ文書、印章、通貨ノ三種ニ別テ以下之ヲ略説セントス。

#### 第一節 偽造、變造ノ方法

##### 甲 文書偽造、變造ノ方法

I 肉筆ニ依ル偽造。世ノ文書偽造ナルモノハ多ク此種ノ偽造ニシテ、假令ハ借用證書、約束手形、委任狀、登記申請書類、信書其他諸種ノ文書ヲ或ハ鉛筆、ペン、毛筆ヲ以テ他人名義ニ於テ擅ニ作成ス。而シテ之ヲ作成スルニ際リテハ、(1)被偽造者ノ作成ニ係ル一ノ眞ノ文書ヲ手本トシテ白紙ニ先ツ鉛筆等ヲ以テ字形ノ輪廓ヲ記載シ置キ、然ル後ペン又ハ毛筆ヲ以テ其上ヲ辿リテ眞正文書ノ如キ文字ヲ模寫シ、斯クシテ新ニ一ノ偽造文書ヲ作成スルカ。(2)眞正文書ヲ假リニ窓硝子ニ貼付ケ、其上ニ白紙ヲ當テ透視シテ文字ヲ寫シ取ルカ。(例令ハ手形上ノ署名ヲ偽造手形ニ寫シ取ルカ如シ)。(3)眞正文書ノ眞正ナル署名ノ部分ヲ切り取り、之レヲ偽造文句ノ記載シタル他ノ紙片ヘ巧ミニ糊ニテ繼キ合ハシ一ノ偽造文書ヲ完成スル也。

II 肉筆ニ依ル數字ノ變更、(變造) 文書上ノ數字ニ對シ筆ヲ加ヘ更ニ大ナル數字ニ變造セララルコト甚タ尠ナカラス。例令ハ1、4、7、9ニ、一ノ字ハ八以外ノ數字ニ或ハ三ノ字ハ五ノ字ニ、容易ニ變造セラル。斯クノ如キハ借用證書又ハ手形等ニ於テ常ニ之ヲ見ル。

III 既成文書ノ一部抹消ト新記入變造。是ニ就テハ犯人カ機械的方法ヲ以テスル場合ト化學的方法ニ依ル場合トアリ。(A)機械的方法トハ即チ厚キ洋紙等ヨリ成ル文書ノトキニハ小刀カ或ハ削リ護謨ニ

テ文字又ハ數字ノ或部分ヲ削リ去リ、其部分ハ糊ヲ敷クカ樹脂ヲ塗リテ元ノ如ク滑カナラシメタル上ヘ更ニ他ノ字ヲ新タニ記入シ變造ヲ完成スルカ、或ハ又削リタル箇所ノ裏面ニ薄キ紙カ亞麻布ヲ巧ニ糊著ケトシテ裏打シ、削去ノ爲メ薄クナリタル層ヲ厚クス。(B)化學的方法ニ依ル變更トハ即チ「インキ」ニテ書キタル字ヲ藥品ニテ消シ取り、其箇所ニ隨意ニ字ヲ記入シ變造スルヲ謂フ。日本墨又ハ朱ハ化學的ニ他ヨリ容易ニ侵アレサルヲ特色トスレトモ、事務家ノ普通使用スル「インキ」ハ或種ノ藥品ニ容易ニ侵サレ其姿ヲ搔キ消スニ至ル。現今世ニ多ク使用セララルル綠又ハ黒色ノ「インキ」ハ「イ」ニ「タンニン酸インキ」、(ロ)「没食子」インキ、(ハ)「アリザリンインキ」、(ニ)「アニリン、インキ」ノ四種ヲ出テス赤色紫色等ノ「インキ」ハ多ク「アリザリン」カ「アニリン」ノ色素ヲ以テ作ラル。斯ノ如キ材料ヨリ造ラレタル「インキ」ヲ以テ書カレタル字ハ藤酸、鹽酸、硫酸、亞硫酸ノ稀薄ナルモノヲ浸シタル綿布ヲ以テ其上ヲ摩擦シテ容易ニ字形ヲ消失セシムルコトヲ得ヘシ。(註)日ノ大造商人又ハ動工場等ニ於テ「インキ」前藥品。斯ノ如ク藥品ニヨリテ「インキ」文字カ消失スルハ、即チ化學的反應ニ依リテ有色文字カ無色ニ變化スルカ爲メニシテ、「インキ」材料カ物質的ニ紙面ヨリ除去セラレタルニハ非ス。

III 仕掛「インキ」ノ使用ト後日記入變造。或種ノ植物性又ハ動物性色素ニシテ後日洗ヒ落シ得ルモノカ、又ハ年月ノ經過ノミニヨリテ褪色シ殆ント原態ヲ止メサルカ如キ有色材料ヲ提供シ、被害者ヲシテ文字ヲ記入セシメ、其文書ヲ受領シタル上後日ニ至リテ犯人ハ或部分例令ハ數額ノ箇所ヲ洗拭シ、又ハ消失セル金額ノ箇所ニ、更ニ大ナル金額ヲ自由ニ記入シ當初ノ目的ヲ達スルコトアリ。

乙 印章偽造ノ方法

文書偽造ニハ常ニ始ント印章ノ偽造ヲ伴フ。我國ニ於ケル印章偽造ノ實際ハ犯人カ多ク印判屋ニ被害者ノ眞印ト同様ナルモノヲ注文シテ彫刻セシムルカ、或ハ印判屋又ハ勸工場等ニテ有リ合セノ三文判ノ被害者ノ姓ヲ印刻セルモノ、又ハ字體ノ不明ナル實印様ノモノヲ購ヒ來リテ之ヲ偽造文書ニ捺印ス。犯人カ職業上又ハ趣味上印刻ノ技能ヲ有スルニ非サレハ、自ラ偽造ノ印願ヲ彫刻スルカ如キハ殆ント稀有ノ事例ニ屬スヘシ。然レトモ亦吾人ハ偽造印願ノ押捺ニ依ラスシテ印章ヲ偽造セント試ムル極メテ幼稚ナル犯人アルヲ知レリ。即チ筆ノ軸ノ末端ニ朱肉ヲ著ケ之ヲ文書ニ押シテ先ツ印章ノ外廓タル圓形ヲ作成シ置キ、然ル後附ケ木様ノ木片ニ朱肉ヲ著ケ圓形ノ中ニ字ノ扁、作り、劃、點等ヲ數回ノ押捺ニ依リテ作成シテ一ノ字ヲ組立テ、斯クシテ犯行ヲ完成スルコト之レ也。

獨、佛等ニ於テハ「アニリン」色素ヲ護膜印ニテ押捺シタル眞ノ印影ヲ基礎トシ、之ヲ或方法ヲ以テ他ノ文書ニ現出スル犯人アルカ故ニ、「アニリン」色素ヲ捺印ニ使用スルハ極メテ危險ナリトシテ讀者間ニ警戒セララル。彼ノ書翰ノ封シ目ニ封蠟ヲ滴ラシ其上ニ捺印シテ封緘ヲ固メタルヲ破壞シ、又元ノ如クニ爲シ置ク方法ノ如キハ、少シク智慮アル犯人ノ常ニ容易ニ實行スル處ナリ。

丙 通貨偽造變造ノ方法

(a) 貨幣

I 貨幣偽造ノ方法。貨幣偽造ノ方法ハ鑄造偽造ト極印打込偽造トノ二種アレトモ、我國ニ於テハ殆ント皆鑄造ニ依ル偽造ニシテ極印偽造ノ如キハ未タ類例ニ富豊ナラサルカ如シ。吾人カ通貨偽造ノ犯人ヲ檢舉セント欲セハ先ツ凡ソ如何ニシテ是等ノ偽造カ行ハルルヤヲ知ルヲ前決問題トスヘシ。何トナレハ斯クシテ偽造カ常ニ完成セラルルトノ事情ヲ知ルニ非スンハ、個々ノ事件ニ際シテ此點ニ著眼

シテ斯クノ如クシテ事件ヲ捜査セサルヘカラストノ方策ヲ案出スルコト能ハサレハナリ。然レトモ如何ナル犯罪タルトヲ問ハス犯罪方法ノ實行の說明ハ、時ニハ弊害ヲ伴フノ危険アルヲ切ニ怖ルルカ故ニ茲ニハ唯短キ摘示ニ止ントス。(1)鑄造偽造トハ一ノ鑄型ヲ作り此中ニ安價ナル金屬即チ錫、舍利、鉛、亞鉛、「アンチモニー」、又ハ是等ノ合金物ヲ溶解注入シテ鑄造スルヲ云フ。其鑄型ノ製造ニ就テハ我國ニ於テハ多ク石膏、「カルキ」石膏、房州砂等ヲ油ニテ煉リ之レヲ木枠ニ詰メ込ミ其中間ニ一ノ眞貨ヲ挾ミ強壓シテ一ノ模型ヲ作成ス。斯クシテ偽造セララルル貨幣ハ五錢、十錢、二十錢、五十錢ノ白銅又ハ銀貨也。之レ銅貨ノ相當分量ヲ以テ一ノ銅貨ヲ製作スルモ大ナル利益ナキカ故也。(2)極印打込偽造トハ眞正通貨ノ表面裏面ニ存スル模様、數字、紋章、繪等ヲ一ノ金屬ノ器械ニ彫刻シ置キ、此型ヲ錫、鉛、亞鉛等ノ安價ナル金屬ニ極印ヲ打込ミ偽造ヲ完成ス。此方法ニ依リテ偽造セラレタル產出物ハ個々ノ文字、紋章等ハ銳キ角ヲ有スルカ故ニ、鑄造物ニ比セハ極メテ精巧ナリト雖モ、之ヲ實行セント欲セハ一ノ高價ナル器械ノ購入ヲ要スルカ故ニ、大仕掛ケニ於テ偽造スル徒黨ニ非サル限りハ容易ニ敢行セサル處也。斯ノ如ク鑄造又ハ極印ニ依リテ作ラレタル偽貨ハ多ク銀電鍍ヲ爲サレタル後ニ行使セラルル。歐米ニ於テハ一ノ金屬延板ヲ他ノ金屬ニ鑲接スル偽造方法ノ極メテ巧緻ナルモノアリ。

II 貨幣變造ノ方法。之ニ就テハ銘價ノ變更ニ依ル變造ト、金屬減少ニ依ル實價ノ變造トノ二アリ。

(1)銘價ノ變更ニ依ル變造ノ我國ニ於ケル普通ノ方法ヲ見ルニ五十錢銀貨ヲ作ランカ爲メニ錢銅貨ノ「二」ノ字及ヒ「五十枚換一圓」ノ字ヲ削リ、二ノ代リニ「五十」ノ字、五十枚換一圓ノ跡ニハ菊桐ノ紋章ヲ製作附加シ、圓縁ヲ刻ミ然ル後之ニ鍍銀シテ變造スルカ、二十錢銀貨ノ製出ニ就テハ半錢銅貨ノ

「半」ノ字ヲ「二十」ノ字ニ改作シタル上縁ヲ刻ミ、同様之ニ鍍銀スル等ナリ。若シ夫レ彼ノ半錢銅貨ノ上ニ卷煙草等ヲ包メル俗ニ所謂銀紙ヲ被セ、糊著セシメテ二十錢銀貨ノ如ク裝ヒ行使セントスル幼稚ナル弱輩ニ至リテハ、變造ノ程度ニ達セサルモノトシテ唯詐欺ノ問題ヲ殘スノミナラム。(2)金屬減少ニ依ル變造ハ多ク金貨又ハ銀貨ノ縁ヲ少シク削リ取ルカ或ハ縁ニ小サキ孔ヲ穿チ恰モ鑽石ヲ採掘スルカ如ク中ヨリ金屬ヲ能ク限リ採取シタル後他ノ安價ナル金屬ヲ其代リニ充填シ置クナリ。或者ハ又金貨數十個ヲ強キ袋ノ中ニ入レ是ヲ振蕩シ貨幣ノ相互ノ衝突ニ依リテ壤離シテ底ニ集マレル少量ノ金粉ヲ採取スルカ如キコトヲ企ツルノミナラス、近來ニ至リテハ酸類又ハ電氣ニ依リテ金貨、銀貨ヨリ金屬ヲ竊ニ採取スル狡慧ニシテ進ミタル犯人アルヲ注意セサルヘカラス。

(b) 紙幣及銀行兌換券

拾圓、五圓、壹圓等ノ日本銀行兌換券、又ハ拾錢貳拾錢五拾錢等ノ紙幣ハ種々ノ方法ヲ以テ偽造セララルル處ナレトモ、變造ニ至リテハ全然之ヲ見ス。何トナレハ銀行券又ハ紙幣ニハ實質上ノ變造ヲ認ムルニ由ナキノミナラス、銘價上ノ變造ニ就テハ現今發行セラレアル是等ノモノノ體裁、大サ、紙色、模様等ノ關係ヨリ其變造ヲ實際上不可能ナラシムルカ故也。從テ偽造方法ニ關シテノミ概要ノ研究ヲ試ントス。

I 肉筆偽造

細キ毛筆又ハ「ペン」等ヲ使用シ、紙片ニ眞物類似ノ模様ヲ記載スル方法ニシテ、紙幣偽造トシテハ最モ拙劣、幼稚ニシテ且ツ小仕掛ナルモノトス。故ニ往々紙幣ノ偽造トハ稱スル程度ニ到ラサル爲メ

三尺ノ童兒ト雖毫モ欺カレサルカ如キ著シク乳臭紛々タル肉筆偽造銀行券ヲ發見スルコトアリ。斯ノ如キハ唯詐欺ノ手段タル材料ト謂フニ止リ偽造券行使ノ犯罪ハ構成セサル可シ。此種ノ方法ニ於テ稍進ミタルモノト見ルヘキハ薄キ紙ヲ眞ノ紙幣ノ上ニ載セ細キ筆ニテ透寫シ、斯クシテ造リタル表面及裏面ノ部分ヲ糊着シテ一ノ贋幣ヲ作ル。紙幣ノ透シ模様ハ油等ヲ用ヒテ之ヲ裝フナリ。

### II 器械的偽造

器械的偽造トハ印刷又ハ寫眞ニ依ル方法ニシテ、其危害ノ大ナルハ肉筆ニ依ルモノト同日ノ論ニ非ス。何トナレハ作品ニ於テ比較的精巧ナルハ勿論、一ノ仕掛ヲ以テ多數ノ贋幣ヲ世ニ頒布セシメ得ルカ故ナリ。(1)木版印刷紙幣又ハ銀行券自體ヲ基本トシテ黃楊等ノ印材ニ彫刻シ、之レヲ印刷スル偽造ハ機械的方法中最幼稚ナルモノニ屬スレトモ、(2)石版印刷、(3)銅版印刷、(4)寫眞版、(5)「コロタイプ」版、(6)電氣版等ニ依ル偽造ニ至リテハ、銀行家ト雖容易ニ之レヲ看破スルコトヲ得サル程巧妙ヲ極メタルモノアリ。從來實際ノ事件トシテ常ニ現ハルルハ壹圓、五圓、拾圓ノ日本銀行兌換券ナリシ、然ルニ近來五拾錢紙幣カ市場ニ流通セラルルヤ之レカ偽作ヲ企ツルモノ漸ク多カラントスル傾向アルハ注意スヘシ。

## 第二節 偽造物ノ行使

偽造變造ノ文書、有價證券ノ類ヲ行使スル犯人ハ一ノ特定人ヲ相手トスレトモ、偽造通貨ノ行使ニ於ケル被害者ハ不定多數ノ民衆タルヲ普通トスルカ故ニ、後者ハ極メテ重要ナリ。

偽造變造ノ通貨ハ比較的大仕掛ノ犯罪ニアリテハ偽造擔任者ニ非サル他ノ共犯者カ行使ノ役トナリ、多クハ薄暮、夜間ニ老人小兒、婦女等ノ店番ヲ爲セル店舗ヘ立越シ、偽貨ヲ以テ一ノ買物ヲ爲シ之レヲ詐取シ、又ハ贋幣ヲ行使シテ一ノ品物ト竝ニ剩錢ヲ騙取スルカ、或ハ停車場、興業場等ノ混亂ニ乘シテ切符買入ヲ名トシテ剩ヲ利得シ、或ハ時トシテ狹斜ノ巷ニ於テ竊ニ散シ、又ハ詐欺賭博者カ見セ金トシテ使用スルコトアリ。

## 第三節 捜査方法

### 第一款 偽造發見ニ對スル科學ノ利用

文書及ヒ通貨ノ偽造物ヲ穿鑿スルニ就テ吾人カ利用スヘキ科學トシテハ先ツ指ヲ寫眞、顯微鏡、化學ニ屈セサルヘカラス。然レトモ吾人ハ此以外ニ補助ヲ俟ツヘキ科學アルナシト謂フニハ非ス。

#### A 寫眞ノ補助ニ依ル穿鑿

凡ソ寫眞ノ種板ノ光線ニ感シ易キ層ハ概シテ人間ノ眼ノ網膜ヨリハ一層敏感性ヲ有セリ。故ニ肉眼ヲ以テハ認識スルコト能ハサル或モノヲ寫眞ニ依テ初メテ其隱レタル姿ヲ現スニ至ルコトアリ。寫眞器ニ相當ノ設備ヲ施シ、尙特殊ノ種板ヲ使用シテ問題ノ物體ヲ撮影シ、之ニ依テ偽造ノ痕跡ノ發見ニ成功シ得ルハ即チ之レカ爲メナリ。

#### 甲 文書ニ關シ

(1)肉筆ニ依リ文字又ハ署名ヲ偽造シタル疑ハシキ文書ニ就テハ、其文書ト比較對照ノ爲メ取り寄



セタル被害者ノ真正文書ト同様ノ擴大寫真ニ取り、又ハ同様ノ大サニ引伸擴大シ、二種ノ筆跡ノ運筆、特徴等ヲ明白ナラシメ、然ル後此兩者ヲ詳細比較研究ス。紙上ニ於テハ兩者ハ全然同一ノ觀ヲ呈シタルモノカ、此ノ如クシテ始メテ大ナル差異ノ存スルコトヲ發見シ一驚ヲ喫スルコト屢々アリ。尙之レニ就テ兩者ヲ共ニ撮影セス書類ノ一方ノミヲ寫シ目的ヲ達スルコトアリ。即チ一ヲ透明ナル「ヂエラチン」ノ上ニ撮影シ之ヲ他ノ署名ノ上ニ重ネテ透視シ檢究セントスル場合之レナリ。(2)以上ノ方法ハ印章偽造ノ識別ニ直ニ之ヲ用フルコトヲ得ヘシ。(3)肉筆ニ依ル數字ノ變更、例令ハ1ヲ4ニ變造シタルカ如ク、或ル線カ先キニ書カレタルカ後ニ書カレタルカニ依テ加筆ノ犯行アルヤ否ヤヲ決スヘキ場合ニ於テ、寫真カ簡單ニ吾人ニ説明スルコトアリ。(4)既成文書ノ一部分ヲ小刀ヲ以テ削リ其上ニ更ニ記入シテ變造シタルモノニ就テハ文書ヲ日光ニ晒シテ透視スレハ其箇所ニ於ケル紙質ハ他ニ比シテ稀薄トナリ、肉眼ヲ以テシテモ容易ニ識別スルコトヲ得ヘシト雖、此場合寫真ヲ利用スルトキニハ一層鮮明トナルカ故ニ、肉眼ニテハ發見スルコトヲ得サリシ極メテ微弱ナル削除ノ痕跡ヲモ種板ニ依リ直ニ看破シ得ルコトトナル。此削去ノ箇所ハ濾過光線ヲ於テ寫真ニ探ルトキニハ暗黒トナリテ現出ス。吾人ハ之レヲ數倍ニ擴大シテ檢査スルヲ可トスヘシ。尿酸其他ノ藥品ヲ以テ化學的ニ文字ヲ除去シタル箇所ハ其周圍ノ紙ヨリハ白ク又黃ク從テ之レヲ寫真ニ寫セハ暗色ノ汚點トナル。(5)原字ノ「インキ」ト變造ニ用ヒタル「インキ」トハ多少其色カ相違セルモ肉眼ニテハ判別シ得サルトキ寫真ニ依テ兩者ノ色ノ區別ヲ明ニシ變造ヲ區別シ得ルコトアリ。之レニ就テハ色ニ敏感ナル乾板ヲ用フルヲ要ス。「インキ」ノ汚點ヲ以テ掩ハレ一見シテ讀ミ難キ文字モ亦斯クノ如クシテ明白ニ爲スコトヲ可能的トセラル。

(6)文書ノ作成以前ニ於テ既ニ紙面ニ汚點ノ存シタルカ或ハ作成後ニ附著シタルカノ研究ノ結果カ後日ノ記入即變造ナルヤ否ヤヲ決スル唯一ノ根據トナルコトアリ。(例令ハ一ノ證券紙上ニ被告ノ方ニ存スル汚點附著ハ證券カ被告ノ手ニ入りタル以後ニ於テ右疑問ノ文字カ記入セ)。此點ニ就テモ寫真ニ依リテ解決シ得ルコトアリ。ラレタルモノト認ムヘキハ(即チ偽造ヲ指シ)自明ノ理ナルカ如シ。

(7)文書ニ折目カ生セルトキ、其折目ノ箇所ニ書カレタル文字カ折目ノ生スル以前カ以後カヲ知ルコトニ依リテ後日ノ不正記入即變造ナルヤ否ヤヲ決シ得ルコトアリ。何トナレハ新タニ一文書ヲ作成スルトキニ於テハ世人ハ多ク摺襞ノナキ一ノ新シキ紙面ニ筆記スルヲ常トスルカ故ナリ。此點ノ穿鑿ニ就テモ寫真ヲ利用シテ價值アルコトヲ知ラサルヲ得ス。之レ折目ノ箇所ニ於ケル運筆ノ屈曲、又ハ折目ノ摺襞溝ニ多少墨或ハ「インキ」ノ滲漏等ノ肉眼ニテ識別シ難キモノモ乾板ニ依リテ初メテ知ルコトアルカ故ナリ。

ニケフオロ、リンデナウ氏等ハ封緘サレタル信書ノ封子開披スルコトナク讀破セント欲セハ寫真ヲ利用スルニ如カサルヲ説キ、其方法トシテ封緘サレタル書簡ヲ複寫種ニ置キ封筒上ニハ寫真乾板ヲ置キテ其感光層ヲ書簡ニ接セシメ然ル後之ヲ數分間日光ニ曝スニアリ。而シテ現像カ缺點ナク正規ノ通り行ハルルトキニハ封筒中ノ書箋ニ書カレタル文字ハ種板ノ上ニ現出スト云ヘリ。尙「エツキス」光線ヲ利用シテ同様ノ結果ヲ得ヘシト稱セラル。然レトモ我國ノ書狀ニ之ヲ直ニ應用シ得ルコトハ極メテ困難ナラム。何トナレハ多ク用ヒラルルハ巻紙ナルカ巻紙ハ十數回ノ折リ疊ミニ依リテ封筒中ニ納メラルルカ故ナリ。吾人ハ亦普通ノ文字ヲ撮影スルニ就テモ「レンズ」ヲ用ヒス、右ノ如ク文字ト種板トノ接觸法ノミニ依テ成功シ得。種板ハ臭素乾板ヲ用フヘク、感光ニ就テハ數秒間ノ瓦斯光線ニ待ツヘシ。

乙 通貨ニ關シ

貨幣、紙幣、銀行券ノ偽造又ハ變造ノ疑アルモノ、擴大寫真ヲ真正ナル是等通貨ノ擴大寫真ト比較

スルトキニハ、種々ナル點ニ於ケル微細ナル差異ヲモ明瞭ナラシムルコトヲ得ヘシ。(尙文書ニ關シテ述ヘタル所ヲ參照スヘシ)

B 顯微鏡ノ補助ニ依ル穿鑿

前ニ文書ノ寫眞的調査トシテ研究セル事項ハ殆ント皆顯微鏡試驗ニモ之レヲ用ヒラレサルモノナシ。否寧ロ顯微鏡的調査ヲ以テ甚タシク優秀ナル結果ヲ得ルモノトナササルヲ得ス。之レ後者ハ其手續ニ於テ極メテ簡單ナルノミナラス、擴大寫眞ニ比シテ尙數千倍ノ擴大現象ヲ檢スルコト可能ナルカ故ナリ。文書ノ寫眞的調査ノ研究ト重複ヲ避ケンカ爲メ以下文書ノ顯微鏡的調査トシテ殆ント事項ヲ列舉スルニ止メムトス。(1)偽造ノ疑アル文書ヲ鏡下ニ置キ其運筆、恰好、筆法等ヲ證議スルトキニハ例令ハ小兒カ憶シツツ斷續的ニ筆ヲ運ヘルカ如キ狀勢ヲ發見シタルノミテ大ニ心證ヲ得ルコトアリ。字ノ恰好、筆法等ノ檢査ニ就テモ同様ナリ。(2)變造ノ疑アル文書ニ就テハ運筆ノ交叉點ヲ詳檢スヘシ(イ)其箇所ニ於テ墨又ハ「インキ」カ筆法ニ反シテ重サナレルトキニハ、吾人ハ一ノ疑ヲ挿マサルヲ得ス。何トナレハ之レ筆記ノ際カ又ハ數日後カ孰レニセヨ一ノ字ヲ他ノ字ニ變更シタルノ事實ヲ認メテ可ナルカ故ナリ。(ロ)交叉點ニ於テ墨カ多少滲流セサルトキニハ兩方ノ線ハ即時同一ノ筆ニテ記サレタルノ微憑ナリ。其結果トシテ字カ筆法ト合致シ且ツ交叉點ニ於ケル墨汁ノ滲流アルモノハ疑フノ餘地ナク、之レニ反シテ筆法ニ反シ且ツ滲流ナキモノハ一筆ノ文字トシテハ到底信スヘカラサルモノト謂フヘシ。(3)其他文書ノ器械的又ハ化學的削擦消去ノ甄別「インキ」又ハ墨ノ色ノ判別、紙面ニ附著セル汚班ト文字トノ關係ノ穿鑿、紙ノ折目カ生シタル以後ノ字カ否カノ研究。(4)或ハ又「ペン」文字ノト

キ檢鏡ノ結果凹痕ノ深淺ニ依リテ細ク銳キ「ペン」ヲ使用シタルヤ否ヤ等ヲ知り、以テ文書ノ字ハ悉ク同一ノ「ペン」ニテ成レルヤ否ヤノ鑑定ニ克ク利用シ得ルノミナラス、(5)肉眼ニテハ全ク同種ニ見ユル繼キ合ハシ巻紙ヨリ成ル文書ヲ檢鏡ノ結果、兩方ノ紙ハ其纖維、紙質ニ於テ甚シキ相違アルヲ發見スルコトアリ、偽造通貨ニ就テモ右ト同様也。

C 擴大鏡ノ補助ニ依ル穿鑿

之ニ關シテハ殆ント説明ヲ要セサルヘク、程度ニ於テコソ異ナレ、顯微鏡類似ノ作用ヲナスモノト知ルヘシ

D 化學ノ補助ニ依ル穿鑿

甲 文書ニ關シ

(1)文書カ削ラレタルヤヲ檢スル爲メニハ、疑ハシキ箇所ヲ少シク潤ホシ然ル後沃度蒸氣ヲ掛クルコトニ依リテ屢々成效ス。此場合削去ノ箇所ハ青色ヲ呈シ、他ハ褐色トナル。(2)酸類ノ化學的作用ニヨリ腐蝕セラレタル箇所ニハ、「アンモニア」蒸氣ヲ施用スレハ原文字露出ス。之レ酸類カ「アルカリ」ト中和シ效力ヲ失フカ故ニ豫テ酸類ノ爲メ變色シ居リタル「インキ」カ迫害者ヲ失ヒ、元態ニ復スルニ依ル。(3)書面中ノ「インキ」文字ハ孰レモ同時ニ書カレタルカ將又或ル箇所ハ後ノ記入ニ係ルヤ否ヤヲ檢スル爲メニハ、兩箇所ヘ同分量ノ酸類ヲ塗リ付ケ、何レノ部分カ早く褪色スルカヲ時計ヲ以テ正確ニ試験ス。早く褪色シタル部分ハ後日新シク記入サレタルモノト知ルヘキ也。何トナレハ「インキ」ハ時ノ經過ニ依リ酸類ニ對シテ抵抗力ヲ生シ、古キ程酸ニ對シテ愈々長ク抵抗シ得ヘキ力ヲ有スルニ由ルナリ。此試験ハ書面ノ日附ノ年代カ書面ニ用ヒラレタル「インキ」ト相應スルヤ否ヤヲ研究ス

ルニ就テモ適用セラル。

乙 通貨ニ關シ

例令ハ金貨カ銅ニテ偽作セラレタルヤノ疑アルトキハ、其問題ノ物件ニ硫酸ヲ滴ストキ、若シ正金ナラハ反應ヲ呈セサルモ、銅ナラハ硫酸銅トナリテ溶解スルカ如シ(尙總論、第一章、第一節(乙)(3)參照)

E 筆蹟鑑定家ノ補助ニ依ル穿鑿

偽造文書ノ判別ニ關シテ兎モ角吾人カ一應ノ手續ヲ了セスシテ止ムコト能ハサルハ筆蹟鑑定家ノ召喚之ナリ。筆蹟鑑定家カ吾人ノ仕事ニ對シテ多大ノ補助ヲ與フヘキノ觀アルハ何人ト雖モ辭ムヘカラララム。

(1) 疑ハシキ文書ト之カ對照材料タル真正文書ヲ鑑定家ニ交附スルトキニハ鑑定家ハ文字ノ巧拙、恰好、筆勢、筆法、運筆、肥瘠、癖、其ノ他ノ關係ヨリ判斷シ。或ハ偽造者カ真正文書ヲ真似ルトキ一點、一線、一畫毎ニ筆ヲ止メ手本ヲ見、其都度ニ筆ヲ硯ニ浸スカ故ニ、偽文書ハ薄キ文字ヲ生スルコトナク全部悉ク墨黒キ字ヨリ成ルノミナラス、恰モ憶シツツ書ケルカ如ク運筆ニ痙攣的振動ノ痕ヲ止ムトノ標準ヨリ偽文書ヲ説明ス。

(2) 然レトモ鑑定家ノ眞任務ハ右ノ如ク唯ニ二箇ノ文書ノ對照鑑定ニ止ラス一葉ノ疑ハシキ文書自體ヨリシテ種々ノ難問題ヲ解決スルモノト爲スニ似タリ。即チ筆蹟ニ依リテ年齢、男女別、地位、職業、品格、性質、感情、境遇、健康、國籍、狀況、其他ノ事情ヲ知ルコトヲ得ヘシト。

老年者ノ字ハ一般ニ熟練シテ古風ノ字ヲ書キ、且ツ手カ定リテ落付キチ有シ。幼年者ノ書ハ概シテ拙ニシテ幼稚性ヲ示シ。男ノ字

ハ雄渾、女ノ文字ハ孱弱。商人ノ筆蹟ハ輕快ニシテ草書體少ク平凡。官吏又ハ智識階級ノ書簡ハ老巧典雅ノ字ニ富ミ。性急ナル者ノ連筆。濃厚ナル士ノ字ハ能ク界内ニ納マリ。奮激セルトキ又ハ多忙ノ際ノ手紙ハ字形大ニシテ不整、亂雜ヲ極メ。神經衰弱症及ヒ沈鬱症患者ノ文字ノ不同ニシテ。陰鬱、精神病者ノ字ノ巨大。酒精中毒者、中風症患者ノ顛動文字。支那人ノ文字ト日本人ノ書トノ相違性。ト云フカ如キハ略シテ不詳スヘカラサル事實ト稱スヘキ乎。

(3) 斯ノ如ク論スルトキニハ、筆蹟鑑定ニ就テノ組織的研究ハ犯罪捜査上極メテ價値アルモノト謂ハサルヲ得サルニ至ラム。然シナカラ吾人ハ實際上、ヨリノ立場ヨリ見テ多少ノ疑問ヲ抱懷ス。何トナレハ證文上ノ所謂偽造署名ト眞署名トノ比較鑑定ノ結果トシテ、事件ヲ良ク解決シタルカ如キ事例ハ多ク吾人ノ記憶ニ存セサルノミナラス、寧ろ筆蹟鑑定ナルモノノ決シテ重キヲ置クヘカラストノ教訓ノ材料トナレル先例ヲ耳ニセルヤ再度ニシテ止マサリシヲ以テ也。甲鑑定人ハ被告ノ筆蹟ナリト宣言シ、乙鑑定人ニ再鑑定ヲ命スレハ然ラスト判定スルハ今日ノ實際ナリ。之レ鑑定人ノ中ニハ形式的又ハ職業的ニ事務ヲ執ル者アリ、彼ハ成ルヘク捜査官ノ意ヲ迎フルカ如キ形式ニテ鑑定主文ヲ作ラントスル傾向アルト、他ノ一面ニ於テハ我國ノ筆蹟鑑定ナルモノハ今日ノ程度ニテハ極メテ幼稚ナル技術ニ屬スルトニ職由スルカ如シ。兩筆蹟ノ對照鑑定ニ於テ既ニ斯クノ如シ、果シテ然ラハ一個ノ疑ハシキ文書ノ鑑定ヨリ直ニ犯人ノ年齢職業等ヲ推定セントスルカ如キハ絕對ニ不可能ナリ。遮莫吾人ハ全然筆蹟鑑定ヲ排斥スルモノニハ非サルヤ勿論トス。

要ハ學者ノ机上ノ研究トシテハ洵ニ興味アル問題タルヲ失ハサルヘシト雖モ、實際應用上ノ效果ハ其努力ニ酬ルコト甚タ尠ナルヘク、殊ニ今日ノ實際上ノ眞價ヲ會得シ或程度ノ參考的ニ筆蹟鑑定家

ヲ利用スヘシトノ、二點ヲ言ハント欲スルモノ也。

### 第二款 潜伏文字發見ニ對スル科學ノ利用

偽造文書トハ稱スヘカラサルモ、吾人カ捜査上偽造變造文書ト同一ニ取扱ハサルヲ得サルモノアリ。即チ肉眼ヲ以テ一見シタルノミニテハ紙面ニ何等ノ文字又ハ模様ヲモ認ムヘカラサルモ、實ハ文字ヲ包藏セル紙面之レ也。故ニ此機會ニ於テ序ニ潜伏文字ニ關スル研究ヲ試ムルノ適當ナルヲ信セントス。

(1) 潜伏文字ハ無意ニ發生スルコトアリ。例令ハ鉛筆ヲ以テ手帖ノ一葉ニ文字ヲ記入シタル後其紙ヲ破棄スルトモ、其下位即チ次葉ニ當レル紙面ニハ上葉ノ文字ト同様ナル凹痕文字ヲ留ムルヲ常トス。此凹痕文字ハ上ノ紙カ薄キト鉛筆ノ心カ硬キニ從テ愈顯著トナルカ故ニ、時トシテハ肉眼ニ依リテ容易ニ該凹痕文字ヲ讀ミ得ヘキコトアレトモ、斯クノ如キ程度ニ鮮明ナルハ稀ニシテ多クハ肉眼ニテ直ニ讀ミ得サル程度ノ潜伏状態トナレリ。而シテ之レカ科學的發見方法トシテハ寫眞ヲ利用スルヲ捷徑トス。即チ此種ノ潜伏文字ノ包藏ノ疑アル紙面ヲ撮影シテ之レヲ擴大スルニアリ。又例令ハ郵便切手ノ消印ヲ除去シ之レヲ再使用シタルカ如キ場合ニモ、元ノ消印文字ハ潜伏文字ト變態シテ殘留スルコトヲ知ラサル能ハス。何トナレハ之レニ對シテモ寫眞ノ撮影竝ニ其擴大ニ依リテ奸計ヲ發見スルコトヲ得レハナリ。

(2) 潜伏文字ハ故意ニ作成セラルルコトアリ。是等ハ犯罪徒黨間又ハ囚人ト獄外ニ在ル仲間トノ秘密ノ交通ニ利用セラルルコト少カラス。(イ)唾液ヲ小楊子ノ尖ニ附著セシメ之ヲ以テ一ノ潜伏文字ノ

秘密文書ヲ作成スルコトヲ得ヘシ。此場合ニ吾人カ文字ノ形態ヲ現ハサシメント欲セハ極メテ熱キ鐵板ヲ以テ疑ハシキ紙面ヲ壓スルカ、又ハ紙ヲ濕シタル後沃度蒸氣ヲ掛クルカ、或ハ紙面ニ「インキ」ヲ塗布スルカニ依リテ其目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ。(ロ)白紙ニ白キ澱粉糊液ヲ以テ文字ヲ書カレタル秘密文字ハ沃度液ノ塗布ニヨリテ青色ヲ呈シテ現出ス。(ハ)薄キ紙ニ明礬水ヲ以テ潜伏文字ヲ書キタルモノハ其紙ヲ水面ニ浮カハシムレハ文字ハ白キ色トナリテ現出シ、稀鹽酸ヲ以テ書カレタルモノハ火ニ焙レハ茶褐色ヲ呈シテ潜伏状態ヲ脱スルハ、俗童ノ間ニ於テ既ニ熟知スル處ナラム。

### 第三款 偽造變造又ハ其行使ノ穿鑿ニ對スル合理的方法

#### 甲 文書ニ就テ

文書ノ偽造變造ノ事件ニ就テハ、比較的智識階級、少クトモ文筆ヲ弄シ得ル者ノ範圍ヨリ之レカ犯人ヲ物色スヘキコトヲ要ス。何トナレハ文字ノ好クセサル者又ハ文筆ニ極メテ緣遠キ者ニ於テハ、若シ一ノ犯罪ヲ餘儀ナクセラレタリトセハ文書偽造ニ依テ容易ニ目的ヲ達シ得ル場合ニ於テモ、自己ニ不得手ナル技巧的犯罪ノ方法ニ苦心スルノ愚ヲ學ハスシテ、寧ロ直ニ趨テ原始的犯道例令ハ竊盜小路ニ赴カントスル傾向ヲ賦有スレハナリ。

#### 乙 通貨ニ就テ

#### I 贋幣前科者ニ對スル捜査

通貨偽造者ハ殆ント皆再發的ノ性癖ヲ有スルモノト斷言シテ憚ナシ。恰モ財産ニ關スル犯罪者殊ニ竊盜詐欺犯者カ行爲ニ對スル累進的傾向ヲ有スルニ異ナラサルナリ。故ニ一贋幣行使ノ事件突發ニ際

シテ、吾人カ其地方ニ於ケル要視察ノ賈幣前科者ニ對シテ一ノ疑ノ眼ヲ瞠ルモ敢テ不合理ト謂フヘカラサルニ庶幾シ。此理由ヨリシテ吾人ハ平素ニ於テ少クトモ各地方ニ於ケル賈幣前科者（不起訴處分トナリタル者ヲモ包含シ）ノ總テニ對シテ通貨ノ種類、偽變造ノ方法其他ノ點ヨリ分類整理シタル一ノ表ヲ作成シ置キ、一事件ノ發生ニ當リテ參考ノ爲メ直ニ此表ヲ繕キ、似寄ノ前科者ノ姓名ヲ索引スルコトノ極メテ意義アル方法トシテ推奨スルモノ也。斯クシテ一ノ姓名ヲ得タルトキニハ、吾人ハ該前科者ニ關スル左ノ事項ヲ特ニ詳細ニ内偵スルヲ要ス。(1)前科者カ近來經濟上ニ於テ甚シク切迫セル状態ニアリタルヤ。(2)事件發生ノ前後ヨリ財源不明ノ金圓ヲ浪費セルカ或ハ平素ノ生活狀態カ甚シク變更セラレタルヤ否ヤ。之レ偽造者カ資本主ヨリ資本ノ供給ヲ受ケタル爲メ、又ハ偽貨ヲ通用セシメタル爲メニ生スル現象ニ注目セントスルニ外ナラス。(3)前科者ハ如何ナル者ト交通セルカ。例令ハ彼レノ宅ニハ近來賈幣前科者カ頻繁ニ内密ニ出入スルカ、彼レカ屢々地方ヘ旅行スルハ資本主ヲ求メントシタルニ非サルヤ、但シ當分旅行不在ト稱シテ其實居宅ノ土藏ニ閉テ籠リ又ハ附近ノ空家ニ塾居シテ犯行ニ努力シツツアルコトモ亦注意スヘシ。(4)前科者カ偽造ニ就テ必要ト認ムヘキ器具材料ヲ準備シタル形跡ナキヤ。例令ハ用紙、金屬、印刷器械、藥品、「インキ」、鑄型材料等ノ如キ物ヲ彼等カ新タニ購入シ、更ニ之レヲ疑ハシキ個所又ハ或ル者ニ發送シタルコトナキヤ。但シ之等ノ情況ニ就テ内偵スルニ當リテハ該前科者ノ名譽信用ヲ故ナク毀損スルカ如キコトナキ様十分ナル注意ヲ拂ハサルヘカラサルハ勿論也。

## II 「ペーパー」師事件ニ對スル注意

「ペーパー」事件師（偽造紙幣又ハ偽造銀行券ヲ極メテ安價ニ賣渡スト許稱シ、金圓ヲ關取スル）ナルモノハ頭初ヨリ紙幣ヲ偽造シ又ハ偽造銀行券ヲ交換スルノ真意又ハ其計畫ナキニ不拘、偽造紙幣ニ籍口シ金圓ヲ詐欺セントスル者ナレトモ、被害者タル相手方カ「ペーパー」師ニ對シ、自己ノ面前ニ於テ著手ヨリ其完成ニ至ル迄偽造ノ仕事ヲ是非實見シタキ旨ヲ主張シテ止マサル程小心ニシテ警戒性ニ富メル者ナルトキニハ、「ペーパー」師ニ於テ遂ニハ偽造ニ著手セサルヲ得サルニ至ルコトアリ。斯クノ如ク、「ペーパー」事件師變シテ偽造紙幣師トナルコトアルカ故ニ、偽造紙幣ノ事件ニ於テハ亦「ペーパー」師ノ仲間ヨリ之レカ犯人ヲ獲ルコト屢々アリ。

## III 偽、變造行為ニ關係ヲ有スル業務者ニ對スル探索

(1)偽變造行為ニ關係ヲ有スル技術者、例令ハ錫鑄造者、鑄型師、寫真師、石版刷師、銅版師、畫工ト云フカ如キ、此種ノ犯行ニ必要ナル技術ト巧妙ヲ其業務上ヨリ有スル者カ屢々専門的ニ偽造ヲ企ツルコトアルノミナラス、嘗テ之等ノ業務ヲ營ミタル者又ハ其職工タリシ徒輩カ困窮ニ際シ自己ノ經歷ヲ顧ミテ遂ニ賈幣ノ製造ヲ試ムルニ至ルモノ尠ナカラス。(2)右ノ業務ニ關係ナキ者カ是等技巧者ヲ利用シテ偽造ヲ企ツルコトハ想像ノ外ニアリトス。例令ハ洋紙店ニテ洋紙ヲ買求メ銅版師ニ之レカ印刷ヲ依頼スルカ如シ。(3)偽變造ニ必要ナル材料ヲ販賣スルヲ業務トスル者ニ就テ搜索スルコトモ亦等閑ニ附スヘカラス。何トナレハ専門的ノ技術者タルト素人タルト問ハス、賈幣ノ製作ヲ企ツルニ於テハ必スヤ之レカ材料ヲ何等カノ名義ニテ仕入シ又ハ購求セサル能ハサルヘク、即吾人ハ此販賣ノ事實ヨリシテ犯人ヲ手繰ラント欲スルカ故ナリ。材料ノ販賣者トハ、例令ハ刻印器械、鑄、「スタンブ」

鐵砧、沸カシ壺、石膏、洋紙、寫真材料、化學品、石版刷器械、銅版等ヲ販賣セル者ヲ指ス。

III 流通區域ノ研究ヨリ犯人居住地ノ推定

偽造者カ極メテ幼稚ナル方法ヲ以テ製作ヲ爲シ、自ラ竊ニ之ヲ行使スルカ如キ小仕掛ノモノニアリテハ、犯人ハ居住地附近ノ町村ニ於テ流通ヲ試ムルヲ常トスルカ故ニ、若シ發見セラレタル偽幣カ拙劣幼稚ナルモノナルトキニハ、發見地附近ニ於テ偽造犯人ヲ搜索シテ大過ナキカ如シ。之ニ反シテ極メテ精巧ナル贋幣ヲ發見シタルトキニハ、該事件ニハ數人ノ共犯アリテ偽造ト行使トヲ分擔シ、行使ノ區域モ亦廣範圍ニ亘ルヘキ大仕掛ノモノト推定スヘキ理由アリ。犯人居住地ト偽貨流通地ト距離關係ハ大仕掛ノ度ヲ加フルニ從テ愈大ナラントスルカ如シ。此場合ニ於テ若シ偽貨ノ發見地カ數ヶ所ニ亘ルトキニハ地圖ノ上ニ之レカ印シテ爲シ其各印シテ連結シテ比較的ノ中心點ヲ求ムルコトモ亦一策タルヘシ。例令ハ大阪、仙臺、神戸、新潟等ニ於テ同種ノ贋幣ヲ發見シタルトキニハ、先ツ東京ヲ之レカ策源地ト推定シテ然ルヘキカ。(此方法ハ數ヶ所ニ亘ル故ニ、又ハ竊盜事件ニ就テモ用フルコトヲ得ヘシ)

V 贋幣嫌疑者ニ對スル視察

(1) 尾行。贋幣行使ノ嫌疑アル者ニ對シテハ尾行視察ニ依テ其具體的罪證ヲ明ニシ、更ニ進シテ其往復者及ヒ偽造者ヲモ共ニ探知スルコトハ頗ル目的ニ適應セル捜査法ト謂フヘシ。吾人ハ是等ノ者ノ尾行ニ依テ其往復者ト身元トヲ知ルヘク、時ニハ材料ノ購入及ヒ偽造者ニ對スル之レカ發送ノ事實ヲ探リ得ヘシ。然レトモ贋幣流通者カ一ノ偽貨ヲ行使シタルノ事實ヲ確實ニ知リ得タル場合ニ於テモ、吾人ハ直ニ此者ヲ逮捕スルハ大ニ躊躇スヘキ理由アリ。之レ尙引續キ長キ期間ノ尾行視察ニ依テ、ヨリ

多クノ偽貨ヲ散布セシメ證據材料ヲ豐富ナラシムルト共ニ、他ノ一面ニ於テハ其連類者ノ總テノ者、及ヒ彼レニ偽幣ヲ交附スル偽造者、更ニ其ノ偽造場所ヲモ究メントスルノ策略タルニ外ナラサルカ故ナリ。此種ノ尾行ニ就テハ單數尾行ヨリハ複數尾行法即二人ノ尾行官吏ヲ用フルヲ最モ可ナリトス。(2) 張込。此ノ如クシテ偽造者及其製造場所ヲ突キ止メタルトキニ於テモ、尙知レサル行使者ヲ可成全部探知セサルヲ得ストノ任務殘存セリ。此目的ノ爲メニハ製作場附近ニ數日間巡查テ張リ込マシメ、其所ヘ來レル疑ハシキ者ヲ悉ク逮捕セシムヘシ。

第四章 詐 欺

第一節 常習詐欺ノ方法(定型)

社會ノ狀態ハ極メテ複雑ナルカ故ニ、日々記録トナリテ檢事局ニ現ハルル偶發的詐欺ノ事件カ、其方法、形式ニ於テ千狀萬態ヲ呈スルノ事實ハ蓋シ何人ト雖容易ニ想像スル處ナラム。然シナカラ殆ント際限ナキ是等ノ事實ヲ探テ悉ク研究室内ノモノタラシメントスルハ、或ハ社會學者ノ仕事トシテハ極メテ興味アリ價值アル題目タルヲ失ハサラムモ、犯罪捜査上ノ討究トシテハ洵ニ勞多功少ノ觀ナキ能ハス。故ニ余ハ唯常習的職業的ノ主ナル詐欺犯ノミニ對スル管見ヲ左ニ列記スルニ止メント欲ス。但シ是カ分類ニ就テハ數個ノ方面ヨリ試ミラレ得ヘシト雖、吾人ハ便宜上假リニ、(甲)他ノ犯罪ヲ手段トスル詐欺犯。(乙)普通ノ詐欺犯即チ(A)犯人カ眞姓名ヲ現ハササル詐欺。(B)犯人カ眞姓名ヲ現ハス

詐欺。トニ類別スルコトトナセリ。

### 甲 他ノ犯罪ヲ手段トスル詐欺

他ノ犯罪ヲ手段トスル詐欺トハ一ノ詐欺ヲ首尾能ク完了センカ爲メノ方便トシテ一時或種ノ他ノ犯罪事實ヲ行フカ如ク装フモノ也。從テ其手段タル犯罪ハ唯表面ヨリ見レハ犯罪タルノ形式ヲ備フルカ如キモ、本來詐欺ノ道具トシテ一狂言ヲ試ミタルニ過キサルカ故ニ詐欺以外ニ其犯罪ヲ構成セサルヤ論ヲ俟タス。此種ノ詐欺トシテハ先ツ(1)賭博ヲ手段トスル詐欺(詐欺賭博)。(2)贓物賣買ニ藉口スル詐欺(鐵砲事件)。(3)偽造紙幣ノ製造、賣買交換ヲ假裝シタル詐欺。(ペーパー事件)。(4)形式的ノ遺失物横領ヲ手段トスル詐欺(土砂流シ)。等ニ指ヲ屈スルコトヲ得ヘシ。  
(是等ノ詐欺ハ執レモ「インテキ詐欺」又ハ「ギ」ノ事トシテ「行フ詐欺」ノ範圍ニ屬シ、最職業的系統のナル常習詐欺) 犯中ノ傑出者ナリ)

#### 第一 詐欺賭博

##### I 「目切リカツバ」

「目切カツバ」トハ胴親カ基石或ハ燐寸ノ軸木、箸、銅貨、小揚枝等數アルモノノ若干ヲ握リ、相手方ヲシテ奇數カ偶數カヲ云ヒ當テシメ賭金ノ遣リ取りヲ爲スモノナレトモ、之レカ純然タル賭博ニ非サル所以ハ、胴親ニ於テ右ノ材料ヲ握ルニ際シテ、胴親ハ如何ナル場合ニ於テモ計算上必勝トナルヘキ丈ケノ豫定ノ數ヲ手ニシ勝敗ヲ争フモノナルカ故ニ、張手ノ負クルハ偶然タル事實ニ基因スルニ非スシテ、常ニ理論上當然ノ結果ニ外ナラスト謂フニ歸著ス。  
(「目切カツバ」ハ「握リカツバ」ヨリ來ル) 握リカツバノ目切カツバカ相異ス)

##### 「目切カツバ」ニ「二カツバ」「三カツバ」「四カツバ」等アリ。

「二カツバ」トハ胴親カ例合ハ燐寸ノ軸木ヲ豫メ奇數丈ケ握リ(胴親ハ無造作ニ若干數ヲ偶然握ルモノノ如ク裝ヘトモ此奇數ノ軸木ヲ握ルコトニ詐欺ノ種カ包蔵セラル)一、カニカ或ハ奇數カ偶數カニ付テ張リ手即チ子ニ金ヲ賭セシム。而シテ張リ手カ若シ一ナリトシテ賭金セハ、親ハ子カ一ニ張リタル證據ナリト謂ヒテ握ル軸木ノ中ヨリ先ツ一本ヲ取出シ之レヲ其場ニ別ニ差置キ、手中ニ在ル殘餘ノ軸木ヲ二ツ宛取リテ計算ス。斯クセハ一ノ數即奇數ヲ殘サスシテ親ノ勝トナル也。之レ手中ニ在ル奇數ノ總體ヨリ一本ヲ取リ除キタル結果殘餘カ偶數トナル爲メ也。之レニ反シテ若シ子カ二ニ張リタルトキハ、親ニ於テハ二ノ證據トシテ手中ノ總體ヨリ中ヨリ先ツ二本丈ケヲ其場ニ別ニ差置キタル後、殘餘ニ就テ二本宛計算ス。此場合ニ於テハ奇數タル總體ヨリ二本ヲ取リ除キタルカ故ニ、其殘餘ハ奇數トナルヘキハ蓋シ數理上當然タルヘシ。斯クノ如ク執レニセヨ親ノ勝トナリ、子ハ如何ニ連敗ニ依テ奮激スルトモ一回ニテモ勝ツコトノ不可能ナル術中ニ陷レル也。

此方法ニ於ケル詐欺ハ先ツ奇數ヲ握ルコト、竝ニ子ノ張リ目ノ證據ナリト稱ヘテ張リ目ノ數丈ケヲ計算ニ先立テ取除キ置クコトノ二點ニ存スルハ、以上ノ説明上何人モ容易ニ觀察セララル所ナラム。而シテカラ實際ノ事件ニ於テハ賢明ナル多數モ如此シテ容易ニ誤魔化サルル也。

##### II 鹿追

鹿追トハ數人共謀ノ上「目切リカツバ」ニ假託シテ其實詐欺ヲ行フヲ謂フ。即チ之ハ單純ナル「目切リカツバ」ニ考案ヲ加ヘタルモノニシテ「目切カツバ」ヲ振リタル方法或ハ「目切カツバ」ノ抱キ落シノ方法トモ謂フヘキ也。犯人ハ被害者ニ對シテ「目切リカツバ」ナル詐欺賭博アルコトヲ發表シ、燐寸ノ軸木等ヲ用ヒ被害者ノ目前ニ於テ實際的ニ其方法ヲ試ミテ説明シタル上、斯クノ如キ手段ヲ以テスレハ第三者ヨリ容易ニ金錢ヲ詐欺シ得ヘキニ依リ、共ニ此方法ニ依テ一儲ケナサンコトノ旨ヲ以テ勸誘

ス。被害者ハ面前ニ於テ其巧妙ナル方法ヲ實見セルカ故ニ(前ニ説明セル「カツバ」ノ種ヲ明カシテ説明セラル)大ニ威服セルコトトテ必勝疑ヒナシト誤信シ、犯人ノ勸誘ニ應ジ賭金ヲ出シ合ヒ、第三者ノ持チ金ヲ鹿追ニ依テ全部捲キ上ケントシテ茲ニ愈々戦闘ノ開始スルコトトナル。然シナカラ其第三者タルモノハ實ニ犯人ノ真ノ共犯者タルノ事實ヲ被害者ニ於テ覺ラサルカ故ニ、詐欺セントスル彼ハ奚ソソ知ランヤ此間ニ於テ遂ニ詐欺セラルル運命ニ囚ハルル也。何トナレハ犯人ハ所謂第三者ト打合セ上、勝負ヲ争フ最初ノ程ハ正規ノ「目切りカツバ」ノ方法ヲ實行スルカ故ニ當然連戦連勝トナレトモ、機ノ熟スルヲ待テ犯人ヨリ表面上第三者ニ對シテ多額ノ金圓ヲ賭ケ最後ノ勝敗ヲ決センコトヲ提言シ其運ヒトナルヤ、犯人ハ此時初メテ軸木ノ中一本ヲ竊ニ他ニ取り落シテ偶數トナシ置キ計算上第三者ノ勝ニ歸セシメ、結局被害者ハ其賭金全部ヲ喪失スルコトトナルカ故也。此場合被害者カ犯人ニ對シテ一本ヲ取り落シタルノ罪ヲ責ムルヤ、犯人ハ或ハ自己ノ過失ナル旨ヲ以テ謝罪シ、又時トシテハ被害者ノ責任ニ基因シタルカ如キ事實ヲ捏造シ被害者ヲシテ諦ラメテ早カラシム。

斯クノ如ク鹿追ニ於テ真ノ被害者ト詐欺賭博師ノ仲間(鹿追ヲ常業トスル詐欺師ヲ關東地方ニ於テ「サヤ師」ト稱ス。關西地方ニ於テ「インチキ師」ト稱ス。但シ狹義ノ「サヤ師」ト稱ス)ト其面會スルノ機會ヲ作ルコトハ彼等ノ苦心スル所ニシテ其方法ニ二アリ。(一)ハ金圓ヲ多ク所持セルカ如クニシテ且詐欺ニ罹リ相ニ見ユル被害者ヲ神社、佛閣、又ハ大道ニ於テ物色シ、之レニ話シ掛ケ彼等ノ豫定ノ場所ヘ誘拐スルカ。(二)ハ仲間ノ一人カ地所、鑛山、山林等ノ賣買周旋人ナルカ如ク裝ヒ豫テ目星ヲ附ケタル被害者方ヘ立越シ、賣買ノ用件ニ託シテ其者ヲ料理店等ヘ引出スコト之也。(彼等仲間ニ於テ之ヲ「引出シ」ト稱ス)

(一)、話シ掛ケニ依リ被害者ヲ誘致シ鹿追ヲ企テントスルトキニハ、普通四名ノ共犯者ニ於テ各役割ヲ分擔ス。(1)「アホリ」(又ハ「ダキ」トモ謂フ)。(2)「忠兵衛」。(3)「盡大」。(4)「陰」(又ハ「ウツ」トモ謂フ)之ナリ。

先ツ「アホリ」カ神社、佛閣、名所、舊蹟、遊覽地等ニ細チ張り控島ノ到ルト見ルヤ、其者ニ對シテ或ハ煙草ノ火ヲ借リ、又ハ絶景ヲ共ニ賞覽スルカ如ク裝ヒ巧クミニ馴レ馴レ敷ク話シカケテ接近シ、自分モ同種遊覽者ニシテ之ヨリ某名所ヲ見物セン考ナルカ實殿モ一所ニ行カレテハ如何ト被害者(彼等仲間ニ於テ「モヤ」「ケ」「長太」「チヤウ」「ヨイケ」ト稱ス)ヲ勸メ、其方面ヘ立越ス途中ニ共犯者ノ一人タル「忠兵衛」カ横合ヨリ現ハレ、之亦一見物人ナルカ如ク裝ヒ「アホリ」ト被害者トニ對シ某名所ヘ急ル途ヲ尋ネ、「アホリ」カ自分等モ其所ヘ立越スモノナル旨ヲ告グルヤ、「忠兵衛」ハ丁度好キ速レナリト同伴ニ加ハリ三人共々某名所ヘ赴クコトトナル。而シテ其名所附近迄到ルヤ恰モ食事時ナレハ共々簡單ニ支度シテハ如何ト共犯者ノ一人ヨリ提議スルヤ、他ハ直ニ賛成シ被害者ニ於テモ之ニ附キ合ヒテ爲スヘク餘儀ナクセラレ、遂ニ三人ハ共犯者等ノ豫テ通謀シ置キタル小料理屋(「敷」又ハ「ハウス」ト稱ス)ヘ登樓ス。而シテ三人四萬山ノ麓ヲ爲シ、共犯者等ニ於テハ特ニ景氣好キ虚偽ノ職業又ハ住所ヲ語リ合ヒ飲食セル際中ニ、豫テ隣室ニ待合セ居リタル共犯者ノ一人タル「盡大」カ初對面ノ態ヲ裝ヒ隣室ヨリ雜事ニ言寄セ話シカケ遂ニ一座ニ加ハリ、控ニ於テ一芝居打ツヘキ役者カ全部備ヒタルコトヲ爲ル也。余カ檢事ニ在職中最近ニ取扱ヒタル事件ニ、上野公園東照宮附近ニ於テ「アホリ」カ被害者ニ話シカケ、之ヲ湯島天神ヘ案内シ更ニ小石川植物園ヘ案内スルト稱シテ同伴ノ途中、本郷通リニテ「忠兵衛」カ加ハリ、植物園裏手ノ一舊夢屋ヘ連レ込ミ控ニ「盡大」カ立現ハレ、鹿追ヲ始メタル犯人アリ(「盡大」ハ「盡大」ハ「盡大」ト稱ス)。實ハ一昨夜例令ハ淺草公園ノ何々料理店ニ於テ何某ナル者ト共ニ「見切カツバ」ト稱スル賭博ヲ爲シ數千圓ヲ取ラレタルカ、今夜ハ其復讐戰ノ爲メ何々料理店ニ會合スルコトノ約束アリ、現ニ賭金トシテ懷中ニ數千圓ヲ所持セルカ今度コソハ大勝利ヲ得ル考ナリト語リ出スヤ。「忠兵衛」ハ「盡大」ニ對シ其ハ詐欺賭博ニシテ君ハ詐欺ニ極レルナリ、到底勝ヲ得ヘキ筋合ノモノニ非サルカ故ニ、今夜其場所ヘ立越スコトハ是非思ヒ止ルヘキ旨ヲ以テ



懇切ニ忠告スルモ「忠兵衛」トハ忠告トノ語ヨリ出テ、「盡大」トハ大盡ノ轉倒體語也。「盡大」ニ於テ容易ニ之レヲ信セサルカ如ク裝フヤ、「忠兵衛」ハ然ル上ハ此場ニ於テ詐欺賭博タルコトヲ説明スヘシトテ、機寸ノ軸木ニテ鹿追ノ方法ヲ詳細實驗シテ「盡大」ヲ嚴ニ戒ム。然レトモ「盡大」ハ尙頑迷不靈ニシテ他人ノ言ヲ容ルコトニ不適宜ナル旋毛曲リナルカ如ク又愚鈍ナルカ如ク裝ヒ、忠兵衛ニ對シテハ却テ餘計ノ入ラサル御世話ヲ爲スモノカナト反抗シ、互ニ感情ノ衝突上口論ヲ始ムル豫定ノ一幕トナルナリ。此際「忠兵衛」ハ便所ヘ立越シテ竊ニ被害者ト「アホリ」ヲ別室ニ呼ビ寄セ。同人等ニ對シ、彼ノ通リノ事實ナルニ付キ御客(盡大)ニ再度ノ勝負中止方ヲ強勸スルモ頑固ニシテ聽入ルルノ機子ナク、此儘ニナシ置ハ彼ハ所持ノ大金ヲ今夜再ヒ詐欺セラルルコトハ必定也、寧ロ自分違ニ於テ之ヲ捲キ上ケテハ如何ト惡謀ヲ提議ス。被害者ニ於テモ先刻ヨリ目前ニ於テ鹿追ノ方法ヲ實見シ親ニ於テ必勝トナルノ數理ヲ解シ「盡大」ノ餘リニ没分曉漢ナルコトヲ心中嘲笑シ居リタル際トテ、直ニ之ニ同意スルコトトナル。茲ニ於テカ爾親ノ賭金即チ罰金ノ支出方ニ就テ議議シ、先ツ「忠兵衛」ハ茲ニ何百圓アリト稱シテ紙幣ノ束ヲ差出シ、(此紙幣束ハ紙幣ノ形ニ裁テタル數百枚ノ紙ノ上端下端ノミニ紙幣一枚宛チ置キ一束セルカ、又ハ紙幣形ノ紙ヲ新聞紙、帛紗等ニ包ミタル儘ノモノ也)。「アホリ」ニ於テモ同様ナル所謂數百圓包チ出資ス。之ニ反シテ被害者ノミハ遂ニ眞紙幣數百圓、若シ多ク持合セナキハ金時計等ヲモ墓口ト共ニ提供スルノ己ムナキニ至ルヘシ。斯クノ如クシテ資金調達ノ形トナルヤ「忠兵衛」ハ座ヘ歸リ「盡大」ニ對シ、夫レ程勝負ヲシタキナラハ吾人ト一勝負試ミテハ如何ト挑戦シ、「盡大」カ之レニ應シ假裝ノ紙幣包チ取り出シ其場ニ置クヤ、愈「忠兵衛」、「アホリ」、被害者カ爾親トナリ、「盡大」カ張り手即チ子方トナリ各同額ノ金圓ヲ前ニシ、子方ノ勝ハ其賭金ノ五倍チ罰親ヨリ取り、敗ハ子方ノ賭金ノミヲ罰親ニ交付スヘク、五回之ヲ行ヒ差引計算ヲ以テ勝敗ヲ決スル約定ニ於テ爲ス。此場合ニ「忠兵衛」ハ被害者ニ安心セシムル爲メ同人ニ軸木ヲ握ラシメ「盡大」ト交戦セシム。如斯シテ四回迄ハ奇數ノ軸木ヲ被害者ニ握ラシメ一時ノ夢ノ如キ甘キ勝利ヲ得セシムルモ、怖ルヘシ、最後ノ五回目ニ至リテハ豫定ノ如ク一舉ニシテ被害者側ノ全敗トナルヘキ僞計ヲ實行ス。即チ「忠兵衛」ハ被害者ニ軸木ヲ握ラシムルニ當リ竊ニ其一木ヲ取り除キテ之ヲ被害者ノ背後等ニ故意ニ落シ置キ、其餘ノモノ即偶數ノ軸木ヲ被害者ニ交付スルカ故ニ被害者ハ數理上必ス敗北スヘキ約束ノ下ニアル也。而シテ此五回目ニハ子方ニ於テ有ル丈ケノ金ヲ賭スルカ故ニ被害者側ノ敗ハ極メテ慘澹タルモノアリ。罰金タル被害者ノ眞ノ紙幣ハ勿論(實ハ之ヲ詐欺セントスルニ外ナラス)「忠兵衛」等ノ假裝ノ紙幣モ悉ク「盡大」ノ有ニ歸ス。若

シ被害者カ「忠兵衛」ニ對シ握ル軸木不足アリタル旨ヲ以テ苦情ヲ申出ツレハ、「忠兵衛」ハ却テ逆探チニ、被害者カ一本ヲ取り遺シタルカ爲メニ、吾人モ共ニ大敗ノ憂目ヲ見タリト稱シテ被害者ヲ嚴詰ス。此鹿追ノ詐欺ニ於ケル要點ハ大團圓タル第五回目ニ在リ。故ニ第四回目ニ於テ發覺シタリトセハ尙未遂狀態ニ在リタルモノト謂フヘシ。

「陰」又ハ「ウツ」ハ此場合如何ナル役割ヲ擔任スルヤト云フニ、右現場ノ附近ニ見張リヲ爲シ犯罪實行中警戒ノ任ニ當ルト共ニ、萬一被害者カ詐欺ヲ看破シ問題トナリタルトキニハ、或ハ其附近ノ博徒ノ親分ヲ裝ヒ又ハ刑事巡查ト稱シ其場ニ立現ハレ、適宜ノ處置ヲ以テ事件ノ揉ミ潰シテ試ムル也。

(二) 「引き出し」ニ依リ被害者ヲ誘致シ鹿追ヲ企テントスルトキハ、(1)地所、鑛山等ノ賣買周旋人ナルカ如ク裝ヒ被害者方ヘ立越シ之レヲ誘致スル役者(「ヒモ」)。(2)豫定ノ料理店ニテ被害者ト會見シ右物件ノ賣主又ハ買主タルカ如ク裝フ役者(「スワリ」)。(3)被害者ト「スワリ」ト會見中ニ「スワリ」ヲ訪ネ來リ金借ヲ申込ミ其金ノ使途ヲ問ハルルヤ「目切カツバ」ニテ大敗セルカ故ニ復讐戰ノ資金ニ用フル旨ヲ答ヘ、次テ前記「盡大」ノ如ク所業スル役者(「借作」)。(4)見張り警戒役者(「ウツ」)ノ顔揃ヲ要ス。

然レトモ必ス常ニ四名ノ人員ヲ要スルニハ非ス。一人ニテ「アホリ」ト「忠兵衛」トヲ擔任シ(「引忠」)、一人ニテ「ヒモ」ト「スワリ」トヲ兼任スルコトアルカ故ニ、唯二人ノ共犯ノミニテ此種ノ鹿追ヲ遂ケルコトヲ得ヘシ。

終リニ鹿追ニ大鹿、小鹿アリ。(被告人榊井豐藏ノ陳述)大鹿トハ親分(「大引」)ノ率ユル組織的團體カ企ツル鹿追ヲ謂フ。大鹿ニ於ケル利益分配ハ「大引」ニ於テ「天一」ト「一丁賦」ヲ取得スル慣例トナレリ。「天一」トハ被害者ヨリ得タル全額ヨリ先ツ一割ヲ天引スルヲ謂ヒ、「一丁賦」トハ其殘額ノ金圓ニ就テ「大引」ヲ加ヘ共犯ノ頭數ニ分配スルヲ云フ。小鹿トハ一定ノ首領ヲ有セサル烏合ノ「サツ師」ノ行フ鹿追ヲ指稱ス。

III 「テキヤ」ノ詐欺賭博

「テキヤ」ハ一名「ヤシ」或ハ「切込ミ」等稱トシ狹義ノ義理事師ヲ意味ス。彼等ハ神社、佛閣、祭典、縁日、漁船其他人寄りノ場所ニ於テ、(一)「菓子割り」、(二)「水チヨボ」、(三)「四本籤」、(四)「字カヌカ」等ノ一見賭博様ノ行爲ヲ以テ多衆ヨリ金錢ヲ詐取スルヲ常業ト爲ス。

(一)「菓子割」。トハ煎餅ノ菓子玉三四個ヲ準備シ客人ニ一個ヲ五錢又ハ拾錢ニテ買ハシメ(買手カ金錢ヲ賭スル關係トナル)之ヲ割リテ菓子玉ノ中ニ赤紙ノ在ルモノニ當リタル客人(即チ賭者)ニハ、賣手(即チ胴親)ヨリ賭金ノ二倍又ハ五十錢壹圓或ハ手拭地一反ヲ渡ストノ方法ニ於テ、賭金ヲ詐欺スル也。

之レニハ常ニ二、三人ノ共犯者(「サクラ」ト稱ス)カ普通客人ノ如ク裝ヒ多衆ノ中ニ混入シ居リ、右赤紙入ノ菓子ニ豫メ付シアル目印シニ依テ之レヲ取リ當テ普通客人ニハ當ラサラシムルカ、或ハ普通客人カ當リ玉ニ金ヲ賭ケタルトキニハ「サクラ」若クハ胴親(「胴六」)ニ於テ巧クミニ空玉ト稱シ替へ、又ハ「胴六」ニ於テ破片ヲ封入シテ恰モ赤紙ノ入りタルモノト同様カララカナル音ヲ發スル實ハ空玉ヲ當リ玉ノ如ク裝ヒ其揚へ抛リ出スカ故ニ、客人ハ當ルコトナク常ニ賭金ヲ喪失ス(即チ詐欺セラル)。船中ニ於ケル菓子割ハ「船ノ賣」陸上ニ於ケルモノハ彼等ノ間ニ於テ「玉轉カシ」ト稱セラル。

(二)「水チヨボ」。「水チヨボ」又ハ「水源平」又ハ「水浸シ」トモ稱ス。之ヲ行フ「テキヤ」ハ一、二、三、ト記載アル紙片ニ客人ヲシテ金錢ヲ賭セシメタル後、明礬水ヲ以テ一、又ハ二或ハ三ト記載セル小紙片ヲ水ニ浸シ其表現スル數カ賭金セル紙片ノ數字ニ符合スルト否トニ依テ勝敗ヲ決スル方法ノ如ク裝ヒ、其實明礬水ニテ記セシ紙片ニハ水ニ浸ストキニハ表面上ノ現ハル字ニ相反スル數字カ微カニ認

メ得ヘキ仕掛ケヲ施シ置ケルカ爲メ、常ニ客人ノ張リタル數ト異ル水字ヲ現ハシ、以テ賭金ヲ全部詐欺スルコトヲ得ル也。(「水チヨボ」ニモ「胴六」ト「サクラ」ト見張リトアルコト菓子割ニ同シ)

(三)「四本籤」。トハ多ク神社ノ祭典ニ當リ其境内ニ於テ、竹籤四本ヲ用ヒ其中一本ノ下方ニ一厘錢數枚ヲ貫キタル糸ヲ結ヒ付ケタルモノヲ抽キ當テタル者ニハ、張リ金ノ多寡ニ應シテ時計、兵兒帶、反物等ヲ與フヘキ旨ヲ參詣人ニ告ケ、賭金シ抽籤セシムル「テキヤ」ノ一方法ヲ謂フ。然シナカラ右ハ賭博ニ非スシテ實ハ僞計ヲ弄スルカ故ニ詐欺ニ外ナラス。

何トナレハ「テキヤ」ハ四本ノ籤ノ中二本(此中一本ハ當リ籤)ヲ拵指ニテ押サヘ他ノ二本ト分離シ、客人ニ對シテハ拵ミト稱シテ抽クコトヲ禁シ他ノ二本ノミヲ抽籤セシメ、面シテ該二本ノ中ニ當リ籤カ混入シ居ルモノト誤信セシムル機巧ニ處シテ抽カシムルカ、或ハ四本全部ノ中ヨリ抽籤セシムルニ方リ、「テキヤ」ノ手中ニテ巧クミニ當籤スルコト能ハザルノ手品ヲ施スカ故ニ、客ハ如何ナル場合ニ於テモ、抽キ當ツルコトナク、結局賭金ハ常ニ「テキヤ」ノ有ニ歸スルヲ以テ也。

(四)「字カヌカ」。「字カヌカ」トハ銅貨又ハ鐵錢ヲ伏セ客人ニ文字ノアル方(字即)カ模様ノ方(裏面)カヲ言ヒ當テシメ、之レニ對スル賭金ヲ得喪スル賭博行爲ニ詐欺手段ヲ施ス「テキヤ」ノ一惡戲ヲ謂フ。

詐欺手段トシテハ胴親ニ於テ(イ)、小錢ノ外他ニ材料ヲ使用セス單ニ掌下ニ伏セタル錢ノ「字」カ「裏」カヲ張手ニ當テシムルトキニハ、胴親ハ、「サクラ」ニ對シテ合圖ヲ以テ竊ニ伏セタル錢ノ「字」ナルカ「裏」ナルカヲ通シ、「サクラ」ニ勝利ヲ得サシムル等ノ事ヲ企ツト變。(ロ)、若シ「屏風手拭」ト稱スルモノヲ使用シ掌ニ代フルトキニハ左ノ如キ詐術ヲ試ム。即チ手拭又ハ半紙數枚ヲ二ツ若クハ四ツ位ニ折リ疊ミ、然ル後鐵錢ノ「字」ノ方ヲ上ニ向ケタルモノ一個ヲ折リ疊ミ物ニ挟ミ、他ノ一個ハ「裏」ノ方ニ向ケテ挟ミ置キ、然ル後被害者ノ面前ニテ改メテ其何レカ一個ヲ取り出シテ更ニ挟ミ入レ、「字」カ「裏」カ執レナイヤト勝負ヲ争フモノニシテ、「字」ナ

リト賭セハ「メ」ノ換ミタル方ヲ開キ、「メ」ナリト云ヘハ「字」ノアル方ヲ巧ミニ開キ示シ以テ被害者ヲ常ニ負カス也。  
III 「變化師」ノ詐欺賭博。

「變化師」トハ、I、賭博ノ方法ニ詐術ヲ用ヒ、又ハ詐欺ノ仕掛アル不正ノ骨子、骨牌ヲ用ヒ表面上賭博ヲ爲シ其實賭金ヲ詐取スルカ、II、或ハ詐欺賭博ニ依テ犯人カ第三者ヨリ詐欺スルモノノ如ク説キ込ミ被害者ヲ形式上共犯ニ抱キ込ミ、第三者(其實眞ノ共犯者)ト輸贏ヲ争フ如ク装フ間ニ犯人ハ被害者ヲ結局大敗セシメ、賭金ヲ詐取スルヲ常業ト爲ス徒輩ヲ謂フ。被告人馬關虎コト吉田虎造ノ言フ處ニ依レハ前者ヲ「マトモ」、後者ヲ「抱キ落シ」一名「玉釣リ」ト稱ス。

陸上ニ於ケル詐欺賭博中被害ノ最大ナルハ此變化師ニシテ、之レニ次クハ前述ノ鹿追ナリ。(變化師ハ仁徳師トモ呼ハル)

(其一) 「マトモ」

「マトモ」ハ骨子又ハ骨牌ヲ使用スル賭博ノ實行中ニ不正ノ技巧ヲ弄シ、或ハ詐欺ノ仕掛アル骨子、所謂「道具骨子」、「細工骨子」骨牌(所謂「ベカ札」、「シヨウ札」)ヲ用テ賭博ヲ爲シ、相手方ヲ欺罔シテ賭金ヲ騙取スル即チ「マトモ」ニ(換言スレハ正面的ニ)行フ詐欺賭博也。

(1) 骨子使用ノ詐欺賭博

斯道ノ親分タリシ被告人日下磯吉ノ言フ處ニ依レハ、骨子使用ニ於テ行フ詐欺賭博ハ(1)「チヨボ」(骨子一個使用)。(2)「コロソボ」又ハ「伏セ茶碗」(骨子二個)。(3)「丁半」(三個)。(4)「スマハリ」(骨子四個)ニシテ、變化師カ之レニ使用スル爲メ細工ヲ施セル「道具骨子」又ハ「細工骨子」(一名「イカサマ骨子」、「クラ骨子」)ハ凡ソ左ノ如シ。

(一) 「七分骨子」之ハ丁又ハ半ノ目ノミ出ツル様骨子ノ一方ニ鉛ヲ入タル仕掛骨子也。

(然レトモ時トシテ其仕掛ケ通リ出テサル場合モ亦ナキニ。非サルカ故ニ、七分ノ利アリトノ義ヨリ此名起レリ。)

(二) 「モリツケ」又ハ「シリヒキ」。トハ骨子ノ表裏ニ同シ目ヲ盛り、丁ナラハ丁ノミ、半ナラハ半ノミ出ツル骨子也。(丁目ノミ出ル骨子ヲ「二四六」ノミ出ツル骨子ヲ「五三二」ト云フ。)

(三) 「粉入り」。トハ骨子ノ内ヲ空洞トシ之レニ水銀ヲ容レタルモノニシテ、自己ノ隨意ナル目ヲ現ハスコトヲ得ヘシ。

例令ハ之レテ壺ニ入レタルトキ三ノ目カ表ハレ居ラハ、今之テ壺ト共ニ下ニ伏スルトキ、水銀ノ爲メ其骨子ハ動かカスシテ其儘壺ノ上ニ座ルカ故ニ、三ノ反對目ナル四ノ目ヲ現ハスコトハ既定ノ事實也。

(四) 「針入り」又ハ「シカリ」。トハ骨子ノ半目又ハ丁目ニ小サキ針ノ尖端カ現ハレ出ツル様細工シアルモノ也。

其利益ハ之ヲ茶碗ニテ下ニ伏セタル後、少シク茶碗ヲ動シテ骨子ニ觸レシメ竊ニ試験シ見ルトキ、骨子カ下ノ敷物ヨリ容易ニ轉カシ難キヲ知ラハ針カ敷物ニ掛リ居ル事明ニシテ、若シ半目ニ電針カ植ラレタリトセハ、骨子ハ其裏ナル丁目ヲ現ハシ居ルコトヲ推知シ得ルコトニアリ。

(五) 「スリ落シ」。トハ例令ハ骨子ノ半目ノ盛りアル面ノ角ヲ少シク磨リ落シ置キタル爲メ、投賽ノトキ半目カ下ニナルコトヲ常ニ上ニ現ハル細工骨子ヲ謂フ。

獨逸ニ於ケル詐欺賭博者モ同シク、中空ノ骨子ニ水銀、強ク自由ナル砂ヲ入レタルモノ。又ハ短キ豚ノ粗毛ヲ挿入シ卓掛ケテ刺スカ如ク仕込マレタルモノ。或ハ一角ヲ削リ去リタルカ、若シクハ一面ニ鉛ノ棒ノ仕込メル骨子ヲ使用ス。

(六) 「六法」普通骨子ヨリ稍大ナルモノニシテ内部ハ空洞トナリ黒キ粉ヲ入レアリ、丁若クハ

半目ノ穴ヨリ此粉出ツル様ニ仕掛シアルカ故ニ、胴取りニ於テ伏セタル壺ヲ少シク引キ右ノ黒粉ヲ漏シ居ルヤ否ヤヲ檢シテ壺中ノ骨子ノ表ハレ目ヲ知り、張方ニ應シテ骨子ヲ轉倒シ他ノ利益ノ目ヲ出スコトヲ得ル也。

(七)「粉引き」。ハ「六法」ト同様ノ仕掛ケヲ有スレトモ之レニハ赤若クハ黒ノ粉ヲ入レタルノミナラス、壺ヲ引ク際粉ノ跡一線ヲ引カハ半、二線ヲ引カハ丁ナルヲ豫知シ得ル様仕組マレタルモノトス。

(八)「五分上ケ」。トハ骨子ノ一角ニ鏤ニテ竊ニ刻ミヲ入レ置キ、壺ヲ取ル際骨子ヲ壺ノ邊緣ニ當テ之ヲ反轉スル引掛リノ作ラレタルモノヲ謂フ。

(九)「細引」。ハ胴取りニ於テ先ツ左手小指ニ竊ニ女ノ頭髮一筋ヲ結付ケ、示指ニハ「クネス」ト稱スル粘着力アル藥品ヲ塗抹シ置キ、骨子ヲ左手ニテ壺ニ入レル際丁目又ハ半目ノ一方ニ示指ヲ觸レ其個所ニ小指ノ毛髮ノ一端ヲ巧クミニ附著セシメ、然ル後壺ヲ伏セ小指ヲ引キテ骨子ヲ自由ニ反轉セシムル手品師的ノモノ也。

尙變化師ハ壺ニ細工ヲ施スコト大凡左ノ如シ。

(十)「毛返シ」。トハ壺タル木碗ノ内部邊緣ニ三個ノ穴ヲ穿テ馬ノ尾ヲ通シ二弦ヲ張り置キ、碗ヲ取ル際此弦ニテ内部ノ骨子ヲ反轉スルモノニシテ、「六法骨子」ト相待テ必要ヲ生ス。

(十一)「ベツカリ」。ハ胴取りカ碗ヲ押シ又ハ引ク際或個所ヲ指頭ニテ押セハ指頭大ノ窓ヲ明クルコトヲ得、此小孔ヲ通シテ竊ニ中ノ骨子ノ目ヲ盜視スル也。  
(此窓ハ彈機仕掛トナレルカ故ニ、指ヲ引カハ窓ハ自ラ閉ツ、壺ノ内面ニ尙電燈仕掛ヲ有スルモ)

ノモアリト稱セラル

(十二)「ドウジョウ」。碗ノ内面ノ底ヲ鉛トシ彈機仕掛ニテ之レヲ上下シ得ル裝置ノモノ

(十三)「ヒラ壺」。碗ノ内面邊緣ノ一部ヲ薄クシ、又ハ内面ヲ二重ニシ、骨子ノ反轉ニ利用セントスル裝置也。

更ニ骨子賭博ノ變化師ハ座敷ニ細工ヲ施シ骨子ノ目ヲ盜視シ得ル仕掛ヲ爲セルモノアリ、左ノ如シ。

(十四)「穴 熊」。穴熊トハ賭場ニ供スヘキ二階座敷又ハ下座敷ノ疊及ヒ同位置ノ床板ニ各二寸内外ノ方孔ヲ穿テ、其上ニ白布ノ盆蓋ヲ敷キ、胴取りヲ爲シ居ル者カ壺策ヲ以テ骨子ヲ伏セル際ニ右孔ニ相當スル白布面ニ之ヲ置キ、而シテ丁半ノ胴取り又ハ中盆カ張手ノ賭鏡方ヲ一瞥シタル後竊ニ合圖ヲ爲ス時ハ、豫メ天井裏又ハ床下ニ潜メル者ハ其合圖ニ依リ懷中電燈ヲ以テ右床板、疊、ノ孔ヲ通シテ白布上ノ骨子ノ目ヲ透見シ、針尖ヲ以テ自在ニ骨子ヲ轉シ賭者ヲシテ必敗セシメ、仍テ賭金ヲ騙取スル詐欺賭博也。  
(東京清兵衛外敷名ノ被告事件)

(2) 骨牌使用ノ詐欺賭博

被告人馬關虎ノ言フ處ニ依リテ區分スレハ此種ノ賭博ニ、a、「ベカ札」即細工ノ施シアル札ヲ使用シb、「シヨウ札」即目印シノ附シアル札ヲ使用シ、c、普通ノ札ヲ使用シ手練技巧ニテ詐術ヲ施シ、詐欺ヲ行フコトヲ得ヘシ。而シテ其行フ賭博ハ多ク「八八」「カブ」「本引」ニアリ。

「八八」トハ普通ノ花札ヲ使用シ三人ニテ花合セテ爲シ得點八十八點ヲ以テ勝敗ノ標準ト爲スノ外、手役、出來役等ノ點數ヲ合算シテ勝敗ヲ決スル賭博。「カブ」トハ一ヨリ十迄ノ數ノ記シタル骨牌ヲ數人ニ分チ九又ハ十九ノ數ト爲ル者カ勝トナル賭博。「本引」ニハ

「手本引」ト「賽本引」トアレトモ札ノミナテテ勝負スルハ「手本引」也。「手本引」トハ親子共何レモ一ヨリ六迄ノ札ヲ揃ヘテ持テ居リ、親ハ先ツ此揃ヘル札ヲ懐中ニ入レ、片手ニテ札ヲ順次ニ繰リテ自己ヲ賭ケンテ欲スル一ノ札ヲ五枚ノ札ノ最上部ニ置き、手拭ニ包ミテ揚ヘ差出ス。子ハ又各所持スル六枚ノ札ノ何レヘカニ賭シタルトキ、先ツ親カ手拭ヲ去リテ其賭ケタル札ノ數ヲ見セ、然ル後子カ振りタル札ヲメクリテ其數ヲ見、子ノ札カ親ノ札ト一致スレハ子ノ勝トナリ、親ハ子ニ對シテ子ノ賭金ノ四倍半ヲ渡シ、子カ當ラサレハ子ノ賭金ハ親カ没收スルモノトス。

a、「ベカ札」之ハ詐欺ノ仕掛ヲ施セル細工札ニシテ凡ソ左ノ如シ。(被告人油 信ノ供述)

(一)「屏風札」札ノ表面ノ中央ヨリ上下ニ折リ返ヘリ得ル様ニ細工シアリ、例令ハ上ヲ持テ札ヲ明ケハ七カ出テ下ヲ以テ明ケハ八カ出ツト云フカ如クニ作ラレタルモノ也。

(二)「兩面」札ニ表裏ナク何レモ表面ニシテ一方ハ七他方ハ八トナレルカ如キモノトス。

(三)「縦引」札ヲ縦ニ明クルトキ札ノ表面ノ模様ノ一部カ變化スル様ニ細工セルモノ。「横引」ハ札ヲ横ニ明クレハ表面カ變化スル様仕掛アルモノ。

(四)「管糸付」札ノ縁ヨリ中央ニ向ヒ札ノ内部ニ管糸ヲ通シアリ、之ヲ引テ表面ノ模様ヲ變化セシム様ニ仕掛アルモノ。例ハ五ヲ四ニ變化セシムルカ如シ。

(五)「ベカ札」(狹義) 札ノ心ニ鼈甲ヲ使用シテ抜き挿シノ出來得ル様ニ作レルカ故ニ、例令ハ四ヲ五ニ七ヲ六ニ指頭ノ作用ニ依テ自由ニ變更シ得ルモノ。

b、「シヨウ札」之ハ札ニ目印シノ付シアル(「眼入り」)モノニシテ、「オシガン」、「フクラシ」、「ヒカリ」ニ細別スルコトヲ得(被告人馬 關虎ノ言)

(六)「オシガン」 指又ハ基石ヲ以テ札ノ裏面ノ一定ノ場所ヲ強ク押シ、表面ノ數ニ對スル目印シヲ付ケタルモノ。

(七)「フクラシ」 札ノ表面ヨリ札ヲ押し裏面ノ或個所ヲ凸形ニ稍膨ラシ目印ヲ付ケタルモノ。

(八)「ヒカリ」 札ノ縁ニ目印ヲ付ケタルモノ也。

關虎ニ於テ此「シヨウ札」ニ該當スルモノニ「Maquillage」ナルモノアリ。其目印シテ附スル方法トシテハ、釘、或ハ指環ノ尖端ヲ以テ點又ハ線ノ型ヲ附ケ、骨牌ヲ刺シ通シ其孔ニ蠟ヲ以テ埋メ、輕石ヲ以テ蠟ニ骨牌ヲ捺リテ表面ヲ粗ニナシ置キ、縁ノ或個所ヲ截リ、或ハ濕リタル木片ノ先ヲ以テ骨牌ノ裏面ニ目印シテ附ケ乾ケハ其部分ノミ他ヨリ曇リテ見ルカ如ク爲ス也。尙既ニ此目的ニ製作セラレタル不正骨牌モアルハ我國ノ事情ト毫モ異ルナシ。

c、正當ノ札ヲ使用シ手練技巧ニテ詐術ヲ施ス方法ニ數種アリ。即チ左ノ如シ(同馬關虎ノ說明)

(九)「ツクリ込ミ」 「カブ」ヲ爲ス際企テラルル方法ニシテ親カ札ヲ切り之ヲ場ニ差置クニ當リテ、積重ネラレタル札ノ最上部ニ例ハ一ノ札ヲ置キ、其下ニ何ノ數ノ札タルトヲ問ハス唯六枚置キ、其下ニハ八ノ札ニ枚ヲ置ク様ニ揃ヘラレタルモノ、即チ不正ニ札ノ順ヲ作り込マレタルヲ云フ。(新ククセハ共犯者ノ補助ニ依テト入ノ札カ親ノ手ニ入り勝利ヲ得ヘシ)

歐洲ニ於テハ「Falsche Coupe」(嘘ノ相乗馬車)ナルモノアリ。之レハ親カ骨牌ヲ切りテ場ニ積ミ重ネ置クニ當リ、或ハ其中一枚ノ骨牌ヲ目印ノ爲メ竊ニ突き出スカ如ク爲ストキ、仲間ノ一人タル子ハ其所ヲ常ニ切ルカ故ニ、親ハ豫定通り一枚ノ札ヲ處置スルコトトナル也。

尙骨牌ヲ切リテ「Schlammchen」(サラダチ作ル)ト謂フ。即チ骨牌ノ總テカ同シ場所ニ留マレトモ恰モ切レルカ如クニ裝フモノニシテ、是等ハ偽計者ニ唯大膽ト鐵面皮トタニアラハ足リ、毫モ熟練ヲ要スルモノニ非ス。

(十) 「フキ替へ」 「カブ」ヲ爲スニ當リ或ル札ヲ密ニ手中ニ隠シ持テ居リ、メ、ク、リ、タル札ト巧ミニ  
拘リ替フルヲ指稱ス。

(十一) 「ソクガヘ」 同様「カブ」ヲ爲ス際、二枚又ハ三枚ノ札ヲ同時ニ拘リ替フルヲ云フ、即チ東ニ  
テ拘リ替フルノ義也。(之ハ多ク親ニ於テ全ツル方法ニシテ、親ハ二枚カ三枚ヲ)

(十二) 「ソリ」 「カブ」ニ於テ札ノ二、三枚ノ連續ヲ記憶シ其札ノ耳ヲ私カニ反ラシ目印シヲ付  
ケ(即一種ノ「シヨウ札」ト爲ス)置キ之ヲ利用ス。(例ヘハ子カ「ソリ」ニト三ノ札ニ施シ置キ其札ノ出テントスルト  
トナリ勝チ  
得ルカ加シ)

(十三) 「ツナギ」又ハ「ミヲクリ」。耳ニ「ソリ」ヲ付ケスシテ、親カ札ヲ揃ヘルトキ故意ニ零シテ  
三枚ノ札ノ連續ヲ記憶シ居リ、之レヲ利用スルヲ謂フ。

(十四) 「ヒツツキ」。全札ノ中ニ於テ一枚宛ヨリナキ特種ノ札ニハ又ハ九ノ札ヲ付ケ置キ、其特  
種ノ札カ出テタルトキ其次ニハ又ハ九ノ札アルヲ豫知シ、之レヲ利用スル不正手段也。

(十五) 「六丁廻シ」。子カ親ノ切りタル札ノ最下端ノ札ノ數ヲ盜視シ置キ、親カ札ヲ場ニ積ミ重  
ネ置キタルトキ、子ハ其最下端ノ札カ上ヨリ第六番目ト爲ル様ニ切り、親ヲシテ札ヲ撒カシメ、其配  
憶シタル札ト合セテ利益トナルヘキ場札ニ大ニ金ヲ賭シ勝ヲ得ル方法ヲ謂フ。

(十六) 「蹴込ミ」。札ヲ股間ニ巧クミニ蹴リ込ミ他ノ札ト拘リ替フル也。之ニハ天井板ヘ附著ス  
ル様巧ミニ札ヲ飛ハシ、又ハ口中ニ蹴込ミテ拘リ替フル方法モアリ。

獨逸ニ於テ我「蹴込ミ」ニ似タルモノニ、「Transportieren」(輸送)ナルアリ。之レハ場ニアル骨牌ヨリ一、二枚ノ骨牌ヲ竊ニ取リ

除キ、暫時又ハ長ク膝ノ附近ニ隠シ置キタル後、再ヒ竊ニ元ノ處ヘ返スヲ云フ也。

(十七) 「打返シ」 及ヒ「釣リ」。共ニ「フキ替へ」ノ一種トス。

(十八) 「小手返シ」。「ツクリ込ミ」タル札ヲ子ヲシテ切ラシメ「ツクリ込ミ」ノ部分カ全札ノ中央  
ニ入りタルトキ、更ニ最初ノ作り込ミタル儘ノ原状ニ恢復シタル上、勝負ニ著手スル方法也。

(3) 「變化師」仲間ノ役割

「變化師」カ「マトモ」ニ依ル詐欺賭博ヲ行フニ當リテハ常ニ數人ノ共同ヲ必要トス。

骨子賭博ニ於テ(被告人日)

1 「寺師」。(表面上ハ賭博ノ開張者ト爲リ寺錢ヲ取得スレトモ、眞ノ任務ハ被害者トナルヘキ資産家ノ主人ノ誘引ヲ  
爲シ、賭博ノ手合セ中ハ絶ヘズ被害者ノ味方ノ如ク見セ掛ケツツ其實仲間ノ指揮監督ヲ爲ス隠微也)

2 「合力」。(表面ハ賭博ノ助金ヲ張ルコト又ハ寺錢ヲ出スコト等ニ付テ世話スル役ナレトモ、其實ハ常ニ副親ノ傍ニ坐シ  
合圖ヲ以テ仲間ニ知  
ラシムル信託役也)

3 「先生」。(之ハ副親ノ傍ニ坐リ居リテ表面上ハ骨子ノ伏セ方等ヲ教ユル役ナレトモ、合力ト同様其内實ハ今伏セタル骨  
子ノ目ハ丁ナルカ半ナルカ合圖ヲ以テ仲間ニ知ラセ、張手トナレル連中ヲ勝タシムル標ニ爲ス實務ヲ担  
ス)

4 「胴親」。(道具骨子ヲ取扱セツツ  
胴親ノ任務ヲ爲ス役者)

5 「客」。(恰モ賭博ノ普通ノ客人ノ如ク装ヒ被害者ト  
共ニ張手トナリテ勝負ヲ爲ス取り巻キ役也)

6 「銀方」。(賭博ノ資金ヲ  
出ス資本主)

7 「影法師」。(賭博中見張り役ヲ爲シ、又ハ被害者カ詐欺ヲ覺知シ騒キ出シタルトキ恰モ刑事ノ如ク装ヒ現  
場ヘ踏込ミ、或ハ仲裁役ノ如ク見セ掛ケ事件ヲ揉ミ消ス等裏面ニ立テ活動スル役ヲ云フ)

b 骨牌賭博ニ於テ(被害人木村)

第二章 詐欺第一節 常習詐欺ノ方法(定型)

- 1 「紐」。(被害者ヲ誘引スル役)。
- 2 「太夫」。(骨牌ヲ巧クミニ使ヒ分ケル役)。
- 3 「銀方」。(賭博場ヘ資金ヲ供給スル者)。

(其二) 「抱キ落シ」

「抱キ落シ」トハ「マトモ」ヲ振リタル方法ニシテ、「マトモ」カ詐欺賭博ノ表ナラハ之レハ其裏ヲ搔キタル方法トモ謂フヘク、詐欺賭博ニ於テ第三者ヨリ詐欺セントノ甘キ話ヲ持チ込マレタル者カ之ニ應シタル爲メ却テ遂ニ計畫アル詐欺ニ陥ルコトト爲ル也。尙「マトモ」トノ相異ノ點ハ「マトモ」ニ於ケル被害者ハ一人ニ限ラサルモ、之ニ於テハ一人ナルヲ一般トスルニアリ。

「抱落シ」ノ方法ヲ略説スレハ、變化師ノ一人カ詐欺賭博ノ詐術ノ種ヲ明カシテ先ツ被害者ヲ威服セシメ、此方法ニ依リ共ニ他人ニ對シテ詐術ヲ用ヒ之ヲ倒サント話ヲ持込ミ被害者ヲ抱キ入レ賭金ヲ用意セシメタル上、他人ニ裝ヘル實ハ共犯ヲ相手ニ廻ハシテ賭博ヲ爲シ、他人ヲ倒サントスル際過テ詐術カ完全ニ行ハレサリシカ如ク爲シテ他人ニ勝利ヲ得セシメ、斯クシテ被害者ノ金圓ヲ捲キ上クル也。

第二 鐵砲事件

鐵砲事件トハ賊物賣買ニ籍口シテ金圓ヲ騙取スル詐欺手段ヲ謂フ。其普通ノ方法ハ鐵砲事件仲間ノ一人カ多少山氣ノアルラシキ商人ノ許ニ立越シ、其營業商品ノコトニ就テ種々談話ニ花ヲ咲カシメタル上、自分ハ賊品ヲ安ク賣却スル處ヲ知レルカ何時ニテモ竊ニ紹介スヘシト親切氣ニ語り、商人カ慾心ニ駆ラレ遂欺レテ此話ニ乘リ早速其男ト同道スルヤ、彼レハ共犯ノ一人ナル所謂賊品所有者ノ許

ヘ連レ込ミ、極メテ安價ニ買求メシム。然レトモ賊品トハ實ハ賊品ヲ假裝セル正當ノ商品タル也。商人ハ財布ノ底ヲ叩キ現金ヲ支拂ヒ、或ハ代價ノ約三分ノ一ヲ内入レト爲シ、買ヒ得ル丈ノ多クヲ買締メ大風呂敷ヲ脊負ヒ夜間竊ニ我家ヘ持歸ル途中、刑事巡查ニ變裝シタル共犯者ノ他ノ一人カ突然横町ヨリ立現ハレ、某署ノ刑事ナルカ其包ハ賊品ノ疑アルニ付キ一應本署ニテ取調フヘシト申訴リ、巧クミニ其品物ヲ捲キ上クルカ如シ。

第三、「ペーパー」事件

「ペーパー」事件トハ、(1)頭初ヨリ紙幣又ハ銀行兌換券ヲ偽造スル意思ナキニ不拘恰モ之レアルカ如ク裝ヒ、其方法、器械、藥品ヲ知悉シ居ルト稱シ他人ヲ欺罔シテ所謂仲間ニ入ラシメ、材料購入ノ費用ニ假託シ出金セシメ之レヲ詐欺シ。或ハ偽造用ノ器械、藥品ヲ竊ニ賣渡スモノノ如ク裝ヒ其代金又ハ手附金名義ニ於テ金圓ヲ騙取スルカ。(2)偽造ノ紙幣又ハ銀行兌換券ヲ自己又ハ第三者カ所持セサルニ不拘、慾深キ他人ニ對シテ偽造物ヲ極メテ安價ニ真紙幣ト交換(別言スレハ賣却)シ、若クハ其交換方ノ周旋ヲ爲スカ如ク申訴リ、其賣買代金又ハ手附金名義ニ於テ莫大ノ金圓ヲ詐取スル常業的詐欺犯ヲ謂フ。

I 「ペーパー」事件仲間ノ役割

- (1) 「ヒモ」又ハ「御引き」(被害者ヲ誘出スル役目ノ者)
  - (2) 「事件師」又ハ「スワリ」或ハ「先生」(「ハウス」即チ家ニ待受ケ居リテ「ヒモ」ヲ誘拐シ來レル被害者(「モヤ」)ニ面接シ詐術ヲ施ス元方也)
- II 紙幣偽造ニ假託スル「ペーパー」事件ノ普通ノ方法。 此種ノ「ペーパー」事件師ハ藥品或ハ精巧

ナル器械ニテ製造シタリト稱スル所謂偽造紙幣ノ見本ヲ先ツ被害者ニ示シテ威服セシムル必要アリ。然ルニ之レカ見本トシテ用フルモノハ實ハ真正ノ紙幣又ハ銀行兌換券也。即チ新シク未タ折目竝ニ汚斑ノ附カサル例令ハ五圓銀行兌換券ノ真物ヲ表面ト裏面ノ部分ニ剝離シタルモノ、或ハ古ク汚レタル銀行兌換券ヲ硝子板等ニ水ニテ貼付ケ乾燥セシメタルモノヲ、贋幣ノ見本ナリト詐リ被害者ニ示シ、或ハ藥品ノ特效又ハ印刷器械ニテ如此巧緻ニ製造シ得ラルルト誇張ス。

其際尙同種ノ體裁ノ完全ナル兌換券數枚ヲ取出シ、是等ハ孰レモ自己カ偽造シタル贋幣ナレドモ世人ハ敢テ毫モ怪ム處ニ非ス試ニ行使セラレト稱シ、三枚ヲ與ヘ、犯人自身モ亦被害者ト同道シ之レヲ買物又ハ飲食店ノ支拂ノ爲メ數枚ヲ浪費シ、被害者チシテ充分ニ安心セシム。浪費ノ所謂贋幣ハ一トシテ苦情ノ出ツルモノナシ、其ハ眞紙幣タルカ故也。

被害者カ藥品又ハ器械ニ依リテ偽造セラルル實際ヲ目前ニ於テ實驗サレタル旨ヲ以テ犯人ニ迫レル場合ハ勿論、然ラサルニ於テモ「ペーパー」事件ノ進行上、之レカ必要ヲ感スルヤ、犯人ハ眞紙幣ノ表裏ヲ剝離シタルモノニ各藥品様ノ色素ヲ塗り紙幣大ニ截チタル白紙ニ密著セシムルトキハ、眞紙幣ノ印刷模様ハ塗布藥ノ作用ニヨリテ白紙ニ寫リ、斯クシテ完全ナル贋幣ヲ産出シ得ヘシト稱シ、其間ニ巧ニ右ノ白紙ト眞紙幣ト拘リ替ヘ。又ハ銅版、石版、寫真版等ノ印刷器械ニシテ贋幣ノ原板裝置セルモノヲ示シ機械ノ構造ヲ種々説明シタル上、愈印刷スルニ當リテハ白紙ト眞紙幣ト竊ニ拘リ替ヘ被害者ヲ瞞著ス。斯クシテ此方法ノ資本金ト稱シ或ハ右ノ偽造材料ヲ賣却スト申詐リ、慾心滿々タル被害者ヨリ金圓ヲ詐欺スル也。

III 贋幣賣却(交換)ニ假託スル「ペーパー」事件ノ普通ノ方法。

先ツ「ヒモ」カ一人ノ憐ムヘキ被害者ヲ物色シ「事件師」ノ許ニ連レ込ミ勿體ヲ附ケテ紹介スルヤ、「事件師」ハ被害者ニ對シテ、元數十年間印刷局ニ奉職シ近頃退職シタル者カ在職中印刷シタル紙幣ヲ竊ニ拔取り、或ハ印刷過剩ノ紙幣ニシテ燒棄スヘキ分ヲ秘密ニ隱匿シタル不正紙幣アリト稱シ、或ハ現ニ係官吏ト結托シテ常ニ増刷シテ賣却スルヲ業トセル者アリト詐リ、斯クノ如キ關係ヨリ得ラレタル紙幣ナルカ故ニ、例令ハ一萬圓ノモノハ五千圓ニテ買入ルルコトヲ得ヘク、自分ハ專ラ其周旋ヲ爲ス者ナリト言ヒ、所謂不正紙幣ノ見本トシテハ眞紙幣ノ新シキモノヲ用ヒテ全然被害者ヲ欺キ、其買入代金又ハ手附金名義ニ於テ數千圓ヲ騙取スルコトトナル。

而シテ此「事件師」ノ慣用手段トセル定型ハ犯人カ被害者ヲ欺同シ賣買ヲ約スルト共ニ其場ニ於テ取引ヲ完了スルニハ非スシテ、何月何日何町ノ何旅館ニテ手金又ハ代金引換ニ例ノ紙幣ノ一束ヲ引渡スヘキ旨ヲ約シ置キ、其會見ニ至リテ「事件師」ハ靴ヨリ所謂不正紙幣(實ハ紙幣大ニ截チタル紙ノ束ノ上下ノミニ眞紙幣ヲ當テ置ルモノ)ヲ取出シ、被害者ト將ニ現金引換ヲ爲サントスル瞬間ヲ見計ヒ、隣室ニ於テ他ノ共犯者俄カニ履キ立ツルカ、或ハ境ノ換ヲ少シク開キ室内ヲ覗キ込ムカ如ク爲ス也。此時「事件師」ハ周章狼狽ノ態ニテ、吾人ノ惡事露顯シ警官來レリ、此處ハ危險ナレハ自宅ニテ引換ヲ爲サント口早ニ唱ヘツツ、被害者ノ差出シタル現金モ所謂不正紙幣モ共ニ靴ノ中ニ無難作ニ押込メ逃走スルカ如クニシテ停車場ヘ赴キ、右ノ靴ニ嚴重封印ヲ加ヘタル上、安心ヲ與フル爲メ被害者自身チシテ之ヲ鐵道手荷物トシテ預入レシム。而シテ自分等モ共ニ同列車ニテ退町ス。之ヨリ幾キニ他ノ共犯者ハ右ト同型同大同色ノ靴ニ古雜踏ヲ填メ同様ナル封印ヲ爲シテ鐵道ニ預ケ其合札ヲ所持シ居リ、之レト右現金入靴ノ合札ノ被害者所持ノモノトチ列車中ニ於テ竊ニ拘リ替フ。著跡後被害者自身カ合札引換ニ靴ヲ受取リ「事件師」ノ「ハウス」ニ到着シ中ヲ開キ見レハ古雜踏アルノミ全然靴ノ相違セルニ共ニ一驚ヲ喫スルコトトナル。但シ被害者ト「事件師」トハ一驚ノ性質ヲ異ニスヘシ。此場合被害者ハ多ク自己ノ粗忽ヨリ右ノ結果ヲ生シタルモノト誤信シ只管「事件師」ニ謝罪スルノ外、何分ニモ贋幣ノ買入ヲ爲サントシタル痕持ツ所ナルカ故ニ警察



く紛失ノ届出ヲ爲スコトモ能ハス泣義入りトナリ、犯人仲間ハ例ノ拘り替ヘタル袍在中ノ現金ヲ分配シテニ頭初ノ目的ヲ達スル也  
III 「ペーパー」事件ノ被害者ハ即他ノ「ペーパー」事件ノ犯人。

被害者カ「ペーパー」事件ニ依テ莫大ナル損失ヲ蒙リ、之レカ詐欺タリシコトヲ覺知シ驚テ「事件師」ニ談判スルヤ、彼等ハ冷笑シテ曰ク、若シ不滿ナラハ直ニ趨リテ警察官署ニ之カ頭末ヲ訴ヘ出ヨ、貴公ハ貨幣偽造行使ノ意アリタルモノトシテ刑法ノ正條ニ照ラサレ處分ヲ受クヘク却テ毒蛇ノ愚ヲ學ハシノミ、夫レヨリハ寧ロ此手ヲ利用シ慾深キ者ヨリ多額ノ金圓ヲ詐欺シ損害ノ填補ヲ圖ルヲ利口トセシヤト。斯クノ如クシテ遂ニ被害者ハ彼等ノ仲間ニ加入シ或ハ自ラ卒先シテ「ペーパー」事件ヲ計畫スルニ至ル。

#### 第四 「土砂流シ」

「土砂流シ」トハ多ク京阪地方ニ於テ呼ハルル名ニシテ、東京方面ニテハ「御天氣師」(狹義)ト通稱セラル。

「土砂流シ」ハ遺失物拾得横領事項ヲ假裝シ、之ヲ種トシテ他人ヨリ金品ヲ詐欺スル常業的犯罪ナルヲ以テ、他ノ犯罪ヲ手段トスル詐欺ノ一タルヲ失ハス。

##### I 土砂流シ仲間ノ役割

- (1) 「モチ」(數百圓ノ紙幣ノ束ニ裝ヒタルモノヲ故意ニ道路ニ遺シ行ク役割。但シ後ニ自ラ之レヲ拾得シ被害者ト共ニ分配方ニ就テ協議スル役トモナル)
- (2) 「ダキ」(被害者ヲ誘引シ或場所ヘ連行キ遺失ノ假裝金品ヲ自ラ拾ヒ又ハ「モチ」ニ拾得セシメタル上、分配ニ當リ被害者ヲ欺同シ詐欺スル役。)
- (3) 「ミハリ」(見張) (此芝居中舞臺ノ周圍ヲ警戒シ、尙發覺ノ際刑事) (「モチ」「ダキ」ヲ「現場師」) (「ミハリ」ヲ「上師」ト稱ス。)

##### II 土砂流シノ方法、

先ツ「ダキ」カ名所遊覽ノ田舎者或ハ金圓ヲ所持セル商家ノ小僧ニ話シ掛道伴レトナリ、或ハ慾深ノ男ヲ誘引シ、豫定ノ人通り少キ街路、若シハ極メテ雑踏セル場所ヘ連レ行キ話シ行ク途中、豫テ謀シ合セル「モチ」カ向側ヨリ來リ行過クル途端ニ紙幣ノ束ノ如ク裝ヒタル小サキ包(「ネタ」)ヲ故意ニ落シ行ク也。此事ヲ素早く瞥見シタルカ如ク裝ヒタル「ダキ」カ之ヲ拾得シ、包ヲ少シク開キ一驚ヲ喫シタルカ如キ態ニテ、紙幣カ五百圓在中セルモ自分一人ニ非ス君ト同道ナルカ故ニ、之ヲ山分けニ爲サントノ提議ヲ爲シ、愈詐欺ノ著手ノ一幕ニ入ル。

尙「モチ」ハ「ダキ」ト被害者カ來ル少シク前ニ街路ニ假裝紙幣包ヲ落シ置キタル後、向側ヨリ來リ被害者等ノ眼界ニ入ルヤ自ラ其包ヲ拾得スル方法モアリ。此場合「ダキ」ハ遂ニ之ヲ見テ「モチ」ニ對シテ、唯今御前様ハ何方拾物ヲ爲シタル様ナルカ夫ハ何ナルヤト尋ネ、其包ヲ「モチ」ト共ニ開キ見如何ニモ驚キタル様子ヲ爲シタル上、他人カ知ラサルヲ幸ヒ吾々三人ニテ分配シテハ如何トノ意見ヲ提出シ、被害者ニ之ヲ歸リ愈々詐欺ノ著手状態ニ入ルコト爲ル。

以上ノ場合ニ被害者カ彼等ノ種々ノ狂言ニ依リ全ク紙幣ノ遺失物ナリト誤信スルヤ、犯人ハ所謂五百圓ヲ某驛ノ待合室又ハ某神社ノ境内ニテ分配スルヲ安全トスヘシト主張シ、尙自分ハ酒屋ニテ一杯祝盃ヲ傾ケテ行キタク、又ハ鳥渡買物ヲ爲シタル上、或ハ大便所ニ入りタル後約束ノ場處ヘ立越スヘク、此包ハ一時君ニ預ケ置クニ付キ、其擔保トシテ墓口及時計、若シ多クヲ所持セサルトキハ羽織及携帶品ヲ交付スヘシト申訴リ之ヲ騙取シ、假裝ノ紙幣包實ハ紙幣大ノ古新聞紙束ヲ大層ラシク被害者ニ引渡シ、其儘逃走シテ目的ヲ達ス。

### 乙 普通ノ詐欺

A 犯人カ真名ヲ現ハササル詐欺。

其主ナルモノヲ列舉的ニ記載スレハ大略左ノ如シ。

#### 一 「剩錢詐欺」

剩錢詐欺トハ拾圓札又ハ五圓札ニテ買物ヲ爲スカ如ク装ヒ、其剩錢名義ニ於テ商店ヨリ金圓ヲ騙取スル常習犯ヲ謂フ。

其最モ普通ノ方法トシテ、犯人ハ米屋、酒屋、呉服屋、果物屋等へ立越シ、自分ハ某町何番地ノ某ト謂フ者ナルカ早速米ヲ壹圓分宅迄届ケ呉レタク、尙拾圓札ニテ支拂フニ付キ其剩錢ヲモ共ニ持參サレタシト申入レ、立歸ル也。商店ニ於テハ小僧ニ品物ト剩錢トヲ持參セシメ右ノ番地へ赴カシムルヤ、犯人ハ其附近ノ路次口ニ待受ケ居リ彼方此方ト尋ネ疲レタル小僧ニ對シ自分方ハ此奥ナルカ餘リ遲キ故此所迄出迎へ居タル旨申詐リ、急遽剩錢ノミ又ハ剩錢ト品物トヲ奪フカ如ク受取り直ニ十圓札ヲ持來ルト稱シ路次内へ駈ケ込ミ其儘後道ヨリ逃走ス。(或ハ又犯人ハ故ヲ多額ノ買物ヲ爲シ主人ナシテ品物ヲ出目ノ所紙幣ナレハ五十圓丈ケ剩錢ヲ持參シ呉レト主人ヨリ依頼セラレタリ等詐リ之ヲ詐欺ス。)

剩錢詐欺ハ漸次巧妙ヲ加へ現今ニ於テハ「籠箠」ヲ手段トシテ此種ノ詐欺ヲ行フ常習犯者多シトス。換言スレハ剩錢籠箠詐欺トモ稱シ得ル方法也。(イ)即チ犯人ハ他人ノ現在セル所、番地、姓名ヲ告ケ其者ノ使者ノ如ク装ヒ、例ハ薪屋ニテ一圓ノ註文ヲ爲シ十圓紙幣ニテ支拂フニ依リ剩錢ヲモ共ニ持參

スヘシト申置キ其家ノ裏口ニ潜ミ居リ、品物ヲ届ケ來レル者ヲ擁シテ巧ミニ剩錢ヲ受取り裏入口ヨリ邸内ニ入ルカ如ク装ヒ逃走スルカ。(ロ)或ハ官衙、銀行等ノ通勤者某ト稱シ名ヲ買物ニ託シテ剩錢ヲ其處へ持參セシメ表入口ニ出迎へ居リテ之レヲ騙取シ裏口ヨリ逃走ス。(ハ)又ハ新タニ貸間ヲ求メテ直ニ移轉シ來ルカ如ク貸主ニ告ケ置キ、或ハ空家ニ擅ニ一時的表札ヲ掲ケ置キ其附近ノ商店へ立越シ何町、何番地ノ何某ナリト稱シ、前示ノ方法ニテ品物ト剩錢トヲ持參セシメ之ヲ受領スルヤ、直ニ裏口ヨリ逃走シ詐欺ヲ遂ク。

#### 二、「籠箠詐欺」

籠箠詐欺トハ剩錢詐欺ノ項ニ於テ既ニ概説シタルカ如ク、最初空家ヲ物色シ擅ニ虚偽ノ表札ヲ掲ケ自家ノ如ク装ヒ、呉服屋、時計店等へ立越シテ數百圓ノ品物ノ註文ヲ爲シタル上、何町何番地ノ自宅迄届ケ呉レタシト命シ、店員カ早速品物ヲ持參スルヤ、犯人ハ玄關ニテ其品物ヲ受取り奥へ金ヲ取りニ行クカ如クシテ裏口ヨリ逃走スル也。

近來數人共謀ニ依リ大仕掛ノ籠箠詐欺少ナカラサルノミナラス、官廳(例令ハ裁判所、警察署)、郵便局、銀行、又ハ病院、會社、學校等チ此種ノ詐欺ノ舞臺ニ利用スル猶徒ノ漸ク多カラントスルカ如シ。

#### 三、公務員又ハ事務員ヲ装フ詐欺

I 贖刑事。何々警察署ノ何々刑事ナリト詐稱シ被害者ニ對シテ所持ノ金圓ハ贖幣ノ疑アリトカ、又ハ贓品ノ嫌疑アリトカ其他臨機ノ口實ヲ設ケ、取調ニ裝テ之ヲ騙取ス。甚シキニ至リテハ官服ヲ著シ公然ト非行ヲ爲ス犯人アリ。贖刑事詐欺ニシテ「籠箠」ヲ手段トスルモノ多キハ蓋シ此ノ詐欺ノ性質上

當然ナルヘシ。

II 贖銀行員或ハ偽郵便局員。商家ノ小僧等カ主人ノ使ニテ郵便局又ハ銀行ヘ立越シ、爲替、小切手等ヲ提出シ現金ヲ受取リテ歸途ニ就クヤ、犯人ハ例令ハ銀行員ト稱シテ小僧ヲ其附近ニテ呼止メ、唯今ノハ計算違ヒノ點アリトカ、或ハ責任上何々銀行ニテ支拂フヘキモノヲ誤テ渡シタルニ付キ一時返金シ吳レト申詐リ之ヲ詐取ス。

四、郵便貯金詐欺

氏名住處ヲ詐リ先ツ一郵便局ニ金五十錢又ハ一圓ノ郵便貯金ヲ爲シ通帳ノ交附ヲ受ケタル上、其金額ヲ巧ミニ變造シ、或ハ更ニ次ノ罪ニ數百圓ノ記入ヲ爲シ、預入郵便局ノ「スタンプ」及ヒ局長印、爲替貯金局長印、現在高證明印等ヲ偽造シ、他ノ郵便局ヘ立越シ貯金ノ拂戻請求ニ裝ヒ、數百圓ヲ騙取スル詐欺犯ハ近來漸ク各地ニ彌漫ノ傾向アリ。

五、「暖簾師」

「暖簾師」トハ廣義ニ於ケル「御天氣師」中ノ一部分ニ屬ス。

一言ニシテ謂ヘハ行商詐欺ノ常業犯者也。主トシテ醬油、炭、卵、栗、鯉節、石鹼、海苔、ト云フカ如キ日用品ヲ正當且安價ニ商フカ如ク裝ヒ其實詐欺ヲ行フ。

例令ハ乾物屋ヨリ腐敗シタル鵝卵ヲ二東三文ニテ買來リ、其上ニ産ミ立テノ鵝卵一、二個ヲ故意ニ打壞シ置キテ、下宿屋等ヘ立越シ商リ卵ヲ百個五圓位ニ賣付ケ。或ハ醬油ニ就テハ樽ノ中ニ竹筒ヲ竊ニ仕込ミ其竹筒ノミヘ醬油ヲ少シク入レ他ヘハ水ヲ滿タシ何升樽ト稱シ。又ハ後ノ中央ヘ泥ヲ填メ其周圍ニ炭ヲ置キタル炭俵ヲ商ヒ。數年前ノ古海苔ハ新シキ海苔ノ間ニ入レテ香ヲ移ラシメ。總

節ノ蟲蝕物ハ蟲ノ穴ヲ埋メテ磨キ上等物ト稱シテ賣リ、其實代金ヲ詐欺スルノ類之也。

六「チバ師」

「チバ師」ハ「暖簾師」ト同様一種ノ行商詐欺ヲ營ム者ナルモ、前者ヨリ比較的大仕掛也。普通ノ定型トシテ「チバ師」ノ犯罪ヲ幫助スル爲メ他ノ客人ノ如ク裝フ共犯者(「サクラヒ」)カ先ツ新店ノ小間物屋或ハ荒物屋等ヘ順次立越シ。近頃非常ノ評判トナレル何々齒磨粉ヲ買求メ度シト申込ミ、店主カ左様ノ品未タ持合セナシト告グルヤ、サモ落膽ノ態ヲ裝ヒ出行ク也。然ル後「チバ師」ハ時刻ヲ見計ヒ其所謂何々齒磨粉同店ヘ卸ニ行キ粗製品又ハ全ク無價值ノ品ヲ高價ニ卸賣シ、代金ヲ詐取ス。

稍進ミタルモノニ至リテハ共犯者ヲ手代ノ如クニ裝ヒテ伴ヒ、自動車又ハ人力車ニテ大商店或ハ大家ヲ訪問シ、詐欺ノ種トシテ携帶セル物ヲ示シ、或ハ裏賣特許品ナリト稱シ又ハ效用、品價ヲ虚偽ニ吹聴シ、例令ハ器械物織物等ニヨリテ大金ヲ騙取ス。

七 偽電詐欺

偽電報ヲ發シ電報爲替ニテ金圓ヲ詐取スル犯罪ハ、從來主トシテ不良學生等カ其友人ノ郷里ヘ友人名義ニテ或ハ火災ニ罹レリ、又ハ傳染病ニ冒サレタリ、又或ハ盜難ニ遭ヒタリト云フカ如キ偽電報ヲ發シ、局待ノ方法ニテ送金ヲ詐欺スルニ在リタルモ、近來之ニ關スル職業的犯人ヲ見ルニ至レリ。即チ最初面識ナキ相當ノ商人ヲ或ハ山林、産物ノ賣買等ニ名ヲ託シ遠隔ノ地ニ誘出シ旅館ニ到着スルヤ、犯人ハ竊ニ電信局ニ走り、其商人ノ留守宅ニ向ケ恰モ其者ヨリ發シタルカ如ク爲シ送金方ノ偽電ヲ發シ、局待ノ方法ニテ送付來レル金圓ヲ詐欺スルニ在リ。

八 無錢飲食詐欺

金錢ヲ所持セサルニ不拘全然知ラサル御手輕料理店又ハ腰掛飲食店へ立越シ、恰モ金圓ヲ所持スルカ如ク裝ヒ、茲ニ十圓札ハアレトモ小錢ナキカ故ニ鳥渡立替へテ煙草一個ヲ買求メ吳レ等申詐リ安心セシメタル上充分ニ飲食シ、愈支拂トナルヤ財布ヲ遺失シタリ等稱シテ一時其場ヲ免レントスル浮浪ノ徒ハ比較的憐ムヘキモノアレトモ、有名ナル温泉場又ハ都市ノ一等旅館ニ紳士ヲ裝ヒ數日滞在シ、所用外出ニ託シテ逃走スル常習詐欺犯ニ至リテハ、其被害ノ洵ニ悔リ難キモノ尠ナカラズ。

九 自轉車詐欺

自轉車竊盜ト共ニ近來著シク其數ノ増加セルハ自轉車詐欺也。即チ犯人ハ自轉車屋へ立越シ附近ノ何町何某ト詐稱シ時間賃借ニ事寄セ乗逃ヲ爲シ、其足ニテ之ヲ古物商ニ賣却シ或ハ入質處分ヲ爲シ其目的ヲ遂ク。

此事件ニ於テハ犯人ハ較切型トシテ最初ヨリ乘逃ヲ爲ス惡意ヲ有シタルニ非サル旨ヲ辯解シテ止マサルモ、其日直ニ之ヲ處分シタル點、或ハ遠方へ乘去リタル事實ヲ以テ、常ニ公判ニ於テハ横領ニ非ス被告ハ詐欺シタルモノナリトノ惡意ヲ認定セラル。

一〇 質屋詐欺

犯人ハ多ク新開業ノ質屋ヲ撰ミ薄暮ノ點燈ニ切迫セル時刻ヲ見計ヒ、金鍍金セル眞鍮指輪、金鍍金時計鎖、或ハ豫テ古著屋ヨリ買集メ之レニ手入修繕ヲ加ヘ一見新物又ハ高價品ノ如ク裝ヒタルモノヲ持參シ、自己ノ氏名ヲ詐リテ品物ノ出所ト其確實ナルコトヲ虛説シ、尙全然受質ノ意思ナキニ不拘二三日後ニハ直ニ受戻スヘキ旨ヲ申詐リ不正ニ多額ノ金圓ヲ詐欺ス。

然シナカラ此種ノ事件ニ於テハ單ニ商取引問題ニ止ルコトナキニ非ス、若シ質屋ニ於テ全然自己ノ鑑定眼ニ信賴シタル結果買取シタル

ルモノトセハ、縱令ヒ犯人カ如何ニ詐言ヲ弄シタリトスルモ詐欺トナラス。然シナカラ物品鑑定ノ經驗ニ乏シキ新店ノ質屋主人カ多ク少ノ眼識ヲ加ヘサリシニ非サルモ、主トシテ犯人ノ口先ニ誤信シテ買契約ヲ爲シタリトセハ詐欺ノ被害者タルコト勿論也。

一一 偽職詐欺、其他

町内ノ偽職ヲ裝ヒ或ハ火ノ番錢ト稱シ又ハ祭典ノ費用ナリト謂ヒ、又或ハ歲末ノ祝儀ト告ケ軒毎ニ廻リテ金圓ヲ騙取スル常習犯ハ都市固有ノ犯行也。

之レト同ク都市特有ノ詐欺トシテ次ノ如キモノアリ。即チ會社銀行員又ハ官吏ノ出勤後ノ時ヲ見計ヒ其留守宅へ立越シ、家人ニ對シ唯今御宅ノ且那ニ頼マレタルカ外套ト洋傘ヲ渡シ吳レタシト申詐リ、或ハ會社ヨリ他へ廻ラルル用事出來セルニ付キ和服ノ著換一切ヲ交附シ吳レタシト稱シ之ヲ詐取スル留守宅詐欺。又ハ大屋差配ヨリ來リタル使ナル旨ヲ告ケ住宅へ立入り屋根、雨戸等ヲ檢シタル上、瓦屋又ハ材木屋へ注文ニ立越シタキニ付キ、鳥渡金五圓ヲ立替へ貸與シ吳レト申詐リ之レヲ騙取シ逃走スル犯人ノナリ。

一二 制服詐欺

制服詐欺トハ或官衙又ハ事務所ノ正服ヲ著シ時ニハ職名記載ノ名刺ヲ携へ被害者方へ立越シ、所管ノ所用ニ名ヲ籍リ金品ヲ騙ル常業犯ヲ謂フ。例へハ爲替貯金局ノ探査係ト稱シ郵便局員ノ正服ヲ著ケテ民家へ立越シ、貯金通帳ノ檢閲ヲ要スルニ付キ一時通帳ヲ預リ度シトテ受領證ト引換ニ之ヲ騙取シ直ニ預入ノ郵便局ニ到リテ貯金ヲ詐取シ。又ハ電燈會社ノ工夫ノ印絆纏ヲ被リタル犯人カ電球ノ取換ニ言寄セ電球ヲ詐欺シ、或ハ鐵道雇員ノ制服ヲ著シテ列車ニ乗込ミ手荷物配達者ノ如ク裝ヒ、旅客ノ

携帶品ヲ騙取スルノ類之也。

一三 兩替詐欺

犯人ハ兩替方ヲ形式的ニ申込ミ例令ハ五圓札ヲ提示シ被害者カ兩替金ヲ出シタル際際ヲ窺ヒ其中一圓札一枚ヲ巧ニ隱匿シ、尙一圓不足ナリト主張シ更ニ一圓ヲ提出セシメ之レヲ詐取スルカ。或ハ五圓札ヲ出シタル後竊ニ之レヲ隱匿シ、被害者ノ提出シタル小錢五圓分ヲ受領シタル後、被害者カ五圓札ヲ請求スルヤ、既ニ先ニ交付シタルニ非スヤト強辯シテ遂ニ小錢五圓ノ詐欺ヲ計ルカ如シ。(而シテ被害者ハ主トシテ兩替屋タルハ勿論ナルカ尙兩替ヲ金ヲ得ルル所、例令ハ郵便局、銀行等モ被害者トナルコト稀ナラス)

一四 入監者ノ家族ニ對スル詐欺

處刑ヲ受ケ目下入監中ナル者ノ留守宅ヘ順次尋ネ行キ、自己ハ當家ノ主人トハ在監中懇意ニナシ居タル者ナルカ、先日出獄スル際金何十圓ヲ宅ヨリ取寄セ竊ニ差入レ吳レタシトノ懇請アリタルカ故ニ、態々立越シタルモノニシテ、當家主人ハ其金ヲ以テ監獄官吏ヲ買収シ直ニ出獄ノ身トナルヘシト申許リ、憫ムヘキ妻女カ夫君ヲ想フノ餘苦辛慘憺ノ上調達シタル金圓ヲ受領シ、妻ヲ晦ス冷血漢アルノミナラス。前年當該官吏ニシテ此手ヲ學ヒタル言語同斷ノ犯人アリタリ。

一五 電球詐欺

電燈ノ廢球引替ニ事寄セ電燈會社又ハ電氣局ヨリ新シキ電球ヲ詐欺スルヲ職業トセル犯人アリ。彼等ハ多ク仲間ヲ作り互ニ氣脈ヲ通シテ犯行ヲ爲ス。先ツ屑屋又ハ古物商ヨリ線ノ切レタル電燈ノ廢球ヲ一個二、三錢ニテ數百個ヲ購ヒ來リ、其球ニ電燈會社ノ記號竝ニ「貨」ナル字ヲ偽造シ一見電燈會社

ノ貨與ニ係ル廢球ナルカ如ク裝フ。偽造ニ付テハ普通某二種ノ藥品ヲ水ニテ溶解シ之ヲ球ノ硝子面ニ護謨印ニテ押捺ス。右ノ廢球ヲ會社ノ出張所等ヘ持參シ當然ノ權利トシテ新球ト取替ヲ求ムルカ如クシテ新球ト引換ヘ之ヲ騙取シ、而シテ得タル新球ニ附著シアル會社ノ記號等ハ某藥品ト砂トニテ拭キ取り會社貨與ノ電球ニ非サルカ如ク爲シ、之ヲ電球販賣屋ニ一個二十七、八錢ヨリ三十錢位ニ賣却スル也。電球販賣者ニ於テハ更ニ之ヲ一個五十錢位ニ販賣ス。

此際注意スヘキハ、電球販賣者カ犯人ヨリ買受クル際、以上ノ如ク會社ヨリ詐欺セル球タルノ情ヲ略知レル者少ナカラサルコト之也。此等ノ者ニ贓物販賣罪ノ責任アルヤ勿論トス。

B 犯人カ眞名ヲ現ハス詐欺

眞姓名ヲ現ハシ相手方ト取引又ハ交渉シ其實詐欺ヲ企ツル犯人ニ至リテハ、眞名ヲ現ハサスシテ行フ詐欺ニ比シ捜査ハ却テ困難也。何トナレハ犯人ハ既ニ眞名ヲ現ハシ公然ト事ヲ行フ以上、他日問題ヲ生シタル曉ニ於テ頭初ヨリ惡意ナシトノ辯解ヲ容易ニ主張シ得ルヲ以テ也。然リ此種ノ詐欺ノ多クハ唯民商事ノ取引關係ト云フニ過キサカ如キ外觀ヲ以テ常ニ現ハル。其主ナル常習的ノモノヲ茲ニ列舉スレハ凡ソ左ノ如シ。

一六 「鹽廻シ」

「鹽廻シ」トハ數人共謀ノ上、一犯人ノ所有ニ屬スル價值ナキ山林又ハ鑛山ニ對シテ他ノ共犯者ハ高價ニ買入レタシト云フ假裝ノ買主トナリ、被害者ヲシテ安心セシメタル上、同人ヨリ賣買名義ニ於テ

金圓ヲ騙取スル詐欺犯也。

普通ノ方法ハ、甲犯人被害者ノ許ヘ行き、自分所有ノ鑛山ハ極メテ有望ノモノナルカ金三萬圓ニテ買取り吳レテハ如何ト切り出ス其數日後、乙犯人カ被害者ニ面會テ求メテ、此度甲者ノ山ヲ買取ラルルコトナリタル由ナルヲ、實ハ以前ヨリ自分ハ其山ヲ所望シ居リタル者ナレハ四萬圓ニテ收メテ譲ラレタシト懇請シテ歸宅スル也。被害者ハ右ノ賣買ニ依テ直ニ一萬圓ヲ利シ得ヘシト誤信シ、其夜甲犯人ノ許ヘ赴キ例ノ山ハ三萬圓ニテ買取テ宜敷キ旨ヲ申入ルルヤ、甲犯人ハ、他ニモ熱心ナル所望者アル旨ヲ述ヘ三萬五千圓ニ非サレハ應シ難キ旨ヲ以テ斷然謝絶ス。謝絶セラルレハ尙買取メ度キ心トナルハ人ノ常也。斯クノ如クシテ時價漸ク二、三千圓ノ鑛山ヲ三萬五千圓ニ賣付ケ甲、乙其利益ヲ分配スルカ如シ。

一七 「取込詐欺」

「取込詐欺」トハ財産又ハ信用アル商店ノ如ク装ヒ、商品ノ仕入名義ニ於テ他ノ商店ヨリ多クノ物品ヲ掛ニテ取込ミ騙取レ、其代金ヲ支拂ハサル奸商詐欺ヲ謂フ。

例令ハ染料一斤四十圓ニテ數軒ノ商店ヨリ總計何百斤ヲ買入ルル契約ヲナシ、手金トシテ一斤ニ付キ二圓ヲ差入レ品物ヲ引取り、時價ノ低落ナキニ不拘右染料ヲ直ニ一斤三十圓餘ニテ捨賣ヲ爲シテ代金ヲ受取り之ヲ他ニ費消シ、仕入先ニ對シテハ毫モ金圓ヲ支拂ハス其儘所在ヲ晦スカ如キ之也。

一八 手形詐欺

(1) 近來商取引ノ頻繁ヲ加フルニ從ヒ、小切手又ハ約束手形ヲ發行シテ金圓ヲ詐欺スル犯人、(2) 手形ノ割引周旋ニ假託シテ手形、小切手ヲ騙取スル奸商ノ徒ノ愈増加スルノ傾向ヲ生セリ。前者ハ銀行ニ毫モ預金ナク、又ハ預金不足ナルニ不拘、或ハ取引關係ノ解約後ナルヲ祕シテ、先キ日附ノ小切手ヲ振出シ。或ハ支拂期日ニ至リテ到底支拂ヲ爲スノ能力ナク、支拂場所タル指定銀行ニハ前示同様ノ事

情アルニ不拘不正ノ約束手形ヲ濫發シ、名ヲ手形割引ニ藉リテ數千圓ヲ詐取スルヲ單純ナル犯罪定型トスヘク。後者ハ例令ハ千圓ノ約束手形ヲ九百七十圓ニテ割引周旋スル旨申詐リ手形ヲ騙取シ、之ヲ他ニテ金九百圓ニ割引シ該金圓ヲ直ニ費消スルノ類也。(此場合ニ於テハ頭初ヨリ約手騙取ノ計畫アリタルモノト認ムヘキニ依リ金圓ノ費消ハ別ニ横領罪ヲ構成セス)。

一九 廣告詐欺

廣告詐欺トハ新聞紙、雜誌等ニ、刊行ノ雜誌書籍ノ購讀ニ關シ、又ハ種子ノ配布、藥品ノ販賣、發明品ノ頒布、或ハ藝能ノ祕密傳授、煤炭製造ノ祕訣開示、自働式何々製造機ノ廉賣等ニ關スル虛偽ノ事實ヲ極メテ誇大ニ廣告シ、多クハ各地方人ヨリ送附シ來レル所謂會費又ハ買入代金、或ハ郵券ヲ騙取シタル後、唯申譯的ノ物ヲ送付シ、他日ノ辯解ノ具ニ供セントスル常習犯也。

二〇 保證金詐欺

保證金詐欺ハ多ク廣告ヲ利用シ身元保證金ヲ騙取スルヲ普通トス。新設ノ會社銀行ノ高級事務員ニ雇入ルルカ如ク装ヒ、應募者ヨリ身元保證金名義ニ於テ多額ノ金圓ヲ騙取スル也。

例令ハ某會社ヲ創立スルニ付キ至急身元確實ナル事務員ヲ募集ス、希望者ハ何日迄ニ履歴書携帶何某方ヘ來ルヘシトノ廣告ヲ爲シ被欺同者カ何某方ヘ立越シ會社ノ發起人ト稱スル男ニ面會スルヤ、種々勿體ラシキ口頭試問ヲ經タル上採用スル旨ヲ告ケ、何日迄ニ身元保證金何百圓ヲ納付スヘシト稱シ、離職後目下生活ニ困難セル者ヨリ多クノ金圓ヲ騙取シ、表面的雜務ニ使役シテ給料ヲモ與ヘス、被害者カ詐欺タルヲ知テ辭職ヲ願出テ身元保證金ノ還付ヲ請求スルヤ、會社ニ於テハ既ニ他ニ融通シタリト稱シテ之ニ應セサル也。

保證金詐欺ハ創立ノモノニ限ラス破綻ニ頻セル會社等ニ於テモ亦之ヲ見ル。

### 二一 設立詐欺

設立詐欺トハ眞ニ會社、學校、組合等ヲ設立スル意思ナキニ不拘、其株金、或ハ寄附金、出資等ニ名ヲ藉リ多數ノ者ヨリ金圓ヲ詐取スルヲ謂フ。被害者トナルハ知名ノ士、富豪タルコト多シ。而シテ本犯ニ於テハ名士ノ署名或ハ書翰ノ偽造ヲ伴フヲ普通トス

### 二二 「地面師」、「家屋師」

「地面師」ハ自己ノ現所有ニ非サル他人ノ地面ヲ示シ、登記等ノ法規ニ暗キ愚民ニ對シテ自己ノ地面也ト欺罔シ、或ハ荒レ山ヲ處分スルニ當リ其地番ニ隣接セル杉山ヲ指シテ其ノ山林ナリト詐リ、賣買、或ハ擔保名義ニ於テ金圓ヲ騙取シ。「家屋師」ハ他人ノ名義ヲ冒稱シタル上、其他人所有ノ家屋ニ付テ賣買ニ依ル移轉登記ノ手續ヲ了シ竊ニ賣却シテ金圓ヲ騙取シ、或ハ目下新築工事中ノ他人ノ家ヲ物色シ先廻リヲナシテ新築届及ヒ保存登記ヲ爲シ、之ヲ他ニ擔保トシテ貸借名義ニ於テ金圓ヲ詐取ス。

### 二三 保險詐欺

保險詐欺ニ就テハ語ルヘキモノ極メテ多シト雖、吾人ハ我國ニ於テ日常問題トナル、(1)家屋火災保險詐欺。動産火災保險詐欺。(2)生命保險詐欺ノミヲ茲ニ列記スルニ止ント欲ス。

火災保險詐欺トハ家屋又ハ有體動産ヲ目的トシテ火災保險契約ヲ爲シタル上、之レニ自ラ放火シ他人ノ放火又ハ失火或ハ不審火ナルカ如ク裝ヒ保險會社ヲ欺罔シテ多額ノ保險金ヲ詐取スルヲ謂フ。

此場合ニ於テハ兎ニ角表面ニ現レタル出來事ハ火災事件ニシテ取調ノ結果其原因ヲ究メ、更ニ其動機如何ト尋ヌレハ保險金詐欺ニ在リタリト云フニ止リ事件トシテハ放火トシテ捜査ヲ進行セラルルノミナラス、判決ノ擬律ニ際シテモ放火ト詐欺トハ手段結果ノ關係

アルモノトシテ重キ放火罪ニ依リ處分セラルル筋合トナルカ故ニ、火災保險金詐欺ノ問題ハ寧ロ放火、失火ノ章ニ於テ之ヲ研究スルヲ相當トスルニ似タリ。若シ夫レ放火未遂ニ止ル場合ノ如キハ法律上詐欺ノ問題ヲ生セス、單純ナル放火事件トシテ取扱ヒ得ヘキニ於テチヤ。

生命保險詐欺ニ二個ノ場合アリ。其一ハ保險契約者單獨ニテ犯行ヲ爲ス場合ニシテ、即チ犯人ハ多ク自己ノ家族又ハ親族ヲ被保險者トシテ保險會社ト保險契約ヲ結ヒ一、二回保險料ヲ掛込ミタル後竊ニ之ヲ毒殺シ、醫師ヲ欺罔シ死亡診斷書ヲ得然ル後會社ヨリ保險金ヲ詐取センコトヲ企ツ。其二ハ保險契約者カ他人ト共謀シテ行フ場合ニシテ、即チ最普通ノ定型トシテハ保險ノ囑託醫師及ヒ保險募集員ト結託シ、自己ノ家族ニシテ或慢性ノ疾病ニ罹リ死ニ類セル者、又ハ持病ノ爲メ數年來身體ノ極メテ衰弱セル者ヲ、恰モ健康者ノ如ク裝ヒ診斷書ヲ偽造シ保險契約ヲ結ハシメ、其死亡ヲ待テ保險金ヲ騙取スル也。

其一ノ場合ハ前ニ火災保險詐欺ニ於テ述ヘタルカ如ク、寧ロ殺人研究ノ部ニ讓ルチ妥當トスヘキモ、其二ノ場合ハ純然タル詐欺(並ニ偽造)トナル。

### 二四 馬喰詐欺

牛馬ノ取引上ニ於テ常習トシテ詐欺ヲ行フ惡馬喰アリ。馬ニ就テ云ヘハ例令ハ雜種ヲ洋種ト詐リ、或ハ鹿毛ヲ染メ黑鹿毛ト爲シ、牡馬ヲ驢馬(去勢ヲ行ヘルモノ)ト詐リ、馱馬ヲ鞍馬ノ如ク云ヒ、老齡十歳以上ノ馬ノ齒ヲ摺リ落シ、又ハ美髮トナシ一、二歳ノ若キ馬ノ如ク裝ヒ、疾病、惡癖ヲ秘シ、高サヲ一時的ニ誤魔カスノ方法ヲ講シ、父母ノ血統、産地ヲ欺キ、蹄鐵ノ有無ニ就テ偽計ヲ弄シ、之ヲ高

價ニ賣付ケ又ハ被害者所有ノ良馬ト交換シ、以テ詐欺ヲ行フカ如シ。

### 二五 坊主株詐欺

會社内部ノ經濟狀態ノ極メテ紊亂セル爲メ世ノ信用ヲ失墜シテ殆ント無價値ニ等シキ株券ヲ現ニ有利ノ配當アル株券ナリト稱シ、又ハ失効ノ公債證書ヲ尙有效ノモノナルカ如ク裝ヒ、世事ニ疎キ人士又ハ地方ノ金満家ノ許ニ持參シテ巧ミニ賣付ケ多額ノ金圓ヲ詐取シ、或ハ擔保ニ供シ借金名義ニ於テ詐欺ヲ行フ常習犯アリ。

### 二六 貸借詐欺

多クハ家婦カ數軒ノ貸蒲團屋ヨリ一夜借ニ名ヲ託シテ蒲團ヲ各數枚借受詐取シ、其夜直ニ之ヲ入質處分ス。

斯クノ如キ事件ニ於テハ被告ハ常ニ詐欺ノ惡意アリタルニハ非サレトモ横領ノ責任ハ免ル能ハサル旨ヲ辯護ス。然シナカラ第一回ノ行爲ハ或ハ尙恕スヘシ、二回三回ト云フカ如キ常習的ノ色彩ヲ帶フルニ至リテハ、詐欺トナスモ毫モ不當ノ認定ニ非ス。

### 二七 書畫、骨董、刀劍詐欺

書畫、骨董ノ賣買交換中毫モ惡意ヲ含マサルモノ凡ソ幾許アルカニ就テ、吾人ハ屢々想像ヲ逞ウスルニ一種ノ興味ヲ感スルモノ也。世ニ行ハルル書畫骨董ノ普通ノ賣買交換ナルモノハ、極端ニ之ヲ謂ハハ互ニ詐欺シ合ハントスルカ如キ觀ナキニ非ス。俗ニ話セハ恰モ狐ト狸ノ騙シ合ヒニ異ルナシ。

(例令ハ甲ハ應舉ノ價額ヲ眞物ノ如ク裝ヒ、乙ハ正宗ノ追掛銘ヲ附セル相州物) 此種ノ詐欺ノ最普通ノ定型ハ凡ソ次ノ如シ。  
(例令ハ甲ハ應舉ノ價額ヲ眞物ノ如ク裝ヒ、乙ハ正宗ノ追掛銘ヲ附セル相州物) 此種ノ詐欺ノ最普通ノ定型ハ凡ソ次ノ如シ。  
ノ一刀劍ヲ相州正宗ナリト詐リ交換シ、互ニ竊ニ舌ヲ出シテ相喜フノ類也)

#### (1) 拘リ替ニ依ル詐欺

(イ)。經師職カ書畫ノ表裝ヲ依頼セラルルヤ、竊ニ書工ニ依頼シテ之ヲ筆寫シ落款ヲ偽造シ、斯クテ贋造シタル偽物ヲ表裝シテ依頼ノ書畫ノ如ク裝ヒ納付シ、依頼者ヲ欺罔シ拘リ替ヘ置キタル書畫ヲ遂ニ詐欺スルカ。(ロ)刀劍研師カ研ノ爲メ無銘ノ名刀ヲ託サルルヤ口實ヲ作りテ時日ヲ徒ラニ遷延セシメ、其間ニ東奔西走シテ刀長、恰好、身巾、造込、棟、鎬、切先、刃文、銚子、地肌、中心、中心尻、系統、時代等ノ一見シテ同様ナル鈍刀ヲ物色シ來リ、之ヲ研テ依頼ノ刀ノ中身ト拘リ替ヘ、受託物ノ如ク詐リ交付シ詐欺ヲ遂ク。

#### (2) 目的物ノ偽造又ハ變造ニ依ル詐欺

大家ノ書畫ヲ筆寫又ハ透寫シ落款ヲ偽造シタル上、其書畫ニ所謂時代ヲ附ケンカ爲メニ土藏ヲ密閉シテ燻シノ仕掛ヲナシ、或ハ爐邊ノ天井ニ吊シ自然ト煤色ヲ帶ハシムル外、朱肉ノ色ヲ古カラシムル手段トシテ、印影ノ上ニ少シク濕潤セル布巾ヲ置キ其上ヲ燒、ニテ磨ル也。一磨リノ結果ハ朱肉ノ色ヲシテ凡ソ百年前ノ古サニ廻ラシムト稱セラル。加之虫蝕ヒヲ擬作スル必要アル場合ニハ、犯人ハ眞ノ古文書ヲ手本トシテ線香ノ火ヲ以テ虫蝕ノ形狀的ニ紙ヲ燒キ抜ク也。斯クノ如クシテ贋造セラレタルモノハ古キ大家ノ書畫ト化シテ市場ニ現ハレ、轉々人ヲ欺クコト幾許ナルヤヲ知ラサルニ至ル。此種ノ犯罪ハ多ク書工カ主謀者トナリ骨董商、周旋屋等ト結託シテ之ヲ行フ。

變造ニ就テハ書畫ニ擅ニ大家ノ落款ヲ入レ、或ハ刀劍ニ追掛銘ヲ刻シ贋造セラルルコトハ世人ノ想像スルカ如ク也。



(3) 狀況ノ擬裝ニ依ル詐欺

目的物ヲ眞物タラシメンカ爲メ、若クハ眞物タリトノ誤信ヲ深カラシメンカ爲メニハ、犯人ハ目的物ヲ圍繞セル四邊ノ狀況ヲ擬裝センコトヲ企ツ。其目的物タルヤ新タニ偽造、變造セラレタル物ノミニ限ラス、從來現在セル無價值ノ物體ヲモ此方法ヲ以テ詐欺ノ材料ニ豹變セシム。或ハ古キ金襴ノ巾ヲ以テ包ミ、桐ノ箱ニ納メ、眞正ナル他ノ箱書折紙ヲ添へ、家ノ系圖書等ヲモ準備シ、又ハ由緒アル何々華族ノ什器、骨董賣却ノ看板ノ下ニ出品スル等、目的物ト四圍ノ狀況トノ包括的關係上ヨリ一ノ贋物ヲ作り、或ハ誤信ヲ得ルノ度ヲ深ラシメ、然ル後其出所等ニ關シ巧ミニ出鱈目ノ虚言ヲ弄シ、仍テ多額ノ金圓ヲ詐欺スル也。

二八 前借詐欺

前借詐欺トハ眞ニ雇ハルル意思ナキニ不拘雇傭契約ヲ結ビ、給金等ヲ前借名義ニ於テ受領騙取スル詐欺手段也。事件トシテ多ク現ハルルハ酌婦藝娼妓ノ類カ多額ノ金圓ヲ前借名義ニテ騙取シ唯申譯的ニ數日間働キタル上、夜中竊ニ逃走スルカ、或ハ一寸所用アリト詐リ外出シタル儘行衛ヲ晦スカ如キニアリ。斯クシテ數縣ヲ股ニ掛ケタル後此陰謀ノ黒幕タル情夫ト共ニ豫定ノ如ク同棲ス。從テ此種ノ犯行ハ不正ノ口入屋又ハ潛リ周旋屋、或ハ悪性ノ無賴漢等ノ共犯者ヲ有スルコトヲ普通トスヘシ。殖民地ニ於テハ勞働者ニシテ前借詐欺ヲ常習トナスモノ殊ニ多シ。

第二節 常習詐欺ノ捜査

常習詐欺ニ就テハ各種ノ定型ニ從ヒ、個々別々ニ各之レニ適應スル丈ケノ充分ナル捜査方法ヲ研究スルニ非スンハ、吾人ノ仕事ニ對シテハ殆ント何等ノ參考ヲモ價セサルヘシ。然シナカラ茲ニ於テハ詳説スルニ餘白ヲ有セサルカ故ニ、是等ノ研究ハ他日ニ譲リ、以下常習詐欺ノ捜査方法ニ關スル唯二、三ノ必要ニシテ卑近ナル注意事項ヲ列記スルニ止メントス。

第一 概 則

(1) 犯罪定型表並ニ前科者名簿作成。常習詐欺ノ常習ノ二字カ示スカ如クニ、此種ノ詐欺ハ或種ノ人間ニ依テ絶ヘス繰リ返サルルヲ常トス。恰モ一盜犯ノ身カ或種ノ竊盜行爲ト一定ノ入獄服役トヲ交互ニ循環セルニ異ルナシ。一度籠穽詐欺ニテ罰セラレタル者ハ幾度犯行ヲ累スト雖、同シク以前ノ犯行ノ定型ノ軌範ヲ墨守スルヲ常態トス。故ニ各警察部ニ於テハ其地方ニ於ケル常習詐欺ノ總テヲ其定型ヨリ分類シタル一ノ表ヲ作成シ(前示余カ假リニ分類シタルカ如キモノハ勿論、其以外ノ特種ノ常習詐欺ヲ悉ク整列スルヲ要ス)。各表目ニ於テハ又手口ヨリ枝葉的ニ分類シ其下ニハ此定型ヲ得意トスル前科者ノ姓名並ニ寫眞ヲ排列スルカ或ハ索引ノ方法ニ據リ他ノ帳簿ニ彙集セシメ、一常習詐欺事件ノ發生ニ當リテ參考ノ爲メ直ニ此表ト帳簿ヲ緝キ、似寄リノ手段ト前科者ノ顔觸トヲ瞥見スルモ敢テ非系統的捜査ト謂フヘカラサルニ似タリ。(ハシアルカノ警察署ニ於テハ至ル迄常習詐欺ヲ「アルハメット」順ニ依リ二十八個ニ大別シ之レニ基キ前科者ノ姓名ヲ索引シ得ル様ニ整頓セラル) (2) 問題ノ常習詐欺ノ嫌疑者ニ對スル視察。嫌疑ノ最濃厚ナル者ニ對スル尾行並ニ張込ノ方法ヲ以テ視察シ具體的罪證ヲ明ニスル事ヲ得ルハ勿論也。(3) 科學ノ利用。例令ハ變化師ノ詐欺賭博ニ於ケル「細工骨子」或ハ「ベカ札」ノ諸種ノ祕密ニ對スル科學的發見。書畫詐欺ニ對スル朱肉、墨、繪具、紙質、絹地等ノ顯微鏡、寫眞、化學、其他ノ補助ニ依ル研究ト云フ

カ如ク、科學的捜査ヲ須ツヘキ場合尠ナカラス。

第二 他ノ犯罪ヲ手段トスル詐欺ノ捜査、

(1) 被害者ノ方面ニ對スル先決的捜査。 他ノ犯罪ヲ手段トスル詐欺ハ不正ノ慾望ヲ滿タサント欲スル者ニ對スル犯罪ニシテ、約言スレハ不正ノ慾ト不正ノ慾トノ鬭争也。被害者モ亦本來犯罪性ヲ有スル者也。故ニ多クハ自己モ亦犯罪ヲ犯セル者ト誤信シ詐欺ノ被害事實ニ就テ届出ヲ爲サス、捜査官ノ取調ニ會フモ極力サル事實ナシト主張シ口ヲ緘シテ一切ヲ語ラサルヲ普通トス。(例令ハ詐欺賭博ニ依リ數己ノ所謂賭博行為ノ發覺ヲ怖レ、詐欺ニ福)從テ吾人カ是等ノ事件ノ取調ヲ爲サント欲セハ先ツ被害ヲ受ケタリト稱セラルル者ニ對シ、決シテ別ニ犯罪ニ觸ルルモノニ非ス法律上唯犯人ノミカ詐欺犯ヲ構成スルニ過キサル旨ヲ充分了解セシメ、然ル後事實ノ顛末ヲ被害者ヨリ聴取ルヲ要ス。然シナカラ此際注意スヘキハ詐欺賭博ノ被害者ニアリテモ、矢張賭博犯者トシテ處理セサルヲ得サル場合アルコト也。

何トナレハ犯人ハ一勝負中ニ於テモ或時ハ竊ニ仕掛アル骨子又ハ骨牌ヲ使用シ詐欺賭博ヲ爲シ、或時ハ是等ヲ使用セス、正當ノ道具ニ依テ勝敗ヲ争フコトアリテ、其偽計ナキ場合ニ於テハ犯人及被害者共ニ普通賭博ノ犯罪ヲ構成スルハ勿論ナレハ也。

此種ノ犯罪ノ被害者ハ極メテ慾深ニシテ恰恠ナラス、且ツ比較的豊裕ノ如ク見エ又平素其ノ評判アル人間タルヲ原則トス。犯人カ此種ノ人士ヲ物色シテ詐術ヲ弄セントスルハ敢テ不可思議ニ非ス。故ニ吾人ハ詐欺賭博、ペーバー事件等ノ風評ヲ耳ニシタルトキニハ、其所謂被害者ノ人物カ之レニ適格セルヤ否ヤヲ注意スルモ一參考タルヲ失ハサルヘシ。

(2) 共犯全部逮捕ノ計畫。 此種ノ詐欺ハ數人又ハ數十人組織的ニ團結シテ職業的ニ行フヲ普通トス

ルカ故ニ、單ニ犯罪ノ表面ニ立テル者、未知ノ風ヲ裝ヒ現場ニ現ハレタル仲間ノミナラス、陰ニ居リテ警戒役ニ在ル者、其情ヲ知テ種々幫助行為ヲ爲シタル者、其犯罪團體ノ首領タル者等ヲモ一網打盡ニ檢舉スル方法ヲ講セサルヘカラス。

第三 眞名ヲ現ハササル詐欺犯ノ捜査

(1) 犯罪方法ニ對スル犯人智識ノ研究。 此種ノ詐欺ニ於テモ之ニ要スル犯人智識ハ一定セリ。甲犯人智識ヲ以テ乙詐欺犯ヲ犯シ得ルモノニハ非ス。而シテ犯人智識ナルモノハ教育、年齢、經驗、性格、境遇、職業、智能等ヨリ産出セラルルヲ以テ、結局或種ノ常習詐欺ハ多ク其行為ニ關係ヲ有スル又ハ關係ヲ有シタル或種ノ職業、其行為ニ適格セル人柄、智能、經驗ニ其根柢ヲ有スルモノナリト謂フニ歸著ス。

此研究ヨリシテ、吾人ハ例令ハ一ノ贖刑事事件ノ突發ニ於テ、原則トシテハ萬警察官衙ニ奉職シタル者ノ範圍ヨリ犯人ヲ物色セントスルヲ頗ル合理的觀察トナスモノ也。郵便貯金詐欺ヲ常習トスル犯人ノ教育、智能ト、無錢飲食詐欺ヲ職業的ニナス犯人ノ夫レト同一ナリト認メ、兩個ノ詐欺事件ニ於テ同一ノ境内ヨリ犯人ヲ獲ントスル者アラハ大ナル過也。要スルニ詐欺犯ト犯人智識、犯人智識ト職業、智能其他ノ事項トノ關係ノ研究ハ、極メテ價値アルモノナルヘシ。

(2) 犯人ノ容貌、服裝、言語ノ研究

第四 眞名ヲ現ハス詐欺犯ノ捜査。 眞名ヲ現ハス詐欺犯ニ於テハ被告人カ所謂問題タル行為其モノヲ自ラ爲シタルコトハ初メヨリ明言シテ毫モ祕スル處ナシ。然シナカラ其行為ニ關シテハ聊モ惡意ナカリシ旨ヲ強辯ス。外觀ニ於テ既ニ民事事ノ取引タルカ故ニ刑事事件トシノ捜査ハ困難也、況ンヤ結局意思問題ニ歸著スルニ於テヲヤ。吾人ハ狀況證據即チ微憑ノ十分ナル蒐集ニ努力スルノ外ナシ。

- (1) 嫌疑者ノ犯罪前ニ於ケル行動ノ内偵。例令ハハ火災保険詐欺ニ於テ火災前嫌疑者カ竊ニ貴重ノ財物ヲ他ヘ搬出シ置キタルカ如キ形跡ナキヤ。殊ニ保険契約ニ關スル證書ヲ少シク前ニ他ヘ預置キタル事實アルヤト云フカ如キ點ノ捜査之ナリ。
- (2) 犯罪前ニ於ケル嫌疑者ノ經濟狀態ノ嚴密ナル調査。其者ノ經歷、性格行狀、交際ノ人物等ニ對スル探索。

- (3) 問題トナレル財物ノ犯後ニ於ケル處分ノ方法。犯後ノ生活狀態、浪費等ノ穿鑿。

例令ニ取込詐欺ニ於テ千圓ニテ買取リタル品物ヲ即日七百圓ニテ捨賣ニシ、其金圓ヲ遊興ニ浪費シタルカ如キハ、何人モ善意ノ取引ト認ムルコト能ハサルヘシ。

## 第五章 放 火

犯シ易クシテ其結果ハ重大ナルニ不拘、犯人ノ檢舉最モ困難ヲ極ムルハ、放火犯ニ如クモノアルナシ。恐ラク唯一本ノ構寸ノ軸木ヲ以テ忽チ數千ノ家人ノ震駭ト、數百萬圓ノ財貨ノ灰燼トヲ贏チ得ルト云フカ如キハ刑法ノ有責行爲中他ニ其比ヲ見ス。(大正六年ニ於ケル放火其他ノ火災ニ因リ燒失シタル全國ノ家屋ノ損害ハ三千八百四十五萬九千二百七圓ニ當ル)然レトモ構寸ノ軸木ハ火災ト共ニ燒失スヘク。(假リニ放火未遂ノ現場ニ於テ吾人カ一本ノ構寸ノ點火燧ヲ發見シタリトスルモ、之ヲ以テ罪證の證據ト爲サンニハ非常ナル努力ト煩悶トヲ浪費スルノミ)剩サヘ現場ニ於ケル足跡其他犯人ノ痕跡ノ如キハ消防隊ノ活動ニ依リ遺憾ナク湮滅シ盡サレ、斯クシテ捜査官ハ殆ント手ノ著ケ様ナキニ至ル也。(然シナカラ吾人ハ此荒野ニ於テ、兎ニモ角ニモ一ノ分野ヲ開拓セサルヘカフサルノ責務ヲ有スルヲ如何ニセム)

### 第一節 發火點ノ穿鑿

放火ノ捜査上最緊要ナルハ火元ノ穿鑿、確定之ナリ。實ハ是ニ依テ吾人ハ火災因果シテ放火ナルヤ否ヤ、放火ニ非ストセハ失火カ、自然發火ナルカノ、端緒ヲ發見スルノ外殆ント他ニ途ナキ也。

如何ニシテ發火點ヲ穿鑿スルヤニ就テハ直接發火ノ狀態ヲ認メタル證人ニ依ルカ、然ラスンハ火災現場ノ調査ニ依ラサルヲ得ス。

#### I 火災現場ノ調査

火災現場ノ取調ヲシテ極メテ意義アラシメントセハ、先ツ現場保全ニ充分ナル注意ヲ加ヘラルルヲ要ス。火事場ノ狀態ハ吾人ノ檢證迄能フ限リ變更ヲ加ヘサラシム可シ。既ニ火災ノ際ニ於テ一ノ放火ノ嫌疑ヲ生セルカ如キ事件ニ就テハ、殊ニ責任アル番人ヲ置キ、火元ト認ムヘキ現場附近ノ變更ヲ監視シ、其部分ニ於ケル墻壁ノ崩壞、火事碎屑ノ掃除等ハ、灰掻人ヲシテ絶對的ニ禁止セシメサル能ハス。

火災現場ノ調査ヲ以テ火元ヲ究メントスルニハ、火ノ作用ヨリシテ生セル種々ノ結果ヲ觀察スルノ外ナシ。

- (1) 原則トシテ先ツ火焰ノ起レル個所カ即火元タルハ何人モ直ニ推定スル處ナラム。果シテ然ラハ火元ニ存在セル物體ハ他ノ個所ノ物質ニ比シテ最モ強ク燃燒セサル可カラサルノ理也。(但シ火元ノ物體ト他ノ可燃燒物タルコトヲ前提トス)反面ヨリ之ヲ謂ヘハ最燃燒シタル物ノ存スル個所即火元タルヘシ。火災カ多クノ物ヲ

燃燒シ破損シタル場合ニ於テ吾人ハ眞先キニ燃ヘタル物、最好ク燒ケタル物ヲ直ニ認知スルカ如キハ極メテ困難也。然レトモ一軒ノ家屋中ノ一部分ヲ燒燬シタルカ如キ比較的小範圍ニ於ケル研究ニ於テハ此原則ヲ直ニ適用シ、火事場ニ於テ其ニ燃ヘタル個々ノ物ヲ順次取り上ケ、互ニ彼是比較シ、以テ屢々先後ノ別ヲ決定シ得ルコトアリ。

實際ニ於テ大火後ノ燒野原ニ臨メハ眼ニ觸ルルハ悉ク果々タル燒材、焦土、燃屑ナラサルハナク、現場ニ於ケル此光景、火災後ノ狀況ノミノ調査ヨリシテ火元ヲ決定セントスルカ如キハ恰モ河原ニ一個ノ石ヲ投シ置キ、他人チシテ類似ノ石ノ中ヨリ其小石ヲ捜求セシメントスルニ等シク殆ント不可能タル也。然シナカラ普通火災ニ於ケル或ル範圍ノ火元ハ例令ハ甲ノ家ヨリ、又ハ湯殿附近ヨリト云フカ如ク證言ニ依テ略限局セラルルカ故ニ、此小範圍中ニ於テ物質燃燬ノ程度ヲ彼是比較研究シテ目的ヲ達スルコトアル可シ。

(2) 火元自身ニ於テハ毫モ火燭ノ揚ラサルコトアリ、此場合ニ於ケル火元ノ物體ハ最燃燒ノ度ヲ深クセルモノニ非ス。第一ニ燃ユヘキ目的物カ燃燒作用ニ必要ナル空氣ノ流通豐富ナラサルトキ、或ハ物自體ノ性質ヨリ唯燻リ行クノミニテ火燭ヲ成立セシメサル場合ニ於テハ、火ノ燒燬作用ハ火元ノ距離ト比例セサル也。此狀態ニ於テ延燒シタル火カ火燭ノ成立ニ對スル條件ヲ充タスヘキ一ノ他ノ場所ニ到達シタルトキニ於テ、始メテ火燭ノ爆發ヲ見、斯クシテ此個所カ最猛烈ナル火燭ノ中心點トナリ鎮火後ニ於テハ、却テ燒燬狀態ノ最顯著ナル個所トモナルヘシ。例令ハ密閉サレタル室ニ於テ火ヲ發シタルトキニ火ハ室内ニ現在セル酸素ヲ直ニ喰ヒ盡シ終ルカ爲メニ、唯燻ルノミニテ明ニ燃燒セサルモ密閉セラレタル戸又ハ窓ヲ開キ清新ナル空氣ヲ入り込マシムルカ、或ハ燻燒カ今ヤ豐富ナル空氣ノ存スル處ノ一ノ他ノ室ニ迫レルトキニ於テハ、茲ニ初メテ火燭ヲ爆發セシム。從テ吾人ハ若シ火燭ノ爆發前長時間繼續シテ甚シク煙レルコトヲ知ラハ、其火元ハ多量ノ空氣ノ入込ミ來ラサル處ノ一室ナ

ルヘシトノ事情ヲ推測シ得。(消火ノ一方法トシテ密閉ノ手段ヲ用ヒラレルハ畢竟此理ヨリ來ル。吾人ハ火災ニ於テ徒ニ戸ヲ開排スルハ大ナル注意ヲ要スヘシ)

(3) 燃燒スヘキ各種ノ物體ノ可燃能力カ甚シク相違セルトキニハ、比較的燃エ易キ物體ノ強キ燒燬狀態ヲ以テ必スシモ先キニ發火シタルモノト認定スルコト能ハサルハ勿論也。故ニ吾人ハ個々ノ事件ニ於テ物ノ燒燬程度ヲ檢シ火元ヲ究メントスルニ當リテハ現場ニ於ケル一ノ物ト他ノ物トノ本來ノ可燃能力ニ就テモ充分ナル研究ヲ遂ケタル上、是ヲ決定スルヲ要ス。(例令ハ迫層カ十分ニ火燭ヲ立テ燃燒セル際、其トキニハ先ツ木綿カ燒ケタ  
ルモノナラサルヲ得ス。)

(4) 火元ト目指サレタル個所ニ於テハ灰燼ニ就テ精細ナル注意ヲ拂フヘシ。何トナレハ燃エ殘リノ物ハ勿論、屢々灰自體ヨリシテ何カ燃エタルヤヲ確定シ得レハ也。之レニ反シテ殘屑ノ欠缺ヨリ、或ル目的物ハ火災前ニハ其處ニ運ハレサリシトノ事情ヲ吾人ハ容易ニ推測シ得ヘシ。

火災ノ現場ニ於ケル證據採取ニ就テハ疑ハシキ燒燬物、犯用物等ハ充分ナル注意ヲ以テ物自體ヲ採取スルヲ要シ。(例令ハ石油ノ臭氣アル紙張ハ清潔ナル口廣ノ硝子燻ニ保存シ、硝子ヲ固ク爲シ官衙ニ  
持テ歸ル可ク。大ナル物體ニ就テハ必要ナル部分ノミヲ切り取り採取スルヲ要ス。) 見取圖又ハ調書ヲ作成スルノ外、火事場ヲ寫眞ニ撮影スルハ極メテ價値アリ。(此場合ハ森ニ多クノ方面ヨリ  
撮影スルヲ最優レトナス。)

II 人ノ取調

火災ニ罹レル家ノ家人、ニ就テ發火ノ狀態ヲ取調フヘキハ言ヲ要セサラム。吾人カ特ニ注意スヘキハ、  
(1) 火災ノ第一發見者ニアリ。此者ニ依リテ發火原狀ヲ詳ニ知ラント欲スル目的ノミニ必要トスルニハ非ス、吾人ハ或種ノ放火ニ於テハ、第一發見者即實ハ放火犯人タルノ事實ヲ屢々知ルカ故也。

數個ノ放火事件アリタルトキ、何人モ未タ火災ノ事實ヲ知ラサルニ先立テ、常ニ或者ハ之ヲ知り、或ハ早鐘ヲ撞キ、又ハ消防署等  
ヘ其旨ヲ通シタリトセハ甚疑フニ足ルヘク、恐ラク彼方放火犯人又ハ其共犯者ノ一人ナルヘキカ。

(2) 消防夫ハ一般民人カ見ルコト能ハサリシ多クノ重要ナル事項ヲ比較的冷靜ニ既ニ早ク視ルコトヲ  
得ヘク、又特別ナル専門的方法ニ於テ發火狀況ヲ觀察スルニ適當セルカ故ニ、消防夫ニ就テ聽取ルハ  
意義アルモノト云フヘシ。

即チ彼等ハ消火ニ先立テ火元、火ノ性質、火ノ經過、擴大ニ付キ、其際現ハレタル固有の現象ニ關シ經驗アル専門的智識ヲ以テ瞬  
間ニ觀察ヲ遂クル也。加之消防夫ハ消火ニ際シ建物ヲ破壞シ、物ヲ運搬シ、戸、障子ヲ開閉スル等現場ノアラユル變更ヲ試ムルモノ  
ナルカ故ニ、吾人が現場檢査ニ際シテ彼等ノ説明ヲ俟ツテ要スヘキ場合夥ナカラス。

### 第二節 放火ノ方法

我國ニ於ケル最普通ノ放火ハ(イ)襪褌、新聞紙等ニ石油ヲ注キ掛ケタルモノヲ被害者方家屋ノ一端  
ニ挿ミ燐寸ヲ以テ之レニ點火スルカ、或ハ石油ヲ直接家屋ノ戸障子等ニ振り掛ケ之ニ放火シ、(ロ)又  
或ハ石油ヲ浸セル襪褌ニ炭火ヲ包ミタルモノヲ例令ハ藁ノ如キ被害者方ノ可燃物ノ中ニ挿入シ置キ發  
火セシムルカ如キ方法ヲ執ル。

然シナカラ若シ犯人カ放火ノ仕掛行爲ヨリ結果ノ發生迄ニ比較的長キ時間ヲ保タシメント欲セシ、  
石油ヲ含有セシメタル材料ニ直接點火スルカ如キ方法ヨリハ稍進ミタル手段ニ出ル也。我國ニ於ケル  
此間隔的放火犯人ノ中ニアリテハ(ハ)長キ蠟燭ニ點火シタルモノヲ木片ニ立テ之ヲ可燃物ノ上ニ放置  
スル者アリ。之レ蠟燭ノ火カ燃エ盡ントスル際下ノ木ニ焦ケ移リ、更ニ可燃物ニ燃エ進ミ發火セシメ

ントスルニ外ナラス。(ニ)又洋燈ニ點火シ之レヲ天井ニ高く吊シ(露屋根ノ裏ヲ去ル一尺程ノ近クニ洋  
燈ヲ吊シ置キテ放火シタル犯人アリ)置キ火  
氣カ漸次天井ヲ焦カシ遂ニ火ヲ發スルカ如キ仕掛ニ爲シタル者、(ホ)或ハ燐寸ノ軸木ニ附著セル燐寸ヲ  
削リ落シタルモノノ多量ヲ紙ニ包ミ、之ヲ卷線香ノ外部ノ一端ニ結ヒ付ケ其附近ニハ可燃燒物ヲ置キ  
而シテ卷線香ノ中央ノ一端ニ火ヲ點シ、火力漸次線香ヲ燃進ミテ遂ニ他ノ一端ニ達スルヤ燐寸移リテ  
一時ニ發火シ、更ニ周圍ノ可燃物ヲ燒キ大事ヲ惹起セシムルカ如ク考按セルモノ。(ヘ)又或ハ右ノ卷  
線香ニ代フルニ火索若シクハ石油ヲ潤セル長キ紙燃リヲ以テセル犯人。(ト)更ニ箆筒ノ抽斗ニ炭火ヲ  
入レ、抽斗ヲ固ク締メ置キ空氣ノ侵入ヲシテ極メテ困難ナラシメ、徐々ニ焦ケ擴カリ行クカ如ク企ツ  
ル徒輩ノ存スルハ、世人ノ屢々見聞スル處ナラム。

斯クノ如キ間隔的放火ハ犯人カ發火ノ當時火災ノ現場ニ現在セストノ辯解ニ對シテ豫メ意ヲ用ヒ、  
一面ニ於テ他在證據ヲ作り置キ、斯クシテ其嫌疑ヨリ免レント企テタル場合。或ハ若シ何人カ保險金  
ヲ詐取センカ爲メニ自己ノ財産ニ火ヲ放チ、而シテ同時ニ該火災ニ就テハ自己ノ責任ニ非サルコトノ  
證明ニ對シテ心配セサルヲ得サルトキニ於テ、此非直接的放火ノ手段カ講セラル。

精巧妙ナル間隔的放火ノ效果ハ確實ニシテ且行爲者ヲ證明スルコトハ甚々困難也。犯人ハ充分ナル計畫ヲ立テ成ルヘク放火ノ現場  
ヨリ遠ク離レ、而シテ能ク限リ多クノ人ト會シ置キ他日嫌疑ヲ蒙リタル際、自分ハ火災ノ時ニハ數里ヲ距リタル何地ニ在リタリト主  
張シ、其辯解ノ證據トシテ右ノ者ヲ證人ニ指名シ、容易ニ嫌疑ヨリ免レントス。

獨佛等ニ於ケル間隔的放火ノ巧妙ナル實ニ驚クヘキモノアリ。今一々之ニ就テ茲ニ說明ヲ試ントス  
ルハ大ナル考慮ヲ要ス。謂フ迄モナク新奇ノ犯罪方法ノ說明ハ時ニハ弊害ヲ伴フ危險アルヲ竊ニ恐ル

ルカ故也。余ハ此場合唯簡單ナル暗示ヲ以テ、之カ研究上興味ヲ有スル士ノ好奇心ニ酬ント欲ス。

(A)「レンズ」ニ依リ放火ヲ企テラル。(Brenngläser, — es wird dann, etwa auf dem Dachboden neben einer Dachluke, deren Strahlen dann auf einem bestimmten Punkte vereinigt werden und die dort hingelegeten Zündhölzchen entzünden können. Neben diesen liegt Papier, Hen, feines Holz 2c. und dieser Brennstoff stellt mit Vorzügen, dem Strohdach 2c. in Verbindung.)

(B)目醒時計更ニ可ナルハ「トーマス」時計ヲ放火ニ利用スル犯人アリ。(Weckeruhren, die gleichzeitig mit dem entzünden.)

(C)化學的方法ニ依リ放火ヲ確實ニ成效スル者アリ。此種ノ方法中實際屢々企テラルルハ「メル」使用ノ放火(Latwerk: dünnwandiges Fläschchen mit Schwefelsäure; ein Gemenge von chlorsaurer Kali und Zucker) 或ニ藥品ノ装置ニ依ル放火ナリトス(Dies Fläschchen mit Schwefelsäure verkorft und verkehrt 2c.)トス。其他化學的放火ニ關スル主タル材料ハ硫化炭素、炭化水素、金屬性「ボツタシウム」、水、「アンモニア」等ニシテ、是等ハ蒸發、鎔解、動搖、空氣ノ侵入等ニ依テ、火又ハ爆發ヲ生セシムル様ニ按排シテ聚合セシメラル也。

吾人ハ事物ニ就テ廣ク智識ヲ有スルコトハ極メテ肝要也。何トナレハ巧妙ナル化學的放火ニ對シテモ吾人ノ注意深キ捜査ニヨリテ屢々端緒ヲ發見スルコトヲ得ルカ故也。若シ此ノ場合ニ於テ全然何等ノ暗示ヲモ得サルトキニハ、常ニ暗中摸索ニ力ヲ浪費スルニ止ラム。

### 第三節 果シテ放火乎

(尙續論第一章、第一節(戌)(2)參照)

放火以外ニ一ノ他ノ火災原因カ存スルナキヤ否ヤハ、放火事件ノ捜査ニ當リ裏面ニ於テ絶ヘス注意ト警戒トヲ必要トスヘシ。放火以外ニ屢々生スル火災原因中實際ニ現レ來ル重ナルモノハ、失火及ヒ自然發火ト爲スコトヲ得。從テ吾人ハ一ノ事件ニ於テ直ニ火災原因ヲ發見シ能ハサル場合ニハ常ニ一

ノ不審火ナリト漫然推測シ去ルカ如キコトヲ許ササル也。(果シテ放火ニ非ストモハ失火ニ非サルカ。又ハ一ノ特別ナル自然發火ノ原因存セサルヤヲ究明セサルヘカラス。)

#### 甲 失火ノ原因

失火ノ原因トシテ主ナルモノハ左ノ如シ。

(1) 煙突。工場又ハ家庭ニ於ケル風呂場、炊事用竈ニ備付ケアル煙突カ、耐火設備不完全ナルカ、薄弱ナル材料ヲ用ヒタル爲破損又ハ腐蝕シタルカ等ノ場合ニハ、其缺點アル個所ヨリ周圍ノ木材ニ火氣ヲ移シ或ハ火ヲ吹き出シ火災ト爲リ。或ハ煙突ノ掃除ヲ怠リタル爲内部ノ煤ハ小サキ塊ト爲リ之レカ引火シテ火ノ塊トナリ飛去リ、而シテ彼等カ尙燃ヘツツ落下シタル個所ヲ發火セシム。斯クノ如キ場合ニハ先ツ問題ノ煙筒中ニ堆積セル黒煤カ燃燒シテ白キ灰ニ變セルヤ否ヤヲ檢査スヘシ。若シ煙突中ノ煤カ燃エタル形跡ナシトモハ、煙突ノ煤ヨリ飛火火事ヲ惹起シタリトノ主張ハ排斥セララル。

汽車ノ汽罐車煙突ヨリ飛火シテ民家ヲ燒キタリトノ事件ニ就テハ石炭ノ火ノ粉カ常ニ問題トナル。此種ノ事件ニ付テ注意スヘキハ、燃料タル石炭ハ煙突ノ下ニ設ケアル網(アリスター)ノ目ヲ自由ニ通シテ飛散スル程度ノ粗惡ノ粉炭ナリシヤ。民家ニ接近セル沿道ニ於テ風向ニ就テ考慮ヲ爲サス石炭ヲ塵ニ投入シ或ハ塵ノ下部ノ空氣孔(ダンパー)ヲ開排シテ火粉發散ノ原因ヲ作リタルヤ。被害者方ノ發火點ハ果シテ屋上ナルカ、屋上ノ如ク見エテ其實内部ニ發セル火カ可燃物ヲ傳テ唯上方ニ走リ直ニ屋上ニ燃エ抜ケタルニ非サルカ等ニアリトス。

(2) 煙草ノ吹殻。煙管ノ雁首ヨリ亂暴ニ放逐シタル吹殻又ハ行人カ無造作ニ拋棄シタル卷煙草ノ吸殻カ屢々大謀反ヲ企ツルニ至ルハ實ニ驚ク可キモノアリ。(煙草ノ吸殻ヨリ山林十七町八反ヲ燒燬シ、或ハ都市ノ民家二百有餘戸ヲ燒キ失火罪ノ既追テ受ケタル被告人アリ。)

(3) 電氣。多クノ失火事件ニ於テ被告人ハ稍トモスレハ責ヲ漏電ニ歸セントスルカ如ク然カ多數ノ漏電失火ナルモノノ世ニ存スルコト或ハ無カラム。然シナカラ又個々ノ事件ニ於テ、電燈事業ノ責任

者カ辯明スルカ如ク、漏電失火ハ殆ント稀有ノ出來事ニ屬スルモノトナスハ等シク吾人ノ首肯スル能ハサル處也。實際上吾人ハ電氣失火カ火災原因上、可ナリ多クノ數ヲ占ムヘキ事情ヲ想像ス。

大正七年度火災原因ニ關スル或統計ニ依レハ電氣火災ハ十四中第三ニ位スルカ如キ表ヲ示セリ。然シナカラ裁判所ニ現ハレタル事件トシテ漏電ニ確定シ其罪ニ服シタル被告人ノ如キハ其先例殆ント稀也。之レ探査上極メテ困難ナルカ爲メ常ニ證據不充不充分不認訴、無罪トシテ釋リ去ララルカ故也。

漏電失火ハ次ノ如キ事情ニ因リ發生スヘシ。即チ(イ)電線カ亞鉛又ハ鐵葉ノ屋根、樋、金屬製煙突、看板類ニ觸レ又ハ觸レントセルトキ。引込ノ瓦斯管ニ對シ電線カ五寸以内ノ近距離ニ於テ架設セラレタルトキ。(是等ノ場合ニ於テハ電線カ金屬ニ接近セル個所ニ於テ風ニ因リ動搖ニ從テ導線ノ包裝ヲ破損シ又ハ金屬ニ觸レハラント努力シテ被覆ヲ破リ火花ヲ發シ遂ニ金屬ヲ熱スルカ或ハ直ニ之レニ傳ハリ火ヲ發スルニ至ル。)或ハ又電燈ノ數ニ對シテ餘リニ微力ナル導線ヲ用ヒラレタルトキ。(此場合ニハ導線ハ電流ニ依リ灼)導線ノ被覆ノ破損セルモノヲ氣附カスシテ取り附ケ之カ梁木其他一ノ物體ト觸レタルトキ是也。(被覆破損ノ電線ト接觸セメ漏電ナ有スルトキニハ殊ニ容易ニ漏電ヲ生ジ其個所ヨリ火災ヲ生スルニ至ルヘシ。此場合ニ於テハ電流ハ最早燈光ヘハ來ラヌシテ漏電所ヘ却テ多ク流レ來ル。斯クノ如キ出來事ハ人ノ責任アル過失行爲ニ基因セザル場合アルヲ想像セザル能ハス。即チ天井中ニ活動セル風力電燈被覆ヲ破リ其個所ヨリ直接木材ニ漏電シ或ハ破損ノ個)以上ノ原因ニヨリ發火シタル場合ニ於テハ電線架設電燈取付ケノ工事擔任者ニ於テ失火ノ責任アリト認メサルヘカラス。何トナレハ彼等ハ豫見シ得ヘキ危險ニ對シテ相當ノ智識ヲ有シタルニ不拘不注意ノ爲メ適當ナル設備ヲ爲サザリシモノナレハ也。(ロ)電球ヲ半紙、風呂敷、手拭等ニテ緊乎ト密包シ、又ハ笠ノナキ電球ヲ障子、襖其他燃エ易キ物ニ接著シテ懸ケ吊シ就寢シタルトキ(電氣ノ爲メ熱セラレタル球ハ數時間ノ後ニハ之ニ密著セル可燃物ヲ遂ニ發火セシメテ空氣ヲ送レハ)極メテ不安全ナル電氣炬燵電氣暖爐ヲ設ケタルトキ、以上ノ場合ニ於テハ普通電燈使用

者方ニ於ケル過失トナルヘキハ勿論也。(ハ)然レトモ、電燈紐ヲ直接釘ニ引掛ケ、戸障子ノ間ニ挟ミ、或ハ紐ヲ濡ラシ、潤ヘル或物體ト接著シ。(例令ハ電線ニ濡手拭ヲ引掛ケ又ハ風呂場)又ハ過テ被覆ヲ破リ其儘放置シタル爲、其個所ヨリ漏電發火スルニ至レルカ如キ場合ニ於テハ、之ヲ以テ直ニ行爲者ノ責任ヲ刑法上ニ問ハントスルハ聊研究ヲ要ス。斯クノ如キ場合ニ火災ノ危險ヲ伴フコトアルヘキヲ豫見シ得ル程度ノ智識ハ世人何人モ之ヲ有スルモノトナス能ハサルヲ實際トス。(常識ノ比較的多少發達シタル者ハ之ヲ火災原因ト如何ニ關係アルヤニ就テ認識スルコト)宜シク個々ノ事件ニ於テ被告人ノ智識能力ヲ先ツ調査セザル能ハス從テ責任ヲ論議スルコトヲ得サル場合多シ)ヘカラス。

(4) 灰。新シキ藁灰ハ比較的長ク微光ヲ保チ完全ニ消火ニ至ラサル也。(表面上ヨリ見レハ火氣ノ存セサルカ如キ尙火ノ存スル個所アルヲ發見ス)故ニ若シ之ヲ木桶、或ハ藁俵等ニ納レ又ハ可燃物ノ貯藏セララル物置小屋等ニ置クトキニハ一ノ火災ヲ惹起シ得ヘシ。熱灰ニ基因スル一ノ火災前屢々灰ノ火カ一週間モ持續スルコトアルハ注意ニ價ス。(實際上火災ニ基因スル失)

(5) 炬燵、行火。冬季炬燵行火ヲ爲シタル儘外出シ、又ハ炬燵ニ金網ヲ設ケサル爲メ、就寢後蒲團ノ一端ヲ火中ニ過テ蹴リ入レ、或ハ火勢強クシテ蒲團ヲ焦シ抜キ、大事ヲ招ケル類例ハ世ニ甚多シ。

(6) 火鉢。火鉢ニ多クノ炭火ヲ入レタル爲緣又ハ底ノ木材ヲ焦シ、或ハ尙火氣ノ存スル箱火鉢ヲ積ミ重ネ置キタル爲火ヲ失シ、又ハ烈火ヲ盛レル火鉢ヲ燃エ易キ物ノ下ニ置キ。(農家ノ糞置ニ於テ室ヲ暖メシ食事中炭カ一時ニ起リテ烈火トナリ上方直近ノ蒲團ヲ燒キ達)火災ノ原因ヲ作ルノミナラス、炭火カ跳ネ或ハ風ノ爲メニ飛散リテ附近ノ可燃物ヲ燒燬スルカ如キハ日常ノ出來事カ吾人ニ之ヲ證明シテ餘リアラム。焜爐ニ

就テモ之ト同シ。

(7) 焚火。焚火ノ消火方不十分ナル爲殘火カ風ニ煽ラレ火災ヲ生スルコト屢々アリ。殊ニ乞食、浮浪ノ徒カ暖ヲ取ランカ爲、民家ノ物置又ハ空家ニテ焚火ヲ爲スハ危險ノ甚シキモノト謂フヘシ。

嘗テ焚火ノ消方不十分ナリシ爲火ヲ失シタルモノトシテ取調ヲ受ケ被告モ亦自ラ之ヲ認メ居リタルニ不拘、月餘ノ後ニ至リ右ハ一浮浪者カ同日其附近ノ個所ニ焚火ヲ爲シ、火カ風ニ煽ラレ建物ニ燃エ移リ火事トナリタルノ事實判明シタルコトアリ。

(8) 竈。燃ヘタル燃料ノ積ケ出テ落タル爲屢々火ヲ失スルコトアリ。尙一層危險ナルハ竈ノ熱氣ニシテ耐火設備ノ不完全ナル竈ノ熱氣ハ其附近ニアル可燃物ヲ徐々ニ焦シ遂ニハ發火セシムルニ至ル。更ニ注意スヘキハ工場、洗濯屋、菓子屋其他ノ有スル不完全ナル乾燥室ナリ。爐火ニ就テモ同様トス。

(9) 蠟燭。洋燈。提灯ヲ點火シタル儘倉庫ノ中或ハ便所等ニ忘レ置キタル因リ、蠟燭ノ火カ提灯ヲ燃シ遂ニ發火スル事例決シテ尠ナカラス。硝子製ノ油壺ヲ有スル洋燈ヲ轉覆シ、火災ヲ生スルハ言ヲ俟タス。或ハ洋燈ノ心ヲ餘リニ引込メ置クハ祝融子ノ乘スル處トモナル、即チ火カ壺ノ石油ニ移ルカ又ハ壺中ニ發生シタル瓦斯ニ點火シ爆發ヲ惹起スルカ故也。

(10) 燐寸。黃燐ヲ含有スル普通ノ燐寸ハ甚危險也。何トナレハ燐寸ハ攝氏四十五度ニ於テ既ニ燃ユルカ故ニ、熱シタル竈ヨリ直射スル暖氣カ容易ニ之ヲ發火セシメ得ルヲ以テ也。殊ニ怖ルヘキハ子供ノ燐寸弄火ヨリ屢々大火ヲ見ルコト之ナリ。

(11) 浴場。浴場ノ竈ノ殘火カ風ニ煽ラレタルトキ、風呂場カ「セメント」煉瓦等ノ耐火設備ナキ場合ニ屢々火ヲ發ス。

(12) 火消盡。之レノ蓋ヲ完全ニ爲ササルトキ、又ハ壺カ破損セルトキ、空氣ノ侵入ニヨリテ消炭ハ燠ニ還リ却テ危險状態ニ豹變ス。

(13) 揮發油、「テレピン」、酒精、「ペンチン」、「タール」、松脂、油、脂肪、及ヒ藥品。

(14) 瓦斯。瓦斯燈光又ハ炊事用瓦斯ニ於テ、流出瓦斯カ若シ四倍乃至十六倍ノ分量ノ空氣ト混合シタルトキニハ一ノ爆發性ヲ生シ、之レニ一ノ火焰ヲ近クル場合ニ爆發シテ屢々發火ス、

火災被害者カーノ放火ヲ原因トシテ主張シテ歇マサル事件ハ、詳檢ノ結果實ハ失火タル場合極メテ多キ處。(失火者ハ稍トモスレハ放火ヲ主張シ之ニ責任ヲ轉嫁セントスル傾向アリ。)之ト等シク失火ノ罪アルモノトシテ罰金刑ニ處セラレタル一被告人ハ後日ニ至リ右ニ對スル放火ノ眞犯人現ハレタル爲メ再審ノ手續ニ付セララルコト亦絶無ニ非ス。(法律新聞第一〇八九號參照)吾人ハ一失火被告事件カ果シテ其者ノ責任タルヤ否ヤヲ決スルニ就テ、苟モ早計ニ擒ハルルコトナルク十分ニ表裏反覆ノ觀察ヲ遂ケサルヘカラサル也。

乙 自然發火

世ニ不審火又ハ天火ト稱セララルモノ極メテ多シ。(我火災ノ統計ニ據スルモ雷火ト不審火ト此不審火ナルモノ中ニハ多數ノ失火又ハ放火ヲ包含セララルコトハ何人モ容易ニ想像スル處ナラムモ。吾人ハ亦自然發火ノ原因實存セルニ不拘、爾來是等ノ研究ヲ忽諸ニ附サレ、事案ノ端緒ノ著眼、真相ノ説明ニ不適當ナリシ爲メ、同シク不審火ナル美名ノ下ニ隠レタル幾許カノ自然燃燒アリシヤヲ自覺セサル能ハサルヲ極メテ遺憾トス。

今茲ニハ自然發火ノ主ナル原因ヲ唯表記スルニ止ントス。



落雷。(雷電ハ電火ヲ受ケルノ可能性ヲ有スレトモ其持續力ハ凡ソ一年間ニアルカ如シ。若シ之ニ缺點アリ破損アルトキニ雷火ハ雷電針ヲ利用セシテ直接屋上ニ墜落ス。故ニ避雷針ノ上ヘ飛ヒ移ルヘシ。又避雷針ノ金屬尖端ノ數ト高サカ不十分ナルトキニハ雷電針アルノ故ヲ以テ落雷火災ナリト概ニ排斥スヘカラス。)

隕星流星。日光ノ光線。(熱力發火ノ原因ヲ作ルノミナラス或物體ノニ於テ屢々)石炭、褐炭。(空氣ノ流通ニシテ貯藏場ニ於ケル)木炭。(新シク燒カレタルモノ)石灰ニ水カ加リタルトキ。(軒下ニ堆積セラレタル石灰ノ依ニ雨水カ掛リテ容易ニ發火スヘシ。)

油又ハ脂肪ニ浸サレタル物質。(例令ハ油燻除脂助附着ノ紙片等ヲ疊メ堆積シ置キタルトキニ然リ、何トナレ)新タニ芘入レラレタル枯草ノ尙濕リタルモノ。煤煙、ハ彼等ハ一ノ非常ナル酸化ノ傾向ヲ有シ酸化スル際ニ發火ス。)

新シク炭化セラレタル紙。濕氣アル状態ニ於テ長ク置カレタル穀物、海鳥ノ糞、骨粉、鏽屑、鉋屑、鋸屑、檜樓等。火藥。石油。機械工場ニ於テ車軸ノ油缺乏シ摩擦ニ因ル發熱。新シク燒カレタル珈琲、茶、豆、碾割燕麥、粘土等。濕リタル毛及ヒ木綿ノ堆積。粉塵、亞麻塵、紙纖維ヨリ成ル塵垢等ヲ以テ充サレタル押入又ハ室ニ裸ノ燈火ヲ入レタルトキノ爆發的發火。

是等自然發火ノ原因ニ於テ關係者カ其事物ニ對スル相當ノ智識ヲ有シタルニ不拘、其取扱ニ對シテ適當ノ注意ヲ加ヘサリシニ因リ、彼等ノ本性ヲ發揮シテ自然發火ヲ生スルニ至レリト認メラルル場合ニ於テハ、其者ニ失火ノ責任ヲ歸セシメサルヘカラス。

#### 第四節 放火ノ動機ト之ニ對スル特別捜査

殊ニ次ノ如キ動機ヨリシテ屢々放火カ企テラル。

(1) 財產上ノ利益ヲ得ル目的。ヨリシテ放火スル主ナルモノハ、(a)保險放火ナリトス。即チ自己又ハ他人ノ爲メニ保險金ヲ詐欺センカ爲メニ火ヲ放ツ也。保險ヲ附セル自己ノ建物ノミナラス。近來動産

保險ヲ附シタル上自己ノ居住スル他人ノ借家ニ放火スル者續出スルノ傾向アルハ憂フ可シ。此場合ニ犯人ハ燒失スル自己ノ財産ノ價值ヨリハ多クノ保險金ヲ得ンカ爲メニ企ツルモノナルカ故ニ、吾人ハ罹災者カ燒失シタル家又ハ動産ニ對シテ甚タ高ク保險ヲ掛ケタルカ。目的物カ近來著シク價值ヲ減シタル事情ノ存スルカ。(建物カ近來腐朽シ、商品カ時局ノ關係ヨリ暴落シタルカ)罹災ノ唯少シク以前ニ保險契約ヲ取結ハレタルカ。切迫セル債務ノ支拂ニ對シテ金圓ヲ要シタルカ。發火ノ當時罹災者又ハ其家人カ住居ニ非ラサリシカ。火カ家ノ多クノ箇所ニ起リ殊ニ保險ニ附シタル目的物。(例令ハ或倉庫)カ存スル處ノ場所カ火元トナレルヤ。罹災者ハ火災ノ少シク以前ニ特別ノ財貨ヲ竊ニ他ヘ運搬隠匿シタルカ如キ形跡ナキヤ。火元タル被害者カ大事ニ際シテ單ニ保險ノ證券ノミヲ取り出シ居レルニ就テ疑フヘキ餘地ノ多クヲ發見スルトキ。等ニ關シテ先ツ犀利ナル觀察ヲ遂ケサルヘカラス。(b)賞與放火。犯人ハ火災アルコトヲ官衙又ハ一般民衆ニ報知シ、之レカ賞與トシテ金圓ヲ得ンカ爲メニ放火スルコトハ決シテ稀ナラス。此目的ヨリシテ火災ヲ豫防警戒シ又ハ鎮滅スヘキ重大ナル責任アル者カ却テ放火スルニ至ルコトアリ。我國ニ於テモ古來ヨリ「夜番ノ火付ケ」ナル事アルノミナス、消防夫ニシテ數回放火シタル上自ラ火災現場ニ於テ卒先シテ防火ニ努力シタル事例一、二ニシテ止マラス。若シ放火頻發シ如何ニ非常警戒ニ努ムルモ尙警戒線内ニ於テ放火ノ續出スルコトアラハ、個々ノ消防夫殊ニ不思議ナル程熱心ニ立働ク消防夫ノ行動ニ就テ嚴重内偵ヲ要ス。(c)竊盜放火。竊盜常習犯者カ竊盜ノ機會ヲ作ランカ爲メ目的ノ家又ハ其隣家ニ放火スルコト屢々アリ。(大都市ニ於テハ、消防隊ト警察隊トハ迅速ニ火事場ニ急行シ、野次馬ハ能ク限リ驅逐シ非常編ヲ張ルモ、小サキ町村ニ於テハ此コトハ常ニ實現セラレ得ルモノニハ非ス。)其火災ノ混雜ニ乘シテ一ノ竊盜ハ恰モ消防又ハ救助ヲ爲スカ如ク裝ヒ罹災ノ家屋ニ接近シ家人カ屋外ヘ

搬出シタル財器ヲ悉ク公然受取リテ他所へ運ヒ、又ハ各室へ容易ニ侵入シテ直接竊類ヲ運ヒ去ルカ。或ハ附近ノ住民カ自宅ニ留守居ヲ置クノ違ナク急遽火事場へ赴ケル其間隙ニ乘シ盜犯ヲ恣ニスル也。(d)救助放火。或ル地方ニ於テハ罹災者カ隣祐ヨリ金圓又ハ建築材料ヲ以テ救助セラルルヲ慣例トシ又普通トスル處、犯人ハ家屋ノ價值カ見舞金ヨリ甚シク少ナル時ニハ屢々放火ヲ企ツ。(e)仕事放火。例令ハ大工カ仕事ヲ得シカ爲メ、左官、屋根葺カ新シキ仕事ノ機會ヲ得シカ爲メニ放火スルノ類之也。(2) 怨恨、復讐、嫉妬、痴情。放火ハ感情的犯罪ノ一種ト云フヲ妨ケス。前記ノ如キ財産上理由其ノ他ノ動機ヨリ放火スルモノ多々アルハ勿論ナルカ、由來放火犯ハ彼ノ殺人犯ト等シク唯機微ナル激情ノ瞬間的發火ニ因ルヲ特色ト爲ス。怨恨、復讐、嫉妬、痴情ニ因ル放火カ頻發スルハ之カ爲ナリ。怨恨、復讐ニ因ルモノハ強硬ナル他ノ方法ニ於テ復讐スル丈ケノ氣力ト體格トニ缺ケル者カ此舉ニ出ツルヲ多シトスルカ故ニ、怨恨原因ニ疑ヲ置クヘキ一事件ニ於テハ其筋合ノ嫌疑者ナルモノハ、無氣力者タルヤ否ヤノ點ニ就テ注意ヲ拂フヘク(例令ハ女、子)尙怨恨ノ原因タルヤ殆ント謂フニ足ラサル輕微ノモノヲモ共ニ吾人ノ計算内ニ置カサル能ハス。

例令ハ僕婢ハ主婦ヨリ小言ヲ云ハレタル爲メニ。或ハ外出ノ許可ヲ得ラレザリシ爲メ。乞食カ物ヲ買ヘザリシヲ憤リ。金借ヲ申込ミタルニ拒絶セラレ或ハ借金ヲ催促セラレタルヲ恨ニ持チ。借家人カ家賃滞納ノ爲メ家主ヨリ立退ヲ命セラレタルニ因リ放火スルコトアリ。

痴情ニ因ル放火ニハ色情關係者ノ範圍内殊ニ婦人ニ就テ嫌疑ノ眼ヲ睛ルヘク。嫉妬ニ因ルモノトシテハ專ラ心的接近關係ノ點ニ著目スルヲ要ス。而シテ是等ノ動機ヲ穿鑿スルニ當リテハ先ツ罹災者ノ陳述、隣祐ノ風評等ニ出發點ヲ置カサルヲ得サルハ言ヲ俟タス。

(3) 不愉快。或ル者ハ自己ノ意思ニ反シテ忍ハサルヲ得サル關係ヲ、一ノ放火ニ依リテ變セシメントスルコトアリ。

例令ハ學校ノ生徒ハ試験ヲ一時延期セシメンカ爲メニ學校ニ放火シ。刑事被告人カ拘禁ヨリ逃亡ノ機會ヲ得シカ爲メニ又ハ感化院ノ居住者カ其處ヲ去ランカ爲メニ放火シ。奉公人カ主家ヲ忌ミテ屢々放火ス。

(4) 懷郷心。年少者殊ニ少女カ奉公先ニ於テ懷郷病ニ襲ハレタルトキ、主家火災ニ罹レハ之ヲ口實ニシテ實家へ歸レ得ルモノト想ヒ淺慕ニモ放火スル事例ハ、世人カ實際ニ於テ屢々驚カサル處ナラム。若シ罹災者ノ下婢ノミカ火災ニ當リ所持ノ荷物一切ヲ安全ノ箇所へ持チ出シ、又ハ火災ニ先立チ竊ニ他へ預ケ置キタルカ如キ事實アルヲ知ラハ充分ニ疑フヘク、此場合下婢ニ復讐、不愉快等ノ動機ニ就テ想ヒ當ル點ナキニ於テハ、最後ニ懷郷心ノ發作ナル微妙ノ心理状態ヲ觀察スルヲ忘却スヘカラス。

(5) 愉快。火災ノ突發ニ於テ現場混亂シ多衆ノ立チ騒ク狀況、消防組カ勇マシク發動スルノ模様、或ハ鎮火後消防機具ノ手入掃除ノ光景カ面白ク、單ニ此愉快ヲ購ムルカ爲メニ放火スル犯人アルニ至リテハ實ニ驚カサルヲ得サル也。此種ノ犯人ハ殊ニ刑事責任年齢ニ達セサル不良少年、魯鈍低能者ニ多ク、時トシテ又未置精神病者タルコトナキニ非ス。

之レト等シク又鎮火後ノ振舞酒ヲ多量ニ味ヒ、或ハ焚キ出シノ握リ飯ニ滿腹センコトヲ欲シタルカ爲メ放火スル徒輩アルモ知ラサルヘカラス(此種ノ者ハ一時的享樂ノ爲メト解スルヨリハ寧ロ財產上ノ利)從テ吾人若シ數回ノ火災ニ於テ常ニ甚シク泥醉シタル者又ハ多クノ握リ飯ヲ竊ニ自宅ニ持歸リタル者(握リ飯ヲ得ル

犯人ハ問ムヘキ境遇ノ者ニシアルヲ知ラハ捜査ノ一端緒ヲ發見シタルモノト解スヘシ。

(6) 罪證掩蔽。(a)火災ノ間ニ殺害シ又ハ殺人ノ痕跡ヲ湮滅センカ爲メ屍體ノ横ハレル家屋ニ火ヲ放ツ殺人犯アリ。(b)家庭内部ニ於ケル横領又ハ竊盜犯罪カ露顯スルヤ否ヤ先ツ第一ニ其家族、雇人、家婢、同居者等カ當然嫌疑ヲ受クヘキ事情ノ下ニアルトキ、其眞犯人タル内部ノ一員ハ發覺ヲ怖ルルノ餘途ニ放火ノ大罪ヲ犯スニ至ルコトアリ(他ヨリ忍込タル盜犯ニ於テ)。(c)一放火ノ嫌疑ヲ現ニ繫屬セル事件ノ被告人ヨリ他ヘ轉セシメントシテ誤魔化シノ爲ニ放火ヲ企ツル者アリ。一地方ニ於テ連續セル放火ニ對シテ或者カ被告トシテ拘禁セラレタル處、突然火事騒ヲ見サルニ至ラハ此事情ハ被告人ニ對スル有罪ノ一徵憑トナルヘク、之ニ反シテ若シ依然トシテ火災カ繰返サルルニ於テハ當該被告ヲ無罪ニ導ク一原因トモナルヘシ。此理由ヨリ放火事件ノ爲メ拘禁セラレタル者ノ親類友人カ官廳ノ嫌疑ヲ他ヘ向ケ更ヘシメンカ爲メ屢々放火ス。(d)刑事々件ノ證據物ヲ湮滅センカ爲メ警察署裁判所等ニ放火スル犯人アリ。

(7) 精神病。幻想、妄想、強迫感念、知覺喪失其他ノ精神故障カ放火ノ淵源トナルコト屢々アリ。此點ニ就テ困難ナルハ看板附キノ未監置精神病者ノミニ止ラヌ、一見常人ノ如クシテ其實然ラサル精神病者ヲモ注目セサル能ハサルコト之也。

### 第六章 賭博

#### 第一節 賭博ノ方法 (定型)

凡ソ世ニ行ハルル賭博ハ其方法數十ニシテ足ラヌト雖、一定ノ標準ヨリ之カ種類ヲ大別スレハ數種ヲ超ユルコトナシ。而シテ種別ノ標準ニ就テハ或ハ賭具ニ、(骨子ト骨牌トニ大別シ、更ニ骨子ニ付テハ其個數ヨリ骨牌ニ付テハ其種類ヨリ小別スルカ如シ)又ハ賭博當事者ノ關係ニ之ヲ求ムルコトヲ得ヘキモ、(賭博當事者ノ關係トシテハ(1)親類ト骨子トカ勝負ヲ争フモノトテ爲スモノ。(2)當事者カ會合ヲ必要トスル賭博ト會合ヲ不要トスルモノトアリ)。吾人ハ賭具ノ點竝ニ會合必要賭博カ否カノ點ヨリ四種類ニ大別シテ以下之ヲ略說セントス。

#### 第一 骨牌使用ノ賭博

骨牌使用ノ賭博ニハ(A)花合セヲ爲シ花札既定ノ價值ニ依リ總點數ヲ計算シテ勝敗ヲ争フ方法。(B)以上ノモノニ手役、出來役等ノ役ノ附ケル賭博。(C)花札ノ示ス月ニ依リ總點數ヲ計算シテ輸贏ヲ決スル方法トアリ。

A 馬鹿花。(花合セヲ爲シ花札既定ノ價ニヨリ總點數ヲ計算シテ勝敗ヲ争フ賭博也)。

一 「目勝馬鹿花」。ハ普通ノ骨牌ヲ用ヒ、當事者三人カ花合セヲ爲シ、得タル花札ノ總點數ヲ計算シテ最高點ヲ取得シタル一人ヲ勝トスル也。花札ノ計算ニ就テハ左ノ如シ。

- (イ) 松、鶴、櫻、幕、山、月、雨、道風、桐、鳳凰、ハ各二十點。
- (ロ) 梅、鶯、藤、郭公、杜若、八ッ橋、牡丹、蝶、萩、猪、山、雁、菊、盃
- 楓、鹿、雨、燕、ハ孰レモ十點。

(ハ)短冊ノ模様カ附著セル札ハ各五點。  
(ニ)其他ノ札即チ素ノ札(ガス札)ハ各一點。

花合セノ方法ハ一人カ四十八枚ノ札ヲ充分ニ「切り」タル後、札ノ裏ヲ上向ニナシ先ツ三枚宛ヲ當事者ニ配リ「場」ニハ三枚ヲ札ノ表ヲ上向ニナシテ「撒キ」、次ニ四枚宛ヲ當事者ニ配リ「場」ニハ再ヒ三枚ヲ「撒キ」、然ル後其殘除二十一枚ノ札ヲ場ニ伏セテ重ネ置キ、順次「手札」ヲ「場札」ト合ハシ點數ヲ得タル上、伏セ札ヲ一枚捲リ之カ場札ト合フトキニハ更ニ點數ヲ得ルコトナリ、斯クシテ各七枚ノ手札ノ盡クルトキヲ以テ一回ノ手合セノ終結ト爲シ、札ノ總點數ヲ互ニ計算ス。

二 「八十八ノ馬鹿花」。前示ノ如キ花札ノ價ニ從テ四十八枚一組タル花札ヲ計算スレハ二百六十四點トナリ、當事者ノ數ニ從ヒ之ヲ三分シタル八十八點ヲ決勝點ト爲ス。即チ之ヨリ多クノ點數ヲ得タル者ハ勝利者ニシテ或ハ一點ヲ一厘、(一厘花)又ハ一點ヲ五厘(五厘花)ニ換算シテ超過點數ニ該當スル丈ノ賭金ヲ勝獲ルコトナル。

「八十八ノ馬鹿花」ノ分派タル賭博ハ左ノ如シ。

- 「八十ノ馬鹿花」。(花札ノ計算ニ素ノ札ヲ入レテ合計二百四十點。  
トシ之ヲ三分シタル八十點ヲ決勝點ト爲ス)
- 「千六十」。(素ノ札ヲ一點トセテ十點ニ計算シ總計四百八十點ト爲シ、「親」(札ヲ配布スル者)百五  
十點、「朋」(親ノ次席者)百六十點、「尾引」(最後ノ者)百七十點ヲ各決勝點ト爲ス)
- 「三東五十」。(花札ノ計算法ハ二十モノヲ百點、十モノヲ五十點、五モノヲ十點、素モノヲ除外シ總  
點數千五百點ヲ得之ヲ三分シタル三百五十點(即チ三東五十點)ヲ各自ノ決勝點ト爲ス)
- 「二十ツツバリ」。(二十モノハ、櫻、桐ノ二枚ハ各十點、松、雨、山ノ三枚ハ各五點、十モノハ各五點、五モノ  
ハ各一點。「ガス」ハ除外シ總計九十點ニ計算シ、其三分ノ一タル三十點ヲ決勝點ト爲ス)
- 「三東ツツバリ」。(花札ノ計算法ハ「三十ツツバリ」ノ各十倍トス。然カスル。  
トキニハ總計九百點トナリ三分ノ一ハ三百即チ三東ト爲ル)

三 「十枚」當事者ハ二人。手札及場札共各十枚。花合セノ方法ハ普通ニシテ。相手方ヨリ三十點多ク取得シタル者ヲ勝利トス。

「十枚」類似ノ賭博ハ左ノ如シ。

- 「讀岐メクリ」。(當事者ハ二人。手札。場札共八枚。相  
手方ヨリ四十點多ク取りタルヲ勝利トス)
- 「一東行」。(當事者二人。手札七枚。場札六枚。相手  
方ヨリ八十點多ク取りタルヲ勝利トス)

B 役花。(花合セヲ爲シ花札既定ノ價ニヨリ取得花札ノ總點數ヲ計算スルノ外「役」ノ生セル場合)  
之レカ既定ノ點數ヲモ通算シテ最後ノ點數ヲ知リ以テ勝敗ヲ爭フ(稱權セル賭博也)

四 「吟味花」(「八八」。「横濱花」) 當事者ハ三人タルヲ普通トス(「親」、「朋二」、「尾引」)レトモ二人ニテモ可也。手札ハ各七枚。場札ハ六枚トシ、花合セノ方法、計算ニ關スル花札ノ價等ハ總テ八十八ノ馬鹿花ニ同シ。唯相異スル處ハ、十二回(又ハ十回)ノ手合セヲ以テ一勝負ヲ決シ優勝者カ吟味計算役トナリ此計算ニ際シテ金錢代用ノ白黒碁石ヲ使用スルト、所謂役ナルモノノ點數ヲ通算スルコト之也。役トハ役札ノ揃ヒタルヲ謂フ。役ニ「手役」ト「出來役」トアリ。手役トハ親ヨリ配付ヲ受ケタル七枚ノ手札ノ中ニアリテ役札ノ揃ヘルヲ指シ、之ニ唯ノ手役ト重手役トアリ。出來役トハ花合セノ進行中ニ役札カ漸次集リ揃ヘルヲ稱ス。

- (イ) 唯ノ手役。(三本)(同種ノ札ノ三枚揃ヘルモ)。「クツツキ」(同種ノ札二枚宛)。「短」(七枚ノ中六枚ハ「ガス」又ハ雨  
一枚ハ「ガス」又ハ雨一枚)。「光」(「ガス」又ハ雨一枚ノ中唯一枚ノ光リモノ即雨ニ)。「カラス」(「ガス」ノミ)。「赤」  
(「ガス」又ハ雨モノノ中二枚)。「手四」(同種ノ札四枚)。「四三」(同種四枚ト三)。「二二四」(同種四枚ト二枚ト)。「二二」  
(以上ノ短冊モノ集マレトキ)。「ハネケン」(同種ノ札三枚ト二枚)。「三本」(同種三枚カニ)。「ハネケン」(同種ノ札三枚ト二枚)。  
(組アルトキ)。「ハネケン」(同種ノ札三枚ト二枚)

(ロ) 出来役。「五光」(二十モノ五枚)。「四光」(雨ニ道風ヲ除ク)。「赤短」(赤短冊三枚)。「青短」(牡丹、菊、楓ノ短冊三枚)。「青裏」(赤短、青短ノ併合)。「青四光」(青短及ヒ四光)。「裏四光」(裏管原即チ赤短ト及ヒ四光)。「青裏四光」。「素十六」(取り札ノ中「ガアル」トキ)。「素十七」。「素十八」。「素十九」。「素廿」以上。「總一杯」(三人等シク八十八點ヲ得)。「二八十八」(八十八點ノ二倍)。  
 「手役」ハ公然之ヲ他ニ示シテ證明スルヲ要シ、又「出来役」ノ出来タルトキハ其者カ「ヨロシイ」ト言ハハ茲ニ手合セノ終結ト爲ルノ效果ヲ生ス。

吟味花ノ分派タル賭博ハ左ノ如シ。  
 「一二三」(四光、青短、赤短ノ出来役出)。  
 「二四六」(右ノ出来役ノ外八十八)。  
 「スダヲシ」(花札ノ價ハ吟味花ト異リ、二十モノヲ五點、十モノヲ五點、五モノヲ一點、ガス二十點トシ。手役ハ「グツツキ」尾引ハ百二十)。  
 「三本」手四短三枚。出来役ハ山四枚、雨四枚トス。而シテ各自ノ決勝點ヲ異ニシ親ハ百點、朋二ハ百十點ヲ標準トス)。

五 「六短」當事者ハ二人。出来役トシテ六枚ノ短冊ヲ先キニ取り揃ヘタルヲ勝トシ、六短ノ出来タルトキハ得點ノ多キヲ勝トス。「七短」ハ七枚ノ短冊ヲ揃ヘル賭博也。  
 馬鹿花ノ如ク「ガス」ヲ一點、短冊モノヲ五點ト云フカ如クニ計算ヲ爲サス、松ヲ一月(一點)、梅ヲ二月、(二點)。櫻、三月。藤、四月。杜若、五月。牡丹、六月。萩、七月。月、八月。菊、九月。紅葉、十月。雨、十一月。桐、十二月トナシ、花札ノ現ハス月ニ依リ得點計算ヲ爲ス賭博ハ凡左ノ如シ。

C 花札ノ月數計算ヲ爲ス賭博  
 六 「追丁カブ」當事者ハ中心タル朋親ト張手ト相對峙スルモノニシテ張手ノ人數ニハ制限ナシ。朋親ハ張手ニ一枚宛札ヲ伏セテ配リ自分モ亦一枚ヲ取り張手ヲシテ賭金セシメタル後、朋親ハ張手ノ請求ニ應ジ二枚ヲ限度トシテ札ヲ與フ、朋親ノ札モ亦然リ。斯クシテ張手ト親トノ勝負トナリ、自己ノ札ノ月數即點數ヲ合計シ九點ヲ得タルヲ勝トシ其以下ノ得點者ハ九點ニ近キ者程勝トナルヘク、又九以上ノ得點者ハ先ツ十單位ヲ切り捨テ計算ス、但シ結局十點トナルトキニハ敗ト爲ル。(「追丁カブ」賭博「ナイチヨ」ト呼ビ九テ「カブ」ト稱ス。「追丁カブ」ノ名ハ蓋シ之ヨリ出ゾ。「カブ」ニハ「カブ骨牌」ナル特別ノ花札モ出来居レリ。)

「追丁カブ」ノ分派タルモノハ  
 「十五取」。(月數ヲ合セテ十五トナリシヲ勝ト)。  
 「アトサキ」。(月數即目ノ多キ方ヲ勝トス)。  
 七 「アトサキ」張手同志カ賭博ノ當事者トナリ而シテ其數ニ限ナシ。「八八」等ノ賭博ニ際シ親カ場札六枚ヲ三枚ツツ前後二回ニ場ニ出ストキ繪ノ方ヲ晒シテ出サス伏セテ重ネ置キ、此「アト」ノ方ノ札、又ハ「サキ」ノ方ノ札孰レカニ賭金シ、然ル後「アト」及ヒ「サキ」ノ札ノ月數ヲ計算シ九點トナレル方ヲ勝トスル也。此賭博ハ「八八」又ハ「六短」ノ當事者ノミナラス、其當事者トナラサル傍觀者モ亦共ニ仲間ニ加ハルコトヲ得。  
 「アトサキ」ノ分派タルモノハ  
 「高目」。(花札二枚ヲ場ニ伏セ、其孰レカニ賭金シ、月數即目ノ多キ方ヲ勝トス)。  
 八 「指込」當事者ハ二人相對。各自花札三枚ヲ取り其中ノ一枚ヲ交換シタル上、月數ニヨリ點數ヲ計算シ九ヲ勝トス。計算ニ當リ十單位ヲ切り捨ツルコト、及ヒ九以下ハ九ニ近キ方ヲ勝トスルコト「カ

「骨子」ニ同シ。

第二 骨子使用ノ賭博

A 骨子ト壺策トヲ使用スル賭博

九 「大目小目」 賭博ノ當事者ハ胴親ト張手ト相對峙シ張手ノ人數ニ限ナシ。賭具トシテ骨子一個、壺策一個、盆莫薩ヲ用フ。骨子ハ六面八角ノモノニ一ヨリ六迄ノ目ヲ附シアリ、一ノ裏ハ六、二ノ裏ハ五、三ノ裏ハ四ナルコト世人ノ知ル處ナラム。壺策ハ藤製ヲ本式トスレトモ或ハ木碗、茶碗、茶鐘ノ蓋ヲ利用ス。盆莫薩(一名盆切レ)ハ賭場ニ敷ク細長キ白金巾ヲ謂フ。而シテ骨子ノ目ノ一乃至三ヲ小目、四乃至六ヲ大目トシ、此度ノ出目カ大目ナリヤ小目ナリヤニ就テ金錢ヲ賭シ勝負ヲ決ス。胴親カ壺振リトナルコト勿論也。

之レノ類似タル賭博

「一」 コトガシ 轉シ (一個ノ骨子ノ出目カ一ナルトキ、其壺振リ者カ勝トナリ)

一〇 「丁半」。當事者ハ張手同志ナレトモ親分、中盆、壺振リナル者カ介在シテ處理スルヲ本式トシ(之等ノ者カ胴親トナルニハ非ス)。骨子ハ二個ヲ用フ。壺ニテ振リタル二個ノ骨子ノ目カ合セテ丁(偶數)トナルカ半(奇數)トナルカニ就テ金錢ヲ賭スル也。而シテ賭者ノ中丁ニ張ラントスル者ハ盆莫薩ノ丁ノ側ニ、半ノ者ハ之レニ對峙セル半ノ一例ニ並ヒ各自其欲スル金錢ヲ賭スルコトヲ得レトモ、丁ノ賭金全部合算シタル額ハ半ノ賭金全部ノ合算トハ同數ナラサルヘカラス。若シ丁ノ側ノ勝トナレハ半ノ側ノ賭金ヲ沒收シ賭金割ニ應シテ丁ノ各個ニ分配ス。是等遣リ取其他ノ世話役トシテ中盆、壺振リ等カ本式ノ大賭

博ニ必要ナルハ以上ノ關係ヨリ來レル也。然レトモ小賭博ニ於テハ張手カ代リ合ヒテ中盆兼壺振リトナリ、事ヲ足ル。

丁半類似ノ賭博

「四三四六」 (丁半ト異ル點ハ、張手ノ外ニ壺振兼胴親アリ。丁側ト半側トノ賭金額ヲ異ニシ尙其ノ損益計算ハ直接ニ非ス) (スシテ胴親ヲ經ル間接的ノ關係トナル。例令ハ丁側勝ハ親ハ半側ノ金ヲ沒收シ改メテ親ハ自己ノ懐中ヨリ出シ丁側ニ分配ス)

一一 「天 賽」。當事者ハ胴親ト張手。賭具ハ盆莫薩ト骨子。骨子ハ特別ノモノ五個ヲ用フ、即一個ノ骨子ノ六面ノ中三面ハ各自一ツ星ヲ、他ノ三面ニハ各黒ノ一ツ星ヲ刻ミアル骨子也。張手ハ黒白孰レカ欲スル處ニ賭金シ黒又ハ白ノ目ノ多ク出タル方カ勝ト爲ル。但シ黒又ハ白ノ目カ五個共揃ヒタルトキニハ、負ケタル方ノ賭金ハ全然親一人ノ所得トナルナリ。

B 骨子、壺策ノ外、目紙ヲ使用スル賭博

一二 「チヨボ一」。當事者ハ胴親對數人ノ張手。賭具ハ骨子一個、壺策ノ外ニ一ヨリ六迄ノ數字ノ記載シアル目紙一枚ヲ要ス。張手ハ欲スル所ノ目ニ賭金シ、胴親ノ振リ出シタル目ト合ヒタル者カ勝トナリ親ヨリ賭金ノ四倍ヲ獲、出目以外ノ目ニ賭ケタル者ハ孰レモ敗トナル。

「チヨボ一」ノ分派タルモノ

「五 割」。 (「チヨボ一」ト異ル點ハ胴親ハ勝者) (ニ賭金ノ五割ヲ交附スルニアリ)

「チヨボ一」類似ノモノ

「緩急」。 (「チヨボ一」ト異ル點ハ骨子二個ヲ用フル點ニアリ。二個ノ骨子ノ出タル目ヲ合計シ之レニ該當スル目ニ賭ケタルヲ勝トス、但シ骨子ノ目ヲ合算シ七以上トナレハ五又ハ十ヲ切捨テ計算ス)

「兔」。(二個ノ骨子ヲ用ヒ、賭者ハ其中一個ノ目ト合ヘハ)

「狐チヨボ」。(「チヨボ」ト異ルハ骨子三個ヲ用フル事ニ在リ賭者ハ三個ノ中一個ノ出目ト合ヒハ自己ノ賭金額丈ケ觀ルモノトス)

倍ヲ勝チ獲ルモノトス)

一三 「四下」 當事者ハ朋親對數人ノ張手。犯用物ハ骨子二個、壺篋ノ外ニ一ヨリ四迄ノ數字ヲ記

載シアル目紙一枚也。振リ出シタル二個ノ骨子ノ出タル目ヲ合計シ、之レニ該當スル目ニ賭ケ

タル者カ勝トナリ、親ヨリ賭金ノ倍丈ヲ得、然ラナル者ハ負トナル。骨子ノ目ヲ合算シテ四以上トナ

リタルトキハ四又ハ八ヲ切捨テ計算スル也。

C 骨子、壺篋ノ外、碁石ヲ使用スル賭博

碁石ハ金錢代用ニ非スシテ賭具ノ一トナル。



一四 「チイツバ」。當事者ハ朋親對數人ノ張

手。賭具トシテ碁石四個(黑碁石一個、白碁石三

個)一組ヲ數組、及大小四個ノ特別骨子(「大」、

「二番」、「赤」、「小」ヲ使用ス。(此骨子ハ順次小形ニ作

色モ異リ、第二番目大ノ色ハ黄ノ標)張手ハ自己ノ席前

ニ各四個ノ碁石ヲ一列ニ置キ此一個ニ就テ任意

賭金ス。此碁石ハ恰モ細長キ目紙ヲ代理シタル

モノニシテ左端ノ碁石ヲ五、十、十五、左ヨリ

二番目ヲ四、九、十四、左ヨリ三番目ヲ三、八、十三、十八、最右ヲ七、十二、十七ノ目ト假定セラ  
ル。尙左端ノ碁石ハ「大」ノ骨子、次ハ「二番」、次ハ「赤」、最右ハ「小」ノ骨子ト關係ヲ有スル也。斯  
クシテ朋親カ四個ノ骨子ヲ振リ出シタルトキ、張手ハ各黑碁石ニ該當スル骨子一個ヲ除外シ其餘ノ三  
個ノ骨子ノ出目ヲ合算シテ勝負ヲ決ス。即チ其合算數ニ該當セル個所ノ碁石ニ賭金シタル者ハ賭金額  
丈ケ親ヨリ勝チ得ル也。

例令ハ甲ハ黑碁石ヲ左端ニ置ケルトキハ「大」ノ骨子目ヲ除外シ其餘ノ三個ノ目ヲ合算シ九トナラハ甲ハ左ヨリ二番目ニ賭金シタル  
額丈勝トナリ親ヨリ金圓ノ交附ヲ受ケ。但シ張手カ計算シテ六、十一、十六、(「ヨイト稱ス)ノ數トナリタルトキハ親ハ其者ニ對シ  
テ全勝トナリ、四個所全部ノ賭金ヲ悉ク沒收スルモノトス。

「チイツバ」類似ノモノ  
「ヨイト」。(之レハ實ハ「チイ  
ツバ」ノ本元ナリ)

### 第三、骨子、骨牌以外ノ材料ヲ利用スル賭博

A 小錢ヲ利用スルモノ

一五 「ナミカタ」。(小錢又ハ銅貨ヲ伏セ字ノ方ナリヤ給ノ方ナルヤ  
ニ就テ賭錢スルモノ。一名「字カメカ」トモ云フ)

B 繩ヲ利用スルモノ

一六 「本引」。(繩ノ末端ニ結ヒ目ノアルモ  
ノヲ引キ當テタルヲ勝トス)

「繩切リ」。(繩ノ中途カ切りタル短キ  
方ヲ引キ當テタルヲ勝トス)

C 碁石或ハ燐寸ノ軸木ヲ利用スルモノ

一七 「握リカツバ」。(碁石等ヲ若干數手ニ握リ、之  
レカ丁カ半ヲ當テシムルモノ)

- D 紋紙ヲ使用スルモノ
- 一八 「紋紙キ」。(大ナル紋紙六個記載シアル紋紙ニ各自賭金シ視カ紋紙ノ一端ヨリ制取リタル小サキ紋紙ノ紋ト合ヒタル賭者ヲ勝トス。)
- E 列車、隊伍、電車ヲ利用スルモノ
- 一九 「列車當」。(通過スル列車ノ車輛數カ) (丁力半カニ就テ賭金ス)
- 「人數博奕」。(軍隊等ノ隊伍ノ數カ) (力半カニ就テ賭金ス)
- 二〇 「電車賭博」。(通過スル電車々輛ニ記載シアル番號ノ數字カ丁力半カニ就テ賭金ス)
- F 其他ノモノ
- 二一 賭碁、賭將棋
- 二二 關鷄

第四、會合ヲ必要トセサル賭博

以上第一乃至第三ノ賭博ハ孰レモ當事者カ會合シタル上ニ非スンハ互ニ輸贏ヲ爭フコト能ハサルモノニ屬スレトモ、以下説ク處ノモノハ本來會合セサル性質ノモノカ、或ハ會合セスシテモ亦其種ノ賭博ヲ行フコトヲ得ルモノ也

二三 「チーハー」(當事者ハ「胴親」、「帳場」、數人ノ「運送」(運送ニ本運送ト下運送)數十人ノ買手也。金錢得喪ノ關係ハ「胴親」對買手トス。賭具トシテハ「筋紙」、「附和紙」、及三十六個ノ印額ヲ要ス。其方法ハ「胴親」ハ占魁ヨリ安士ニ至ル三十六個ノ印額(別表筋紙記載ノ通り)中ノ一個ヲ封印シ當リ籤トシテ之ヲ保存シ置キ、右當リ籤ノ印額カ如何ナルモノナルヤヲ謂ヒ當テシメンカ爲メニ一ノ問題ヲ作り、

其問題ヲ記載セル「附和紙」ニ「筋紙」ヲ添ヘ運送ヲシテ多クノ買手ノ各自宅ニ配付セシム。(大ナルチーハーニ於テハ一ノ胴親ハ數人ノ本運送ヲ有シ、本運送ハ又其買手ハ運送ヨリ附和紙ト筋紙トヲ受取リ附和紙記載下ニ各數人ノ下運送ヲ使用シテ筋紙、附和紙ヲ買手ニ配付ス)買手ハ運送ヨリ附和紙ト筋紙トヲ運送ニ返戻ス。買手ノ問題(謎)ヲ考ヘ、筋紙中ノ其日ノ當リ籤ト想ハルル一野ニ賭金シタル該筋紙トヲ運送ニ返戻ス。買手カ筋紙中ノ一野ニ賭金シタル印シトシテハ其一野ニ一錢ト記載スル代リニ一、ノ數字ヲ以テシ、尙自己ノ名前ニ代ルニ或符牒ヲ以テスル也。

占魁	チンケライ	良玉	ゴンギョク
板桂	パンケイ	明珠	メイシユ
榮生	エイセウ	上招	ジャウシャウ
逢春	ホウシュン	合同	ゴウドウ
志高	シタカ	三槐	サンハイ
月寶	ゲツポウ	合海	ゴウカイ
正順	セウジュン	九官	キュウクワン
坤山	コンザン	太平	タイヘイ
漢雲	カンウン	火官	ヒイカン
江祠	エードウ	日山	ニツサン
福孫	フクソン	天良	テンリョウ
光明	コウメイ	井利	イリ
有利	フリ	元貴	ゲンキ
只得	チヨツタ	萬金	マンキン
心得	ココロ	青元	セイゲン
茂林	モウリン	元吉	モトキチ
青雲	セイウン	吉品	キツピン
天申	テンシン	安士	アンシ

(ズカ附ハ名假シ但。紙筋)

數人ノ運送ニ依テ各方面ヨリ集リタル多クノ筋紙中其日ノ當リ籤ニ賭金シタル者即勝者ヲ定ムル爲メニハ一定ノ場所ニ運送、胴親等ハ會合セサルヲ得ス。此會合ヲ彼等ハ「開張」ト稱セリ。其場所ニハ帳場ナル者カ胴親ヨリ渡サレタル當リ籤ヲ持チ來リ居リ筋紙ヲ集メ寄リタル運送立會ノ上籤ノ封印ヲ開キ、其籤タル印額ト同一ノ野ニ賭金シタル者ヲ勝トス例令ハ其印額カ占魁ナラハ占魁ニ賭金シタルカ勝トナリ、賭金額ノ三十倍ヲ胴親ヨリ支拂ヒ、當ラサル者ノ賭金ハ親カ沒收ス。此三十倍ノ中二倍ハ運送カ手数料トシテ取得スルカ故ニ賭者ハ差引二十八倍ヲ得ル也。(即チ一錢ヲ賭金シタル者カ)開張ノ場所及時間ハ絕對ニ祕得ル也。(當ラハ二十八錢ヲ勝チ得)

密ニシテ買手ニモ知ラシメス且常ニ之ヲ變更ス。尙開張ハ一日二回ヲ普通トスレトモ親ニ依リテハ然



ラサルモノアリ。

二四 「薄張」<sup>バシ</sup> 薄張ハ次ニ述フル合百ト共ニ相場ニ關スル賭博也。薄張ノ當事者ハ「親」、「客引」、  
 「客」ニシテ金錢得喪ノ關係ハ親對客ニアリ。賭具トシテ特定ノ物ヲ要セサレトモ、手控ヘトシテ親ハ  
 手帖ヲ、客引ハ傳票ヲ使用ス。薄張ハ取引所ノ公定相場ヲ標準トスレトモ取引所ノ場帳ヲ通セスシテ  
 相互取引ヲ爲シ唯タ差金ノ授與ノミヲ目的トスルモノナルカ故ニ其本質ヨリスレハ一種ノ賭博ト謂フ  
 ヲ妨ケス。從テ我法律ハ常習トシテ薄張ヲ爲シタル者ハ當然刑法ノ常習賭博トシテ處分スヘク非常習  
 ノ場合ノミヲ取引所法違反トシテ取扱ヒ得ルコトナレリ。<sup>(取引所法第三條ノ五)</sup> 薄張ニ米穀商品取引所ノ定  
 期取引ノ立會相場ヲ標準トスル米相場ノ薄張ト、株式取引所ノ直取引ノ立會相場ヲ標準トスル株式相  
 場ノ薄張トノ二アリ。<sup>(イ)</sup> 米相場ノ薄張トハ、客ハ親ニ對シ米何枚<sup>(米十石ヲ一枚トス)</sup>。何丁張<sup>(十丁張、二十丁張、  
 三十丁張ナラハ二圓ノ割合トナレリ。)</sup> 而シテ此證據金ノ範圍内ニ於  
 テ客ハ損得ヲ爲ス。客ハ買註文<sup>(買玉)</sup>ヲ爲シタルトキ相場カ騰レハ證據金ヲ標準トシテ利益ヲ得、賣  
 註文<sup>(賣玉)</sup>ヲ爲シタルトキ相場カ下落スレハ利益トナル。損得、決定ハ客ノ手仕舞ノ時ニ之ヲ爲ス。然  
 シナカラ「丸クナツタ」場合<sup>(丸クナルトハ客ノ全利益ニナレルトキ)</sup>ト「飛ンダ」場合<sup>(飛フトハ全然客ノ不利益ニ  
 ナレルトキ)</sup>ニハ客ノ手  
 仕舞ノ問題起ラス當然損益カ決定セラル。<sup>(ロ)</sup> 株式ノ薄張ハ直取引ノ立會相場ヲ標準トシ<sup>(米ノ薄張ハ多  
 元トス)</sup>客ハ證據金トシテ株券一枚ニ付キ二圓、三圓ヲ親ニ交附ス。  
 薄張ヲ爲サントスル客ハ自ら親ニ賣又ハ買ノ申込ヲ爲スコトヲ要セス客引ヲ通シテ勝負ヲ争フコト

ヲ得ル也。客引ハ傳票ヲ所持シ客ノ自宅ヲ訪ヒ註文ヲ受ケテ之ヲ記入シ客ヨリ受領シタル證據金ト共  
 ニ親ニ交附ス。<sup>(立會ニ前場(午前)後場(午後)アリ。執レモ四節又ハ五節ニ區分セラル)</sup>

二五 「合百」<sup>ヤク</sup> 之ハ薄張ノ如クニ勝敗ノ結果差金授受ヲ爲スモノニ非スシテ賭金全額ヲ得喪スル  
 也。故ニ同シク相場ニ關スルモノトハ云ヘ合百ハ純然タル賭博ナリ。合百ノ當事者モ「親」、「客引」、  
 「客」ニシテ親ト客トカ金錢ノ得喪ヲ争フコト薄張ト同シ。合百ニ「本場合百」ト「乞食合百」トノ二種  
 アリ。本場合百トハ前場五節ノ立會相場ノ平均値段<sup>(即前場五節ニ立テル相場ノ總テノ値)</sup>ヲ勝負ノ標準トスル  
 モノニシテ客カ何圓何十何錢ニテ例令ハ買ノ申込ヲ爲シタルトキ平均價段カ之レヨリ高値ヲ呈シタル  
 トキニハ買客ハ買入レタル枚數丈ケ勝ち獲ル也。但シ本場合百ノ一枚ハ一圓トス<sup>(本場合百ニ普通ノ合百ト市  
 場五節ノ平均何圓何十何錢ヨリ何十何錢ノ間ニアリ。乞食合百ハ前場五節ノ平均價段ヲ標準トセス當事者カ隨意  
 ルカ又ハ以外ニハミ出ツルカ否カニ就テ賭スルモノ)</sup>。而シテ此證據金ノ範圍内ニ於  
 テ各節ノ立會相場ヲ元トシ一枚五錢十錢ト云フカ如キ小仕掛ニ於テ輸贏ヲ争フ也。本來客カ一堂ニ相會  
 スルコトヲ必要トセサル賭博ナルカ故ニ、或ハ客同志電話ニテ何十何錢ニテ賣及買ノ約束ヲ爲シ、次  
 ノ立會相場ニ於テ勝負ヲ決スト云フカ如キモノモアリ。<sup>(相場ニ手ヲ出セル者ニシテ小使錢ヲ得ルカ爲メ  
 合百ヲ試ミサル者殆ントナシト稱セラル)</sup>

### 第二節 賭博犯ノ捜査

竊盜、詐欺、放火、傷害、名譽毀損ト云フカ如キ直接個人ノ財産、身體、生命、名譽等ニ關スル犯  
 罪ニ於テハ、告訴、申告、等被害者ノ申出ヲ待テ捜査ヲ開始スルモ必スシモ不可ナラス。然レトモ賭  
 博犯ノ如キ社會善良ノ風俗ヲ其法益トスルモノニアリテハ、告發其他ノ原因ニヨリテ既ニ賭博犯ノ存

スルコトカ捜査官ニ知レタルモノノミヲ檢舉スルニ止マラス、捜査官自ら進シテ或ハ里人ノ風評ヲ探リ、又ハ視察、尾行等ニ依テ犯罪状況ノ發見ニ努メ、又或ハ犯罪ノ行ハレントスル場所へ潛行スルカ如ク自働的ニ賭博犯ノ存在ヲ探知スル活動ノ先行ヲ必要トス。此探知ノ爲ノ活動ハ捜査本行爲ニ非スシテ嚴格ニ云ヘハ捜査開始ノ準備行爲タルニ過キサルヘシト雖、賭博犯ノ捜査ニ於テハ此準備行爲ニ寧ロ充分ノ力ヲ致ササル能ハス。何トナレハ賭博犯ノ法益ハ個人ノ財産、生命ニ關セサルカ故ニ特ニ犯罪ヲ官ニ告訴スルカ如キ一ノ被害者アルナク、從テ捜査官カ受働的ニ賭博犯ヲ認知スルカ如キハ甚屢々ナリトセサルヲ以テ也。要スルニ賭博犯ハ捜査機關カ受働的ニ之ヲ知ルニ満足セス、自働的ニ隠レタル賭博ノ事實ヲ探知スルニ熱心ナラサルヘカラス。斯クノ如クシテ既ニ賭博ヲ認知シ之カ捜査ヲ開始スルニ就テモ、現行犯ト非現行犯トノ場合、及常習者ト然ラサル者トアルモ、以下是等ノ事項ヲ一括シテ唯一、二ノ注意ヲ列記セント欲ス。

I 捜査官カ自働的ニ賭博犯ヲ探知スル方法

(1) 管内ニ於ケル賭博常習犯者及ヒ被疑者ノ住所、氏名、年齢、親分ノ系統、乾兒又ハ交際者ノ關係、平素取引セル質屋、出入ノ飲食店、料理屋、酒屋、情婦ノ名、賭博ノ種類、從來開張セル場所、及ヒ月日等ヲ詳細調査シ便宜整理ノ上之カ臺帳又ハ表ヲ作成シ置キ。此表ニ基キテ左ノ方法ヲ執ル可シ。(イ) 被害者ヲ平素視察シ、殊ニ親分乾兒又ハ疑ハシキ交際者トノ交通儀ニ頻繁ヲ加ヘタルカ、彼ハ夜深更ニ他ヨリ歸宅シタルカ如キ事實アルカ、彼カ家庭ニ於ケル生活状態ハ收入ノ程度ヲ超ヘテ贅澤ニ一變シ又ハ甚シク不景氣ニ陥リタルカ、等ノ事情ニ絶ヘス充分ノ注意ヲ拂ヒ、疑ハシキ場合ニ於テハ尾行

ヲ繼續スル必要アルヘシ。(ロ) 質屋、内債ス。此所ニ於ケル取引關係調査ノ要ハ勝負共ニ質屋ニ影響スルカ故也。如何トナレハ賭博手合セ中敗者ハ同一質使ニヨリテ一日又ハ一夜ニ數回ニ互リ入質ヲ爲スコト屢々アルノミナラス、勝者ハ數ヶ月ニ互ル入質物ヲ一度ニ受質スルカ如キヲ常トスルカ故也。(ハ) 彼等取リ附ケノ料理店、酒屋、又ハ問題ノ場所附近ニ於ケル飲食店等ニ就テ詳細ナル内債ヲ要ス。賭博犯者ハ其實行中及終リタル際ニ於テ飲食ヲ爲スカ爲メニ數回飲食物ノ追加注文ヲ爲スヘク、若シ是等店舗ニ於テ其實行ヲ探知シ得タルトキニハ、數量ト何人前分等ヲ究メ集合人員ヲ推定シ、更ニ出前持ノ小僧ニ就テ届先ノ狀況ヲ聽取リ恁クシテ一ノ端緒ヲ發見スヘキ也。飲食店ノ内債ハ右飲食物ノ關係ニ止マラス、尙金圓ノ兩替ヲ爲シ遣リタルコトナキヤ否ヤヲ詮議スルノ勞ヲ吝ムヘカラス。(賭犯手合セ中屢々兩替ニ奔走スルコトアリ) 若シ賭博常習者又ハ被疑者カ數人ト共ニ一料理店飲食店ニ於テ會合シタルノ事實ヲ探リ得タルトキニ賭博ニ關スル一ノ嫌疑ヲ挿マスシテ看過スルカ如キ一ノ刑事家ヲ吾人ハ想像スル能ハス。(ニ) 骨牌、骨子、壺策、目紙、紋紙、其他賭博ノ用ニ供スル材料ヲ販賣セル店舗ニ就キ、右視察人ノ是等購求ノ事實ヲ内債ス可シ。主トシテ常習犯者ハ賭具カ仕掛ケアル詐欺的ノモノニ非サルコトヲ表明セン目的ヲ以テ、手合セ開始ノ際新規ニ賭具ヲ購入シ、仲間ノ目前ニ於テ例令ハ骨牌ナラハ其封ヲ破リ使用スルカ故ニ、右店舗ニ就テ時日及使者等ヲ探知シ一ノ根據ヲ捉フ可キ也。(ホ) 被疑者ニシテ例令ハ船中ニ於テ、海岸ニ於テ、山林内ニ於テ、畑ニ於テ、空家ニ於テ(空地ニ於テ、蕎麥屋ニ於テ、賭博ヲ爲スヲ常習トスルトキニハ時々問題ノ場所ニ密行スルヲ要ス。(常習者ニ於テ一月、二月、七月、或ハ一日、十五日ノ夜ト云フカ如ク凡ソ一定セル時日ニ賭博ヲ爲ス者アリ。殊ニ盆、正月、祭禮等ニ於テハ賭博ヲ爲スル者ニシテ手出ヲ爲ササルハ殆ント稀ナラム。)

(2) (イ) 錢湯、理髮店、飲食店其ノ他人ノ集合スル個所ニ於ケル賭博ニ關スル風評ノ探知モ亦強カチ排斥スヘキ理由アルヲ見ス。(ロ) 賭博犯探知ノ方法ニ就テ、最剴切ナルコト賭者使用ノ右ニ出ツヘキモノナシトハ我國刑事一般ノ從來異口同音ニ稱賛スル處也。賭博ニ限ラス或ハ拘摸其他ノ職業的犯罪檢舉ニ於テ賭者使用ノ當否ノ論議ハ暫ク措キ、賭者ノ爲メニ搜查未檢舉數ヲ或程度ニ減シ得ルコトハ事實也。然シナカラ賭者ハ檢舉上驚クヘキ偉效ヲ寄與スル程大ナル潛勢力ヲ有スルカ故ニ一面ニ於テ大ナル弊害ヲ伴フコトハ亦理ノ當然ト云ハサル能ハス。何トナレハ賭者ハ憎惡、怨恨、復讐等ヨリ或ハ自己自身ノ犯罪ヲ隱サシカ爲ニ、故意ニ何等罪ナキ他人ヲ犯罪アリトシテ官ニ虚報スルコトアルノミナラス、賭者自身ノ犯罪ノ如キハ事件嗅キ出シノ賞與トシテ使用者ニ於テ常ニ棒引ヲ爲ササル可カラサルヲ普通トスルカ故也。從テ賭者ヲ使用シ自家ノ成績ヲ誇ラントスル刑事ト雖、其選定及ヒ監督ニ十二分ノ注意ヲ拂ハサルヲ得サルノミナラス、賭者ノ報告ハ單ニ搜查ノ參考又ハ端緒ニ利用シ、取捨選擇ニ就テノ充分ノ餘地ヲ刑事自ラ有セサルヘカラサルヘク、尙賞與トシテハ犯罪棒引法ニ依ラス賞金ノ授與ヲ絕對ニ勵行スヘキコト勿論也。然シナカラ本來犯罪者仲間ノ一人ヲ賭者ニ使用スルコトハ人トシテノ德義、禮讓上或ハ官衙ノ威信、品位上批難ナキ能ハス。吾人ハ犯罪者仲間ヨリ賭者ヲ得ル代ハリニ、善良ナル民衆ノ中ヨリ得タル補助又ハ加勢者ヲ利用スルコト、又ハ使用シ得ル様平素連絡ヲ取り了解ヲ得置クコトハ、寧ロ時勢ニ適セル方法ナルコトヲ信セントス。

## II 賭博現行犯ノ逮捕

大仕掛ノ賭博ニ於テハ多ク問題ノ家ノ門口或ハ其附近ノ道路ニ佇立シ或ハ彷徨シテ見張ヲ爲ス一ノ

ノ幫助者アルヲ常トス、此見張人トシテ子供又ハ婦女子タルコトアリ。故ニ賭博ノ事實ヲ知ルヤ否ヤ制服着用ノ儘表ヨリ堂々乗込ムコトハ策ノ得タルモノニ非ス。先ツ凡ソ犯人ノ員數賭房ノ狀況逃ケケトヲ研究シ逮捕ニ要スル巡查ノ數ヲ定メ、其一班ヲ變裝セシメ秘密急速且個々ニ現場附近ノ各豫定ノ要所ニ配置シタル上、指揮者ハ他ノ部分ノ變裝巡查ヲ卒ヒ急遽其表入口ニ現ハレ(此目的ニ自轉取ヲ使用スルヲ可トス)、室内ニ闖入スヘシ。此際一名ノ巡查ヲシテ入口又ハ縁ノ下、戸棚等ニ隱匿シアル集合者ノ履物一切ヲ押收セシムベク、尙寫眞器ヲ携帶シ若シ餘裕ト機會アラハ彼等ノ實行中ノ狀況ヲ撮影スルヲ至妙トス。

(野外ノ賭博ニ於テハ之カ成效ヲ見ルヘキ乎) 現場ヘ闖入シタルトキニハ一人ノ巡查ハ專門トシテ證據品押收係トナリ、他ハ犯人取押ニ努力スヘシ。犯人逮捕ノ際ニハ最弱キ者ヨリ著手スルヲ得策トス。(警察署ニ引揚後取調ヲ爲ス際ニモ最速順ナル者ヨリ著手スヘシ) 若シ夜間戸ヲ固ク鎖シ居ル場合ニハ、臨檢巡查ノ巧妙ナル手腕ト機智ニ依テ平穩ニ開カシムルコトヲ得ムカ(尙總論第十章第五節、I、住居ト山林等ニ於ケル逮捕、參照)

大正八年十一月十五日印刷  
大正八年十一月十八日發行

不許複製  
南

著者

南波 奎三郎

發行兼  
印刷者

橫尾 留治

印刷所

日東印刷株式會社  
東京市本郷區風砂町三十六番地

(最新犯罪搜查法奥付)

定價 金壹圓九拾五錢

發行所

東京市東區口替  
電話二六三二  
田代町一丁目  
三六番地  
電話九一四二

松華堂



大清光緒二十一年十一月十五日  
 庚子年十月十五日

（光緒二十一年十一月十五日）  
 庚子年十月十五日

廣東 廣西 雲南 貴州 四川 陝西 甘肅 山西 山東 河南 湖北 湖南 江蘇 浙江 安徽 江西 福建 廣東 廣西 雲南 貴州 四川 陝西 甘肅 山西 山東 河南 湖北 湖南 江蘇 浙江 安徽 江西 福建

廣東 廣西 雲南 貴州 四川 陝西 甘肅 山西 山東 河南 湖北 湖南 江蘇 浙江 安徽 江西 福建 廣東 廣西 雲南 貴州 四川 陝西 甘肅 山西 山東 河南 湖北 湖南 江蘇 浙江 安徽 江西 福建

光緒二十一年十一月十五日 庚子年十月十五日

魏本澤  
藏書

新

終

